

令和 6 年 度

決算主要施策の成果報告書

和歌山県紀の川市

地方自治法（昭和２２年法律第６７号）第２３３条第５項の規定により、令和６年度紀の川市一般会計及び特別会計決算に係る主要施策の成果等について、次のとおり報告します。

令和７年９月２日

紀の川市長 岸 本 健

目 次

1. 令和6年度会計別決算収支の状況	1
2. 令和6年度会計別歳入歳出決算の状況	1
3. 令和6年度普通会計の状況	3
1) 決算収支の状況	3
2) 歳入の状況	5
3) 歳出の状況	7
4. 職員給与費の状況	11
5. 地方債の状況	14
1) 地方債現在高の状況	14
2) 地方債年度別償還予定の状況	15
6. 基金の状況	17
7. 一般会計から他会計への繰出金等の状況	18
8. その他資料	19
1) 人口推移	19
2) 学校別児童生徒数	19
3) 保育施設別児童数	20
4) 放課後児童クラブ別児童数	20
9. 一般会計主要施策の成果	21
〔歳入〕市税等収納実績に関する科目	21
〔歳出〕 1 款 議会費	28
2 款 総務費	30
3 款 民生費	117
4 款 衛生費	172
5 款 労働費	205
6 款 農林業費	208
7 款 商工費	241
8 款 土木費	256
9 款 消防費	292
1 0 款 教育費	303
1 1 款 災害復旧費	351
10. 特別会計主要施策の成果	356
国民健康保険事業勘定特別会計	356
国民健康保険直営診療施設勘定特別会計	361
後期高齢者医療特別会計	363
介護保険事業勘定特別会計	367
財産区特別会計	372

1. 令和6年度会計別決算収支の状況

区 分	歳入総額 (A)	歳出総額 (B)	歳入歳出差引額 (A)－(B) (C)	翌年度繰越 財源 (D)	実質収支 (C)－(D) (E)
一般会計	34,818,813,112	33,490,606,082	1,328,207,030	245,218,000	1,082,989,030
土地取得事業 特別会計	9,889,318	9,889,318			
国民健康保険事業 勘定特別会計	7,364,537,217	7,303,170,626	61,366,591		61,366,591
国民健康保険直営診 療施設勘定特別会計	79,879,305	77,814,205	2,065,100	2,065,100	
後期高齢者医療 特別会計	2,045,972,959	2,041,603,350	4,369,609		4,369,609
介護保険事業勘定 特別会計	7,568,587,695	7,354,145,895	214,441,800		214,441,800
財産区特別会計	21,426,944	15,210,491	6,216,453		6,216,453

2. 令和6年度会計別歳入歳出決算の状況

区 分	令 和 6 年 度				
	予算現額(A)	歳入決算額(B)	収入率(B)÷(A)	歳出決算額(C)	執行率(C)÷(A)
一般会計	35,898,354,700	34,818,813,112	97.0	33,490,606,082	93.3
土地取得事業 特別会計	9,900,000	9,889,318	99.9	9,889,318	99.9
国民健康保険事業 勘定特別会計	7,783,171,000	7,364,537,217	94.6	7,303,170,626	93.8
国民健康保険直営診 療施設勘定特別会計	99,084,000	79,879,305	80.6	77,814,205	78.5
後期高齢者医療 特別会計	2,057,454,000	2,045,972,959	99.4	2,041,603,350	99.2
介護保険事業勘定 特別会計	7,620,728,000	7,568,587,695	99.3	7,354,145,895	96.5
財産区特別会計	22,256,000	21,426,944	96.3	15,210,491	68.3

(単位：円)

前年度実質収支 (F)	単年度収支 (E)－(F) (G)	積立金積立額 (H)	繰上償還金 (I)	積立金取崩額 (J)	実質単年度収支 (G)+(H)+(I)－(J)
1, 175, 397, 191	△ 92, 408, 161	123, 649, 000			31, 240, 839
65, 917, 978	△ 4, 551, 387	214, 000		19, 015, 000	△ 23, 352, 387
4, 350, 165	19, 444				19, 444
178, 271, 753	36, 170, 047	332, 000			36, 502, 047
12, 597, 239	△ 6, 380, 786	7, 478, 000			1, 097, 214

備考：１）普通会計に属さない特別会計の積立金積立額・取崩額は、全ての基金を考慮しています。

令和５年度		増 減 比 較			
歳入決算額(D)	歳出決算額(E)	歳入増減額(B)－(D)	歳入増減率	歳出増減額(C)－(E)	歳出増減率
33, 915, 406, 572	31, 877, 395, 681	903, 406, 540	2. 7	1, 613, 210, 401	5. 1
171, 599	171, 599	9, 717, 719	5, 663. 0	9, 717, 719	5, 663. 0
7, 656, 822, 942	7, 590, 904, 964	△ 292, 285, 725	△ 3. 8	△ 287, 734, 338	△ 3. 8
40, 399, 276	40, 399, 276	39, 480, 029	97. 7	37, 414, 929	92. 6
1, 792, 894, 479	1, 788, 544, 314	253, 078, 480	14. 1	253, 059, 036	14. 1
7, 371, 463, 872	7, 193, 192, 119	197, 123, 823	2. 7	160, 953, 776	2. 2
23, 840, 513	11, 243, 274	△ 2, 413, 569	△ 10. 1	3, 967, 217	35. 3

3. 令和6年度普通会計の状況（地方財政状況調査の速報値）

1) 決算収支の状況

区 分	歳入総額 (A)	歳出総額 (B)	歳入歳出差引額 (A)-(B) (C)	翌年度繰越 財源 (D)	実質収支 (C)-(D) (E)
令和6年度	34,811,032	33,482,825	1,328,207	245,218	1,082,989
令和5年度	33,907,655	31,869,644	2,038,011	862,614	1,175,397

◇ 普通会計決算における純計決算額の算定明細

		歳 入	
		決 算 額	左のうち相互重複
			相手会計名 金額
一 般 会 計		34,810,747	
計		ア 34,810,747	イ
普通会計 を構成する 特別会計	土地取得事業特別会計	9,889	一般会計 9,604
計		オ 9,889	カ 9,604
普 通 会 計		(ア-イ+オ-カ) 34,811,032	

備考：1) 後期高齢者医療において、一般会計で処理した一部分が、「地方財政状況調査」の作成要項（取り扱い）と異なるため、歳入決算額および歳出決算額が実質数値と異なっています。

◇ 主な財政分析指標（単位：％）

区 分		令和6年度	令和5年度
実質収支比率		5.9	6.6
経常収支比率		(96.9) 96.6	(95.1) 94.6
うち	人件費	(25.6) 25.6	(24.5) 24.4
	物件費	(15.0) 15.0	(14.3) 14.3
	扶助費	(11.0) 11.0	(10.6) 10.6
	補助費等	(16.7) 16.7	(17.1) 17.0
	公債費	(15.0) 15.0	(15.2) 15.2
財政力指数		0.42	0.41

備考：2) 実質収支比率の算定は、臨時財政対策債発行可能額を含んでいます。

3) 経常収支比率の（ ）は、臨時財政対策債を経常一般財源等から除いた比率です。

4) 標準財政規模の算出は、臨時財政対策債発行可能額を含んでいます。

(単位：千円)

単年度収支 (F)	財政調整基金 積立額 (G)	繰上償還金 (H)	財政調整基金 取崩額 (I)	実質単年度収支 (F)+(G)+(H)-(I)
△ 92,408	123,649			31,241
130,618	22,929			153,547

(単位：千円)

歳 出		
決 算 額	左のうち相互重複	
	相手会計名	金額
33,482,540	土地取得事業特別会計	9,604
ウ 33,482,540		エ 9,604
9,889		
キ 9,889		ク
(ウ-エ+キ-ク)		
33,482,825		

◇ 将来にわたる財政負担 (単位：千円、%)

区 分		令和6年度	令和5年度	増減率
地方債現在高 (A)		22,851,857	23,245,701	△ 1.7
債務負担行為の 翌年度以降支出 予定額 (B)		6,831,654	1,647,009	314.8
積立金現在高 (C)		14,083,547	13,977,420	0.8
うち	財政調整基金	6,268,715	6,145,066	2.0
	減債基金	3,269,441	2,970,682	10.1
	その他目的基金	4,545,391	4,861,672	△ 6.5
(A)+(B)-(C) (D)		15,599,964	10,915,290	42.9
標準財政規模 (E)		18,329,566	17,957,183	2.1
対 標 準 財 政 規 模	((A)+(B))/(E)	1.6	1.4	
	(C)/(E)	0.8	0.8	
	(D)/(E)	0.9	0.6	

2) 歳入の状況

区 分		令和6年度						
		決 算 額 (A)	うち臨時的なもの(B)		差引経常的 なもの (A)－(B)	左 の 内 訳		決算額 構成比 (%)
			特定財源	一般財源		特定財源	一般財源	
1. 地 方 税		6,734,591		349,705	6,384,886		6,384,886	19.3
2. 地方譲与税		300,991			300,991		300,991	0.9
3. 利子割交付金		3,958			3,958		3,958	0.0
4. 配当割交付金		92,806			92,806		92,806	0.3
5. 株式等譲渡所得割交付金		109,054			109,054		109,054	0.3
6. 地方消費税交付金		1,459,482			1,459,482		1,459,482	4.2
7. ゴルフ場利用税交付金		28,925			28,925		28,925	0.1
8. 自動車取得税交付金								0.0
9. 自動車税環境性能割交付金		36,642			36,642		36,642	0.1
10. 法人事業税交付金		88,096			88,096		88,096	0.2
11. 地方特例交付金等		307,905			307,905		307,905	0.9
12. 地方交付税		10,759,774		1,045,324	9,714,450		9,714,450	30.9
13. 交通安全対策特別交付金		3,900			3,900		3,900	0.0
14. 分担金及び負担金		175,371	45,115	272	129,984	129,984		0.5
15. 使 用 料		92,874	527	3,596	88,751	78,939	9,812	0.3
16. 手 数 料		144,193			144,193	144,193		0.4
17. 国庫支出金		5,066,151	563,665	1,240,219	3,262,267	3,262,267		14.5
18. 県支出金		2,353,071	393,968	33,291	1,925,812	1,925,812		6.8
19. 財産収入		97,226	19,005	45,414	32,807	13,154	19,653	0.3
20. 寄 附 金		1,357,161		1,357,161				3.9
21. 繰 入 金		822,476	352,476	470,000				2.4
22. 繰 越 金		2,038,011	422,170	1,615,841				5.8
23. 諸 収 入		403,574	47,174	153,849	202,551	126,904	75,647	1.2
内 訳	収益事業収入							
	貸付金元利収入	7,205		7,205				0.0
	そ の 他	396,369	47,174	146,644	202,551	126,904	75,647	1.2
24. 地 方 債		2,334,800	2,286,500	48,300				6.7
う ち	県貸付金							
	減収補填債特例分							
	臨時財政対策債	48,300		48,300				0.1
歳 入 合 計		34,811,032	4,130,600	6,362,972	24,317,460	5,681,253	18,636,207	100.0
歳入構成比 (％)		100.0	11.9	18.3	69.8	16.3	53.5	

(R5→R6、増減〔＋：増額、△：減額、±0：同額〕、単位：千円)

令和5年度			増減率	主 な 増 減 内 容
決 算 額 (C)	左のうち 経常一般財源	決算額 構成比 (%)	(A)－(C) (C) (%)	
6,963,318	6,608,867	20.5	△3.3	個人市民税（所得割、現年分）の減 2,427,560→2,228,395 △199,165 法人市民税（法人税割、現年分）の増 186,916→207,294 +20,378
294,167	294,167	0.9	2.3	森林環境譲与税額の増 23,524→30,731 +7,207
3,088	3,088	0.0	28.2	利子課税額の増加による増
61,532	61,532	0.2	50.8	配当課税額の増加による増
61,547	61,547	0.2	77.2	株式等譲渡所得課税額の増加による増
1,371,750	1,371,750	4.1	6.4	消費税・地方消費税額の増加による増
24,028	24,028	0.1	20.4	ゴルフ場利用税額の増加による増
3,313	3,313	0.0	皆減	
35,878	35,878	0.1	2.1	自動車税環境性能割額の増加による増
78,039	78,039	0.2	12.9	法人事業税額の増加による増
67,097	67,097	0.2	358.9	定額減税減収補填特例交付金の増 0→242,124 +242,124
10,517,226	9,388,705	31.0	2.3	普通交付税の増 9,388,705→9,714,450 +325,745 特別交付税の減 1,128,521→1,045,324 △83,197
3,954	3,954	0.0	△1.4	交通反則金収入の減少による減
170,269		0.5	3.0	保育所保育料（私立、現年分）の増 25,327→29,945 +4,618 県営農業競争力強化基盤整備事業分担金の増 20,625→24,750 +4,125
92,214	9,710	0.3	0.7	保育所保育料（公立、現年分）の増 21,064→22,579 +1,515 粉河ふるさとセンター使用料の減 3,219→2,345 △874
146,539		0.4	△1.6	ごみ処理手数料の減 76,703→74,764 △1,939 し尿処理手数料の増 40,605→41,948 +1,343
5,149,475		15.2	△1.6	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の減 578,533→0 △578,533 国県支出金過年度収入の増 28,883→382,820 +353,937
2,181,847		6.4	7.8	障害者自立支援給付費負担金の増 376,153→440,192 +64,039 公立学校給食費無償化事業補助金の増 0→43,488 +43,488 農業水路等長寿命化・防災減災事業補助金の減 54,500→7,000 △47,500
83,757	19,741	0.3	16.1	土地建物売払収入の増 32,678→40,036 +7,358 物品売払収入の増 1,410→4,748 +3,338
1,912,010		5.6	△29.0	ふるさとまちづくり寄附金の減 1,909,159→1,356,150 △553,009
708,269		2.1	16.1	公共施設等整備基金繰入金の増 96,000→200,000 +104,000 地域振興基金繰入金の増 170,000→183,000 +13,000
1,540,222		4.5	32.3	前年度繰越金の増
300,716	75,244	0.9	34.2	
5,851		0.0	23.1	宅地取得資金元利収入の増 2,115→3,181 +1,066
294,865	75,244	0.9	34.4	デジタル基盤改革支援補助金の増 0→44,611 +44,611 新型コロナウイルスワクチン定期接種助成金の増 0→31,167 +31,167
2,137,400		6.3	9.2	田中小学校整備事業債の増 78,200→374,800 +296,600 体育施設整備事業債の増 18,000→130,900 +112,900 収集事務所整備事業債の減 328,300→0 △328,300
98,300		0.3	△50.9	臨時財政対策債の減 98,300→48,300 △50,000
33,907,655	18,106,660	100.0	2.7	
100.0	53.4			

3) 歳出の状況

◇ 目的別

区 分	令 和 6 年 度					令 和 5 年 度		
	決 算 額 (A)	左 の 内 訳		一般財源の うち投資的 経費充当額	決算額 構成比 (%)	決 算 額 (B)	左のうち 一般財源	決算額 構成比 (%)
		特定財源	一般財源					
1. 議 会 費	216,359		216,359		0.6	196,335	196,335	0.6
2. 総 務 費	5,303,392	627,523	4,675,869	98,767	15.8	4,839,708	4,272,082	15.2
3. 民 生 費	12,223,563	5,209,933	7,013,630	15,836	36.5	11,392,804	6,403,663	35.7
4. 衛 生 費	2,946,370	354,728	2,591,642	25,748	8.8	3,325,063	2,517,339	10.4
5. 労 働 費	27,991		27,991	528	0.1	25,816	25,816	0.1
6. 農林業費	1,145,364	525,114	620,250	129,494	3.5	1,204,546	557,156	3.9
7. 商 工 費	499,694	88,323	411,371	68,964	1.5	792,846	683,771	2.5
8. 土 木 費	2,396,188	681,897	1,714,291	390,626	7.2	2,199,504	1,644,742	6.9
9. 消 防 費	1,307,625	199,003	1,108,622	10,715	3.9	1,249,461	1,102,297	3.9
10. 教 育 費	3,794,253	1,353,789	2,440,464	119,761	11.3	3,186,405	2,238,587	10.0
11. 災害復旧費	804,371	756,558	47,813	47,813	2.4	683,155	259,270	2.1
12. 公 債 費	2,817,655	14,985	2,802,670		8.4	2,774,001	2,758,975	8.7
13. 諸支出金								
14. 前年度繰上充用金								
歳 出 合 計	33,482,825	9,811,853	23,670,972	908,252	100.0	31,869,644	22,660,033	100.0

(R5→R6、増減〔＋：増額、△：減額、±0：同額〕、単位：千円)

増減率 (A)－(B) (B) (%)	主 な 増 減 内 容
10.2	議会運営事業費の増 153,909→165,175 +11,266 議会秘書事業費の増 2,310→2,648 +338
9.6	電算システム更新事業費の増 7,643→215,542 +207,899 財政調整基金積立金の増 22,929→123,649 +100,720 ふるさとまちづくり寄附金事業費の減 992,959→825,922 △167,037
7.3	低所得者支援・定額減税補足給付金給付事業費の増 52,144→781,641 +729,497 障害福祉サービス等給付事業費の増 1,569,780→1,737,342 +167,562 低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業費の減 676,997→17,925 △659,072
△ 11.4	収集事務所整備事業費の減 358,945→0 △358,945 新型コロナウイルスワクチン接種事業費の減 226,936→0 △226,936 感染症対策事業費の増 173,177→314,051 +140,874
8.4	シルバー人材センター運営支援事業費の増 24,816→26,628 +1,812
△ 4.9	農業水路等長寿命化・防災減災事業費の減 54,774→14,091 △40,683 農業振興施設管理運営事業費の減 49,548→14,959 △34,589 防災重点農業用ため池緊急整備事業費の減 91,187→62,853 △28,334
△ 37.0	商工振興事業費の減 417,700→112,135 △305,565 紀の川はっさくプロジェクト推進事業費の減 9,221→3,035 △6,186 観光施設管理運営事業費の増 8,168→18,364 +10,196
8.9	橋りょう維持修繕事業費の増 85,916→147,790 +61,874 市道等改良事業費の増 105,326→149,985 +44,659 市営住宅整備事業費の減 58,841→21,881 △36,960
4.7	危機管理対策事業費の増 36,587→72,031 +35,444 水防事業費の増 67,327→93,876 +26,549 防災施設管理運営事業費の減 59,707→38,726 △20,981
19.1	田中小学校改築事業費の増 113,778→516,129 +402,351 体育施設管理運営事業費の増 99,901→214,524 +114,623 中学校施設長寿命化事業費の減 293,097→132,640 △160,457
17.7	土木施設災害復旧事業費の増 518,528→693,522 +174,994 農業用施設災害復旧事業費の減 121,707→61,652 △60,055
1.6	地方債管理事業（元金）費の増 2,688,800→2,728,644 +39,844 地方債管理事業（利子）費の増 85,201→89,011 +3,810
5.1	

◇ 性質別

区 分		令和6年度						
		決 算 額 (A)	左のうち臨時的なもの(B)		差引経常的 なもの (A) - (B)	左 の 内 訳		決算額 構成比 (%)
			特定財源	一般財源		特定財源	一般財源	
1. 人 件 費 (7)		5,156,525	55,379	57,243	5,043,903	268,389	4,775,514	15.4
2. 物 件 費		5,028,993	275,927	1,567,512	3,185,554	390,287	2,795,267	15.0
3. 維持補修費		175,084		1,162	173,922	27,980	145,942	0.5
4. 扶 助 費		7,385,961	163,063	937,384	6,285,514	4,228,284	2,057,230	22.1
5. 補助費等		4,145,582	222,614	614,980	3,307,988	187,153	3,120,835	12.4
内 訳	一部事務組合に対するもの	1,436,721	8,400	35,797	1,392,524		1,392,524	4.3
	その他のもの	2,708,861	214,214	579,183	1,915,464	187,153	1,728,311	8.1
6. 公 債 費		2,817,655			2,817,655	14,985	2,802,670	8.4
内 訳	元利償還金	2,817,655			2,817,655	14,985	2,802,670	8.4
	一時借入金利息							
7. 積 立 金		927,127	18,720	908,407				2.8
8. 投資及び出資金・貸付金		688,663	158,700	495,151	34,812		34,812	2.1
9. 繰 出 金		3,021,690	8,904	123,354	2,889,432	564,175	2,325,257	9.0
10. 前年度繰上充用金								
計 (1～10)		29,347,280	903,307	4,705,193	23,738,780	5,681,253	18,057,527	87.6
11. 投資的経費		4,135,545	3,227,293	908,252				12.4
	うち人件費 (4)	113,692		113,692				0.3
	(1) 普通建設事業費	3,331,174	2,470,735	860,439				9.9
	うち補助事業費	706,111	563,816	142,295				2.1
	うち単独事業費	2,470,872	1,756,869	714,003				7.4
	(2) 災害復旧事業費	804,371	756,558	47,813				2.4
歳 出 合 計		33,482,825	4,130,600	5,613,445	23,738,780	5,681,253	18,057,527	100.0
	うち人件費 (7) + (4)	5,270,217	55,379	170,935	5,043,903	268,389	4,775,514	15.7
歳出構成比 (%)		100.0	12.3	16.8	70.9	17.0	53.9	

(R5→R6、増減〔＋：増額、△：減額、±0：同額〕、単位：千円)

令和5年度			増減率	主 な 増 減 内 容
決 算 額 (C)	左のうち 経常一般財源	決算額 構成比 (%)	(A)-(C) (C) (%)	
4,805,404	4,436,133	15.1	7.3	会計年度任用職員勤勉手当の増 0→122,657 +122,657 会計年度任用職員報酬の増 658,114→758,323 +100,209 総合事務組合負担金（退職手当特別負担金）の減 90,964→55,225 △35,739
4,934,866	2,597,513	15.5	1.9	電算システム更新事業機械器具購入費の増 3,870→169,914 +166,044 予防接種委託料の増 160,088→232,843 +72,755 ふるさとまちづくり寄附金特産品等贈呈委託料の減 908,905→768,841 △140,064
130,186	108,801	0.4	34.5	庁舎管理事業施設・器具修繕料の増 5,330→22,563 +17,233 小学校施設管理事業施設・器具修繕料の増 18,943→29,510 +10,567 生涯学習施設管理運営事業施設・器具修繕料の減 20,593→7,953 △12,640
6,793,093	1,922,921	21.3	8.7	定額減税補足給付金の増 0→461,650 +461,650 低所得者支援給付金の増 49,000→290,050 +241,050 低所得世帯生活支援臨時給付金の減 653,230→17,780 △635,450
4,306,420	3,101,066	13.5	△ 3.7	
1,439,404	1,356,358	4.5	△ 0.2	那賀消防組合負担金の減 733,527→718,441 △15,086 那賀衛生環境整備組合負担金の増 216,743→223,714 +6,971
2,867,016	1,744,708	9.0	△ 5.5	こども未来応援デジタル商品券事業交付金の減 158,499→0 △158,499 商工業者原油価格・物価高騰対策補助金の減 90,776→0 △90,776 水道事業会計補助金の増 64,389→152,425 +88,036
2,774,001	2,758,975	8.7	1.6	
2,774,001	2,758,975	8.7	1.6	地方債管理事業（元金）費の増 2,688,800→2,728,644 +39,844 地方債管理事業（利子）費の増 85,201→89,011 +3,810
746,204		2.3	24.2	財政調整基金積立金の増 22,929→123,649 +100,720 減債基金積立金の増 608,556→698,759 +90,203 森林環境譲与税基金積立金の減 11,086→2,299 △8,787
711,212	74,002	2.2	△ 3.2	水道事業会計出資金の減 189,495→146,534 △42,961 下水道事業会計出資金の増 521,717→542,129 +20,412
2,884,638	2,219,241	9.1	4.8	後期高齢者医療特別会計繰出金の増 1,054,258→1,169,202 +114,944 国民健康保険直営診療施設勘定特別会計繰出金の増 11,738→22,860 +11,122 国民健康保険事業勘定特別会計繰出金の減 527,479→513,382 △14,097
28,086,024	17,218,652	88.1	4.5	
3,783,620		11.9	9.3	
93,358		0.3	21.8	住宅建設費人件費の増 0→8,669 +8,669 商工振興費人件費の増 0→7,991 +7,991
3,100,465		9.8	7.4	
854,351		2.7	△ 17.4	市営住宅整備事業費の減 58,841→0 △58,841 農業水路等長寿命化・防災減災事業費の減 54,502→9,785 △44,717 田中小学校改築事業費（補助事業分）の増 0→63,603 +63,603
2,099,166		6.6	17.7	田中小学校改築事業費（単独事業分）の増 113,778→452,526 +338,748 体育施設管理運営事業費の増 19,771→150,171 +130,400 収集事務所整備事業費の減 358,945→0 △358,945
683,155		2.1	17.7	土木施設災害復旧事業費の増 518,528→693,522 +174,994 農業用施設災害復旧事業費の減 121,707→61,652 △60,055
31,869,644	17,218,652	100.0	5.1	
4,898,762	4,436,133	15.4	7.6	
100.0	54.1			

4. 職員給与費の状況

〔一般会計〕

(単位：人、円)

区 分		令和6年度	令和5年度	増 減
職員数		861	828	33
	特別職	3	3	0
	一般職	858	825	33
	会計年度任用職員以外の職員	502	495	7
	会計年度任用職員	356	330	26
総額		5,202,702,143	4,857,540,193	345,161,950
	報酬	768,198,991	665,741,898	102,457,093
	会計年度任用職員報酬	768,198,991	665,741,898	102,457,093
	給料	2,006,789,207	1,946,162,475	60,626,732
	特別職給	25,142,400	25,142,400	0
	一般職給	1,981,646,807	1,921,020,075	60,626,732
	手当	1,640,144,261	1,498,034,088	142,110,173
	扶養手当	53,623,975	54,949,619	△ 1,325,644
	住居手当	15,514,116	13,302,188	2,211,928
	特別職通勤手当	58,400	74,400	△ 16,000
	通勤手当	28,360,770	27,469,180	891,590
	単身赴任手当	648,000	0	648,000
	特殊勤務手当	2,168,000	2,110,500	57,500
	時間外勤務手当	109,974,592	131,644,859	△ 21,670,267
	管理職員特別勤務手当	922,000	1,648,500	△ 726,500
	管理職手当	101,280,000	100,110,000	1,170,000
	特別職期末手当	10,119,816	9,973,152	146,664
	期末手当	448,980,916	426,994,460	21,986,456
	会計年度任用職員期末手当	149,553,821	127,020,258	22,533,563
	勤勉手当	364,907,881	345,246,222	19,661,659
	会計年度任用職員勤勉手当	124,365,072	0	124,365,072
	児童手当	24,905,000	23,085,000	1,820,000
	総合事務組合負担金（退職手当特別職）	7,039,872	7,039,872	0
	総合事務組合負担金（退職手当）	140,149,285	135,835,833	4,313,452
	総合事務組合負担金（退職手当特別負担金）	55,224,603	90,964,263	△ 35,739,660
	地域手当	2,348,142	565,782	1,782,360
	共済費	787,569,684	747,601,732	39,967,952
	職員共済組合負担金特別職	5,262,584	5,379,458	△ 116,874
	職員共済組合負担金	602,791,137	592,358,199	10,432,938
	職員共済組合負担金追加費用	27,220,752	28,957,236	△ 1,736,484
	職員共済組合負担金払込金	67,123	66,241	882
	職員共済組合負担金特定検診負担金	78,840	80,400	△ 1,560
	会計年度任用職員共済組合負担金	60,531,485	47,992,013	12,539,472
	会計年度任用職員共済組合負担金特定検診負担金	41,464	40,650	814
	社会保険料負担金	91,576,299	72,727,535	18,848,764

備考：1）時間外勤務手当は、選挙事務に係る手当を含んでいます。

〔特別会計〕

(単位：人、円)

区 分		令和6年度	令和5年度	増 減
職員数（一般職）		41	39	2
	会計年度任用職員以外の職員	7	7	0
	会計年度任用職員	34	32	2
総額		175,060,268	156,789,309	18,270,959
報酬		85,259,488	74,719,160	10,540,328
	会計年度任用職員報酬	85,259,488	74,719,160	10,540,328
給料		20,549,700	27,394,854	△ 6,845,154
	一般職給	20,549,700	27,394,854	△ 6,845,154
手当		45,290,188	32,238,099	13,052,089
	扶養手当	396,000	376,500	19,500
	住居手当	0	0	0
	通勤手当	350,000	373,600	△ 23,600
	時間外勤務手当	1,222,764	1,858,338	△ 635,574
	管理職手当	1,200,000	1,560,000	△ 360,000
	期末手当	4,884,570	6,200,767	△ 1,316,197
	会計年度任用職員期末手当	17,455,156	14,532,150	2,923,006
	勤勉手当	3,864,408	5,127,273	△ 1,262,865
	会計年度任用職員勤勉手当	14,123,815	0	14,123,815
	児童手当	240,000	240,000	0
	総合事務組合負担金（退職手当）	1,553,475	1,969,471	△ 415,996
	共済費	23,960,892	22,437,196	1,523,696
共済費		6,263,264	8,265,293	△ 2,002,029
	職員共済組合負担金	7,189,723	5,708,933	1,480,790
	会計年度任用職員共済組合負担金	10,507,905	8,462,970	2,044,935
社会保険料負担金				

備考：2）国民健康保険事業勘定特別会計および介護保険事業勘定特別会計が対象です。

〔公営企業会計〕

(単位：人、円)

区 分		令和6年度	令和5年度	増 減
職員数（一般職）		31	32	△ 1
	会計年度任用職員以外の職員	30	30	0
	会計年度任用職員	1	2	△ 1
総額		238,441,971	239,971,360	△ 1,529,389
報酬		2,628,362	2,576,401	51,961
	会計年度任用職員報酬	2,628,362	2,576,401	51,961
給料		118,845,585	119,639,948	△ 794,363
	一般職給	118,845,585	118,959,900	△ 114,315
	会計年度任用職員給	0	680,048	△ 680,048
手当		80,429,516	80,193,296	236,220
	扶養手当	4,717,430	4,770,000	△ 52,570
	住居手当	1,213,200	2,195,600	△ 982,400
	通勤手当	1,617,900	1,779,800	△ 161,900
	会計年度任用職員通勤手当	0	51,600	△ 51,600
	時間外勤務手当	2,964,026	4,156,595	△ 1,192,569
	管理職員特別勤務手当	0	0	0
	管理職手当	7,800,000	7,200,000	600,000
	期末手当	27,510,156	26,899,683	610,473
	会計年度任用職員期末手当	581,851	724,678	△ 142,827
	勤勉手当	22,283,708	21,698,147	585,561
	会計年度任用職員勤勉手当	488,755	0	488,755
	児童手当	2,860,000	2,390,000	470,000
	総合事務組合負担金（退職手当）	8,392,490	8,327,193	65,297
共済費		36,538,508	37,561,715	△ 1,023,207
	職員共済組合負担金	35,957,233	36,949,298	△ 992,065
	会計年度任用職員共済組合負担金	238,058	250,656	△ 12,598
社会保険料負担金		343,217	361,761	△ 18,544

備考：3）水道事業会計、工業用水道事業会計および下水道事業会計が対象です。

〔全会計〕

(単位：人、円)

区 分		令和6年度	令和5年度	増 減
職員数		933	899	34
	特別職	3	3	0
	一般職	930	896	34
	会計年度任用職員以外の職員	539	532	7
	会計年度任用職員	391	364	27
総額		5,616,204,382	5,254,300,862	361,903,520
	報酬	856,086,841	743,037,459	113,049,382
	会計年度任用職員報酬	856,086,841	743,037,459	113,049,382
	給料	2,146,184,492	2,093,197,277	52,987,215
	特別職給	25,142,400	25,142,400	0
	一般職給	2,121,042,092	2,067,374,829	53,667,263
	会計年度任用職員給	0	680,048	△ 680,048
	手当	1,765,863,965	1,610,465,483	155,398,482
	扶養手当	58,737,405	60,096,119	△ 1,358,714
	住居手当	16,727,316	15,497,788	1,229,528
	特別職通勤手当	58,400	74,400	△ 16,000
	通勤手当	30,328,670	29,622,580	706,090
	会計年度任用職員通勤手当	0	51,600	△ 51,600
	単身赴任手当	648,000	0	648,000
	特殊勤務手当	2,168,000	2,110,500	57,500
	時間外勤務手当	114,161,382	137,659,792	△ 23,498,410
	管理職員特別勤務手当	922,000	1,648,500	△ 726,500
	管理職手当	110,280,000	108,870,000	1,410,000
	特別職期末手当	10,119,816	9,973,152	146,664
	期末手当	481,375,642	460,094,910	21,280,732
	会計年度任用職員期末手当	167,590,828	142,277,086	25,313,742
	勤勉手当	391,055,997	372,071,642	18,984,355
	会計年度任用職員勤勉手当	138,977,642	0	138,977,642
	児童手当	28,005,000	25,715,000	2,290,000
	総合事務組合負担金（退職手当特別職）	7,039,872	7,039,872	0
	総合事務組合負担金（退職手当）	150,095,250	146,132,497	3,962,753
	総合事務組合負担金（退職手当特別負担金）	55,224,603	90,964,263	△ 35,739,660
	地域手当	2,348,142	565,782	1,782,360
	共済費	848,069,084	807,600,643	40,468,441
	職員共済組合負担金特別職	5,262,584	5,379,458	△ 116,874
	職員共済組合負担金	645,011,634	637,572,790	7,438,844
	職員共済組合負担金追加費用	27,220,752	28,957,236	△ 1,736,484
	職員共済組合負担金払込金	67,123	66,241	882
	職員共済組合負担金特定検診負担金	78,840	80,400	△ 1,560
	会計年度任用職員共済組合負担金	67,959,266	53,951,602	14,007,664
	会計年度任用職員共済組合負担金特定検診負担金	41,464	40,650	814
	社会保険料負担金	102,427,421	81,552,266	20,875,155

〔職員給与費を構成する期末手当支給率等〕

区 分	令和6年度	令和5年度	増 減
期末手当支給率	2.50月	2.45月	0.05月
勤勉手当支給率	2.10月	2.05月	0.05月
総合事務組合退職手当負担金率	70/1000	70/1000	0/1000
職員共済組合負担金率（40歳以上）	197.0353/1000	199.339/1000	△2.3037/1000
職員共済組合負担金率（40歳未満）	188.3353/1000	190.639/1000	△2.3037/1000
職員共済組合追加費用率	10.0/1000	11.1/1000	△1.1/1000

5. 地方債の状況

1) 地方債現在高の状況

〔一般会計〕

◇ 事業別

(単位：千円)

区 分	令和5年度末 現在高	令和6年度 発行額	令和6年度 償還額	令和6年度末 現在高
1. 公共事業等債	662,129	74,500	116,721	619,908
2. 防災・減災・国土強靱化緊急対策事業債	255,537	92,600	18,609	329,528
3. 公営住宅建設事業債				
4. 災害復旧事業債	257,020	228,400	73,880	411,540
5. (旧)緊急防災・減災事業債				
6. 全国防災事業債	145,507		13,557	131,950
7. 教育・福祉施設等整備事業債	245,560	374,300	70,481	549,379
8. 一般単独事業債	13,673,716	689,800	1,461,849	12,901,667
うち地域活性化事業債	327,170	12,800	66,310	273,660
うち防災対策事業債	8,950		550	8,400
うち合併特例事業債	11,998,730	250,400	1,177,605	11,071,525
うち(新)緊急防災・減災事業債	642,384	122,800	86,333	678,851
うち公共施設等適正管理推進事業債	558,340	159,400	63,950	653,790
うち緊急自然災害防止対策事業債	53,245	4,200	2,945	54,500
うち脱炭素化推進事業債		140,200		140,200
9. 辺地対策事業債	46,930	31,300	5,830	72,400
10. 過疎対策事業債	1,909,975	734,500	203,685	2,440,790
11. 公共用地先行取得等事業債				
12. 行政改革推進債				
13. 厚生福祉施設整備事業債				
14. 退職手当債(～平成17年度分)				
15. 退職手当債(平成18年度～)				
16. 国の予算貸付・政府関係機関貸付債				
17. 地域改善対策特定事業債				
18. 財源対策債	338,685	61,100	33,899	365,886
19. 減収補填債	14,800		7,400	7,400
20. 臨時財政特例債				
21. 公共事業等臨時特例債				
22. 減税補填債	24,864		12,917	11,947
23. 臨時税収補填債				
24. 臨時財政対策債	5,564,838	48,300	694,606	4,918,532
25. 調整債(令和1～5年度分)				
26. 減収補填債特例分				
27. 県貸付金				
28. 猶予特例債				
29. 特別減収対策債				
30. その他	106,140		15,210	90,930
合 計	23,245,701	2,334,800	2,728,644	22,851,857

備考：1) 区分の分類は、地方財政状況調査(決算統計)に準じて作成しています。

◇ 予算説明別

(単位：千円)

区 分	令和5年度末 現在高	令和6年度 発行額	令和6年度 償還額	令和6年度末 現在高
1. 普 通 債	17,384,179	2,058,100	1,939,841	17,502,438
(1) 総 務 債	1,659,955	267,900	207,330	1,720,525
(2) 民 生 債	556,998	14,600	82,358	489,240
(3) 衛 生 債	2,664,400	38,300	278,560	2,424,140
(4) 農林業債	1,399,115	178,200	119,114	1,458,201
(5) 商 工 債	37,275		4,165	33,110
(6) 土 木 債	4,712,919	456,200	533,022	4,636,097
(7) 消 防 債	527,625	131,200	78,820	580,005
(8) 教 育 債	5,825,892	971,700	636,472	6,161,120
2. 災害復旧債	257,020	228,400	73,880	411,540
(1) 補助災害復旧事業債	133,400	82,800	47,900	168,300
(2) 単独災害復旧事業債	123,620	145,600	25,980	243,240
3. そ の 他	5,604,502	48,300	714,923	4,937,879
(1) 減収補填債	14,800		7,400	7,400
(2) 減税補填債	24,864		12,917	11,947
(3) 臨時財政対策債	5,564,838	48,300	694,606	4,918,532
合 計	23,245,701	2,334,800	2,728,644	22,851,857

備考：2) 区分の分類は、予算書の付属資料に準じて作成しています。

〔国民健康保険直営診療施設勘定特別会計〕

(単位：千円)

区 分	令和5年度末 現 在 高	令和6年度 発 行 額	令和6年度 償 還 額	令和6年度末 現 在 高
1. 辺地対策事業債	31,050	47,900	3,280	75,670
合 計	31,050	47,900	3,280	75,670

備考：3) 区分の分類は、地方財政状況調査（決算統計）に準じて作成しています。

2) 地方債年度別償還予定の状況

〔一般会計〕

	令和7年度			令和8年度		
	元 金	利 子	計	元 金	利 子	計
1. 政 府 資 金	1,098,023	37,147	1,135,170	978,340	34,841	1,013,181
2. 地方公共団体金融機構資金	432,119	13,930	446,049	409,832	12,603	422,435
3. 市中銀行その他金融機関	1,216,835	52,902	1,269,737	1,196,415	48,070	1,244,485
4. 共 済 等						
合 計	2,746,977	103,979	2,850,956	2,584,587	95,514	2,680,101

〔国民健康保険直営診療施設勘定特別会計〕

1. 政 府 資 金	8,070	569	8,639	8,070	588	8,658
合 計	8,070	569	8,639	8,070	588	8,658
特別会計合計	8,070	569	8,639	8,070	588	8,658

総 合 計	2,755,047	104,548	2,859,595	2,592,657	96,102	2,688,759

備考：1) 償還予定額は、令和6年度までに借り入れた起債を基に算出しています。

2) 資金区分の政府資金には財政融資資金および旧郵政公社資金を、地方公共団体金融機構資金には旧公営企業金融公庫資金および旧公営企業等金融機構資金を、また、ゆうちょ銀行資金は市中銀行欄にそれぞれ分類しています。

3) この表には起債前借を含んでいません。起債前借は事業の進捗度合に応じ、長期資金を正式に借り入れるまでのつなぎ資金として借り入れるものです。

(単位：千円)

令和9年度			令和10年度			令和11年度		
元 金	利 子	計	元 金	利 子	計	元 金	利 子	計
876,687	30,057	906,744	792,715	25,916	818,631	709,174	21,862	731,036
368,927	11,140	380,067	350,345	9,678	360,023	347,888	8,217	356,105
1,167,885	42,677	1,210,562	1,117,945	37,195	1,155,140	1,039,605	31,924	1,071,529
2,413,499	83,874	2,497,373	2,261,005	72,789	2,333,794	2,096,667	62,003	2,158,670

(単位：千円)

8,070	518	8,588	8,070	449	8,519	8,070	379	8,449
8,070	518	8,588	8,070	449	8,519	8,070	379	8,449

8,070	518	8,588	8,070	449	8,519	8,070	379	8,449

2,421,569	84,392	2,505,961	2,269,075	73,238	2,342,313	2,104,737	62,382	2,167,119

6. 基金の状況

(単位：円)

基 金 名		令和5年度末 現在高	令和6年度 取崩額	令和6年度 積立額	令和6年度末 現在高
財政調整基金		6,145,066,000	0	123,649,000	6,268,715,000
減債基金		2,970,682,000	400,000,000	698,759,000	3,269,441,000
特定 目的 基金	中山間ふるさと水と土保全対策基金	43,718,000	0	25,000	43,743,000
	都市計画事業基金	0	0	0	0
	医聖華岡青洲顕彰事業基金	1,987,000	0	1,000	1,988,000
	人材育成基金	31,345,000	8,000,000	18,000	23,363,000
	地域振興基金	2,217,340,000	183,000,000	1,012,000	2,035,352,000
	地域福祉基金	455,139,000	30,000,000	237,000	425,376,000
	公共施設等整備基金	2,060,047,000	200,000,000	101,127,000	1,961,174,000
	森林環境譲与税基金	52,096,000	0	2,299,000	54,395,000
基 定 額 運 金 用	土地開発基金	741,731,018	9,603,749	9,889,318	742,016,587
	うち現金	534,955,518	0	9,889,318	544,844,836
	うち土地	206,775,500	9,603,749	0	197,171,751
普通会計 計		14,719,151,018	830,603,749	937,016,318	14,825,563,587
特 別 会 計	国民健康保険事業運営基金	378,102,000	19,015,000	214,000	359,301,000
	介護給付費準備基金	587,190,000	0	332,000	587,522,000
	池田財産区財政調整基金	144,202,000	0	3,676,000	147,878,000
	田中財産区財政調整基金	67,128,000	0	69,000	67,197,000
	長田竜門財産区財政調整基金	9,155,000	0	5,000	9,160,000
	竜門財産区財政調整基金	251,000	0	10,000	261,000
	南北志野財産区財政調整基金	3,999,000	0	17,000	4,016,000
	飯盛財産区財政調整基金	7,724,000	0	1,564,000	9,288,000
	静川財産区財政調整基金	2,831,000	0	2,000	2,833,000
	最上、神田、市場、元財産区財政調整基金	27,369,000	0	1,323,000	28,692,000
	調月財産区財政調整基金	28,485,000	0	15,000	28,500,000
	丸栖財産区財政調整基金	21,394,000	0	344,000	21,738,000
	平池財産区財政調整基金	39,222,000	0	453,000	39,675,000
特別会計（普通会計以外） 計		1,317,052,000	19,015,000	8,024,000	1,306,061,000
総 合 計		16,036,203,018	849,618,749	945,040,318	16,131,624,587

7. 一般会計から他会計への繰出金等の状況

(単位：千円)

区分		令和6年度	令和5年度	増減
総額		4,101,853	3,891,901	209,952
特別会計		2,802,837	2,686,632	116,205
	国民健康保険事業勘定特別会計	513,382	527,478	△ 14,096
	繰出金	513,382	527,478	△ 14,096
	国民健康保険直営診療施設勘定特別会計	22,860	11,738	11,122
	繰出金	22,860	11,738	11,122
	後期高齢者医療特別会計	1,169,202	1,054,258	114,944
	繰出金	1,169,202	1,054,258	114,944
	介護保険事業勘定特別会計	1,097,393	1,093,158	4,235
	繰出金	1,097,393	1,093,158	4,235
公営企業会計		1,299,016	1,205,269	93,747
	水道事業会計	303,763	257,316	46,447
	出資金	146,534	189,495	△ 42,961
	負担金	4,804	3,432	1,372
	補助金	56,793	64,389	△ 7,596
	補助金（繰越明許）	95,632	0	95,632
	下水道事業会計	995,253	947,953	47,300
	公共下水道事業	950,700	901,297	49,403
	出資金	491,223	496,977	△ 5,754
	出資金（繰越明許）	24,300	0	24,300
	補助金	435,177	404,320	30,857
	農業集落排水事業	44,553	46,656	△ 2,103
	出資金	26,606	24,740	1,866
	補助金	17,947	21,916	△ 3,969

8. その他資料

1) 人口推移（住民基本台帳人口：3月末日現在）

（単位：人）

区 分	人 口			世帯数	1世帯当 たり人口
	男	女	計		
平成17年	33,759	36,786	70,545	24,010	2.94
平成18年	33,568	36,606	70,174	24,306	2.89
平成19年	33,368	36,473	69,841	24,663	2.83
平成20年	33,051	36,159	69,210	24,795	2.79
平成21年	32,749	35,902	68,651	24,978	2.75
平成22年	32,537	35,710	68,247	25,237	2.70
平成23年	32,252	35,471	67,723	25,465	2.66
平成24年	32,011	35,184	67,195	25,624	2.62
平成25年	31,774	35,088	66,862	25,903	2.58
平成26年	31,467	34,784	66,251	26,055	2.54
平成27年	31,249	34,510	65,759	26,196	2.51
平成28年	30,881	34,127	65,008	26,275	2.47
平成29年	30,508	33,621	64,129	26,346	2.43
平成30年	30,115	33,160	63,275	26,412	2.40
平成31年	29,702	32,682	62,384	26,447	2.36
令和2年	29,292	32,210	61,502	26,510	2.32
令和3年	29,011	31,867	60,878	26,576	2.29
令和4年	28,713	31,592	60,305	26,691	2.26
令和5年	28,481	31,322	59,803	26,910	2.22
令和6年	28,278	31,084	59,362	27,159	2.19
令和7年	27,907	30,736	58,643	27,222	2.15

2) 学校別児童生徒数（令和6年5月1日 学校基本調査）

〔小学校〕

（単位：人）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
池田小学校	61	63	58	65	66	59	372
田中小学校	84	83	76	97	74	90	504
長田小学校	16	14	14	12	17	13	86
粉河小学校	30	31	33	47	36	51	228
竜門小学校	16	13	19	10	14	16	88
川原小学校	4	11	5	7	10	6	43
名手小学校	21	21	27	27	30	36	162
上名手小学校	2	7	5	6	6	9	35
麻生津小学校	0	2	3	6	1	3	15
安楽川小学校	39	41	42	43	43	39	247
調月小学校	6	12	7	8	8	15	56
中貴志小学校	50	28	50	46	54	49	277
東貴志小学校	15	17	15	15	17	12	91
西貴志小学校	40	60	41	58	48	55	302
丸栖小学校	17	14	22	25	22	21	121
合 計	401	417	417	472	446	474	2,627

〔中学校〕

（単位：人）

	1年	2年	3年	計
打田中学校	118	137	129	384
打田中学校(仙溪分校)	1	1	4	6
粉河中学校	74	78	68	220
那賀中学校	40	44	39	123
荒川中学校	59	57	49	165
貴志川中学校	145	154	140	439
合 計	437	471	429	1,337

3) 保育施設別児童数（令和7年3月1日現在）

〔公立（保育所）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
なるき保育所			16	31	28	40	115	144
こばと保育所	6	20	30	43	47	45	191	252
八王子保育所			4	9	8	12	33	52
中貴志保育所			9	20	22	15	66	90
東貴志保育所		10	12	7	7	3	39	90
西貴志保育所				6	19	11	36	72
丸栖保育所		8	9	13	11	18	59	88
合 計	6	38	80	129	142	144	539	788

〔私立（保育園）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
粉河保育園	12	22	31	41	38	42	186	240
名手保育園	6	10	21	23	30	34	124	150
安楽川保育園	6	24	23	39	31	43	166	204
山の子共同保育園	3	2	2	2	5	3	17	20
つたのは保育園	2	7	6				15	20
合 計	29	65	83	105	104	122	508	634

〔私立（認定こども園）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
レイモンドこども園	9	18	17	23	21	20	108	115
愛の光幼稚園		3	9	17	19	14	62	72
あおば幼稚園			17	23	26	21	87	110
ながやまこども園	6	20	24	31	30	25	136	170
合 計	15	41	67	94	96	80	393	467

〔私立（小規模保育施設）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
未来保育園		6	6				12	18
ニチイキッズきのかわ保育園	8	8	6				22	19
合 計	8	14	12	0	0	0	34	37

〔私立（幼稚園）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
智徳幼稚園			3	21	22	14	60	95
合 計	0	0	3	21	22	14	60	95

保育施設合計	58	158	245	349	364	360	1,534	2,021

備考：1) 児童数には他市町村からの広域入所を含んでいません。

4) 放課後児童クラブ別児童数（令和7年3月1日現在）

（単位：人）

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計	参考(定員)
てのひら	23	20	13	8	3	5	72	75
太陽の子	38	26	15	2			81	90
粉河アットホームクラブ	23	17	10	6			56	70
チャレンジ児童クラブ	16	14	17	6	3	1	57	80
あらかわ放課後児童クラブ	18	16	10				44	60
ももやま放課後児童クラブ	3	4	3		2		12	25
こどもくらぶ	22	8	7	4	2		43	70
ほたるっこ	4	9	1	1			15	30
西貴志こどもくらぶ	14	20	7	1			42	60
丸栖っ子クラブ	6	3	4				13	25
合 計	167	137	87	28	10	6	435	585

9. 一般会計主要施策の成果

備考：1)「事務事業の概要」欄において、長期総合計画体系に該当しない場合は、政策目標から基本施策までを「99 ***」、取組方針を「9 その他」で表示しています。

備考：2)「指標の実績」欄の各指標において、事前に目標設定することになじまない事務事業は、目標値を設定していません。

備考：3)「コストの実績」欄は、地方財政状況調査（決算統計）における報告値としています。ただし、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金及びデジタル基盤改革支援補助金は、調査上、一般財源であるところ、それぞれ「国庫支出金」、「その他」と表示しています。

R6 年度決算額（単位：千円）は、節説明ごとに円単位の支出済額を千円単位に調整し集計しているため、決算書に記載の事務事業決算額と若干の差異が生じる場合があります。

[歳入] 市税等収納実績に関する科目

(単位：円)

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																
1－1－1 市民税 個人	税務課	2,284,000,000	2,316,252,477	◎個人市民税 現年課税分 <table><tr><th rowspan="2">令和6年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>個人均等割</td><td>88,580,300</td><td>87,857,199</td><td>99.2%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>個人所得割</td><td>2,244,354,615</td><td>2,228,395,278</td><td>99.3%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>2,332,934,915</td><td>2,316,252,477</td><td>99.3%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	個人均等割	88,580,300	87,857,199	99.2%	—	—	個人所得割	2,244,354,615	2,228,395,278	99.3%	—	—	合 計	2,332,934,915	2,316,252,477	99.3%	—	—						
	令和6年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																											
					額	件数																														
	個人均等割	88,580,300	87,857,199	99.2%	—	—																														
個人所得割	2,244,354,615	2,228,395,278	99.3%	—	—																															
合 計	2,332,934,915	2,316,252,477	99.3%	—	—																															
	収納対策課	14,500,000	16,580,680	<table><tr><th rowspan="2">令和5年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>個人均等割</td><td>102,347,700</td><td>101,286,824</td><td>99.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>個人所得割</td><td>2,451,082,160</td><td>2,427,560,480</td><td>99.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>2,553,429,860</td><td>2,528,847,304</td><td>99.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> ・対前年度8.4%の減、税額にして212,594,827円の減。	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	個人均等割	102,347,700	101,286,824	99.0%	—	—	個人所得割	2,451,082,160	2,427,560,480	99.0%	—	—	合 計	2,553,429,860	2,528,847,304	99.0%	—	—						
令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																
				額	件数																															
個人均等割	102,347,700	101,286,824	99.0%	—	—																															
個人所得割	2,451,082,160	2,427,560,480	99.0%	—	—																															
合 計	2,553,429,860	2,528,847,304	99.0%	—	—																															
				◎個人市民税 滞納繰越分 <table><tr><th rowspan="2">年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>52,369,184</td><td>16,580,680</td><td>31.7%</td><td>3,092,007</td><td>224件</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>45,547,722</td><td>15,291,272</td><td>33.6%</td><td>2,483,126</td><td>182件</td></tr></table> ・対前年度8.4%の増、税額にして1,289,408円の増。	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和6年度	52,369,184	16,580,680	31.7%	3,092,007	224件	令和5年度	45,547,722	15,291,272	33.6%	2,483,126	182件												
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																
				額	件数																															
令和6年度	52,369,184	16,580,680	31.7%	3,092,007	224件																															
令和5年度	45,547,722	15,291,272	33.6%	2,483,126	182件																															
1－1－2 市民税 法人	税務課	320,000,000	327,732,173	◎法人市民税 現年課税分 <table><tr><th rowspan="2">令和6年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>法人均等割</td><td>120,823,900</td><td>120,437,873</td><td>99.7%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>法人税割</td><td>207,381,200</td><td>207,294,300</td><td>99.9%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>328,205,100</td><td>327,732,173</td><td>99.9%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	法人均等割	120,823,900	120,437,873	99.7%	—	—	法人税割	207,381,200	207,294,300	99.9%	—	—	合 計	328,205,100	327,732,173	99.9%	—	—						
	令和6年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																											
					額	件数																														
	法人均等割	120,823,900	120,437,873	99.7%	—	—																														
法人税割	207,381,200	207,294,300	99.9%	—	—																															
合 計	328,205,100	327,732,173	99.9%	—	—																															
	収納対策課	700,000	308,800	<table><tr><th rowspan="2">令和5年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>法人均等割</td><td>119,889,200</td><td>119,739,200</td><td>99.9%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>法人税割</td><td>186,915,500</td><td>186,915,500</td><td>100.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>306,804,700</td><td>306,654,700</td><td>99.9%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> ・対前年度6.9%の増、税額にして21,077,473円の増。	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	法人均等割	119,889,200	119,739,200	99.9%	—	—	法人税割	186,915,500	186,915,500	100.0%	—	—	合 計	306,804,700	306,654,700	99.9%	—	—						
令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																
				額	件数																															
法人均等割	119,889,200	119,739,200	99.9%	—	—																															
法人税割	186,915,500	186,915,500	100.0%	—	—																															
合 計	306,804,700	306,654,700	99.9%	—	—																															
				◎法人市民税 滞納繰越分 <table><tr><th rowspan="2">年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>939,257</td><td>308,800</td><td>32.9%</td><td>251,839</td><td>6件</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>1,709,213</td><td>692,256</td><td>40.5%</td><td>227,700</td><td>4件</td></tr></table> ・対前年度55.4%の減、税額にして383,456円の減。	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和6年度	939,257	308,800	32.9%	251,839	6件	令和5年度	1,709,213	692,256	40.5%	227,700	4件												
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																
				額	件数																															
令和6年度	939,257	308,800	32.9%	251,839	6件																															
令和5年度	1,709,213	692,256	40.5%	227,700	4件																															
1－2－1 固定資産税	税務課	3,036,000,000	3,036,893,200	◎固定資産税 現年課税分 <table><tr><th rowspan="2">令和6年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>固定（土地）</td><td>830,298,438</td><td>820,504,407</td><td>98.8%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>固定（家屋）</td><td>1,410,149,606</td><td>1,395,915,752</td><td>99.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>固定（償却）</td><td>821,209,897</td><td>820,473,041</td><td>99.9%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>3,061,657,941</td><td>3,036,893,200</td><td>99.2%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	固定（土地）	830,298,438	820,504,407	98.8%	—	—	固定（家屋）	1,410,149,606	1,395,915,752	99.0%	—	—	固定（償却）	821,209,897	820,473,041	99.9%	—	—	合 計	3,061,657,941	3,036,893,200	99.2%	—	—
	令和6年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																											
					額	件数																														
	固定（土地）	830,298,438	820,504,407	98.8%	—	—																														
固定（家屋）	1,410,149,606	1,395,915,752	99.0%	—	—																															
固定（償却）	821,209,897	820,473,041	99.9%	—	—																															
合 計	3,061,657,941	3,036,893,200	99.2%	—	—																															
				<table><tr><th rowspan="2">令和5年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>固定（土地）</td><td>834,842,021</td><td>825,803,221</td><td>98.9%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>固定（家屋）</td><td>1,432,112,451</td><td>1,417,759,738</td><td>99.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>固定（償却）</td><td>817,351,100</td><td>817,168,131</td><td>100.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>3,084,305,572</td><td>3,060,731,090</td><td>99.2%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> ・対前年度0.8%の減、税額にして23,837,890円の減。	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	固定（土地）	834,842,021	825,803,221	98.9%	—	—	固定（家屋）	1,432,112,451	1,417,759,738	99.0%	—	—	固定（償却）	817,351,100	817,168,131	100.0%	—	—	合 計	3,084,305,572	3,060,731,090	99.2%	—	—
令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																
				額	件数																															
固定（土地）	834,842,021	825,803,221	98.9%	—	—																															
固定（家屋）	1,432,112,451	1,417,759,738	99.0%	—	—																															
固定（償却）	817,351,100	817,168,131	100.0%	—	—																															
合 計	3,084,305,572	3,060,731,090	99.2%	—	—																															

(単位：円)

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																				
1－2－2 国有資産等所在市町村交付金	収納対策課	21,400,000	17,582,993	◎固定資産税 滞納繰越分 <table><tr><th rowspan="2">年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>75,828,196</td><td>17,582,993</td><td>23.2%</td><td>10,528,000</td><td>973件</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>83,536,533</td><td>23,872,120</td><td>28.6%</td><td>7,430,091</td><td>609件</td></tr></table> ・対前年度26.3%の減、税額にして6,289,127円の減。	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和6年度	75,828,196	17,582,993	23.2%	10,528,000	973件	令和5年度	83,536,533	23,872,120	28.6%	7,430,091	609件																
	年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																															
					額	件数																																		
	令和6年度	75,828,196	17,582,993	23.2%	10,528,000	973件																																		
	令和5年度	83,536,533	23,872,120	28.6%	7,430,091	609件																																		
1－3－1 軽自動車税 環境性能割	税務課	5,657,000	5,657,800	◎国有資産等所在市町村交付金 <table><tr><th>年度</th><th>調定額</th><th>収入済額</th><th>収納率</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>5,657,800</td><td>5,657,800</td><td>100%</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>5,760,700</td><td>5,760,700</td><td>100%</td></tr></table>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和6年度	5,657,800	5,657,800	100%	令和5年度	5,760,700	5,760,700	100%																								
	年度	調定額	収入済額	収納率																																				
	令和6年度	5,657,800	5,657,800	100%																																				
	令和5年度	5,760,700	5,760,700	100%																																				
	1－3－2 軽自動車税 種別割	税務課	29,000,000	20,685,300	◎環境性能割 <table><tr><th>年度</th><th>調定額</th><th>収入済額</th><th>収納率</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>20,685,300</td><td>20,685,300</td><td>100%</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>17,443,900</td><td>17,443,900</td><td>100%</td></tr></table> ・対前年度18.6%の増、税額にして3,241,400円の増。	年度	調定額	収入済額	収納率	令和6年度	20,685,300	20,685,300	100%	令和5年度	17,443,900	17,443,900	100%																							
年度		調定額	収入済額	収納率																																				
令和6年度		20,685,300	20,685,300	100%																																				
令和5年度		17,443,900	17,443,900	100%																																				
1－3－2 軽自動車税 種別割		税務課	276,000,000	281,675,686	◎種別割 現年課税分 <table><tr><th rowspan="2">年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>284,791,600</td><td>281,675,686</td><td>98.9%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>279,752,300</td><td>276,559,028</td><td>98.9%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> ・対前年度1.9%の増、税額にして5,116,658円の増。	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和6年度	284,791,600	281,675,686	98.9%	—	—	令和5年度	279,752,300	276,559,028	98.9%	—	—															
	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																			
					額	件数																																		
	令和6年度	284,791,600	281,675,686	98.9%	—	—																																		
	令和5年度	279,752,300	276,559,028	98.9%	—	—																																		
1－4－1 たばこ税	収納対策課	3,200,000	2,494,295	◎種別割 滞納繰越分 <table><tr><th rowspan="2">年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>11,691,204</td><td>2,494,295</td><td>21.3%</td><td>1,701,362</td><td>306件</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>12,433,876</td><td>3,049,444</td><td>24.5%</td><td>689,700</td><td>130件</td></tr></table> ・対前年度18.2%の減、税額にして555,149円の減。	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和6年度	11,691,204	2,494,295	21.3%	1,701,362	306件	令和5年度	12,433,876	3,049,444	24.5%	689,700	130件																
	年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																															
					額	件数																																		
	令和6年度	11,691,204	2,494,295	21.3%	1,701,362	306件																																		
	令和5年度	12,433,876	3,049,444	24.5%	689,700	130件																																		
1－4－1 たばこ税	税務課	380,000,000	358,910,458	◎たばこ税 現年課税分 <table><tr><th>年度</th><th>種 別</th><th>本数（本）</th><th>収入済額</th><th>収納率</th></tr><tr><td rowspan="3">令和6年度</td><td>製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ</td><td>54,778,763</td><td>358,910,458</td><td>100%</td></tr><tr><td>手持品課税分</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>54,778,763</td><td>358,910,458</td><td>100%</td></tr></table> <table><tr><th>年度</th><th>種 別</th><th>本数（本）</th><th>収入済額</th><th>収納率</th></tr><tr><td rowspan="3">令和5年度</td><td>製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ</td><td>56,282,451</td><td>368,762,614</td><td>100%</td></tr><tr><td>手持品課税分</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>56,282,451</td><td>368,762,614</td><td>100%</td></tr></table> ・対前年度2.7%の減、税額にして9,852,156円の減。	年度	種 別	本数（本）	収入済額	収納率	令和6年度	製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ	54,778,763	358,910,458	100%	手持品課税分	—	—	—	合 計	54,778,763	358,910,458	100%	年度	種 別	本数（本）	収入済額	収納率	令和5年度	製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ	56,282,451	368,762,614	100%	手持品課税分	—	—	—	合 計	56,282,451	368,762,614	100%
	年度	種 別	本数（本）	収入済額	収納率																																			
	令和6年度	製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ	54,778,763	358,910,458	100%																																			
		手持品課税分	—	—	—																																			
		合 計	54,778,763	358,910,458	100%																																			
年度	種 別	本数（本）	収入済額	収納率																																				
令和5年度	製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ	56,282,451	368,762,614	100%																																				
	手持品課税分	—	—	—																																				
	合 計	56,282,451	368,762,614	100%																																				
1－5－1 入湯税	税務課	90,000	112,350	◎入湯税 現年課税分 <table><tr><th>年度</th><th>調定額</th><th>収入済額</th><th>収納率</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>112,350</td><td>112,350</td><td>100%</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>1,203,000</td><td>1,203,000</td><td>100%</td></tr></table> ・対前年度90.7%の減、税額にして1,090,650円の減。 ※入湯税は、観光振興等に要する経費に充てるために課される目的税です。 【入湯税の充当事業】 (単位：千円) <table><tr><th>充当事業</th><th>充当額</th></tr><tr><td>観光振興事業</td><td>112</td></tr></table>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和6年度	112,350	112,350	100%	令和5年度	1,203,000	1,203,000	100%	充当事業	充当額	観光振興事業	112																				
	年度	調定額	収入済額	収納率																																				
	令和6年度	112,350	112,350	100%																																				
	令和5年度	1,203,000	1,203,000	100%																																				
	充当事業	充当額																																						
観光振興事業	112																																							

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																																				
1－6－1 都市計画税	税務課	340,000,000	346,984,514	◎都市計画税 現年課税分 <table><tr><th rowspan="2">令和6年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>都計（土地）</td><td>145,413,667</td><td>143,618,921</td><td>98.8%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>都計（家屋）</td><td>205,360,992</td><td>203,365,593</td><td>99.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>350,774,659</td><td>346,984,514</td><td>98.9%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> <table><tr><th rowspan="2">令和5年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>都計（土地）</td><td>146,541,614</td><td>144,915,648</td><td>98.9%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>都計（家屋）</td><td>207,918,614</td><td>205,890,678</td><td>99.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>354,460,228</td><td>350,806,326</td><td>99.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> ・対前年度1.1％の減、税額にして3,821,812円の減。 ◎都市計画税 滞納繰越分 <table><tr><th rowspan="2">年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>11,306,083</td><td>2,719,879</td><td>24.1%</td><td>1,407,734</td><td>973件</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>12,327,959</td><td>3,644,532</td><td>29.6%</td><td>1,019,954</td><td>609件</td></tr></table> ・対前年度25.4％の減、税額にして924,653円の減。 ※都市計画税は、都市計画事業等に要する経費に充てるために課される目的税です。 【都市計画税の充当事業】（単位：千円） <table><tr><th>充当事業</th><th>充当額</th></tr><tr><td>街路費</td><td>0</td></tr><tr><td>公園費（運動公園管理運営事業など）</td><td>48,141</td></tr><tr><td>下水道費（公共下水道事業など）</td><td>230,231</td></tr><tr><td>区画整理費等（都市計画推進事業など）</td><td>14,080</td></tr><tr><td>公債費</td><td>57,253</td></tr></table>	令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	都計（土地）	145,413,667	143,618,921	98.8%	—	—	都計（家屋）	205,360,992	203,365,593	99.0%	—	—	合 計	350,774,659	346,984,514	98.9%	—	—	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	都計（土地）	146,541,614	144,915,648	98.9%	—	—	都計（家屋）	207,918,614	205,890,678	99.0%	—	—	合 計	354,460,228	350,806,326	99.0%	—	—	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和6年度	11,306,083	2,719,879	24.1%	1,407,734	973件	令和5年度	12,327,959	3,644,532	29.6%	1,019,954	609件	充当事業	充当額	街路費	0	公園費（運動公園管理運営事業など）	48,141	下水道費（公共下水道事業など）	230,231	区画整理費等（都市計画推進事業など）	14,080	公債費	57,253
令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																				
				額	件数																																																																																			
都計（土地）	145,413,667	143,618,921	98.8%	—	—																																																																																			
都計（家屋）	205,360,992	203,365,593	99.0%	—	—																																																																																			
合 計	350,774,659	346,984,514	98.9%	—	—																																																																																			
令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																				
				額	件数																																																																																			
都計（土地）	146,541,614	144,915,648	98.9%	—	—																																																																																			
都計（家屋）	207,918,614	205,890,678	99.0%	—	—																																																																																			
合 計	354,460,228	350,806,326	99.0%	—	—																																																																																			
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																				
				額	件数																																																																																			
令和6年度	11,306,083	2,719,879	24.1%	1,407,734	973件																																																																																			
令和5年度	12,327,959	3,644,532	29.6%	1,019,954	609件																																																																																			
充当事業	充当額																																																																																							
街路費	0																																																																																							
公園費（運動公園管理運営事業など）	48,141																																																																																							
下水道費（公共下水道事業など）	230,231																																																																																							
区画整理費等（都市計画推進事業など）	14,080																																																																																							
公債費	57,253																																																																																							
2－3－1 森林環境譲与税	財政課	30,731,000	30,731,000	◎森林環境譲与税 <table><tr><th>年度</th><th>調定額</th><th>収入済額</th><th>収納率</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>30,731,000</td><td>30,731,000</td><td>100%</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>23,524,000</td><td>23,524,000</td><td>100%</td></tr></table> ※森林環境譲与税は、森林整備及びその促進に要する経費に充てています。 【森林環境譲与税の充当事業】（単位：千円） <table><tr><th>充当事業</th><th>充当額</th></tr><tr><td>森林経営管理事業など</td><td>28,455</td></tr><tr><td>基金積立事業</td><td>2,276</td></tr></table>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和6年度	30,731,000	30,731,000	100%	令和5年度	23,524,000	23,524,000	100%	充当事業	充当額	森林経営管理事業など	28,455	基金積立事業	2,276																																																																		
年度	調定額	収入済額	収納率																																																																																					
令和6年度	30,731,000	30,731,000	100%																																																																																					
令和5年度	23,524,000	23,524,000	100%																																																																																					
充当事業	充当額																																																																																							
森林経営管理事業など	28,455																																																																																							
基金積立事業	2,276																																																																																							
7－1－1 地方消費税交付金	税務課	1,459,482,000	1,459,482,000	◎地方消費税交付金 <table><tr><th>年度</th><th>調定額</th><th>収入済額</th><th>収納率</th><th>収入済額のうち 社会保障財源化分</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>1,459,482,000</td><td>1,459,482,000</td><td>100%</td><td>829,611,000</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>1,371,750,000</td><td>1,371,750,000</td><td>100%</td><td>781,759,000</td></tr></table> ・対前年度6.4％の増、税額にして87,732,000円の増。 ※地方消費税交付金のうち、社会保障財源化分は、社会保障施策に要する経費に充てています。 【地方消費税交付金（社会保障財源化分）の充当事業】（単位：千円） <table><tr><th>充当事業</th><th>充当額</th></tr><tr><td>社会福祉（生活保護、児童福祉、障害者福祉事業など）</td><td>343,922</td></tr><tr><td>社会保険（国民健康保険、介護保険事業など）</td><td>330,531</td></tr><tr><td>保健衛生（疾病予防対策、健康増進対策事業など）</td><td>155,158</td></tr></table>	年度	調定額	収入済額	収納率	収入済額のうち 社会保障財源化分	令和6年度	1,459,482,000	1,459,482,000	100%	829,611,000	令和5年度	1,371,750,000	1,371,750,000	100%	781,759,000	充当事業	充当額	社会福祉（生活保護、児童福祉、障害者福祉事業など）	343,922	社会保険（国民健康保険、介護保険事業など）	330,531	保健衛生（疾病予防対策、健康増進対策事業など）	155,158																																																													
年度	調定額	収入済額	収納率	収入済額のうち 社会保障財源化分																																																																																				
令和6年度	1,459,482,000	1,459,482,000	100%	829,611,000																																																																																				
令和5年度	1,371,750,000	1,371,750,000	100%	781,759,000																																																																																				
充当事業	充当額																																																																																							
社会福祉（生活保護、児童福祉、障害者福祉事業など）	343,922																																																																																							
社会保険（国民健康保険、介護保険事業など）	330,531																																																																																							
保健衛生（疾病予防対策、健康増進対策事業など）	155,158																																																																																							
11－1－1 地方交付税	財政課	普通交付税 9,714,450,000	9,714,450,000	◎普通交付税 <table><tr><th>年度</th><th>調定額</th><th>収入済額</th><th>収納率</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>9,714,450,000</td><td>9,714,450,000</td><td>100%</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>9,388,705,000</td><td>9,388,705,000</td><td>100%</td></tr></table>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和6年度	9,714,450,000	9,714,450,000	100%	令和5年度	9,388,705,000	9,388,705,000	100%																																																																								
年度	調定額	収入済額	収納率																																																																																					
令和6年度	9,714,450,000	9,714,450,000	100%																																																																																					
令和5年度	9,388,705,000	9,388,705,000	100%																																																																																					

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																
1 3 - 2 - 2 民生費負担金	保育課			・ 対前年度3.5%の増、金額にして325,745,000円の増。																																
				【普通交付税の算定】 (単位：千円)																																
				<table><tr><th>区分</th><th>令和6年度</th><th>令和5年度</th></tr><tr><td>基準財政需要額 ①</td><td>16,559,340</td><td>16,156,674</td></tr><tr><td>基準財政収入額 ②</td><td>6,844,890</td><td>6,767,969</td></tr><tr><td>交付基準額 ③ (①-②)</td><td>9,714,450</td><td>9,388,705</td></tr><tr><td>調整額 ④</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>普通交付税決定額 ⑤ (③-④)</td><td>9,714,450</td><td>9,388,705</td></tr><tr><td>臨時財政対策債発行可能額 ⑥</td><td>48,338</td><td>98,348</td></tr><tr><td>実質交付税額 ⑤+⑥</td><td>9,762,788</td><td>9,487,053</td></tr></table>	区分	令和6年度	令和5年度	基準財政需要額 ①	16,559,340	16,156,674	基準財政収入額 ②	6,844,890	6,767,969	交付基準額 ③ (①-②)	9,714,450	9,388,705	調整額 ④	0	0	普通交付税決定額 ⑤ (③-④)	9,714,450	9,388,705	臨時財政対策債発行可能額 ⑥	48,338	98,348	実質交付税額 ⑤+⑥	9,762,788	9,487,053								
		区分	令和6年度	令和5年度																																
		基準財政需要額 ①	16,559,340	16,156,674																																
		基準財政収入額 ②	6,844,890	6,767,969																																
		交付基準額 ③ (①-②)	9,714,450	9,388,705																																
		調整額 ④	0	0																																
		普通交付税決定額 ⑤ (③-④)	9,714,450	9,388,705																																
		臨時財政対策債発行可能額 ⑥	48,338	98,348																																
実質交付税額 ⑤+⑥	9,762,788	9,487,053																																		
放課後児童クラブ負担金（現年分） 44,029,000	38,362,000	◎放課後児童クラブ負担金 現年度分																																		
		<table><tr><th rowspan="2">年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>38,420,000</td><td>38,362,000</td><td>99.8%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>39,346,000</td><td>39,202,000</td><td>99.6%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和6年度	38,420,000	38,362,000	99.8%	—	—	令和5年度	39,346,000	39,202,000	99.6%	—	—														
年度	調定額	収入済額					収納率	不納欠損																												
			額	件数																																
令和6年度	38,420,000	38,362,000	99.8%	—	—																															
令和5年度	39,346,000	39,202,000	99.6%	—	—																															
放課後児童クラブ負担金（過年分） 200,000	144,000	◎放課後児童クラブ負担金 滞納繰越分																																		
		<table><tr><th rowspan="2">年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>144,000</td><td>144,000</td><td>100.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>249,000</td><td>225,000</td><td>90.4%</td><td>24,000</td><td>3件</td></tr></table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和6年度	144,000	144,000	100.0%	—	—	令和5年度	249,000	225,000	90.4%	24,000	3件														
年度	調定額	収入済額					収納率	不納欠損																												
			額	件数																																
令和6年度	144,000	144,000	100.0%	—	—																															
令和5年度	249,000	225,000	90.4%	24,000	3件																															
保育所保育料（現年分） 45,116,000	52,523,750	◎保育料 現年度分																																		
		<table><tr><th rowspan="2">年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>52,516,550</td><td>52,423,750</td><td>99.8%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>46,477,450</td><td>46,368,840</td><td>99.8%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和6年度	52,516,550	52,423,750	99.8%	—	—	令和5年度	46,477,450	46,368,840	99.8%	—	—														
年度	調定額	収入済額					収納率	不納欠損																												
			額	件数																																
令和6年度	52,516,550	52,423,750	99.8%	—	—																															
令和5年度	46,477,450	46,368,840	99.8%	—	—																															
保育所保育料（過年分） 579,000	398,610	◎保育料 滞納繰越分																																		
		<table><tr><th rowspan="2">年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>404,920</td><td>398,610</td><td>98.4%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>1,735,220</td><td>1,438,910</td><td>82.9%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和6年度	404,920	398,610	98.4%	—	—	令和5年度	1,735,220	1,438,910	82.9%	—	—														
年度	調定額	収入済額					収納率	不納欠損																												
			額	件数																																
令和6年度	404,920	398,610	98.4%	—	—																															
令和5年度	1,735,220	1,438,910	82.9%	—	—																															
延長保育料（現年分） 342,000	547,990	◎延長保育料 現年度分																																		
		<table><tr><th rowspan="2">年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>578,400</td><td>547,990</td><td>94.7%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>352,700</td><td>344,200</td><td>97.6%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和6年度	578,400	547,990	94.7%	—	—	令和5年度	352,700	344,200	97.6%	—	—														
年度	調定額	収入済額					収納率	不納欠損																												
			額	件数																																
令和6年度	578,400	547,990	94.7%	—	—																															
令和5年度	352,700	344,200	97.6%	—	—																															
延長保育料（過年分） 4,000	8,500	◎延長保育料 滞納繰越分																																		
		<table><tr><th rowspan="2">年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>8,500</td><td>8,500</td><td>100.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>4,200</td><td>4,200</td><td>100.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和6年度	8,500	8,500	100.0%	—	—	令和5年度	4,200	4,200	100.0%	—	—														
年度	調定額	収入済額					収納率	不納欠損																												
			額	件数																																
令和6年度	8,500	8,500	100.0%	—	—																															
令和5年度	4,200	4,200	100.0%	—	—																															
1 4 - 1 - 6 土木使用料	住宅政策課	30,320,000	29,970,800	◎住宅使用料 現年度分																																
				<table><tr><th rowspan="2">令和6年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>駐車場使用料</td><td>1,688,000</td><td>1,610,000</td><td>95.4%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>市営住宅使用料</td><td>4,223,400</td><td>3,397,000</td><td>80.4%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>改良住宅使用料</td><td>25,490,200</td><td>24,132,000</td><td>94.7%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>31,401,600</td><td>29,139,000</td><td>92.8%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	駐車場使用料	1,688,000	1,610,000	95.4%	—	—	市営住宅使用料	4,223,400	3,397,000	80.4%	—	—	改良住宅使用料	25,490,200	24,132,000	94.7%	—	—	合 計	31,401,600	29,139,000	92.8%	—	—
		令和6年度	調定額	収入済額					収納率	不納欠損																										
					額	件数																														
		駐車場使用料	1,688,000	1,610,000	95.4%	—	—																													
		市営住宅使用料	4,223,400	3,397,000	80.4%	—	—																													
		改良住宅使用料	25,490,200	24,132,000	94.7%	—	—																													
		合 計	31,401,600	29,139,000	92.8%	—	—																													
				<table><tr><th rowspan="2">令和5年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>駐車場使用料</td><td>1,718,000</td><td>1,614,000</td><td>93.9%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>市営住宅使用料</td><td>4,372,300</td><td>3,498,700</td><td>80.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>改良住宅使用料</td><td>25,001,400</td><td>23,428,000</td><td>93.7%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>31,091,700</td><td>28,540,700</td><td>91.8%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	駐車場使用料	1,718,000	1,614,000	93.9%	—	—	市営住宅使用料	4,372,300	3,498,700	80.0%	—	—	改良住宅使用料	25,001,400	23,428,000	93.7%	—	—	合 計	31,091,700	28,540,700	91.8%	—	—
		令和5年度	調定額	収入済額					収納率	不納欠損																										
額	件数																																			
駐車場使用料	1,718,000	1,614,000	93.9%	—	—																															
市営住宅使用料	4,372,300	3,498,700	80.0%	—	—																															
改良住宅使用料	25,001,400	23,428,000	93.7%	—	—																															
合 計	31,091,700	28,540,700	91.8%	—	—																															

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																
1 5 - 2 - 1 総務費国庫補助金	企画経営課	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 861,837,000	748,739,059	◎住宅使用料 滞納繰越分 <table><tr><th rowspan="2">令和6年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>駐車場使用料</td><td>707,220</td><td>119,500</td><td>16.9%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>市営住宅使用料</td><td>11,657,584</td><td>242,200</td><td>2.1%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>改良住宅使用料</td><td>24,972,147</td><td>470,100</td><td>1.9%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>37,336,951</td><td>831,800</td><td>2.2%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> <table><tr><th rowspan="2">令和5年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>駐車場使用料</td><td>632,200</td><td>28,980</td><td>4.6%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>市営住宅使用料</td><td>10,957,204</td><td>173,220</td><td>1.6%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>改良住宅使用料</td><td>24,638,647</td><td>1,239,900</td><td>5.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>36,228,051</td><td>1,442,100</td><td>4.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	駐車場使用料	707,220	119,500	16.9%	—	—	市営住宅使用料	11,657,584	242,200	2.1%	—	—	改良住宅使用料	24,972,147	470,100	1.9%	—	—	合 計	37,336,951	831,800	2.2%	—	—	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	駐車場使用料	632,200	28,980	4.6%	—	—	市営住宅使用料	10,957,204	173,220	1.6%	—	—	改良住宅使用料	24,638,647	1,239,900	5.0%	—	—	合 計	36,228,051	1,442,100	4.0%	—	—
				令和6年度					調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																								
額	件数																																																																			
駐車場使用料	707,220	119,500	16.9%	—	—																																																															
市営住宅使用料	11,657,584	242,200	2.1%	—	—																																																															
改良住宅使用料	24,972,147	470,100	1.9%	—	—																																																															
合 計	37,336,951	831,800	2.2%	—	—																																																															
令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																
				額	件数																																																															
駐車場使用料	632,200	28,980	4.6%	—	—																																																															
市営住宅使用料	10,957,204	173,220	1.6%	—	—																																																															
改良住宅使用料	24,638,647	1,239,900	5.0%	—	—																																																															
合 計	36,228,051	1,442,100	4.0%	—	—																																																															
1 7 - 2 - 1 不動産売払収入	公共施設マネジメント課	土地建物売払収入 42,700,000	40,035,475	◎土地建物売払収入 <table><tr><th>年度</th><th>調定額</th><th>収入済額</th><th>収納率</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>40,035,475</td><td>40,035,475</td><td>100%</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>32,677,525</td><td>32,677,525</td><td>100%</td></tr></table> 【土地建物売払の内訳】 <table><tr><th>区分</th><th>所在地番（施設名称等）</th><th>面積（㎡）</th><th>収入済額</th></tr><tr><td>土地</td><td>紀の川市貴志川町長山1652番、1727番 地先（法定外公共物（里道））</td><td>133.53</td><td>595,677</td></tr><tr><td>土地</td><td>紀の川市上田井87番2、88番3（法定外公共物（水路））</td><td>97.46</td><td>53,080</td></tr><tr><td>土地</td><td>紀の川市打田934番1、935番 地先（法定外公共物（里道））</td><td>92.83</td><td>93,572</td></tr><tr><td>土地</td><td>紀の川市神通195番1 地先（法定外公共物（里道））</td><td>3,036.16</td><td>118,410</td></tr><tr><td>土地</td><td>紀の川市粉河514番6 地先（法定外公共物（里道））</td><td>17.37</td><td>193,675</td></tr><tr><td>土地</td><td>紀の川市名手市場1227番3 地先（法定外公共物（水路））</td><td>19.86</td><td>112,606</td></tr><tr><td>土地</td><td>紀の川市中井阪110番 地先（法定外公共物（水路））</td><td>30.17</td><td>1,117</td></tr><tr><td>土地</td><td>紀の川市貴志川町岸小野185番1 地先（法定外公共物（水路））</td><td>66.52</td><td>17,853</td></tr></table>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和6年度	40,035,475	40,035,475	100%	令和5年度	32,677,525	32,677,525	100%	区分	所在地番（施設名称等）	面積（㎡）	収入済額	土地	紀の川市貴志川町長山1652番、1727番 地先（法定外公共物（里道））	133.53	595,677	土地	紀の川市上田井87番2、88番3（法定外公共物（水路））	97.46	53,080	土地	紀の川市打田934番1、935番 地先（法定外公共物（里道））	92.83	93,572	土地	紀の川市神通195番1 地先（法定外公共物（里道））	3,036.16	118,410	土地	紀の川市粉河514番6 地先（法定外公共物（里道））	17.37	193,675	土地	紀の川市名手市場1227番3 地先（法定外公共物（水路））	19.86	112,606	土地	紀の川市中井阪110番 地先（法定外公共物（水路））	30.17	1,117	土地	紀の川市貴志川町岸小野185番1 地先（法定外公共物（水路））	66.52	17,853																
年度	調定額	収入済額	収納率																																																																	
令和6年度	40,035,475	40,035,475	100%																																																																	
令和5年度	32,677,525	32,677,525	100%																																																																	
区分	所在地番（施設名称等）	面積（㎡）	収入済額																																																																	
土地	紀の川市貴志川町長山1652番、1727番 地先（法定外公共物（里道））	133.53	595,677																																																																	
土地	紀の川市上田井87番2、88番3（法定外公共物（水路））	97.46	53,080																																																																	
土地	紀の川市打田934番1、935番 地先（法定外公共物（里道））	92.83	93,572																																																																	
土地	紀の川市神通195番1 地先（法定外公共物（里道））	3,036.16	118,410																																																																	
土地	紀の川市粉河514番6 地先（法定外公共物（里道））	17.37	193,675																																																																	
土地	紀の川市名手市場1227番3 地先（法定外公共物（水路））	19.86	112,606																																																																	
土地	紀の川市中井阪110番 地先（法定外公共物（水路））	30.17	1,117																																																																	
土地	紀の川市貴志川町岸小野185番1 地先（法定外公共物（水路））	66.52	17,853																																																																	

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																																																																																																
1 7 - 2 - 2 物品売払収入	那賀支所 契約管財課 危機管理消防課 廃棄物対策課	4,000	4,748,420	<table><tr><td>土地</td><td>紀の川市打田1415番9の一部 (普通財産(雑種地))</td><td>40.81</td><td>257,429</td></tr><tr><td>土地</td><td>紀の川市桃山町元57番5 (普通財産(宅地))</td><td>70.79</td><td>302,414</td></tr><tr><td>土地</td><td>紀の川市西脇199番4 (普通財産(雑種地))</td><td>223.00</td><td>279,642</td></tr><tr><td>土地</td><td>紀の川市桃山町調月2822番1 (普通財産(宅地))</td><td>1,243.06</td><td rowspan="2">35,010,000</td></tr><tr><td>建物</td><td>紀の川市桃山町調月2822番1 (普通財産(倉庫))</td><td>481.53</td></tr><tr><td>土地</td><td>紀の川市貴志川町岸小野207番他(あおば幼稚園用地、分割納付49回中29回目)</td><td>3,310.98</td><td>3,000,000</td></tr></table> 面積(㎡)は、土地の地積、建物の総面積です。	土地	紀の川市打田1415番9の一部 (普通財産(雑種地))	40.81	257,429	土地	紀の川市桃山町元57番5 (普通財産(宅地))	70.79	302,414	土地	紀の川市西脇199番4 (普通財産(雑種地))	223.00	279,642	土地	紀の川市桃山町調月2822番1 (普通財産(宅地))	1,243.06	35,010,000	建物	紀の川市桃山町調月2822番1 (普通財産(倉庫))	481.53	土地	紀の川市貴志川町岸小野207番他(あおば幼稚園用地、分割納付49回中29回目)	3,310.98	3,000,000																																																																																																																									
				土地	紀の川市打田1415番9の一部 (普通財産(雑種地))	40.81	257,429																																																																																																																																													
土地	紀の川市桃山町元57番5 (普通財産(宅地))	70.79	302,414																																																																																																																																																	
土地	紀の川市西脇199番4 (普通財産(雑種地))	223.00	279,642																																																																																																																																																	
土地	紀の川市桃山町調月2822番1 (普通財産(宅地))	1,243.06	35,010,000																																																																																																																																																	
建物	紀の川市桃山町調月2822番1 (普通財産(倉庫))	481.53																																																																																																																																																		
土地	紀の川市貴志川町岸小野207番他(あおば幼稚園用地、分割納付49回中29回目)	3,310.98	3,000,000																																																																																																																																																	
1 8 - 1 - 1 一般寄附金	地域創生課	ふるさとまちづくり寄附金 1,402,000,000	1,356,149,800	◎物品売払収入 <table><tr><td>年度</td><td>調定額</td><td>収入済額</td><td>収納率</td></tr><tr><td>令和6年度</td><td>4,748,420</td><td>4,748,420</td><td>100%</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>1,410,400</td><td>1,410,400</td><td>100%</td></tr></table> 【物品売払の内訳】 <table><tr><td>区分</td><td>数量</td><td>収入済額</td></tr><tr><td>乗用車</td><td>1</td><td>193,000</td></tr><tr><td>貨物自動車</td><td>2</td><td>151,000</td></tr><tr><td>消防自動車</td><td>8</td><td>1,358,500</td></tr><tr><td>清掃運搬車</td><td>2</td><td>2,035,000</td></tr><tr><td>し尿運搬車</td><td>1</td><td>998,820</td></tr><tr><td>バイク</td><td>1</td><td>12,100</td></tr></table> ◎ふるさと納税寄附金 <table><tr><td>年度</td><td>収入済額</td><td>件数</td></tr><tr><td>令和6年度</td><td>1,353,449,800</td><td>94,117件</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>1,906,609,160</td><td>160,771件</td></tr></table> ◎企業版ふるさと納税寄附金 <table><tr><td>年度</td><td>収入済額</td><td>件数</td></tr><tr><td>令和6年度</td><td>2,700,000</td><td>5件</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>2,550,000</td><td>5件</td></tr></table> 【ふるさと納税寄附金の地域別件数】 <table><tr><td>地域</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>北海道</td><td>2,684件</td><td>4,474件</td></tr><tr><td>東北</td><td>1,620件</td><td>3,098件</td></tr><tr><td>関東</td><td>42,070件</td><td>74,138件</td></tr><tr><td>中部</td><td>12,375件</td><td>22,297件</td></tr><tr><td>近畿</td><td>24,509件</td><td>38,072件</td></tr><tr><td>中国・四国</td><td>4,198件</td><td>6,988件</td></tr><tr><td>九州・沖縄</td><td>6,661件</td><td>11,704件</td></tr></table> 【ふるさと納税寄附金の返礼品別寄附実績】 <table><tr><td rowspan="2">返礼品</td><td colspan="2">令和6年度</td><td colspan="2">令和5年度</td></tr><tr><td>件数</td><td>寄附額</td><td>件数</td><td>寄附額</td></tr><tr><td>果物</td><td>94.7%</td><td>95.2%</td><td>94.7%</td><td>94.8%</td></tr><tr><td> 桃</td><td>79.9%</td><td>83.2%</td><td>78.5%</td><td>82.7%</td></tr><tr><td> 柿</td><td>2.9%</td><td>2.3%</td><td>2.7%</td><td>1.9%</td></tr><tr><td> 八朔</td><td>2.1%</td><td>1.5%</td><td>2.1%</td><td>1.5%</td></tr><tr><td> いちご</td><td>0.8%</td><td>0.7%</td><td>1.4%</td><td>0.9%</td></tr><tr><td> いちじく</td><td>2.4%</td><td>2.0%</td><td>1.6%</td><td>1.4%</td></tr><tr><td> キウイ</td><td>1.1%</td><td>0.9%</td><td>1.4%</td><td>1.1%</td></tr><tr><td> その他</td><td>5.5%</td><td>4.6%</td><td>7.0%</td><td>5.3%</td></tr><tr><td>飲料類</td><td>1.0%</td><td>0.9%</td><td>2.3%</td><td>1.8%</td></tr><tr><td>加工品</td><td>1.9%</td><td>1.5%</td><td>1.1%</td><td>1.5%</td></tr><tr><td>肉類</td><td>0.1%</td><td>0.2%</td><td>0.2%</td><td>0.2%</td></tr><tr><td>その他</td><td>2.3%</td><td>2.2%</td><td>1.7%</td><td>1.7%</td></tr></table>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和6年度	4,748,420	4,748,420	100%	令和5年度	1,410,400	1,410,400	100%	区分	数量	収入済額	乗用車	1	193,000	貨物自動車	2	151,000	消防自動車	8	1,358,500	清掃運搬車	2	2,035,000	し尿運搬車	1	998,820	バイク	1	12,100	年度	収入済額	件数	令和6年度	1,353,449,800	94,117件	令和5年度	1,906,609,160	160,771件	年度	収入済額	件数	令和6年度	2,700,000	5件	令和5年度	2,550,000	5件	地域	令和6年度	令和5年度	北海道	2,684件	4,474件	東北	1,620件	3,098件	関東	42,070件	74,138件	中部	12,375件	22,297件	近畿	24,509件	38,072件	中国・四国	4,198件	6,988件	九州・沖縄	6,661件	11,704件	返礼品	令和6年度		令和5年度		件数	寄附額	件数	寄附額	果物	94.7%	95.2%	94.7%	94.8%	桃	79.9%	83.2%	78.5%	82.7%	柿	2.9%	2.3%	2.7%	1.9%	八朔	2.1%	1.5%	2.1%	1.5%	いちご	0.8%	0.7%	1.4%	0.9%	いちじく	2.4%	2.0%	1.6%	1.4%	キウイ	1.1%	0.9%	1.4%	1.1%	その他	5.5%	4.6%	7.0%	5.3%	飲料類	1.0%	0.9%	2.3%	1.8%	加工品	1.9%	1.5%	1.1%	1.5%	肉類	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	その他	2.3%	2.2%	1.7%	1.7%
				年度	調定額	収入済額	収納率																																																																																																																																													
令和6年度	4,748,420	4,748,420	100%																																																																																																																																																	
令和5年度	1,410,400	1,410,400	100%																																																																																																																																																	
区分	数量	収入済額																																																																																																																																																		
乗用車	1	193,000																																																																																																																																																		
貨物自動車	2	151,000																																																																																																																																																		
消防自動車	8	1,358,500																																																																																																																																																		
清掃運搬車	2	2,035,000																																																																																																																																																		
し尿運搬車	1	998,820																																																																																																																																																		
バイク	1	12,100																																																																																																																																																		
年度	収入済額	件数																																																																																																																																																		
令和6年度	1,353,449,800	94,117件																																																																																																																																																		
令和5年度	1,906,609,160	160,771件																																																																																																																																																		
年度	収入済額	件数																																																																																																																																																		
令和6年度	2,700,000	5件																																																																																																																																																		
令和5年度	2,550,000	5件																																																																																																																																																		
地域	令和6年度	令和5年度																																																																																																																																																		
北海道	2,684件	4,474件																																																																																																																																																		
東北	1,620件	3,098件																																																																																																																																																		
関東	42,070件	74,138件																																																																																																																																																		
中部	12,375件	22,297件																																																																																																																																																		
近畿	24,509件	38,072件																																																																																																																																																		
中国・四国	4,198件	6,988件																																																																																																																																																		
九州・沖縄	6,661件	11,704件																																																																																																																																																		
返礼品	令和6年度		令和5年度																																																																																																																																																	
	件数	寄附額	件数	寄附額																																																																																																																																																
果物	94.7%	95.2%	94.7%	94.8%																																																																																																																																																
桃	79.9%	83.2%	78.5%	82.7%																																																																																																																																																
柿	2.9%	2.3%	2.7%	1.9%																																																																																																																																																
八朔	2.1%	1.5%	2.1%	1.5%																																																																																																																																																
いちご	0.8%	0.7%	1.4%	0.9%																																																																																																																																																
いちじく	2.4%	2.0%	1.6%	1.4%																																																																																																																																																
キウイ	1.1%	0.9%	1.4%	1.1%																																																																																																																																																
その他	5.5%	4.6%	7.0%	5.3%																																																																																																																																																
飲料類	1.0%	0.9%	2.3%	1.8%																																																																																																																																																
加工品	1.9%	1.5%	1.1%	1.5%																																																																																																																																																
肉類	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%																																																																																																																																																
その他	2.3%	2.2%	1.7%	1.7%																																																																																																																																																

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																												
2 1 - 3 - 1 土木費貸付金元利収入	住宅政策課	3, 000	0	◎貸付金元利収入 現年度分 <table><tr><th rowspan="2">令和6年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>住宅新築資金(国)</td><td>111, 890</td><td>0</td><td>0. 0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>住宅新築資金(県)</td><td>47, 556</td><td>0</td><td>0. 0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>宅地取得資金(国)</td><td>57, 160</td><td>0</td><td>0. 0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>住宅改修資金(国)</td><td>75, 959</td><td>0</td><td>0. 0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>292, 565</td><td>0</td><td>0. 0%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	住宅新築資金(国)	111, 890	0	0. 0%	—	—	住宅新築資金(県)	47, 556	0	0. 0%	—	—	宅地取得資金(国)	57, 160	0	0. 0%	—	—	住宅改修資金(国)	75, 959	0	0. 0%	—	—	合 計	292, 565	0	0. 0%	—	—						
令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																												
				額	件数																																											
住宅新築資金(国)	111, 890	0	0. 0%	—	—																																											
住宅新築資金(県)	47, 556	0	0. 0%	—	—																																											
宅地取得資金(国)	57, 160	0	0. 0%	—	—																																											
住宅改修資金(国)	75, 959	0	0. 0%	—	—																																											
合 計	292, 565	0	0. 0%	—	—																																											
		5, 345, 000	7, 204, 583	◎貸付金元利収入 滞納繰越分 <table><tr><th rowspan="2">令和6年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>住宅新築資金(国)</td><td>118, 284, 281</td><td>3, 938, 148</td><td>3. 3%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>住宅新築資金(県)</td><td>17, 302, 582</td><td>66, 000</td><td>0. 4%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>宅地取得資金(国)</td><td>64, 287, 018</td><td>3, 180, 435</td><td>4. 9%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>宅地取得資金(県)</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>住宅改修資金(国)</td><td>12, 552, 217</td><td>20, 000</td><td>0. 2%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>212, 426, 098</td><td>7, 204, 583</td><td>3. 4%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	住宅新築資金(国)	118, 284, 281	3, 938, 148	3. 3%	—	—	住宅新築資金(県)	17, 302, 582	66, 000	0. 4%	—	—	宅地取得資金(国)	64, 287, 018	3, 180, 435	4. 9%	—	—	宅地取得資金(県)	0	0	—	—	—	住宅改修資金(国)	12, 552, 217	20, 000	0. 2%	—	—	合 計	212, 426, 098	7, 204, 583	3. 4%	—	—
令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																												
				額	件数																																											
住宅新築資金(国)	118, 284, 281	3, 938, 148	3. 3%	—	—																																											
住宅新築資金(県)	17, 302, 582	66, 000	0. 4%	—	—																																											
宅地取得資金(国)	64, 287, 018	3, 180, 435	4. 9%	—	—																																											
宅地取得資金(県)	0	0	—	—	—																																											
住宅改修資金(国)	12, 552, 217	20, 000	0. 2%	—	—																																											
合 計	212, 426, 098	7, 204, 583	3. 4%	—	—																																											
				<table><tr><th rowspan="2">令和5年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>住宅新築資金(国)</td><td>121, 651, 961</td><td>3, 591, 504</td><td>3. 0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>住宅新築資金(県)</td><td>17, 327, 530</td><td>120, 000</td><td>0. 7%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>宅地取得資金(国)</td><td>66, 281, 446</td><td>2, 115, 028</td><td>3. 2%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>宅地取得資金(県)</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>住宅改修資金(国)</td><td>12, 414, 493</td><td>24, 000</td><td>0. 2%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>217, 675, 430</td><td>5, 850, 532</td><td>2. 7%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	住宅新築資金(国)	121, 651, 961	3, 591, 504	3. 0%	—	—	住宅新築資金(県)	17, 327, 530	120, 000	0. 7%	—	—	宅地取得資金(国)	66, 281, 446	2, 115, 028	3. 2%	—	—	宅地取得資金(県)	0	0	—	—	—	住宅改修資金(国)	12, 414, 493	24, 000	0. 2%	—	—	合 計	217, 675, 430	5, 850, 532	2. 7%	—	—
令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																												
				額	件数																																											
住宅新築資金(国)	121, 651, 961	3, 591, 504	3. 0%	—	—																																											
住宅新築資金(県)	17, 327, 530	120, 000	0. 7%	—	—																																											
宅地取得資金(国)	66, 281, 446	2, 115, 028	3. 2%	—	—																																											
宅地取得資金(県)	0	0	—	—	—																																											
住宅改修資金(国)	12, 414, 493	24, 000	0. 2%	—	—																																											
合 計	217, 675, 430	5, 850, 532	2. 7%	—	—																																											

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名				議会秘書事業				担当課		議事調査課		事業区分		内部管理事業							
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		433			
	会計				一般会計								政策目標		99		*****					
	予算科目	款	1	議 会 費										施策目標		99		*****				
		項	1	議 会 費										基本施策		99		*****				
		目	1	議 会 費										取組方針		9		その他				
	事業概要				議員が円滑に議会活動が行えるように、日程の調整、随行、関連団体への参画を支援する事業。																	
	事務事業を構成する細事業	① 秘書業務				⑤ 全国高速自動車道市議会協議会負担金				⑨												
		② 全国市議会議長会負担金				⑥								⑩								
		③ 近畿市議会議長会負担金				⑦								⑪								
④ 県市議会議長会負担金				⑧								⑫										
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析							
	活動指標	議会交際費支出件数	件	目標											市議会を代表して行う表敬や外部との渉外、慶弔などに要する必要経費であり、目標値の設定になじまない。 合理的かつ必要最小限の支出にとどめるよう努めている。							
				実績	5		14		9													
				<指標の計算方法> 交際費の支出件数																		
	成果指標	議会公務等件数	件	目標											目標値の設定になじまないため、議長等が公務等に出席した件数を実績値とする。							
				実績	80		145		152													
				<指標の計算方法> 議長等が公務等に出席した件数																		
				目標																		
				実績																		
				<指標の計算方法>																		
			目標																			
			実績																			
			<指標の計算方法>																			
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																	
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源							
	2,648														2,648							
事業の実績	① 秘書業務				⑤ 全国高速自動車道市議会協議会負担金																	
	・慶弔 0件				・定期総会 1回(欠席)																	
	・賛助、協賛 0件																					
	・会費 4件																					
	・接遇、土産 2件																					
	・その他 3件																					
	② 全国市議会議長会負担金																					
	・定期総会 1回																					
	・評議員会 2回																					
	・研究フォーラム 1回(欠席)																					
	③ 近畿市議会議長会負担金																					
	・定期総会 1回																					
	・理事会 3回																					
	・研修会 4回																					
	④ 県市議会議長会負担金																					
	・総会 2回																					
	・研修会 3回																					
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																		
		・議会を代表して行う議員の公務日程の調整、また、公的活動のための調査研究・情報収集などを通して側面から支える議会秘書事業は、市議会が円滑に機能するための事業であり、その実施は妥当である。 ・議会交際費は、市議会が対外的な活動をするために要する必要経費であり、性質上、目標値の設定になじまない。																				
	有効性	評価結果		改善の余地がない																		
		・議会を代表して行う議員の公務日程の調整や渉外、また、公的活動のための情報収集・資料作成などの事務を通して議員の円滑な公務を支えており、有効性は高い。 ・議員の議会活動を補佐する議会秘書事業は、性質上、目標値の設定になじまない。																				
効率性	評価結果		改善の余地がない																			
	・議会を代表して行う議員の公務日程の調整、また、公的活動のための調査研究・情報収集などの支援を通して支える専門的な事業であり、効率性の面で改善の余地はない。																					

事務事業の概要	事務事業名			議会運営事業				担当課		議事調査課		事業区分		内部管理事業					
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		437	
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標		99		*****					
	予算科目	款項目	1 議会費		1 議会費		施策目標			99		*****							
			1 議会費		1 議会費		基本施策			99		*****							
事業概要			市議会の適正な運営と市民にわかりやすく開かれた議会づくりに取り組むとともに、定例会、委員会等の開催や議会広報紙の発行を行う事業																
事務事業を構成する細事業				① 議員報酬・共済				⑤ 議事調査業務				⑨							
				② 本会議運営				⑥				⑩							
				③ 委員会等運営				⑦				⑪							
				④ 議会広報・HP編集業務				⑧				⑫							

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	本会議・委員会等開催回数	回	目標	120	120	120	120	120	定例会議のほか、案件の発生により開催される会議もあるため、開催回数は年度ごとに差異がある。目標どおりである。	
				実績	115	148	125				
				<指標の計算方法> 定例会、臨時会、議会運営委員会、常任委員会、特別委員会、研修会、その他会議							
	成果指標	委員会・議員提出議案件数	件	目標	3	3	3	3	3	議員又は委員会が提出する議案の立案補助や、情報の調査収集等の支援業務を遂行できた。	
				実績	1	1	2				
				<指標の計算方法> 委員会提出議案、議員提出議案							
活動指標	議会広報紙配布部数	部	目標	104, 200	104, 400	105, 600	105, 600	105, 600	議会広報特別委員会主体による編集のもと、編集補助や連絡調整等を行い滞りなく発行できた。目標どおりである。		
			実績	104, 400	105, 600	105, 600					
			<指標の計算方法> 年4回発行、1回につき26, 400部印刷								
成果指標	傍聴者数	人	目標	50	50	50	50	50	目標どおりである。		
			実績	71	166	64					
			<指標の計算方法> 定例会、各種委員会傍聴者数（議員の傍聴は除く。）								

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	165, 175							165, 175

事業の実績	①議員報酬・共済 ・毎月の報酬 議長 480, 000円 副議長 440, 000円 議員 400, 000円		期末手当 6月期 2. 25月 12月期 2. 35月 年 4. 6月	意見書案 2件 決議案 0件		アクセス数 1, 715件	
	②本会議運営 ・議案等処理状況 予算 32件 条例案（議員提出） 0件 条例案（委員会提出） 0件 条例案（市長提出） 30件 議決案 7件 任命（選任）同意 33件 認定 10件 専決の承認（予算） 4件 専決の承認（条例） 4件 専決の承認（契約等） 0件 諮問案 10件 議会会議規則案 0件			③委員会等運営 ・総務文教常任委員会行政視察 10月21日～23日：伊豆の国市、島田市、磐田市 ・厚生常任委員会行政視察 10月15日～17日：八街市、草加市、流山市 ・産業建設常任委員会行政視察 10月29日～31日：宇佐市、臼杵市、豊後大野市		⑤議事調査業務 ・全議員研修会 7月5日：紀の川市役所	
				④議会広報・HP編集業務 ・1回につき26, 400部印刷 ・年4回発行（5月、8月、11月、2月） ・本会議の録画配信を実施（6月、9月、12月、3月） 再生回数 2, 925件 ・会議録検索システムの導入			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・憲法及び地方自治法に基づき設置された議会が、市民の代表機関としてその機能を適切に発揮するための根幹的な事業である。地方公共団体の意思決定機関である議会が公正かつ円滑に運営されることは、市民の市政への信頼を高め、健全な自治体運営に繋がるものであり、事業実施は妥当かつ不可欠である。																
	有効性	評価結果	改善の余地がない															
		・本会議・委員会等が滞りなく開催され議決が行われたことは、議会運営が円滑に行われた証であり、事業実施は有効かつ適切である。 ・議会広報紙の配布は、議会と市民との情報共有を促進し、市民に議会に関心を持っていただくきっかけづくりとなるものである。																
	効率性	評価結果	改善の余地がない															
・法令に基づき、議会の機能を円滑かつ適正に遂行するために必要な事業であり、効率性の面で改善の余地はない。																		

事務事業の概要	事務事業名		行政秘書事業		担当課		秘書課		事業区分		内部管理事業					
					新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し					
	会計		一般会計		長期総合計画体系		政策目標		5		地域づくり・行政経営					
	予算科目	款項目	2 総務費				施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
			1 総務管理費				基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進					
		1 一般管理費				取組方針		9		その他						
事業概要		市長、副市長が円滑に公務を遂行できるように、日程の調整や随行、関連団体へ参画する事業														
事務事業を構成する細事業		① 秘書・渉外業務				⑤ 県市長会負担金				⑨						
		② 栄典・表彰業務（地方自治功労）				⑥ 東京事務所運営事業				⑩						
		③ 全国市長会負担金				⑦				⑪						
		④ 近畿市長会負担金				⑧				⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
	活動指標	市長交際費支出件数	件	目標											市政の円滑な運営と発展のため、式典や大会等への市長交際費の支出件数。令和6年度は、昨年度並みの件数となっている。	
				実績	43		61		64							
				<指標の計算方法> 交際費の年間支出件数												
	活動指標	地方自治功労等に係る栄典及び表彰等の推薦件数	件	目標									叙勲等の受章条件に該当する者がいなかったため、令和6年度は、推薦件数なし。			
				実績	5		2									
				<指標の計算方法> 年間の推薦件数												
	成果指標	市長会会議随行日数	日	目標	10		10		10		10		全国市長会・近畿市長会・県市長会の市長会議員が計画通り開催され、出席に伴う随行ができた。			
				実績	10		10		8							
				<指標の計算方法> 年間の市長会会議随行日数												
			目標													
			実績													
<指標の計算方法>																
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	23, 152														23, 152	
事業の実績	① 秘書・渉外業務 市長、副市長の円滑な公務遂行を補助。				② 栄典・表彰業務（地方自治功労） 地方自治功労等に係る栄典及び表彰等の推薦を行う。				③ 全国市長会 会議随行日数：3日				④ 近畿市長会 会議随行日数：2日			
	「交際費執行状況」								⑤ 県市長会 会議随行日数：3日							
	・慶弔 慶祝 1件 10,000円				・叙勲 0											
	・慶弔 弔慰 2件 27,500円				・褒章 0											
	・慶弔 見舞い 0件 0円				・高齢者叙勲 0											
	・会費 23件 217,000円				・死亡叙勲 0											
	・激励 11件 92,952円				・叙位 0											
	・賛助、協賛、協力 1件 5,000円				・県知事表彰 0											
	・渉外、接遇 26件 678,566円				・その他 0											
	・その他 0件 0円															
合計 64件 1,031,018円				推薦件数合計 0件												
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない												
		・行政秘書事業は、市長・副市長が公務を円滑に遂行するための事業であり、市が実施することが妥当といえます。														
	有効性	評価結果		改善の余地がややある												
		・市長・副市長の公務管理・執行補助は的確にできている。 ・突発的な公務が発生した場合でも、スケジュールを調整できる体制を構築できている。 ・社会情勢の急速な変化により、市民ニーズが多様化される中、政策をあらゆる方向から協議・検討・調整を行う人材が必要である。														
	効率性	評価結果		改善の余地がない												
・来客対応や対外公務等では、突発的な対応を要する場合もあるが、効率的に業務を行うことができている。																

事務事業の概要	事務事業名		総務庶務事業				担当課		総務課		事業区分		内部管理事業	
	会計		一般会計				新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	448
	予算科目	款	2	総 務 費				長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1	総務管理費					施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1	一般管理費					基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要		市が効率的な行政運営をするために、庁内総務業務の処理を行う事業												
事務事業を構成する細事業			① 防火管理協議会負担金				⑤ 自動車臨時運行許可				⑨			
			② 平和首長会議メンバーシップ負担金				⑥ 一般寄附金受入				⑩			
			③ 公印・市章管理				⑦ 北方領土返還要求運動和歌山県民会議負担金				⑪			
			④ 自衛官募集				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析				
	活動指標	自動車臨時運行許可件数	件	目標						昨年度と比較し微減となった。				
		実績		387	397	375								
		<指標の計算方法>		許可件数										
			目標											
				実績										
		<指標の計算方法>												
		目標												
			実績											
	<指標の計算方法>													
		目標												
			実績											
	<指標の計算方法>													
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳									
	2,406				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
事業の実績	①防火管理協議会負担金 12,000円 消防操法大会実施				⑥一般寄附金受入 3件、1,011,700円									
	②平和首長会議メンバーシップ負担金 核のない世界恒久平和の実現に向けた国際世論を醸成				⑦北方領土返還要求運動和歌山県民会議負担金 5,000円 ・北方領土返還要求運動和歌山県民会議総会 ・研修会 和歌山市で開催（職員1名参加） ・北方領土返還要求和歌山県民大会 御坊市で開催（職員2名参加）									
	③公印・市章管理 市長印の使用確認、市章の使用申請の許可													
	④自衛官募集 市広報紙へ年4回掲載 (6月号・7月号・10月号・2月号)													
	⑤自動車臨時運行許可 未登録自動車・検査証の有効期間満了車を、車検・登録などの目的で運行させる必要があるとき、申請に基づき仮ナンバーを交付													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・市として行わなければならない、又は行うことが望ましい業務である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
		・市として対外的に必要な業務、内務事務で必要な業務や住民サービス関係の業務等を支障なく運用することができている。												
	効率性	評価結果	改善の余地がない											
・複数の部署で処理するよりも、総務課が取りまとめて処理することにより、無駄のない運用ができている。														

事務事業の概要	事務事業名		法制事業				担当課		総務課		事業区分		内部管理事業							
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		450			
	会計		一般会計								政策目標		5		地域づくり・行政経営					
	予算科目	款	2		総 務 費						施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		項目	1		総務管理費						基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進					
		目	1		一般管理費						取組方針		9		その他					
事業概要			市が法令に基づき適正な事務を執行するために、条例等の制定や改廃についての審査や管理等を行う事業																	
			① 例規審査				⑤								⑨					
事務事業を構成する細事業			② 例規管理				⑥								⑩					
			③ 公示・公告式・官報管理				⑦								⑪					
			④				⑧								⑫					
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	成果指標	条例等の制定改廃件数	件		目標												機構改革等の影響により実績値が増加した令和5年度を除き、例年通りの結果となった。			
			実績		204		304		202											
			<指標の計算方法> 条例、規則、訓令、告示等の制定改廃件数																	
	成果指標	例規管理システムへの登録件数	件		目標												廃止した例規より新規に制定した例規の方が多かったため、微増した。			
			実績		1, 033		1, 049		1, 056											
			<指標の計算方法> 例規管理システムに登録している例規の件数																	
					目標															
			実績																	
	<指標の計算方法>																			
				目標																
		実績																		
<指標の計算方法>																				
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳															
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
	3, 437														3, 437					
事業の実績	①例規審査 制定改廃件数 202件																			
	②例規管理 システム登録件数 1, 056件																			
	③公示・公告式・官報管理 紀の川市公告式条例に基づき適正に実施																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・市の施策及び事業を規定にする事務は行政運営上必要不可欠であり、民間その他の機関で実施できるものではない。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がない																
		・外部の法制研修への参加をはじめ、例規システム委託業者への相談、質問等を積極的に行い、法制知識の向上や例規の充実に努めている。																		
	効率性	評価結果		改善の余地がない																
		・平成26年度に構築した例規システムの使用料及び例規データの更新費用のみのため、経費の大幅な削減は困難である。																		

事務事業の概要	事務事業名			顧問弁護士相談事業				担当課		総務課		事業区分		内部管理事業					
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		449	
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標		5		地域づくり・行政経営					
	予算科目			款		2				総務費		施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
				項		1				総務管理費		基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進			
				目		1				一般管理費		取組方針		9		その他			
	事業概要			市及び職員が、問題の適切な対応及び解決を図るために、顧問弁護士に法的問題に関連する相談を行い、助言を受ける事業															
	事務事業を構成する細事業			① 法律相談				⑤				⑨							
				② 訴訟等対応				⑥				⑩							
				③				⑦				⑪							
④				⑧				⑫											

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	法律相談件数	件	目標						法律相談件数は減少している。	
		実績		45	41	28					
		<指標の計算方法>		法律相談件数							
	成果指標	訴訟等件数	件	目標						訴訟等件数は横ばいである。	
		実績		3	1	1					
		<指標の計算方法>		訴訟、調停、和解等の事件数（提訴した事件を除く。）							
				目標							
				実績							
		<指標の計算方法>									
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳						
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	1, 430								1, 430

事業の実績	①法律相談 15部署から相談事案があり相談時間は延べ978分							
	②訴訟等対応 提訴された1件について顧問弁護士に代理委任							

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない					
		・業務を行う上で生じる法的問題に適切に対応するため、本事業は不可欠である。						
	有効性	評価結果	改善の余地がない					
		・法の専門家である弁護士の助言を受けて問題に対処することで、最善の方法で、説得力のある対応ができる。						
	効率性	評価結果	改善の余地がない					
		・顧問弁護士に相談した上で案件の解決に取り組むことで、悪化を防ぎ、早期解決に役立っている。						

事務事業の概要	事務事業名		行政手続制度整備事業				担当課		総務課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1045	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総務費					施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		項目	1	総務管理費					基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進				
		目	1	一般管理費				取組方針	9	その他					
事業概要			市が適正な基準をもって各手続に対する審理や処分が行えるように、審査基準や不利益処分に係る処分基準等を定める事業。 処分…法令等に基づく行政庁の処分その他公権力の行使に当たる行為 不利益処分…行政庁が、法令等に基づき、特定の者に対して、直接に義務を課し、又はその権利を制限する処分												
			① 制度整備				⑤				⑨				
事務事業を構成する細事業			②				⑥				⑩				
			③				⑦				⑪				
			④				⑧				⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	法令に基づく申請に対する処分公表件数	件	目標						適正に処理し公表している。	
				実績	276	287	306				
				<指標の計算方法> 法令に基づく申請に対する処分公表件数							
	成果指標	法令に基づく不利益処分公表件数	件	目標						適正に処理し公表している。	
				実績	236	273	293				
				<指標の計算方法> 法令に基づく不利益処分公表件数							
成果指標	例規に基づく申請に対する処分公表件数	件	目標						適正に処理し公表している。		
			実績	163	164	166					
			<指標の計算方法> 例規に基づく申請に対する処分公表件数								
成果指標	例規に基づく不利益処分公表件数	件	目標						適正に処理し公表している。		
			実績	127	134	136					
			<指標の計算方法> 例規に基づく不利益処分公表件数								

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳					
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	396									396

事業の実績	①制度整備					
	・行政手続制度整備のための点検作業を行うため、委託業者による説明会を実施した。 ・法令及び例規に基づく申請に対する処分と不利益処分の個票を追加、削除、更新し、市ホームページで公表した。					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・行政手続法及び紀の川市行政手続条例に基づき処分基準等を公表する必要がある。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・行政手続法及び紀の川市行政手続条例に基づき処分基準等を公表している。		
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・各処分担当課による処分の見直し及び更新を行えば業務委託は不要となるが、取りまとめに要する時間及び精度の保持を考慮すると業務委託により実施することが効率的と考える。			

事務事業の概要	事務事業名		行政不服審査事業				担当課		総務課		事業区分		内部管理事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1064		
	会計		一般会計						政策目標		5		地域づくり・行政経営						
	予算科目	款	2		総 務 費				施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成						
		項目	1		総務管理費				基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進						
		目	1		一般管理費				取組方針		9		その他						
事業概要		審査請求人の権利が適正に確保されるように、市が行政処分の審査請求がされてから裁決までの行程を円滑に行う事業																	
事務事業を構成する細事業			① 行政不服審査				⑤						⑨						
			②				⑥						⑩						
			③				⑦						⑪						
			④				⑧						⑫						
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析		
	活動指標	審査請求件数		回	目標												令和6年度は、審査請求なし。		
					実績		1												
		<指標の計算方法>		年間審査請求件数															
					目標														
					実績														
		<指標の計算方法>																	
					目標														
					実績														
		<指標の計算方法>																	
				目標															
				実績															
	<指標の計算方法>																		
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	271														271				
事業の実績		①行政不服審査 ・市の処分等に関して不服があり、審査請求が提出された場合、その処分等について審査を実施する。 審査請求件数 0件																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・行政不服審査法に基づき、市が適切に運用する必要がある。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がない															
		・市が行う処分に対し、不服を申し立てることができる制度である。																	
	効率性	評価結果		改善の余地がない															
		・不服申立てを審査する審理員について、弁護士を臨時的に任用することで事務を効率的に進めることができている。																	

事務事業の概要	事務事業名		情報公開・個人情報保護事業				担当課		総務課		事業区分		内部管理事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1066	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款項目	2	総 務 費					施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		1	総務管理費			基本施策			4	将来を見据えた行政経営の推進					
		1	一般管理費					取組方針	5	情報公開・個人情報保護制度の適正な運用					
事業概要		関連法令等に基づき開示等が適正になされるよう、関係部署への指導や審査会の運営を行う事業													
事務事業を構成する細事業		① 情報公開				⑤						⑨			
		② 個人情報保護				⑥						⑩			
		③				⑦						⑪			
		④				⑧						⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
	活動指標	公文書開示請求による審査請求に係る審査会開催数	回	目標	0	0	0	0	0	公文書開示請求による審査請求に係る情報公開・個人情報保護審査会の開催はなし。					
			実績	0	0	0									
			<指標の計算方法> 公文書開示請求による審査請求に係る審査会の年間開催回数												
	成果指標	公文書開示請求件数	件	目標						令和5年度は、特定の請求者が多くの件数を請求したため公文書開示請求件数が増加したが、令和6年度はそのような請求がなかった。					
			実績	41	123	25									
			<指標の計算方法> 公文書開示請求件数												
	活動指標	個人情報開示請求による審査請求に係る審査会開催数	回	目標	0	0	0	0	0	個人情報開示請求による審査請求に係る情報公開・個人情報保護審査会の開催はなし。					
実績			0	0	0										
<指標の計算方法> 個人情報開示請求による審査請求に係る審査会の年間開催数															
成果指標	個人情報開示請求件数	件	目標						個人情報開示請求件数は令和5年度と比べて減少した。						
		実績	22	27	17										
		<指標の計算方法> 個人情報開示請求件数													
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳										
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
	65									65					
事業の実績	①情報公開 市が保有している公文書についての開示請求書及び任意開示申出書の受付														
	②個人情報保護 市が保有している自己情報についての開示請求書の受付														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない												
		・個人情報の保護に配慮しつつ、市が保有している情報を公開している。													
	有効性	評価結果	改善の余地がない												
		・自己情報のコントロール権を保障し、市の説明責任を果たすことは、開かれた市政の実現を目指す手段として有効である。													
	効率性	評価結果	改善の余地がない												
		・必要最小限のコストで事務を行っているため、改善の余地はない。													

事務事業の概要	事務事業名		文書管理事業				担当課		総務課		事業区分		内部管理事業	
	会計		一般会計				新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	460
	予算科目	款	2	総 務 費				長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1	総務管理費					施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1	一般管理費					基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要		職員が公文書を迅速に検索、閲覧できるように、登録から所在確認、廃棄までの管理を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①		文書等收受・発送・配付				⑤					⑨		
	②		文書管理				⑥					⑩		
	③						⑦					⑪		
	④						⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析				
	活動指標	文書管理作業日数	日	目標	174	174	176	176	176	廃棄文書の減少による。				
		実績		180.5	202	175.5								
		<指標の計算方法>		日数										
				目標										
		実績												
		<指標の計算方法>												
				目標										
		実績												
		<指標の計算方法>												
			目標											
	実績													
	<指標の計算方法>													
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳									
	11, 203				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
事業の実績	①文書等收受・発送・配付 ・各課からの通知文書を取りまとめ発送 ・郵送されてきた文書の收受を行い、各課へ配付し、各支所についてはメール便で配付													
	②文書管理 登録12, 771件 修正11, 029件 削除816件（廃棄分は除く） 書庫移管8, 309件(1, 756箱) 廃棄11, 255件(775箱) 廃棄年度延長2, 005件 廃棄年度延長文書の統廃合1, 568件(506箱)													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・現状通り継続する必要がある業務である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
		・事業実施により、職員が公文書を迅速に検索・閲覧することができる。												
	効率性	評価結果	改善の余地がない											
		・職員自ら確認する必要があることから、現状の一部委託の状態が効率的である。												

事務事業の概要	事務事業名		監察業務事業		担当課		人材マネジメント課		事業区分		内部管理事業				
	会計		一般会計		新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号	840	
	予算科目	款	2	総 務 費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営						
		項	1	総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成						
		目	1	一般管理費			基本施策	5	職員の育成と職場環境の充実						
							取組方針	9	その他						
	事業概要		廉潔で透明性のある市政を実現するために、職員の法令遵守を推進し、監察、調査、指導を行い、また、市への不当要求行為対策に協力する事業												
	事務事業を構成する細事業		① 監察業務		⑤				⑨						
			②		⑥				⑩						
			③		⑦				⑪						
④			⑧				⑫								
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
	活動指標	業務指導・相談件数	件	目標						令和5年度と比較して増加している。					
			実績	24	48	84									
		<指標の計算方法> 監察監が実施した職員の業務指導・相談の件数													
	活動指標	カスタマーハラスメント対応件数	件	目標						令和5年度と比較して増加している。					
			実績	1	5	31									
		<指標の計算方法> 監察監が対応したカスタマーハラスメントの件数													
			目標												
			実績												
		<指標の計算方法>													
		目標													
		実績													
	<指標の計算方法>														
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳											
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源						
	6,726								6,726						
事業の実績	①監察業務 ・業務指導・相談 84件 うちカスタマーハラスメント 31件 (うち不当要求行為 14件) ・新任課長対象公務員倫理等研修 1回 ・新規採用職員対象公務員倫理等研修 1回														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない												
		・公正かつ民主的な市政の運営のため、職員の法令遵守を推進する事業である。													
	有効性	評価結果	改善の余地がない												
		・市政に対する市民の信頼を得るには有効な事業である。													
	効率性	評価結果	改善の余地がない												
		・専門知識や経験のある者を任用することで効率性は向上する。													

事務事業の概要	事務事業名		職員人事管理事業				担当課		人材マネジメント課		事業区分		内部管理事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		3	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		5		地域づくり・行政経営					
	予算科目	款	2		総務費				施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		項	1		総務管理費				基本施策		5		職員の育成と職場環境の充実					
目		2		人事管理費		取組方針			1		人材の確保と適正な人員配置による組織力の向上							
事業概要			組織の活性化と限られた人員で最大の成果を得る体制づくりをすすめるために、職員の就業管理、定員管理、人事異動を実施する事業															
事務事業を構成する細事業	①		職員人事管理				⑤						⑨					
	②		職員勤務・休暇管理				⑥						⑩					
	③		年末調整事務				⑦						⑪					
	④						⑧						⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	成果指標	平均年次有給休暇取得日数		日	目標	10	10	14	14	14	平均年次有給休暇の取得日数が、年々向上している。	
		実績			11.03	12.1	12.2					
		<指標の計算方法>		全職員の年次有給休暇取得日数÷職員数								
	成果指標	職員数		人	目標	541	537	536	536	536	職員数は、職員適正化計画の計画目標数値内(最大541人)となっている。	
		実績			534	533	537					
		<指標の計算方法>		4月1日職員数								
	活動指標	職場巡視実施及び周知・啓発回数		回	目標	13	13	13	4	4	過重労働に対する啓発のための夜間職場巡視を3回実施した。	
		実績			2	4	3					
		<指標の計算方法>		職場巡視実施及び周知・啓発回数								
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳							
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
3,350											3,350	

事業の実績	①職員人事管理 ・職員の人事異動 262人 (令和7年度に向けての異動準備) ・令和6年度退職者 31人 ・人事院勧告に伴う条例、規則等を改正											
	②職員勤務・休暇管理 ・育児休業取得者 21人(内 男性5人) ・産前産後休業取得者 7人 ・病気休業取得者 57人											
③年末調整事務 ・年末調整事務(特別職を含む正職員) 534人 ・年末調整事務(会計年度任用職員) 346人												

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない														
		・人事異動によって限られた人員で最大の成果を得る体制をつくるための事業である。															
	有効性	評価結果	改善の余地がない														
		・人事異動により適材適所に職員を配置し職員の能力を十分に発揮することは、市民サービスの向上に繋がる。															
効率性	評価結果	改善の余地がない															
	・本来業務の事務効率の向上を図るため、定型業務などの民間企業が実施可能な業務については、民間委託への転換を推進している。																

事務事業の概要	事務事業名		職員給与管理事業				担当課		人材マネジメント課		事業区分		内部管理事業	
	会計		一般会計				新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	451
	予算科目	款	2	総 務 費				政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1	総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	2	人事管理費				基本施策	5	職員の育成と職場環境の充実				
事業概要		職員が適正な給与を受け取れるように、給与、手当の支給を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①		特別職報酬等審議会				⑤					⑨		
	②						⑥					⑩		
	③						⑦					⑪		
	④						⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析				
	活動指標	特別職報酬等審議会開催回数	回	目標	3	1	1	1	1	市長、副市長及び教育長の給与額について審査を行った。				
				実績	3	0	2							
				<指標の計算方法> 審議会の開催回数										
				目標										
				実績										
				<指標の計算方法>										
			目標											
			実績											
			<指標の計算方法>											
			目標											
			実績											
			<指標の計算方法>											
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳									
	98				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
事業の実績	①特別職報酬等審議会 ・第1回審議会 10月8日開催 ・第2回審議会 11月5日開催 ・答申 11月18日													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・適正な給与及び議員報酬を公正に決定する事業である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
		・特別職報酬等審議会については、学識経験者を構成委員としている。												
	効率性	評価結果	改善の余地がない											
		・事業自体の効率性を評価すべき事業ではない。												

事務事業の概要	事務事業名		人材育成研修事業				担当課		人材マネジメント課		事業区分		内部管理事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	452	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総務費		施策目標			3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		項	1	総務管理費		基本施策			5	職員の育成と職場環境の充実					
目		2	人事管理費		取組方針	2			人材育成の推進						
事業概要		職員の能力の向上を図るために、各種研修や人事評価等を行う事業													
事務事業を構成する細事業		① 職員採用				⑤ 県市町村職員研修協議会負担金				⑨					
		② 職員研修				⑥ 全国市町村国際文化研修所等				⑩					
		③ 職員派遣				⑦				⑪					
		④ 人事評価				⑧				⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	職員研修開催回数 (市主催研修)	回	目標	20	20	20	20	20	令和5年度より回数が増加した。	
				実績	31	29	32				
		<指標の計算方法>		市が主催する研修の回数							
	成果指標	職員研修延べ受講者数	人	目標	1,000	1,000	1,000	1,100	1,100	令和5年度より受講者数が増加した。	
				実績	679	1,125	1,337				
		<指標の計算方法>		市主催研修+和歌山県市町村職員研修協議会主催研修+民間機関等主催研修の受講者数							
				目標							
				実績							
		<指標の計算方法>									
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳						
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	5,859							251	5,608

事業の実績	①職員採用		アップ研修、メンター制度 等)		4回
	・事務職 受験者数 138人 採用者数 21人		・職員提案制度研修 1回 ・華岡青洲研修 1回 ○職員研修延べ受講者数 1,125人		
	・土木職 受験者数 2人 採用者数 1人		③職員派遣		
	・保育士 受験者数 14人 採用者数 4人		・和歌山県後期高齢者医療広域連合 1人		
	・保健師 受験者数 11人 採用者数 4人		④人事評価		
	・発達相談員 受験者数 2人 採用者数 1人		・令和6年4月～令和7年3月にかけて 業績評価及び能力評価を実施		
	②職員研修		⑤県市町村職員研修協議会負担金		
	・階層別研修 5回 ・新規採用職員研修 (スタートアップ研修、プレゼンテーション研修、フォローアップ研修、メンター制度 等)		・一般研修 78人受講 ・専門研修 109人受講 ・特別研修 12人受講		
			⑥全国市町村国際文化研修所等 13人受講		

事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない	
		・地方公務員法により職員に研修機会を提供する義務があるため実施する事業である。			
	有効性	評価結果		改善の余地がない	
		・職員個々の能力向上により、組織力向上を図るため研修内容の更なる充実を図っている。			
	効率性	評価結果		改善の余地がない	
		・「人材育成体系基本計画」に基づいて階層別研修を推進していく。			

事務事業の概要	事務事業名		職員福利厚生事業				担当課		人材マネジメント課		事業区分		内部管理事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	456	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総務費					施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		項	1	総務管理費					基本施策	5	職員の育成と職場環境の充実				
目		2	人事管理費						取組方針	3	良好な職場環境の整備・充実				
事業概要		職員の福利厚生の充実を図るために、共済や公務災害補償に関する諸手続きや健康管理を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①		職員共済組合事務				⑤				⑨				
	②		公務災害補償事務				⑥				⑩				
	③		職員健康・安全管理				⑦				⑪				
	④						⑧				⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	健康診断受検率	%	目標	100	100	100	100	100	妊娠等以外の職員はほぼ全員が健康診断又は人間ドックを受検した。	
				実績	96.4	97	96.4				
		<指標の計算方法>		職員の健康診断・人間ドックの受検率（3役を含む）							
	成果指標	公務災害の発生件数	件	目標						令和5年度より減少している。	
				実績	2	8	7				
		<指標の計算方法>		正職員の公務災害発生件数							
	成果指標	非常勤公務災害の発生件数	件	目標						令和5年度より減少している。	
				実績	3	4	1				
		<指標の計算方法>		会計年度任用職員（非常勤職員）の公務災害発生件数							
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳					
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	13,928									13,928

事業の実績	①職員共済組合事務 （会計年度任用職員含む） 保険得喪手続き 240件 貸付手続き 6件 貯金手続き 14件 インフルエンザ助成手続き 109件				心の健康相談 30人相談							
	②公務災害補償事務 地方公務員災害補償 7件 非常勤職員公務災害補償 1件											
	③職員健康・安全管理 職員健康診断 188人受検 会計年度任用職員健康診断 187人受検 人間ドック・脳ドック 1日人間ドック 171人 2日人間ドック 162人 脳ドック 3人 ストレスチェック 対象職員806人（会計年度任用職員含む） ストレスチェック受検者 688人 高ストレス判定者 91人											

事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない									
				・職員の安全と健康を確保する事業である。									
	有効性	評価結果		改善の余地がない									
				・職員の健康や生活設計に関する相談に応じ、福利厚生の充実を推進している。									
効率性	評価結果		改善の余地がない										
			・主に職員の健康管理をする事業で、医療的な専門業務については外部委託をしている。										

事務事業の概要	事務事業名		会計年度任用職員人事管理事業				担当課		人材マネジメント課		事業区分		内部管理事業			
			新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し			事業番号		455		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		5		地域づくり・行政経営			
	予算科目	款	2		総務費				施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		項	1		総務管理費				基本施策		5		職員の育成と職場環境の充実			
目		2		人事管理費		取組方針			1		人材の確保と適正な人員配置による組織力の向上					
事業概要			職員が組織の活性化と限られた人員で最大の成果を得る体制づくりをすすめるために、職員（会計年度任用職員）の就業管理、定員管理を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①		会計年度任用職員人事管理				⑤						⑨			
	②		会計年度任用職員給与支払				⑥						⑩			
	③		労働災害補償事務				⑦						⑪			
	④						⑧						⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	労働災害の発生件数	件	目標						令和5年度より減少した。	
		実績		5	6	4					
		<指標の計算方法> 会計年度任用職員の労働災害発生件数									
	活動指標	会計年度任用職員数	人	目標						市民ニーズの多様化に対応するため、増加傾向にある。	
		実績		333	340	364					
		<指標の計算方法> 4月1日会計年度任用職員数									
				目標							
				実績							
				<指標の計算方法>							
			目標								
			実績								
			<指標の計算方法>								

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	24, 015									24, 015

事業の実績	①会計年度任用職員人事管理 各課の繁忙期に定型業務を行い、事務の効率化を図るため機動的配置臨時職員2人を年間19部署へ派遣										
	②会計年度任用職員給与支払 ・報酬 12回 ・期末手当 2回 ・人事院勧告等による報酬等 1回										
	③労働災害補償事務 ・労働災害補償 4件										

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・限られた人員で最大の成果を得るための体制を構築する事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
		・機動的配置臨時職員の任用により、繁忙期における職員の定型業務の負担が軽減されている。									
	効率性	評価結果	改善の余地がない								
		・定型業務を会計年度任用職員に移行することにより、職員の本来業務の効率を向上させている。									

事務事業の概要	事務事業名			広報事業			担当課		広報課		事業区分		ソフト事業									
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		4					
	会計			一般会計			長期総合計画体系			政策目標		5		地域づくり・行政経営								
	予算科目			款		2				総務費												
				項		1				総務管理費												
			目		3		広報費				基本施策		2		市政情報の発信と市政参加の促進							
											取組方針		1		広報活動の充実							
事業概要			市民、報道機関、市の情報を求める人に必要な情報の入手と市政への理解を深めてもらうために、行政情報や市の魅力を発信する事業																			
事務事業を構成する細事業			① 広報紙発行業務					⑤ ラジオ・テレビ等情報発信業務					⑨ 町史（誌）販売管理業務									
			② 広報紙等配布委託					⑥ 日本広報協会負担金					⑩									
			③ メール配信サービス					⑦ 県広報協会負担金					⑪									
			④ HP・Instagram・LINE情報発信業務					⑧ 報道発表・報道機関対応業務					⑫									
指標の実績	成果指標			指標名		単位			R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
				ホームページへの年間アクセス数		件	目標						2, 100, 000		2, 200, 000		2, 200, 000					
			実績				2, 022, 892		1, 895, 355								アクセス数は減少したが、主にトップページへのアクセス数の減少であり、LINEや二次元コードから、ダイレクトに情報へアクセスしていることが影響していると考え					
	＜指標の計算方法＞		ホームページへの年間アクセス数																			
	成果指標			行政の広報活動の満足率		%	目標		50		50		50		50		50		満足率は回復したが、市民意識調査において、広報紙やLINEなどに情報源が偏っていた。多様な発信手段を活用し効果的な情報発信を行い、今後も満足率上昇に努める			
						実績		42. 1		28		40. 6										
	＜指標の計算方法＞		紀の川市市民意識調査																			
	成果指標			メール配信サービス登録者数		人	目標		5, 500		5, 600		5, 700		5, 800		5, 800		広報紙などで登録啓発に努めているが、情報入手手段がLINEへと移行し、登録者数に影響していると考え。多様な発信手段であり、今後も登録者数増加に努める。			
						実績		5, 667		5, 628		5, 694										
	＜指標の計算方法＞		登録メールアドレス数																			
活動指標			報道発表件数		件	目標		120		120		120		120		120		各課からの情報発信内容を集約し、市の施策・イベント・魅力などを報道機関や新聞社などに発表することに注力し目標値達成。取材や新聞等の紙面掲載にも繋がっており、市内外への情報発信に有効であった。				
					実績		64		114		136											
＜指標の計算方法＞		報道発表件数																				
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）					財源内訳																
						国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源						
	42, 562							2, 957						1, 955		37, 650						
事業の実績	① 広報紙発行業務 広報「紀の川」の発行 ・発行部数 26, 700部/月 (12回)					⑤ ラジオ・テレビ等情報発信業務 和歌山放送ラジオ(WBS) の番組内で「紀の川とおき情報」のコーナーを設け、イベント・施策・特産品情報などを放送し、紀の川市のPRを実施 第 1 木曜日 13:30～（約4分間） ・放送回数 12回 (年間)					⑨ 町史（誌）販売管理業務 残存する町史（誌）を後世に残すため販売管理を実施 販売0冊 寄贈2冊 (年間)											
	② 広報紙等配布委託 業者委託による広報紙の各戸配布 ・配布実績 延べ307, 213戸 (年間)					⑥ 日本広報協会負担金 国、都道府県、市町村の間を縦と横にしながら広報研究連絡団体(公益社団法人) ・年会費 24, 000円					・打田町史 1巻なし 2巻211冊 3巻477冊 ・粉河町史 1巻1, 201冊 2巻384冊 3巻371冊 4巻468冊 5巻1, 113冊 ・那賀町史 1巻820冊 ・桃山町誌 525冊 ・貴志川町史 1, 2, 3巻なし											
	③ メール配信サービス 防災、防犯、交通安全、観光、行政など日常生活に役立つ情報をメールで提供。 ・メールアドレス登録者数 5, 694人					⑦ 県広報協会負担金 県内の市町村の広報力の向上を目的として設立された協会 ・年会費 7, 000円																
	④ HP・Instagram・LINE情報発信業務 市内外への行政情報配信や紀の川市のPRを実施 ・HP年間アクセス件数 1, 895, 355件 ・Instagram情報発信件数 42件 ・LINE情報発信件数 255件					⑧ 報道発表・報道機関対応業務 メディアにプレスリリースすることによ																
事業の事後評価	妥当性			評価結果		改善の余地がない																
				・広報事業は、市民をはじめ、市の情報を求める人に対して情報を発信し、必要な情報の入手と市政への理解を深めてもらう事業であり、市が主体的に行う事業として妥当性がある。 ・また、市民意識調査では8割を超える人が、広報紙により情報を得ており、さらに、第2位は市公式LINEとなっている。このことから、市政情報を入手してもらう事業として妥当である。																		
	有効性			評価結果		改善の余地がややある																
				・広報事業では、広報紙やホームページ、またSNSを活用して情報発信を行っており、市民や市の情報を求める人が、情報を得るために有効な事業である。今後も、市の魅力発信や市政への理解を深めてもらえるよう、アクセシビリティに配慮し、見易さや内容の充実を図る必要がある。																		
効率性			評価結果		改善の余地がややある																	
			・広報紙の発行や情報発信については、編集を自課内のパソコンで行いコストを抑えている。 ・広報基本方針・広報業務マニュアルに基づき、情報発信媒体ツールの特性を生かし、効率的で効果的な情報発信の強化がさらに必要である。																			

事務事業の概要	事務事業名		財政運営事業				担当課		財政課		事業区分		内部管理事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	5	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総 務 費					施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		項	1	総務管理費					基本施策	3	健全な財政運営の確立				
目		4	財政管理費						取組方針	1	財政計画に基づいた計画的な財政運営				
事業概要		市財政を効率的・効果的に健全化を維持するために、財政計画に基づき計画的な財政運営を行う事業													
事務事業を構成する細事業	① 予算編成				⑤ 地方債発行				⑨						
	② 予算執行管理				⑥ 財政計画				⑩						
	③ 決算（決算統計・成果表）				⑦ 財政事情の公表（公会計・健全化判断比率）				⑪						
	④ 地方交付税・地方譲与税				⑧				⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析			
	活動指標	予算編成回数（一般会計）	回	目標	6	6	6	6	6	令和6年度は、低所得者支援・定額減税、衆議院議員総選挙、エネルギー・食料品価格等の物価高騰などに対応する予算を適宜編成する必要が生じたため、既定の予算編成回数を大きく上回った。			
		実績		10	10	10							
		<指標の計算方法>		当初予算1回、補正予算5回を想定									
	成果指標	経常収支比率	%	目標	91.3	93.5	94.1	93.2	93.2	近年は徐々に指数が上昇傾向にある。令和6年度は、地方交付税などの経常一般財源が増加したものの、人件費、物件費、扶助費の経常経費も増加したことで、指数が上昇（悪化）した。			
		実績		92.8	94.6	96.6							
<指標の計算方法>		地方財政状況調査（経常経費充当一般財源÷経常一般財源）×100											
成果指標	財政力指数（3か年平均）		目標	0.4	0.41	0.42	0.42	0.42	数値に大きな変動はない。令和6年度は、地方特例交付金等の増による基準財政収入額の増加により、指数が微増（良化）となった。				
	実績		0.41	0.41	0.42								
	<指標の計算方法>		地方交付税算定台帳 基準財政収入額÷基準財政需要額										
成果指標	積立基金現在高比率	%	目標	47.7	70.4	62.2	53.6	62.2			近年は70%台後半で推移している。普通交付税の追加交付など財源超過分を基金に積み立てることで基金残高は増加したが、それ以上に標準財政規模が増加したことにより比率が下降した。		
	実績		77.9	77.8	76.8								
	<指標の計算方法>		標準財政規模に対する基金残高の割合										

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	2,037							2,037

事業の実績	①予算編成 ・令和6年度補正予算編成 各会計予算が円滑に執行できるよう所要の補正措置を講じた。 一般会計9回 特別会計（6会計）1回～3回 公営企業会計（3会計）水道3回、工業用水道1回、下水道3回 ・令和7年度当初予算編成 「20年の歩みを土台に、次のステージへの1歩を踏み出すための予算」として合併20周年記念、物価高騰対策、長期総合計画後期基本計画に掲げる目標人口6万人を目指すための「呼び込む」「稼ぐ」「育む」「未来をつくる」の4つの重点プロジェクトを中心に、将来の成長につなげるための取組について、重点的に配分を行う予算を編成した。 ・令和7年度当初予算書作成 一般会計、特別会計、公営企業会計の当初予算を取りまとめた。				予算書 185部、予算説明書 185部				・普通交付税 9,714,450千円 ・特別交付税 1,045,324千円			
	②予算執行管理 予算執行方針を定め、適宜、庁内に周知することで、予算の適正かつ厳正な執行の確保に努めた。				③決算（決算統計・成果表） 令和5年度各会計別決算状況、基金・地方債の状況、一般会計・特別会計の主要施策の成果を取りまとめた。 決算主要施策の成果報告書 165部				⑤地方債発行 地方債を財源として行う事業の対象経費を取りまとめ、県との協議を経て、同意を受け、金融機関等から資金の借入れを行った。 ・地方債発行額（一般会計）2,334,800千円			
	④地方交付税・地方譲与税 基礎数値等を県へ報告し、地方交付税・地方譲与税の交付を受けた。 【主な交付実績】 ・地方揮発油譲与税 66,562千円 ・自動車重量譲与税 203,698千円 ・地方特例交付金 298,131千円								⑥財政計画 令和4年度に策定した紀の川市財政計画（計画期間：令和5年度～令和8年度）の収支見通しに令和6年10月時点の修正を加え、市ホームページで公表した。			
									⑦財政事情の公表（公会計・健全化判断比率） 統一的な基準による財務書類や健全化判断比率を調製し、市の財政状況を公表した。			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・地方自治体の行政活動で財政運営は基幹を成す業務であることから、財政部局が内部管理を行い全庁を取りまとめて実施することが適当である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がややある													
		・長期総合計画の実現に向け、中長期的な視点に立った財政収支見通しによる財政運営を行っている。 ・持続可能な行政運営をしていく中で、財政状況に応じた効率的な予算編成手法を取り入れる必要がある。 ・財政運営と行政評価の連携を深めることで、各事業の妥当性、有効性、効率性を客観的に把握し、より効果的な予算編成に取り組む必要がある。 ・エネルギー・食料品価格等の物価高騰などへの対応や社会情勢に応じた国の施策への対応など状況に応じて効果的な補正予算を編成した。 ・合併特例債の活用終了を見据え、事業内容に応じて合併特例債に代わる交付税算入率が高い地方債への転換に取り組んだ。とりわけ一部過疎地域を対象とした過疎対策事業債や照明LED化などの脱炭素化事業を対象とした脱炭素化推進事業債の有効活用を行った。														
効率性	評価結果	改善の余地がない														
	・地方自治体の基幹業務として内部管理を行う事業であるため、事業全体として代替手段を導入する余地はない。 ・決算成果表の印刷では、外注を行わず職員で作成したことで、業務スケジュールに余裕を持つとともに、費用の抑制に努めた。 ・財務書類の作成は、専門的な知識を要することから作成支援の委託範囲を最小限に留め、費用の抑制に努めた。															

事務事業の概要	事務事業名				出納管理事業				担当課		会計課		事業区分		内部管理事業							
	会計				一般会計				新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		6			
	予算科目	款	2	総 務 費				長期総合 計画体系	政策目標		5	地域づくり・行政経営										
		項	1	総務管理費					施策目標		3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成										
		目	5	会計管理費					基本施策		3	健全な財政運営の確立										
	事業概要				市民（債権者、納税義務者）等に対して公金に係る適正な事務処理を行う事業																	
	事務事業を構成する細事業				① 出納業務				⑤ 日計表作成業務				⑨									
					② 県会計職員連絡協議会負担金				⑥				⑩									
					③ 口座振替納入依頼書等受付事務				⑦				⑪									
					④ 債権者登録業務				⑧				⑫									
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析							
	活動指標	収納件数	件	目標											例年通りの数値である。							
		実績		740, 865		731, 086		735, 089														
		<指標の計算方法> 1年間の収納件数																				
	活動指標	支払件数	件	目標											例年通りの数値である。							
		実績		53, 116		57, 458		60, 863														
		<指標の計算方法> 1年間の支払調書件数																				
	活動指標	口座振替納入依頼書受付件数	件	目標											例年通りの数値である。							
		実績		2, 899		2, 522		2, 551														
		<指標の計算方法> 1年間の受付件数																				
活動指標	指定金融機関検査件数	件	目標											紀の川市指定金融機関等検査実施要領により実施した。								
	実績		1		1		1															
	<指標の計算方法> 1年間の検査件数																					
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																	
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源							
	6, 228														6, 228							
事業の実績	① 出納業務 ・全会計歳入処理件数… 735, 089件 ・全会計歳出処理件数… 60, 863件 ・会計課からのお知らせを職員掲示板に月1回掲示																					
	② 県会計職員連絡協議会負担金 ・会計管理者定例会 R6. 5. 17開催 ・会計職員事務研修会 R7. 1. 24開催																					
	③ 口座振替納入依頼書等受付事務 ・受付件数… 2, 551件																					
	④ 債権者登録業務 ・登録件数… 3, 142件																					
	⑤ 日計表作成業務 ・各会計の収入額と支払額の確定及び残高の確認																					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																			
		・市以外が実施主体になりえない事務事業であり、財務規則に基づき継続する必要性が高い事業と考える。																				
	有効性	評価結果	改善の余地がない																			
		・数値化できない事業であるが、会計事務の専門性及び能力開発のための対策として、課員全員で情報共有に努めたと考える。																				
	効率性	評価結果	改善の余地がない																			
・実施方法の変更等でコスト削減できない事業であるが、事業過程に無駄がないか定期的に検証し、コスト削減（人件費）に努めたと考える。																						

事務事業の概要	事務事業名		会計審査事業				担当課		会計課		事業区分		内部管理事業																							
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		462																			
	会計		一般会計								政策目標		5		地域づくり・行政経営																					
	予算科目	款	2	総 務 費				長期総合計画体系		施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成																						
		項目	1	総務管理費						基本施策		3		健全な財政運営の確立																						
	目	5	会計管理費						取組方針		9		その他																							
事業概要			公金事務処理の審査を行い、市民等に行政への信頼を高めてもらう事業																																	
			① 会計審査				⑤						⑨																							
事務事業を構成する細事業			② 決算業務				⑥						⑩																							
			③ 源泉徴収審査支払業務				⑦						⑪																							
			④ 監査受検				⑧						⑫																							
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析																			
	活動指標	決算書作成回数	回	目標													地方自治法第233条第1項に基づき作成した。																			
				実績	1		1		1																											
				<指標の計算方法> 作成回数																																
	活動指標	源泉徴収票発行件数	件	目標											例年通りの数値である。																					
				実績	2, 627		2, 577		2, 442																											
				<指標の計算方法> 1年間の発行件数																																
活動指標	支払調書発行件数	件	目標											講師への支払いが増加している。																						
			実績	337		368		393																												
			<指標の計算方法> 1年間の発行件数																																	
活動指標	監査受検回数	回	目標											紀の川市監査計画に基づき受検した。																						
			実績	13		13		13																												
			<指標の計算方法> 例月出納検査・決算審査の受検回数																																	
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																															
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源																					
	515														515																					
事業の実績	①会計審査 ・紀の川市財務規則による支出命令書等の審査 ・新規採用職員研修実施（会計事務について）																		支払額 65, 094, 293円																	
	②決算業務 ・決算書の作成… 一般会計 180部 特別会計 115部																		④監査受検 ・監査受検のための資料作成																	
	③源泉徴収審査支払業務 ・源泉徴収票 発行件数 2, 442件 源泉額 114, 359, 147円 ・報酬、料金、契約金及び賞金の支払調書 発行件数 284件 源泉額 11, 491, 213円 ・不動産の使用料等の支払調書 発行件数 109件																																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																																
		・財務規則に基づき市以外が実施主体になりえない事務事業であり、継続する必要性が高い事業と考える。																																		
	有効性	評価結果		改善の余地がない																																
		・数値化できない事業であるが、会計事務の専門性及び能力開発のための対策として担当者だけでなく、課員全員で情報共有に努めたと考える。																																		
効率性	評価結果		改善の余地がない																																	
	・実施方法の変更等でコスト削減できない事業であるが、事業過程に無駄がないか定期的に検証し、コスト削減（人件費）に努めたと考える。																																			

事務事業の概要	事務事業名		庁舎管理事業				担当課		契約管財課		事業区分		内部管理事業			
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	7		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営					
	予算科目	款	2	総務費					施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		項目	1	総務管理費					基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進					
		6	財産管理費					取組方針	9	その他						
事業概要		市民、職員が庁舎等を安全、快適に利用できるように、庁舎の適正な管理を行う事業														
事務事業を構成する細事業		①	本庁舎等施設管理				⑤					⑨				
		②	職員駐車場料金徴収				⑥					⑩				
		③					⑦					⑪				
		④					⑧					⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析						
	活動指標	日常目視点検	日	目標	243	243	243	242	241	市役所開庁日は、職員もしくは設備管理委託業者による目視点検を実施。						
				実績	243	243	243									
		<指標の計算方法>		市役所開庁日における職員若しくは設備管理員による目視点検実施日												
	成果指標	前年度に対する光熱水費の比率	%	目標	98	98	98	98	98	主な要因は電気料金で、使用量は減少しているが、電気料金が高騰したため令和5年度より増加した。						
				実績	124	96	111									
		<指標の計算方法>		前年度に支出した電気、ガス、水道費の合計に対する割合												
	成果指標	庁舎内無事故日数	日	目標	365	366	365	365	365	年間を通じ、庁舎管理上の瑕疵による事故は発生しなかった。						
				実績	365	366	365									
		<指標の計算方法>		庁舎管理上の瑕疵による事故日のカウント												
			目標													
			実績													
<指標の計算方法>																
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	326, 807								97, 100		30, 000		37, 908		161, 799	
事業の実績	①本庁舎等施設管理 ・修繕件数37件 ・庁舎総合管理業務委託 ・機械警備業務委託 ・本庁舎等LED化工事監理業務委託 ・植栽管理業務委託 ・ホール田園音響・照明操作管理業務委託 ・職員駐車場用地借上業務 ・本庁舎等照明LED化工事 ・本庁駐車場拡張工事 ・打田保健福祉センター高圧気中開閉器取替工事															
	②職員駐車場料金徴収 収納額 37, 404, 400円															
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・市民、職員等が安全で快適に利用するためには、適正な維持管理が必要であり、妥当性があるとする。														
	有効性	評価結果	改善の余地がややある													
		・引き続き現状の庁舎管理業務の仕様にて成果指標の目標達成を図り、施設を適正に維持するため、修繕等の必要が生じた場合は速やかに修繕を行う。 ・電気使用量は減少しているが、電気料金が高騰している現状であり、設備機器の省エネに取り組む必要がある。														
効率性	評価結果	改善の余地がややある														
	・照明のLED化や空調設備の修繕を実施するなど、コスト削減に取り組んでいる。また、公共施設個別計画に基づいた長寿命化を図り建築物の予防保全について取り組む必要がある。															

事務事業の概要	事務事業名				公用車管理事業				担当課		契約管財課		事業区分		内部管理事業								
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		464				
	会計				一般会計				長期総合計画体系		政策目標		5		地域づくり・行政経営								
	予算科目				款		2				総務費												
					項		1				総務管理費												
				目		6		財産管理費				基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進							
												取組方針		9		その他							
事業概要				職員が公用車を安全で快適に使用できるように、公用車の適切な管理を行う事業																			
事務事業を構成する細事業				① 公用車管理				⑤								⑨							
				② マイクロバス運転及び整備管理				⑥								⑩							
				③ 自動車保険加入				⑦								⑪							
				④ 公用車有料広告掲載				⑧								⑫							

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	公用車稼働率	%	目標	77	80	80	80	80	稼働率については大きな増減は見られず、ほぼ目標どおり稼働している。	
		実績		77	80	79					
		<指標の計算方法> 公用車管理棟で管理している車両（二輪車以外）の稼働率【（毎月：平日稼働日数÷平日日数）の年間平均】									
	成果指標	市保有の公用車台数	台	目標	330	330	330	330	330	年度末時点の保有台数は減少しているが、これは車両の入庫時期によるもので、実質は横ばいである。	
		実績		327	326	319					
		<指標の計算方法> 上下水道部車両、特殊車両（乗用草刈機等）、他団体車両を除く市保有の公用車の台数【基準日：年度末3月31日】									
	成果指標	自動車保険請求件数	件	目標						稼働率に大きな増減は見られないが、保険請求件数は増加した。職員の安全運転意識向上のため安全運転啓発や安全運転講習を継続する。	
		実績		18	17	33					
		<指標の計算方法> 事故等（風水害、偶発的事由を除く）により自動車保険を請求した件数【基準日：年度末3月31日】									
			目標								
		実績									
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
	76,757		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
					11,900			64,857

事業の実績	① 公用車管理		・乗用草刈機等の特殊車両を含む公用車の自動車損害共済保険加入業務
	・公用車事務（車両情報の管理、リース料や燃料費等支払事務と情報管理、整備業者や燃料業者への連絡等）		
	・車両運行管理業務（運行前後の点検、清掃と自主点検をはじめ車検や修繕の手配、稼働率の算出、自動車事故の報告や対応等）		
	・アルコール検知器による、運転前後の酒気帯びチェックを実施		④ 公用車有料広告掲載
	・大雪に備えて、一部スタッドレスタイヤへの入替を実施		
	・電気自動車を導入、充電設備設置工事を実施		
	② マイクロバス運転及び整備管理		・公用車を媒体とした有料広告事業の募集を実施
	・マイクロバス運転及び整備管理業務委託（マイクロバスの運転、点検、整備管理及び清掃等）		
	③ 自動車保険加入		

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・職員が公用車を安全で快適に使用するためには、本事業による適正な管理、運営が必要であるため、妥当性は高い。		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
		・稼働率調査や経過年数、走行距離、使用目的に基づき、車両入替や配車等を行うことで、適正な維持管理を実施している。また、公用車は、災害時等緊急時にも必要なことから有効性は高い。		
		・類似団体等の状況を参考に、当市の使用状況等を検証したうえで、適正な保有台数を設置する必要がある。		
効率性	評価結果	改善の余地がややある		
	・老朽化した車両の入替、稼働率や使用目的に応じた配車を行うことで適正な配置を進め、修繕等の縮減を図っているため、効率性は高い。			
	・公用車を適正かつ安全に使用するため、車両の管理等に関する知識や技術を有する業者へ業務委託を行っており、引き続き業務内容等を精査し、効率性を高める必要がある。			

事務事業の概要	事務事業名		入札契約事業				担当課		契約管財課		事業区分		内部管理事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	468	
	会計		一般会計						政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総務費						施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		項目	1	総務管理費						基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
		目	6	財産管理費						取組方針	9	その他			
事業概要		市が入札、契約事務における公平性、透明性、競争性を確保するために、事業者の適正な事業者登録や入札・契約事務を行う事業													
事務事業を構成する細事業		① 工事等検査				⑤						⑨			
		② 指名登録業者管理				⑥						⑩			
		③ 入札・契約				⑦						⑪			
		④ 契約管理・成績評定システム				⑧						⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
	活動指標	一般競争（指名競争）入札成立件数	件	目標	320	320	320	300	300	発注課の入札希望数により変動する件数である。令和6年度は、業務委託と物品購入が令和5年度に比べ増加した。					
				実績	343	295	302								
				<指標の計算方法> 建設工事等の入札が成立した件数											
	活動指標	工事検査件数	件	目標	200	200	200	200	200	発注課の建設工事の完成数により変動する件数である。令和6年度は、令和5年度の大雨災害復旧工事の繰越しがあったため令和5年度に比べ大幅に増加した。					
				実績	223	153	277								
				<指標の計算方法> 契約管財課に検査依頼があり検査員が工事等検査を行った件数											
	成果指標	入札等参加資格登録業者数	者	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	登録項目において指定の登録期間があり、時期により変動する件数である。					
				実績	1,845	1,995	2,027								
				<指標の計算方法> 建設工事、測量・建設コンサルタント等、物品・その他製造等の業者数（4/1現在）											
成果指標	建設工事早期発注率	%	目標	60	60	60	60	60	発注課の入札希望数及び契約締結の時期により変動する件数である。令和6年度は、災害も少なく上半期の工事発注率が大きく増加した。						
			実績	69.1	44.6	68.3									
			<指標の計算方法> 上半期（4月から9月）の工事契約件数÷年間の工事契約件数												
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳										
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
		10,707									10,707				
事業の実績	①工事等検査 発注課の依頼に基づき契約管財課所属の検査員が工事検査を実施した。 ・工事検査件数 146件				物品購入 23件 (2) 審査会で決定した入札方法及び選定業者により入札を執行した(入札取り止め案件3件を除く)。 指名業者の入札辞退等により4件が不調、2件が不落で不成立となった。不成立となった案件は、後日再入札又は随意契約で対応した。 ・入札執行日数 25日 ・入札執行件数 308件 （内訳）条件付一般競争入札 14件 指名競争入札 294件 (3) 入札において落札した業者と契約を締結した。なお、落札したが契約締結した案件が1件、落札決定の取り消し案件が1件あった。 ・入札成立件数 302件 ・契約締結件数 300件 （契約締結件数内訳） 工事請負業者 市内 183件、市外 6件 業務委託業者 市内 70件、市外 24件 物品購入業者 市内 5件、市外 12件				④契約管理・成績評定システム ・業者管理、入札・契約関連事務及び工事成績評定を全庁的にシステムで運用した。						
	②指名登録業者管理 入札等参加資格登録業者の登録・管理を行った。 ・建設工事 585者 ・測量・建設コンサルタント等 350者 ・物品・その他製造等 1,092者														
事業の実績	③入札・契約 (1) 発注課の依頼に基づき、事業案件の入札方法、選定業者案等について、建設工事等請負業者選定審査会を開催した。 ・審査会開催日数 20日 ・審査会審査件数 311件 （内訳）工事請負 191件 業務委託 97件														
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない											
		・発注課依頼の入札案件等について、入札・契約・検査に関する事務等を適正に執行するものである。実施主体は、関係法令において透明性・公平性・競争性の確保、不正行為の排除、品質の確保等が厳格に義務付けられている事業であることから、市で実施することが妥当である。													
	有効性	評価結果		改善の余地がない											
・発注課からの入札案件等について、適正な事務の執行ができている。令和6年度は、災害が少なく上半期の早期発注率が大きく増加した。目標値を維持できるように継続的に早期の入札執行を促していく必要がある。															
効率性	評価結果		改善の余地がややある												
	・市の適正な予算執行（入札・契約・検査）に直接的に関わるため、業務委託は困難な事業である。 ・事務工程の見直しや契約管理・工事成績評定システム、入札参加等資格審査システムの活用により事業の効率化を進めるとともに人的コストの削減も図っていく。														

事務事業の概要	事務事業名		物品集中調達事業				担当課		契約管財課		事業区分		内部管理事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	466	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総務費					施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		項	1	総務管理費					基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進				
目		6	財産管理費			取組方針			9	その他					
事業概要		職員が物品を効率的に活用できるように、物品を適正に調達し、管理を行う事業													
事務事業を構成する細事業		① 調達（発注・契約）				⑤						⑨			
		② 物品管理				⑥						⑩			
		③ 事務機器管理				⑦						⑪			
		④				⑧						⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	コピー用紙発注箱数	箱	目標	2,900	2,900	2,900	2,900	2,900	本庁、南別館で使用するコピー用紙は、コピー機の使用増加により、増加傾向にある。発注数については、在庫数の調整により増加した。	
				実績	2,342	2,425	2,459				
				<指標の計算方法> 本庁・南別館で使用するコピー用紙の発注箱数							
	成果指標	集中調達物品種類数	種類	目標	190	200	200	200	200	物品集中調達の種類は、配付品目の精査及び類似品目の廃止また、要望に応じ追加品目があったため増加した。今後も、要望に応じた品目の増減が見込まれる。	
				実績	186	195	199				
				<指標の計算方法> 契約管財課で集中調達し、各部署へ配付する事務用品・日用品の種類数							
	成果指標	事務機器台数（契約管財課管理分）	台	目標	7	7	7	6	8	契約管財課で管理している事務機器台数は、入れ替えにより、旧事務機器の保守契約分の残期間があるため増加した。	
				実績	7	6	7				
				<指標の計算方法> 本庁・南別館で使用する事務機器（コピー機・輪転機）の台数							
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	15,385								15,385

事業の実績	①調達（発注・契約） ・物品を集中調達し、各部署の要望に応じ適正に配付した。 再生紙 A 4（1箱 2,500枚） 2,215箱 A 3（1箱 1,500枚） 187箱 B 5（1箱 2,500枚） 6箱 B 4（1箱 2,500枚） 0箱 兼用紙 A 4（1箱 2,500枚） 40箱 A 3（1箱 1,500枚） 11箱 計 2,459箱			・来庁者の利便を図るため、本庁舎1階に有料コピー機を設置している。 モノクロ 4,364枚 カラー 167枚 計 4,531枚		
	②物品管理 ・集中調達物品の種類を見直し、調達にかかる種類を再構成した。 199種類					
	③事務機器管理 ・職員が効率よく事務機器を使えるよう管理 ・運用及び次年度に向けた台数の調整を行った。 7台（契約管財課で予算執行している台数）					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない												
		・市が各事業に取り組むうえで物品調達及び管理を一括で行うことにより、市全体として事務効率化及び経費削減を図っており、妥当性は十分ある。													
	有効性	評価結果	改善の余地がややある												
		・物品の調達及び管理を一括で行うことにより、市全体の事務効率化及び経費削減に貢献している事業である。要望等により集中調達物品の種類の実績を図っている。 ・高速プリンターの印刷初期設定を両面印刷することにより、コピー用紙使用の抑制を図っている。													
効率性	評価結果	改善の余地がややある													
	・市の予算執行（契約事務）に直接的に関わるため、業務委託は困難な事業である。 ・コピー用紙の発注数については、在庫数での調整を行っている。 ・職員が使用する物品やコピー用紙をまとめて購入することで、コスト削減でき、効率性を図っている。 ・故障等により事務に支障がないようバックアップ機器の確保に取り組むことで事務作業時間が短縮され人件費の抑制に繋がる。														

事務事業の概要	事務事業名		公共施設マネジメント推進事業				担当課		公共施設マネジメント課		事業区分		内部管理事業																																						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		962																																		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		5		地域づくり・行政経営																																						
	予算科目	款	2		総務費				施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成																																						
		項	1		総務管理費				基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進																																						
目		6		財産管理費		取組方針			3		市有財産の効率的・効果的な管理運営																																								
事業概要			市民に提供する施設サービスを適切に維持するため、施設全体を統括的に企画、管理することで、計画的な保全による長寿命化や施設保有量の最適化を図る事業																																																
事務事業を構成する細事業	①		公共施設マネジメント検討委員会運営				⑤		指定管理者選定委員会運営				⑨																																						
	②		公共施設マネジメント計画推進				⑥		市有建築物等の営繕				⑩																																						
	③		個別施設計画推進				⑦						⑪																																						
	④		市有施設維持・保全支援				⑧						⑫																																						
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析																																				
	活動指標	公共施設マネジメント検討委員会開催数		回	目標	3		3		3		3		3		目標開催数以上を開催し、案件付議申請に対しても柔軟に開催対応できている。																																			
		実績	6		5		6																																												
		<指標の計算方法>		年間開催数																																															
	成果指標	解体、統廃合による減少面積		㎡	目標	-2, 412. 5		-2, 412. 5		-2, 412. 5		-2, 412. 5		-2, 412. 5		行政利用を終えた施設の売却1件による延床面積の減少はあったが、目標達成には至らなかった。																																			
		実績	-55		82		-316																																												
		<指標の計算方法>		目標＝公共施設マネジメント計画の縮減目標面積▲96, 500㎡÷40年、実績＝延床面積の減少面積（財産に関する調査から抽出）																																															
	成果指標	依頼を受けた営繕業務の支援実施率		%	目標	0		100		100		100		100		支援依頼件数は令和5年度より13件増加し、依頼を受けた業務に対して100%の支援を実施した。また、市建築事業における基準の統一化も並行して進めている。																																			
		実績	0		100		100																																												
		<指標の計算方法>		支援業務件数÷依頼を受けた業務件数×100																																															
活動指標	指定管理者選定委員会開催数		回	目標	3		3		3		3		3		委員会開催数の減については、業務継続による候補者の再指定であったため、議題をまとめて審議したことによるものである。																																				
	実績	3		3		2																																													
	<指標の計算方法>		年間開催数																																																
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳																																														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源																																				
	3, 566														3, 566																																				
事業の実績	①公共施設マネジメント検討委員会運営 ・開催数 6回 ・案件付議数 12件 民間提案制度導入により案件付議数が増加																	④市有施設維持・保全支援 ・施設保全経費として長寿命化を図るための修繕・更新、大規模改修事業に係る予算要求内容について、専門部会による内容確認と助言を行った。 ・市有施設を適切に建築・維持・保全していくため、計画・設計・工事に際し、営繕班による施設所管課への支援を実施した。																	に係る設計協議、及び工事監督を担った。 ・支援実施件数（111件） 内訳・・・設計17件、工事27件、事業費等算出42件、企画・検討25件																
	②公共施設マネジメント計画推進 ・各政策分野の施設面の取組について関連する計画や財政運営との連携・調整を行い各施設の実態に応じた整備を推進 （各施設所管課が使用実態に応じた整備を実施し、施設解体や地元移管等の協議を終えた）																	⑤指定管理者選定委員会運営 ・開催数 2回 ・案件付議数 1件 ・指定管理者の候補者選定 1件 ・既に指定管理者制度導入施設（5施設）のモニタリング結果（業務履行状況及び評価等）を報告																	⑥市有建築物等の営繕 ・市有建築物の新築（改築）工事や改修工事																
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																																															
		・施設の長寿命化及び施設保有量の最適化を図ることを目的とし、市民に提供する施設サービスを適切に維持するために市が実施することは妥当である。																																																	
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																																															
		・各指標については、ほぼ目標どおり達成できている。 ・施設保有量の縮減については、施設の状態や利用状況を踏まえ、再配置や統廃合の検討を進める必要がある。																																																	
効率性	評価結果		改善の余地がややある																																																
	・令和7年度から個別施設計画対象施設の劣化調査を委託及び当課営繕班にて実施し、サイクルも5年ごとに見直しする。劣化調査のレベルを統一することで、より精度の高い調査結果を今後の施設改修計画や再配置の検討に活用することで適切な計画を推進する。																																																		

事務事業の概要	事務事業名			市有財産管理事業				担当課		公共施設マネジメント課		事業区分		内部管理事業		
								新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号		465
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総 務 費			施策目標			3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		項	1	総務管理費			基本施策			4	将来を見据えた行政経営の推進					
目		6	財産管理費			取組方針	3			市有財産の効率的・効果的な管理運営						
事業概要			市が市有財産の効果的な活用を図るために、市有財産の適正な管理を行う事業													
事務事業を構成する細事業	① 保険加入							⑤	公共施設等の利活用に関する民間提案制度				⑨			
	② 市有財産管理							⑥	公共施設跡地等利活用基本方針の策定				⑩			
	③ 財産処分・私下							⑦					⑪			
	④ 未利用財産の活用							⑧					⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	不動産鑑定委託件数	件	目標	5	5	5	5	5	一般競争入札による売払い対象地の不動産鑑定を実施した。目標値は上回ったが、随意売却等に係る不動産鑑定がなかったため、実績値は令和5年度を若干下回った。	
			実績	14	10	9					
		<指標の計算方法> 市有財産の効果的な活用を図るために実施した不動産鑑定委託件数									
	活動指標	公共施設マネジメント検討委員会付議件数	件	目標	3	5	5	5	5	一般競争入札による市有財産売却や施設保全経費の予算要求の可否に加え、民間提案制度の実施や公共施設跡地等利活用基本方針の策定等もあり、付議件数は令和5年度を大幅に上回った。	
			実績	7	3	12					
		<指標の計算方法> 公共施設マネジメント検討委員会への市有財産の有効活用に関する付議件数									
	成果指標	効率的に処分・私下した資産の件数	件	目標	10	10	10	10	10	法定外公共物の私下げは例年並みであった。しかし、一般競争入札による売却や随意売却の件数が減少したため、目標値は上回ったが実績値は令和5年度より減少した。	
			実績	13	18	12					
		<指標の計算方法> 土地・建物の処分・私下件数のうち有償であったもの									
成果指標	市有財産賃貸借件数	件	目標	30	30	30	30	30	賃貸借物件については、売却や所管替えを実施したため実績値は令和5年度より減少した。今後も賃貸借物件の売却等を実施する方向性であるため、件数は減少していく見込みである。		
		実績	28	27	23						
	<指標の計算方法> 土地及び建物賃貸借件数（事務所、携帯電話基地局等使用許可含むが、電柱、支線等使用許可は除く）										

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	45,560								45,560

事業の実績	①保険加入 ・建物総合損害共済保険加入施設数 535件（一般 445件、水道 63件、下水道 27件） ・総合賠償補償保険への加入 ②市有財産管理 ・財産台帳登録 土地 2,811件 合 計 8,234,272.00㎡ 建物 800件 延面積 264,216.17㎡ ・雑草等刈取業務委託 市有地 27箇所 5,049,060円 ・貴志川町井ノ口地内 市有財産排水路整備工事 ・貴志川町丸栖 塚本団地内 調整池防護フェンス取替修繕 ・貴志川町北市有地 法面修繕 ・貴志川町丸栖 塚本団地内市有地 雑木伐採業務 ・貴志川町丸栖 塚本団地内調整池 周囲雑木伐採業務				・貴志川町井ノ口堤防下市有地 竹林伐採業務 ・貴志川町井ノ口 貴志川スポーツ公園附近 雑木伐採業務 ・貴志川町長山 長山団地調整池内 雑木等伐採業務 ・貴志川町井ノ口市有地 草刈伐採整地業務 ・貴志川町北市有地 草刈整地業務 ・名手市場市有地 地下埋設物調査業務 ・貴志川町長山 長山団地下水处理場跡地土壌検査業務 ③財産処分・私下 ・一般競争入札実施物件数 8件 ・一般競争入札応札件数 1件 ・随意契約による売払い 2件 ・普通財産私下 11件 （うち有償のもの） 9件 ・不動産鑑定委託 9件 ・土地売却に係る調査・登記等業務 3件				（境界点確認、復元測量、分筆、合筆等） ④未利用財産の活用 ・土地 市有地貸付 15件 携帯等基地局 7件 ・建物 庁舎等貸付 1件 ⑤公共施設等の利活用に関する民間提案制度 ・募集要項の策定及び対象物件の選定 ・民間事業者から提案内容について説明 ・プレゼンテーションによる協議対象提案の選定 ・交渉権者の決定 ⑥公共施設跡地等利活用基本方針の策定（R7.4～運用開始） ・市民意見募集（パブリックコメント）の実施						
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
			・市名義の資産管理業務であり、適正な管理・運用・処分等を行うためにも市が実施すべき事業である。												
		有効性	評価結果	改善の余地がややある											
			・普通財産の一般競争入札を継続的に実施し、未利用財産のさらなる処分を推進していく。 ・所管課が不明の市有財産について適切に財産を分類した上で、関係各課協力のもと円滑な調査を実施し、所管課を明確にして財産台帳システムに反映させることが重要である。												
		効率性	評価結果	改善の余地がややある											
			・草刈等の委託可能業務について、外部委託をすることで効率的に業務を進めている。												

事務事業の概要	事務事業名		鞆渕地区公共施設等再編事業				担当課		公共施設マネジメント課		事業区分		ハード事業				
							新規・継続		継続	事業期間	期間限定複数年度（R 1 ～ R 7）		事業番号	1112			
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営						
	予算科目	款	2	総 務 費					施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成						
		項	1	総務管理費					基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進						
目		6	財産管理費			取組方針			3	市有財産の効率的・効果的な管理運営							
事業概要		鞆渕地区の公共施設の再編を行う事業															
事務事業を構成する細事業	①		鞆渕地区公共施設等再編				⑤						⑨				
	②						⑥						⑩				
	③						⑦						⑪				
	④						⑧						⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析							
	成果指標	集約した施設数		棟	目標	3	3	3	3	0	出張所、診療所、消防施設棟の機能集約を目指す。 令和8年1月に運用を開始するため、令和6年度は建築工事に着手した。						
		実績			0	0	0										
		<指標の計算方法>		再編し集約した施設数													
				目標													
	実績																
	<指標の計算方法>																
				目標													
	実績																
	<指標の計算方法>																
			目標														
実績																	
<指標の計算方法>																	
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳												
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
	122, 409								110, 800						11, 609		
事業の実績	①鞆渕地区公共施設等再編 令和5年度に契約を締結した建築工事に着手した。主な工事の内容は次のとおり。 ・鞆渕地区複合施設建設工事 ・出来高率＝50.25% （建設工事の主な内容） ・出張所、診療所棟 ・木造平屋建て ・床面積＝468㎡ ・消防施設棟 ・木造平屋建て ・床面積＝102㎡ ・土のう作業棟 ・床面積＝13㎡ ・今年度進捗 ・基礎工事 ・躯体工事 ・屋根工事 ・外壁工事																
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない													
		・老朽化した各施設を集約し地域の中心に利便性の高い施設を建設するため、妥当性がある。															
	有効性	評価結果		改善の余地がない													
		・施設の機能性、利便性及び安全性を向上する計画に基づいた工事であるため有効性がある。															
	効率性	評価結果		改善の余地がない													
・複数の担当部署で実施すべき事業を当課で一括して進めるため、効率性は高いといえる。 ・現在の事業計画と比較し、事業費の削減が見込まれるため事業実施の効率性は向上する。																	

事務事業の概要	事務事業名		施策計画管理事業				担当課		企画経営課		事業区分		内部管理事業			
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号		479	
	会計		一般会計						政策目標	5	地域づくり・行政経営					
	予算科目	款	2	総務費						施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		項	1	総務管理費						基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進				
	目	7	企画経営費						取組方針	1	効率的・効果的な行政サービスの提供					
事業概要	行政評価による行政経営システムを運用し、限りある資源を有効に活用し、計画的に行政経営を行う事業															
事務事業を構成する細事業	①	まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会運営				⑤	市民意識調査業務				⑨	紀の川インターチェンジ周辺地域整備検討業務				
	②	庁議・部長会運営				⑥	施策評価・事務事業評価				⑩	地域ビジネス創出支援業務				
	③	施策調整・調査研究業務				⑦	市長会要望				⑪	大学誘致調査業務				
	④	和歌山社会経済研究所負担金				⑧	パブリックコメント				⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析						
	活動指標	庁議付議件数	件	目標						令和6年度は施設の廃止に伴う条例改正の付議案件が例年より多かったため、付議案件件数が前年度より若干増加した。付議件数の目標設定はなじまないため設定していない。						
				実績	30	39	41									
	<指標の計算方法>		庁議へ付議された審議案件の件数													
	活動指標	パブリックコメント実施件数	件	目標						市手続要綱に基づき、令和6年度における実施件数は4件で意見は13件あった。実施しなかった3件については、実施機関として裁量の余地がないもの、内部管理に関するもの等、担当課で除外対象とした。実施件数の目標設定はなじまないため設定していない。						
				実績	7	7	4									
	<指標の計算方法>		各種計画策定時等に実施したパブリックコメント（市民意見募集手続）の件数													
	活動指標	行政評価研修開催回数	回	目標	1	2	2	2	2	目標に対して計画どおり2回研修（行政評価基礎研修、行政評価研修）を開催することができ、延べ119人の参加を得られた。						
				実績	1	2	2									
	<指標の計算方法>		職員対象に実施した行政評価制度に関する研修会の回数													
			目標													
			実績													
<指標の計算方法>																
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	35,680														35,680	
事業の実績	①まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会運営 ・第1回審議会（令和6年7月29日） 地方創生推進交付金の効果検証等 ・第2回審議会（令和7年1月14日） 総合戦略の進捗、改訂 ②庁議・部長会運営 ・庁議（13回）、部長会（12回）を開催 【庁議における主な審議事項】 ・計画等の策定、改定（計8件） ・協定の締結（計9件） ・条例の制定、改正（計20件） ・合併20周年記念事業基本方針の策定 ・令和7年度当初予算編成方針 ・令和7年度当初予算における新規・拡充事業等の方針 ③施策調整・調査研究業務 ・民間企業（企業人）との連携を模索し、ソフトバンク（株）とのドローンの実証実験、データに基づいた政策立案の実現を目指す取組を実施。				④和歌山社会経済研究所負担金 ・調査・研究成果の情報提供を受けた。 ⑤市民意識調査業務 ・令和6年12月5日から7年1月10日まで実施 ・対象者：1,500名（18歳以上75歳未満） ・回答率：26.0％ ⑥施策評価・事務事業評価 ・総合計画の39基本施策の施策評価を実施。 ・令和5年度実施事業の正式評価と令和6年度実施事業の仮評価（年度末評価）の事務事業評価を実施。 ・アドバイザーから全事務事業と施策評価シートの添削と指導を受け精度を高めた。 ・事務事業評価を決算主要施策の成果報告書として活用した。 ⑦市長会要望 ・市単独で解決が難しい課題等について、県市長会を通じて、国や県に要望を実施した。 ⑧パブリックコメント				・市政に市民意見を反映させるためパブリックコメントを実施。（件数4件、意見13件） ⑨紀の川インターチェンジ周辺地域整備検討業務 ・開発拠点における導入機能や付加価値、整備・運営スキームの検討、民間事業者の参入意向や立地可能性についての意向調査を実施 ⑩地域ビジネス創出支援業務 ・シンポジウム（5/31）、まちづくり部会を組織し2回のフィールドワーク（9/7～9/8、10/26）と3回の全体会（8/3、10/5、12/14） ・検討会・発表会（1/18）を開催し、市内事業者間で連携への機運が高まった。また、参加事業者による地域課題解決型まちづくり会社が設立された。 ⑪大学誘致調査業務 ・誘致候補となる教育機関等の情報収集・整理を行い、誘致候補機関への意向調査と関係構築に向けた面談を実施し、連携の可能性がある大学と関係強化を図った。							
	事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない											
・総合計画、総合戦略等に基づき、健全な財政運営を行い、持続可能な住民サービスの提供（質の向上）に努める事業であるため、妥当性に問題はない。																
有効性		評価結果		改善の余地がややある												
	・平成22年度から行政評価制度を活用・更新し、施策および事務事業の進行管理を行っているが、総合計画と個別計画及び各事務事業の紐づけが全庁的に意識化されているとは言えない。また、事業の進捗度合いを確認するための適切な指標を設定し、PDCAサイクルに基づき、次年度への成果を意識した事務事業の見直しや廃止、拡大、成果や事業費、人員の方向性を検討することについて全庁的に浸透しているとは言えないため、引き続き制度の周知と活用を促す取組を進める必要がある。															
効率性	効率性	評価結果		改善の余地がややある												
		・人口減少・高齢化、多様化複雑化する住民ニーズ、健全な財政運営を意識した行政経営に取り組んでいるが、事業担当部署において、官民連携やDXの活用についてさらに理解を進める必要がある。そのために、適切な情報提供や支援・提案を行い、各事務事業の成果を意識した有効性の向上を行う必要がある。特に定型業務においては効率化の向上の取組を進めるため、好事例を横展開するなど効果的な庁内連携を行う必要がある。														

事務事業の概要	事務事業名			広域連携事業			担当課		企画経営課		事業区分		ソフト事業								
	新規・継続			継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		476									
	会計			一般会計			長期総合計画体系		政策目標		5		地域づくり・行政経営								
	予算科目	款	2	総務費			施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成										
		項	1	総務管理費			基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進										
事業概要			7			企画経営費			取組方針		1		効率的・効果的な行政サービスの提供								
事業概要			広域的な課題の解決や施策の推進を図るために、近隣市町村と共通課題等の情報・意見交換や連携を行う事業																		
事務事業を構成する細事業	①			広域連携のあり方に関する意見交換会			⑤		全国半島振興市町村協議会			⑨									
	②			吉野川・紀の川流域協議会			⑥		全国過疎地域連盟			⑩									
	③			自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会			⑦					⑪									
	④			紀淡連絡道路実現期成同盟会			⑧					⑫									
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析						
	活動指標	吉野川・紀の川流域協議会定例会等への出席	回	目標											幹事会はオンラインでの開催となったが、定例総会は五條市において開催された。						
			実績	2		2		3													
	<指標の計算方法>		吉野川・紀の川流域協議会定例会等への出席											4年ぶりに開催された令和5年度の自主事業への参加者はなかったが、令和6年度は川上村において源流体験会が実施され、参加者のうち紀の川市に在住の方は6人であった。							
	成果指標	吉野川・紀の川流域協議会自主事業への参加者合計	人	目標	20		20		20		20		20								
			実績	0		0		6													
	<指標の計算方法>		自主事業への参加者の合計																		
	活動指標	自転車活用に係る会議やイベント等への参加回数	回	目標											6月12日に総会が開催され、当市は委任状を提出した。また、11月7日に臨時総会が開催されたが、書面審議であったため会議への参加はなかった。						
			実績																		
	<指標の計算方法>		自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会への参加回数																		
			目標																		
			実績																		
			<指標の計算方法>																		
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳																	
	182			国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源							
事業の実績	①広域連携のあり方に関する意見交換会			・広域連携に係る4市1町（和歌山市、海南市、紀の川市、岩出市、紀美野町）での意見交換会であるが、令和6年度は開催されなかった。			・全国407自治体で構成する会			・定例総会（6/12：欠席（委任状提出））			・臨時総会（書面）11/7			・役員による要望活動			・負担金を支出		
	②吉野川・紀の川流域協議会			・吉野川・紀の川流域の奈良1市3町3村、和歌山4市3町で構成する協議会			④紀淡連絡道路実現期成同盟会			・和歌山県、大阪府、淡路島の16市7町で構成する会			・課長会（7/23 オンライン開催）			・総会（書面会議）			・役員による要望活動（12/16）		
	③自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会			・総会終了後に市立五條文化博物館の見学会に参加した。			⑤全国半島振興市町村協議会			・半島振興法の適用を受ける全国の市町村で構成される協議会			・負担金を支出								
				・幹事会（5/29、12/19オンライン開催）																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																	
		・近隣市町が広域で連携し、共通課題の解決や施策の推進を図ることで、市民サービスの向上につながることを前提とした取組であり、市の関与は妥当である。																			
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																	
		・広域連携のあり方については、共通課題の解決につながるため有効であるが、他の連携項目についても連携するメリットの検証が必要である。																			
効率性	評価結果		改善の余地がない																		
	・最小限度の費用負担であり、改善の余地はない。																				

事務事業の概要	事務事業名		土地利用計画事業				担当課		企画経営課		事業区分		ソフト事業	
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		475			
	会計		一般会計				政策目標		4		都市基盤・生活環境			
	予算科目	款	2	総 務 費				施策目標		1		都市基盤整備・公共交通		
		項	1	総務管理費				基本施策		1		土地の有効利用と住みよい都市環境の整備		
		目	7	企画経営費				取組方針		1		「都市計画マスタープラン」に基づくまちづくりの推進		
	事業概要		計画に基づく適正な土地利用を行ってもらうために、土地売買等届出書の受理や無届土地取引の調査等を行う事業											
	事務事業を構成する細事業		① 国土利用計画				⑤				⑨			
			② 近郊緑地保全区域				⑥				⑩			
			③ 公有地拡大推進				⑦				⑪			
④				⑧				⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析				
	成果指標	土地売買等届出書の届出件数	件	目標						問い合わせ等は一定数あるが、土地売買等届出書の提出の対象外事案が多く、土地売買が行われていないとはいえないものの、実績値としては令和5年度と比較して減少した。				
				実績	36	7	1							
				<指標の計算方法> 制度に基づき提出された土地売買等届出書の届出件数										
	活動指標	土地売買等届出制度の周知回数	回	目標	2	3	3	3	3	届出が必要な要件、期限等を周知することで無届取引や遅延届出の防止を図るもので、4月にはホームページで、土地月間にはホームページとポスター掲示により周知を行った。				
				実績	3	3	3							
				<指標の計算方法> 広報紙・ホームページ等での土地売買等届出制度の周知回数										
	成果指標	無届取引等把握調査で判明した無届件数	件	目標						令和6年度においても依然として無届件数が生じているため、引き続き制度の周知に努めると同時に、効果的な周知方法も検討する必要がある。				
				実績	9	7	3							
				<指標の計算方法> 無届取引等把握調査で判明した無届件数										
活動指標	近郊緑地保全区域内行為（変更）届出件数	件	目標						近畿圏の保全区域の整備に関する法律に基づく届出で、近郊緑地内の開発回数を把握する指標になるが、令和6年度において届出は1件であった。					
			実績	1		1								
			<指標の計算方法> 近郊緑地保全区域内行為（変更）届出件数											
コストの実績	R 6年度決算額（単位：千円）				財源内訳									
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
事業の実績	①国土利用計画 ・国土利用計画法に基づく土地売買等届出書の受理、無届土地取引の調査等で、令和6年度は届出件数1件であった。しかし、届出日が3月であったため、事務交付金としては令和7年度に換算される。また、11月には広報紙などで制度啓発を行った。													
	②近郊緑地保全区域 ・近畿圏の保全区域の整備に関する法律に基づき指定される保全区域（和泉山脈）における開発に関する届出書の受理であるが、令和6年度は1件であった。													
	③公有地拡大推進 ・公有地の拡大の推進に関する法律に基づく届出等の受理で、令和6年度は2件の届出等があった。													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・ 国土利用計画法に基づく事業であり、県からの移譲事務であるため、市が実施主体となる必要がある。												
	有効性	評価結果	改善の余地がややある											
		・ 制度周知を継続して行い、期限後の届出及び無届取引を減らす必要がある。												
	効率性	評価結果	改善の余地がややある											
		・ 不定期に発生する事務に対して効率的にかつ誰もが事務を進めることができるようにマニュアルを更新する必要がある。												

事務事業の概要	事務事業名		空港活性化促進事業				担当課		企画経営課		事業区分	ソフト事業			
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	489	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総務費		施策目標			3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		項	1	総務管理費		基本施策			4	将来を見据えた行政経営の推進					
目		7	企画経営費		取組方針	1			効率的・効果的な行政サービスの提供						
事業概要		関西国際空港周辺の自治体と連携し、空港活性化のための事業を行い、関西国際空港の利用者数の増加を図る事業													
事務事業を構成する細事業	①		空港活性化促進業務				⑤						⑨		
	②		関西国際空港連絡南ルート等早期実現期成会				⑥						⑩		
	③						⑦						⑪		
	④						⑧						⑫		

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	活動指標	中央要望回数	回	目標	1	1	1	1	1	国土交通省及び衆議院・参議院の大阪・和歌山選出の議員事務所を訪問し、要望内容の説明及び要望書の手渡しに参加するもので南ルート等早期実現期成会の重要事業である。		
				実績	1	1	1					
		<指標の計算方法>		地元選出国会議員、国土交通省等への南ルートの実現等に関する要望回数								
	活動指標	空港に関する総会・会議出席回数	回	目標						関西国際空港連絡南ルート等早期実現期成会として開催される総会（1回）、幹事会（2回）に出席した。令和6年度は幹事会が2回開催されたことで令和5年度と比較して会議出席回数が増加した。		
				実績	2	2	3					
		<指標の計算方法>		空港に関する総会・幹事会等会議への出席回数								
				目標								
				実績								
		<指標の計算方法>										
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	64									64

事業の実績	①空港活性化促進業務 ・関西国際空港全体構想促進協議会総会へは、委任状を提出し、総会は欠席した。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						</

事務事業の概要	事務事業名		行財政改革推進事業				担当課		企画経営課		事業区分		内部管理事業			
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	963		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営					
	予算科目	款	2		総務費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		項	1		総務管理費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進					
目		7		企画経営費		取組方針			2	行財政改革の推進						
事業概要		市が適正かつ効率的な行財政の運営をするために、第4次紀の川市行財政改革大綱に基づき、内部及び外部組織により計画策定や進捗管理を行い、その状況を公表する事業														
事務事業を構成する細事業	①		行財政改革推進委員会運営				⑤		職員提案制度		⑨					
	②		行財政改革推進本部運営				⑥		地方分権推進業務		⑩					
	③		行財政改革専門部会運営				⑦		組織機構改革業務		⑪					
	④		民間委託・官民連携推進業務				⑧		有料広告審査業務		⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析						
	活動指標	行財政改革推進委員会開催回数		回	目標	1	1	1	1	1	令和6年度は行財政改革推進計画の令和5年度進捗状況の報告、令和6年度推進事項について審議いただくため、委員会を1回開催した。					
		実績			4	1	1									
		<指標の計算方法> 行財政改革推進委員会年間開催回数														
	成果指標	職員提案制度の提案採択件数		件	目標	4	4	4	4	4	令和6年度の提案件数は5件で、うち4件が採用3年目職員の研修、研修以外は1件と提案件数の減少に伴い、採択件数も減少した。（令和5年度：研修6件、研修以外2件、計8件） 第4次行財政改革大綱の推進項目23項目のうち、19項目について重点推進項目を設定し、10項目で目標を達成した。					
		実績			1	3	1									
		<指標の計算方法> 職員提案制度の提案採択件数														
	成果指標	行財政改革大綱推進項目の取組件数		項目	目標	5	10	10	10	10	第4次行財政改革大綱の推進項目23項目のうち、19項目について重点推進項目を設定し、10項目で目標を達成した。					
		実績			10	18	19									
		<指標の計算方法> 行財政改革大綱推進項目の取組件数														
活動指標	行財政改革の進捗状況の公表		件	目標	1	1	1	1	1	進捗状況は、市ホームページで公表した。						
	実績			1	1	1										
	<指標の計算方法> 行財政改革の進捗状況の公表件数															
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	841														841	
事業の実績	①行財政改革推進委員会運営 ・第1回推進委員会（7/10） 令和5年度行財政改革推進計画の進捗状況、令和6年度重点推進項目について審議し、市長に提言を行った。					ため令和6年度中（株）富士薬品、大塚製薬（株）、あいおいニッセイ同和損害保険（株）及びトヨタカローラ和歌山（株）、わかやま市民生活協同組合、ソフトバンク（株）との包括連携協定を締結した。					・令和7年4月1日施行の組織機構改革は実施されなかった。					
	②行財政改革推進本部運営 ・第1回推進本部会議（6/3） 令和5年度行財政改革推進計画の進捗状況、令和6年度重点推進項目、庁内における機運醸成について審議した。					⑤職員提案制度 ・近畿経済産業局と連携した政策立案に向けたデータ利活用（RESAS）研修の実施 ・5件の職員提案があり、1件を採択した。（紀の川市ホームページにおける外国人住民向け特設ページの導入）					⑧有料広告審査業務 ・総合インフォメーション、介護保険冊子、子育てガイドブック、市税納税通知書送付用封筒、空き家対策ガイドブックへの広告掲載について審査した。					
事業の実績	③行財政改革専門部会運営 ・第1回専門部会（5/20） 令和5年度行財政改革推進計画の進捗状況、令和6年度重点推進項目について審議した。					⑥地方分権推進業務 ・「和歌山県の事務処理の特例に関する条例」に基づき権限移譲を受けた事務について、交付金の交付を受けた。										
	④民間委託・官民連携推進業務 ・市の各種事業や取組を効果的に推進する					⑦組織機構改革業務										
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない												
		・今後の人口推移や財政状況、社会情勢に応じた行財政改革を推進していく。														
	有効性	評価結果		改善の余地がややある												
		・庁内においては5つの専門部会による取り組みが中心となっているため、業務改善に繋がる取組みの推進に関しては、全庁的な取り組みとなるような機運の醸成が必要である。 ・先進的な事例や民間の知見も参考にしながら、より有効な手法を検討する必要がある。														
効率性	評価結果		改善の余地がややある													
	・人口減少や少子高齢化の進行をはじめ、社会情勢の変化に対応するためには、更なる業務改善、効率化を図る取組みの検討が必要である。 ・今後、市民サービスの多様化や複雑化が予想され、既存の経営資源（カネ、ヒト、モノ）では対応が困難となることも予想されるため、より効率的な行財政運営が求められる。															

事務事業の概要	事務事業名		合併２０周年記念啓発事業				担当課		企画経営課			事業区分		ソフト事業				
			新規・継続				新規		事業期間		単年度のみ		事業番号		1245			
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		5		地域づくり・行政経営					
	予算科目	款	2		総 務 費				施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		項	1		総務管理費				基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進					
目		7		企画経営費					取組方針		9		その他					
事業概要		市全体が一体となって更なる飛躍を目指すため、市内外を問わず広く、合併20周年を啓発する事業																
事務事業を構成する細事業	①		基本方針策定				⑤				⑨							
	②		啓発物資作成				⑥				⑩							
	③		市民参画推進				⑦				⑪							
	④						⑧				⑫							

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	啓発物資の作成アイテム数	件	目標				9		9月補正予算に計上し議決をいただいた予算において、予定通り啓発物資を作成することができた。	
				実績				9			
		<指標の計算方法>		合併20周年の機運を高めるために作成した啓発物資数							
	成果指標	合併20周年記念キャッチフレーズ応募件数	件	目標				100		合併20周年記念キャッチフレーズ募集要領に基づき募集した結果、市内外から167作品の応募があった。	
				実績				167			
		<指標の計算方法>		募集要領に基づき応募いただいた総件数							
	成果指標	合併20周年記念ロゴマーク等の使用許可申請件数	件	目標					5	令和7年度中を実施期間として共に合併20周年を盛り上げるためにロゴマークや啓発物資の貸与等を希望する事業の申請を受け付ける予定であり、令和6年度においては合併20周年記念冠事業取扱要綱を策定した。	
				実績							
		<指標の計算方法>		合併20周年記念冠事業取扱要綱に基づき記念ロゴマーク等の使用申請の提出件数							
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	2, 341									2, 341

事業の実績	①基本方針策定		③市民参画推進	
	・令和7年度に合併20周年の節目を迎えるにあたり、市民全体で祝い改めてまちを愛し、誇りに思う機会とするとともに、次世代を担う人材に夢と希望を与える機会とし、市全体が一体となってさらなる飛躍を目指すため基本方針を策定した。		・合併20周年記念キャッチフレーズの募集に際して多くの市民の皆さまの参画を得てキャッチフレーズ「笑顔で歩んだ20年 輝く未来へ紀の川市」を選定した。 ・合併20周年を市と一緒にあって盛り上げてくれる市民・各種団体・事業者を募集するため、合併20周年記念冠事業取扱要綱を策定した。	
	②啓発物資作成			
	・合併20周年の機運を高めるため、啓発物資として、のぼり、卓上ミニのぼり、懸垂幕、缶・ピンバッジ、ポスター、車両用マグネット、郵便局車両用ステッカー、郵便物用ステッカーを作成し、令和7年度当初からの啓発に備えた。 ・市出身のデザイナー岩田直樹氏に業務を委託して、合併20周年記念ロゴマークを作成した。			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・市の合併20周年記念事業を啓発する事業であり、市が実施すべき事業である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
		・合併20周年を市民とともに祝うという観点からもより多くの市民、各種団体、事業者の参画が必要である。		
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・他団体の先進事例を参考に検証し、民間事業者への委託も実施しており、効率的に業務を進めることができた。			

事務事業の概要	事務事業名		長期総合計画等策定事業				担当課		企画経営課		事業区分		ソフト事業	
							新規・継続		新規	事業期間	期間限定複数年度（R 6 ～ R 8）		事業番号	975
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営			
	予算科目	款	2	総 務 費					施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		項	1	総務管理費					基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
目		7	企画経営費			取組方針			9	その他				
事業概要		第3次長期総合計画【「基本構想」：計画期間8年（令和9年度から令和16年度）、「前期基本計画」：計画期間4年（令和9年度から令和12年度）】及びまち・ひと・しごと創生総合戦略（総合計画に包含）について、令和6年度から8年度までの3か年で策定する事業												
事務事業を構成する細事業	①		第3次紀の川市長期総合計画策定支援業務に係るプロポーザル審査				⑤				⑨			
	②						⑥				⑩			
	③						⑦				⑪			
	④						⑧				⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	活動指標	第3次長期総合計画策定支援業務に係るプロポーザル審査委員会開催回数	回	目標			3	0	0	予定どおり開催し、優先交渉権者を決定した。		
				実績			3					
		<指標の計算方法>										会議の開催回数
	活動指標	長期総合計画審議会の開催回数	回	目標				4	4	市長からの諮問を受けた審議会において、市の現状や社会潮流を把握し、現行計画での取組課題、市民参画により明らかになった市民ニーズ等について、第3次総合計画策定のために審議する。審議会は令和6年度は開催していない。令和7年度、8年度ではそれぞれ4回程度開催予定。		
				実績								
		<指標の計算方法>										会議の開催回数
	活動指標	長期総合計画本部会の開催回数	回	目標				4	4	長期総合計画本部設置要綱に基づく総合計画策定のための庁内組織。本部長は副市長、副本部長は教育長、本部員は各施策を担当する部長級職員からなる。令和6年度は開催していない。令和7年度、8年度ではそれぞれ4回程度開催予定。		
実績												
<指標の計算方法>												会議の開催回数
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
7									7	

事業の実績	①第3次紀の川市長期総合計画策定支援業務に係るプロポーザル審査委員会運営			
	・第1回審査委員会 令和7年1月6日 審査委員会について説明 委託業務、プロポーザル実施手順等について審議			
	・第2回審査委員会 令和7年2月14日 企画提案説明会について協議			
	・第3回審査委員会 令和7年2月19日 企画提案説明会、審査表集計結果報告、優先交渉権者の特定			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない
		・市民との共創により、市の今後の方向性を示す総合計画を策定する事業であり、妥当性に問題はない。	
	有効性	評価結果	改善の余地がややある
		・計画策定にあたっては、数多くのデータ収集・分析や社会潮流を捉える部分など、専門的な知識・技術が必要であり、また、時間及びコストの面から業務内容の一部を外部委託することで、職員は計画の根幹部分の検討・策定に注力することができる。業務を委託することで有効性の向上を図っている。さらに、潜在的な市民意識を複雑な分析で明らかにする業務や、市民との共創が図れるヒアリング手法等については、さらに外部知見・手法を活用し、よりよい総合計画策定となるよう有効性の向上を図る必要がある。	
	効率性	評価結果	改善の余地がない
・策定業務により例年と異なる業務に対して新たに増員をしておらず、必要最小限の事業費、人件費で事業を実施している。			

事務事業の概要	事務事業名				粉河支所運営事業				担当課		粉河支所		事業区分		ソフト事業					
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1052	
	会計				一般会計						政策目標		5		地域づくり・行政経営					
	予算科目	款	2	総 務 費				長期総合計画体系		施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成						
		項	1	総務管理費						基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進						
目	8	支所及び出張所費				取組方針				9		その他								
事業概要		市民が市民サービスを受けられるように、粉河支所を開設、運営する事業																		
事務事業を構成する細事業			①	窓口対応				⑤						⑨						
			②	各団体支援				⑥						⑩						
			③					⑦						⑪						
			④					⑧						⑫						
指標の実績			指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	6		6		6		6		6		支所が事務局となっているすべての団体等に対して支援を行った。					
				実績	6		6		6											
				<指標の計算方法> 区長会、消防団、交通指導員会、民生委員、敬老会実行委員会、民生委員推薦準備会																
	成果指標	支援実施数	回	目標	88		119		120		120		120		特に部会等の研修会を実施した民生委員児童委員協議会への支援回数が増加している。					
				実績	100		126		159											
				<指標の計算方法> 各団体への会議、活動等の支援回数																
	活動指標	業務対応件数	件	目標	21,000		22,000		21,000		22,000		22,000		前年度と比べ、市民生活系の「市民課」業務の対応件数が増加している。					
				実績	25,423		18,712		20,023											
				<指標の計算方法> 来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数																
				目標																
				実績																
		<指標の計算方法>																		
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳															
	1,903				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
事業の実績	①窓口対応(20,023件) 〔主な業務〕 ・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付 ・市道等の維持補修、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・指定ゴミ袋等販売 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍謄・抄本、住民票の発行 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・マイナンバーカード受付 ・選挙関係 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請受付																			
	・要介護等申請受付、相談 ・福祉医療関係相談、受付 ・国民健康保険加入受付、各種届出受理 ・後期高齢者医療各種届出受理 ・国民年金加入、喪失等各種手続き ②各団体支援(159回) ・交通指導員会 29回 ・消防団 27回 ・区長会 11回 ・民生委員児童委員協議会 48回 ・敬老会実行委員会 41回 ・民生委員推薦準備会 3回																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・紀の川市支所及び出張所設置条例に基づき、生活と密着した地域に市役所の出先機関である支所があることは、地域住民にとって必要性が高い。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がない																
		・高齢者や身体に不自由がある方など、移動に制限のある方へのサービス提供に特に有効である。 ・「デマンド乗合交通」が開始され、河北東エリアでの粉河支所または那賀支所へ来所しやすさが向上している。 ・各所管課の窓口業務が事業内容となるため、専門性を持った人材を活用することが難しい。																		
効率性	評価結果		改善の余地がない																	
	・多岐にわたり複雑化している住民ニーズや事案の初期対応に効果があり、住民にとって利便性が高い。																			

事務事業の概要	事務事業名			粉河支所施設管理事業				担当課		粉河支所		事業区分		ソフト事業	
	新規・継続			継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1053			
	会計			一般会計				政策目標		5		地域づくり・行政経営			
	予算科目	款	2	総務費				施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		項	1	総務管理費				基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進			
		目	8	支所及び出張所費				取組方針		9		その他			
	事業概要			市民が支所を安全で快適に利用できるように、粉河支所の適切な維持管理や改修を行う事業											
	事務事業を構成する細事業	① 粉河支所施設管理			⑤				⑨						
		②			⑥				⑩						
		③			⑦				⑪						
④			⑧				⑫								
指標の実績	指標名			単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析				
	活動指標	施設目視点検		日	目標	243	243	243	242	241	開庁日の就業時間前に、支所入口付近を中心に安全点検を行っている。				
		実績			243	243	243								
		<指標の計算方法>			開庁日に施設内の目視点検を行う日数										
	成果指標	点検不足による事故件数		件	目標	0	0	0	0	0	支所入口(自動ドア)から窓口カウンターの間をスロープ状に段差を解消しているため、黒黄色の注意喚起シール及び手すりの設置等の安全対策を行っている。				
		実績			0	0	0								
		<指標の計算方法>			支所内事故発生件数										
					目標										
		実績													
		<指標の計算方法>													
				目標											
	実績														
	<指標の計算方法>														
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳										
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
	1,266									1,266					
事業の実績	①粉河支所施設管理 粉河ふるさとセンター内にある支所の維持管理を適切に行った。 ・「書かない窓口」の設置に伴い効果的に運用するため、高齢者等及びプライバシーに配慮した窓口カウンター等を設置した。 ・支所内の倉庫の照明をLED化した。														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない												
		・来庁者に安全・快適に支所を利用していただくために必要である。													
	有効性	評価結果	改善の余地がない												
		・支所内で事故もなく、来庁者からの施設・設備に関する苦情もない。													
	効率性	評価結果	改善の余地がない												
		・必要に応じて改修・修繕を行いながら計画的に維持管理を行っていく。													

事務事業の概要	事務事業名				那賀支所運営事業				担当課		那賀支所		事業区分		ソフト事業						
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1054		
	会計				一般会計								政策目標		5		地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2 総 務 費							長期総合計画体系				施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		項	1 総務管理費											基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進			
	目	8 支所及び出張所費											取組方針		9		その他				
事業概要		市民が市民サービスを受けられるように、那賀支所を開設、運営する事業																			
事務事業を構成する細事業		①	窓口対応				⑤					⑨									
		②	各団体支援				⑥					⑩									
		③					⑦					⑪									
		④					⑧					⑫									
指標の実績	活動指標	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析 支所が事務局となっているすべての団体の支援を行っている。					
		各種支援団体数	団体	目標		6		5		5		6		5							
				実績		6		5		5											
		<指標の計算方法>		交通指導員会、消防団、区長会、民生児童委員協議会、敬老会実行委員会																	
	成果指標	支援実施数		回	目標		80		80		80		80		80		目標を上回る成果となっている。				
		実績			75		107		106												
		<指標の計算方法>		各団体への会議、活動等の支援回数																	
		活動指標	業務対応件数		件	目標		15,000		15,000		15,000		21,000		21,000		目標を上回る成果となっている。			
	実績			24,055		22,911		23,742													
	<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数																		
コストの実績				目標																	
	実績																				
	<指標の計算方法>																				
	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																
						国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
				8,938		2,692										6,246					
事業の実績	①窓口対応 23,742件 (主な業務) ・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付 ・市道等の維持修繕、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍簿・抄本、住民票の発行 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・指定ゴミ袋等販売 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請交付 ・要介護等申請受付、相談 ・福祉医療関係相談、受付																				
	・国民健康保険加入受付、各種届出受理 ・後期高齢者医療各種届出受理 ・国民年金加入、喪失等各種手続き ・マイナンバーカード受付 ・浄化槽設置整備事業現場立会い ・期日前投票所の開設・運営																				
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																	
		・紀の川市支所及び出張所設置条例に基づき、地域住民生活に直接影響を及ぼす事業であるため、継続して実施すべきである。																			
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																	
		・各所管課の窓口業務処理に対応する専門性を持った人材を活用することが難しい。 ・高齢者や障害者等移動に困難な方への対応に有効であるが、窓口対応が複雑化していくなか、専門的な対応が困難になっている。																			
効率性	評価結果		改善の余地がややある																		
	・多種多様な住民ニーズに対応するため、現体制で可能な限り対応する。																				

事務事業の概要	事務事業名			那賀支所施設管理事業				担当課		那賀支所		事業区分		ソフト事業					
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1055	
	会計			一般会計								政策目標		5		地域づくり・行政経営			
	予算科目	款	2	総 務 費				長期総合計画体系		施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		項	1	総務管理費						基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進					
目	8	支所及び出張所費				取組方針				9		その他							
事業概要			市民が支所を安全で快適に利用できるように、那賀支所の適切な維持管理や改修を行う事業																
事務事業を構成する細事業	①			那賀支所施設管理				⑤						⑨					
	②							⑥						⑩					
	③							⑦						⑪					
	④							⑧						⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析		
	活動指標	那賀保健福祉センター施設管理業務		件	目標	8		9		8		9		9		施設のメンテナンスを徹底し、施設内の点検を定期的に行い、優先順位を決め修理し来庁者に快適な環境を提供ができています。	
				実績	9		10		13								
	<指標の計算方法>		施設の維持管理・保守、修繕の件数														
					目標												
					実績												
	<指標の計算方法>																
					目標												
					実績												
	<指標の計算方法>																
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
	9,607														9,607		

事業の実績	①那賀支所施設管理業務委託											
	・機械警備業務											
	・清掃業務（日常）											
	・清掃業務（定期）											
	・空調設備保守点検業務											
	・電気保安業務											
	・エレベーター保守点検業務											
	・消防設備保守点検業務											
	・特殊建築物建築設備定期検査業務											
	・特殊建築物防火設備定期検査業務											
	・貯水槽清掃等業務											
	施設修繕											
	・浄化槽攪拌パワー修繕											
・自家発電設備修繕												
	施設備品											
	・那賀支所窓口改修備品											

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・紀の川市支所及び出張所設置条例に基づき、市民が安全に施設を利用していくために、施設管理に必要な修繕等を行なう事業。																
	有効性	評価結果	改善の余地がややある															
		・施設管理の業務委託を実施していくことで、良好に維持出来ており来庁者からの苦情もない。 ・事故もなく来訪者から苦情もないが、耐用年数が経過している機器設備がある。																
	効率性	評価結果	改善の余地がない															
・今後も計画的な修繕を実施していくことで効率性を高めると考えられる。																		

事務事業の概要	事務事業名				桃山支所運営事業				担当課		桃山支所		事業区分		ソフト事業						
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1056		
	会計				一般会計								政策目標		5		地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2 総 務 費							長期総合計画体系		施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		項	1 総務管理費									基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進					
	目	8 支所及び出張所費									取組方針		9		その他						
事業概要				市民が市民サービスを受けられるように、桃山支所を開設、運営する事業																	
事務事業を構成する細事業	① 窓口対応				⑤								⑨								
	② 各団体支援				⑥								⑩								
	③				⑦								⑪								
	④				⑧								⑫								

指標の実績		指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
		活動指標	各種支援団体数	団体	目標	8	8	8	8	8	民生委員の交代がなかったため民生委員推薦準備会の実績はなかったが、他の団体については目標どおり支援を実施することができた。		
					実績	8	7	7					
		<指標の計算方法>		区長会、消防団、交通指導員、民生委員、敬老会実行委員会、あら川の桃振興協議会、中国研修生受入協議会、民生委員推薦準備会									
		成果指標	支援実施数	回	目標	150	150	150	150	150	各団体、従来どおりの活動を行い、目標どおりの支援を行うことができた。		
					実績	127	147	148					
		<指標の計算方法>		各団体への会議、活動等の支援回数									
		活動指標	業務対応件数	件	目標	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	件数に比して業務に従事する時間が減少していないので、効率的な処理が行えるよう手段を講じる必要がある。		
					実績	19,276	18,139	16,263					
		<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数									
			目標										
			実績										
			<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳						
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	12,234				1,246						10,988

事業の実績	①窓口対応 16,263件 (主な業務) ・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付 ・市道等の維持補修、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍謄・抄本、住民票の発行 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・指定ゴミ袋等販売 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請受付 ・要介護等申請受付、相談 ・福祉医療関係相談、受付																	
	・国民健康保険加入受付、各種届出受理 ・後期高齢者医療各種届出受理 ・国民年金加入、喪失等各種手続き ・マイナンバーカード受付 ・期日前投票所の開設・運営																	
事業の実績	②各団体支援 (148回) 交通指導員会 28回 消防団 23回 区長会 11回 民生委員児童委員協議会 30回 あら川の桃振興協議会 38回 中国研修生受入協議会 12回 敬老会実行委員会 6回 民生委員推薦準備会 0回																	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																	
		・紀の川市支所及び出張所設置条例に基づき、行政サービスを行うため、市が実施する以外に考える余地はない。																		
	有効性	評価結果	改善の余地がない																	
		・住民サービスは限られた人数の中で対応できている。																		
効率性	評価結果	改善の余地がややある																		
	・窓口対応は減少しているが、多岐にわたるニーズに対応する必要がある、専門性の高い業務においては時間を要する場合もある。																			

事務事業の概要	事務事業名		桃山支所施設管理事業				担当課		桃山支所		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1057	
	会計		一般会計						政策目標		5		地域づくり・行政経営					
	予算科目	款	2		総 務 費				長期総合計画体系	施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		項	1		総務管理費					基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進				
		目	8		支所及び出張所費					取組方針		9		その他				
	事業概要		市民が支所を安全で快適に利用できるように、桃山支所の適切な維持管理や改修を行う事業															
			①		桃山支所施設管理				⑤						⑨			
	事務事業を構成する細事業		②						⑥						⑩			
			③						⑦						⑪			
		④						⑧						⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	桃山支所施設管理業務	件	目標	10		10		10		10		10		支所利用者に不便をかけないように、専門資格の必要な業務については業務委託を行い、修繕が必要な箇所は早急に対応した。			
				実績	12		13		16									
				<指標の計算方法>								施設維持管理のための対応件数						
				目標														
				実績														
				<指標の計算方法>														
				目標														
				実績														
				<指標の計算方法>														
			目標															
			実績															
			<指標の計算方法>															
			目標															
			実績															
			<指標の計算方法>															
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳													
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	7,716								400						7,316			
事業の実績	①桃山支所施設管理業務委託 定期清掃業務 機械警備業務 電気保安業務 エレベーター保守点検業務 消防設備保守点検業務 照明LED化工事設計委託業務				窓口カウンター 窓口用什器 窓口用ロールカーテン													
	修繕 空調設備修繕 2回 エレベーター修繕 2回 2Fサーバー室天井修繕 消防設備配線修繕 3Fブラスター取替修繕																	
	備品																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない														
		・紀の川市支所及び出張所設置条例に基づき、行政サービスの出先機関として、利用者に快適に安心して支所を利用いただくために必要である。																
	有効性	評価結果		改善の余地がない														
		・利用者が安心して施設を利用するために必要な業務になる。																
	効率性	評価結果		改善の余地がない														
		・予算内で施設の維持管理を実施できている。																

事務事業の概要	事務事業名 貴志川支所運営事業				担当課		貴志川支所		事業区分		ソフト事業					
					新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1059	
	会計 一般会計				長期総合計画体系		政策目標		5		地域づくり・行政経営					
	予算科目		款				2		総務費							
			項				1		総務管理費							
		目		8		支所及び出張所費										
事業概要				市民が市民サービスを受けられるように、貴志川支所を開設、運営する事業												
事務事業を構成する細事業				① 窓口対応				⑤				⑨				
				② 各団体支援				⑥				⑩				
				③				⑦				⑪				
				④				⑧				⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	6		6		6		6		6		支所が事務局となっている団体の支援をしている。民生委員児童委員の改選がなかったため民生委員推薦準備会は開催されていない。	
				実績	5		5		5							
	<指標の計算方法> 区長会、消防団、交通指導員会、民生委員児童委員協議会、敬老会実行委員会、民生委員推薦準備会															
	成果指標	支援実施数	回	目標	100		100		100		100		100		各団体が従来通りの活動を行うことで、目標値に近づいている。	
				実績	49		58		87							
	<指標の計算方法> 各団体への会議、活動等の支援回数															
成果指標	業務対応件数	件	目標	43,000		43,000		43,000		43,000		43,000		前年度と比較して、戸籍交付、マイナンバー関連業務、福祉業務の件数が増加している。		
			実績	48,645		38,299		40,139								
<指標の計算方法> 来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数																
			目標													
			実績													
<指標の計算方法>																

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳											
	10,146			国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
			2,761											7,385	

事業の実績	①窓口対応 40,139件 (主な業務) ・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付 ・市道等の維持補修、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍謄・抄本、住民票の発行 ・マイナンバーカード受付 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・指定ごみ袋等販売 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請受付 ・要介護等申請受付、相談			・福祉医療関係相談、受付 ・国民健康保険加入受付、各種届出受理 ・後期高齢者医療各種届出受理 ・国民年金加入、喪失等各種手続き ・期日前投票所の開設・運営					
	②各団体支援 87回 ・区長会 9回 ・消防団 30回 ・交通指導員会 28回 ・民生委員児童委員協議会 17回 ・敬老会実行委員会 3回								

事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がややある											
		・紀の川市支所及び出張所設置条例に基づき、生活と密着した地域に市役所の出先機関があることは地域住民にとって必要性が高く、市が実施するのは妥当である。コンビニ交付などを推進する一方、支所の窓口業務が幅広く複雑になり専門性も求められる中で、住民ニーズや制度等の変化に対応して支所業務を見直していく必要もある。													
	有効性	評価結果		改善の余地がない											
		・高齢者や身体に不自由がある方など、移動に制約のある方へのサービス提供に特に有効である。													
効率性	評価結果		改善の余地がない												
	・サービス拠点を分散して身近に設けることは周辺住民の利便性を高め効率的である。														

事務事業の概要	事務事業名				貴志川支所施設管理事業				担当課		貴志川支所			事業区分			ソフト事業						
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し			事業番号		1060			
	会計				一般会計				長期総合計画体系		政策目標		5		地域づくり・行政経営								
	予算科目				款		2				総務費												
					項		1				総務管理費												
				目				8		支所及び出張所費					基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進				
												取組方針		9		その他							
事業概要				市民が支所を安全で快適に利用できるように、貴志川支所の適切な維持管理や改修を行う事業																			
事務事業を構成する細事業				① 貴志川支所施設管理				⑤								⑨							
				② 未利用財産の活用				⑥								⑩							
				③				⑦								⑪							
				④				⑧								⑫							

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	活動指標	貴志川支所施設管理業務	件	目標	15	25	25	25	25	施設の長寿命化と経費削減を図りつつ、安全かつ快適に利用できるよう維持管理及び修繕等を行っている。		
				実績	36	31	41					
	<指標の計算方法>		支所の維持管理とメンテナンス									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	21,490		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
					500			20,990

事業の実績	① 貴志川支所施設管理 【業務委託等】 ・定期清掃業務 ・貯水槽清掃業務 ・機械警備業務 ・電気保安管理業務 ・空調設備保守点検業務 ・エレベーター保守点検業務 ・消防設備保守点検業務 ・浄化槽保守点検業務 ・浄化槽法定検査 ・雑草等刈取業務 【施設修繕等】 支所（貴志川保健福祉センター） ・無停電電源装置バッテリー交換修繕 ・給湯室(1F)排水管路修繕 ・1階天井ボード修繕 ・受水槽ポンプ修繕 ・給水管漏水修繕			・エレベーターカゴ内照明取替（LED×4） ・浄化槽 放流ポンプNo.1・No.2取替修繕 ・調理室水栓パッキン取替修繕 ・貴志川支所駐車場防犯灯取替修繕 ・1階女子トイレ漏水修繕 ・北側駐車場車止め修繕 ・エレベーター機械室 雨水排水管路修繕 河南図書館 ・2Fブラインド修繕（近畿農政局内） ・浄化槽汚水ポンプ及びフロート取替修繕 ・浄化槽用電磁開閉器取替修繕 ・2階 事務室D空調機器修繕 ・排煙窓雨漏り修繕 ・屋上トップライト排煙装置応急処置 ・屋上トップライト排煙装置(開閉装置)修繕 ・駐車場区画線補修（正面玄関・裏口） ・2階 事務室B空調機器修繕 ・浄化槽放流ポンプNo.1・No.2取替修繕 他敷地内 ・公文書庫西側駐車場水路修繕			・中貴志コミュニティセンターから公文書庫の配線修繕 ・西側駐車場グレーチング交換(2枚) ・ワークサロン貴志川 流し台トラップ修繕 【工事請負】 ・貴志川支所照明LED化工事設計業務 【備品購入】 ・災害確認用32型テレビ ・ホワイトボード ・チェンソー(バッテリー・充電器付) ・窓口カウンター仕切パネル		
	② 未利用財産の活用 ・建物 庁舎等貸付7件 河南図書館2階3階 4件 公文書庫 2件 支所 1件								

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・ 紀の川市支所及び出張所設置条例に基づき、施設を有効に活用するための維持管理及び修繕は必要である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
		・ 施設の長寿命化のため、貴志川支所LED化が必要である。		
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・ 必要に応じて修繕等を実施しながら計画的に維持管理することが効果的である。			

事務事業の概要	事務事業名		鞆淵出張所運営事業				担当課		鞆淵出張所			事業区分		ソフト事業			
			新規・継続				継続		事業期間	単年度繰返し			事業番号		1062		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営						
	予算科目	款	2	総 務 費					施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成						
		項	1	総務管理費					基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進						
目		8	支所及び出張所費						取組方針	9	その他						
事業概要		市民が市民サービスを受けられるように、鞆淵出張所を開設、運営する事業															
事務事業を構成する細事業	①		窓口対応				⑤					⑨					
	②		各団体支援				⑥					⑩					
	③						⑦					⑪					
	④						⑧					⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	3	3	3	3	3	鞆淵地域特有の団体を含め、目標どおりの団体支援を実施できている。	
				実績	3	3	3				
		<指標の計算方法>		区長会、県道かつらぎ桃山線大改修期成同盟会、真国川を美しくする会							
	成果指標	支援実施数	回	目標	110	200	30	30	30	各種支援団体の活動や会議はほぼ予定通り行われた。今年度より、会議数のみのカウントとしている。	
				実績	220	241	32				
		<指標の計算方法>		各種団体等への会議、活動等の支援回数							
	活動指標	業務対応件数	件	目標	2,700	2,700	1,000	1,000	1,000	今年度より、電話対応等はカウントせず窓口対応のみのカウントとしている。地域住民数の減少により、窓口対応も減少している。	
				実績	3,162	3,122	994				
		<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談等の対応件数							
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	4,974							

事業の実績	①窓口対応 994件 (主な業務)		②各団体支援
	・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談申請受付 ・市道等の維持補修、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍謄・抄本、住民票の発行 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・指定ゴミ袋等販売 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請受付 ・要介護等申請受付、相談 ・福祉医療関係相談、受付		
		・国民健康保険加入受付、各種届出受理 ・後期高齢者医療各種届出受理 ・国民年金加入、喪失等各種手続き ・マイナンバーカード受付 ・鞆淵山林財産区議会	・敬老会関係含む) 17回 ・県道かつらぎ桃山線大改修期成同盟会 10回 ・真国川を美しくする会 5回

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある
		・紀の川市支所及び出張所設置条例に基づき、鞆淵地区において行政サービスを行うため、市が実施する以外に考える余地はない。 ・鞆淵地区公共施設統合に向け、市の方針に従い実施。統合後は、施設集約により利便性の向上に期待できる。	
	有効性	評価結果	改善の余地がない
		・他の施設まで遠く交通も不便な高齢化が進む地域においては、窓口を設置することにより地域住民へのサービスは十分にできている。	
効率性	評価結果	改善の余地がない	
	・多岐にわたる業務を一般職員2名、会計年度任用職員1名の体制で対応している。		

事務事業の概要	事務事業名		鞆淵出張所施設管理事業				担当課		鞆淵出張所		事業区分		ソフト事業		
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1063				
	会計		一般会計				政策目標		5	地域づくり・行政経営					
	予算科目	款	2	総 務 費				長期総合計画体系	施策目標		3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		項	1	総務管理費					基本施策		4	将来を見据えた行政経営の推進			
		目	8	支所及び出張所費					取組方針		9	その他			
	事業概要		市民が出張所を安全で快適に利用できるように、鞆淵出張所の適切な維持管理や改修を行う事業												
	事務事業を構成する細事業	①		鞆淵出張所施設管理				⑤				⑨			
		②						⑥				⑩			
		③						⑦				⑪			
④						⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
	活動指標	出張所施設管理業務	件	目標	20	3	3	3	3	来庁者に安全で快適に利用していただけるよう、保守点検や修繕等を実施しながら施設の維持や管理を行っている。引き続き敷地内植栽の手入れを職員にて実施している。					
		実績		4	3	3									
		<指標の計算方法>		出張所の維持管理実施件数											
				目標											
		実績													
		<指標の計算方法>													
				目標											
		実績													
		<指標の計算方法>													
			目標												
	実績														
	<指標の計算方法>														
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳										
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
	1,337									1,337					
事業の実績	①鞆淵出張所施設管理業務委託 ・消防設備保守点検業務委託 ・浄化槽保守点検業務委託 ・浄化槽法定検査														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある												
		・行政サービスの出先機関として、来庁者に快適に安心して出張所を利用していただくために必要である。 ・鞆淵地区公共施設統合に向け、市の方針に従い実施。統合後は、施設集約により利便性が向上する。													
	有効性	評価結果	改善の余地がない												
		・利用者が安心して施設を利用するために必要な業務である。													
	効率性	評価結果	改善の余地がない												
		・随所老朽化が目立つ施設を必要最小限の経費で維持管理を行っている。													

事務事業の概要	事務事業名		山村留学センター解体整備事業			担当課		輦出出張所		事業区分		ハード事業	
	新規・継続		完了		事業期間		期間限定複数年度（R 5 ～ R 6）		事業番号		1231		
	会計		一般会計			長期総合計画体系	政策目標		5	地域づくり・行政経営			
	予算科目	款	2	総 務 費			施策目標		3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		項	1	総務管理費			基本施策		4	将来を見据えた行政経営の推進			
		目	8	支所及び出張所費			取組方針		9	その他			
	事業概要		事業廃止が決定したことにより、山村留学センターの解体整備を行う事業										
	事務事業を構成する細事業	① 解体整備事業			⑤						⑨		
		②			⑥						⑩		
		③			⑦						⑪		
④			⑧						⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	山村留学センター解体整備設計業務		目標			1	0			設計業務が完了した。
				実績			1	0			
		<指標の計算方法>									
	成果指標	山村留学センター解体整備工事		目標			0	1			解体工事が完了した。
				実績			0	1			
		<指標の計算方法>									
				目標							
				実績							
		<指標の計算方法>									
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	14,946								

事業の実績	①解体整備事業								
	解体工事を実施、完了								

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・老朽化し使用されない等施設について解体整備を行うことは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・取り壊し後、有効に土地を活用することが出来る。										
	効率性	評価結果	改善の余地がない									
		・老朽化に伴う解体のためコスト削減は難しいと考える。										

事務事業の概要	事務事業名		公平委員会運営事業				担当課		総合行政委員会事務局		事業区分		内部管理事業	
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	10
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	99	*****			
	予算科目	款	2	総務費		施策目標			99	*****				
		項	1	総務管理費		基本施策			99	*****				
目		9	公平委員会費		取組方針	9			その他					
事業概要		職員の利益の保護と公正な人事権が行使保障されるように、公平委員会に審査請求や措置要求がされてから裁決までの行程を円滑に行う事業												
事務事業を構成する細事業	①		公平委員会運営				⑤					⑨		
	②		全国公平委員会連合会負担金				⑥					⑩		
	③		近畿公平委員会連合会負担金				⑦					⑪		
	④		県公平委員会連合会負担金				⑧					⑫		

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	活動指標	審査請求件数	回	目標						令和3年度以降審査請求なし。		
				実績								
		<指標の計算方法>		審査請求件数								
				目標								
				実績								
		<指標の計算方法>										
				目標								
				実績								
		<指標の計算方法>										
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳							
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
	309										309	

事業の実績	①公平委員会運営 係争中の案件及び審議案件がないため、委員会の開催はなし。							
②全国公平委員会連合会負担金 ・7/29～7/30 本部研究会 東京都千代田区で開催 (委員長・職員1名参加)								
・10/31～11/1 第2回理事会及び通常総会 東京都千代田区で開催 (委員長・職員1名参加)								
③近畿公平委員会連合会負担金 ・8/23 総会及び事務研究会 京都府福知山市で開催 (委員2名・職員2名参加)								
④県公平委員会連合会負担金 ・6/14 第1回理事会及び総会、事務研究会 新宮市で開催(委員3名・職員2名参加)								
・11/26 第2回理事会 紀の川市で開催(委員長・職員2名参加)								

事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない									
		・地方自治法で設置が定められている委員会である。											
	有効性	評価結果		改善の余地がない									
・職員の利益の保護と公正な人事権の行使・保障に寄与している。													
効率性	評価結果		改善の余地がない										
	・公平委員に対する報酬のため、これ以上のコスト削減は難しい。												

事務事業の概要	事務事業名				自治振興事業				担当課		総務課		事業区分		ソフト事業		
									新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	504
	会計				一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総務費			施策目標	2			地域自治・コミュニティ・地域振興						
		項	1	総務管理費			基本施策	1			地域コミュニティの充実と協働の推進						
目		10	自治振興費			取組方針	1	自治会活動における持続可能性の向上									
事業概要					自治区が「地域の絆」を強め、地域コミュニティの分野で中心的な役割を担えるように、自治区や認可地縁団体の運営への支援を行う事業												
事務事業を構成する細事業	① 集会所整備補助金				⑤ 自治区運営補助金				⑨								
	② 自治連絡協議会運営				⑥ 区長会補助金				⑩								
	③ 区長会運営				⑦ 自治区加入促進				⑪								
	④ 一般行政事務委託				⑧ 認可地縁団体活動支援				⑫								

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	自治区加入率		%	目標	80	80	80	80	80	自治区加入率については、人口減少・高齢化による加入世帯の減少だけでなく、分母となる総世帯数が世帯分離などにより増加傾向(R 5年度26,910世帯、R6年度27,222世帯)であるため減少している。
					実績	73	71.8	70.7			
		<指標の計算方法>		自治区加入世帯数／住民基本台帳世帯数							
	活動指標	自治区補助団体数		団体	目標	199	199	199	199	199	199自治区に対し、自治区運営補助金の交付を実施した。また、令和6年度から補助金の額を1世帯あたり800円から1,000円に増額した。
					実績	199	198	199			
		<指標の計算方法>		自治区補助団体数							
	活動指標	集会所整備補助件数		件	目標	28	28	28	28	28	自治区からの令和5年度要望分全てと、緊急対応分に対し、地区集会所整備事業補助金の交付を実施した。
		実績	21		23	28					
<指標の計算方法>		集会所整備補助件数									
活動指標	補助事業の啓発回数		回	目標	6	6	6	6	6	各地区区長会、全体区長会資料において、啓発を実施した。	
				実績	6	6	6				
	<指標の計算方法>		補助事業の啓発回数								

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	48,762							2	48,760

事業の実績	①集会所整備補助金 地区集会所の整備に対する補助 28件 5,641,000円 内訳 改修15件：4,456,000円 備品13件：1,185,000円		19,254世帯×1,000円＝19,254,000円	
	②自治連絡協議会運営 ・自治連絡協議会を年2回開催し、協議を行った。 ・全体区長会を行った。 年1回(延) ・視察研修会を行った。 年1回(延)		⑥区長会補助金 5地区区長会の運営・支援に係る補助金を交付した。 打田区長会 : 298,911円 粉河区長会 : 597,450円 那賀区長会 : 277,204円 桃山区長会 : 290,000円 貴志川区長会：190,945円	
	③区長会運営 5地区区長会の運営・支援を行った。		⑦自治区加入促進 転入者に対しチラシを活用し、啓発活動を実施した。	
	④一般行政事務委託 199自治区区長に周知文書の配布等の委託		⑧認可地縁団体活動支援 52団体に対し告示事項変更の支援、2団体に設立の支援を行った。	
	⑤自治区運営補助金 199自治区に地域活動への補助			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある	
		・一般行政事務委託事業、自治区運営補助事業については、市から自治区へ市政情報などの伝達、自治区から市へ各種要望などの伝達をスムーズに行うため、市が実施することは妥当である。 ・集会所整備事業は、改修等整備に対する補助事業であるため、市が実施することは妥当である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
		・自治区運営補助金は集会所の維持費や行事の開催費など「地域の絆」形成に寄与している。 ・転入者等に自治区への加入について広報・啓発し、加入促進を図っていくことは有効である。		
	効率性	評価結果	改善の余地がない	
・自治区の円滑な運営に寄与し、効率的であると考える。				

事務事業の概要	事務事業名		シティプロモーション事業				担当課		地域創生課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1071	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総務費					施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興				
		項	1	総務管理費					基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実				
目		11	地域創生費			取組方針			3	シビックプライドの醸成					
事業概要		自分に関わるまちへの誇り・共感を高め、まちをより良くしようという意欲や行動を促す事業													
事務事業を構成する細事業	①		シティプロモーション推進業務				⑤				⑨				
	②		和歌山県人会業務				⑥				⑩				
	③						⑦				⑪				
	④						⑧				⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	地域推奨意欲	点	目標	6	6	6	6	6	推奨意欲を0～10で回答してもらい、回答者数を加味した値である。令和5年度と同様「5」が最多で、次いで「7」が選ばれている。	
				実績	5.3	5.4	5.6				
				<指標の計算方法> 市民意識調査で「紀の川市の魅力を誰かにおすすめしたいと思う」に対する回答の平均（0～10点）							
	活動指標	きのかわ市民クリエイター養成塾参加者数	人	目標		35	40	45	45	令和5年度と比べてフォトライターコースは5人減、動画制作コースは12人増となった（ポッドキャストコースは令和5年度のみ）。	
				実績		35	37				
				<指標の計算方法> フォトライター、動画制作などの講座の参加者数							
	成果指標	住み続けたい人の割合	%	目標	60	60	60	60	60	割合は回復したものの令和4年度水準まで届かず。「当分住み続けたい」と回答した人との合計は、令和5年度同様80%を超える水準。	
実績				55	51.8	54.4					
<指標の計算方法> 市民意識調査で「これからも紀の川市に住み続けたい」と回答した人の割合											
成果指標	紀の川市のことを誇りに思う人の割合	%	目標	90	90	90	90	90	シビックプライド（自分の住んでいる地域に対する誇り）を高めるための情報発信に取り組み、令和5年度と同じく80%を超える高い水準となっている。		
			実績	82	81.9	82.8					
			<指標の計算方法> 市民意識調査で「誇りに思う」「どちらかといえば誇りに思う」と回答した人の割合								

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	8,834							8,834

事業の実績	①シティプロモーション推進業務 ・きのかわ市民クリエイター養成塾 ○フォトライターコース 参加者数：9人 開催期間：7月20日～12月7日 全10回 写真や文章の技術を実践形式で学び、成果物を記事として冊子掲載。 ○動画制作コース 参加者数：28人 開催期間：8月24日～12月14日 全13回 TikTokやYouTube動画の制作方法を映像制作のプロから学び、課題として4チームに分かれて市内の店舗のPR動画を制作。 ・フリーペーパー「まいなが」PR記事掲載 紀の川市・岩出市で発行部数40,000部 10月号「粉河の推しグルメ」 12月号「ふるさと納税返礼品覆面調査」 1月号「はぐくみサロン再スタート」		2月号「健康寿命延ばそうプロジェクト」 ・フリーペーパー「紀の川スタイル」 2,000部制作 ・フリーペーパー「紀の川人」 2,000部増刷 ②和歌山県人会業務 6月 2日（日）堺和歌山県人会 5人 6月 9日（日）大阪和歌山県人会 5人 6月29日（土）京都和歌山県人会 6人 8月 1日（木）東海和歌山県人会 8人 9月 8日（日）在京和歌山県人会 2人 1月26日（日）近畿連合和歌山県人会 4人 市長（副市長）、観光協会会長、秘書課、商工労働課、観光振興課、地域創生課 観光、ふるさと納税等を中心に市のPRを行った。	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・移住・定住人口の増加に繋がるよう、市に対する誇りや共感を育む本事業は、市が主体的に行う必要がある。		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
		・令和5年度同様、市民クリエイター養成塾参加者の意欲向上を意識したが、参画意欲の低い人が見られた。 ・講座の事前説明等を実施し、市民が講座に求めることと、市が求めることを丁寧にすり合わせる必要がある。		
効率性	評価結果	改善の余地がややある		
	・本市に住み続けてもらえるよう、事業に主体的に関わり、愛着を共有できる環境づくりに努める必要がある。 ・移住先を模索する方に届くようなコンテンツを、市民と協働で創出しつつ、コストの削減に努める必要がある。			

事務事業の概要	事務事業名		移住・定住推進事業				担当課		地域創生課		事業区分		ソフト事業	
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	990
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営			
	予算科目	款	2	総務費					施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		項	1	総務管理費					基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実			
目		11	地域創生費			取組方針			2	移住・定住支援				
事業概要		移住・定住を促すための補助金の交付、相談や情報を提供するほか、空き家の利活用を促進し地域の活性化を図る事業												
事務事業を構成する細事業	①		移住・定住推進協議会運営				⑤		移住・定住推進補助金				⑨	
	②		移住・定住推進業務				⑥						⑩	
	③		空き家バンク登録・管理業務				⑦						⑪	
	④		空き家利活用促進業務				⑧						⑫	

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	ワンストップ窓口を活用した移住者数	人	目標	10	25	30	30	30	ワンストップ窓口を活用した移住者数は減少傾向にあるが、移住希望者のニーズが多様化する中で自己完結的に移住するケースも増加していると考ええる。	
				実績	37	16	8				
				<指標の計算方法>					ワンストップ窓口を活用した移住者数		
	活動指標	ワンストップ窓口を活用した移住相談件数	件	目標	150	300	300	300	300	相談件数は減少傾向にあるが、現地案内や移住相談会等のイベント参加者は一定数あり、移住希望者が、自ら行動して移住先を探すというケースも増加していると考ええる。	
				実績	291	269	219				
				<指標の計算方法>					ワンストップ窓口を活用した移住相談件数		
	活動指標	空き家バンクへの空き家登録件数	件	目標	15	20	20	20	20	空き家相談から現地調査に及んだ件数は40件を超えており、所有者側での様々な要因が整理されることで登録になる、登録予備軍の物件が多数存在している。	
				実績	19	18	18				
				<指標の計算方法>					空き家バンクへの空き家登録件数（単年）		
成果指標	売買・賃貸契約成立件数	件	目標	5	5	5	5	5	契約成立件数は令和5年度と比較して減少したが、契約交渉の中で解消となる事例も見受けられ、民間流通へ移行する物件も増加している。		
			実績	14	11	4					
			<指標の計算方法>					売買・賃貸契約成立件数			

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	55, 778			2, 700				53, 078

事業の実績	①移住・定住推進協議会運営		③空き家バンク登録・管理業務		・移住促進支援事業補助金2件 20, 420円	
	・関係人口と移住による定住人口の拡大を図るために設置（平成28年2月）		・登録18件		・空き家流通促進奨励金10件 330, 000円	
	・総会（書面決議）実施：令和7年3月		打田3件、粉河7件、那賀3件、桃山3件、貴志川2件		・定住促進支援事業補助金	
	②移住・定住推進業務		④空き家利活用促進業務		リフォーム補助3件 1, 526, 433円	
	移住相談件数 219件		・地域活性化起業人派遣		引越し補助2件 200, 000円	
	メール・電話での相談 135件		打田エリア 1名(株式会社CASE)		空き家片付け支援2件 200, 000円	
	面談件数 84件		（所有者対象）			
	・移住フェア等出展…5/11大阪、6/1大阪、6/15東京、7/20大阪、8/3東京、8/10和歌山市、11/17東京、2/1大阪、3/23東京 計9回、36件（東京での4回は東京事務所出展）		6/18本庁、7/23貴志川支所、8/20那賀支所、9/24 粉河ふるさとセンター、10/22桃山支所 計5回開催、7組対応			
	・地域創生課窓口 48件		・地域おこし協力隊			
	ワンストップ窓口を活用した移住者数 8名		打田エリア 2名(株式会社CASE)			
	・空き家バンク利用 1世帯2名		粉河エリア 2名(株式会社エンジョワークス)			
	・その他 3世帯6名		⑤移住・定住推進補助金			
			・移住支援金2件 3, 600, 000円			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・人口減少が進む中、関係人口の創出、定住人口の増加といった効果を目指す本事業の必要性は高く、市が取り組むことは妥当である		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
		・空き家バンクの運営、移住推進ポータルサイトの運用などは利用者数等から事業の効果を確認でき、現在の実施内容について有効性は認められる。 ・各自治体が人口減少問題の解決策の一つとして移住推進施策を充実させ、また、様々な形で情報発信に努めていることから、さらに、従来の施策・情報発信手段のブラッシュアップに努める。		
効率性	評価結果	改善の余地がややある		
	・空き家バンク運営などでは専門的なノウハウを持った民間事業者を活用できているため、より多くの分野で効果的な連携を検討し、施策を推進していく必要がある。			

事務事業の概要	事務事業名		若者定住促進事業				担当課		地域創生課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1151	
	会計		一般会計						政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総務費				長期総合計画体系		施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		項目	1	総務管理費						基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実			
		目	11	地域創生費						取組方針	2	移住・定住支援			
事業概要		市内で住宅を取得・賃借する若年層を対象に補助金を交付することで、若者の転入促進と転出抑制を図り、市内定住を促す事業													
事務事業を構成する細事業	①		若者定住促進住宅取得奨励事業				⑤				⑨				
	②		結婚新生活支援事業				⑥				⑩				
	③						⑦				⑪				
	④						⑧				⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	活動指標	若者定住促進住宅取得奨励金交付件数	件	目標	240	240	240	240	240	持家系（持家＋分譲住宅）の新築着工件数は令和3年度以降減少。住宅金利上昇が重なり今後も減少が想定される。出典：住宅着工統計（国土交通省）		
				実績	187	183	169					
	<指標の計算方法>		交付件数									
	成果指標	本事業が住宅取得の誘因となったと回答した交付者数の割合	%	目標	60	60	60	60	60	回答者実数では実態把握が難しいため指標見直し。交付対象者のうち、およそ半数以上は、本制度が住宅取得の誘因となったと回答。		
				実績	54	50.8	52.1					
	<指標の計算方法>		アンケートで「本事業が住宅取得の誘因となった」と回答した数÷交付件数									
成果指標	市内における「居住専用住宅」の着工数	棟	目標	240	240	240	240	240	市内における居住専用住宅の着工数を把握することで、奨励金の実効性把握の参考とする。			
			実績	244	254	204						
<指標の計算方法>		国土交通省「建築物着工統計（年次）」の「市区町村別、用途別」のうち、「居住専用住宅」の数値を引用する。										
活動指標	結婚新生活支援事業補助金交付件数	件	目標				30	20	20	令和6年度より制度を開始。令和4年度の婚姻届受理数に所得要件、年齢要件及び賃貸物件で新生活を始める世帯割合を加味して目標値を設定したが、実績値は目標値を下回る結果となった。		
			実績				16					
<指標の計算方法>		交付件数										

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	76,130				1,266	17,500			57,364

事業の実績	①若者定住促進住宅取得奨励事業 ・交付件数 169件 ・交付金額 73,500,000円 基本交付のみ：300,000円×19件 ＝5,700,000円 児童加算のみ：400,000円×37件 ＝14,800,000円 転入加算のみ：400,000円×35件 ＝14,000,000円 児童及び転入加算：500,000円×78件 ＝39,000,000円 ・交付対象世帯員数 511人 ・住宅種別 新築154件 中古15件（うち空き家バンク活用0件） ・住宅所在地 打田地区 90件 粉河地区 21件 那賀地区 11件 桃山地区 10件				貴志川地区 37件 ・住宅取得者の年齢層 24歳以下 8人 25歳～29歳 39人 30歳～34歳 51人 35歳～39歳 33人 40歳～44歳 38人 ・広報紀の川4月号、1月号で周知 ・アンケート結果（抜粋） Q:奨励金制度を知った時期 A:契約前 47% 契約～登記前 31% 登記後 17% 未回答 5% Q:奨励金制度の情報入手元(上位3位) A:不動産業者 34% ホームページ 28% 知人 13%				Q:直近の住所（上位3位） A:紀の川市 44% 和歌山市 17% 岩出市 12% Q:最終的に紀の川市に決めた理由（上位3位、複数回答可） A:実家がある 68% 施策が充実している 62% 親しい友人がいる 41% Q:本制度は住宅取得のきっかけとなったか A:きっかけとなった 52% きっかけとならなかった 43% 未回答 5%			
									②結婚新生活支援事業 ・交付件数 16件 ・交付金額 2,532,000円			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・若者世代の転入促進と転出抑制を図る市の施策として、市内に住宅を購入・婚姻に伴い賃借しようとする若者層を対象に奨励金・補助金を交付することは妥当性がある。														
	有効性	評価結果	改善の余地がややある													
・若者定住促進住宅取得奨励金が住宅取得のきっかけになったと答えた割合が半数以上であり、若者世代の住宅取得において有効性が認められる。また令和6年度より結婚新生活支援事業補助金を導入し、より若者層を補助できるようにした。 ・指標数値は低調となったが、若者を取り巻く経済状況は悪化の一途を辿っていることから、住宅購入・結婚に踏み切れない若者が増加していることが推察され、より効果的な制度内容について検証することが必要である。																
効率性	評価結果	改善の余地がない														
	・近隣自治体の類似事業と比較しても奨励金・補助金は妥当な金額といえる。また事務執行にかかるコストも最低限に抑えられている。															

事務事業の概要	事務事業名		奨学金返還支援事業				担当課		地域創生課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1150	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総務費		施策目標			2	地域自治・コミュニティ・地域振興					
		項	1	総務管理費		基本施策			2	地域の活性化と移住・定住環境の充実					
目		11	地域創生費		取組方針	2			移住・定住支援						
事業概要		奨学金返還者の就労初期における経済的負担を軽減することにより、市内定住を促す事業													
事務事業を構成する細事業	①	奨学金返還支援事業				⑤					⑨				
	②					⑥					⑩				
	③					⑦					⑪				
	④					⑧					⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	奨学金返還助成金交付件数	件	目標	75	140	180	180	180	令和5年度同様、市内の高校から進学実績のある大学等にチラシを配布。目標値には達しなかったが、交付件数は増加した。	
				実績	96	118	148				
		<指標の計算方法>		交付件数							
	成果指標	事業の満足度	%	目標	100	100	100	100	100	アンケートのすべての回答で「役に立った」旨の回答を得ており、奨学金を返還する若年層の市民を効果的に支援できていると考えられる。	
				実績	100	100	100				
		<指標の計算方法>		アンケートで本事業が「とても役に立った」「少し役に立った」と回答があった割合							
	成果指標	居住、または居住し続ける要因となった割合	%	目標	85	85	85	85	85	令和5年度から少し数値を下げたが、紀の川市居住の要因としては依然高いものとなっている。	
				実績	85	86	83				
		<指標の計算方法>		アンケートで「本事業が紀の川市居住の要因となった」と回答があった割合							
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	12, 738							12, 738

事業の実績	①奨学金返還支援事業 ・対象…大学などを卒業し、令和2年4月1日以降に奨学金の返還を開始し、市内在住で就業している等の要件を満たす者 ・交付者数…148人 (初回38人、2回目42人、3回目34人、4回目25人、5回目9人) ・交付決定額…12, 644, 000円 ・チラシ配布依頼先 大学等69校(県内27校、県外42校) 独立行政法人日本学生支援機構 和歌山県教育委員会 ・広報紀の川4月号、12月号で周知 ・アンケート結果(抜粋) Q:奨学金返還に対する負担意識 A:とても負担に感じる 74% 少し負担に感じる 21% 負担ではない 1%		未回答 4% Q:返還支援事業の情報入手元(上位3位) A:友人・知人 34% 広報 33% ホームページ 22% ・平均年間返還額 207, 529円 ・平均借入額 3, 301, 772円 ・勤務先住所 市内31%、市外69%	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・奨学金返還者の就労初期における経済的負担を軽減し、若年層市民の市内定住を促すことを目的としており、妥当性は高い。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・本事業が紀の川市居住の要因になったとするアンケートの回答が非常に多いことから、若年層市民の市外転出抑制に効果があったと考えられ、有効性は高い。		
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・同様の事業を展開する他自治体との比較、奨学金返還額に対する経済的支援割合を鑑みると現在の助成額は適正といえ、事務執行にかかるコストも最小限に抑えられている。			

事務事業の概要	事務事業名		ふるさとまちづくり寄附金事業				担当課		地域創生課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		971	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		5		地域づくり・行政経営					
	予算科目	款	2		総務費				施策目標		2		地域自治・コミュニティ・地域振興					
		項	1		総務管理費				基本施策		2		地域の活性化と移住・定住環境の充実					
目		11		地域創生費		取組方針			1		ふるさと納税制度による活性化							
事業概要			ふるさと納税の寄附の獲得を通じ、市民の稼ぐ力を高め、市の魅力を発信する事業															
事務事業を構成する細事業	①		寄附額増加対策業務				⑤				⑨							
	②		寄附者管理業務				⑥				⑩							
	③		企業版ふるさと納税業務				⑦				⑪							
	④						⑧				⑫							

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	寄附申出件数	件	目標	80,000	120,000	140,000	140,000	140,000	令和5年10月の制度改正に伴う、主力返礼品である「桃」の寄附金額改定の影響や、全国的に米・日用品等の需要が高まる中で、本市の主力である果物等の返礼品のシェアが奪われたことが申出件数の減少要因と考えている。	
				実績	117,285	160,771	94,117				
				<指標の計算方法> 寄附申出件数の実績を計上							
	成果指標	ふるさと納税寄附金額	千円	目標	1,000,000	1,400,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000	令和5年10月の制度改正に伴う、主力返礼品である「桃」の寄附金額改定の影響や、全国的に米・日用品等の需要が高まる中で、本市の主力である果物等の返礼品のシェアが奪われたことが寄附金額の減少要因と考えている。	
				実績	1,387,750	1,906,609	1,353,450				
				<指標の計算方法> ふるさと納税の寄附金額							
	活動指標	返礼品取扱事業者数（各年度末時点）	件	目標	120	150	220	220	220	事業者登録の厳格化を図るため、要綱を整備し、返礼品取扱事業者の再登録を実施したことが事業者数の減少要因と考えている。	
				実績	165	213	171				
				<指標の計算方法> 寄附者に対し返礼品を送付している事業者数							
活動指標	返礼品数	品	目標	700	800	1,100	1,100	1,100	返礼品取扱事業者数の減少に伴い、返礼品数も減少した。		
			実績	711	1,096	729					
			<指標の計算方法> 登録返礼品数（総務省への申請数）								

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	825,922							825,922

事業の実績	①寄附額増加対策業務		・関東圏での返礼品プロモーション		-うち、オンラインワンストップ	
	・ポータルサイト（16サイト）		-8月26日～10月31日森トラスト（CoCo Lounge）		対応件数：21,856件	
	ふるさとチョイス 106,482千円		・手渡返礼品による1,000円寄附促進		-うち、書面申請	
	楽天 705,511千円		-4月6～7日南紀白浜マリOTTホテル（はっさく）		対応件数：7,456件	
	ふるさとプレミアム 7,754千円		-9月24～26日森トラスト（いちじく）			
	au PAY 12,678千円		-10月17～18日東京駅丸の内（柿）			
	ふるなび 88,117千円		-3月21～23日南紀白浜マリOTTホテル（はっさく）			
	ANA 7,337千円		・サンクスレターの作成			
	JAL 47,044千円		ふるさと納税返礼品取扱事業者を取材			
	JRE 2,807千円		・返礼品覆面調査（返礼品Gメン）の実施			
	ふるさと納税百選 17,388千円		-6月26日6事業者7品（桃）			
	Amazon 4,345千円		-11月27日6事業者8品（柑橘）			
	どこでも納税 66千円		②寄附者管理業務			
	さとふる 305,047千円		・寄附金受領証明書の送付			
	Yahoo! 5,549千円		・ワンストップ特例制度の対応			
	三越伊勢丹 35,870千円		対応件数：29,312件（1～12月分）			
	ポケットマルシェ 1,694千円					
	きのちよく等（直接寄附） 5,761千円					
	・事業者対象の説明会開催					
	-4月9日（2部制）64組参加					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・市民の稼ぐ力を高めるとともに市の歳入に関する重要な事業であり、市以外が主体となり得ない事業であることから妥当性には問題がない。		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
		・長期総合計画の目標（令和8年度に17億円）を達成するため、品目、数量の確保や効果的な広告戦略、また、競争力のある新たな返礼品の開発・発掘に取り組む必要がある。 ・返礼品取扱事業者や中間管理事業者といった専門性を持った事業者との連携を継続する。		
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・寄附管理システムやアルバイト（ワンストップ特例申請書受付協力員）の活用により、効率的に事務を遂行できている。			

事務事業の概要	事務事業名			大学連携事業				担当課		地域創生課		事業区分		ソフト事業					
	会計			一般会計				新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		8	
	予算科目	款	2	総務費				長期総合計画体系	政策目標		5	地域づくり・行政経営							
		項	1	総務管理費					施策目標		2	地域自治・コミュニティ・地域振興							
		目	11	地域創生費					基本施策		2	地域の活性化と移住・定住環境の充実							
事業概要																	地域・大学が共に活性化できるように、大学と各種取組で連携する事業		
事務事業を構成する細事業	①			連携推進業務				⑤			⑨								
	②							⑥			⑩								
	③							⑦			⑪								
	④							⑧			⑫								
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
		大学と連携している事業数	事業	目標		100		100		100		100		100		和歌山信愛女子短期大学が開講する2つの講義のフィールドが本市となったことから、事業数が増加した。			
				実績		24		30		38									
		<指標の計算方法>		市の事業のうち大学の教職員や学生が参画もしくは定例的に参加する事業数（インターン受入れは総じて1）															
	活動指標	大学との連携会議の開催回数	回	目標		10		10		10		10		10		包括連携協定を締結している大学の講義を契機に、未締結の大学との連携が生じた。			
				実績		10		10		11									
	<指標の計算方法>		連携強化のための大学・地域創生課間における会議開催回数																
	活動指標	大学生が参画した地域活動の数	件	目標		5		5		5		10		10		講義の一環で、めっけもん広場や粉河エリア等を往訪する学生が増加した。			
				実績		9		15		20									
	<指標の計算方法>		大学生と市民等（市民、企業、市）の交流が生まれた取組の数																
成果指標	市の活動に参加した大学生の延べ人数	人	目標				260		260		260		260		令和5年度と比較し近畿大学での講義回数が1回少なかった影響などにより、人数は減少した。				
			実績				300		245										
<指標の計算方法>		市と連携した事業や取組に携わった学生数（1人の学生でも活動日や活動内容が違えば延べで計算）																	
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳														
	414				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		414		
事業の実績	①連携推進業務 ▼会議の内容と回数 ・近畿大学 （1）1年生を対象とした1コマ講義 -NP0フレイルサポート紀の川が実施 （2）就職情報室との連携協議 -2月25日学内業界研究会に参加 （3）次年度の連携内容協議 -引続き1コマ講義を引受ける方向 ・和歌山大学 （4）連携プロジェクトの実施協議 -連携協定に基づく学生活動の支援 （5）他大学との連携に向けた協議 -市内での大学横断の活動を支援 -信愛短大生の活動を和大学生が取材 （6）プロジェクト報告会開催協議 -学生から指導教員への報告を実施 ・和歌山信愛女子短期大学 （7）前年度活動のフォロー -「貴志川線に日本一の〇〇」をつくる																		
	プロジェクトの実施支援協議 （8）今年度活動の検討協議（継続） -粉河エリアでの活動支援 （9）今年度活動の検討協議（新規） -めっけもん広場への来客を対象に 野菜摂取量の調査 （10）次年度の連携内容協議 -今年度に続き講義を担当予定 （講義名：プロジェクト実践演習） ・和歌山県立医科大学 （11）薬学部活動支援協議 -高等教育共創コンソーシアム和歌山での単位互換講座で連携 -薬学部生の地域活動に関して協議 ▼市の活動に参加した大学生の延べ人数 ・交流できた学生の延べ数は245人 近畿大学：83人 和歌山大学：32人 和歌山信愛女子短大：130人																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・本市をフィールドに学生が活動することで、市の取組・事業がメディアへの露出に繋がっており、社会貢献に主眼を置いた非営利的な学生活動の支援として本市が関わる妥当性は充分にある。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がややある															
		・学生の大半が他自治体出身者であるため、本市に関わる基本理解を醸成するまでに多少の時間を要する。 ・コンサルタントのような企業に地域課題解決の調査を委託するわけではないため、学生の意識・能力はもちろん、市職員や大学教職員の関わり方によっても成果が左右される。																	
効率性	評価結果		改善の余地がややある																
	・限られた回数・予算の中で効率的に事業を実施しているが、連携している大学同士を本市の事業内で結びつけることで、さらに効率的な事業実施が実現できる可能性がある。																		

事務事業の概要	事務事業名		市民活動支援事業				担当課		地域創生課		事業区分		ソフト事業							
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		12			
	会計		一般会計								政策目標		5		地域づくり・行政経営					
	予算科目	款	2		総務費						施策目標		2		地域自治・コミュニティ・地域振興					
		項目	1		総務管理費						基本施策		1		地域コミュニティの充実と協働の推進					
			11		地域創生費						取組方針		2		地域コミュニティ活動の活性化					
事業概要			市民、市民団体が自主的な社会貢献活動を活発に実施してもらえるように、活動の支援や補助を行う事業																	
事務事業を構成する細事業	①		NPO団体活動支援				⑤						⑨							
	②		花いっぱい運動推進				⑥						⑩							
	③		花いっぱい運動補助金				⑦						⑪							
	④		市民協働提案事業				⑧						⑫							
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	認証NPO法人数		法人	目標		23		23		23		23		23		市内に主たる事務所を置く県認証NPO法人数は20団体となった。			
		実績			16		16		20											
		<指標の計算方法>		市内に主たる事務所を置く県認証NPO法人数																
	成果指標	花いっぱい運動参加団体数		団体	目標		35		35		35		35		35		構成員の高齢化等により、活動を維持できなくなった団体が活動を休止し、5団体の減少となった。			
		実績			31		29		24											
		<指標の計算方法>		花いっぱい運動参加団体数																
	成果指標	花いっぱい運動参加人数		人	目標		630		630		630		630		630		花いっぱい運動参加団体数の減少に伴い、令和5年度と比較して参加人数も減少した。			
		実績			591		540		516											
		<指標の計算方法>		花いっぱい運動参加人数																
成果指標	市民活動団体登録数		団体	目標		20		20		20		20		20		市民協働提案事業に関心を寄せた2団体が新規登録。別途1団体が新規登録され、計3団体の純増。				
	実績			20		16		19												
	<指標の計算方法>		市民活動団体登録数																	
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳															
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
	1,554														1,554					
事業の実績	①NPO団体活動支援 ・市ホームページ掲載19団体が対象 県認証NPO：8法人 その他：11団体				音楽グループレッスン 提案者：クレア・ピアノ															
	②花いっぱい運動推進 ・花を愛する県民の集い (11/30、和歌山市) 功労者感謝状「細野溪流キャンプ場管理組合」受賞																			
	③花いっぱい運動補助金 ・補助金交付申請受付、交付決定など ・プランター等の配布 ・現地確認																			
	④市民協働提案事業 ・市登録団体を対象に協働提案を募集 提案件数：1件、採択件数：1件 採択事業：キーボードを使用した																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・自主的な社会貢献活動を実施する市民団体に対して支援策を講ずることの妥当性は高い。 ・主体的な市民登録団体の活動により、市は後方支援に注力することができている。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																
		・構成員の高齢化等により花いっぱい運動の参加団体数と参加人数について減少傾向が続くことが予想されるため、継続して新規団体の参入を促す必要がある。 ・市民協働提案事業制度が2年目となり、2年とも主体性のある登録市民団体が採択されていることで、他の団体への好影響も期待され有効性は高まっている。																		
効率性	評価結果		改善の余地がない																	
	・花いっぱい運動に対する補助では、花苗代や肥料等にかかる費用を補助対象としており、団体の活動はボランティアである。																			

事務事業名	国際交流事業				担当課		地域創生課		事業区分		ソフト事業				
					新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	470			
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標				3	産業・交流	
	予算科目	款	2	総務費		施策目標			3	観光・交流					
		項	1	総務管理費		基本施策			2	国際交流・多文化共生の推進					
目		11	地域創生費		取組方針				1	国際交流の推進					
事業概要		姉妹都市、友好都市等と良好な関係を築くとともに、外国人住民と市民が互いに地域の一員として尊重しあえるよう交流を行う事業													
事務事業を構成する細事業	① 姉妹都市・友好都市等との交流				⑤				⑨						
	② 国際交流員受入				⑥				⑩						
	③ 多文化共生の推進				⑦				⑪						
	④				⑧				⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	姉妹都市・友好都市等との交流事業開催回数	回	目標	6	6	6	6	6	都市相互に計画性をもって実施する中学生国際交流を除き、交流事業開催回数は減少した。	
				実績	9	12	5				
			<指標の計算方法> 公式行事の回数								
	成果指標	姉妹都市・友好都市等への訪問団（職員等を除く）の人数	人	目標		20	20	20	20	姉妹都市・友好都市等への派遣は中学生国際交流事業のみの実施となった。	
				実績		25	15				
<指標の計算方法> 公式行事による姉妹都市・友好都市等への訪問団（職員等を除く）の人数											
活動指標	日本語教室等開催支援補助金交付団体数	団体	目標		5	5	5	5	外国人住民に対し日本語教室を実施している団体の支援を目的として、新規1団体を含む3団体に対し補助金を交付した。		
			実績		2	3					
		<指標の計算方法> 日本語教室等開催支援補助金を交付した団体の数									
成果指標	多文化共生事業への参加者数	人	目標		200	200	200	200	外国人住民が増加していることに伴い、多文化共生事業への参加者数にも増加傾向が見られる。		
			実績		204	211					
		<指標の計算方法> 市が主催もしくは協力する日本語教室等のイベントへの延べ参加者数									

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳					
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	4,096							1,000	660	2,436

事業の実績	①姉妹都市・友好都市等との交流 (西帰浦市) ・紀の川市中学生国際交流訪問団派遣 8/17～20 21名(うち中学生15名) ・西帰浦市中学生国際交流訪問団受入 9/5～8 21名(うち中学生15名) ・中学生国際交流オンライン報告会 12/2 (濱州市) ※令和6年度は交流活動なし (クアンナム省) ・クアンナム省を含むベトナム訪問団受入 7/26 18名 ・クアンナム省表敬訪問団受入 10/10～11 12名				チョ・エロク氏 ③多文化共生の推進 ・日本語教室実施団体の運営を支援する目的で、3団体に補助金交付を行った。 「多文化オアシス☆にほんごおしゃべり会」 「にほんで日本語～てにをは」 「MEW いっしょに日本語」 ・外国人住民を対象に相談や地域の方々との交流を目的として市民団体主体で実施される「ゼロエンマーケット」に協力した。 5/12(第5回：那賀体育館) 10/6(第6回：桃山会館)			
	②国際交流員受入 ・姉妹都市韓国西帰浦市から国際交流員受入 帰国 令和6年3月～令和6年12月 カン・ムンギュ氏 受入 令和7年3月～令和7年12月予定							

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・姉妹都市、友好都市等と築いてきた友好関係のもと、身近な国際交流の機会を市民に提供できるため、市が実施することに一定の妥当性がある。 ・外国人住民が国籍に関係なく地域の一員として、安心して暮らせるよう多文化共生を推進することは、市の取組として妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・中学生国際交流事業では相互の学生に貴重な国際交流経験を提供できているが、それ以外での、姉妹都市・友好都市等との市民単位の交流等を推進し、事業の認知向上に努める必要がある。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・地域のボランティア団体や市民団体が外国人住民を対象に実施する活動に対し支援を行うことで、外国人住民に日本語学習や相談の機会を提供している。 ・相互訪問による交流が不定期に発生するので、コストを最小限に抑える必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名		細野簡易郵便局運営事業				担当課		地域創生課		事業区分		ソフト事業			
							新規・継続		継続	事業期間	期間限定複数年度（～R10）		事業番号	494		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営					
	予算科目	款	2	総務費					施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興					
		項	1	総務管理費					基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実					
目		11	地域創生費						取組方針	9	その他					
事業概要		市民（細野地区）が郵便局関連のサービスの提供が受けられるように、細野郵便局の運営を行う事業														
事務事業を構成する細事業	①		細野簡易郵便局運営				⑤						⑨			
	②						⑥						⑩			
	③						⑦						⑪			
	④						⑧						⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	郵便取扱い件数		件	目標	50	50	50	50	50	細野簡易郵便局を利用する地域における人口減少や高齢化の影響を受けるが、一定数の取扱い件数がある。
		実績			21	27	18				
		<指標の計算方法>		取扱い件数を計上							
	活動指標	貯金取扱い件数		件	目標	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	細野簡易郵便局を利用する地域における人口減少や高齢化の影響を受け、取扱い件数は減少の傾向にある。
		実績			883	853	838				
		<指標の計算方法>		取扱い件数を計上							
			目標								
			実績								
		<指標の計算方法>									
		目標									
		実績									
	<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	3,390							3,390	

事業の実績	①細野簡易郵便局運営 郵便取扱い件数 18件 貯金取扱い件数 838件																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					

事務事業の概要	事務事業名		バス運行支援事業			担当課		交通政策課			事業区分		ソフト事業	
						新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	485
	会計		一般会計			長期総合計画体系		政策目標	4	都市基盤・生活環境				
	予算科目	款	2	総 務 費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		項	1	総務管理費				基本施策	3	公共交通ネットワークの充実				
目		12	交通政策費			取組方針	1	公共交通の維持・確保・充実						
事業概要			市民がバスや乗合タクシーでスムーズに移動できるように、バス会社やタクシー会社に対し運行支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①		地域巡回バス運行補助金（乗合タクシー路線含む）			⑤		紀の川デマンド乗合交通運行補助金			⑨			
	②		紀の川コミュニティバス運行補助金			⑥					⑩			
	③		粉河・熊取線バス運行補助金			⑦					⑪			
	④		紀の川デマンド乗合交通導入			⑧					⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	年間利用者数（地域巡回バス）	人	目標	41,000	27,000	27,000	27,000	27,000	令和4年度から増加傾向にあり、令和3年度実施の路線・ダイヤ改正が利用者に浸透したことが要因と考える。一方で利用者減少が続くコースもある。	
		実績		25,851	28,474	31,519					
		<指標の計算方法>		地域巡回バスの年間利用者数							
	成果指標	年間利用者数（紀の川コミュニティバス）	人	目標	24,000	20,600	20,600	20,600	20,600	令和4年度から増加傾向にあり、令和5年度に比べ東回りコースの利用者が増加し、地域別では打田地域での乗降者数が増えている。	
		実績		19,873	20,635	21,341					
		<指標の計算方法>		紀の川コミュニティバスの年間利用者数							
	成果指標	年間利用者数（粉河熊取線）	人	目標	70,000	70,000	51,000	51,000	51,000	令和5年度に比べ大幅に増加となり、路線沿線企業への利用増が要因となっている。	
		実績		41,139	48,386	61,750					
		<指標の計算方法>		粉河熊取線の年間利用者数							
成果指標	年間利用者数（紀の川デマンド乗合交通）	人	目標			1,000	5,800	9,300	運行日数67日で、河北西エリア464人、河北東エリア192人となっている。		
	実績				656						
	<指標の計算方法>		紀の川デマンド乗合交通の年間利用者数								

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	157,745		24,756					132,989

事業の実績	①地域巡回バス運行補助金（乗合タクシー路線含む） <地域巡回バス運行補助金> ・和歌山バス那賀株式会社：58,207,529円 全10コース （名手上那賀支所・川原西脇・赤尾藤井・長田竜門・北勢田・三谷・黒土高野・打田貴志川・東貴志丸栖・西貴志コース） ・株式会社有交紀北：16,409,390円 全2コース （桃山鞆渕・細野貴志川コース） <デマンド型乗合タクシー運行補助金> ・株式会社有交紀北：62,850円 赤沼田名手駅前路線 年間利用者数：23人		市西部地域と岩出市を巡回する路線バス ③粉河・熊取線バス運行補助金 ・和歌山バス那賀株式会社：13,931,292円 JR粉河駅とJR熊取駅を結ぶ路線バス ④紀の川デマンド乗合交通導入 6～7月：「AIオンデマンド交通導入事業」プロポーザル実施・契約 8～11月：システム構築・運行準備 11月：運行車両2台納車（10人乗り） 地域公共交通活性化再生協議会で承認、運輸局へ事業申請 12月：乗降ポイント設置（331箇所） 事業認可（一般乗合旅客自動車運送事業 区域運行） 1月：1/8出発式、運行開始		河北西エリア ・和歌山バス那賀株式会社：1,918,900円 河北東エリア ・利用登録者数：614人、乗客数：656人 乗合率：1.36人/便 予約方法：電話：59%、LINE：19%、アプリ：22%	
	②紀の川コミュニティバス運行補助金 ・和歌山バス那賀株式会社：18,515,770円		⑤紀の川デマンド乗合交通運行補助金 ・株式会社有交紀北：1,961,947円			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある
		・地域巡回バス・紀の川コミュニティバス・紀の川デマンド乗合交通は、地域住民や来訪者の移動手段確保のための路線であり収益性が低いため、市が支援を行い運行を維持することは妥当である。 ・地域公共交通の再編等は地域住民に与える影響が大きく、路線の調整や合意形成手続きなどに相当な時間を要することから、迅速な対応とまでは困難な状況である。	
	有効性	評価結果	改善の余地がややある
		・紀の川市地域公共交通計画に基づき、地域特性に応じた適材適所のサービスの導入を進めることが有効であり、少子高齢化や人口減少により利用者が減少傾向となることが予想される中、運行の見直しによる利便性の向上や、情報発信・利用促進等により利用者の増加を図る必要がある。 ・令和7年1月から紀の川の河北エリアで運行を開始したデマンド型区域運行サービス「紀の川デマンド乗合交通」は予約に応じて地域内に設定した乗降ポイント間を柔軟に運行する仕組みであり、これまで公共交通にアクセスできなかった層の移動需要の掘り起こしに繋がっているものの、なお一層の利用周知を図る必要がある。	
効率性	評価結果	改善の余地がややある	
	・本市における地域公共交通の担い手である交通事業者は限られており、事業者と良好な関係性を構築することは持続可能な公共交通網の形成には不可欠である中、限られた資源（運転手・車両など）を効率的に活用し、サービスを提供できるように費用対効果を検証しながら支援する必要がある。 ・運転手不足の問題に加え、令和6年4月からバス運転手の労働時間等の基準が改正されたことに伴う休息期間確保のため、利用者への影響も考慮する中で、令和7年4月から早朝・夜間便の5便を減便することとなった。		

事務事業の概要	事務事業名		鉄道運行支援事業				担当課		交通政策課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		488	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		4		都市基盤・生活環境					
	予算科目	款	2		総 務 費				施策目標		1		都市基盤整備・公共交通					
		項	1		総務管理費				基本施策		3		公共交通ネットワークの充実					
目		12		交通政策費		取組方針			1		公共交通の維持・確保・充実							
事業概要			市民が鉄道でスムーズに移動できるように、鉄道事業者、関係機関と協力、連携して運行に対する支援を行う事業															
事務事業を構成する細事業	①		和歌山線活性化検討委員会				⑤		貴志川線安全輸送に係る設備整備支援事業補助金				⑨					
	②		貴志川線運営協議会				⑥		貴志川線地域公共交通活性化再生協議会負担金				⑩					
	③		貴志川線運営委員会				⑦		貴志川線利用促進事業負担金				⑪					
	④		貴志川線存続支援事業補助金				⑧						⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	1日当たりの乗降客数（和歌山線）	人/日	目標	5, 400	5, 400	4, 800	4, 800	4, 800	令和5年度に比べ横ばいとなったが、令和元年度実績5,066人と比較すると大幅減となっている。	
			実績	4, 716	4, 670	4, 670					
		<指標の計算方法> 事業者から提供された資料を基に市内5駅の合計値を算出									
	成果指標	1日当たりの乗降客数（貴志川線）	人/日	目標	2, 600	2, 600	1, 800	1, 800	1, 800	令和5年度に比べインバウンドの影響により増加となったが、令和元年度実績2,301人と比較すると大幅減となっている。	
			実績	1, 460	1, 516	1, 607					
		<指標の計算方法> 事業者から提供された資料を基に市内4駅の合計値を算出									
	活動指標	和歌山線活性化検討委員会担当者会議開催回数	回	目標	1	1	6	6	6	令和6年度は、高校生クイズイベントに向けた協議が増加した。	
		実績	1	6	13						
<指標の計算方法> 和歌山線活性化検討委員会の担当者会議開催回数											
活動指標	貴志川線運営委員会出席回数	回	目標	12	12	12	12	12	貴志川線の運営状況や利用促進などを和歌山電鐵・県・和歌山市・その他関係者と協議した。		
		実績	11	12	12						
	<指標の計算方法> 毎月1回開催される運営委員会の出席回数										

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	53, 090					10, 000		43, 090

事業の実績	①和歌山線活性化検討委員会 ・幹事会、総会：各1回 利用促進事業の実施 ・WESTERハイキング部を活用したハイキングイベント ・子供向け出前講座 ・ノベルティグッズ制作 ・高校生クイズイベント ・沿線高校と連携した取り組み ・構成団体 会長：紀の川市 副会長：和歌山市、橋本市 理事：和歌山県、JR西日本和歌山支社 監事：岩出市、かつらぎ町		和歌山市、紀の川市、和歌山県（参与）		⑥貴志川線地域公共交通活性化再生協議会負担金 ・利便性向上や利用促進等を含めた運行方法や安全輸送に必要な検証などの再構築調査に係る費用に対して和歌山電鐵、県、和歌山市と共同で負担金を支出 負担金：1, 669, 000円	
	②貴志川線運営協議会 ・会計監査、幹事会、総会：各1回 利用促進事業の実施 ・「70おでかけ回数券」の制作等 ・構成団体		③貴志川線運営委員会 ・毎月1回開催される運営委員会に出席 貴志川線の運営状況や利用促進などについて関係者で協議を実施		⑦貴志川線利用促進事業負担金 ・和歌山市、紀の川市の70歳以上の住民を対象とした和歌山電鐵の利用促進事業「70おでかけ回数券」に係る費用に対して、和歌山市と共同で負担金を支出 販売実績：1, 856冊（1冊10枚綴り） うち紀の川市民：611冊 負担金：857, 472円	
事業の事後評価	妥当性	評価結果 改善の余地がない				
		・地域公共交通において、和歌山線及び貴志川線の鉄道は必要不可欠な移動手段であることから、市が存続支援することは妥当である				
	有効性	評価結果 改善の余地がややある				
		・沿線人口の減少や道路網の整備等により、鉄道を取り巻く状況は依然として厳しい状況が続くことが予想される。 ・鉄道事業者や関係者と定期的に会議を開いており、利用者数などその運営状況は適切に把握している中、今後の鉄道維持のためには、鉄道事業者や沿線自治体、沿線住民が一体となった利用促進に向けた取り組みが必要である。				
効率性	評価結果 改善の余地がややある					
	・貴志川線は、インバウンドによる利用は回復しつつあるものの、通勤・通学の利用者の減少が著しく、特に通学利用は、沿線高校の生徒数減少や沿線短期大学の閉学予定などにより更なる減少が予想され、運営状況は厳しさを増している。貴志川線存続のためには、今後の貴志川線の支援内容について、県・和歌山市とともに検討を深める必要がある。					

事務事業の概要	事務事業名		パークアンドライド推進事業				担当課		交通政策課			事業区分		ソフト事業	
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	490	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	4	都市基盤・生活環境				
	予算科目	款	2		総 務 費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		項	1		総務管理費				基本施策	3	公共交通ネットワークの充実				
目		12		交通政策費		取組方針			3	利用環境の充実					
事業概要		市民が電車、バスを利用しやすくするために、駐輪場、駐車場の整備、管理を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①		市営駐車場管理運営				⑤				⑨				
	②		駅駐輪場管理運営				⑥				⑩				
	③		駅駐輪場整備				⑦				⑪				
	④						⑧				⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	成果指標	市営駐車場使用料	円	目標						令和3年度から増加傾向であったが、令和6年度は減少となった。周辺事業者による1年を通した利用が減少した。		
				実績	2,368,800	2,406,200	2,126,000					
		<指標の計算方法>		市営駐車場使用料の年間合計								
	成果指標	月極駐車場使用率	%	目標	50	50	45	45	45	令和3年度から増加傾向であったが、令和6年度は減少となった。周辺事業者による1年を通した利用が減少した。		
				実績	38.5	38.7	33.4					
		<指標の計算方法>		1箇月あたりの駐車台数の平均値／収容台数×100								
	活動指標	利用促進年間啓発回数	回	目標	1	1	2	2	2	パークアンドライドの利用促進のため、広報紙により市民に向けた周知・啓発を行った。		
				実績	1	2	3					
		<指標の計算方法>		パークアンドライドの推進に関する啓発活動の実施回数								
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	37,977						2,126	35,851

事業の実績	①市営駐車場管理運営 ・管理委託：紀の川市商工会（株）アース・カー 委託内容：使用料収納、施設管理等 ・利用台数（1箇月あたり平均） 市営第1（月極）：23.7台 （収容台数：64台） 市営第2（月極）：8.4台 （収容台数：32台） 市営第1（日極）：7.2台 （収容台数：10台） 市営第2（日極）：17.1台 （収容台数：3台） ・月極契約者にアンケート調査 利用目的（有効回答数：21件） 通勤（鉄道）：52%、（バス）：0% （近隣）：9% 通学（鉄道）：0%、（バス）：5% 自宅等駐車場：29%、その他：5% ・駐車場維持修繕		草刈除草：3回 樹木伐採：1回 土砂処分：1回 維持清掃：3回 ・利用促進の年間啓発回数：3回 （広報8月号、12月号、2月号に掲載）		第2：20台 大池遊園駅：25台 ・駐輪場維持修繕 下井阪駅照明交換：1回 粉河駅草刈除草：3回 名手駅草刈除草：3回 名手駅維持清掃：1回	
	②駅駐輪場管理運営 ・駐輪場収容台数 打田駅第1：100台 第2：70台 下井阪駅：150台 粉河駅第1：70台 第2：10台 紀伊長田駅：20台 名手駅第1：100台 第2：150台 貴志駅：130台 甘露寺前駅：50台 西山口駅第1：6台		③駅駐輪場整備 ・駐輪場整備工事 打田駅第2（サイクルポート40台相当、駐輪区画線、照明） 下井阪駅（サイクルラック174台、駐輪区画線） 粉河駅第1（サイクルラック100台、駐輪区画線） 名手駅第2（照明） ・駐輪場用地取得 粉河駅北側新駐輪場予定用地			

事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない													
		・地域住民の長距離移動手段である鉄道や路線バスを利用してもらいやすくするため、市が駅前の駐車場及び駐輪場を確保して運営管理することは妥当である。															
	有効性	評価結果		改善の余地がややある													
		・市営駐車場の日極駐車について、鉄道や路線バスを利用したおでかけを促進するため、市民に向けた周知・啓発をより一層図る必要がある。 ・市営駐車場のWEB予約制日極駐車区画の導入は、自家用車所有者に対する鉄道や路線バスの利用促進の手段として有効である。 ・各駅駐輪場の整備工事は、鉄道利用のために自転車やバイクで駅に訪れる市民の利便性を高めるため、駐輪スペースの確保策として有効である。															
効率性	評価結果		改善の余地がややある														
	・市営駐車場について、場所が近く管理が行き届く事業者に委託することは効率的である中、利用者の増加による利用料の増収を図る必要がある。 ・市営駐車場のWEB予約制日極駐車区画について、管理運営に係るノウハウと実績がある専門事業者に業務委託することは効率的である。																

事務事業の概要	事務事業名		地域公共交通活性化再生事業				担当課		交通政策課			事業区分		ソフト事業	
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1125
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	4	都市基盤・生活環境				
	予算科目	款	2	総務費					施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		項	1	総務管理費					基本施策	3	公共交通ネットワークの充実				
目		12	交通政策費			取組方針			1	公共交通の維持・確保・充実					
事業概要		地域公共交通の活性化及び再生に関する利用促進等を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①		紀の川市地域公共交通活性化再生協議会（法定協議会）				⑤				⑨				
	②		モビリティマネジメント実施				⑥				⑩				
	③						⑦				⑪				
	④						⑧				⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	紀の川市地域公共交通活性化再生協議会（法定協議会）開催回数	回	目標	3	3	3	3	3	紀の川デマンド乗合交通の導入や地域巡回バスの減便対応について協議した。	
		実績		3	5	3					
		<指標の計算方法> 法定協議会の開催回数									
	成果指標	日常生活において交通手段に不便と感じている市民の割合	%	目標	54	53	52	51	50	令和5年度と比べ横ばいとなり、年代や居住地を問わず不便と感じている割合が高い状況にある。令和7年1月に新たな公共交通を導入したことによる動向を注視する。	
		実績		54.1	51.8	51.6					
		<指標の計算方法> 市民意識調査で「感じる」「どちらかといえば、感じる」と回答した市民の割合									
	活動指標	モビリティマネジメント実施回数	回	目標	6	6	20	20	10	紀の川デマンド乗合交通の導入にあたり、利用説明会を各地で開催したことにより増加した。	
		実績		3	9	22					
		<指標の計算方法> 地域公共交通に関する理解醸成及び利用促進の実施回数									
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	681							681

事業の実績	①紀の川市地域公共交通活性化再生協議会（法定協議会） ・協議会：3回 6月24日 「国庫補助申請に係る承認事項について」等 11月8日 「紀の川デマンド乗合交通の運行について」等 1月27日 「紀の川市地域巡回バスの早朝・夜間便の減便について」等		資料送付） 12月：住民向け利用説明会（6回、135名参加） 1月～3月：個別利用説明会（6回、155名参加） ・紀の川デマンド乗合交通乗車体験会：2回 2月：河北東エリア、河北西エリア（2回、33名参加） ・意見交換会：1回 8月：紀の川市に乗り合いタクシーを走らせる会 ・広報紙：2回 12月：紀の川デマンド乗合交通の事業説明 1月：紀の川デマンド乗合交通利用案内冊子と利用登録票を市内全戸に配布	
	②モビリティマネジメント実施 ・市内高校の新入生へバス時刻表配布：2回 粉河高校、貴志川高校 ・紀の川デマンド乗合交通説明会：15回 10月：打田・粉河・那賀地区区長会（3回、79名出席。欠席者67名に			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない
		・人口減少や高齢化社会が進行する中、市民が利用しやすく、かつ持続可能な公共交通ネットワークの実現に向けて、市が地域情勢の変化に伴う市民ニーズの変化に対応した地域公共交通のあり方について、関係自治体と関係機関が連携して検討・見直していくことは妥当である。	
	有効性	評価結果	改善の余地がややある
		・市民意識調査で「公共交通ネットワークの充実」に対し、「不満」「やや不満」と回答した市民の割合が高い状態が続いている。 ・地域公共交通の関係者間で、現在の利用状況や地域ニーズを踏まえて協議を重ね、利用しやすい公共交通ネットワークとなるよう見直しを行うとともに、モビリティマネジメントの実施により、満足度の向上に取り組む必要がある。	
効率性	評価結果	改善の余地がややある	
	・より多くの方に地域公共交通を利用してもらえるように、利便性の向上やモビリティマネジメント等による利用促進を図りながら、費用対効果について検討し続ける必要がある。		

事務事業の概要	事務事業名				電算システム管理運営事業				担当課		デジタル推進室			事業区分		ソフト事業								
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		11					
	会計				一般会計				長期総合計画体系		政策目標		5		地域づくり・行政経営									
	予算科目				款		2				総務費													
					項		1				総務管理費													
					目		13				情報システム管理費													
	事業概要				電算システムを安全かつ安定的に稼働させることで、職員が効率的に業務を行い、市民に安定した行政サービスを提供する事業																			
	事務事業を構成する細事業				① 情報系システム管理				⑤								⑨							
					② 基幹系システム管理				⑥								⑩							
					③ セキュリティ対策				⑦								⑪							
④					⑧								⑫											

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	情報系システム停止件数	件	目標	0	0	0	0	0	致命的な停止はなく、安定稼働している。	
				実績	0	0	0				
		<指標の計算方法>		実数による件数							
	成果指標	基幹系システム停止件数	件	目標	0	0	0	0	0	致命的な停止はなく、安定稼働している。	
				実績	0	0	0				
		<指標の計算方法>		実数による件数							
	成果指標	情報漏えい事故発生件数	件	目標	0	0	0	0	0	職員の情報セキュリティ意識向上やシステムでのエンドポイント対策が機能している。	
				実績	0	0	0				
		<指標の計算方法>		実数による件数							
活動指標	サービスデスク受付件数	件	目標	3,400	3,350	3,300	3,400	3,400	職員用パソコンの入替やMicrosoft Office 365への切り替え、導入中のDXツールの問い合わせが増えているため、大幅に受付件数が増加した。		
			実績	3,379	3,346	3,730					
	<指標の計算方法>		実数による件数								

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳					
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	140,579				3,876					136,703

事業の実績	①情報系システム管理 ・京セラ製プリンタ修繕 21台 ・mouseパソコン修繕 12台 ・ハードウェア保守の実施 ・ソフトウェア保守の実施 ・ネットワーク保守の実施 ・システム運用支援の実施 ・サービスデスク業務の外部委託実施 ・東京事務所イーサネットVPN敷設															
	②基幹系システム管理 ・ハードウェア保守の実施 ・ソフトウェア保守の実施 ・帳票印刷の外部委託実施 ・自治体共同クラウドの利用 ・サービスデスク業務の外部委託実施															
	③セキュリティ対策 ・ISMS認証の維持 ・自治体情報セキュリティクラウドの利用															

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・住民サービスの提供に必要な各種システムやその基盤を運用管理するものであり、行政運営上で必要不可欠である。																
	有効性	評価結果	改善の余地がない															
		・セキュリティ事故も発生しておらず、システムも安定稼働しているため有効性がある。																
	効率性	評価結果	改善の余地がややある															
		・サービスデスク業務や帳票印刷BPOなど外部委託により人的、時間的に効率よく運営できている。 ・書類整理など機動配置職員の活用も検討していく。																

事務事業の概要	事務事業名		電算システム更新事業				担当課		デジタル推進室		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	497	
	会計		一般会計						政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総 務 費				長期総合計画体系		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		項	1	総務管理費						基本施策	1	デジタル化の推進			
		目	13	情報システム管理費						取組方針	9	その他			
	事業概要		電算システムを安全に、安定的に稼働させ、市民に安定した行政サービスを提供できるように電算システムを更新する事業												
			①	情報系システム更新				⑤					⑨		
	事務事業を構成する細事業		②	基幹系システム更新				⑥					⑩		
			③					⑦					⑪		
		④					⑧					⑫			
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析				
		情報系システム停止件数	件	目標		0	0	0	0	0	指標の実績から安定稼働していると判断できる。				
				実績		0	0	0							
		<指標の計算方法>		実数による件数											
	成果指標	基幹系システム停止件数	件	目標		0	0	0	0	0	指標の実績から安定稼働していると判断できる。				
				実績		0	0	0							
		<指標の計算方法>		実数による件数											
	成果指標	情報漏えい事故発生件数	件	目標		0	0	0	0	0	指標の実績から職員が情報セキュリティポリシーを意識して安全にシステムを利用できており、情報セキュリティマネジメントシステムも機能していると判断できる。				
				実績		0	0	0							
		<指標の計算方法>		実数による件数											
活動指標	基幹システム稼働業務数	業務	目標		53	53	57	57	57	指標の実績から安定稼働していると判断できる。					
			実績		53	57	57								
<指標の計算方法>		稼働業務数													
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳										
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
	215,542								29,458	186,084					
事業の実績	①情報系システム更新 ・職員用情報系端末の更新 ・出先機関用プリンタの更新														
	②基幹系システム更新 ・標準準拠システム移行準備 (データクレンジング)														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない												
		・庁内ネットワーク基盤と各種システムの安定した運営のためには、機器等の定期的な更改が必要である。													
	有効性	評価結果	改善の余地がない												
		・指標が示すように、安定したシステムを導入したという成果が出ており有効である。													
	効率性	評価結果	改善の余地がややある												
		・庁内ネットワーク基盤の構築、管理、サービスデスクの運営は同一事業者で行っており、不具合発生時に素早く対応できる。 ・反面、一者に依存しているためコストの妥当性において懸念がある。													

事務事業の概要	事務事業名		行政情報化推進事業				担当課		デジタル推進室		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		498		
	会計		一般会計								政策目標		5		地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総務費								施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		項	1	総務管理費								基本施策		1		デジタル化の推進			
		目	14	デジタル推進費								取組方針		1		行政サービスにおける利便性の向上			
事業概要			行政分野への情報通信技術の活用により、DX化を推進していくことで市民の利便性の向上と行政運営の効率化を図り、また関係団体、関係機関に負担金の支出や運営へ参加する事業																
事務事業を構成する細事業	① 県情報化推進協議会負担金				⑤ 統合型G I S管理				⑨ デジタル化推進										
	② 地方公共団体情報システム機構負担金				⑥ テレワーク促進				⑩										
	③ 県電子自治体推進協議会参画				⑦ 電子申請推進				⑪										
	④ 業務自動化促進				⑧ デジタルデバйд対策				⑫										
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析									
	成果指標	業務自動化ソフトウェア(RPA)による削減業務時間数	時間	目標	800	850	900	950	1,000	書かない窓口におけるRPAの初の通年稼働で693時間の業務削減効果あり。令和6年度は、新たに給食センターでの稼働を開始。150時間の追加削減効果を実現できた。									
				実績	3,124	960	1,602												
			<指標の計算方法> 削減された業務時間数の合計																
	活動指標	継続実施している情報化推進施策数	個	目標	4	5	6	7	8	統合型地図情報システム、RPAの研修・運用、オープンデータ用カタログサイト運営、テレワークシステム運用、電子申請、スマートフォン教室・相談窓口、書かない窓口を継続実施。令和6年度より新たに生成AIを導入。									
				実績	6	7	8												
			<指標の計算方法> 実施中の情報化施策数（前年度以前からの継続実施を含む）																
	成果指標	電子申請件数	件	目標	150	180	180	180	180	令和5年度と比較して戸籍謄本・抄本の申請件数が減少したが、その他申請数は例年並の申請数を維持している。12月より課税証明書のコンビニでの交付を開始したため今後、税証明分の電子申請数が減少すると予想される。									
				実績	158	220	174												
			<指標の計算方法> 住民票の写しや戸籍謄本等の証明書交付を電子申請で受けた件数																
			目標																
			実績																
		<指標の計算方法>																	
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	70,607				832								60		69,715				
事業の実績	①県情報化推進協議会負担金 ②地方公共団体情報システム機構負担金 ③県電子自治体推進協議会参画 ④業務自動化促進 ・障害福祉課 420時間削減 ・教育総務課 210時間削減 ・高齢介護課 85時間削減 ・契約管財課 44時間削減 ・給食センター 150時間削減 ・企画経営課 693時間削減 ⑤統合型G I S管理 ⑥テレワーク促進 ・年間使用回数 3,155回 ・年間使用時間 23,195時間 ⑦電子申請推進 住民票の写し 7件 戸籍謄本・抄本 75件 戸籍の附票の写し 6件 独身証明書 22件 身分証明書 24件 課税証明書 32件 納税証明書 8件 ⑧デジタルデバйд対策 ◇スマートフォン教室 ・アプリ操作編 31回開催 102名参加 ・スマホ操作編 3回開催 18名参加 ・キャッシュレス決済編 1回開催 15名参加 ◇スマートフォン相談窓口 22回開催 138名参加 ⑨デジタル化推進 ◇小・中学生向け ・ドローン教室 1回開催 9名参加 ◇職員向け ・生成AI研修 7回開催 104名参加 ・GIS研修 2回開催 41名参加 ・RPA研修 2回開催 21名参加 ◇クラウド型電話交換機(PBX)導入 ・業務用スマートフォン 688台 ・業務用フィーチャーフォン 111台																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果 改善の余地がない ・DX等の情報化施策は、職員の生産性向上や業務効率化、住民サービスの向上に寄与し、庁内外への影響も大きいため、本事業を実施する妥当性がある。																	
		評価結果 改善の余地がない ・デジタル推進監（民間のデジタル人材）からの助言に基づき情報化推進施策を実施している。また、指標の通り、継続実施している情報化推進施策が計画値を上回っているため有効性がある。ただし、本分野は変化が著しいため、選定後のサービスについても定期的な見直しや再評価が求められている。																	
	有効性	評価結果 改善の余地がない ・DXを進める上では複数のサービス等を比較検討し、コストとパフォーマンスのバランスのとれたサービスを選定しているため効率性がある。ただし、本分野は変化が著しいため、選定後のサービスについても定期的な見直しや再評価が求められている。																	
効率性		評価結果 改善の余地がややある ・DXを進める上では複数のサービス等を比較検討し、コストとパフォーマンスのバランスのとれたサービスを選定しているため効率性がある。ただし、本分野は変化が著しいため、選定後のサービスについても定期的な見直しや再評価が求められている。																	

事務事業の概要	事務事業名			地域情報通信基盤管理運営事業				担当課		デジタル推進室		事業区分		ソフト事業	
	新規・継続			継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		402			
	会計			一般会計				政策目標		5		地域づくり・行政経営			
	予算科目	款	2	総務費				施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		項	1	総務管理費				基本施策		1		デジタル化の推進			
事業概要			市民（難視聴エリア）の市内における情報格差の是正を図るために、施設整備や情報・通信サービスの提供、対策を行う事業												
事務事業を構成する細事業	① 設備管理			⑤						⑨					
	② 設備更新			⑥						⑩					
	③ 難視聴・不感対策			⑦						⑪					
	④			⑧						⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
	活動指標	設備適正管理施設数	箇所	目標	5	5	5	5	5	難視聴地域にテレビ放送を提供するため、5箇所には放送用機材を設置している。故障や老朽化を未然に防ぐため、定期保守や機器更新を行う必要がある。					
			実績	5	5	5									
			<指標の計算方法> 管理施設の内、耐用年数超えの機器が存在しない施設数												
	成果指標	ケーブルテレビ放送送信停止	回	目標	0	0	0	0	0	適切に保守や機器更新を行った結果、ケーブルの断線や放送機器の故障を発生させず、放送を停止させることなく運営できた。					
			実績	1	1	0									
			<指標の計算方法> ケーブルテレビ放送機器故障等による放送停止回数												
				目標											
				実績											
				<指標の計算方法>											
			目標												
			実績												
			<指標の計算方法>												
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳											
	84,744			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源						
事業の実績	①設備管理 ・ケーブルテレビ加入世帯数 （加入率：加入世帯数／地域世帯数） 586世帯（86.2%） ・インターネット加入世帯数 （加入率：加入世帯数／地域世帯数） 263世帯（38.7%） ※地域世帯数680世帯 ・設備保守 スポット保守 8件 支障移転 12件 修繕 2件 材料購入 1件 ・芯線貸出 N T T ドコモ 5拠点 ソフトバンク 8拠点 ・吊線貸出 ZTV 329箇所 オペレージ 41箇所 KDDI 86箇所														
	②設備更新 ・メインセンター及びサブセンター内 蓄電池交換工事 ・地上波デジタル放送設備機器及び 制御装置更新 ③難視聴・不感対策 ・携帯電話鉄塔管理 不感エリア3箇所 （中畑・鳥淵・久保地区）														
事業の事後評価	妥当性	評価結果 改善の余地がない ・未だに民間事業者が採算性の点から事業展開しておらず、地域情報通信基盤施設がないとテレビ、インターネットが利用できないなど大きな情報格差が発生するため、設備を管理運営しサービスを安定的に提供する必要がある。													
		評価結果 改善の余地がない ・インターネット接続事業者及びケーブルテレビ会社に地域情報通信基盤施設を貸し出し、市民に必要な通信・情報サービスを実施している。													
	有効性	評価結果 改善の余地がない ・現時点では、提供地域に住む住民にとっては代替手段がない。													
		効率性													

事務事業の概要	事務事業名		地域防犯推進事業				担当課		危機管理消防課		事業区分		ソフト事業							
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	500						
	会計		一般会計						政策目標	1	安全・安心									
	予算科目	款	2 総 務 費						施策目標	1	防災・防犯									
		項	1 総務管理費						基本施策	4	防犯・交通安全対策の推進									
	目	15 地域安全対策費						取組方針	3	地域防犯対策の推進										
事業概要			市民、自治区の防犯力の向上を図るために、防犯啓発、防犯教室の実施や防犯設備の設置に対する補助を行う事業																	
事務事業を構成する細事業	①		防犯灯設置費補助金				⑤		県水上安全協会負担金		⑨									
	②		防犯カメラ設置費補助金				⑥		那賀地区防犯協議会負担金		⑩									
	③		防犯カメラ管理				⑦		生活安全・暴力追放推進協議会補助金		⑪									
	④		行方不明者対応				⑧		電気用品安全法		⑫									
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析					
	活動指標	防犯啓発実施回数	回	目標	3		3		3		3		3		地域安全運動に伴う街頭啓発活動を実施し、防犯について周知している。コロナウイルス感染症予防の際に実施回数が減少した後、回復していない。					
				実績	1		1		1											
		<指標の計算方法>		実施回数																
	活動指標	防犯教室実施回数	回	目標	5		5		5		5		5		団体等からの開催要望を受けて実施している。令和6年度から和歌山県警察が実施する出前講座を活用し、市の出前講座に登録して周知することにより実施されている。					
				実績	0		0		3											
		<指標の計算方法>		実施回数																
	活動指標	補助事業の啓発回数	回	目標	6		6		6		6		6		補助事業の啓発を各地区区長会及び全体区長会にて実施した。					
				実績	5		6		6											
		<指標の計算方法>		啓発活動の延べ回数																
成果指標	LED防犯灯設置基数	基	目標	625		620		725		525		525		蛍光灯からLED灯への器具取替えが主な補助対象となる。令和5年度に比べて91基増加した。						
			実績	562		398		489												
	<指標の計算方法>		防犯灯新規(LED化)の設置延べ基数																	
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳															
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
	11, 875														11, 875					
事業の実績	①防犯灯設置費補助金 【LED新設】 既存の電柱等に設置 73基 支柱も同時に設置 4基 【器具取替え】 既設蛍光灯からLED 403基 既設LEDからLED 8基 器具と支柱の取替（蛍光灯→LED）1基 器具と支柱の取替（LED→LED） 0基 既設LEDの支柱取替え 0基				⑤県水上安全協会負担金 295, 000円 水の事故防止を呼び掛けるための横断幕を作成。竹房橋、諸井橋に横断幕の設置を行った。				⑥那賀地区防犯協議会負担金 414, 000円 通学路パトロールや特殊詐欺被害防止、犯罪被害防止、薬物乱用防止、万引き防止のための街頭啓発活動や、小学校における防犯訓練などを実施				⑦生活安全・暴力追放推進協議会補助金 219, 000円 啓発 1回、教室 3回				⑧電気用品安全法 立ち入り店舗 1店舗、該当品目取扱い無し			
	②防犯カメラ設置費補助金 設置区 3区、設置台数 5台																			
	③防犯カメラ管理 設置台数 7台 設置場所 打田駅、粉河駅、名手駅、下井阪駅(2台)、貴志駅、甘露寺前駅																			
	④行方不明者対応 4件																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・公共性が有り、市が率先する事業として妥当である。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																
		・犯罪被害者等支援条例の制定に係る窓口相談業務について、専門的な知見も必要なことから、他課との連携方法や関係機関との連絡調整について検討が必要となっている。																		
効率性	評価結果		改善の余地がない																	
	・監察監を通じて、県警察の特殊詐欺被害防止アドバイザーと連携を図り、詐欺防止の出前講座は効率的に実施できている。																			

事務事業の概要	事務事業名		交通安全推進事業				担当課		交通政策課		事業区分		ソフト事業			
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	496	
	会計		一般会計													
	予算科目	款	2 総 務 費				長期総合計画体系		政策目標		1	安全・安心				
		項	1 総務管理費						施策目標		1	防災・防犯				
	目	15 地域安全対策費						基本施策		4	防犯・交通安全対策の推進					
事業概要		市民が交通安全意識を高め、円滑な道路交通で生活できるように、市民(特に児童・高齢者)に街頭啓発や交通安全教室等の開催を行う事業														
事務事業を構成する細事業	①		交通指導員設置				⑤		那賀地方交通指導員会連絡会負担金				⑨		紀の川市交通大学	
	②		交通安全啓発				⑥		交通安全母の会補助金				⑩			
	③		交通安全施設整備申請				⑦		交通安全推進連絡協議会補助金				⑪			
	④		地域交通安全活動推進委員協議会負担金				⑧		交通安全教室				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析						
	活動指標	交通安全教室実施回数	回	目標	10	10	6	6	6	市内保育所・保育園において、園児を対象に実施した。						
				実績	0	9	6									
				<指標の計算方法>					交通安全教室実施回数							
	活動指標	交通安全啓発実施回数	回	目標	12	12	5	5	5	四季の交通安全運動に伴う啓発活動などを実施した。						
				実績	5	7	5									
				<指標の計算方法>					交通安全啓発実施回数							
	成果指標	交通事故発生件数	件	目標	180	90	90	90	90	令和5年度に比べ減少となり、近年では徐々に減少傾向にある。						
				実績	90	100	82									
				<指標の計算方法>					紀の川市管内の人身交通事故件数							
成果指標	交通事故発生件数(うち高齢者)	件	目標		40	40	40	40	令和5年度に比べ減少となったが、高齢化に伴い増加することが懸念される。							
			実績	26	40	25										
			<指標の計算方法>					紀の川市管内の人身交通事故件数(うち高齢者)								
コストの実績	R 6年度決算額(単位:千円)			財源内訳												
				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
	4, 243													4, 243		
事業の実績	①交通指導員設置 指導員数: 51名 (令和7年3月末)(地区別内訳) 打田地区: 14名、粉河地区: 15名、那賀地区: 9名、桃山地区: 6名、貴志川地区: 7名				・交通安全運動への参加 ・幼児・児童に対する安全教育				踏切の渡り方等の指導							
	②交通安全啓発 啓発活動: 5回 (啓発内訳) 四季の交通安全運動啓発: 4回(岩出警察署管内商業施設等) ヘルメット着用啓発: 1回(打田中学校)				⑤那賀地方交通指導員会連絡会負担金 ・交通安全運動への参加 ・啓発物資の配布				⑨紀の川市交通大学 7回開催: 学生16名 ・開校式 ・交通安全講話(岩出警察署) ・認知機能訓練(岩出自動車学院) ・応急救護措置要領(那賀消防組合) ・夜間視認性実験(岩出警察署) ・身体機能測定体験(県警本部交通センター) ・交通安全講話(包括連携協定事業者)修了式							
	③交通安全施設整備申請 飛び出し注意看板要望: 36件(看板47枚、土台29個配付)				⑥交通安全母の会補助金 ・交通安全運動への参加 ・各支部での啓発活動 ・啓発物資の配布											
	④地域交通安全活動推進委員協議会負担金				⑦交通安全推進連絡協議会補助金 ・交通安全運動への参加 ・交通大学の実施 ・啓発物資の配布											
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない												
		・市が主体となって交通安全の関係機関・団体との連携を強化し、交通安全活動を継続的に活性化させていくことは妥当である。														
	有効性	評価結果		改善の余地がややある												
		・交通情勢の変化に合わせて事業内容を調整しつつ、関係機関・団体と連携を図りながら交通ルールや交通マナーを守ってもらえるように啓発を継続的に実施する必要がある。 ・交通指導員の成り手不足の状況が続いており、交通安全の啓発・指導における人員確保が課題となっている。														
効率性	評価結果		改善の余地がややある													
	・交通指導員や各種交通安全の関係機関・団体が丸一となって、交通安全意識の向上を啓発することは効率的である。															

事務事業の概要	事務事業名		放棄車両対策事業				担当課		交通政策課		事業区分		ソフト事業								
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		15				
	会計		一般会計						政策目標		1		安全・安心								
	予算科目	款	2		総務費				施策目標		1		防災・防犯								
		項	1		総務管理費				基本施策		4		防犯・交通安全対策の推進								
		目	15		地域安全対策費				取組方針		2		放置自転車対策の推進								
	事業概要		市民が放棄車両の無い円滑な道路交通で生活できるように、放置車両の所有者に啓発、警告を行い、放置車両の撤去、保管、廃棄を行う事業																		
			①		放棄自動車等対策				⑤						⑨						
	事務事業を構成する細事業		②						⑥						⑩						
			③						⑦						⑪						
		④						⑧						⑫							
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	活動指標	車両調査台数		台		目標												令和5年度に比べ増加となったが、比較的少ない台数で推移している。			
				実績		1		5		8											
		<指標の計算方法> 通報があり調査対応した自動車と原動機付自転車の台数																			
	活動指標	放置自転車警告台数		台		目標												粉河駅及び下井阪駅において、見回りを強化したことにより増加となった。			
				実績		65		94		116											
		<指標の計算方法> 警告札を取り付けた放置自転車の台数																			
	活動指標	放棄自動車台数		台		目標												所有者等により撤去されなかったため撤去保管を行った。			
				実績				1		1											
		<指標の計算方法> 放棄自動車の撤去保管台数																			
成果指標	放置自転車台数		台		目標												駅駐輪場などの見回りを強化したことにより減少した。				
			実績		30		78		64												
	<指標の計算方法> 放置自転車の移動保管台数																				
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)						財源内訳														
							国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	44																44				
事業の実績	①放棄自動車等対策 ・処分した放棄自動車等 自転車：33台、処分費：0円 (放棄場所の内訳) 打田駅：3台、下井阪駅：5台、 粉河駅：5台、紀伊長田駅：1台、 名手駅：13台、貴志駅：1台、 その他：5台 (紀の海クリーンセンターで処分) 原動機付自転車：1台、処分費：11,000円 自動車：1台、処分費：33,000円																				
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																	
		・市が主体となって地域の美観を保持するとともに、市民の快適な生活環境の維持を図ることは妥当である。																			
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																	
		・放置自転車について、各駅駐輪場の定期的な見回りなどにより、盗難防止や放置されにくい環境づくりに取り組む必要がある。																			
	効率性	評価結果		改善の余地がややある																	
		・放置自転車の対応について、市職員による移動保管等の作業は負担となっているが、業務委託等は費用対効果として効率的とは言えないことから、関係支所に一部の業務分散を図っている。																			

事務事業の概要	事務事業名		合併20周年記念式典等開催事業						担当課		総務課		事業区分		ソフト事業	
									新規・継続		新規	事業期間	期間限定複数年度（R6～R7）		事業番号	1246
	会計		一般会計						長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営			
	予算科目	款	2	総務費				施策目標			3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		項	1	総務管理費				基本施策			4	将来を見据えた行政経営の推進				
		目	17	合併20周年記念事業費				取組方針			9	その他				
	事業概要		合併20周年を記念した式典等を開催する事業													
	事務事業を構成する細事業		①	大相撲紀の川場所実行委員会補助金				⑤					⑨			
			②					⑥					⑩			
			③					⑦					⑪			
④							⑧					⑫				
指標の実績	指標名		単位		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	指標の分析						
	成果指標	大相撲紀の川場所実行委員会構成員数	人	目標				21			市関係者をはじめ、観光協会、商工会など、市と関わりの深い団体が構成員となった。					
				実績				21								
				<指標の計算方法>						大相撲紀の川場所実行委員会構成員数						
				目標												
				実績												
				<指標の計算方法>												
				目標												
				実績												
				<指標の計算方法>												
			目標													
			実績													
			<指標の計算方法>													
コストの実績	R6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳											
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源						
	3,968							3,000		968						
事業の実績		①大相撲紀の川場所実行委員会補助金 4,500,000円 ・合併20周年記念特別事業「大相撲紀の川場所」を開催するための準備を行った。 ・賑わいとして、大相撲マルシェの準備を行った。														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・合併20周年を祝うための皮切りとなる「大相撲紀の川場所」の開催準備に関して市関係者をはじめ、観光協会、商工会など、市と関わりの深い団体を構成員とした実行委員会を立ち上げ、紀の川場所の集客だけでなく、マルシェの開催を通じて地域の活性化を図ることに関し、実行委員会を中心に活動することについては妥当性がある。														
	有効性	評価結果	改善の余地がない													
		・積極的にPR活動やチケット販売促進を行うために、SNS等を通じて効果的なPRを実施することは有効である。														
	効率性	評価結果	改善の余地がない													
		・「大相撲紀の川場所」の会場運営等に関する業務は、実行委員会が外部に委託しており、効率化が図られている。														

事務事業の概要	事務事業名		税務行政推進事業				担当課		税務課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		510		
	会計		一般会計																
	予算科目	款	2	総 務 費				長期総合計画体系		政策目標		5	地域づくり・行政経営						
		項	2	徴 税 費						施策目標		3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成						
目	1	税務総務費								基本施策		3	健全な財政運営の確立						
事業概要		市の円滑な税務行政を推進するために、関連団体への負担金支出やその運営に参画する事業																	
事務事業を構成する細事業	① 近畿都市税務協議会負担金				⑤ 橋本・伊都・那賀租税教育推進協議会負担金				⑨ 資産評価システム研究センター負担金										
	② 県租税教育推進連絡協議会負担金				⑥ 確定申告書発送経費負担金				⑩										
	③ 伊那税務協議会負担金				⑦ 年末調整関係書類封入発送経費負担金				⑪										
	④ 軽自動車税申告事務経費負担金				⑧ 地方税共同機構負担金				⑫										

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析			
	活動指標	租税教室開催件数（粉河税務署管内）	回	目標	50	50	50	50	50	粉河税務署管内において実施している事業であり、社会科教育の一環として小中学校に対し租税教室の開催を要請し、講師の派遣等を行っている。令和6年度は目標以上の数値を達成している。			
				実績	43	48	54						
	<指標の計算方法>		小中学校へ税務署・県・市の職員、税理士等が講師となり開催した教室の回数										
	成果指標	税についての作文応募件数（粉河税務署管内）	件	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	税に関心を持ち、理解を深めるきっかけとして作文の募集を行っている。年度によって応募件数には増減があるが、長期的にみると減少傾向にある。			
				実績	1,763	1,511	1,787						
	<指標の計算方法>		税の作文に応募があった件数（中学生の部・高校生の部の合計）										
				目標									
				実績									
	<指標の計算方法>												
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													

コストの実績	R 6年度決算額（単位：千円）		財源内訳											
			国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	4, 846												4, 846	

事業の実績	①近畿都市税務協議会負担金 適正な都市税務制度の確立とその運営に関する相互の円滑な連絡を図ることを目的として設立された団体への負担金（0円） ※協議会で令和6年度不要と決定された。				て、市町村の登録台数に応じて負担（988,000円）				⑧地方税共同機構負担金 地方公共団体の相互協力を基本理念として地方税の電子化を推進することにより、納税者の利便性の向上を図るとともに地方税務行政の高度化及び効率化に寄与することを目的として設立された団体への負担金（3,638,874円）			
	②県租税教育推進連絡協議会負担金 粉河税務署の管轄区域内における児童・生徒及び一般社会人に対して、租税教育を推進することを目的として設立された団体への負担金（16,300円）				⑤橋本・伊都・那賀租税教育推進協議会負担金 次代を担う児童・生徒を中心に租税教室の開催や税に関する作文の募集等を通じて、税の意義や役割の正しい理解を促進するために設立された団体への負担金（10,353円）							
	③伊那税務協議会負担金 粉河税務署の管轄区域内における税務行政の運営にあたり緊密な協力体制を確立し、併せてその連絡協調を図ることを目的として設立された団体への負担金（23,750円）				⑥確定申告書発送経費負担金 確定申告書の発送経費について、国、市町村において発送数に応じて負担（18,987円）				⑨資産評価システム研究センター負担金 固定資産に係る課税及び評価に関する調査研究事業、地方公共団体における固定資産評価技術の向上のための研修事業等を中心とした事業を実施し、固定資産評価の均衡化、適正化を推進することを目的として設立された団体への負担金（90,000円）			
	④軽自動車税申告事務経費負担金 軽自動車税の申告事務に要する経費について、国、市町村において発送数に応じて負担（60,165円）				⑦年末調整関係書類封入発送経費負担金 年末調整関係書類の封入・発送経費について、国、市町村において発送数に応じて負担（60,165円）							

事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																	
		・次の世代を担う子供たちに税の役割や使い道について考え、関心を深めてもらう機会づくりは、将来の納税意識の醸成に寄与するため、市が関連団体の活動に参画（負担金支出）することは妥当である。																			
	有効性	評価結果		改善の余地がない																	
		・関連団体の調査研究成果を活用することで、市の課税業務の適正化や高度化につながっている。 ・関連団体の活動により、地方税の電子化が推進されており、納税者の利便性向上につながっている。																			
効率性	評価結果		改善の余地がない																		
	・確定申告書や年末調整等の関連書類を共同で作成・発送することで事務経費の節減につながっている。																				

事務事業の概要	事務事業名		固定資産評価審査委員会運営事業				担当課		総合行政委員会事務局		事業区分		内部管理事業					
	会計		一般会計				新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		509	
	予算科目	款	2	総務費				長期総合計画体系	政策目標		99	*****						
		項	2	徴税費					施策目標		99	*****						
		目	1	税務総務費					基本施策		99	*****						
									取組方針		9	その他						
	事業概要		固定資産の評価に不服がある者の評価が適正か否かを判断するため、固定資産評価審査委員会へ審査の申出がされてから裁決までの行程を円滑に行う事業															
	事務事業を構成する細事業	①		固定資産評価審査委員会運営				⑤						⑨				
		②						⑥						⑩				
		③						⑦						⑪				
④						⑧						⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	固定資産評価審査委員会運営研修会への参加	回	目標	1		1		1		1		1		研修会を開催し、オンラインの研修を受講した。			
				実績			1		1									
				<指標の計算方法>								研修会参加件数						
	活動指標	審査の申出に係る固定資産評価審査委員会の開催	回	目標											審査請求に係る固定資産評価審査委員会の開催はなし。			
				実績														
				<指標の計算方法>								審査委員会開催件数						
				目標														
				実績														
				<指標の計算方法>														
			目標															
			実績															
			<指標の計算方法>															
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳													
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	64														64			
事業の実績	① 固定資産評価審査委員会運営 ・ 7/26 研修会の開催 (オンライン：委員4名・職員2名)																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果 改善の余地がない ・ 地方自治法に基づき設置が義務付けられている委員会である。																
	有効性	評価結果 改善の余地がない ・ 固定資産評価審査委員会が中立的な立場から審査・裁決を行うことで、公平・適正な価格の決定を保証している。																
	効率性	評価結果 改善の余地がない ・ 固定資産評価審査委員に対する報酬のため、これ以上のコスト削減は難しい。																

事務事業の概要	事務事業名		賦課総務事業					担当課		税務課		事業区分		ソフト事業	
								新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	520
	会計		一般会計					長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営			
	予算科目	款	2	総 務 費			施策目標			3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		項	2	徴 税 費			基本施策			3	健全な財政運営の確立				
目		2	賦 課 費			取組方針	9			その他					
事業概要		市が円滑に賦課業務をすすめられるように庶務業務の調整を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①		賦課総務事業					⑤					⑨		
	②							⑥					⑩		
	③							⑦					⑪		
	④							⑧					⑫		

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	専門研修派遣人数		人	目標	3	3	3	3	3	専門的知識の習得のため研修に参加し、実務遂行能力の向上に努めている。令和6年度は2名参加した。
		実績			0	1	2				
		<指標の計算方法>		全国市町村国際文化研修所における研修参加人数							
					目標						
		実績									
		<指標の計算方法>									
					目標						
		実績									
		<指標の計算方法>									
				目標							
	実績										
	<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	7,018							2,047	4,971

事業の実績	①賦課総務事業					
	・各税に共通する庶務業務の調整					
	・職員研修					
	全国市町村国際文化研修所（大津市）参加2名。					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・地方税法に基づく課税事務を円滑に行うために必要となる事業であり、市が関与することは妥当である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・専門職員研修等を通じて、担当職員の専門的知識の習得及び実務遂行能力の向上につながっている。		
	効率性	評価結果	改善の余地がない	
		・公的機関を活用することで、最小限の経費で研修に参加できている。 ・賦課業務に必要な消耗品等を一括して購入するなど、効率的な経費の執行に努めている。		

事務事業の概要	事務事業名		個人市県民税賦課事業				担当課		税務課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	511
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2		総務費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		項	2		徴税費				基本施策	3	健全な財政運営の確立				
目		2		賦課費		取組方針			9	その他					
事業概要		市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（市民）の申告に基づき、適正な課税を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①		個人市県民税賦課				⑤					⑨			
	②						⑥					⑩			
	③						⑦					⑪			
	④						⑧					⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	市県民税申告書送付件数	件	目標	6,500	5,500	5,500	5,500	5,500	令和5年度に市県民税申告書及び国保税用申告書を提出した市民に対して送付している。 人口減少と高齢化による公的年金受給者の増加に伴い申告が不要になった方が増加したことで減少傾向にあるもの と考える。	
				実績	5,299	5,125	4,896				
		<指標の計算方法>		市県民税申告を促した数							
	活動指標	申告会場における申告書受付件数	件	目標	3,300	3,300	3,300	3,300	3,000	電子申請の普及により、申告会場での受付件数は減少傾向にある。	
				実績	3,071	2,885	2,845				
		<指標の計算方法>		申告相談にて受け付けた数							
	活動指標	給与支払総括表送付件数	件	目標	7,000	7,000	7,000	6,800	6,800	令和5年度に給与支払報告書の提出があった事業者に対して送付している。 ほぼ横ばいで推移している。	
実績				6,797	6,802	6,871					
<指標の計算方法>		特別徴収義務者に課税資料（給与支払報告書）の提出を促した数									
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	18,349						150	18,199

事業の実績	①個人市県民税賦課 ・令和6年分所得税確定申告・市県民税申告事務の対応		・納税義務者数 29,472人 特別徴収納税義務者数（給与） 19,156人 特別徴収納税義務者数（年金） 5,649人 普通徴収納税義務者数 4,667人	
	税務課、収納対策課、国保年金課、支所職員及び税務経験職員による協力体制を確立し、2月6日から3月17日まで本庁及び各地域会場で申告相談事務を行った。 【受付件数】 打田会場 1,216件 粉河会場 199件 那賀会場 218件 桃山会場 286件 貴志川会場 906件 鞆淵会場 20件 総受付件数 2,845件 【従事職員数】 301人		・特別徴収義務者数（事業所） 5,502社 ・納税通知書作成及び封入封緘業務（普通徴収） 11,243件	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・自主財源確保のため地方税法に基づいて行う事務事業である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・国税連携による確定申告データ取り込み数を増やすため、税務署と連携して電子申告を推進している。 ・公平な課税ができるよう所得の内容確認や扶養重複確認などを実施し、適正な課税に努めている。 ・適正課税のもと、自主財源の比率向上に貢献している。		
効率性	評価結果	改善の余地がややある		
	・電子申告の普及により、徐々に申告相談会場の来場者数も減少しているが、スマホ申告などの推進による来場者数の減を図り、職員負担の軽減に取り組む必要がある。 ・市基幹系システムへの給与支払報告書や確定申告書等のデータ入力作業を外部委託することで、事務の効率化をすすめているが、入力後の確認作業も膨大であり、繁忙期における職員負担の軽減に取り組む必要がある。			

事務事業の概要	事務事業名		法人市民税賦課徴収事業				担当課		税務課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	512	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総務費		施策目標			3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		項目	2	徴税費		基本施策			3	健全な財政運営の確立					
目		2	賦課費		取組方針	9			その他						
事業概要		市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（法人）の申告に基づき、適正な課税や徴収を行う事業													
事務事業を構成する細事業			① 法人市民税賦課事業				⑤				⑨				
			② 法人市民税徴収事業				⑥				⑩				
			③				⑦				⑪				
			④				⑧				⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	申告依頼書送付件数	件	目標	1,300	1,300	1,300	1,400	1,400	各法人の決算時期に応じて適時に申告依頼書を送付し、申告納付を促している。他の官公庁等からの様々な情報を活用し、未登録法人の捕捉に努めており、微増傾向にある。	
		実績	1,432	1,490	1,501						
		<指標の計算方法> 対象法人に対し、申告を促した件数									
	活動指標	未申告法人に対する申告依頼書送付件数	件	目標	20	20	20	20	20	未申告の法人に対し、申告期限の翌々月10日前後に申告案内を再送し、適正な申告納付を求めている。	
		実績	14	23	18						
		<指標の計算方法> 申告期限までに申告がない法人に対し、再度申告を促した件数									
活動指標	督促状送付件数	件	目標	40	40	40	40	40	申告後、納期限までに納付がない法人に対して、納期限の翌月に督促状を送付している。		
	実績	59	33	51							
	<指標の計算方法> 納期限までに納付がない法人に対し、納付を促した件数										
成果指標	法人税調定額	千円	目標						全体としての調定額は社会経済情勢に左右されることから、納税義務者は増加し法人市民税は増加となった。		
	実績	361,434	306,805	328,205							
<指標の計算方法>		現年課税分の調定額									

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳					
	6,965			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
			6,965						

事業の実績	①法人市民税賦課事業 ・納税義務者数 1,133社					
	【内訳】 9号 (50億円超・50人超) 9社 8号 (10億円超50億円以下・50人超) 1社 7号 (10億円超・50人以下) 43社 6号 (1億円超10億円以下・50人超) 6社 5号 (1億円超10億円以下・50人以下) 32社 4号 (1千万円超1億円以下・50人超) 19社 3号 (1千万円超1億円以下・50人以下) 192社 2号 (1千万円以下・50人超) 8社 1号 (上記以外の法人) 823社					
②法人市民税徴収事業						

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない		
		・自主財源確保のため、地方税法に基づいて行う事務である。 ・適正課税による自主財源の確保は、効率的な行財政運営を行うために必要な事業である。			
	有効性	評価結果	改善の余地がない		
		・適正に課税事務を行うことで歳入確保につながり、自主財源比率の向上に貢献している。			
	効率性	評価結果	改善の余地がややある		
		・納税者の利便性向上と事務の効率化を図るため、電子申告を推進している。 ・電子申告データの取込等により効率化できるが、精度の低い申告データも多く課題となっている。			

事務事業の概要	事務事業名		固定資産税・都市計画税賦課事業				担当課		税務課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	517	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総 務 費					施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		項	2	徴 税 費					基本施策	3	健全な財政運営の確立				
		目	2	賦 課 費			取組方針	9	その他						
事業概要		市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（土地・家屋・償却資産所有者）の固定資産所有状況を確認し、適正な課税を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①		固定資産税・都市計画税（土地）賦課				⑤					⑨			
	②		固定資産税・都市計画税（家屋）賦課				⑥					⑩			
	③		固定資産税（償却資産）賦課				⑦					⑪			
	④						⑧					⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	成果指標	固定資産評価審査委員会への審査申出件数	件	目標	0	0	0	0	0	申出がなかったことから市民からの信頼を得た適正課税が行えたことと言える。		
		実績		0	0	0						
		<指標の計算方法>		審査申出がないことは、市民からの信頼を得た適正評価ができていていることに繋がる								
	活動指標	新増築家屋件数	件	目標						旧打田町及び旧貴志川町地区を中心に建築されており、令和6年中に評価した物件の課税への反映は令和7年度からとなる。		
		実績		267	301	264						
		<指標の計算方法>		1月から12月中に新増築され、評価した件数（概要調書より）								
活動指標	滅失家屋件数	件	目標						建替えや老朽化により取壊された件数であり、令和6年中滅失された物件の課税への反映は令和7年度からとなる。			
	実績		313	299	378							
	<指標の計算方法>		1月から12月中に滅失された件数（概要調書より）									
成果指標	固定資産税・都市計画税調定額	千円	目標						令和6年度は評価替えにより在来分家屋の減価が行われたことにより減少しています。			
	実績		3, 353, 765	3, 438, 766	3, 412, 433							
<指標の計算方法>		現年課税分の調定額										

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
			35, 250						35, 250

事業の実績	①固定資産税・都市計画税（土地）賦課 ・地番図更新（令和6年中異動分） ・令和7年度用標準宅地時点修正鑑定（R6. 7. 1基準日） ・納税義務者数（令和6年度）（土地：免税点未満含む） 固定資産税：32, 571人 都市計画税：24, 270人			・納税義務者数（令和6年度）（償却：免税点未満含む） 固定資産税：1, 352人					
	②固定資産税・都市計画税（家屋）賦課 ・家屋図更新（令和6年中異動分） ・家屋評価件数（令和7年度課税に反映） 木 造：212 棟 非木造： 52 棟 ・納税義務者数（令和6年度）（家屋：免税点未満含む） 固定資産税：26, 385人 都市計画税：25, 034人								
	③固定資産税（償却資産）賦課								

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・自主財源確保のため地方税法に基づいて行う事務である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・適正な課税事務を行うことで歳入確保につながっている。		
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・登記異動に係る課税への反映や土地、家屋評価のシステム導入により事務の効率化に取り組んでいる。			

事務事業の概要	事務事業名		軽自動車税賦課事業				担当課		税務課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		18		
	会計		一般会計								政策目標		5		地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総 務 費								施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		項目	2	徴 税 費								基本施策		3		健全な財政運営の確立			
		目	2	賦 課 費								取組方針		9		その他			
事業概要			市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（軽自動車所有者）の軽自動車所有状況を確認し、適正な課税を行う事業																
事務事業を構成する細事業		①	軽自動車税賦課				⑤					⑨							
		②					⑥					⑩							
		③					⑦					⑪							
		④					⑧					⑫							

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	活動指標	小型特殊車両の登録啓発回数	回	目標	1	2	2	2	2	周知徹底のため年度内に2回、市広報への掲載を行っている。		
				実績	2	2	2					
		<指標の計算方法>		広報紙等を通じて登録啓発を行った回数								
	成果指標	小型特殊車両の登録台数	台	目標	1, 180	1, 300	1, 300	1, 300	1, 300	農業用（トラクター等）を中心に小型特殊車両は登録義務があるといった認識が年々浸透してきており、増加しているものと思われる。		
				実績	1, 255	1, 286	1, 317					
<指標の計算方法>		小型特殊車両登録台数（決算時）										
成果指標	課税台数	台	目標						人口減少に加え、高齢化及び少子化が進んでいることが減少の要因と思われる。			
			実績	40, 942	40, 978	40, 968						
	<指標の計算方法>		課税台数（決算時）									
成果指標	軽自動車税調定額	千円	目標						主に軽四輪乗用（自家用）の増加によるものと思われる。			
			実績	273, 400	279, 752	284, 792						
	<指標の計算方法>		現年課税分の調定額									

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
	4, 247		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
								4, 247

事業の実績	①軽自動車税賦課 ・原動機付自転車等標識登録・廃車 2, 271件		小型二輪 988台	
	・陸運支局・軽自協での登録・廃車 9, 613件		・登録台数のうち非課税、免除台数 840台	
	・登録台数 41, 211台		【内訳】	
	特定原付 5台		非課税 220台	
	原付 50cc以下 5, 365台		課税保留 23台	
	原付 90cc以下 608台		身体障害者減免（税条例90条） 480台	
	原付125cc以下 1, 072台		施設減免（税規則55条） 101台	
	ミニカー 74台		構造減免（税条例90条） 16台	
	軽二輪 985台		・納税通知書作成・封入封緘業務 35, 936件	
	軽三輪 1台			
	軽四輪乗用（営業用） 10台			
	軽四輪乗用（自家用） 19, 911台			
	軽四輪貨物（営業用） 98台			
	軽四輪貨物（自家用） 10, 777台			
	小型特殊（農耕用） 1, 135台			
	小型特殊（その他） 182台			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・自主財源の確保のため地方税法に基づいて行う事業である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・適正な課税事務を行うことで歳入確保につながっている。 ・小型特殊車両は、公道走行の有無に関わらず課税対象となることから、周知徹底のため広報に取り組んでいる。		
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・軽四輪と125ccを超える二輪については、軽自動車検査協会から送付されるデータの電子化により、迅速かつ確実な申告書情報の収受ができており、賦課誤りを軽減するとともに事務の効率化が図られている。			

事務事業の概要	事務事業名			市税等収納事業				担当課		収納対策課		事業区分		ソフト事業			
								新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	523	
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標		5 地域づくり・行政経営					
	予算科目			款	2 総 務 費					施策目標		3 市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
				項	2 徴 税 費					基本施策		3 健全な財政運営の確立					
				目	3 徴 税 費					取組方針		2 歳入確保のための取組の推進					
	事業概要			市が歳入を適正に確保するために、市税等の収納状況の管理を行う事業													
	事務事業を構成する細事業			① 収納管理業務				⑤						⑨			
				② 口座振替・コンビニ収納等業務				⑥						⑩			
				③				⑦						⑪			
④				⑧						⑫							

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	成果指標	市税収納率		%	目標	97.4	97.5	97.6	97.7	97.8	効果的な滞納整理により、収納率を維持することができた。	
					実績	97.5	97.7	97.7				
		<指標の計算方法>		市税現年分、過年分を合算した収納率								
				目標								
			実績									
	<指標の計算方法>											
				目標								
			実績									
	<指標の計算方法>											
			目標									
		実績										
<指標の計算方法>												

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳						
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	27,405								27,405

事業の実績	①収納管理業務 ・市税等の収納管理 ・地方税共通納税システムの運用管理				
	②口座振替・コンビニ収納等業務 ・口座振替利用件数及び利用率 利用件数 21,373件 利用率 26.11% (参考：R5 26.41%) ・コンビニ収納利用件数及び利用率 利用件数 57,468件 利用率 31.64% (参考：R5 39.77%) ・スマホ収納利用件数及び利用率 利用件数 11,610件 利用率 6.39% (参考：R5 4.50%)				

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・自主財源の根幹となる市税を確保するために収納管理を的確に行う事業であり、事業の妥当性は高く、改善の余地はない。		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
		・納付方法の多様化に対応し、納付環境は充実してきたが、今後も引き続き納付方法の周知や口座振替の推進を図る必要がある。		
	効率性	評価結果	改善の余地がない	
		・外部委託できる業務について検討したが、これ以上委託できる業務はないと考えられ、改善の余地はない。		

事務事業の概要	事務事業名			市税等滞納整理事業				担当課		収納対策課		事業区分		ソフト事業					
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		521	
	会計			一般会計								政策目標		5		地域づくり・行政経営			
	予算科目	款	2	総務費								施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		項	2	徴税費								基本施策		3		健全な財政運営の確立			
	目	3	徴税費								取組方針		2		歳入確保のための取組の推進				
事業概要			市民の税等の公平性を確保するとともに、市の自主財源の確保を図るために、滞納者に滞納処分を行う事業																
事務事業を構成する細事業				① 督促・催告業務				⑤ 債権管理対策本部運營業務				⑨							
				② 財産調査業務				⑥ 納税意識向上対策業務				⑩							
				③ 滞納整理業務（市税分）				⑦ 納税猶予関連業務				⑪							
				④ 滞納整理業務（強制徴収公債権分）				⑧								⑫			
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
		市税収納率	%	目標		97.4		97.5		97.6		97.7		97.8		効果的な滞納整理により、収納率を維持することができた。			
				実績		97.5		97.7		97.7									
		<指標の計算方法>		市税現年分、過年分を合算した収納率															
	強制徴収公債権収納率	%	目標		30		30		30		30		30		保育料、公共下水道使用料、公共下水道受益者負担金、介護保険料、後期高齢者医療保険料、国民健康保険税の滞納繰越収納率				
			実績		33.38		31.94		30.24										
	<指標の計算方法>		強制徴収公債権過年分の収納率																
	活動指標	滞納処分の執行停止処理件数	件	目標		40		40		40		50		50		地方税法第15条の7第1項他（3年執停及び即時消滅）			
				実績		82		53		107									
	<指標の計算方法>		滞納処分の執行停止（3年執行停止、即時消滅）の合計件数																
活動指標	強制徴収公債権滞納処分件数	件	目標		65		90		100		110		110		R4年度以前は移管引受件数 R5年度以降は滞納処分件数				
			実績		83		153		148										
<指標の計算方法>		強制徴収公債権について滞納処分を行った件数																	
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	5,672												67		5,605				
事業の実績	①督促・催告業務 ・催告書発送件数 （6月：2,173通、12月：2,616通） ・督促状発送件数 12,297通				・搜索件数 6件（差押：0件） ・滞納処分執行停止件数 107件 （内訳）即時：91件 3年：16件 ・夜間納付相談窓口の開設 利用者 103人 納付額 1,447,594円 ※上記の全ての額は、県民税を含む額				（内訳 単位：件） 即時：8、3年：1				⑤債権管理対策本部運營業務 ・債権管理対策本部会議 実施せず ・強制徴収公債権検討部会 実施せず ・債権管理研修会（11/12） ・各債権担当者打合せ 随時 ・ヒアリング（4所管課）						
	②財産調査業務 ・預貯金等調査延べ件数：25,753件 ・生命保険調査延べ件数：18,163件				④滞納整理業務（強制徴収公債権分） ・滞納処分件数 148件 （内訳 単位：件） 介護：83、後期：63、下水：2 ・差押債権数 133件 （内訳 単位：件） 年金：6、生命保険等解約金：5、不動産：1 無体財産権：6、預貯金：114、報酬：1 換価額 3,671,309円 差押解除の効果額 681,800円 ・交付要求に対する配当件数 1件 ・搜索件数 3件（差押：0件） ・滞納処分執行停止件数 9件				⑥納税意識向上対策業務 ・中学生及び高校生を対象とした税についての作文の優秀作品の揭示 ・市長賞として中学生及び高校生各1名を表彰				⑦納税猶予関連業務 ・徴収の猶予 許可件数 0件 猶予額 0円						
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・市税及び強制徴収公債権の負担の公平性を確保するとともに、自主財源の確保を図るための事業であり、改善の余地はない。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がややある															
		・健全な財政運営の確立及び税負担の公平性の確保の観点から、本事業の有効性は高い。 ・成果向上のため、基本業務を徹底して行い、滞納処分の執行停止についても適切に対応する必要がある。																	
効率性	評価結果		改善の余地がない																
	・遠方の滞納者に対し、債権回収の専門業者に現地訪問調査を委託し、居住の実態や生活状況等の確認を行った。応接可能な滞納者については、納税を促し、自主納付につながる成果もあり、効率性は向上した。																		

事務事業の概要	事務事業名		和歌山地方税回収機構連携事業				担当課		収納対策課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		19	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		5		地域づくり・行政経営					
	予算科目	款	2		総 務 費				施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		項	2		徴 税 費				基本施策		3		健全な財政運営の確立					
目		3		徴 税 費		取組方針			2		歳入確保のための取組の推進							
事業概要		市民の税の公平性を確保するとともに、市の自主財源の確保を図るために、和歌山地方税回収機構の運営へ参画する事業																
事務事業を構成する細事業	①		和歌山地方税回収機構負担金				⑤				⑨							
	②		移管業務				⑥				⑩							
	③		合同公売業務(不動産等)				⑦				⑪							
	④		和歌山地方税回収機構運営会議				⑧				⑫							
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析							
		市税収納率	%	目標	97.4	97.5	97.6	97.7	97.8	効果的な滞納整理により、収納率を維持することができた。								
				実績	97.5	97.7	97.7											
		<指標の計算方法>		市税現年分、過年分を合算した収納率														
	成果指標	回収機構徴収金額(本税)	千円	目標	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	前年度並みの徴収実績を達成できたのは、移管者選考を十分に行ったことが要因と考える。								
				実績	9,255	12,622	12,447											
		<指標の計算方法>		回収機構移管分の徴収実績(本税)														
	活動指標	滞納者移管数	人	目標	45	45	45	45	45	予定人数を移管した。								
				実績	45	45	45											
	<指標の計算方法>		市より回収機構へ移管した滞納者の人数															
活動指標	実務研修(派遣)人数	人	目標	1	1	1	1	1	1名の短期派遣を実施した。									
			実績	0	1	1												
	<指標の計算方法>		回収機構へ実務研修に派遣した職員数(短期派遣含む)															
コストの実績	R 6年度決算額(単位：千円)				財源内訳													
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	5,789														5,789			
事業の実績	①和歌山地方税回収機構負担金				・不動産公売 1回 1件													
	・移管人数 45人				令和6年9月3日(火) 1件													
	・徴収実績 17,541,307円				入札なし													
事業の実績	(内訳)				④和歌山地方税回収機構運営会議													
	市県民税 : 3,926,223円				・第1回運営会議(R6.4.30)、書面開催													
	固定資産税 : 985,307円				令和5年度活動報告、令和6年度予算概要、活動方針ほか													
事業の実績	軽自動車税 : 259,985円				・第2回運営会議(R7.2.19)													
	(参考 国民健康保険税 : 7,275,392円)				令和7年度移管提示件数、令和6年度活動状況ほか													
	<小計> 12,446,907円																	
事業の実績	督促手数料 : 51,086円																	
	(うち国保 37,389円)																	
	延滞金 : 5,043,314円																	
事業の実績	(うち国保 : 2,174,058円)																	
	《合計》 17,541,307円																	
	②移管業務																	
事業の実績	・移管催告の発送 145件																	
	・45件(人)の移管データを作成																	
	③合同公売業務(不動産等)																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない														
		・困難な滞納案件を解消することで市税負担の公平性が確保でき、市の自主財源の確保を図るためにも、本事業の実施には妥当性がある。																
	有効性	評価結果		改善の余地がない														
・地方税回収機構への移管催告及び移管が、新規滞納者への抑止力となっている。 ・地方税回収機構が主となり不動産公売を実施することで、市は広報や会場手配の負担がなく、容易に参加できる。また、定期的に実施されるため、市としても公売の計画が立てやすい。 ・調査や搜索等の滞納処分が困難な遠方の滞納者について、移管することにより市の負担が少なく滞納処分することができる。 ・派遣された職員が滞納整理を実務研修できる場となっている。また、市が抱える困難案件について相談することができる。																		
効率性	評価結果		改善の余地がない															
	・負担金は発生するが、徴収実績や移管催告の効果など、効率性の面でも必要不可欠な事業である。 ・実務研修の機会の確保のため職員を派遣しており、地方税回収機構のノウハウを実践できる職員が増えることにより、長期的には効率性は向上する。 ・徴収できる可能性の高い案件を厳選して移管することにより、コストに対する効率性は向上する。																	

事務事業の概要	事務事業名		住民基本台帳事業				担当課		市民課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		439	
	会計		一般会計								政策目標		5		地域づくり・行政経営			
	予算科目	款	2 総 務 費								施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		項	3 戸籍住民基本台帳費								基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進			
	目	1 戸籍住民基本台帳費								取組方針		9		その他				
事業概要			市民（異動者）が住民異動に関する諸手続きなどが円滑に行えるように、住民基本台帳を適正に登録をして、証明書等の発行を行う事業															
事務事業を構成する細事業	① 住民基本台帳管理				⑤ マイナンバーカード交付				⑨									
	② 証明書発行・閲覧				⑥				⑩									
	③ 特別永住者・中長期在留者管理				⑦				⑪									
	④ 住民基本台帳ネットワークシステム管理				⑧				⑫									

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	住民票の写しの交付件数（公用を含む）	件	目標						証明書交付件数は、減少傾向にある。	
				実績	26, 486	25, 449	24, 485				
				<指標の計算方法> 住民票の写しの交付件数（公用を含む）							
	活動指標	戸籍附票の写しの交付件数（公用を含む）	件	目標						証明書交付件数は、横ばい傾向にある。	
				実績	4, 211	3, 972	4, 049				
				<指標の計算方法> 戸籍附票の写しの交付件数（公用を含む）							
	活動指標	マイナンバーカードの交付数	枚	目標						健康保険証として利用されていることから、増加している。	
				実績	46, 575	50, 040	53, 968				
				<指標の計算方法> 市区町村別全申請件数及び交付件数（地方公共団体情報システム機構）							
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	31, 866			17, 651				2, 884	11, 331

事業の実績	①住民基本台帳管理 住民異動 転入者数（県外758人・県内825人）1, 583人 転出者数（県外832人・県内778人）1, 610人 出生者数 260人 死亡者数 944人 転居件数 548件 世帯変更等 3, 607件				住民基本台帳閲覧 ③特別永住者・中長期在留者管理 令和7年3月31日 現在 日本人住民 男 27, 572人 女30, 422人 計 57, 994人 26, 744 世帯 外国人住民 男 335人 女 314 人 計 649人 478 世帯				⑤マイナンバーカード交付 令和7年3月31日 現在 累計53, 968枚 交付率90. 5% 令和7年3月末現在でマイナンバーカード 全国交付率は78. 3% マイナンバーカード出張申請サポート 委託料 653, 400円			
	②証明書発行・閲覧 住民票の写し等の交付 窓口 15, 996件 郵送 1, 634件 公用 1, 458件 コンビニ 5, 201件 マルチコピー機 190件 オンライン申請 6件 戸籍附票の写しの交付 窓口 984件 郵送 703件 公用 2, 268件				④住民基本台帳ネットワークシステム管理 住基ネットシステム保守委託料 4, 488, 000円 住基ネットシステム機器保守委託料 560, 868円 住基ネット共同利用サービス利用料 2, 178, 000円				社会保障・税番号制度システム整備（マイナンバーカードへの氏名のローマ字表記等に係るものに限る。）に伴うシステム改修業務 4, 510, 000円			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・住民基本台帳法、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等に定める事務である。																
	有効性	評価結果	改善の余地がややある															
		・コンビニでの証明発行サービスやオンライン申請システム、休日・夜間サービスの実施等市民サービスの向上につなげている。 ・令和6年1月から開始した「書かない窓口システム」については、庁内関係課が連携しているところであるが、さらに市民の利便性を高めるための取組を進める必要がある。																
効率性	評価結果	改善の余地がややある																
	・書かない窓口システムの効果や運用方法を、関係課で検証し発展させていく必要がある。																	

事務事業の概要	事務事業名		印鑑登録事業				担当課		市民課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		440		
	会計		一般会計								政策目標		5		地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2	総 務 費								施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		項	3	戸籍住民基本台帳費								基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進			
		目	1	戸籍住民基本台帳費								取組方針		9		その他			
	事業概要		市民が目的に応じて証明書を利用できるように、印鑑の登録・管理を行い、証明書の発行を行う事業																
			① 印鑑登録管理				⑤						⑨						
	事務事業を構成する細事業		② 印鑑証明発行				⑥						⑩						
			③				⑦						⑪						
		④				⑧						⑫							
指標の実績	指標名		単位			R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	印鑑登録証明書交付件数（公用を含む）		件	目標											証明書交付件数は、横ばい傾向にある。			
		実績			15, 100		15, 161		15, 023										
		<指標の計算方法> 印鑑登録証明書交付件数（公用を含む）																	
	活動指標	印鑑登録証無料交換件数		件	目標											劣化の激しい印鑑登録証の交換は、順調に進んでいる。			
		実績			1, 028		594		423										
		<指標の計算方法> 印鑑登録切替申請数																	
				目標															
			実績																
	<指標の計算方法>																		
			目標																
		実績																	
<指標の計算方法>																			
コストの実績	R 6年度決算額（単位：千円）					財源内訳													
						国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	15													15					
事業の実績	①印鑑登録管理 令和7年3月31日現在 40,572人																		
	②印鑑証明発行 窓口 11,275件 公用 106件 コンビニ 3,469件 マルチコピー機 173件																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・ 紀の川市印鑑条例に基づき、印鑑登録証明書を必要とする市民のために、市が行わなければならない事業である。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がない															
		・ あらかじめの予約により、日曜日に証明書を交付している。 ・ コンビニでの証明書発行サービスやマルチコピー機の導入により、市民サービスの利便性の向上につながっている。 ・ 印鑑証明時におけるマイナンバー提示による本人申請が可能になったことや、令和6年1月に書かない窓口を導入したことにより、市民の負担軽減及び利便性の向上につながっている。																	
	効率性	評価結果		改善の余地がない															
・ 窓口での印鑑証明書の交付や申請手続きにおいて、書かない窓口の運用により事業の効率性が更に高まっている。																			

事務事業の概要	事務事業名		戸籍事業				担当課	市民課		事業区分		ソフト事業	
							新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	441
	会計		一般会計				長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
	予算科目	款	2	総 務 費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		項	3	戸籍住民基本台帳費				基本施策	4	将来を見据えた行政経営の推進			
目		1	戸籍住民基本台帳費			取組方針	9	その他					
事業概要		本籍人及びその親族・利害関係人が諸手続きなどを円滑に行えるように、本籍人の戸籍を適正に登録をして、証明書の発行を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①		戸籍管理				⑤	戸籍システム管理		⑨			
	②		戸籍謄・抄本等発行				⑥	県連合戸籍事務協議会負担金		⑩			
	③		埋火葬許可証発行				⑦	和歌山戸籍事務協議会負担金		⑪			
	④		人口動態事務				⑧			⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	戸籍謄抄本等の交付件数（公用を含む）	件	目標						令和5年度から令和6年度にかけて減少しているが、長期的に見ると横ばいである。	
				実績	27,724	27,151	25,976				
			<指標の計算方法> 戸籍謄抄本等の交付件数（公用を含む）								
	活動指標	埋火葬許可証の交付件数	件	目標						年度によって増減はあるものの、長期的に見ると横ばいである。	
				実績	913	828	911				
			<指標の計算方法> 埋火葬許可証の交付件数								
				目標							
				実績							
			<指標の計算方法>								
			目標								
			実績								
		<指標の計算方法>									

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	21,549			6,721	53			14,775	

事業の実績	①戸籍管理 戸籍届出処理件数 出生 441件（内送付 179件） 婚姻 659件（内送付 475件） 離婚 158件（内送付 73件） 死亡 1,276件（内送付 347件） 他 579件（内送付 230件） 計 3,113件（内送付 1,304件） 新戸籍編製 366戸籍 戸籍全部消除 684戸籍 令和7年3月31日 現在 本籍数 30,319戸籍 本籍人口 70,726人				マルチコピー機 88件 ③埋火葬許可証発行 911件 ④人口動態事務 令和6年度分 1,430件 ⑤戸籍システム管理 戸籍システムの維持管理 戸籍総合システムクラウド利用料 7,609,800円 法改正に伴うシステム開発委託料 4,521,000円 戸籍附票システム中継サーバの維持管理（紀の川市・岩出市の共同利用）※岩出市負担分を共同利用負担金として 1,337,196円受入 戸籍附票システム中継サーバ保守業務委託料 477,840円				戸籍附票システム中継サーバ設置に係る施設借上料 2,376,000円 戸籍附票システム改修業務委託料 2,200,000円 戸籍事務遠隔入力支援サービス入力業務委託料 887,040円 標準化に伴う戸籍・戸籍附票データクレンジング業務 2,376,000円 ⑥県連合戸籍事務協議会負担金 負担金支払い 46,920円 ⑦和歌山戸籍事務協議会負担金 負担金支払い 15,998円			
	②戸籍謄・抄本等発行 戸籍証明書等交付 窓口 14,182件 郵送 3,238件 公用 7,446件 コンビニ 943件 オンライン申請 79件											

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・戸籍法、墓地・埋葬法等に定める事務である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
・コンビニでの証明書発行サービスやオンライン申請システム、マルチコピー機での証明書交付により、市民サービスの利便性の向上につながっている。 ・戸籍記載チェック体制の充実が必要である。													
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	・窓口での戸籍証明書の交付や申請手続きにおいて、市民の利便性の向上と事務の効率化を図るため、書かない窓口のシステムを令和6年1月に導入した。今後このシステムの効果や運用方法を庁内関係各課で検証し、発展させていく必要がある。												

事務事業の概要	事務事業名				市民窓口事業				担当課		市民課		事業区分		ソフト事業			
	新規・継続				継続				事業期間		単年度繰返し		事業番号		443			
	会計				一般会計				政策目標				5 地域づくり・行政経営					
	予算科目	款	2 総 務 費			長期総合計画体系	施策目標				3 市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成							
		項	3 戸籍住民基本台帳費				基本施策				4 将来を見据えた行政経営の推進							
		目	1 戸籍住民基本台帳費				取組方針				4 市民窓口サービスの充実							
	事業概要				市民が持つ様々な問題の解決につなげてもらうために、各種相談、相談案内を行う事業													
	事務事業を構成する細事業	① 弁護士相談				⑤				⑨								
		② 行政相談				⑥				⑩								
		③ 住民相談				⑦				⑪								
④				⑧				⑫										

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	弁護士相談開催回数	回	目標	12	12	12	12	12	目標どおり達成した。	
				実績	12	12	12				
		<指標の計算方法>		月1回開催している無料法律相談の回数							
	成果指標	弁護士相談件数	人	目標	84	84	84	84	84	キャンセルがあったため、目標を達成することができなかった。	
				実績	72	81	76				
		<指標の計算方法>		無料法律相談の相談者数							
	活動指標	弁護士相談開催広報回数	回	目標	12	12	12	12	12	目標どおり達成した。	
				実績	12	12	12				
		<指標の計算方法>		広報紙への掲載回数							
活動指標	行政相談開催広報回数	回	目標	12	12	12	12	12	目標どおり達成した。		
			実績	12	12	12					
	<指標の計算方法>		広報紙への掲載回数								

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳					
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	554									554

事業の実績	① 弁護士相談 年12回開催 相談件数 76人						
	② 行政相談 総務大臣に委嘱された行政相談委員による 相談業務 相談件数 23件						
	③ 住民相談 14件 (市民課にて相談を受けた分のみ)						

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない					
		・市民が持つ様々な問題解決につなげてもらうため、市が主体となって行う必要がある。						
	有効性	評価結果	改善の余地がない					
		・無料弁護士相談は、市の顧問弁護士に委託し、ほぼ毎回定員に達している。						
	効率性	評価結果	改善の余地がない					
		・無料法律相談の市顧問弁護士への委託料は、他市町村と比較して同額程度である。 ・行政相談は、総務大臣から委嘱を受けた行政相談委員が対応しているが、市の費用負担はない。 ・住民相談は、市職員が対応しているため、直接的な費用負担はない。						

事務事業の概要	事務事業名			コンビニ証明書交付事業				担当課		市民課		事業区分		ソフト事業								
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1029				
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標		5		地域づくり・行政経営								
	予算科目			款		2				総 務 費		施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成						
				項		3				戸籍住民基本台帳費		基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進						
目				1		戸籍住民基本台帳費				取組方針		4		市民窓口サービスの充実								
事業概要			市民、本籍人が目的に応じた証明書を市役所外で取得できるように、住民票写し、印鑑証明書、戸籍証明書、及び所得（非）課税証明書などをコンビニで交付するシステムの維持管理を行う事業																			
事務事業を構成する細事業			① J-LIS負担金				⑤								⑨							
			② システム管理				⑥								⑩							
			③				⑦								⑪							
			④				⑧								⑫							

指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析 メンテナンス等によるシステムの停止があったため、目標を達成できなかった。	
		システム稼働日数	日	目標		359		360		358		359		359			
				実績		358		358		357							
		<指標の計算方法>		年末年始（12/28～1/3）を除く毎日													
	成果指標	コンビニ証明書交付件数		件	目標											マイナンバーカードの普及に伴い コンビニ証明書交付件数は増加傾向にある。	
		実績			6, 126		8, 914		10, 209								
		<指標の計算方法>		住民票・戸籍附票の写し、印鑑登録証明書、戸籍謄抄本、所得（非）課税証明書のコンビニ証明書交付件数													
				目標													
				実績													
		<指標の計算方法>															
				目標													
	実績																
	<指標の計算方法>																

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳												
				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
10, 348			1, 881										5, 431		3, 036	

事業の実績	①J-LIS負担金 J-LIS証明書交付センターに運営負担金を支払う。 2, 728, 000円															
	②システム管理 コンビニ交付に関するシステム会社に利用料及び保守料等を支払う。 ・コンビニ交付クラウドサービス利用料 3, 867, 600円 ・コンビニ交付システム保守委託料 726, 000円 ・コンビニ交付手数料 1, 140, 282円															

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・証明書のコンビニ交付サービスは、市民・本籍人の証明書取得の利便性向上のための行政サービスであり、市しか実施できない。																
	有効性	評価結果	改善の余地がない															
		・証明書のコンビニ交付サービスを提供するため、システムを維持管理する事業である。																
	効率性	評価結果	改善の余地がない															
・国民の78%が取得しているマイナンバーカードを利用したサービスに対する維持管理費用であり、これ以上の負担軽減は困難である。																		

事務事業の概要	事務事業名		選挙管理委員会運営事業				担当課		総合行政委員会事務局		事業区分		内部管理事業			
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し						事業番号		525	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		99 ****					
	予算科目	款	2 総務費						施策目標		99 ****					
		項	4 選挙費						基本施策		99 ****					
目	1 選挙管理委員会費				取組方針		9		その他							
事業概要		選挙権を有する者の意思を正しく政治・行政に反映するために、選挙管理委員会が適正な選挙の管理・執行を行う事業														
事務事業を構成する細事業	① 選挙管理委員会運営						⑤				⑨					
	② 全国市区選挙管理委員会負担金						⑥				⑩					
	③ 近畿都市選挙管理委員会連合会負担金						⑦				⑪					
	④ 県都市選挙管理委員会連絡協議会負担金				⑧				⑫							
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析						
	活動指標	選挙執行回数	回	目標	3	2	1	3	1	衆議院議員総選挙、栃剥山林財産区議会議員一般選挙が執行された。						
				実績	3	2	2									
				<指標の計算方法> 選挙が執行された回数（無投票を含む）												
	活動指標	選挙管理委員会開催回数	回	目標	10	5	5	10	5	定時登録・選挙時登録等を行うため委員会を開催した。						
				実績	10	5	11									
				<指標の計算方法> 定時登録、選挙時登録等の委員会を開催した回数												
	成果指標	選挙管理執行上のミス	回	目標	0	0	0	0	0	なし。						
				実績	0	0	0									
				<指標の計算方法> 管理執行上の問題となったミスの件数												
			目標													
			実績													
			<指標の計算方法>													
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳											
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源						
	1, 559									1, 559						
事業の実績	① 選挙管理委員会運営 ・ 選挙管理委員会の開催 11回 ・ 2/3 和歌山県選挙管理委員会大会 和歌山市で開催(委員3名・職員2名参加) ② 全国市区選挙管理委員会負担金 ・ 参加なし ③ 近畿都市選挙管理委員会連合会負担金 ・ 5/10 総会 奈良県香芝市で開催(職員2名参加) ・ 8/28 事務研究会 奈良県天理市で開催(職員2名参加) ・ 2/19 事務研究会 大阪府茨木市で開催(職員2名参加) ④ 県都市選挙管理委員会連絡協議会負担金 ・ 5/16 理事会及び総会・研修会 和歌山市で開催(委員3名・職員2名参加) ・ 8/9 事務研究会(南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)発表により中止) ・ 県都市選挙管理委員会連絡協議会 事務局長会議(書面決議)															
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない												
		・ 公職選挙法に定められた事務的事业であり妥当である。														
	有効性	評価結果		改善の余地がない												
		・ 適正に管理執行されており、現状を維持することが有効である。														
	効率性	評価結果		改善の余地がない												
・ 選挙管理委員会委員に対する報酬のため、これ以上のコスト削減は難しい。																

事務事業の概要	事務事業名		鞆淵山林財産区議会議員一般選挙事業				担当課		総合行政委員会事務局			事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		新規	事業期間	単年度のみ			事業番号	389	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	99	*****					
	予算科目	款	2	総務費		施策目標			99	*****						
		項	4	選挙費		基本施策			99	*****						
		目	2	鞆淵山林財産区議会議員一般選挙費		取組方針			9	その他						
	事業概要		鞆淵山林財産区議会議員一般選挙が適正に管理・執行できるように、選挙事務を行う事業													
	事務事業を構成する細事業		①	鞆淵山林財産区議会議員一般選挙運営				⑤				⑨				
			②					⑥				⑩				
			③					⑦				⑪				
④							⑧				⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	投票率	%	目標			52			立候補者数が議員定数（9人）を超えなかったため無投票となった。	
		実績									
		<指標の計算方法> 当日有権者数に対する投票者の割合									
				目標							
				実績							
		<指標の計算方法>									
				目標							
				実績							
		<指標の計算方法>									
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳					
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	177							177		

事業の実績	①鞆淵山林財産区議会議員一般選挙運営 ・鞆淵山林財産区議会議員一般選挙 令和6年12月22日執行 ・令和6年12月17日立候補受付の結果、無投票となる。									

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・公職選挙法による選挙執行であり、妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・今後も無投票となる見込みが高いが、投票となった場合は、目標値を上回るよう投票率向上を目指す。										
	効率性	評価結果	改善の余地がややある									
		・選挙になることも想定し、投票が実施される際には投票プロセスや手法を継続的に見直し、必要経費の削減に取り組む必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名		衆議院議員総選挙事業				担当課		総合行政委員会事務局		事業区分		ソフト事業			
							新規・継続		継続	事業期間		単年度のみ		事業番号	865	
	会計		一般会計						政策目標	99	*****					
	予算科目	款	2	総務費						施策目標	99	*****				
		項目	4	選挙費						基本施策	99	*****				
		3	衆議院議員総選挙費						取組方針	9	その他					
事業概要		衆議院議員総選挙が適正に管理・執行できるように、選挙事務を行う事業														
事務事業を構成する細事業	①		衆議院議員総選挙運営				⑤				⑨					
	②						⑥				⑩					
	③						⑦				⑪					
	④						⑧				⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	成果指標	投票率（小選挙区選出議員選挙）	%	目標			58.93			前回の選挙（令和3年10月31日執行）の投票率58.93%から低下している。		
		実績				55.04						
	<指標の計算方法> 当日有権者数に対する投票者数の割合											
	成果指標	投票率（比例代表選出議員選挙）	%	目標			58.93			前回の選挙（令和3年10月31日執行）の投票率58.93%から低下している。		
		実績				55.04						
	<指標の計算方法> 当日有権者数に対する投票者数の割合											
	成果指標	投票率（最高裁判所裁判官国民審査）	%	目標			58.87			前回の選挙（令和3年10月31日執行）の投票率58.87%から低下している。		
		実績				54.96						
	<指標の計算方法> 当日有権者数に対する投票者数の割合											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
32,266				31,666					600

事業の実績	①衆議院議員総選挙運営 ・衆議院議員総選挙（令和6年10月27日執行） 有権者数：50,693人 投票者数（小選挙区選出議員選挙） 27,899人（55.04%） 投票者数（比例代表選出議員選挙） 27,901人（55.04%） 投票者数（最高裁判所裁判官国民審査） 27,863人（54.96%）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								

事務事業の概要	事務事業名		統計行政推進事業				担当課		総務課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		528	
	会計		一般会計						政策目標		5		地域づくり・行政経営					
	予算科目	款	2		総務費				長期総合計画体系		施策目標		3		市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		項目	5		統計調査費						基本施策		4		将来を見据えた行政経営の推進			
		目	1		統計調査総務費						取組方針		9		その他			
	事業概要		市の統計行政の推進を図るために、関連団体の活動へ参画する事業															
			① 近畿都市統計協議会負担金				⑤								⑨			
	事務事業を構成する細事業		② 県市長会統計部会負担金				⑥								⑩			
			③ 県統計協会負担金				⑦								⑪			
		④				⑧								⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	近畿都市統計協議会講習会への参加	回	目標	1	1	1	1	1	オンライン研修に参加	
			実績	0	1	1					
		<指標の計算方法> 近畿都市統計協議会講習会への参加回数									
	活動指標	県市長会統計部会講習会への参加	回	目標	1	1	1	1	1	オンライン研修に参加	
			実績	0	1	1					
		<指標の計算方法> 県市長会統計部会講習会への参加回数									
			目標								
			実績								
		<指標の計算方法>									
		目標									
		実績									
	<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳						
	6		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
									6

事業の実績	①近畿都市統計協議会負担金 総会：書面開催 講習会：オンライン研修 ※議案の承認に伴い令和6年度負担金なし							
	②県市長会統計部会負担金 理事会：書面開催 講習会：オンライン研修 ※議案の承認に伴い令和6年度負担金なし							
	③県統計協会負担金 令和6年度末で解散 ※議案の承認に伴い令和6年度負担金なし							

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・統計資料を通して、各行政施策の基礎資料とするため、各関連団体に参画することは妥当性がある。																
	有効性	評価結果	改善の余地がない															
		・各行政施策の基礎資料として、各関連団体が取りまとめる資料を提供している。																
	効率性	評価結果	改善の余地がない															
		・関連団体の総会が書面で開催されたことにより、送付資料等で負担金の運用状況を確認している。																

事務事業の概要	事務事業名		基幹統計調査事業				担当課		総務課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	26
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	99	*****				
	予算科目	款	2	総 務 費					施策目標	99	*****				
		項	5	統計調査費					基本施策	99	*****				
目		2	基幹統計調査費			取組方針			9	その他					
事業概要		市、統計情報を必要とする者が統計情報を活用できるように、各種基幹統計の調査を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①		学校基本調査				⑤					⑨			
	②		経済センサス活動調査 - 試験調査				⑥					⑩			
	③		全国家計構造調査				⑦					⑪			
	④		農林業センサス				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
	活動指標	統計調査実施中の事故件数	件	目標	0	0	0	0	0	説明会で、事故等の注意喚起を行い、事故なく調査を完了することができた。					
				実績	0	1	0								
				<指標の計算方法> 統計調査実施中に問題となった事故件数											
	成果指標	基幹統計実施件数	件	目標						基幹統計【学校基本調査・全国家計構造調査・農林業センサス】について、国・県の指定するスケジュールどおりに調査を完了することができた。同様に経済センサス試験調査についても同様に完了した。					
				実績	2	2	3								
				<指標の計算方法> 基幹統計を実施した件数											
				目標											
				実績											
				<指標の計算方法>											
			目標												
			実績												
			<指標の計算方法>												
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳										
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
	9,094					9,094									
事業の実績	①学校基本調査 (令和6年5月1日調査基準日) 調査対象：小学校17、中学校7 幼稚園等5														
	②経済センサス活動調査-試験調査 (令和6年10月1日調査基準日) 調査対象：19調査区の一部事業所														
	③全国家計構造調査 調査対象：4調査単位区(6調査区) から抽出された48世帯														
	④農林業センサス (令和7年2月1日調査基準日) 調査対象：市内全域の農業・林業を営むすべての方														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・統計法に基づき継続して実施する必要がある事業である。												
		評価結果	改善の余地がない ・各統計調査において得た情報は、国の各種施策の立案等の重要な資料となる。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・各種統計調査において得た情報は、国の各種施策の立案等の重要な資料となる。												
		評価結果	改善の余地がややある ・各種統計調査実施時に、回答者の負担軽減及び調査員・事務担当者の業務量削減を目的とし、インターネットの回答率を高めるよう調査員等と協力していくことが必要である。 なお、各年度により統計調査の内容や規模が異なることから、回答率の推移を一連の指標として出すことは困難である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある ・各種統計調査実施時に、回答者の負担軽減及び調査員・事務担当者の業務量削減を目的とし、インターネットの回答率を高めるよう調査員等と協力していくことが必要である。 なお、各年度により統計調査の内容や規模が異なることから、回答率の推移を一連の指標として出すことは困難である。													

事務事業の概要	事務事業名		監査事業				担当課		総合行政委員会事務局		事業区分		内部管理事業	
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	27
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	99	*****			
	予算科目	款	2 総務費						施策目標	99	*****			
		項	6 監査委員費						基本施策	99	*****			
目		1 監査委員費				取組方針			9	その他				
事業概要		市が適正に予算・事務の執行を図るために、監査委員が出納検査や監査を行う事業												
事務事業を構成する細事業	① 監査事務				⑤						⑨			
	② 全国都市監査委員会負担金				⑥						⑩			
	③ 近畿地区都市監査委員会負担金				⑦						⑪			
	④ 県下都市監査委員会負担金				⑧						⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	例月出納検査回数	回	目標	12	12	12	12	12	月1回例月出納検査を実施している。	
				実績	12	12	12				
		<指標の計算方法>		例月出納検査実施回数							
	活動指標	定期監査回数	回	目標	5	5	5	5	5	各課に対する定期監査を実施している。	
				実績	5	5	5				
		<指標の計算方法>		定期監査実施回数							
	活動指標	監査結果報告書等の発行回数	回	目標	20	20	20	20	20	各監査等（例月出納検査12回、決算審査1回、定期監査5回、財政援助団体等監査1回、工事監査1回）を実施した結果の報告等を行っている。	
				実績	20	20	20				
		<指標の計算方法>		各監査・審査・検査等の報告書等発行回数							
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	2, 596							2, 596

事業の実績	①監査事務 ・ 例月出納検査 12回 ・ 令和5年度決算審査・健全化判断比率審査1回 ・ 定期監査（財務審査）5回 ・ 財政援助団体等監査 1回 ・ 工事監査 1回 ・ 10/24～10/25：近畿・北陸・東海三地区共催都市監査事務研修会（第50回衆議院議員総選挙の影響で欠席）		・ 11/8 事務局長会議及び研修会 田辺市で開催(事務局長参加)							
	②全国都市監査委員会負担金 ・ 8/29 総会及び研修会 大阪府大阪市で開催(職員1名参加)									
③近畿地区都市監査委員会負担金 ・ 5/24 総会及び研修会 奈良県橿原市で開催 (委員2名・職員2名参加)										
④県下都市監査委員会負担金 ・ 5/17 定例会及び研修会 橋本市で開催(委員2名・職員2名参加)										

事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない						
		・ 地方自治法等により、監査委員が実施するよう定められている事務である。								
	有効性	評価結果		改善の余地がない						
		・ 適正な財務処理に寄与している。								
効率性	評価結果		改善の余地がない							
	・ 監査委員に対する報酬のため、これ以上のコスト削減は難しい。									

事務事業の概要	事務事業名		地域福祉推進事業			担当課		社会福祉課		事業区分		ソフト事業				
						新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	587		
	会計		一般会計													
	予算科目	款	3	民 生 費			長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心					
		項	1	社会福祉費					施策目標	3	福祉					
目	1	社会福祉総務費			基本施策	1			地域福祉の推進							
事業概要		市民が地域福祉の理解を深め、支え合い助け合う社会を築いてもらうために、市民、職員、社会福祉協議会等が地域福祉計画に基づき、普及・啓発活動や経営支援を行う事業														
事務事業を構成する細事業	①			第3次紀の川市地域福祉計画の推進			⑤			社会福祉協議会補助金			⑨			
	②			社会福祉法人監査			⑥			市民団体活動支援事業補助金			⑩			
	③			近畿ブロック都市福祉事務所長連絡協議会負担金			⑦			ボランティア連絡協議会補助金			⑪			
	④			県都市福祉事務所長連絡協議会負担金			⑧			赤十字奉仕団補助金			⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
	成果指標	社会福祉協議会における住民相談件数		件	目標	150		150		150		150		150		毎週火曜日、心配ごと相談を開設し、弁護士相談を月1回開催している。例年どおり防災行政無線、広報紙、メール配信サービスにより周知を行ったが、相談件数は減少傾向にある。
					実績	129		120		117						
		<指標の計算方法> 年間延べ件数（心配ごと相談・弁護士相談）														
	成果指標	ボランティア団体活動回数		回	目標	110		110		180		180		180		高齢者への見守活動の実施により、令和5年度より回数が増加した。
					実績	99		175		180						
		<指標の計算方法> 市・各支部の年間活動回数														
	成果指標	赤十字奉仕団活動回数		回	目標	50		50		70		70		70		地域活動や研修を実施したが、令和5年度と同程度であった。
					実績	45		69		64						
		<指標の計算方法> 市・各地区赤十字奉仕団の年間活動回数														
		回	目標													
実績																
<指標の計算方法>																
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	160,794														160,794	
事業の実績	①第3次紀の川市地域福祉計画の推進 「みんなが安心して暮らせる きのかわ～みんなではぐくむ地域のつながり～」を基本理念として令和5年3月に策定された計画に基づき、それぞれの施策に取り組む。														県内の市福祉事務所の協議会であり、福祉に関する国への要望事項を集約し、課題の検討を行う。 総会 1回 研修会 1回	とともに、地域福祉の理解を深め、支え合い助け合う社会の構築のための活動に対し補助を行う。 611,000円 会員数 686名（令和6年度末）
	②社会福祉法人監査 紀の川市が所管する社会福祉法人を対象に指導監査を実施する。 実施件数 3件														⑤社会福祉協議会補助金 運営費及び事業費（住民相談、福祉サービスの提供、ボランティアの支援・育成など）に対する補助を行い地域における福祉の向上を図る。 128,634,765円	⑧赤十字奉仕団補助金 日本赤十字奉仕団規則の定めるところに基づき、すべての人々の幸せを願い、明るい住みよい社会を築き上げていくための活動に対し、各赤十字奉仕団に補助を行う。 276,000円 団員数 1,309名（令和6年度末）
	③近畿ブロック都市福祉事務所長連絡協議会負担金 近畿の市福祉事務所の協議会であり、福祉に関する国への要望事項を集約し、検討課題についての研修を行う。 総会 1回 研修会 1回														⑥市民団体活動支援事業補助金 社会福祉協議会による福祉団体支援を目的とするために補助を行う。 29,320,187円	
	④県都市福祉事務所長連絡協議会負担金														⑦ボランティア連絡協議会補助金 市内ボランティア団体のつながりを強める	
事業の事後評価	妥当性	評価結果 改善の余地がややある														
		・第3次紀の川市地域福祉計画に基づく事業である。 ・少子高齢化や核家族化、地域の支え合いが希薄化する中で、福祉問題が増加、複雑化する可能性があることから、市民のニーズを的確に把握し、適切に事業内容に反映させる必要がある。														
	有効性	評価結果 改善の余地がややある														
		・社会福祉協議会が行う相談の目標値は、指標の性質上設定しづらいが、今後の経済状況を考慮すると相談件数は増加すると考えられるため、相談事業の継続が必要である。 ・地域共生社会の実現のためには、社会福祉協議会と密に地域の情報を共有することで、高齢者や生活困窮者などへの寄り添った支援が必要になってくる。 ・市民が市民活動に取り組むことは、地域づくりを進める上で不可欠なものであることから、今後も市民活動団体を支援することは重要である。														
効率性	評価結果 改善の余地がややある															
	・地域福祉事業については、市が推進すべき事業であるが、社会福祉協議会や民間事業者との事業分担や外部委託についても検討、実施が必要である。 ・補助金事業については、会員数の減少により事業等の運営が困難になることも考えられるため、補助金が有効活用され、目的に沿って事業を推進しているか常に検証する必要性がある。															

事務事業の概要	事務事業名			民生委員児童委員活動支援事業				担当課		社会福祉課		事業区分		ソフト事業										
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		577						
	会計			一般会計																				
	予算科目	款	3	民 生 費																				
		項	1	社会福祉費																				
		目	1	社会福祉総務費																				
	事業概要			市民が適切な福祉サービスを受けられるように、民生委員児童委員の円滑な活動を支援する事業																				
	事務事業を構成する細事業			① 市民生委員児童委員連絡協議会活動		⑤						⑨												
				② 単位民生委員児童委員協議会活動		⑥						⑩												
				③ 単位民生委員児童委員協議会活動費補助金		⑦						⑪												
④ 民生委員児童委員協議会の互助事業				⑧						⑫														
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析														
	活動指標	民生委員児童委員協議会定例会・研修会の開催回数	回	目標	60	60	60	60	60	国及び県の研修に加え、市独自の研修や定例会など、積極的な活動を行えた。														
		実績	59	58	62																			
		<指標の計算方法> 市民生委員児童委員連絡協議会・各単位民生委員児童委員協議会の年間活動回数																						
	成果指標	民生委員児童委員数	人	目標	181	181	181	182	182	委員の死亡による退任後の後任者を決めることができず、1名欠員となった。														
		実績	181	181	180																			
		<指標の計算方法> 紀の川市民生委員児童委員数（定数181人）																						
	成果指標	民生委員児童委員年間相談・支援件数	件	目標						各民生委員児童委員からの毎月の活動報告書の合計件数を計上、横ばい傾向であるが積極的な活動ができています。														
		実績	2, 221	2, 223	2, 115																			
		<指標の計算方法> 各民生委員児童委員からの活動報告書に基づく年間相談・支援件数																						
			目標																					
			実績																					
<指標の計算方法>																								
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳																			
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源									
	21, 236						12, 277								8, 959									
事業の実績	① 市民生委員児童委員連絡協議会活動 各単位民生委員児童委員協議会の情報や意見交換を行うため役員会、研修会を行う。																		交換を行う。					
	② 単位民生委員児童委員協議会活動 委員それぞれの活動を通じて把握する地域の課題を共有し、解決方法について検討する。定例会、研修会を開催し、地域福祉の推進に取り組む。																							
	③ 単位民生委員児童委員協議会活動費補助金 ・打田 3, 986, 000円 ・粉河 4, 518, 220円 ・那賀 3, 484, 000円 ・桃山 3, 322, 000円 ・貴志川 4, 160, 000円																							
	④ 民生委員児童委員協議会の互助事業 県が主催する会議、研修に参加し、他市町村の民生委員児童委員協議会と情報や意見交換を行う。																							
事業の事後評価	妥当性	評価結果 改善の余地がない ・社会福祉協議会が事務局を担当している市町村もあるが、民生委員法に基づき委嘱された民生委員児童委員の活動を支援するための事業であり、市が実施主体となることは妥当である。																						
	有効性	評価結果 改善の余地がややある ・地域を見守り、地域住民の身近な相談相手、専門機関へのつなぎ役として活動しているが、社会情勢の変化とともに問題が多様化、複雑化し、住民の相談内容が多岐にわたっている。民生委員や主任児童委員に活動に関するアンケートをとり、民生委員児童委員の活動内容の充実を図っている。今後さらに活動内容の充実に向け検討を重ねる必要がある。																						
	効率性	評価結果 改善の余地がない ・民生委員児童委員協議会が組織として委員を支え、その活動の強化を図るために関係機関、団体と連携、協働できるように支援するとともに、各種研修会を開催し、委員の資質向上にも努めているため、その効率性は高い。																						

事務事業の概要	事務事業名		戦争被害者等援護事業				担当課		社会福祉課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	585	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心				
	予算科目	款	3	民 生 費					施策目標	3	福祉				
		項	1	社会福祉費					基本施策	1	地域福祉の推進				
目		1	社会福祉総務費			取組方針			1	多様なニーズに対応できる支援体制の構築					
事業概要		戦没者を追悼し、市民（戦争被害者）の福祉の増進を図るため、式典運営を委託する事業													
事務事業を構成する細事業		① 戦没者追悼式				⑤						⑨			
		② 遺族会補助金				⑥						⑩			
		③ 原子爆弾被爆者見舞金				⑦						⑪			
		④ 戦傷病者等支援・恩給業務				⑧						⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	戦没者追悼式参列者数	人	目標			200	200	200	戦没者追悼式は、一般の方にも広く参加を呼びかけた。第2部に、戦争体験をもとにした紙芝居により平和学習を行った。	
				実績	126	171	195				
		<指標の計算方法>		戦没者追悼式参列者数							
	活動指標	遺族会活動回数	回	目標	50	50	50	50	50	市遺族会と各支部（5支部）で活動している回数であり、横ばい傾向である。	
				実績	22	37	37				
		<指標の計算方法>		市・各支部の年間活動回数（重複事業は除く）							
	成果指標	原子爆弾被爆者見舞金支給率	%	目標	100	100	100	100	100	岩出保健所へ対象者を確認し、申請から支給までの事務を円滑に実施している。	
				実績	100	100	100				
		<指標の計算方法>		支給件数／対象件数							
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	2,883				8					2,875

事業の実績	①戦没者追悼式・平和学習 日時：令和6年8月23日（金） 場所：貴志川生涯学習センター かがやきホール 参列者：195名 平和学習：戦争体験紙芝居				保健所へ調査依頼している。							
	②遺族会補助金 904,000円 会員数 778人（令和6年度末） *戦没者家族の福利増進、感謝救済の途を講ずるとともに平和日本の建設に貢献することを目的にした遺族会の活動を補助する。				④戦傷病者等支援・恩給業務 第13回特別給付金受付件数 1件 *戦傷病者等の妻から申請受付を行い、県へ進達し、裁定後、国債を交付する。							
	③原子爆弾被爆者見舞金 1件あたり 20,000円 支給件数 3件 支給額計 60,000円 *7月1日現在の被爆者健康手帳所持者を岩出											

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない												
		・市として先の大戦で犠牲となられた方々に追悼の意を表し、市民に対し平和の尊さを訴え、市民意識の醸成を図ることは必要と考える。													
	有効性	評価結果	改善の余地がややある												
		・終戦から長い年月が経過し、遺族の参列が減少傾向であるため、参列を促していく必要がある。 ・遺族が参列するだけでなく、式典等について市民に広報し、広く市民に平和の尊さを訴える機会となるよう検討する余地がある。													
	効率性	評価結果	改善の余地がない												
・追悼式典等を委託することにより、事務の効率化を図ることが出来ている。															

事務事業の概要	事務事業名			心身障害児（者）医療費助成事業				担当課		国保年金課		事業区分		ソフト事業									
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		30					
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心									
	予算科目			款		3				民生費		施策目標		2		健康・医療							
				項		1				社会福祉費		基本施策		2		地域医療体制・医療保険制度の充実							
				目		2				障害者医療費		取組方針		3		福祉医療費助成の実施							
	事業概要			市民（心身障害児・者）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、医療費の自己負担分に対し助成を行う事業																			
	事務事業を構成する細事業			① 受給資格管理				⑤								⑨							
				② 心身障害児（者）医療費助成				⑥								⑩							
				③				⑦								⑪							
④				⑧								⑫											

指標の実績	指標名			単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析			
	活動指標	1人あたりの医療費助成額		円	目標						医療費助成額が増加傾向にあり、助成対象者が減少しているため、1人あたりの医療費助成額は増加している。			
		実績			131,845	143,498	147,075							
		<指標の計算方法>			医療費助成額÷助成対象者数									
	活動指標	助成対象者数		人	目標						市の人口は減少傾向にあり、令和5年度と比較して36人減少している。			
		実績			1,752	1,696	1,660							
		<指標の計算方法>			助成対象者数									
	活動指標	医療費助成額		千円	目標						医療技術の進歩により医療費助成額は増加している。			
		実績			230,992	243,373	244,145							
		<指標の計算方法>			医療費助成額									
				目標										
	実績													
	<指標の計算方法>													

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳						
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	250,165					65,959					184,206

事業の実績	①受給資格管理				市単独対象							
	県補助対象				(入 院)				831件 29,322,047円			
	市単独対象				(外 来)				15,016件 42,987,708円			
	合 計				(歯 科)				2,168件 8,427,252円			
					(調 剤)				8,685件 25,450,108円			
					(訪問看護)				818件 9,882,636円			
					(そ の 他)				661件 1,830,903円			
					(戻 入)				△4,356,226円			
					(合 計)				28,179件 113,544,428円			
					総 合 計				51,492件 244,144,908円			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、助成対象者の自己負担分に対し助成を行うことで、安心して医療機関を受診してもらうことができるため、心身障害児（者）の福祉の向上と支援の観点から妥当な事業である。																
	有効性	評価結果	改善の余地がない															
		・医療費助成は、心身障害児（者）世帯の経済的負担の軽減につながっており、障害者の福祉向上の観点から有効な事業である。																
効率性	評価結果	改善の余地がない																
	・助成対象者が和歌山県内の医療機関等において受診した際は、本来負担すべき医療費の保険適用自己負担分を国民健康保険団体連合会または社会保険診療報酬支払基金へ一月毎にまとめて支払うことで、効率的に事務を行うことができている。 ・大量印刷物（受給者証の区分更新）の印刷、封入作業などを外部委託しており、事業効率の改善については余地がない状況である。																	

事務事業の概要	事務事業名			老人医療費助成事業				担当課		国保年金課		事業区分		ソフト事業				
	新規・継続			継続		事業期間		単年度繰返し				事業番号		33				
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1 安全・安心						
	予算科目			款		3 民 生 費				施策目標		2 健康・医療						
				項		1 社会福祉費				基本施策		2 地域医療体制・医療保険制度の充実						
				目		3 老人医療費				取組方針		3 福祉医療費助成の実施						
	事業概要			市民（67歳以上70歳（誕生日が月の初日である時はその前月）に達した日の属する月の末日まで）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、一定の条件を満たす対象者の医療費の自己負担分の一部に対し助成を行う事業														
	事務事業を構成する細事業			① 受給資格管理				⑤				⑨						
				② 老人医療費助成				⑥				⑩						
				③				⑦				⑪						
④				⑧				⑫										
指標の実績	指標名			単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析		
	活動指標 1人あたりの医療費助成額			円	目標											助成対象者は1人であった。		
					実績	27, 226		6, 539										
	<指標の計算方法>			医療費助成額÷助成対象者数														
	活動指標 助成対象者数			人	目標											助成対象者は1人であった。		
					実績	2		1										
	<指標の計算方法>			助成対象者数														
	活動指標 医療費助成額			円	目標											助成対象者は1人であった。		
					実績	54, 452		6, 539										
	<指標の計算方法>			医療費助成額														
				目標														
				実績														
<指標の計算方法>																		
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）					財源内訳												
						国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
	99							4								95		
事業の実績	①受給資格管理 ・助成対象者数 1人																	
	②老人医療費助成 ・医療費助成内訳																	
	(入 院) 0件 0円																	
	(外 来) 11件 6, 539円																	
	(歯 科) 0件 0円																	
	(調 剤) 0件 0円																	
	(その他) 0件 0円																	
	(合 計) 11件 6, 539円																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない														
		・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、助成対象者の自己負担分の一部に対し助成を行うことで、安心して医療機関を受診してもらうことができるため、福祉向上の観点からも妥当な事業である。																
	有効性	評価結果		改善の余地がない														
		・医療費助成は、助成対象者の経済的負担の軽減につながっており、福祉向上の観点からも有効な事業である。																
	効率性	評価結果		改善の余地がない														
		・助成対象者が和歌山県内の医療機関等において受診した際は、本来負担すべき医療費の保険適用自己負担分を国民健康保険団体連合会または社会保険診療報酬支払基金へ一月毎にまとめて支払うことで、効率的に事務を行うことができている。 ・事業効率の改善については余地がない状況である。																

事務事業の概要	事務事業名				国民年金受付事業				担当課		国保年金課		事業区分		ソフト事業												
	新規・継続				継続		事業期間		単年度繰返し				事業番号		469												
	会計				一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心												
	予算科目				款		3				民生費																
					項		1				社会福祉費																
					目		4				国民年金費																
	事業概要				国民年金制度に基づき、市民が年金を安心して受給できるように、各種届出・申請書の受付等を行う事業																						
	事務事業を構成する細事業				①		国民年金受付				⑤						⑨										
					②		国民年金等相談対応				⑥						⑩										
					③						⑦						⑪										
④									⑧						⑫												
指標の実績	活動指標		指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析										
			受付進達件数		件	目標											受付進達件数は減少傾向にある。										
						実績	3, 327		3, 282		3, 165																
			< 指標の計算方法 >		受付件数																						
	活動指標		相談件数		件	目標											令和5年度と比較して減少している。										
						実績	6, 225		6, 153		5, 614																
			< 指標の計算方法 >		相談件数																						
						目標																					
						実績																					
			< 指標の計算方法 >																								
					目標																						
					実績																						
		< 指標の計算方法 >																									
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																						
	500				国庫支出金		500		県支出金				地方債				繰入金				その他				一般財源		
事業の実績	①国民年金受付 各種届出・申請書の受付を行った。				◎年金生活者支援給付金請求の受付、送付 ・異動・裁定等による給付金請求 89件																						
	◎国民年金第1号被保険者の異動届・免除申請等の受付、送付 ・異動に関する届 1, 259件 ・免除等に関する申請 1, 065件 ・死亡一時金請求 5件				< 国民年金受付・送付件数計 > 3, 165件																						
	◎国民年金裁定請求の受付、送付 ・裁定請求（老齢・障害・遺族） 56件				◎国民年金等相談対応 各種相談に対応した。																						
	◎国民年金に関する相談対応等 5, 569件 ◎年金生活者支援給付金に関する相談対応等 45件																										
	◎年金受給者死亡後の未支給請求の受付、送付 ・未支給請求（死亡届含む） 564件				< 国民年金等相談対応件数計 > 5, 614件																						
	◎年金受給者に関する届の受付、送付 ・住所変更届等 82件 ・障害状態確認届（現況届含む） 45件																										
事業の事後評価	妥当性		評価結果		改善の余地がない																						
			・ 国民年金市町村事務処理基準に基づき実施する事業である。																								
	有効性		評価結果		改善の余地がない																						
			・ 国民年金市町村事務処理基準に基づき実施する事業である。																								
	効率性		評価結果		改善の余地がない																						
			・ 今年度から社会保険オンラインシステム可搬型窓口装置を設置しており、事務処理はシステム化されより一層効率化が図られているため、事業効率の改善については余地がない状況である。																								

事務事業の概要	事務事業名			高齢者保健事業				担当課		国保年金課		事業区分		ソフト事業		
	新規・継続			継続		事業期間		単年度繰返し				事業番号		1220		
	会計			一般会計				政策目標		1		安全・安心				
	予算科目	款	3	民 生 費				施策目標		2		健康・医療				
		項	1	社会福祉費				基本施策		1		健康づくりと疾病予防				
事業概要			和歌山県後期高齢者医療広域連合との委託契約に基づき、高齢者の保健事業と介護予防を庁内関係課が連携し一体的に行う事業				取組方針		9		その他					
事務事業を構成する細事業	①			高齢者保健事業				⑤		⑨						
	②							⑥		⑩						
	③							⑦		⑪						
	④							⑧		⑫						
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
		高齢者に対する個別の支援（ハイリスクアプローチ）指導利用率		%	目標	30	30	30	30	30	専門職による個別指導等により、健康状態の改善や重症化予防に繋げることが出来た。今後も対象者本人またはその家族に対し指導利用に繋がるようアプローチしていく必要がある。					
				実績	11.2	14	14.3									
	<指標の計算方法>		指導利用人数÷対象者													
	成果指標	高齢者に対する個別の支援（ハイリスクアプローチ）健康状態把握率		%	目標	100	100	100	100	100	アンケート調査や個別訪問等により健康状態を把握し、フレイル予防等周知するとともに、健康課題等ある人に対しては関係機関に繋げる等、必要な支援を行うことが出来た。					
					実績	69.8	68.3	90.4								
	<指標の計算方法>		健康状態把握人数÷対象者													
	活動指標	通いの場等への積極的な関与（ポピュレーションアプローチ）実施回数		回	目標	30	40	40	40	40	関係課と連携し事業内容を周知し、各専門職講師と講座内容を工夫する等し講座を開催することが出来た。					
					実績	15	28	30								
	<指標の計算方法>		講座等開催回数													
				目標												
				実績												
<指標の計算方法>																
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	3,655												3,633		22	
事業の実績	①高齢者保健事業 ②ハイリスクアプローチ（個別相談・指導） 対象者：84人 利用者：12人（14.3%） （内訳） ・低栄養に関する相談・指導 対象者：14人 利用者：4人 ・口腔に関する相談・指導 対象者：62人 利用者：3人 ・服薬に関する相談・指導 対象者：1人 利用者：1人 ・糖尿病性腎症重症化予防に関する相談・指導（受診勧奨） 対象者：0人（保健指導） 対象者：7人 利用者：4人															
	③ハイリスクアプローチ（健康状態不明者の状態把握） 対象者：104人 ・アンケート調査、訪問等による把握：94人（90.4%） ④ポピュレーションアプローチ（集団健康教育） 実施回数：30回 参加人数：延べ338人（内訳） ・栄養に関する講座：9回 106人 ・口腔に関する講座：10回 104人 ・服薬に関する講座：1回 14人 ・疾病に関する講座：10回 114人															
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない												
		・医療保険制度の適正かつ効率的な運営を図るための健康保険法等の一部を改正する法律が施行されたことに伴い、和歌山県後期高齢者医療広域連合より委託を受けて実施する事業である。														
	有効性	評価結果		改善の余地がない												
		・和歌山県後期高齢者医療広域連合からの受託により、庁内関係課や関係機関と連携し、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に取り組むことは高齢者の健康の保持増進に有効である。														
効率性	評価結果		改善の余地がない													
	・和歌山県後期高齢者医療広域連合からの受託により、庁内関係課や関係機関と連携し、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に取り組むことは効率性が高い。															

事務事業の概要	事務事業名		後期高齢者医療事業				担当課		国保年金課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	463	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心				
	予算科目	款	3	民 生 費		施策目標			2	健康・医療					
		項	1	社会福祉費		基本施策			2	地域医療体制・医療保険制度の充実					
目		7	後期高齢者医療費		取組方針	9			その他						
事業概要		和歌山県後期高齢者医療広域連合が円滑で安定的な運営が行えるように、事務費等を負担する事業													
事務事業を構成する細事業			①	後期高齢者医療広域連合負担金				⑤					⑨		
			②					⑥					⑩		
			③					⑦					⑪		
			④					⑧					⑫		

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	後期高齢者医療広域連合事務費負担金	千円	目標							和歌山県後期高齢者医療広域連合における事務に係る費用を、規約で定める割合（均等割10%、後期高齢者人口割45%、人口割45%）で県内各市町村が負担している。
			実績	10,149	11,508	11,576					
		<指標の計算方法>		負担金額							
				目標							
				実績							
		<指標の計算方法>									
				目標							
				実績							
		<指標の計算方法>									
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	11,576								11,576

事業の実績	①後期高齢者医療広域連合負担金 ・和歌山県後期高齢者医療広域連合の事務的運営経費（一般会計分）として、均等割・後期高齢者人口割・人口割で算出される負担割合で負担金を拠出する。 ※和歌山県後期高齢者医療広域連合一般会計の事務的運営経費所要額は、190,181,000円で、県内30市町村が負担割合に応じて按分し負担している。													

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない												
		・和歌山県後期高齢者医療広域連合規約に基づく事務であり、高齢者の医療を確保するために市が実施する事業であるため、妥当性がある。													
	有効性	評価結果	改善の余地がない												
		・高齢者の医療の確保に関する法律に基づき設立された和歌山県後期高齢者医療広域連合における事務に係る費用を、県内各市町村が規約に基づき負担しており、広域連合を運営していくために有効である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない													
	・後期高齢者医療制度の運営は都道府県単位で実施していることから効率的な事務を行えている。その事務に係る費用を県内各市町村で負担しているため効率性については改善の余地がない。														

事務事業の概要	事務事業名			障害児者支援事業				担当課		障害福祉課		事業区分		ソフト事業								
	会計			一般会計				新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		601				
	予算科目	款	3	民 生 費				長期総合計画体系		政策目標		1	安全・安心									
		項	1	社会福祉費						施策目標		3	福祉									
		目	8	障害者福祉費						基本施策		3	障害者の自立支援									
	取組方針																	2	地域で自立した生活をするための支援			
	事業概要			障害児者、障害児者の家族が快適に地域生活を送ってもらえるように、各種サービスの給付・助成を行う事業																		
	事務事業を構成する細事業			① 障害者手帳等交付				⑤ 身体障害者自動車改造費助成				⑨										
				② 福祉タクシー利用・自動車燃料費助成				⑥ 個別避難計画作成				⑩										
				③ 訪問理容サービス利用助成				⑦				⑪										
④ 難聴児補聴器購入費助成				⑧				⑫														
指標の実績	指標名			単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析											
	活動指標	障害者手帳所持者数	人	目標		4,650	4,650	4,650	4,650	4,650	精神障害者保健福祉手帳及び療育手帳の所持者数は増加傾向にあるが、身体障害者手帳の所持者数は令和5年度と比較して減少した。											
				実績		4,603	4,594	4,547														
				<指標の計算方法>					毎年3月31日現在の3障害（身体・療育・精神保健）手帳所持者の合計													
	成果指標	福祉タクシー利用・自動車燃料費助成券申請者数	人	目標		950	950	980	1,000	1,000	広報やホームページ、手帳交付時に周知を図り、申請に繋げている。また、令和6年度より年度途中に対象となる人にも月割りで発行しているため、申請者数の増加となった。											
				実績		913	896	1,009														
				<指標の計算方法>					助成券の交付申請をした人数													
	成果指標	訪問理容サービス利用申請者数	人	目標		10	11	11	11	10	対象者が障害の種類により限定されている。年度初めに広報等で周知を図るが、新規申請者の拡大には繋がらなかった。											
				実績		11	8	7														
				<指標の計算方法>					訪問理容サービスの利用申請をした障害のある人の人数													
			目標																			
			実績																			
			<指標の計算方法>																			
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																	
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源							
	12,899						40								12,859							
事業の実績	① 障害者手帳等交付 ・障害者手帳所持者数 身体障害者手帳 3,047人 療育手帳 843人 精神障害者保健福祉手帳 657人 計 4,547人																					
	⑤ 身体障害者自動車改造費助成 ・受給者数 0人																					
	② 福祉タクシー利用・自動車燃料費助成 ・申請者数 福祉タクシー利用券 139人 (初乗り料金24回分/人) 自動車燃料券 870人 (ガソリン48L分/人) 計 1,009人																					
	⑥ 個別避難計画作成 ・作成者数 1人																					
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																		
		・障害のある人が住み慣れた地域で日常生活を営むため、利用者のニーズに寄り添えるように必要なサービスを提供している。																				
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																		
		・障害のある人の社会参加と生活の質の向上、また、その家族の自己負担減に繋がっている。 ・福祉タクシー及び自動車燃料費の助成について、令和6年度より年度途中に対象となる人も支給対象とした。制度を円滑に運用していくために、各支所との連携を深める必要がある。																				
効率性	評価結果		改善の余地がややある																			
	・地域や社会情勢の変化に応じ、障害のある人の社会参加と生活の質の向上に必要なサービスの提供体制を整える必要がある。																					

事務事業の概要	事務事業名		障害児者手当等給付事業				担当課		障害福祉課		事業区分		ソフト事業			
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	605	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心					
	予算科目	款	3	民 生 費					施策目標	3	福祉					
		項	1	社会福祉費					基本施策	3	障害者の自立支援					
目		8	障害者福祉費			取組方針			2	地域で自立した生活をするための支援						
事業概要		障害児者、障害児者の家族の経済的負担の軽減を図り、自立した生活を送ってもらえるように、各種手当の給付を行う事業														
事務事業を構成する細事業	①		特別障害者手当給付				⑤		特別児童扶養手当給付				⑨			
	②		福祉手当給付（経過措置分）				⑥						⑩			
	③		障害児福祉手当給付				⑦						⑪			
	④		心身障害児扶養手当給付				⑧						⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	特別障害者手当受給者数	人	目標	50	50	50	50	50	重複障害者など、重度の障害を持つ人に限定されている。令和6年度は、死亡や施設入所により、数件の喪失はあるものの、新規申請も同数程度あり、令和5年度と比較すると、全体の受給者数はほぼ横ばいとなっている。	
		実績		46	42	41					
		<指標の計算方法> 特別障害者手当受給者数(3月末現在)									
	成果指標	障害児福祉手当受給者数	人	目標	23	23	20	20	20	重度の障害を持つ児童が対象で、受給者が限定されている。令和6年度も新規申請が無く、20歳到達のための資格喪失に伴い受給者数は減少した。	
		実績		17	13	11					
		<指標の計算方法> 障害児福祉手当受給者数（3月末現在）									
	成果指標	心身障害児扶養手当受給者数	人	目標	145	145	145	145	145	小児慢性特定疾病等の対象者は、保健所との連携が上手く図れており申請に繋がっている。人口は減少しているが、受給者数は大きな増減はない。	
実績		136		140	140						
<指標の計算方法> 心身障害児扶養手当受給者数（3月末現在）											
成果指標	特別児童扶養手当受給者数	人	目標	130	130	140	150	160	障害者手帳判定時や病院等で障害の状況に応じて手当の案内があり、新規認定申請に繋がっている。		
	実績		137	148	166						
	<指標の計算方法> 特別児童扶養手当事務取扱交付金の算定対象件数（12月31日現在）										

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	25, 128			13, 233						11, 895

事業の実績	①特別障害者手当給付 「特別児童扶養手当等の支給に関する法律」に基づく特別障害者手当を支給 ・受給者数(3月末現在)：41人		身体3～6級,療育B1・B2,精神2・3級:116人 指定難病,小児慢性特定疾患等:28人 (うち重複障害児5名)			
	②福祉手当給付（経過措置分） 「国民年金法等の一部を改正する法律」に基づく福祉手当を支給 ・受給者数(3月末現在)：0人		⑤特別児童扶養手当給付 申請書の受理及び受給者証等の交付の事務を処理 ・受給者数(12月末現在)：166人			
	③障害児福祉手当給付 「特別児童扶養手当等の支給に関する法律」に基づく障害児福祉手当を支給 ・受給者数(3月末現在)：11人					
	④心身障害児扶養手当給付 障害等のある人の経済的負担を軽減するため、市単独の手当を支給 ・受給者数(3月末現在):140人 身体1・2級,療育A1・A2,精神1級:1人					

事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない	
		・特別障害者手当、福祉手当（経過措置）、障害児福祉手当、特別児童扶養手当は、それぞれ法定手当であり実施は妥当である。 ・心身障害児扶養手当は、法定手当の受給資格に該当しない障害児やその家族の経済的負担の軽減に繋がっている。			
	有効性	評価結果		改善の余地がない	
		・障害を持ちながら在宅で生活している障害児者や障害児者の家族の経済的負担が軽減される。			
効率性	評価結果		改善の余地がない		
	・受給資格を有する障害児者に対し、手当の申請案内を確実に実施するとともに、申請時には手帳の判定や意見書を精査することで、適正な手当の支給に繋げることができている。				

事務事業の概要	事務事業名		障害者団体運営支援事業				担当課		障害福祉課		事業区分		ソフト事業			
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	611		
	会計		一般会計						政策目標	1	安全・安心					
	予算科目	款	3		民 生 費		長期総合計画体系		施策目標	3	福祉					
		項目	1		社会福祉費				基本施策	3	障害者の自立支援					
		目	8		障害者福祉費				取組方針	1	理解の促進と支え合う体制づくり					
	事業概要		障害児者、障害児者の家族が各種団体活動や社会活動に参画できるように、障害者団体の活動に対する補助や支援を行う事業													
事務事業を構成する細事業		①	身体障害者連盟補助金				⑤					⑨				
		②	精神障害者家族会補助金				⑥					⑩				
		③	障害児者父母の会補助金				⑦					⑪				
		④	聴覚障害者協会補助金				⑧					⑫				
指標の実績		指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
	活動指標	身体障害者連盟への交付補助金額	円	目標		1, 110, 000	1, 110, 000	1, 110, 000	1, 110, 000	1, 110, 000	会員相互や地域の小・中学校の児童と交流を図ってはいるものの、会員の高齢化や減少に伴い、行事等の参加数も減り、事業に要する費用は令和5年度と比較して減少した。					
				実績		485, 000	673, 000	549, 000								
				<指標の計算方法> 身体障害者連盟への補助金額												
	活動指標	障害児者父母の会への交付補助金額	円	目標		1, 388, 000	1, 388, 000	1, 388, 000	1, 388, 000	1, 388, 000	県親子のつどい・市親子のつどいや研修会等が開催された。会員相互の交流、親睦を活発に行った。					
				実績		1, 380, 000	1, 379, 000	1, 387, 000								
				<指標の計算方法> 障害児障害者父母の会への補助金額												
	成果指標	身体障害者連盟の会員数	人	目標		550	550	550	550	550	会員の高齢化に伴い会員数は減少傾向にある。地域の小・中学校や、各種大会での啓発活動を行っているが会員数増加には繋がっていない。今後も会員数増加に向けて啓発活動に取り組む予定である。					
				実績		393	328	302								
				<指標の計算方法> 身体障害者連盟の会費徴収対象となる会員数												
成果指標	障害児者父母の会の会員数	家族	目標		60	60	60	60	60	支援学校等での啓発活動等を実施しているが、会員数増加に繋がっていない。今後も会員数増加に向けて啓発活動に取り組む予定である。						
			実績		50	50	46									
			<指標の計算方法> 障害児者父母の会の会費徴収対象となる会員数													
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	2, 237														2, 237	
事業の実績	①身体障害者連盟補助金 ・会員数 302人															
	②精神障害者家族会補助金 ・会員数 25人															
	③障害児者父母の会補助金 ・会員数 46人															
	④聴覚障害者協会補助金 ・会員数 14人															
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・ 障害者の会員相互の交流や親睦を図り、社会参加の促進と福祉の向上に繋がる事業である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がややある													
		・ 障害者の社会参加の促進と福祉の向上に一定の効果をあげている。 ・ 「身体障害者連盟」「障害児者父母の会」への若年層の参加を促す活動内容について、地域の学校や支援学校等での啓発活動を見直し、さらなる充実等を促進していく必要がある。														
	効率性	評価結果	改善の余地がややある													
・ 各団体の会員数が減少している状況を鑑み、事務局と協議しながら事業内容等を見直し、障害者の社会参加の促進と福祉の向上に向けた活動を推進する必要がある。																

事務事業の概要	事務事業名		障害福祉サービス等給付事業				担当課		障害福祉課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	614			
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心							
	予算科目	款	3	民 生 費		施策目標			3	福祉								
		項	1	社会福祉費		基本施策			3	障害者の自立支援								
		目	9	障害者総合支援費				取組方針	2	地域で自立した生活をするための支援								
事業概要		障害児者が地域で自立した生活を送ってもらえるように、障害福祉サービスの給付を行う事業																
事務事業を構成する細事業			① 障害支援区分認定審査会運営						⑤ 障害者補装具給付						⑨			
			② 認定調査業務												⑩			
			③ 障害福祉サービス給付												⑪			
			④ 高額障害福祉サービス等給付												⑫			
指標の実績			指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
	活動指標	認定調査件数		件	目標	200		200		210		220		220		区分更新による認定調査の件数が令和5年度よりも少なかったため、全体の調査件数は減少しているが、新規利用者は増加し続けている。		
					実績	186		234		208								
				<指標の計算方法>		年間認定調査件数												
	成果指標	障害福祉サービスの延べ利用者数		人	目標	9, 200		10, 200		10, 500		11, 000		11, 000		就労継続支援B型や居宅介護利用者が増加し続けている。		
					実績	10, 120		10, 950		11, 933								
				<指標の計算方法>		障害福祉サービスの延べ利用者数												
	成果指標	就労移行支援の利用者数		人	目標	21		21		25		25		25		障害のある人の社会参加の状況を測る指標であり、事業内容が広く認知されてきたことで、一定数が利用している。利用者数は横ばいである。		
					実績	18		26		26								
				<指標の計算方法>		就労移行支援の実利用者数												
			目標															
			実績															
<指標の計算方法>																		
コストの実績			R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳											
							国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
			1, 737, 342				833, 370		454, 892								449, 080	
事業の実績			①障害支援区分認定審査会運営				・障害福祉サービス利用者数 実利用者・延べ利用者				地域相談支援 0人・ 0人							
			・審査委員 10人 (1班 5人、2班 5人) ・開催回数 12回 (月1回) ・審査件数 207件 (内訳) 身体 47件、知的 95件、 精神 60件、難病 5件 ・主治医意見書依頼件数 208件				居宅介護 196人・ 1, 838人 重度訪問介護 7人・ 63人 行動援護 1人・ 12人 同行援護 15人・ 129人 生活介護 175人・ 1, 971人 療養介護 (福祉分) 13人・ 158人 短期入所 35人・ 235人 共同生活援助 100人・ 993人 施設入所支援 65人・ 734人 就労移行支援 26人・ 224人 就労継続支援A型 110人・ 1, 136人 就労継続支援B型 218人・ 2, 281人 就労定着支援 6人・ 38人 自立訓練 (機能訓練) 1人・ 3人 自立訓練 (生活訓練) 19人・ 113人 宿泊型自立訓練 0人・ 0人 自立生活援助 0人・ 0人 計画相談支援 636人・ 2, 005人				④高額障害福祉サービス等給付 ・高額障害福祉サービス等給付 実受給者 5人 (延べ受給者 53人) ・新高額障害福祉サービス等給付 実受給者 10人 (延べ受給者 91人)							
			②認定調査業務 ・認定調査員 (職員) 5人 (内会計年度任用職員 1名) ・認定調査件数 (児童除く) 241件 (内相談事業所委託分 53件) (内訳) 一次判定分 33件 二次判定分 207件 (審査会) ※ 1名死亡により減								⑤障害者補装具給付 ・補装具給付件数							
		③障害福祉サービス給付												購入・修理・借受 義肢 (義足、義手等) 2件・ 7件・ 0件 装具 (下肢、体幹等) 24件・ 5件・ 0件 姿勢保持装置 (椅子含む) 11件・ 2件・ 0件 視覚障害者安全つえ等 6件・ 0件・ 0件 眼鏡 2件・ 1件・ 0件 補聴器 32件・ 20件・ 0件 車いす (電動含む) 11件・ 18件・ 0件 その他補装具 2件・ 1件・ 0件				
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない														
				・障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス給付事業である。														
	有効性	評価結果		改善の余地がややある														
		・障害児者が地域社会で自立した生活を営めるよう、それぞれの実情に合わせた最適なサービスを見極め提供されており、サービス利用者の増加に繋がっている。 ・障害福祉サービスの種類や内容について適切に理解してもらうとともに、障害支援区分に応じた支給決定ができるように総合的な判断ができる体制づくりが必要である。																
効率性	評価結果		改善の余地がややある															
			・障害福祉サービスの受給者が年々増加しており、専門的な知識を有する業務については、令和6年度より業務の効率化を目指して外部委託を開始した。今後は、事業者と連携してより効率化を図っていく必要がある。															

事務事業の概要	事務事業名		障害児通所給付事業				担当課		障害福祉課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		847		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心						
	予算科目	款	3		民 生 費				施策目標		3		福祉						
		項目	1		社会福祉費				基本施策		3		障害者の自立支援						
		目	9		障害者総合支援費		取組方針		2		地域で自立した生活をするための支援								
事業概要		障害児が早期からの療育を受け、自立した生活を送ってもらえるように、支援施設への通所サービスの給付を行う事業																	
事務事業を構成する細事業			① 障害児通所給付				⑤						⑨						
			② 高額障害児通所給付				⑥						⑩						
			③ 児童発達支援センター利用者負担減額助成				⑦						⑪						
			④				⑧						⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	児童調査件数	件	目標	70	70	70	70	70	新規申請者数は令和5年度と同等の件数となっているが、全体では減少した。乳幼児期からの発達支援として早期の療育に繋がっている。	
		実績		51	62	56					
		<指標の計算方法> 障害児通所給付の新規申請児童に対する調査件数									
	成果指標	児童発達支援利用者数	人	目標	140	140	130	130	130	児童発達支援事業の利用者数は横ばいである。療育が必要な児童が早期に利用できている。	
		実績		115	99	101					
		<指標の計算方法> 児童発達支援を利用した実人数									
	成果指標	障害児相談支援利用者数	人	目標	190	190	200	230	230	障害児相談支援利用者数は年々増加傾向にある。セルフプランではなく、幼児期から利用する事により個人にあった障害児通所給付に繋がっていると考えられる。	
		実績		217	257	286					
		<指標の計算方法> 障害児相談支援を利用した実人数									
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	527, 525			259, 791	129, 896				137, 838

事業の実績	①障害児通所給付 障害または発達に遅れのある児童に、通所等による適正な療育サービスを給付 ・児童調査件数 56件 ・障害児通所給付利用者数 実利用者（延利用者） 児童発達支援 101人（ 978人） 放課後等サービス 213人（2, 381人） 保育所等訪問支援 29人（ 50人） 障害児相談支援 286人（ 687人）																	
	②高額障害児通所給付 ・実受給者 6人（延べ受給者 55人）																	
	③児童発達支援センター利用者負担減額助成 ・実受給者 0人																	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・児童福祉法で定められている事業である。																
	有効性	評価結果	改善の余地がない															
		・障害児または発達の遅れのある児童の早期療育に繋がられている。																
効率性	評価結果	改善の余地がない																
	・障害児または発達に遅れのある児童の早期療育や発達支援として適切な支援内容であり、サービス利用計画にて精査し、効率的な事業の実施に繋げる。																	

事務事業の概要	事務事業名			障害者地域生活支援事業				担当課		障害福祉課		事業区分		ソフト事業					
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		982	
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心					
	予算科目			款		3				民生費		施策目標		3		福祉			
				項		1				社会福祉費		基本施策		3		障害者の自立支援			
			目		9		障害者総合支援費		取組方針		2		地域で自立した生活をするための支援						
事業概要			障害児者、障害児者の家族が住み慣れた地域で自立した生活を送ってもらえるように、相談、各種サービス給付等を行う事業																
事務事業を構成する細事業				① 地域生活支援事業給付				⑤ 巡回支援専門員整備				⑨							
				② 高額地域生活支援給付				⑥ 重度障害者日常生活用具給付				⑩							
				③ 障害者相談支援事業委託				⑦ 訪問入浴サービス事業				⑪							
				④ 障害者地域活動支援センター運営委託				⑧				⑫							

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	地域生活支援事業支給決定者数	人	目標	290	290	290	290	290	継続して利用される利用者が多いため、令和5年度から大きな変化はない。	
		実績		191	262	254					
		<指標の計算方法> 地域生活支援事業支給決定者数（移動支援・日中一時支援・生活支援それぞれの12月時点における決定者数の合計）									
	成果指標	地域生活支援事業実利用者数	人	目標	220	220	220	220	220	支給決定者に対して実利用者に差が生じるのは、自立に向かい利用を必要としなくなった者、精神障害等の悪化、難病や障害により入院して利用を中断した者と考えられる。	
		実績		154	156	160					
		<指標の計算方法> 地域生活支援事業を利用した人数（移動支援・日中一時支援・生活支援それぞれの利用人数の合計）									
活動指標	巡回支援専門員整備事業巡回回数	回	目標	30	30	30	30	30	巡回を希望した保育所（園）・幼稚園の全てに対応でき、研修会については、保育所（園）・幼稚園の現状を踏まえた内容で実施できた。今後も引き続き同様の目標値を見込む。		
	実績		13	17	20						
	<指標の計算方法> 巡回支援専門員が巡回した保育所（園）・幼稚園の延べ箇所数										
成果指標	基幹相談センター相談人数	人	目標	7,900	7,900	7,900	7,900	7,900	基幹相談支援センターとして、必要に応じ、各指定特定相談支援事業所の相談に応じている。相談件数は近年横ばいであり目標数に達していない。		
	実績		6,346	6,649	6,341						
	<指標の計算方法> 年間延べ相談人数										

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳					
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	97,498				23,057	21,064				53,377

事業の実績	①地域生活支援事業給付 ・障害者移動支援事業 実利用者 121人 延べ利用時間 9,002H ・日中一時支援事業 実利用者 22人 延べ利用時間 1,788H ・障害者生活支援事業 実利用者 17人 延べ利用時間 1,032H				・設置場所 麦の郷紀の川生活支援センター ・人員体制 5人 （常勤専従3人、常勤兼務2人）				・巡回対象施設 市内の保育所・幼稚園 ・専門員巡回回数（延べ 18回） ・研修会の開催（延べ 2回）			
	②高額地域生活支援給付 実受給者 1人（延べ受給者 2人）								⑥重度障害者日常生活用具給付 ・給付件数 ストーマ用装具 1,151件 紙おむつ 463件 電気式たん吸引器 5件 入浴補助用具 5件 情報通信支援用具 9件 特殊寝台 6件 その他生活用具 12件 住宅改修 4件 合計 1,655件			
	③障害者相談支援事業委託 障害者地域生活相談支援業務及び紀の川市基幹相談支援センター業務を委託。 ・開所日数 240日 ・実相談者 418人（延べ相談者6,341人） ・委託先（社福）一麦会				④障害者地域活動支援センター運営委託 創作的活動や生産活動、地域との交流促進等の活動を支援する場として、地域活動支援センターを開設し、その運営を委託。 ・開所日数 242日 ・実利用者 75人（延べ利用者 6,888人） ・委託先（社福）一麦会 ・設置場所 麦の郷紀の川生活支援センター ・人員体制 5人 （常勤専従3人、常勤兼務2人）				⑦訪問入浴サービス事業 ・実人数 3人（延べ 200回）			
					⑤巡回支援専門員整備 発達障害の専門知識を有する専門員が、保育所等の施設を巡回し、施設の担当職員に対し、障害の早期発見や早期対応のための助言等の支援を行う。							

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・障害者福祉法に基づき市町村が実施する事業である。																
	有効性	評価結果	改善の余地がややある															
		・障害児者の自立と社会参加の促進、障害児者を抱える家族の負担軽減に繋がっている。 ・複雑多様化している相談業務に対応するため、適切なケアマネジメントを行い、より専門的な相談支援の実施を図り、相談体制の充実に努める必要がある。																
効率性	評価結果	改善の余地がややある																
	・障害児者への支援内容や請求内容等について、サービス提供事業所へ適宜指導を行い、不適切なサービス提供を防止し、事業コストの効率化に繋げる必要がある。																	

事務事業の概要	事務事業名		障害者権利擁護事業			担当課		障害福祉課		事業区分	ソフト事業			
						新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	631	
	会計		一般会計			長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心				
	予算科目	款	3	民 生 費				施策目標	3	福祉				
		項	1	社会福祉費				基本施策	3	障害者の自立支援				
目		9	障害者総合支援費					取組方針	1	理解の促進と支え合う体制づくり				
事業概要		障害児者の権利や財産を擁護するために各種支援を行い、市民に対し障害者理解のための広報や啓発を行う事業												
事務事業を構成する細事業	① 成年後見制度利用支援			⑤ 障害者差別解消			⑨ 相談員設置							
	② 障害者虐待防止対策支援事業			⑥ 障害者意思疎通支援			⑩							
	③ 理解促進研修・啓発事業			⑦ 手話奉仕員養成・手話啓発普及			⑪							
	④ 自発的活動支援事業			⑧ 障害者相談			⑫							

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	活動指標	権利擁護センターへの65歳未満の相談件数	件	目標	20	25	30	40	50	8050問題等が考えられる中、今後権利擁護センターへの相談は増加していくことが見込まれる。		
		実績		20	27	32						
	<指標の計算方法>		権利擁護センターへの相談件数									
	活動指標	手話奉仕員養成に関する講座数	講座	目標	3	4	4	4	4	令和6年度も入門課程と基礎課程は岩出市と共同で受講者を受け入れ実施。また、市単独でステップアップ講座を2コース（昼・夜）実施した。		
		実績		4	4	4						
	<指標の計算方法>		入門講座、基礎講座、ステップアップ講座などの講座数									
	成果指標	手話奉仕員養成講座修了者の割合	%	目標	100	100	100	100	100	開催の周知方法等の工夫、岩出市との協力体制（受講者の相互受け入れ）により、受講者数の確保に繋がっている。参加者は学習意欲が高く、令和6年度も8割以上の受講生が修了できている。		
		実績		87	89	83						
	<指標の計算方法>		手話奉仕員養成講座（入門課程・基礎課程）の受講修了者／受講者数									
成果指標	理解促進研修・啓発事業の参加者数	人	目標	800	800	800	800	800	障害がある人への理解促進を図るため、啓発方法や内容を工夫し、参加者数を増やしていくため、今後も事業を充実させていく必要がある。			
	実績		206	282	403							
<指標の計算方法>		理解促進研修・啓発事業の参加合計人数										

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	3, 158		465	427				2, 266

事業の実績	①成年後見制度利用支援 ・市長審判請求支援件数 0件 ・成年後見人等報酬助成金給付 0件 ②障害者虐待防止対策支援事業 ・紀の川市障害者虐待防止センターの設置 通報件数10件（内虐待認定件数2件） ③理解促進研修・啓発事業 ・講演（研修）会の開催 ○開催日 令和6年8月15日 テーマ 思春期のメンタルヘルス 参加者 68名 ○開催日 令和7年1月21日 テーマ 働く力を活かすためのコミュニケーション 参加者 44名 ○開催日 令和7年2月22日 テーマ 子どもの可愛さに出会う 参加者 49名 ○開催日 令和7年2月28日 テーマ 「気持ちよく出す」ことを叶え			参加者 42名 ○開催日 令和7年3月6日 テーマ 放デイにおける安全管理と子どもたちの遊びと育ちの保障 参加者 40名 ・防災部会展示会 ○開催日 令和7年2月19日 テーマ みんなの防災展示会 ～災害への備え～ 参加者 160名 ④自発的活動支援事業 運動会等は、実施されなかった。 ⑤障害者差別解消 ・那賀圏域障害者差別解消支援地域協議会 ○開催日 令和6年11月28日 テーマ 寄り添える社会を目指して 参加者 33名 ⑥障害者意思疎通支援 ・手話通訳士職員配置 3人			（支援件数 421件） ・意思疎通支援者の派遣 手話通訳士（者）支援件数 127件 要約筆記支援件数 12件 ⑦手話奉仕員養成・手話啓発普及 ・手話奉仕員養成講座入門課程 受講者 27人（内修了者21人） ・手話奉仕員養成講座基礎課程 受講者 21人（内修了者19人） ・ステップアップ講座 受講者 昼コース 5人 夜コース 8人 ・夏休み手話教室（2日間） 受講者 9人 ・手話出前講座 24件 受講者 382人 ⑧障害者相談 ・来所：50件、訪問：6件、電話：350件 ⑨相談員設置 ・身体障害者相談員 7人（延べ相談件数11件） ・知的障害者相談員 5人（延べ相談件数 7件）		
	妥当性	評価結果	改善の余地がない						
		・地域社会全体に、障害児者の理解を促進することで、障害者差別の解消や障害者虐待の防止に繋げ、障害児者の人権と福祉の向上を図る事業である。							
	有効性	評価結果	改善の余地がややある						
		・障害児者の権利擁護を促進するため、中核機関である紀の川市社会福祉協議会と連携し、より有効的な成年後見制度の普及啓発を行うことが求められる。 ・手話を続けて学ぼうとする意欲を持ち続けてもらうために、定期的な周知および学習機会の場を提供していく必要がある。							
	効率性	評価結果	改善の余地がややある						
		・外部講師に依頼することで、準備期間に時間を取られることなく効率的に手話学習の場を提供できる。ステップアップ講座の内容をより充実させるため、継続して外部講師に依頼し、講師自身のスキルアップおよび地域のろう者の意識改革を求めなければならない。							

事務事業の概要	事務事業名		障害者自立支援医療費等給付事業				担当課		障害福祉課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		638	
	会計		一般会計						政策目標		1		安全・安心					
	予算科目	款	3 民 生 費				長期総合計画体系		施策目標		3		福祉					
		項	1 社会福祉費						基本施策		3		障害者の自立支援					
		目	9 障害者総合支援費						取組方針		2		地域で自立した生活をするための支援					
	障害児者が必要な治療を受け、地域で健康的に暮らしていけるように、医療費の一部助成を行う事業																	
	事業概要																	
	事務事業を構成する細事業	① 更生医療給付				⑤								⑨				
		② 育成医療給付				⑥								⑩				
③ 療養介護医療給付				⑦								⑪						
④ 精神通院医療給付				⑧								⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	更生医療給付決定件数	件	目標	430	430	430	430	430	医療機関と連携を図りながら給付決定を行っている。更生医療を必要とする申請者数はやや減少傾向にある。	
			実績	385	384	368					
		<指標の計算方法> 更生医療給付決定件数（実績報告）									
	成果指標	育成医療給付決定件数	件	目標	20	20	20	20	20	疾患や治療内容で給付対象が限定されており、育成医療を必要とする申請者数は申請状況によって増減する。	
			実績	21	12	14					
		<指標の計算方法> 育成医療給付決定件数（実績報告）									
	成果指標	療養介護給付受給者数	人	目標	14	14	14	14	14	病院等で長期入院による医療に加え、常時介護が必要な重度の障害者が受給対象者と限定されており、目標値及び実績値に大きな増減はない。	
			実績	14	15	13					
		<指標の計算方法> 療養介護給付受給者数（実績報告）									
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	72, 832		30, 103	18, 104				24, 625

事業の実績	① 更生医療給付 身体上の障害を取り除いたり軽減して日常生活を容易にする医療等にかかる費用について、利用者の自己負担を軽減するための給付 ・給付決定件数（実受給者） 内臓障害(心臓) 65件（ 63人） 内臓障害(透析) 258件（236人） 肢体不自由 38件（ 31人） 免疫機能障害 7件（ 6人）		肢体不自由 0件（0人） 内臓障害（その他） 2件（2人）	
	② 育成医療給付 児童の身体上の障害を取り除いたり軽減して日常生活を容易にする医療等にかかる費用について、利用者の自己負担を軽減するための給付 ・給付決定件数（実受給者） 視覚障害 0件（0人） 聴覚・平衡機能障害 0件（0人） 音声・言語・そしゃく機能障害 12件（9人）		③ 療養介護医療給付 医療機関で機能訓練や療養上の管理、看護、介護及び日常生活支援を受けた場合の医療にかかる費用を給付 ・受給件数 159件（実受給者 13人） ④ 精神通院医療給付 各種申請を受け付け、県の支給認定を受けた後、受給者証の交付を実施 ・申請等受付状況 新規 117件 更新 732件 変更 259件	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・障害者総合支援法に基づく事業である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・心身上の障害を取り除いたり、軽減して日常生活を容易にするための医療費に係る自己負担が軽減できている。		
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・申請書だけではなく医療機関からの意見書及び所得等により、市で判定を行っている。また、内容によっては県へ判定依頼等を行い、適正に実施することが出来ている。			

事務事業の概要	事務事業名		障害者施設運営等支援事業				担当課		障害福祉課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		634	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心					
	予算科目	款	3		民 生 費				施策目標		3		福祉					
		項目	1		社会福祉費				基本施策		3		障害者の自立支援					
事業概要		ひきこもり状態にある人や障害者等の相談に応じるとともに、居場所を確保するための障害者等の施設の運営支援や補助を行う事業																
事務事業を構成する細事業			①		ひきこもり支援ステーション事業				⑤						⑨			
			②		障害者グループホーム等整備事業補助金				⑥						⑩			
			③						⑦						⑪			
			④						⑧						⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	ひきこもり支援ステーション事業の居場所利用者数	人	目標	20	20	20	20	20	ひきこもり者の居場所として、個々の状態に合わせた様々な取り組みが実施されている。居場所利用者は若干増加した。	
		実績		19	13	14					
		<指標の計算方法>		市が委託するひきこもり支援ステーション事業の居場所を利用した実人数							
	活動指標	ひきこもり支援ステーション事業における相談等延べ人数	人	目標	500	600	600	700	700	ひきこもり者やその家族からの相談内容は様々であり、長時間のかかりが必要である。相談等延べ人数も増加しており、今後も相談のニーズは高いと考えられる。	
		実績		592	588	704					
		<指標の計算方法>		市が委託するひきこもり支援ステーション事業の相談・支援延べ人数							
成果指標	障害者グループホーム定員数	人	目標	75	110	110	110	110	市内に新規設立のグループホームは0件で、既存のグループホームの増設も0件である。人員体制が整い、受入定員を増やした事業所が1件あった。		
	実績		107	107	117						
	<指標の計算方法>		市内の障害者グループホームの定員数								
成果指標	障害者グループホーム新設数	箇所	目標	1	1	1	1	1	市内に新規設立のグループホームは無かったが、移設したグループホームが1件あった。		
	実績		1	0	0						
	<指標の計算方法>		市内の障害者グループホーム新設数								

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	11, 439		4, 219					7, 220

事業の実績	①ひきこもり支援ステーション事業 ひきこもり状態にある者及びその家族に対する支援を実施					
	・事業内容 ひきこもり相談、居場所提供、地域ネットワークの構築 自立・就労コーディネート					
	・事業委託先 (社福) 一麦会					
	・設置場所 麦の郷 ハートフルハウス創 (粉河853-3)					
	・利用者数 ひきこもり相談 (実) 34人 (延) 704人					
	居場所の利用 (実) 14人 (延) 456人					
	②障害者グループホーム等整備事業補助金 補助件数 1件					
	※補助対象外のグループホーム新設 0箇所 既存のグループホーム増設 0箇所					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・ひきこもり状態のある人の居場所としての役割は大きい。今後も多様な相談に応じ、ひきこもり状態にある人の社会参加を支援する事業として継続していく必要がある。																
	有効性	評価結果	改善の余地がややある															
		・ひきこもり状態にある人とその家族への支援は、面談だけでなく訪問やメールなど個々のニーズに応じて様々な方法で実施しているが、長期的なかかりが必要であり、関係機関と連携しながら継続して支援していく必要がある。																
効率性	評価結果	改善の余地がない																
	・生活困窮者就労準備支援事業費等補助金の国庫補助を活用し、ひきこもり支援ステーション事業として効率的に事業実施ができてい																	

事務事業の概要	事務事業名		老人福祉施設入所支援事業				担当課		高齢介護課		事業区分		ソフト事業							
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		640			
	会計		一般会計								政策目標		1		安全・安心					
	予算科目	款	3	民 生 費								施策目標		3		福祉				
		項目	1	社会福祉費								基本施策		2		高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進				
	目	10	老人福祉費								取組方針		3		高齢者の尊厳への配慮と安全・安心な生活環境の確保					
事業概要			市民（入所対象者等）が安心して生活を送れるように、老人福祉施設への入所に関する支援や拠点施設の運営を行う事業																	
事務事業を構成する細事業			① 老人ホーム入所判定委員会運営				⑤ 高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助金		⑨											
			② 老人福祉施設入所者負担金徴収				⑥				⑩									
			③ 生活支援ハウス運営事業委託				⑦				⑪									
			④ 老人福祉施設入所者措置				⑧				⑫									
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	生活支援ハウス利用率	%		目標													令和6年度は入居者はなく、退去者1名となり入所率は減少した。		
				実績	46.9		33.8		17.2											
		<指標の計算方法>		年間延べ利用日数÷（365日×施設定員数（10人））																
	活動指標	高齢者向け優良賃貸住宅利用率	%		目標													令和6年度は4名が退去し5名が入居したため、利用率は増加した。3月末時点では17/20（部屋）の利用である。		
				実績	56		73.9		82.2											
		<指標の計算方法>		年間延べ利用日数÷（365日×施設定員数（20人））																
	活動指標	養護老人ホーム入所者措置数	人		目標													入所者1名、死亡による退所者4名、特別養護老人ホーム等へ入所のため退所3名となり措置者は減少となったが、虐待や緊急処置により急増することも考えられる。		
				実績	41		37		31											
		<指標の計算方法>		養護、特別養護老人ホームへの入所措置数																
				目標																
				実績																
<指標の計算方法>																				
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳															
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
	79,552				1,700								10,419		67,433					
事業の実績	①老人ホーム入所判定委員会運営 入所措置、措置継続の要否判定 委員数 8人・入所措置 1人				退所者 7人				⑤高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助金 高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助金交付											
	②老人福祉施設入所者負担金徴収 収入申告による負担金決定と徴収				・3月末実人数 17人 ・延べ利用日数 5,998日															
	③生活支援ハウス運営事業委託 利用者承認、生活支援ハウス運営委託 ・3月末実人数 1人 ・実利用人数 2人 ・延べ利用日数 629日																			
	④老人福祉施設入所者措置 3月末措置者数（4施設） 31人 ・養護老人ホーム 白水園 25人 ・養護老人ホーム 喜望園 1人 ・養護老人ホーム 橘寮 1人 ・養護老人ホーム 大日山荘 4人 年間入所者 1人																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・老人福祉法に基づき事業を実施しており、市が事業主体となるのは妥当である。 ・「地域包括ケアシステム」の構築には、「医療」「介護」「介護予防」「住まい」「生活支援」のサービスが一体的に切れ目なく提供される必要があるが、本事業においては「住まい」の部分で欠かすことの出来ない事業である。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																
		・高齢者虐待や家庭事情などにより、居宅での生活が困難と判断した高齢者に対し、安心安全な生活を確保する上で有効である。 ・生活全般に自立している方は、本人の自立度により「生活支援ハウス」を活用してもらえるように支援していく必要がある。																		
効率性	評価結果		改善の余地がない																	
	・措置費等については、国や県の基準に基づき設定され、収入等に応じた受益者負担を求めている。 ・事業実施にあたっては、必要最小限の人員で対応している。																			

事務事業の概要	事務事業名			介護予防・高齢者自立支援事業				担当課		高齢介護課		事業区分		ソフト事業					
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		649	
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心					
	予算科目			款		3				民生費		施策目標		3		福祉			
				項		1				社会福祉費		基本施策		2		高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進			
			目		10		老人福祉費		取組方針		1		高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進						
事業概要			市民（高齢者）が住み慣れた地域で自立した日常生活を送れるように、各種サービスの提供を行う事業																
事務事業を構成する細事業				① 生活管理指導短期宿泊				⑤ 通信機能電球整備				⑨ 介護予防事業委託							
				② 外出支援サービス				⑥ 高齢者居宅改修補助金				⑩ 認知症高齢者等個人賠償責任保険事業							
				③ 防災力向上事業				⑦ 老人日常生活用具給付				⑪ フレイル予防推進事業							
				④ 緊急通報体制整備				⑧ 高齢者訪問理容サービス利用助成券給付				⑫							
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析									
	成果指標	外出支援サービス利用者数	人	目標	50	50	50	50	50	一般公共交通機関を利用することができない要介護4・5と認定された方を自宅から医療機関へ送迎するサービス。利用者数は減少している。									
				実績	42	33	29												
				<指標の計算方法> 年間利用実人数															
	成果指標	救急情報キット配布数	世帯	目標	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	防災力の向上のため、65歳到達者の介護保険被保険者証送付時に案内チラシを同封し、希望者に救急キットを配布。また、災害時要援護者の個別計画作成の際、周知啓発を行い希望者に配布している。設置台数は減少傾向。見守り付き高齢者住宅や有料老人ホームの整備が進んできたことや、近所付き合いが希薄な方が増えている事も含み、協力員の確保ができないことが考えられる。令和5年度よりICTを利用した見守り事業を開始した影響により利用者は減少している。									
				実績	8,124	8,155	8,203												
				<指標の計算方法> 年度末配布済累計数（65歳以上の高齢者がいる全世帯対象）															
	活動指標	緊急通報システム設置数	台	目標	350	350	350	350	350	要介護3～5の在宅生活をする高齢者宅を訪問して理容サービスを提供する事業。例年利用していた人が入所・死亡したことで利用者が減少したと考える。									
				実績	258	256	234												
				<指標の計算方法> 年度末設置台数															
活動指標	高齢者訪問理容サービス利用助成券給付	人	目標	20	30	30	30	30											
			実績	23	16	14													
			<指標の計算方法> 年間利用実人数																
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	26,165														26,165				
事業の実績	①生活管理指導短期宿泊 利用者数 7人				⑦老人日常生活用具給付 実績 3件（電磁調理器3件）														
	②外出支援サービス 延べ人数 37人 延べ利用回数 54回				⑧高齢者訪問理容サービス利用助成券給付 実人数 14人 延べ利用回数 25回														
	③防災力向上事業 希望者に救急情報キット配布 48個				⑨介護予防事業委託 介護予防拠点施設「蛍の里」において、生きがい活動支援等の介護予防活動を社会福祉協議会に委託して実施。 延べ利用者数 1,098人														
	④緊急通報体制整備 3月末設置台数 234台 延べ利用回数 96回				⑩認知症高齢者等個人賠償責任保険事業 保険加入決定者数 54人														
	⑤通信機能電球整備 3月末設置台数 27台 延べ利用回数 65回				⑪フレイル予防推進事業 ・きのかわフレイル予防ポイント（アプリ） 登録者数 794人（内退会者11人）														
	⑥高齢者居宅改修補助金 実績 0件																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																
		・対象者の審査に関して、所得状況、身体状況、家族形態等の個人情報が必要となるため、市が事業主体となるのは妥当である。 ・認知症高齢者等個人賠償責任保険事業実施要綱に基づき、認知症の方やその家族が地域で安心して生活することができるよう環境づくりをし、支援することは妥当である。 ・高齢者等への健康づくり支援とフレイル予防対策に取組むことは妥当である。																	
	有効性	評価結果	改善の余地がない																
		・介護保険事業での給付費、保険料の抑制を図るための事業で有効性は高い。 ・認知症の方やその家族が地域で安心して生活することができる環境を整備することは有効である。 ・心身機能や運動機能の低下がみられる高齢者等に対し、健康づくりやフレイル予防等を強化するための取組を充実させることにより有効性を高めた。																	
効率性	評価結果	改善の余地がややある																	
	・事業実施については、すべて社会福祉法人等に民間委託し効率化を図っているが、利用が極端に少ない事業については、広報等で周知し利用を図っていく。 ・認知症高齢者等個人賠償責任保険加入の場合は、地域支援事業で実施のほっと安心ネットワーク事業への登録を必須としていることから、早期発見、早期対応や事故等の未然防止につながるため効率性は非常に高い。 ・高齢者等に対し、継続して効率的にフレイル予防の取組の推進ができた。																		

事務事業の概要	事務事業名		高齢者生きがいづくり事業				担当課		高齢介護課		事業区分		ソフト事業										
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		668						
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心										
	予算科目		款		3				民生費		施策目標		3		福祉								
			項		1				社会福祉費		基本施策		2		高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進								
			目		10				老人福祉費		取組方針		1		高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進								
	事業概要		市民（高齢者）に更なる健康と長寿の意欲を持ってもらえるように、長寿祝金の支給、敬老会の開催補助、高齢者団体の活動支援を行う事業																				
	事務事業を構成する細事業		① 長寿祝金支給				⑤								⑨								
			② 敬老会補助金				⑥								⑩								
			③ 老人クラブ補助金				⑦								⑪								
④				⑧								⑫											
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析						
	活動指標	長寿祝金等支給人数		人		目標												対象者（88歳・100歳・最高齢者男女各1名）に「長寿祝金」等を郵送や訪問により贈呈し、更なる健康と長寿を目指す。					
						実績		388		400		447											
		<指標の計算方法> 年度末人数																					
	成果指標	敬老会参加者数		人		目標												旧町単位で実行委員会を中心としてイベント形式での敬老会を開催した。参加者数は横ばいであるが、高齢者の生きがいには繋がっていると考える。					
						実績		3,794		2,903		2,928											
		<指標の計算方法> 敬老会行事（旧町単位開催）への参加者数																					
	活動指標	老人クラブ補助金対象者数		人		目標												対象者が生きがいを持ち、健康で生き生きとした活動ができるよう、対象人数に応じた補助金を交付。高齢化により役員のなり手不足のため休会する地区などが増え会員数が減少している。					
						実績		9,282		9,139		8,171											
		<指標の計算方法> 老人クラブ会員数																					
						目標																	
						実績																	
<指標の計算方法>																							
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）						財源内訳																
							国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源						
	25,416								3,631				10,000				11,785						
事業の実績	①長寿祝金支給 対象者（88歳 422人） （100歳 23人） （最高齢 男女各1名） ・88歳（5千円相当商品券） ・100歳（3万円と記念品） ・最高齢（5万円と記念写真）																						
	②敬老会補助金 実行委員会を中心とした敬老行事実施に対する補助金を交付 70歳以上対象者 16,873人																						
	③老人クラブ補助金 老人クラブ会員が行う活動（清掃活動やペタンク・グラウンドゴルフ大会等）に対する補助金を交付 149クラブ （30人以上109クラブ、30人未満40クラブ）																						
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																			
		・今日の日本社会の礎を築き、多年にわたり社会に貢献されてきた高齢者に対し、感謝の意を表し、敬意の心を持ってその長寿を祝うための行事を催すことは、行政として一定の妥当性がある。																					
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																			
		・高齢者が清掃やスポーツ大会を通じて自ら地域福祉の増進を目的とし、活性化を図る事業であり有効である。																					
	効率性	評価結果		改善の余地がややある																			
		・敬老会補助金は、高齢化が進むにつれて、補助対象者の範囲の縮小等の見直しの検討が必要である。																					

事務事業の概要	事務事業名		地域見守り支援事業				担当課		高齢介護課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1114		
	会計		一般会計								政策目標		1		安全・安心				
	予算科目	款	3	民 生 費								施策目標		3		福祉			
		項目	1	社会福祉費								基本施策		2		高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進			
	目	10	老人福祉費								取組方針		1		高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進				
事業概要			市民が地域で支え合い、安全・安心に暮らせるように、地域見守り協力員による見守り活動を行う事業																
事務事業を構成する細事業			①	地域見守り活動準備事業				⑤					⑨						
			②	地域見守り活動事業				⑥					⑩						
			③					⑦					⑪						
			④					⑧					⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	見守り活動（フレイルチェック）実施回数	回	目標	135	145	45	45	45	令和6年度より活動目標回数を見直し、週1回程度を目標とした。ほぼ目標通り（週1回開催）実施できた。	
				実績	12	40	42				
				<指標の計算方法> 紀の川歩（てくてく）体操活動拠点においてフレイルチェックを実施した回数							
	成果指標	地域見守り協力員数	人	目標	190	200	200	200	200	広報等で事業内容の周知やフレイルサポーター養成講座の開催等で、新たな協力員の加入に繋がった。	
				実績	116	121	144				
				<指標の計算方法> フレイルサポーター数、募集による協力員登録者数							
				目標							
				実績							
				<指標の計算方法>							
			目標								
			実績								
			<指標の計算方法>								

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	739			738				1

事業の実績	①地域見守り活動準備事業 ・広報等で事業内容の周知 ・フレイルサポーター養成講座の開催 ・地域見守り協力員数 延べ144人（内フレイルサポーター数 85人）					
	②地域見守り活動事業 ・日常生活の中で地域の見守りをさせていただき、気付いた点を報告してもらう等、連携を取った。 ・地域見守り活動委託料 ・見守り活動実施回数 42回（フレイルチェックによる地域の見守り活動を行った） ・地域見守り協力員報償金					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない				
		・県地域見守り協力員制度実施要綱により市町村実施に関する役割が定められている。					
	有効性	評価結果	改善の余地がややある				
		・広報等や区長会等で、事業紹介を行い、またフレイルサポーター養成講座を行い新たな見守り協力員の増員に繋げる。目標値を下回っているため引き続き周知する必要がある。					
	効率性	評価結果	改善の余地がない				
・県補助金を活用した事業で効率性は非常に高い。							

事務事業の概要	事務事業名		災害時要援護者対策事業				担当課		高齢介護課		事業区分		ソフト事業															
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		672											
	会計		一般会計								政策目標		1		安全・安心													
	予算科目	款	3	民 生 費								施策目標		3		福祉												
		項	1	社会福祉費								基本施策		2		高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進												
	目	10	老人福祉費								取組方針		3		高齢者の尊厳への配慮と安全・安心な生活環境の確保													
事業概要			要援護者が円滑に避難できるように、対象者の把握と受入施設の確保を行う事業																									
事務事業を構成する細事業	①		災害時要援護者把握				⑤						⑨															
	②		災害時要援護者受入対策				⑥						⑩															
	③		個別避難計画作成業務				⑦						⑪															
	④						⑧						⑫															
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析											
	成果指標	災害時要援護者登録者数	人	目標	1, 300		1, 300		1, 300		1, 300		1, 300		登録者の死亡、転出、施設入所等により、名簿登録者数が昨年度より微減した。また、紀の川市地域防災計画に基づき登録されるべき対象者についても、意思確認調査時に施設入所していたり、名簿登載意思が確認できない者も少なからずあった。													
				実績	1, 034		1, 064		1, 027																			
				<指標の計算方法> 年度末登録者数																								
	活動指標	登録者名簿提供に関する説明回数	回	目標	10		10		10		10		10		区長会は4月、民生委員児童委員協議会では12月～1月において、それぞれ旧5町の総会、定例会で制度の説明と協力依頼を行った。													
				実績	5		1		10																			
				<指標の計算方法> 区長会、民生委員定例会開催時説明回数																								
	成果指標	災害時要援護者受入対策協定施設数	施設	目標											協定先は福祉施設等であり、新規に増設される場合を除き、資源数は限られる。													
				実績																								
				<指標の計算方法> 年度内協定締結数（新規）																								
			目標																									
			実績																									
<指標の計算方法>																												
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳																							
					国庫支出金				県支出金				地方債				繰入金				その他				一般財源			
	966																				966							
事業の実績	①災害時要援護者把握 災害時要援護者避難支援システム保守 4回/年（6月・9月・12月・3月） 更新 対象者の異動情報等により、名簿や自宅位置の地図の更新作業を実施 ハザードマップを基に危険地域内の要援護者数を把握																											
	②災害時要援護者受入対策 令和6年度末協定施設数 21施設 受入可能人数 長期 28人、短期 94人																											
	③個別避難計画作成業務 ハザードマップを基に危険地域等に居住する方を優先度の高い要援護者として個別避難計画作成の意思確認を行い作成 令和6年度 個別避難計画意思確認対象者数 49件 ・当課にて確認 17件 ・居宅介護支援事業所に委託 32件																											
事業の事後評価	妥当性	評価結果 改善の余地がない																										
		・市の地域防災計画に基づく事業であるため、市が実施主体となるのは妥当である。																										
	有効性	評価結果 改善の余地がない																										
		・平時から行政及び地域において、市に在住する災害時要援護者情報を把握し、地域内や関係機関と情報共有することにより、災害発生時等での迅速な対応に繋げることが出来るため有効である。																										
効率性	評価結果 改善の余地がややある																											
	・システムの整備により、要援護者の把握は出来ているが、個別避難計画については時間を要するため、整備を進めるのは容易ではないことから、令和6年度より居宅介護支援事業所に一部委託し、福祉専門職の参画により対象者情報のとりまとめ等が効率的に進められ進捗が図られた。 ・本来は災害時要援護者名簿に登録されるべき要介護度3以上等の住民であっても、本人及び家族の同意がない場合は、名簿に登録されないため、潜在的な要援護者が多く存在すると思われる。																											

事務事業の概要	事務事業名		高齢者福祉施設管理運営事業				担当課		高齢介護課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		35		
	会計		一般会計								政策目標		1		安全・安心				
	予算科目	款	3		民 生 費						施策目標		3		福祉				
		項目	1		社会福祉費						基本施策		2		高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進				
	目	10		老人福祉費						取組方針		1		高齢者の生きがいがいづくりと社会参加の推進					
事業概要			市民が高齢者福祉施設を安全で快適に利用できるように、適正な維持管理を行う事業																
事務事業を構成する細事業			① 介護予防施設管理（蛭の里）				⑤						⑨						
			② 老人憩の家施設管理				⑥						⑩						
			③				⑦						⑪						
			④				⑧						⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	成果指標	介護予防拠点施設利用者数		人	目標	1, 200		1, 200		1, 200		1, 200		1, 200		高齢者に介護予防と健康増進のため活用してもらえよう施設の維持管理を行っている。利用者数は、ほぼ横ばいである。			
					実績	1, 100		992		1, 098									
		<指標の計算方法>		年間延べ利用者数															
	成果指標	老人憩の家利用者数		人	目標	1, 100		1, 100		1, 100		1, 100		1, 100		高齢者の交流の場として開放しているが、継続して利用する人が固定化している。新規利用者が増えていないことが減少した要因である。			
					実績	259		403		131									
		<指標の計算方法>		年間延べ利用者数															
				目標															
				実績															
	<指標の計算方法>																		
			目標																
			実績																
<指標の計算方法>																			
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	1, 021														1, 021				
事業の実績	①介護予防施設管理（蛭の里） ・電気設備点検 ・施設劣化調査 ・各種施設管理委託 ・簡易な施設修繕 ・延べ利用者数 1, 098人																		
	②老人憩の家施設管理 ・延べ利用者数 131人																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・地域福祉を目的とした事業を実施する施設であるため、施設の維持管理等を市が主体となって実施するのは妥当である。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がない															
		・高齢者の生きがいがいづくりの場として、また、地域に密着した事業を実施していくために必要な施設である。 ・施設の適正な維持管理を行うことにより、地域住民が安心して集まることができる場所を確保することができるため有効である。																	
効率性	評価結果		改善の余地がない																
	・随時必要に応じた維持管理を実施しているため効率性はよい。																		

事務事業の概要	事務事業名		社会福祉法人利用者負担助成事業						担当課		高齢介護課		事業区分		ソフト事業		
									新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1077	
	会計		一般会計						長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心				
	予算科目	款	3	民 生 費				施策目標			3	福祉					
		項	1	社会福祉費				基本施策			2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進					
		目	11	介護保険費				取組方針			1	高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進					
	事業概要		市民（低所得の高齢者）が安心して介護サービスを利用できるように、社会福祉法人等が行う介護サービスの利用者負担の軽減に対する支援を行う事業														
	事務事業を構成する細事業		①	社会福祉法人利用者負担助成事業補助金				⑤					⑨				
			②					⑥					⑩				
			③					⑦					⑪				
④							⑧					⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析							
	活動指標	利用法人数	法人	目標	5	5	5	5	5	助成事業を利用した法人等の数は令和5年度と比較し1法人増加した。利用者負担の軽減を実施しているが、助成要件を満たさず申請しなかった、または社会福祉法人の社会的役割として軽減分を負担し助成を受けていない場合があると考えられる。							
				実績	1	1	2										
		<指標の計算方法>		社会福祉法人利用者負担助成事業補助金の交付法人数													
	活動指標	社会福祉法人等利用者負担軽減対象確認証発行数	件	目標						低所得で生計維持が困難と認められる者であるか等の要件を確認し、該当する場合は確認証を発行・交付する。交付状況は近年横ばいである。							
				実績	18	24	29										
		<指標の計算方法>		年度末発行数													
				目標													
				実績													
		<指標の計算方法>															
			目標														
			実績														
	<指標の計算方法>																
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳												
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源							
				219		105					114						
事業の実績	①社会福祉法人利用者負担助成事業補助金																
	・ 交付法人及び対象者数 社会福祉法人健正福祉会 1人 社会福祉法人紀の国福樹会 3人 ・ 補助金交付額 社会福祉法人健正福祉会 41,288円 社会福祉法人紀の国福樹会 118,712円																
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない														
		・ 低所得で生計困難である利用者に対し、介護サービスを提供する社会福祉法人等がその社会的役割として利用者負担の軽減を図ることにより、利用者の介護サービスの利用促進が図られている。その際の財政的な負担を軽減するため、市で助成を行う事業であり、妥当である。															
	有効性	評価結果	改善の余地がややある														
		・ 低所得で生計困難である利用者が、サービス利用時に確認証を提示することにより、利用する社会福祉法人等がその負担を軽減することにより、利用者が経済的な制限を受けることなく必要なサービスを利用することが可能となっている。 ・ 軽減対象である利用者は横ばいながらも一定数あるが、補助金の交付を申請した法人は、数年前と比較すると少ないため、周知に努める。															
効率性	評価結果	改善の余地がない															
	・ 軽減を受ける利用者は、社会福祉法人等から利用者負担額（自己負担額）を請求される際、すでに軽減を受けた分が請求されるため、利用者の手間の負担はない。 ・ 社会福祉法人等から市への助成申請等については、申請から交付までの手順の効率化を図っている。 ・ 助成は、国費及び県費を活用し、市の財政的負担の軽減を図っている。																

事務事業の概要	事務事業名			人権推進事業			担当課		人権施策推進課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		684	
	会計			一般会計					政策目標		5		地域づくり・行政経営					
	予算科目	款	3	民 生 費					施策目標		1		人権尊重					
		項	1	社会福祉費					基本施策		1		人権が尊重された差別のない社会の実現					
	目	12	人権推進費					取組方針		2		人権啓発・教育の推進						
事業概要				差別のない明るいまちづくりを目指すために、関係団体、関係機関と連携、協力を行う事業														
事務事業を構成する細事業				① 人権施策推進懇話会運営			⑤ 人権委員会補助金			⑨								
				② 人権委員会運営			⑥			⑩								
				③ 人権推進活動			⑦			⑪								
				④ 和歌山人権研究所負担金			⑧			⑫								

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	人権委員会理事会・代議員会の開催回数	回	目標	4	4	4	4	4	全てのイベントを開催するにあたり、目標どおり開催することができた。	
				実績	4	2	4				
			<指標の計算方法> 年間開催回数								
	成果指標	人権推進活動における参加者数	人	目標	150	500	750	750	750	さまざまな人権を対象とした人権研修を実施し、目標値には及ばないが、参加者数は年々増加している。	
				実績	124	238	308				
			<指標の計算方法> 年間参加者数								
				目標							
				実績							
			<指標の計算方法>								
			目標								
			実績								
		<指標の計算方法>									

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	9,303			1,386				7,917

事業の実績	①人権施策推進懇話会運営 ・第1回（5/29）：人権施策基本方針に基づいた施策の取組状況について各課からのヒアリング報告とフィードバック ・第2回（6/27）：紀の川市人権施策基本方針第3次改定事業（紀の川市人権に関する市民意識調査）について ・第3回（8/23）：紀の川市人権に関する市民意識調査について ・第4回（2/20）：紀の川市人権に関する市民意識調査報告書について		人権教育指導員、井阪文化会館長による人権研修を実施 ・5/21 新任課長研修 13人 ・6/8 全体区長会 146人 ・9/30 新規採用職員研修 15人 ・11/6・7 稲穂会病院研修 44人 ・12/11 社会福祉協議会老人福祉大会 75人 ・2/10 農業委員会研修 15人	
	②人権委員会運営 ・駅頭・街頭啓発および市内企業を訪問して人権啓発活動を実施：131社 ・懸垂幕およびのぼりの設置(市内53ヶ所) ・同和運動推進月間（11/1～11/30） ・人権を考える強調月間（11/11～12/10）		④和歌山人権研究所負担金 15,000円 人権問題及びあらゆる差別に関する調査研究、人権啓発研究集会の開催	
	③人権推進活動		⑤人権委員会補助金 1,101,192円 基本的人権が尊重され、差別のない社会を実現するための啓発活動に補助 5支部 150人以内で組織	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・人権意識の高揚を図るための施策、その他人権尊重のまちづくりに関する施策を積極的に推進する必要があるため、関係機関等と連携・協力し、事業を行うことは妥当である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
		・人権委員会による企業啓発のため、委員のスキルアップに努めるとともに、人権教育指導員等による人権研修の機会を増やせるよう検討する必要がある。		
	効率性	評価結果	改善の余地がない	
・教育委員会や関係機関等と連携し、人権施策の推進に取り組んでいる。				

事務事業の概要	事務事業名			人権啓発活動事業			担当課		人権施策推進課		事業区分		ソフト事業							
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		527			
	会計			一般会計					政策目標		5		地域づくり・行政経営							
	予算科目	款	3	民 生 費					施策目標		1		人権尊重							
		項	1	社会福祉費					基本施策		1		人権が尊重された差別のない社会の実現							
		目	12	人権推進費					取組方針		2		人権啓発・教育の推進							
	事業概要			市民の人権意識の高揚を図るために、啓発活動や学習機会の提供を行う事業																
	事務事業を構成する細事業			① 人権啓発活動			⑤ 人権啓発活動補助金			⑨										
				② 人権講演会・映画会			⑥ インターネット上の人権侵害情報のモニタリング			⑩										
				③ 県人権啓発センター負担金			⑦			⑪										
④ 人権教育啓発推進センター負担金				⑧			⑫													
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析										
	活動指標	人権擁護委員の日並びに人権週間時の啓発箇所	箇所	目標	18	16	16	16	16	6/4と12/4の特設人権相談終了後、市内8ヶ所において啓発活動を実施した。（打田2、粉河2、那賀2、桃山1、貴志川1）×2回										
				実績	16	16	16													
				<指標の計算方法>					人権擁護委員による啓発活動の実施回数											
	活動指標	人権を考える強調月間及び同和運動推進月間時の啓発箇所	箇所	目標	10	10	10	10	10	人権を考える強調月間および同和運動推進月間に駅頭等で啓発活動を実施した。（打田4、粉河1、那賀1、桃山1、貴志川3）										
				実績	10	10	10													
				<指標の計算方法>					人権委員による啓発活動の実施											
	成果指標	人権講演会・映画会参加延べ人数	人	目標	800	800	800	800	800	目標人数には届かなかったが、人権講演会、人権映画会を共に開催することができ、多くの方に来場していただいた。										
				実績	0	292	576													
				<指標の計算方法>					人権講演会・映画会参加者数（定員400名）											
成果指標	市内イベント啓発活動延べ動員人数	人	目標	150	150	150	150	150	流し雛啓発が悪天候で開催されなかったこともあり、目標には届かなかった。											
			実績	15	90	69														
			<指標の計算方法>					イベント時の人権委員啓発活動数												
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳															
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
	4,744						633								4,111					
事業の実績	①人権啓発活動 ・人権委員によるまつり会場等での啓発活動を実施 4/6 桃山まつり啓発（桃山支部） 8/18 市民まつり啓発（打田支部） 10/27 青洲まつり啓発（那賀支部） 11/24 産業まつり啓発（貴志川支部） 3/3 流し雛啓発（粉河支部）雨天中止 ・統一啓発での駅頭・街頭啓発及び市内企業啓発を実施（各支部） ・人権擁護委員による特設人権相談終了後の啓発活動を実施 ・人権月間中に、本庁1階にてパネル展示				③県人権啓発センター負担金 78,000円 人権に関する情報の収集・提供及び人権啓発活動				④人権教育啓発推進センター負担金 40,000円 人権に関する国際的・国内的動向を踏まえ、人権教育・啓発活動を行う各種団体への支援及び情報提供				⑤人権啓発活動補助金 100,000円 人権講座 ・5/24「子どもの人権と地域社会」 講師：西田千寿子氏 参加者84名 ・11/14「人権委員会の設置を含む包括的差別禁止法の必要性」 講師：谷川雅彦氏 参加者71名				⑥インターネット上の人権侵害情報のモニタリング実施状況 削除依頼件数：19件 削除：0件			
	②人権講演会・映画会（ホール田園） ・7/20 人権映画会「桜色の風が咲く」 参加者：322名 ・11/9 人権講演会「スポーツと人権」 講師：舞の海秀平氏 参加者：254名																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・紀の川市人権尊重のまちづくり条例に定めているとおり、人権意識の高揚を図るための施策、その他人権尊重のまちづくりに関する施策を積極的に推進する必要があるため、市が実施することは妥当である。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																
		・インターネットモニタリングを実施し、悪質な差別書込み等の早期発見、拡散防止に努め、インターネット上での人権侵害等を防止するための啓発活動を実施している。 ・人権講演会・映画会を開催し、人権施策を推進しているが、参加人数の目標達成には、周知方法等の検討も必要である。																		
効率性	評価結果		改善の余地がややある																	
	・県の助成制度を活用して啓発物資の購入を行っており、啓発活動等についても人権委員会と協力して実施している。また、教育委員会や関係機関とも連携し、効率的な事業を実施していく必要がある。																			

事務事業の概要	事務事業名			人権擁護事業				担当課		人権施策推進課		事業区分		ソフト事業							
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1069			
	会計			一般会計						政策目標		5		地域づくり・行政経営							
	予算科目	款	3	民 生 費				長期総合計画体系		施策目標		1		人権尊重							
		項	1	社会福祉費						基本施策		1		人権が尊重された差別のない社会の実現							
目	12	人権推進費				取組方針				1		人権擁護・保護の充実									
事業概要			市民を人権侵害から守るために、関係団体、関係機関の活動支援を行う事業																		
事務事業を構成する細事業	①			人権相談				⑤			更生保護女性会補助金				⑨						
	②			県人権擁護委員協議会負担金				⑥			人権擁護委員会補助金				⑩						
	③			県更生保護協会負担金				⑦							⑪						
	④			保護司会補助金				⑧							⑫						
指標の実績	指標名			単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析					
	活動指標	人権相談開設回数			回	目標	22		22		22		20		20		人権擁護委員による人権相談は、毎月開催（市内1か所）と、6月と12月の特設相談日（市内5か所）に開催していたが、毎月開催の人権相談を、12月より特設相談日の月は開催しなくなったため、目標に至らなかった。				
		実績	22			22		21													
		<指標の計算方法>			人権擁護委員による人権相談回数																
	成果指標	人権相談件数			件	目標											相談件数が少ないことはいいことだが、今後も相談体制の充実、周知に努める。				
		実績	3			6		2													
		<指標の計算方法>			人権擁護委員による相談件数																
						目標															
		実績																			
		<指標の計算方法>																			
					目標																
	実績																				
	<指標の計算方法>																				
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳																	
				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源							
	1, 142													1, 142							
事業の実績	①人権相談 人権擁護委員による人権相談の実施 相談件数 2件			・犯罪予防や青少年の健全育成のための活動に補助 第74回「社会を明るくする運動」の展開																	
	②県人権擁護委員協議会負担金 323, 000円 人権尊重思想の普及高揚を図るための各種啓発事業を実施			⑥人権擁護委員会補助金 105, 000円 ・法務局と連携し、人権相談や被害者の救済等、人権啓発活動に補助 毎月人権相談所を開設し、人権相談を実施																	
	③県更生保護協会負担金 10, 800円 犯罪や非行を防止すると共に、更生保護事業を推進																				
	④保護司会補助金 452, 000円 ・犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える活動に補助 第74回「社会を明るくする運動」の展開																				
	⑤更生保護女性会補助金 251, 000円																				
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																	
		・紀の川市人権尊重のまちづくり条例を全部改正し、相談支援体制の充実を図ることを新たに追加し、市が積極的に関与していくことは妥当である。																			
	有効性	評価結果		改善の余地がない																	
		・インターネット上への悪質な差別書き込み等の対応が課題となっている中、新たな法律も成立し、関係機関と連携しながら相談支援業務を充実させるよう事業を進めている。																			
	効率性	評価結果		改善の余地がない																	
・複雑、多様化する人権課題の解決に取り組むため、関係団体等への支援を行うことで、協力・連携を図っている。																					

事務事業の概要	事務事業名		男女共同参画推進事業				担当課		人権施策推進課			事業区分		ソフト事業	
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	474
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	3	民 生 費		施策目標			1	人権尊重					
		項	1	社会福祉費		基本施策			1	人権が尊重された差別のない社会の実現					
目		12	人権推進費		取組方針	3			男女共同参画のまちづくりの推進						
事業概要		市民の男女共同参画意識の醸成を図るために、啓発活動や研修会の開催を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①		女性会議運営				⑤					⑨			
	②		女性会議補助金				⑥					⑩			
	③		パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度				⑦					⑪			
	④						⑧					⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	市の行政機関等における委員会等の女性登用率		%	目標	35	35	35	35	35	地方自治法第180条の5に基づく委員会等のうち、市の行政機関等における女性委員数は増加した。
		実績			8.8	8.8	11.8				
		<指標の計算方法>		市で設置している審議会・委員会委員の総数に対する女性の割合							
	成果指標	研修会等の参加者数		人	目標	50	50	50	50	50	目標の人数には及ばなかったが、参加者数は増加傾向であり、各団体の交流と男女共同参画推進への意識向上につながっている。
		実績			17	23	29				
		<指標の計算方法>		紀の川市女性会議が開催する研修会に参加した人数（延べ人数）							
	活動指標	啓発活動		回	目標	2	2	2	2	2	6月の「男女共同参画週間」、11月の「女性に対する暴力をなくす運動」期間ともに、県と合同で店頭啓発を実施した。
		実績			2	2	2				
		<指標の計算方法>		県と合同で実施する啓発活動の回数							
活動指標	研修会の開催回数		回	目標	2	2	2	2	2	講義型および視察研修は計画どおり開催でき、各団体の交流と男女共同参画推進への意識向上につながった。	
	実績			1	2	2					
	<指標の計算方法>		紀の川市女性会議が開催した回数								

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	268									268

事業の実績	①女性会議運営		・庁内各課における制度導入により利用できるサービスの調査 ・医師会及び病院協会と協議 ・パートナーシップ制度自治体間連携ネットワークへの加入 ・パブリックコメント 募集期間：令和6年9月2日～9月30日 意見0件
	・5/24 講義型研修実施（15名参加） ・2/12 県外研修実施（14名参加） ・県と合同で市内店頭啓発を実施 ・男女共同参画週間（6/23～6/29） ・女性に対する暴力をなくす運動（11/12～11/25） ・パープルライトアップ 場 所：紀の川市役所本庁舎7階 実施日：令和6年11月25日		
	②女性会議補助金 109,352円 9団体 相互の連携を深め、協調して女性の地位向上と福祉の増進を図るための実践活動を推進		
	③パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度		

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・男女共同参画推進プランに沿って、あらゆる世代の人が、性別に関わりなく、社会の一員としてお互いを認め、それぞれの個性と能力を発揮できる社会の実現のため、市民や各種団体が主体的に活動を実施していくことが妥当である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
		・男女共同参画のまちの実現に向け、広報紙・ホームページなどを活用し、広く情報提供していくとともに、市民への理解や意識改革を浸透させるよう、街頭啓発等を実施して事業を推進していく必要がある。		
効率性	評価結果	改善の余地がややある		
	・関係各課との情報の共有及び連携の強化を図るとともに、市民のニーズを把握しながら事業を推進していく。			

事務事業の概要	事務事業名				隣保館運営事業				担当課		人権施策推進課			事業区分		ソフト事業		
									新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	685	
	会計				一般会計				長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営					
	予算科目				款	3	民生費	施策目標			1	人権尊重						
					項	1	社会福祉費	基本施策			1	人権が尊重された差別のない社会の実現						
				目	12	人権推進費	取組方針	2	人権啓発・教育の推進									
事業概要				市民の生活や文化の向上につなげるために、各種教室の開催や相談業務等を行う事業														
事務事業を構成する細事業				① 隣保館運営				⑤ 県隣保館連絡協議会負担金				⑨						
				② 隣保館施設管理				⑥				⑩						
				③ 地域交流業務				⑦				⑪						
				④ 県社会福祉協議会負担金				⑧				⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	成果指標		受講者数		人	目標	2,040		2,040		2,040		2,040		2,040		受講者の高齢化及び新規受講者の減少により受講者数が減少傾向となった。	
						実績	1,478		1,523		1,458							
	<指標の計算方法>		古和田会館・井阪文化会館における各教室の受講者数(延べ人数)															
	活動指標		各教室開催数		回	目標	180		180		180		180		180		大規模改修による休館を行ったが、目標値通りの講座を開催することができた。	
						実績	174		179		180							
	<指標の計算方法>		古和田会館・井阪文化会館における各教室の開催数															
	成果指標		健康増進機器利用者数		人	目標	7,700		7,700		7,700		7,700		7,700		大規模改修による休館の影響により利用者が減少となった。	
						実績	6,303		7,308		7,063							
	<指標の計算方法>		古和田会館・井阪文化会館における健康増進機器の利用者数(延べ人数)															
					目標													
					実績													
					<指標の計算方法>													
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳													
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	43,271						24,729						157		18,385			
事業の実績	①隣保館運営 ・各種相談事業 職業相談の実績 古和田会館 11回 1件 井阪文化会館 12回 1件 ・「会館だより」の発行(年4回) 6月 222部 9月 168部 12月 168部 3月 173部				ストレッチ：23回 130人 男性料理：12回 107人 女性料理：10回 63人 健康教室：11回 204人 英会話教室：13回 109人 歩き方教室：12回 150人 ※井阪文化会館 編み物：12回 78人 料理：12回 77人 手芸：12回 68人 子ども硬筆：24回 155人 ストレッチ：2回 20人				・隣保館事業についての調査研究及び情報交換									
	②隣保館施設管理 ・古和田会館タイル壁面改修工事 ・古和田会館設備改修工事				・健康増進機器の利用者数 ※古和田会館 4,333人 ※井阪文化会館 2,730人													
	③地域交流業務 ・各種教室を開催 ※古和田会館 書道：13回 82人 太極拳：24回 215人				④県社会福祉協議会負担金 ・他の行政機関との連携を図る													
事業の事後評価	妥当性		評価結果		改善の余地がない													
			・隣保館は部落差別をはじめとするあらゆる人権問題の解決に向けて、人権啓発の推進、周辺地域との交流や相談事業、各種事業を展開していくことが目的であるため、市が運営していくことが望ましい。															
	有効性		評価結果		改善の余地がややある													
			・交流促進事業として各教室を開催することに加え、新たな教室開催に向けて、利用者のアンケート結果を参考にしたストレッチ教室を試行開催することができた。 ・職業相談や人権相談などの事業について、利用者を増やすためのよりよい周知方法を考える必要がある。															
	効率性		評価結果		改善の余地がややある													
・隣保館事業については、補助金を活用することで効果的に実施した。 ・効果的かつ効率的な運営を心掛け、コストの削減を図りながら、多様化する住民のニーズにも対応した事業の展開が必要である。																		

事務事業の概要	事務事業名		低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業										担当課		社会福祉課		事業区分		ソフト事業		
													新規・継続		継続	事業期間	期間限定複数年度（R 5 ～ R 6）		事業番号	1236	
	会計		一般会計										長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心				
	予算科目	款	3 民 生 費												施策目標	3	福祉				
		項	1 社会福祉費												基本施策	1	地域福祉の推進				
	目	13 低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業費													取組方針	9	その他				
事業概要			電力・ガス・食料品等の価格高騰による負担増を踏まえ、特に家計への影響が大きい低所得世帯である住民税非課税世帯等に対して、給付金を支給する事業																		
事務事業を構成する細事業	①		低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業（3万円給付）							⑤						⑨					
	②		低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業（7万円給付）							⑥						⑩					
	③									⑦						⑪					
	④									⑧						⑫					
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析					
		住民税非課税世帯（3万円）	世帯	目標											支給は令和5年度で終了						
				実績			6, 501														
		<指標の計算方法>				住民税非課税世帯支給対象世帯数（3万円）															
	成果指標	家計急変世帯（3万円）	世帯	目標											支給は令和5年度で終了						
				実績			11														
		<指標の計算方法>				家計急変支給対象世帯数（3万円）															
	成果指標	住民税非課税世帯（7万円）	世帯	目標											支給対象世帯に対し、迅速に支給することができた。						
				実績			6, 517		250												
		<指標の計算方法>				住民税非課税世帯支給対象世帯数（7万円）															
成果指標	家計急変世帯（7万円）	世帯	目標											支給対象世帯に対し、迅速に支給することができた。							
			実績			24		4													
	<指標の計算方法>				家計急変支給対象世帯数（7万円）																
コストの実績	R 6年度決算額（単位：千円）				財源内訳																
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源						
	17, 925				17, 925																
事業の実績	①低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業（3万円給付） 令和5年度で終了																				
	②低所得世帯生活支援臨時給付金給付事業（7万円給付） ・住民税非課税世帯（7万円） 給付世帯件数 250件 ・家計急変世帯（7万円） 給付世帯件数 4件																				
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																	
		・国の制度に基づく事業であるため、市が実施主体となることは妥当性がある。																			
	有効性	評価結果		改善の余地がない																	
		・住民税非課税世帯、家計急変世帯は、物価高騰の影響を特に受けるため、給付金を支給し経済的負担を軽減させることには有効性がある。																			
効率性	評価結果		改善の余地がない																		
	・給付金額、事務費は、全額が国からの補助であり、コスト面での改善の余地はない。																				

事務事業の概要	事務事業名		低所得者支援・定額減税補足給付金給付事業				担当課		社会福祉課		事業区分		ソフト事業																	
							新規・継続		継続	事業期間	期間限定複数年度（R 5 ～ R 6）		事業番号	1244																
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心																			
	予算科目		款	3 民 生 費					施策目標	3	福祉																			
			項	1 社会福祉費					基本施策	1	地域福祉の推進																			
	目		14 低所得者支援・定額減税補足給付金給付事業			取組方針			9	その他																				
	事業概要		物価高の影響を特に受けている低所得者、及び、令和6年度実施の定額減税が控除しきれないと見込まれる方に対して給付金を給付する事業																											
	事務事業を構成する細事業		① 低所得者・定額減税補足給付事業（均等割のみ課税）	⑤						⑨																				
			② 低所得者・定額減税補足給付事業（こども加算）	⑥						⑩																				
			③ 新たな住民税非課税・均等割のみ課税世帯への給付金給付事業	⑦						⑪																				
④ 低所得者・定額減税補足給付事業（調整給付）			⑧						⑫																					
指標の実績	成果指標		指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析													
			住民税均等割のみ課税世帯		世帯	目標									支給対象世帯に迅速に支給することができた。															
						実績			490		1,065																			
	<指標の計算方法>		住民税均等割のみ課税世帯数																											
	成果指標		住民税均等割のみ課税世帯及び非課税世帯の内、こども加算対象世帯		世帯	目標											支給対象世帯に迅速に支給することができた。													
						実績					668																			
			<指標の計算方法>		住民税均等割のみ課税世帯及び非課税世帯の内、こども加算対象世帯数																									
	成果指標		令和6年度住民税が新たに非課税、均等割のみ課税となった世帯		世帯	目標											支給対象世帯に迅速に支給することができた。													
						実績					1,280																			
			<指標の計算方法>		令和6年度住民税が新たに非課税、均等割のみ課税となった世帯（こども加算含む）世帯数																									
成果指標		調整給付対象者		個人	目標											支給対象世帯に迅速に支給することができた。														
					実績					10,755																				
		<指標の計算方法>		調整給付対象者数																										
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）					財源内訳																								
						国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源														
	781,641					781,641																								
事業の実績	①低所得者・定額減税補足給付事業（均等割のみ課税） ・住民税均等割のみ課税世帯給付件数 1,065世帯															こども加算世帯給付件数 57世帯（94人）														
	②低所得者・定額減税補足給付事業（こども加算） ・住民税均等割のみ課税世帯の内、こども加算世帯給付件数 148世帯（265人） ・住民税非課税世帯の内、こども加算世帯給付件数 520世帯（875人）															④低所得者・定額減税補足給付事業（調整給付） ・調整給付対象者 10,755人														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																											
		・国の制度に基づく事業であるため、市が実施主体となることは妥当性がある。																												
	有効性	評価結果	改善の余地がない																											
		・物価高の影響を特に受けている低所得者、及び令和6年度実施の定額減税が控除しきれないと見込まれる方に対して給付金を給付することは、経済的負担の軽減のために有効である。																												
効率性	評価結果	改善の余地がない																												
	・給付金額、事務費については、全額が国からの補助であり、コスト面での改善の余地はない。																													

事務事業の概要	事務事業名		低所得世帯物価高騰支援給付金給付事業				担当課		社会福祉課			事業区分		ソフト事業			
							新規・継続		新規	事業期間	期間限定複数年度（R 6 ～ R 7）			事業番号	1251		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心						
	予算科目	款	3	民 生 費					施策目標	3	福祉						
		項目	1	社会福祉費					基本施策	1	地域福祉の推進						
		目	15	低所得世帯物価高騰支援給付金給付事業費					取組方針	9	その他						
事業概要		「国民の安心・安全と持続的な成長に向けた総合経済対策」を踏まえ、令和6年度住民税非課税世帯へ給付金を給付する事業															
事務事業を構成する細事業	①	低所得世帯物価高騰支援給付金給付事業（非課税）				⑤					⑨						
	②	低所得世帯物価高騰支援給付金給付事業（こども加算）				⑥					⑩						
	③					⑦					⑪						
	④					⑧					⑫						
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析						
		非課税世帯給付件数	世帯	目標							支給対象世帯に迅速に給付することができた。						
				実績				4,834									
		<指標の計算方法>		非課税世帯給付件数													
	成果指標	非課税世帯の内こども加算対象世帯数	世帯	目標							支給対象世帯に迅速に給付することができた。						
				実績				364									
		<指標の計算方法>		非課税世帯の内こども加算対象世帯数													
				目標													
				実績													
		<指標の計算方法>															
				目標													
				実績													
	<指標の計算方法>																
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳												
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
	165,129				165,129												
事業の実績	①低所得世帯物価高騰支援給付金給付事業（非課税） ・非課税世帯給付件数 4,834世帯 ②低所得世帯物価高騰支援給付金給付事業（こども加算） ・こども加算世帯給付件数 364世帯（642人）																
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・国の制度に基づく事業であるため、市が実施主体となることは妥当性がある。													
		評価結果		改善の余地がない ・「国民の安心・安全と持続的な成長に向けた総合経済対策」を踏まえ、住民税非課税世帯へ給付金を支給することには有効性がある。													
	有効性	評価結果		改善の余地がない ・「国民の安心・安全と持続的な成長に向けた総合経済対策」を踏まえ、住民税非課税世帯へ給付金を支給することには有効性がある。													
		評価結果		改善の余地がない ・給付金額、事務費については、全額が国からの補助でありコスト面での改善の余地はない。													
効率性	評価結果		改善の余地がない ・給付金額、事務費については、全額が国からの補助でありコスト面での改善の余地はない。														

事務事業の概要	事務事業名		児童相談・虐待防止事業				担当課		こども課		事業区分		ソフト事業	
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育	
	予算科目	款	3	民 生 費					施策目標		1		子育て環境・保育サービス	
		項	2	児童福祉費					基本施策		1		子育て環境・体制の整備、支援	
		目	1	児童福祉総務費					取組方針		2		児童虐待防止対策の強化	
事業概要			児童への虐待を防止するために、家庭児童相談・支援、防止啓発を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①		児童相談				⑤				⑨			
	②		児童虐待防止対策				⑥				⑩			
	③		子育て支援プログラム				⑦				⑪			
	④		要保護児童支援ネットワーク事業				⑧				⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	要保護児童支援ネットワーク会議	回数	目標	7	11	13	13	13	令和5年度から和歌山児童家庭支援センターによるアドバイザー事業を導入し会議を実施している。児童虐待通告人数の増加に合わせて会議の開催回数を増やした。	
			実績	7	11	13					
		<指標の計算方法>		会議の開催回数							
	活動指標	児童虐待防止・子育て支援講演会	回数	目標	1	1	1	1	1	要保護児童対策地域協議会の委員を対象に、児童虐待についての基礎知識と協議会の役割などについての講演会を実施した。	
			実績	1	1	1					
		<指標の計算方法>		講演会の開催回数							
	成果指標	子育て支援プログラム（トリプルP）受講者	人	目標	6	6	6	6	6	各子育て支援センターを通して募集したが、目標値を下回った。	
			実績	0	7	5					
		<指標の計算方法>		受講人数							
成果指標	児童虐待新規受理人数	人	目標	0	0	0	0	0	最近是全国的な傾向と同様に増加傾向であったが、令和6年度は減少となった。		
		実績	168	222	178						
	<指標の計算方法>		年度内新規受理人数								

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	26,904		12,737	2,200				11,967

事業の実績	①児童相談 ・職員体制 虐待対応専門員1人 家庭児童相談員2人（週5日勤務） 家庭児童相談員1人（週2日勤務） 保健師1名 事務職2名 ・養護相談（児童虐待） 身体的虐待 88人 心理的虐待 45人 性的虐待 0人 ネグレクト 45人 養護相談（その他） 115人 保健相談 0人 障害相談 0人 非行相談 0人 育成相談 0人 不登校相談 0人 適正相談 0人 発達相談 0人		その他相談 0人 ②児童虐待防止対策（実施状況） ・子どもの居場所づくり事業（貴志川会場） 期間：令和6年6月～令和7年3月 回数：20回 参加人数：延べ210人（那賀会場） 期間：令和6年7月～令和7年3月 回数：17回 参加人数：延べ415人 ・リーフレット配布 紀の川市内の幼稚園・保育園等、小・中学校の全児童の保護者宛に配布 ・ポスター掲示 ・啓発コーナー設置 場所：紀の川市役所本庁舎本館1階道の駅「青洲の里」		・オレンジリボンライトアップ 場所：紀の川市役所本庁舎本館7階道の駅「青洲の里」屋外 期間：令和6年11月1日～11月15日 ③子育て支援プログラム 公募で申し込みがあった5人の市民を対象に前向き子育てプログラムを実施 ④要保護児童支援ネットワーク事業 ・代表者会議と実務者会議の合同会議を1回開催 ・実務者会議を12回開催 合同会議の際に運営についてのアドバイザー契約を結んだ和歌山児童家庭支援センターきずなによる講演会（受講者41人）を実施	

事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない	
		・児童福祉法において、市が児童の福祉に関する家庭相談に応じ、必要な虐待対応を行うことは義務であり、児童虐待の防止に関する法律に規定された事業として妥当である。			
	有効性	評価結果		改善の余地がややある	
		・家庭児童相談とその対応には、その要因も多様化、複雑化しているため、対応できる知識と多様な経験が求められ、今後さらなる専門性を持った人材の配置が必要であり、相談体制の充実と専門性の強化に取り組んでいく必要がある。			
効率性	評価結果		改善の余地がややある		
	・児童虐待の対応に追われる環境下であり、有効で効率的なケースワークへつなぐことが難しい。 ・児童虐待防止の啓発については、児童虐待防止推進月間（令和6年11月）にオレンジリボンライトアップ実施や情報誌への掲載などを行うことができた。 ・令和6年度から子どもの居場所づくり事業を実施したが、より効果的で継続可能な支援策を検討していく。				

事務事業の概要	事務事業名			子育て支援事業			担当課		こども課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		704	
	会計			一般会計					政策目標		2		子育て・教育					
	予算科目	款	3	民 生 費			長期総合計画体系		施策目標		1		子育て環境・保育サービス					
		項	2	児童福祉費					基本施策		1		子育て環境・体制の整備、支援					
目	1	児童福祉総務費			取組方針				1		安心して子供を産み育てることができる支援の充実							
事業概要				安心して子育てができる環境整備を図るため、子育て支援センターやファミリーサポートセンターを拠点に、地域の団体や市民と協働で、相談や教室、子どもの送迎や預かり等を行う事業														
事務事業を構成する細事業				① 地域子育て支援センター運営			⑤ ファミリーサポートセンター運営			⑨								
				② 地域子育て支援センター事業補助金			⑥ 助産扶助			⑩								
				③ 子育てサークル支援補助金			⑦ 子育て世帯訪問支援事業			⑪								
				④ 子育て短期支援			⑧			⑫								

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	成果指標	ファミリーサポートセンター登録会員数	人	目標	430	430	430	500	500	令和6年度からはSNSによる発信も開始するなど、会員数の増加に努めていることで、年々増加している。		
		実績	463	490	521							
	<指標の計算方法>		利用会員＋スタッフ会員＋両方会員									
	成果指標	子育て支援センター年間利用延べ人数	人	目標	10,700	10,700	10,700	10,000	10,500	新型コロナウイルス感染症による利用制限もなくなり、在宅育児中の保護者にとって貴重な居場所となっているため、年々増加している。		
		実績	4,620	9,307	11,187							
<指標の計算方法>		子育て支援センター（3箇所）の年間延べ利用人数										
成果指標	ファミリーサポートセンター利用件数	件	目標	570	650	650	540	528	習い事への送迎の依頼件数が増えたため、令和5年度より大幅に増加した。			
	実績	650	493	581								
<指標の計算方法>		ファミリーサポートセンターのサービス利用件数										
成果指標	子育て短期支援事業利用日数	日	目標	28	28	28	66	66	実績は横這いであるが、制度改正により利用しやすくなったことで保護者の育児疲れ等による利用が増えた。			
	実績	70	30	31								
<指標の計算方法>		子育て短期支援事業（ショート・ステイ）の利用日数										

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳											
				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
			44,417	10,885		10,885						6,506		16,141	

事業の実績	① 地域子育て支援センター運営 子育て支援センター年間延利用者数 ・桃山子育て支援センター 延べ 4,789人（2,238組） ・那賀子育て支援センター 延べ 2,249人（1,043組） ・レイモンド子育て支援センター 延べ 4,149人（1,962組） ・子育て教室 35回 260組 ・赤ちゃん広場 41回 290組			⑤ ファミリーサポートセンター運営 （会員状況） ＜R7.3月現在＞ 利用会員 433人 スタッフ会員 71人 両方会員 17人 （活動状況） ・病児・病後児の預かり 1人 ・宿泊を伴う預かり 0人 ・緊急度の高い預かり 0人 ・緊急度の高い送迎 0人 ・保育施設の保育開始時や終了後の子どもの預かり 50人 ・保育施設までの送迎 205人 ・放課後児童クラブ終了後の子どもの預かり 4人 ・保育施設の休日の預かり 24人 ・未就園児の預かり 61人 ・習い事の送迎 227人			・その他（活動件数） 9人 581件 ⑥助産扶助 経済的に困窮し、健康保険等に参加していない妊婦に対し、出産にかかる費用を公費負担する制度 0件 ⑦子育て世帯訪問支援事業 利用件数 0件		
	② 地域子育て支援センター事業補助金 ながやまこども園子育て支援センターへの運営補助金								
	③ 子育てサークル支援補助金 補助金申請サークル 0団体								
	④ 子育て短期支援 延利用日数 31日								

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない														
		・地域で必要とされている子育て支援は多様化しており、市民が安心して利用できる子育て環境や支援活動を充実させるためには、市が実施主体となるのは妥当である。															
	有効性	評価結果	改善の余地がややある														
		・各施策が市民の抱えている子育ての悩みや負担の軽減に繋がっているため、有効性は高い。 ・多様化が進む市民のニーズに対応するため、各支援の受け皿となる委託先の拡充を図る必要がある。															
効率性	評価結果	改善の余地がない															
	・子育て支援センター事業やファミリー・サポート・センター事業は、事業開始当初から継続して運営委託している法人に委託することで、効率的に事業を実施できている。																

事務事業の概要	事務事業名		在宅育児支援事業				担当課		こども課		事業区分		ソフト事業	
			新規・継続		継続		事業期間		期間限定複数年度（～R6）		事業番号		1098	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育	
	予算科目	款	3	民 生 費		施策目標			1		子育て環境・保育サービス			
		項	2	児童福祉費		基本施策			1		子育て環境・体制の整備、支援			
目		1	児童福祉総務費		取組方針				1		安心して子供を産み育てることができる支援の充実			
事業概要			子育て世帯の経済的負担を軽減し、子どもを安心して生み、育てることができるよう、第二子以降の0歳児の保育を家庭で行う保護者に対し、給付金を支給する事業											
事務事業を構成する細事業	①		在宅育児支援事業給付				⑤				⑨			
	②						⑥				⑩			
	③						⑦				⑪			
	④						⑧				⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	給付金支給者	人	目標	130	100				県事業終了により、令和5年度からの継続申請のみとなったため、申請者は減少した。	
				実績	99	68	24				
				<指標の計算方法> 受給対象者の申請者数							
	成果指標	給付金実績額	円	目標	9,360,000	7,650,000				県事業終了により、令和5年度からの継続申請のみとなったため、支給額は減少した。	
				実績	7,650,000	5,760,000	1,410,000				
				<指標の計算方法> 受給対象者の給付決定合計額（目標額：予算額×60%）							
				目標							
				実績							
				<指標の計算方法>							
			目標								
			実績								
			<指標の計算方法>								

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	1,525				1,511					14

事業の実績	①在宅育児支援事業給付 令和5年度の申請者のうち継続受給対象者からの申請受付及び給付												
	受給者数 継続 24人												

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・県が実施する事業の事務を委託されているため、市が主体となることは妥当である。 ・保育施設等に預けず在宅育児する保護者を支援することは公平性の面からも妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・在宅で子育てする世帯に給付金を支給することは、子育て世帯の経済的負担の軽減につながるため、有効である。										
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・県からの委託事業であるため、仕様書に基づき事業を実施している。											

事務事業の概要	事務事業名		ひとり親家庭支援事業				担当課		こども課		事業区分		ソフト事業							
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		739			
	会計		一般会計								政策目標		2		子育て・教育					
	予算科目	款	3	民 生 費								施策目標		1		子育て環境・保育サービス				
		項目	2	児童福祉費								基本施策		1		子育て環境・体制の整備、支援				
		目	1	児童福祉総務費								取組方針		1		安心して子供を産み育てることができる支援の充実				
	事業概要		市民（ひとり親世帯）が自立した生活を営めるように、就業支援や経済的援助を行う事業																	
事務事業を構成する細事業			① 母子生活支援施設措置				⑤								⑨					
			② 母子寡婦福祉連合会補助金				⑥								⑩					
			③ 母子家庭自立支援給付				⑦								⑪					
			④ 養育費確保支援給付				⑧								⑫					
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	成果指標	母子生活支援施設入所世帯数	世帯	目標			3		6		6		4		4		短期間での社会的自立を目指して指導及び支援を行っており、入所と退所が繰り返されている。			
				実績			4		2		3									
				<指標の計算方法> 母子生活支援施設へ入所措置している世帯数（各年度末）																
	成果指標	母子寡婦福祉連合会 会員数	人	目標			250		250		250		250		250		会員数は減少傾向であるが、新型コロナウイルス感染症により自粛していたイベント等も再開し、会員同士の親睦や情報交換等を図り、会員増加に努めている。			
				実績			206		206		204									
				<指標の計算方法> 年度末会員数																
成果指標	ひとり親家庭自立支援給付金 受給者数	人	目標			6		6		10		8		8		令和6年度は高等職業訓練促進給付金の新規申請がなかったため、受給者数は減少した。				
			実績			10		10		7										
			<指標の計算方法> 高等職業訓練促進給付金・自立支援教育訓練給付金の受給者数																	
		人	目標																	
			実績																	
<指標の計算方法>																				
コストの実績	R 6年度決算額（単位：千円）				財源内訳															
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
	21, 303				11, 429		2, 744						39		7, 091					
事業の実績	①母子生活支援施設措置 ・令和5年度末在籍者数 2世帯 4人 ・令和6年度入所者数 2世帯 5人 ・令和6年度退所者数 1世帯 2人 ・令和6年度末在籍者数 3世帯 7人																			
	②母子寡婦福祉連合会補助金 交付実績額 204,000円																			
	③母子家庭自立支援給付 ・高等職業訓練促進給付金 6件 （支給月数 延べ 62ヶ月） ・自立支援教育訓練給付金 1件 ・ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業（受講修了時給付金）1件																			
	④養育費確保支援給付 ・公正証書等作成費用 7人 ・養育費保証契約締結費用 0人 ・養育費強制執行費用 0人																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果 改善の余地がない ・ひとり親家庭を取り巻く状況は多様化しており、経済的支援を筆頭に次々に打ち出される施策に対応するため、現行のとおり市が実施することが妥当である。																		
		評価結果 改善の余地がない ・この事業の施策は単なる経済的支援ではなく、就業（資格取得）支援や母子生活支援施設での生活支援など、ひとり親家庭が社会的に自立するための支援であり、将来的な目標につなげる有効的な施策である。																		
	有効性	評価結果 改善の余地がない ・ひとり親家庭への扶助費が大半であり、事業費の削減は支援の低下につながるため、コスト面での改善は適当ではない。 ・制度で定められた自己負担は発生しているが、それ以外ではひとり親支援という性質から受益者負担を求めるのは適当ではない。																		
		評価結果 改善の余地がない																		
効率性	評価結果 改善の余地がない ・ひとり親家庭への扶助費が大半であり、事業費の削減は支援の低下につながるため、コスト面での改善は適当ではない。 ・制度で定められた自己負担は発生しているが、それ以外ではひとり親支援という性質から受益者負担を求めるのは適当ではない。																			

事務事業の概要	事務事業名		那賀児童福祉施設組合事業				担当課		こども課		事業区分		一部事務組合										
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		712						
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育										
	予算科目	款	3		民 生 費				施策目標		1		子育て環境・保育サービス										
		項	2		児童福祉費				基本施策		1		子育て環境・体制の整備、支援										
		目	1		児童福祉総務費				取組方針		9		その他										
	事業概要			経済的支援を受けることのできない母子家庭の自立を支援するため、生活拠点となる母子生活支援施設を、岩出市と共に組織した那賀児童福祉施設組合で運営管理する事業																			
	事務事業を構成する細事業			① 那賀児童福祉施設組合負担金				⑤								⑨							
				②				⑥								⑩							
				③				⑦								⑪							
④				⑧								⑫											
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析						
	成果指標	入所世帯数		世帯		目標		18		18		18		18		18		虐待件数の増加、母子家庭の貧困化により、常に一定数の母子世帯が措置されている状態が続いている。					
						実績		17		19		19											
		<指標の計算方法>		那賀児童福祉施設組合、母子生活支援施設「粉河むつみホーム」の入所世帯数（3月1日現在）																			
					目標																		
					実績																		
	<指標の計算方法>																						
					目標																		
					実績																		
	<指標の計算方法>																						
				目標																			
				実績																			
<指標の計算方法>																							
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳																		
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源								
	934														934								
事業の実績	①那賀児童福祉施設組合負担金 紀の川市負担率 65.73%																						
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																			
		・紀の川市と岩出市で運営している一部事務組合「那賀児童福祉施設組合」の運営事業であり、両市が定められた負担割合により運営費を負担するのは妥当である。																					
	有効性	評価結果		改善の余地がない																			
		・母子生活支援施設は、生活困窮者やDV被害者の母子家庭の生活の安定と自立を支援するための施設であり、体制を整え運営を行うために必要な事業である。 ・専門職を採用し、措置費の算定額の増額にも努めている。																					
効率性	評価結果		改善の余地がない																				
	・負担金は、20%が均等割、30%が人口割、50%が利用数割で構成され、両市の人口と当該施設利用数で負担率を算出しており、現状の実施方法が最適である。 ・確実に人員を確保し、措置費増額（収入増）となるよう指導している。																						

事務事業の概要	事務事業名			子育て計画策定・推進事業				担当課		こども課		事業区分		ソフト事業										
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		709						
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育										
	予算科目			款		3				民生費		施策目標		1		子育て環境・保育サービス								
				項		2				児童福祉費		基本施策		1		子育て環境・体制の整備、支援								
	目			1		児童福祉総務費				取組方針		9		その他										
	事業概要			幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進し、子育て世帯に適切なサービスを提供するために、子育てに関する事業計画を策定し、進捗状況の管理を行う事業																				
	事務事業を構成する細事業			① 子ども・子育て会議運営				⑤								⑨								
				② 子ども・子育て支援事業計画進行管理				⑥								⑩								
				③				⑦								⑪								
④				⑧								⑫												
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析							
	活動指標		子ども・子育て会議の開催		回		目標		2		3		3		2		2		5カ年計画の策定年度だったため、会議の開催回数は増加した。					
							実績		1		1		3											
	<指標の計算方法>		会議の開催回数																					
							目標																	
							実績																	
	<指標の計算方法>																							
							目標																	
							実績																	
	<指標の計算方法>																							
						目標																		
						実績																		
<指標の計算方法>																								
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)						財源内訳																	
							国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源							
	3,803																3,803							
事業の実績	① 子ども・子育て会議運営 令和6年7月17日開催 計画骨子案について 令和6年10月18日開催 計画素案について 令和7年2月12日開催 計画及び概要版について																							
	② 子ども・子育て支援事業計画進行管理 令和6年5～6月 関係団体対象調査実施 令和6年7～8月 小中学生対象調査実施 令和7年1月 パブリックコメント実施 令和7年3月 計画策定																							
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																				
		・子ども・子育て支援事業計画の策定は義務付けられており、策定及び該当事業の進捗把握は妥当である。																						
	有効性	評価結果		改善の余地がない																				
		・子育て環境における様々な立場の委員で構成する子ども・子育て会議において審議しており、有効である。																						
効率性	評価結果		改善の余地がない																					
	・子育て支援環境は刻一刻と変化しており、専門的な知識やノウハウが必要であるため、時間・コスト・クオリティ等あらゆる面において、計画策定業務を委託することが最適である。																							

事務事業の概要	事務事業名				出産・子育て応援事業				担当課		こども課		事業区分		ソフト事業													
	会計				一般会計				新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1233									
	予算科目	款	3	民 生 費	長期総合計画体系	政策目標		2	子育て・教育																			
		項	2	児童福祉費		施策目標		1	子育て環境・保育サービス																			
		目	1	児童福祉総務費		基本施策		1	子育て環境・体制の整備、支援																			
	事業概要					妊娠届出時から妊婦や低年齢期の子育て家庭に寄り添い、出産・育児の面談等を通じて必要な支援につなぐ伴走型相談支援に合わせて、妊婦や子育て家庭への経済的支援を一体的に実施する事業																						
	事務事業を構成する細事業	① 伴走型相談支援				⑤								⑨														
		② 出産応援給付金				⑥								⑩														
		③ 子育て応援給付金				⑦								⑪														
		④ 赤ちゃん応援給付金				⑧								⑫														
指標の実績	成果指標	指標名			単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析											
		出産応援給付金支給件数	件	目標								性質上、目標は設定しない。妊娠届出数の減少に伴い給付件数も減っている。																
				実績	369		353		284																			
		<指標の計算方法>			出産応援給付金の実支給件数																							
	成果指標	子育て応援給付金支給件数	件	目標									性質上、目標は設定しない。出生数の減少に伴い給付件数も減っている。															
				実績	205		320		262																			
		<指標の計算方法>			子育て応援給付金の実支給件数																							
		成果指標	赤ちゃん応援給付金支給件数	件	目標									性質上、目標は設定しない。出生数の減少に伴い給付件数も減っている。														
	実績					282		264																				
	<指標の計算方法>			赤ちゃん応援給付金の実支給件数																								
				目標																								
		実績																										
	<指標の計算方法>																											
	コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																						
				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源														
70,047				21,432		6,166								42,449														
事業の実績	① 伴走型相談支援																											
	・相談対応																											
	助産師 1名																											
	事務職 1名																											
	② 出産応援給付金																											
	・支給件数 284件																											
	・支給金額 14,200,000円																											
	③ 子育て応援給付金																											
・支給件数 262件																												
・支給金額 13,100,000円																												
	④ 赤ちゃん応援給付金																											
	・支給件数 264件																											
	・支給金額 26,400,000円																											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																									
		・制度に基づく事業であり、市以外では実施できない。																										
	有効性	評価結果	改善の余地がない																									
		・給付対象者、給付金額など実施要綱により定まった事業である。																										
	効率性	評価結果	改善の余地がない																									
		・現時点で現金給付が最適な支給方法である。																										

事務事業の概要	事務事業名		放課後児童健全育成事業				担当課		保育課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		740		
	会計		一般会計								政策目標		2		子育て・教育				
	予算科目	款	3	民 生 費								施策目標		1		子育て環境・保育サービス			
		項目	2	児童福祉費								基本施策		2		保育環境の充実			
		目	1	児童福祉総務費								取組方針		2		保育サービスの充実			
事業概要			昼間保護者のいない家庭の小学生の健全な育成を図るため、遊びを主とする活動を行う地域組織として児童クラブ（学童保育）を設置し、運営を行う事業																
事務事業を構成する細事業		①	放課後児童健全育成事業運営				⑤					⑨							
		②					⑥					⑩							
		③					⑦					⑪							
		④					⑧					⑫							
指標の実績	活動指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析								
		学童保育クラブ数	クラブ	目標		10	10	10	10	10	那賀・粉河地区に1クラブずつ、打田・桃山・貴志川地区は学校単位に1クラブずつ、合計10クラブ。								
				実績		10	10	10											
		<指標の計算方法>		放課後児童健全育成事業の実施箇所数（学童クラブ数）															
	活動指標	年間開設日数		日		280	280	280	280	280	日・祝・盆正月休み以外に開所。								
				目標		280	280	280	280	280									
				実績		284	275	270											
		<指標の計算方法>		合計年間開設日数／10クラブ															
	成果指標	学童保育クラブ入所児童数		人		590	590	590	590	590	低学年の入所希望者が多く、学年が大きくなると入所希望者が減少する傾向が続いている。地域によって申込者に差がある。								
				目標		590	590	590	590	590									
		実績		480	449	435													
<指標の計算方法>		学童保育クラブ入所児童数（目標値：入所受付時の定員、実績値：3月現在の児童数）																	
成果指標	障害児受入人数		人		5	5	5	5	5	毎年、障害児の利用申し込みがある。療育手帳等の認定はされないが、診断書等で支援の必要な児童が増加している。									
			目標		5	5	5	5	5										
			実績		12	12	13												
	<指標の計算方法>		障害児受入人数（3月実績数）																
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	177, 581				42, 541		42, 541						38, 506		53, 993				
事業の実績	①放課後児童健全育成事業運営 ・児童クラブの年間開設日、月平均児童数 てのひら 286日、 77人 太陽の子 289日、 88人 粉河アットホームクラブ 286日、 59人 チャレンジ児童クラブ 283日、 64人 あらかわ放課後児童クラブ 283日、 49人 ももやま放課後児童クラブ 240日、 15人 こどもくらぶ 280日、 49人 ほたるっこ 242日、 17人 西貴志こどもくらぶ 277日、 47人 丸栖っ子クラブ 237日、 15人																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																
		・ひとり親家庭の増加や保護者の就労形態の多様化により学童保育は必要であり、児童の放課後の居場所づくりの観点からも事業は妥当である。																	
	有効性	評価結果	改善の余地がややある																
		・支援員研修を受講した支援員により、近年の傾向や専門知識を習得して保育に携わり、保育現場で活かされている。 ・支援員の高齢化が進んでいるため、今後、支援員確保に向けた対策が必要である。 ・放課後の遊びや生活を支援することで、子どもの健全育成にも繋がり有効である。																	
効率性	評価結果	改善の余地がややある																	
	・法人委託することにより、支援員や保護者への運営業務による負担を軽減でき、民間のノウハウを活用したサービスが提供できる。																		

事務事業の概要	事務事業名		子ども医療費助成事業			担当課		国保年金課		事業区分		ソフト事業					
						新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		427	
	会計		一般会計			長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心					
	予算科目	款項目	3		民生費			施策目標		2		健康・医療					
			2		児童福祉費			基本施策		2		地域医療体制・医療保険制度の充実					
事業概要		市民（子育て世代）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、医療費の自己負担分（大学生等は入院に係る医療費の自己負担分）に対し助成を行う事業															
事務事業を構成する細事業			① 受給資格管理			⑤						⑨					
			② 子ども医療費助成			⑥						⑩					
			③			⑦						⑪					
			④			⑧						⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	1人あたりの医療費助成額（大学生等を除く）	円	目標						医療費助成額が増加傾向にあるため、1人あたりの医療費助成額は増加している。	
				実績	28,307	30,855	32,234				
				<指標の計算方法> 医療費助成額÷助成対象者数（大学生等を除く）							
	活動指標	1人あたりの医療費助成額（大学生等）	円	目標						助成対象を令和5年8月1日から拡充しているため、令和5年度と比較して増加している。	
				実績		71,570	93,289				
				<指標の計算方法> 医療費助成額÷助成者数（大学生等）							
	活動指標	助成対象者数（大学生等を除く）	人	目標						助成対象を令和5年8月1日から拡充したため、令和5年度は増加しているが、市の人口は減少傾向にあるため、助成対象者も減少している。	
				実績	6,337	7,495	7,295				
				<指標の計算方法> 助成対象者数（大学生等を除く）							
活動指標	医療費助成額	千円	目標						助成対象を令和5年8月1日から拡充しているため、令和5年度と比較して増加している。		
			実績	179,381	231,545	236,825					
			<指標の計算方法> 医療費助成額								

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	247,218			37,453		160,000		49,765

事業の実績	①受給資格管理				(外 来)	22,698件	41,109,771円	(戻 入)	0円		
	・助成対象者数（大学生を除く）				(歯 科)	3,733件	7,168,898円	(合 計)	16,627件	42,029,836円	
	未就学児(入院・通院助成)		2,226人		(調 剤)	12,330件	12,300,778円	高校生相当			
	小学生(入院・通院助成)		2,388人		(その他)	150件	1,448,272円	(入 院)	45件	2,986,855円	
	中学生(入院・通院助成)		1,354人		(戻 入)		△5,469円	(外 来)	7,717件	18,148,972円	
	高校生相当(入院・通院助成)		1,327人		(合 計)	39,227件	72,389,303円	(歯 科)	1,688件	6,274,495円	
	合 計		7,295人		小学生			(調 剤)	3,753件	7,949,752円	
	・助成者数（大学生等）				(入 院)	68件	4,035,504円	(その他)	681件	1,126,353円	
	大学生等(実績/入院助成)		18人		(外 来)	19,046件	39,578,923円	(戻 入)		0円	
	※令和5年8月1日より、制度を拡充し高校生相当（入院・通院）及び大学生等（入院）を対象とした。				(歯 科)	8,178件	22,918,230円	(合 計)	13,884件	36,486,427円	
※大学生等については、実際に申請のあった人数を記載している。				(調 剤)	9,801件	15,203,111円	大学生等を除く合計	107,550件	235,146,267円		
				(その他)	719件	2,516,096円	大学生等				
				(戻 入)		△11,163円	(入 院)	30件	1,679,196円		
				(合 計)	37,812件	84,240,701円	(戻 入)		0円		
				中学生			(合 計)	30件	1,679,196円		
				(入 院)	40件	2,748,143円					
				(外 来)	8,924件	20,912,004円					
				(歯 科)	2,372件	7,514,570円					
				(調 剤)	4,360件	9,225,750円	総 合 計	107,580件	236,825,463円		
				(その他)	931件	1,629,369円					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない														
		・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、助成対象者の自己負担分に対し助成を行うことで、安心して医療機関を受診していただくことができるため、子どもの福祉の向上と支援の観点から妥当な事業である。															
	有効性	評価結果	改善の余地がない														
		・医療費助成は、子育て世帯の経済的負担の軽減につながっており、子どもの福祉の向上と子育て支援の観点から有効な事業である。															
	効率性	評価結果	改善の余地がない														
・助成対象者が和歌山県内の医療機関等において受診した際は、本来負担すべき医療費の保険適用自己負担分を国民健康保険団体連合会または社会保険診療報酬支払基金へ毎月毎にまとめて支払うことで、効率的に事務を行うことができている。 ・大量印刷物（受給者証の区分更新）の印刷、封入作業などを外部委託しており、事業効率の改善については余地がない状況である。																	

事務事業の概要	事務事業名		ひとり親家庭医療費助成事業				担当課		国保年金課		事業区分		ソフト事業															
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		45											
	会計		一般会計								政策目標		1		安全・安心													
	予算科目	款	3	民 生 費								施策目標		2		健康・医療												
		項	2	児童福祉費								基本施策		2		地域医療体制・医療保険制度の充実												
		目	3	ひとり親家庭医療費								取組方針		3		福祉医療費助成の実施												
	事業概要		市民（ひとり親家庭）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、医療費の自己負担分に対し助成を行う事業																									
			① 受給資格管理				⑤								⑨													
	事務事業を構成する細事業		② ひとり親家庭医療費助成				⑥								⑩													
			③				⑦								⑪													
		④				⑧								⑫														
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析											
	活動指標	1人あたりの医療費助成額		円		目標												令和5年度と比較して医療費助成額の減少に伴い、1人あたりの医療費助成額も減少している。										
				実績		39,628		42,985		40,600																		
		<指標の計算方法>		医療費助成額÷助成対象者数																								
	活動指標	助成対象者数		人		目標												市の人口は減少傾向にあるが、ここ数年は、ほぼ横ばい状況で推移している。										
				実績		1,297		1,278		1,301																		
		<指標の計算方法>		助成対象者数																								
	活動指標	医療費助成額		千円		目標												令和5年度と比較して微減しているが、ほぼ横ばい状況で推移している。										
				実績		51,398		54,935		52,820																		
		<指標の計算方法>		医療費助成額																								
				目標																								
		実績																										
<指標の計算方法>																												
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																							
					国庫支出金				県支出金				地方債				繰入金				その他				一般財源			
	56,751								27,005																29,746			
事業の実績	①受給資格管理																											
	・助成対象世帯数		516世帯																									
	・助成対象者数		1,301人																									
	(内訳)																											
	保護者		511人																									
	未就学児		153人																									
	小学生		270人																									
	中学生		182人																									
	高校生相当		185人																									
	②ひとり親家庭医療費助成																											
・医療費助成内訳																												
(入 院)		65件		2,821,935円																								
(外 来)		10,491件		25,743,173円																								
(歯 科)		2,785件		10,346,718円																								
(調 剤)		5,331件		11,441,991円																								
(その他)		940件		2,480,382円																								
(戻 入)				△14,187円																								
(合 計)		19,612件		52,820,012円																								
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																								
		・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、助成対象者の自己負担分に対し助成を行うことで、安心して医療機関を受診していただくことができるため、福祉の向上とひとり親家庭支援の観点から妥当な事業である。																										
	有効性	評価結果		改善の余地がない																								
		・医療費助成は、ひとり親家庭の経済的負担の軽減につながっており、福祉の向上とひとり親家庭支援の観点から有効な事業である。																										
	効率性	評価結果		改善の余地がない																								
・助成対象者が和歌山県内の医療機関等において受診した際は、本来負担すべき医療費の保険適用自己負担分を国民健康保険団体連合会または社会保険診療報酬支払基金へ一月毎にまとめて支払うことで、効率的に事務を行うことができている。 ・大量印刷物（受給者証の区分更新）の印刷、封入作業などを外部委託しており、事業効率の改善については余地がない状況である。																												

事務事業の概要	事務事業名		児童手当給付事業				担当課		こども課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		43	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育					
	予算科目	款	3	民 生 費		施策目標			1		子育て環境・保育サービス							
		項	2	児童福祉費		基本施策			1		子育て環境・体制の整備、支援							
		目	4	児童手当費		取組方針			3		子育て世帯への経済的負担の軽減							
	事業概要		児童を養育する家庭や施設の子育てにかかる経費の負担を軽減し、あわせて児童の健やかな成長に資することを目的に児童手当の給付を行う事業															
	事務事業を構成する細事業		① 児童手当給付				⑤								⑨			
			②				⑥								⑩			
			③				⑦								⑪			
④				⑧								⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	児童手当等受給者数	人	目標						性質上、目標は設定しない。法改正により高校生年代まで対象となったため、児童手当受給者数は増加している。	
		実績		3,436	3,356	3,893					
		<指標の計算方法> 支給状況報告（一般・施設受給者）の受給者数（2月末現在）									
	活動指標	児童手当等支給対象児童数	人	目標						性質上、目標は設定しない。法改正により高校生年代まで対象となったため、支給対象児童数は増加している。	
		実績		5,891	5,713	6,929					
		<指標の計算方法> 支給状況報告（一般・施設受給者）の支給対象児童数（2月末現在）									
				目標							
				実績							
				<指標の計算方法>							
			目標								
			実績								
			<指標の計算方法>								

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	849,433			628,327	109,623				111,483

事業の実績	①児童手当給付 令和6年9月分まで ・3歳未満児童受給延べ月数 被用者 4,965月 非被用者 1,171月 特例給付者 90月 ・3歳以上児童受給延べ月数 被用者 20,505月 非被用者 5,914月 特例給付者 544月 ・中学生児童受給延べ月数 被用者 7,829月 非被用者 2,453月 特例給付者 297月 令和6年10月分以降 ・3歳未満児童受給延べ月数 被用者 2,484月 非被用者 569月 ・3歳以上児童受給延べ月数			被用者 10,822月 非被用者 3,140月 ・中学生児童受給延べ月数 被用者 4,092月 非被用者 1,329月 ・高校生年代児童受給 被用者 4,081月 非被用者 980月		

事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない	
		・児童手当法に基づく法定受託事務であるため、対象者に手当を給付することは妥当である。			
	有効性	評価結果		改善の余地がない	
		・子育ての経済的負担を軽減しているため有効性は高い。			
	効率性	評価結果		改善の余地がない	
		・現況届の現況確認処理、入力作業を会計年度任用職員の協力を得る等、事務作業について効率化を図っている。			

事務事業の概要	事務事業名		児童扶養手当給付事業				担当課		こども課		事業区分		ソフト事業							
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		44			
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育							
	予算科目	款	3		民 生 費				施策目標		1		子育て環境・保育サービス							
		項	2		児童福祉費				基本施策		1		子育て環境・体制の整備、支援							
目		5		児童扶養手当費		取組方針			3		子育て世帯への経済的負担の軽減									
事業概要			父または母と生計を同じくしていない児童が育成される家庭の生活の安定と自立を助け、児童の福祉の増進を図ることを目的として児童扶養手当の給付を行う事業																	
事務事業を構成する細事業	①		児童扶養手当給付				⑤						⑨							
	②						⑥						⑩							
	③						⑦						⑪							
	④						⑧						⑫							
指標の実績	活動指標	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析 性質上、目標は設定していない。 受給資格者数は年々減少している。				
		受給資格者数		人	目標															
					実績	543		539		537										
		<指標の計算方法>		福祉行政報告例第61表（3月末現在）																
	活動指標	受給対象児童数		人	目標											性質上、目標は設定していない。 受給資格者数に比例して年々減少していたが、令和6年11月の法改正により所得制限が緩和されたため受給対象児童数は増加した。				
					実績	730		709		719										
		<指標の計算方法>		福祉行政報告例第61表（3月末現在）																
					目標															
	実績																			
	<指標の計算方法>																			
			目標																	
			実績																	
<指標の計算方法>																				
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）					財源内訳														
						国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	259, 467					86, 201										173, 266				
事業の実績	①児童扶養手当給付 ・受給資格者数 537人 ・受給対象児童数 719人																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・児童扶養手当法に基づく法定受託事務であるため、対象者に手当を給付することは妥当である。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がない																
		・ひとり親家庭等の経済的負担を軽減する支援事業であり、こどもの貧困対策としても有効である。																		
	効率性	評価結果		改善の余地がない																
		・事務費はほとんどなく、経費の大半は扶助費であり、コスト面での削減余地はない。																		

事務事業の概要	事務事業名			教育・保育施設入所管理事業				担当課		保育課		事業区分		ソフト事業		
								新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	743	
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標	2	子育て・教育				
	予算科目			款	3	民生費				施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
				項	2	児童福祉費				基本施策	2	保育環境の充実				
目			6	保育所費			取組方針			2	保育サービスの充実					
事業概要			就学前の児童に対し、教育・保育施設への適正な入所管理を行う事業													
事務事業を構成する細事業			① 入所				⑤ 第2子以降保育料等無料化				⑨					
			② 支給認定（保育所・幼稚園・こども園）				⑥				⑩					
			③ 広域保育				⑦				⑪					
			④ 保育料賦課・徴収				⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
	活動指標		人	目標	1,600		1,500		1,500		1,500		1,500		少子化により、利用者数全体では減少傾向である。	
				実績	1,570		1,531		1,508							
	<指標の計算方法>		対象児童数（各年3月1日現在）広域保育委託分含む													
	活動指標		人	目標	15		15		15		15		15		広域入所については、受託市町村と協議を行い、受け入れを進めているが、低年齢児の受け入れは厳しいものがある。	
				実績	23		18		19							
	<指標の計算方法>		対象児童数（年間総受託者数）													
	成果指標		人	目標	0		0		0		0		0		紀の川市全体での待機児童は生じていない。	
				実績	0		0		0							
	<指標の計算方法>		対象児童数（各年3月1日現在）													
			目標													
			実績													
		<指標の計算方法>														
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	38,842				10,822		6,402						1,173		20,445	
事業の実績	① 入所				収納率 98.4%											
	② 支給認定（保育所・幼稚園・こども園）				※R7.3.31時点											
	公立保育所 539人 私立保育園 508人 小規模保育事業所 34人 認定こども園 393人 ※R7.3.1現在（広域保育受託分除く）				⑤ 第2子以降保育料等無料化 (2子) 3歳未満 42人 (3子以降)3歳未満 64人、3歳以上 169人											
	③ 広域保育 委託分 40人 ※年間総委託者数 (R7.3.1現在 34人)															
	④ 保育料賦課・徴収 保育料徴収額 ・現年度分 52,423,750円 (2,052件) 収納率 99.8% 一時保育料 100,000円 (7件) ・過年度分 398,610円 (18件)															
	妥当性	評価結果		改善の余地がない												
		・ 共働き世帯の増加や保護者の疾病など、家庭において保育が困難な児童を受け入れるため、保育の実施は妥当である。														
		有効性	評価結果		改善の余地がややある											
・ 入所児童数は減少傾向にあるが、転入世帯や早期の育休復帰など、低年齢児の保育ニーズは依然として高く、転入超過地区での施設に申込が集中するなど、希望の施設に入所ができない可能性がある。 ・ 入所希望保育所への入所に向けて、定員数の調整等による改善の余地がある。																
効率性	評価結果		改善の余地がない													
	・ 支援が必要な児童も増える中、安全な保育を実施するための加配保育士を含め、職員の配置基準に準じた人員配置をしており、人件費の削減の余地はない。															

事務事業の概要	事務事業名			子どものための教育・保育給付事業				担当課		保育課		事業区分		ソフト事業						
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		750		
	会計			一般会計								政策目標		2		子育て・教育				
	予算科目	款	3	民 生 費				長期総合計画体系				施策目標		1		子育て環境・保育サービス				
		項	2	児童福祉費								基本施策		2		保育環境の充実				
目	6	保育所費										取組方針		2		保育サービスの充実				
事業概要			子ども・子育て支援新制度に基づき、私立教育・保育施設に対する財政支援を行う事業																	
事務事業を構成する細事業				① 認可業務・指導監査				⑤ 私立保育園障害児保育補助金				⑨ 一時預かり補助金								
				② 私立保育園運営委託				⑥ 延長保育事業補助金				⑩ 補足給付費								
				③ 地域型保育給付				⑦ 病児保育事業補助金				⑪								
				④ 施設型給付				⑧ 私立保育園自動車借上補助金				⑫								
指標の実績	指標名			単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	活動指標	私立入所園児数			人	目標	1,099		1,099		1,099		1,099		1,099		少子化により入所児童数は減少傾向である。			
						実績	987		965		962									
		<指標の計算方法>				対象児童数（各年3月1日現在）広域保育受託分含む														
	活動指標	私立教育・保育施設数			園	目標	10		10		11		11		11		認可保育施設数については令和6年度で1施設増加している。			
						実績	10		10		11									
		<指標の計算方法>				対象施設数														
					目標															
				実績																
	<指標の計算方法>																			
				目標																
			実績																	
<指標の計算方法>																				
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳															
	1,291,100				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
事業の実績	①認可業務・指導監査 ・認可施設 粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、山の子共同保育園、つたのは保育園、未来保育園、ニチイキッズきのかわ保育園、レイモンドこども園、愛の光幼稚園、あおば幼稚園、ながやまこども園 ・認可外施設 イチゴ保育所、貴志川センター保育室、ひかり保育園、ふたば保育園、そらな保育園、だるま保育園 ②私立保育園運営委託 支出済額 570,780,570円 粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、山の子共同保育園、つたのは保育園 ③地域型保育給付 支出済額 87,777,310円 未来保育園、ニチイキッズきのかわ保育園 ④施設型給付 支出済額 504,953,420円																			
	レイモンドこども園、愛の光幼稚園、あおば幼稚園、ながやまこども園 ⑤私立保育園障害児保育補助金 支出済額 41,068,000円 粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、レイモンドこども園、愛の光幼稚園、ながやまこども園 対象園児 56名 ⑥延長保育事業補助金 支出済額 3,060,000円 粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、レイモンドこども園、ながやまこども園 ⑦病児保育事業補助金 支出済額 8,055,000円 粉河保育園、名手保育園 ⑧私立保育園自動車借上補助金 支出済額 2,379,000円 粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、レイモンドこども園、愛の光幼稚園、ながやまこども園																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・民間保育施設の安定運営を図るために市が補助を行うことは妥当である。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がない																
		・民間保育施設の安定運営を図ることにより、園児の安定した受け入れ人数を確保している。																		
効率性	評価結果		改善の余地がない																	
	・国の基準に基づき、給付費等を支給しているため改善の余地はない。																			

事務事業の概要	事務事業名				保育所運営管理事業				担当課		保育課		事業区分		ソフト事業						
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		744		
	会計				一般会計								政策目標		2		子育て・教育				
	予算科目	款	3			民 生 費			長期総合計画体系				施策目標		1		子育て環境・保育サービス				
		項	2			児童福祉費							基本施策		2		保育環境の充実				
		目	6			保育所費							取組方針		2		保育サービスの充実				
事業概要				保育所施設の運営維持管理を行い、市民（児童・保護者）が円滑に利用できるよう、保育サービスの提供を行う事業																	
事務事業を構成する細事業					① 保育職員研修・管理育成				⑤ 県社会福祉協議会保育士会負担金				⑨ 保育業務支援システム運用								
					② 給食管理				⑥ 施設整備				⑩								
					③ 送迎バス運行				⑦ 備品購入				⑪								
					④ 災害共済加入				⑧ L I N Eを活用した保護者向け情報配信				⑫								
指標の実績			指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	成果指標	保育職員研修受講者数	人	目標		126		200		200		200		200		多くの保育士が受講できるよう、録画配信でも実施しているが、令和5年度と比べて減少している。					
				実績		126		226		191											
				<指標の計算方法> 受講者数																	
	成果指標	各保育所L I N E登録児童数	人	目標		570		570		170		0		0		各保育所の連絡事項をLINEを用いて保護者に配信した。令和7年度中に全7保育所が保育業務支援システム導入のため移行する。					
				実績		570		562		167											
				<指標の計算方法> 登録者数（3月末現在）																	
	成果指標	保育業務支援システム登録児童数	人	目標		0		390		370		540		540		こばと、なるき、中貴志3保育所で保育業務支援システムを導入し、保護者の利便性を向上した。令和7年度中に全7保育所が保育業務支援システムを導入する予定。					
				実績		0		392		374											
				<指標の計算方法> 登録者数(3月末現在)																	
成果指標	施設整備不十分による事故件数	件	目標		0		0		0		0		0		施設整備不十分による事故は無かった。						
			実績		0		0		0												
			<指標の計算方法> 施設整備不十分による事故件数																		
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳																
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源						
					58,436		110				6,500				764		51,062				
事業の実績	① 保育職員研修・管理育成 録画配信にて1回実施				登録件数 167件(八王子、東貴志、西貴志、丸栖)																
	② 給食管理				⑨ 保育業務支援システム運用 利用者数 374件(こばと、なるき、中貴志)																
	③ 送迎バス運行 鞆淵地区送迎バス運行																				
	④ 災害共済加入 日本スポーツ振興センター負担金																				
	⑤ 県社会福祉協議会保育士会負担金																				
	⑥ 施設整備 修繕 69件、工事 1件																				
	⑦ 備品購入 39件																				
	⑧ L I N Eを活用した保護者向け情報配信																				
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がややある																	
		・各園の児童数や施設の特徴を踏まえ必要な改修を行い、児童が安心して保育生活を送れる環境を整える必要がある。 ・施設の老朽化や管理運営の効率化を考慮して、公立保育所の再編を進める必要がある。																			
	有効性	評価結果		改善の余地がない																	
		・児童福祉法により市町村は保育を必要とする児童を保育しなければならないとされており、職員配置や施設整備の実施により、安定した児童の受け入れが来ている。 ・保育業務支援システムの導入により、保護者の利便性が向上している。																			
	効率性	評価結果		改善の余地がややある																	
・保育業務支援システムの運用が円滑に進んでおり、業務が効率化されている。																					

事務事業の概要	事務事業名				公立保育所保育事業				担当課		保育課		事業区分		ソフト事業	
	新規・継続				継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		752			
	会計				一般会計				政策目標		2		子育て・教育			
	予算科目	款	3			民 生 費			施策目標		1		子育て環境・保育サービス			
		項	2			児童福祉費			基本施策		2		保育環境の充実			
		目	6			保育所費			取組方針		2		保育サービスの充実			
	事業概要				市民（児童・保護者）に適切な教育・保育を提供するために、各公立保育所が効率的な保育所運営を行う事業											
	事務事業を構成する細事業	① こばと保育所運営				⑤ 東貴志保育所運営				⑨						
		② なるき保育所運営				⑥ 西貴志保育所運営				⑩						
		③ 八王子保育所運営				⑦ 丸栖保育所運営				⑪						
④ 中貴志保育所運営				⑧				⑫								
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析						
	活動指標	公立保育所数	箇所	目標	7	7	7	7	7	施設数に増減はないが、貴志川地区の児童数は減少しているため、再編、統廃合を進める必要がある。						
				実績	7	7	7									
			<指標の計算方法>		対象施設数											
	活動指標	公立入所園児数	人	目標	788	788	788	788	788	少子化により年々減少傾向にある。						
				実績	570	564	541									
			<指標の計算方法>		対象園児数（各年3月1日現在）広域保育受託分含む											
				目標												
				実績												
			<指標の計算方法>													
			目標													
			実績													
		<指標の計算方法>														
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳											
	509,544				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源						
事業の実績	①こばと保育所運営 3月園児数 191名															
	②なるき保育所運営 3月園児数 115名															
	③八王子保育所運営 3月園児数 33名															
	④中貴志保育所運営 3月園児数 68名															
	⑤東貴志保育所運営 3月園児数 39名															
	⑥西貴志保育所運営 3月園児数 36名															
	⑦丸栖保育所運営 3月園児数 59名															
	各施設の運営 会計年度任用職員の任用、健康診断の実施、施設の維持管理、消耗品の購入等															
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある													
		・公立保育所として利用者のニーズは高く、今後も公立保育所の運営は必要と考える。														
	有効性	評価結果	改善の余地がない													
		・公立保育所の特徴を活かしながら多様な保育ニーズに対応し、民間保育施設と連携を図りながら積極的に運営を行うことは有効である。														
効率性	評価結果	改善の余地がややある														
	・施設の統廃合により運営や管理のコスト削減が見込まれるため、打田・貴志川地区においても今後、公立保育所の再編を進める必要がある。															

事務事業の概要	事務事業名		児童館管理運営事業				担当課		保育課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		47		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育						
	予算科目	款	3		民 生 費				施策目標		1		子育て環境・保育サービス						
		項	2		児童福祉費				基本施策		2		保育環境の充実						
目		7		児童館費		取組方針			9		その他								
事業概要		児童が児童館を安全で快適に利用できるように、児童館の維持管理を適切に行う事業																	
事務事業を構成する細事業	①		西井阪児童館施設管理				⑤						⑨						
	②		粉河児童館施設管理				⑥						⑩						
	③		竜門児童館施設管理				⑦						⑪						
	④		名手児童館施設管理				⑧						⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	開館日数	日	目標	600	600	300	0	0	竜門児童館の開館日数としては例年どおり開館できている。	
				実績	596	612	308				
				<指標の計算方法>							
	成果指標	年間利用者数	人	目標	1,000	1,000	500	0	0	粉河児童館が令和6年度から休館したこともあり、児童の利用人数が減少している。	
				実績	200	749	35				
				<指標の計算方法>							
				目標							
				実績							
				<指標の計算方法>							
			目標								
			実績								
			<指標の計算方法>								

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳						
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	4,691										4,691

事業の実績	①西井阪児童館施設管理 ・西井阪児童館 令和4年度から休館				
	②粉河児童館施設管理 ・粉河児童館 令和6年度から休館				
	③竜門児童館施設管理 ・竜門児童館 開館日数 308日 利用者（大人） 1,211人 利用者（小人） 35人				
	④名手児童館施設管理 ・名手児童館 開館日数 67日 利用者（大人） 693人 利用者（小人） 0人				
	利用実態に応じた施設の整理を進めた結果、児童館条例を廃止し、地元移管等への実施を行った。				

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地が大きい	
		・公民館的利用が多く、地元移管や公民館への移行が必要。 ・施設の老朽化も進行し、今後の在り方を決定する時期に来ている。		
	有効性	評価結果	改善の余地が大きい	
		・施設年間利用者が減少し、児童館としての役割を果たしていない。		
効率性	評価結果	改善の余地が大きい		
	・施設の老朽化が激しく、今後の在り方の決定が必要。			

事務事業の概要	事務事業名		低所得の子育て世帯生活支援特別給付金給付事業				担当課		こども課		事業区分		ソフト事業					
	会計		一般会計				新規・継続		継続		事業期間		期間限定複数年度（R 5 ～ R 6）		事業番号		1169	
	予算科目	款	3	民 生 費				長期総合計画体系	政策目標		2		子育て・教育					
		項	2	児童福祉費					施策目標		1		子育て環境・保育サービス					
		目	8	低所得の子育て世帯生活支援特別給付金給付					基本施策		1		子育て環境・体制の整備、支援					
	事業概要		物価高騰の影響を受けた子育て世帯を支援する取組の一つとして、低所得の子育て世帯及びひとり親世帯に一時金を支給する事業															
	事務事業を構成する細事業	①		低所得の子育て世帯生活支援特別給付金(ひとり親世帯分)				⑤						⑨				
		②		低所得の子育て世帯生活支援特別給付金(その他世帯分)				⑥						⑩				
		③						⑦						⑪				
		④						⑧						⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	給付金支給対象者		目標							令和5年度までの事業のため、対象者はいない。
				実績	865	976					
		<指標の計算方法>		支給実績報告の支給対象者数							
	成果指標	給付金支給対象児童者数		目標							
				実績	1, 437	1, 647					
		<指標の計算方法>		支給実績報告の対象児童数							
				目標							
				実績							
		<指標の計算方法>									
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	3, 866								3, 866

事業の実績	前年度精算による国庫返還金のみ					
	①低所得の子育て世帯生活支援特別給付金 （ひとり親世帯分） 令和5年度返還金（事業費分） 450, 000円 令和5年度返還金（事務費分） 3, 000円					
	②低所得の子育て世帯生活支援特別給付金 （その他世帯分） 令和5年度返還金（事業費分） 3, 400, 000円 令和5年度返還金（事務費分） 13, 000円					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない				
		・令和6年度は返還金のみで、事業実施がない。					
	有効性	評価結果	改善の余地がない				
		・令和6年度は返還金のみで、事業実施がない。					
	効率性	評価結果	改善の余地がない				
		・令和6年度は返還金のみで、事業実施がない。					

事務事業の概要	事務事業名			生活保護適正実施推進事業					担当課		社会福祉課		事業区分		ソフト事業							
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		758			
	会計			一般会計					長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心							
	予算科目			款項目			3				民生費		施策目標		3		福祉					
				1			生活保護費				基本施策		1		地域福祉の推進							
事業概要			市が生活保護制度の適正運用を図るために、調査や審査、システムの運営等を行う事業																			
事務事業を構成する細事業	①			生活保護適正実施推進					⑤							⑨						
	②								⑥							⑩						
	③								⑦							⑪						
	④								⑧							⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	生活保護受給者の就労支援件数	件	目標	60	60	60	60	60	生活保護新規決定や保護廃止による被保護者の支援変更により就労支援者数が減少したため、令和5年度よりも件数が減少した。	
			実績	73	75	54					
		<指標の計算方法> 担当職員による延べ件数									
	活動指標	レセプト点検	件	目標						生活保護受給者の医療扶助が増加しているため、レセプト点検件数も増加した。	
			実績	9,093	9,660	10,114					
		<指標の計算方法> 延べ点検件数									
活動指標	担当職員の研修会参加	回	目標	6	6	6	6	6	令和6年度は、6回研修会に参加を行った。		
		実績	3	3	6						
	<指標の計算方法> 職員の参加回数										
成果指標	就労支援により自立（保護を廃止）した世帯数	世帯	目標	5	5	5	5	5	社会の経済状態悪化が継続し、就職難状態のため、就労支援により自立に繋がったケースが3件となった。		
		実績	2	1	3						
	<指標の計算方法> 実世帯数										

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	20,652			4,330				5,187	11,135

事業の実績	①生活保護適正実施推進 生活保護の開始・廃止の状況 (統計基準日における件数の累計)			死亡 施設入所 他管内へ転出 手持金の増加 就労収入の取得・増 保護辞退 扶養義務履行 他法他施策 その他	24世帯 0世帯 19世帯 7世帯 6世帯 7世帯 0世帯 5世帯 4世帯	就労準備推進事業に係るセミナー
	保護開始 開始理由 世帯主・員の傷病 離婚・世帯分離 収入の減少 失業・倒産 仕送りの減少 手持金の減少 職務権限 施設入所等 他管内からの転入 葬祭扶助のみ その他	70世帯 93人 1世帯 1世帯 4世帯 4世帯 2世帯 44世帯 2世帯 3世帯 6世帯 0世帯 3世帯	54件 3世帯3人			
	保護廃止 廃止理由	72世帯 89人	生活保護関係職員新任者研修 社会福祉主事資格認定通信課程（スクーリング集団研修） 全国ケースワーカー研修会 都市福祉事務所長連絡協議会特別研修会 生活保護査察指導員会議			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・法定受託事務であるので、市が実施主体となる。法律に従い適性に業務を遂行出来ている。 ・本事業の意図は、適正な生活保護運営であり、その対象、手段、意図ともに妥当である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・就労支援員の配置により、保護受給者等に対する自立・就労支援が総合的に実施出来ている。		
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・法に基づく適正な実施により、受益者負担は生じないため、生活保護者に不利益が生じないよう引続き事務の適正に努める。 ・開催された研修会（オンライン含む）には積極的に参加により学習し、業務を効率よく遂行することに努めた。			

事務事業の概要	事務事業名		生活保護扶助事業				担当課		社会福祉課		事業区分		ソフト事業			
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	49	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心					
	予算科目	款	3	民 生 費					施策目標	3	福祉					
		項	3	生活保護費					基本施策	1	地域福祉の推進					
		目	2	扶 助 費			取組方針	4	さまざまな問題を抱える世帯に対する自立支援と生活保護							
事業概要		市民（生活困窮者）の自立を支援するために、生活保護法に基づく扶助費の支給を行う事業														
事務事業を構成する細事業		①	生活保護扶助				⑤				⑨					
		②					⑥				⑩					
		③					⑦				⑪					
		④					⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析						
	活動指標	人口1千人あたりの生活保護受給者数	人	目標						令和5年度までは、微増であったが、令和6年度は0.01%の減少となった。						
				実績	7.05	7.54	7.53									
		<指標の計算方法>		年度末における人口1千人あたりの生活保護受給者数												
	活動指標	生活保護受給世帯数	世帯	目標						令和5年度と同世帯数となった。						
				実績	336	351	351									
		<指標の計算方法>		年度末生活保護受給世帯数												
	活動指標	生活保護受給人員	人	目標						令和5年度までは、微増であったが、令和6年度は4人の減少となった。						
実績				411	435	431										
<指標の計算方法>		年度末生活保護受給人員														
			目標													
			実績													
<指標の計算方法>																
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	759,881				524,107		647								235,127	
事業の実績	①生活保護扶助 ・生活保護受給状況（令和7年3月31日） 351世帯 431人															
	人口1千人あたりの生活保護受給者数 7.53人															
	・各扶助実施状況 （令和7年3月現在） 生活扶助 287世帯 357人 住宅扶助 231世帯 292人 教育扶助 11世帯 19人 介護扶助 103世帯 106人 医療扶助 320世帯 380人 生業扶助 7世帯 8人 施設事務費 16世帯 16人 （令和6年度分） 出産扶助 0世帯 0人 葬祭扶助 7世帯 7人															
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・生活保護に関する業務は、法定受託業務である。また、経済の状況や雇用の情勢など地域の状況について、身近な立場から実態を把握し、客観的な対応が出来るため妥当である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がない													
		・法令に基づき運用を実施し、ケースワーカーや就労支援員など専門性を持った人材を活用し、生活保護受給者に対する生活の向上や自立に向け支援を行っている。														
効率性	評価結果	改善の余地がない														
	・生活保護業務に関わるケースワーカーは、社会福祉法により、被保護世帯80世帯に所員の定数を1名とし配置している。 ・被保護者の増加が予想されるため、相談・調査・訪問等を効率よく進めている。															

事務事業の概要	事務事業名		生活困窮者自立支援事業				担当課		社会福祉課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		944	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心					
	予算科目	款	3		民 生 費				施策目標		3		福祉					
		項目	3		生活保護費				基本施策		1		地域福祉の推進					
		目		3		援 助 費		取組方針		4		さまざまな問題を抱える世帯に対する自立支援と生活保護						
事業概要			市民（生活困窮者）の自立を包括的に支援するとともに、給付金の支給を行う事業															
事務事業を構成する細事業			① 生活困窮者支援				⑤								⑨			
			② 住居確保給付金の支給				⑥								⑩			
			③				⑦								⑪			
			④				⑧								⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	生活困窮者相談	件	目標	20	20	20	200	200	令和6年度はアウトリーチを積極的に進めた結果、生活困窮者の相談件数は増加した。	
				実績	120	107	312				
				<指標の計算方法>		相談受付数					
	活動指標	支援プラン作成数	人	目標	5	5	5	5	5	令和6年度のアウトリーチにより相談件数は増加したが、支援プランの作成までには至らなかった。	
				実績	0	0	0				
				<指標の計算方法>		支援プラン作成数					
活動指標	住居確保給付金支給件数	件	目標	3	3	3	3	3	支給件数は、0件であった。		
			実績	4	0	0					
			<指標の計算方法>		住居確保給付金支給件数						
活動指標	生活困窮者・被保護者就労準備支援件数	人	目標	1	1	1	1	1	支給件数は、0件であった。		
			実績	0	0	0					
			<指標の計算方法>		生活困窮者・被保護者就労準備支援件数						

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳						
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	20, 018				9, 375					10, 643	

事業の実績	①生活困窮者支援 ・相談支援件数 312件		するもの。			
	【生活】 生活福祉資金貸付に関すること 14件 家計相談に関すること 4件 生活保護制度に関すること 3件 その他（住居確保給付金・生活困窮者自立支援金等）に関すること 287件		②住居確保給付金の支給 0件		65歳未満の離職後2年以内の者であって就労意欲のある者のうち、住宅を喪失または喪失するおそれのある者に対して住居確保給付金を支給するとともに、就労支援を実施することにより、住宅及び就労機会の確保に向けて支援を行う事業。	
	【就労他】 介護 1件 教育 1件 その他 2件					
・支援プラン作成に至った件数 0件						
支援プラン 生活困窮者からの相談を受け、抱えている課題を評価・分析し、そのニーズを把握するとともに、ニーズに応じた支援が、計画的かつ継続的に行われるよう作成						

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・生活困窮者自立支援法に基づき実施すべき事業である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・法に定めた事業に取り組むことで支援の幅が広がり、委託先である社会福祉協議会の専門的な知識を持った支援員により自立に向けた支援プランの実効性が高まっている。		
	効率性	評価結果	改善の余地がない	
・生活困窮者自立支援事業を社会福祉協議会に委託することで、専門的な知識を持った支援員により、自立に向けた支援プランを立て関係機関と連携をとることにより、効率よく幅広い事業の展開が出来ている。				

事務事業の概要	事務事業名		行旅人援護事業		担当課		社会福祉課		事業区分		ソフト事業		
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		768		
	会計		一般会計		政策目標		1		安全・安心				
	予算科目	款	3 民 生 費		長期総合計画体系	施策目標		3		福祉			
		項目	3 生活保護費			基本施策		1		地域福祉の推進			
			3 援 助 費			取組方針		4		さまざまな問題を抱える世帯に対する自立支援と生活保護			
事業概要		行旅人・行旅病人・行旅死亡人へ最低限の援護を行うために、旅費の支給、医療費の支給、葬祭の執行等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 法定外援助				⑤				⑨				
	② 行旅死亡人対応				⑥				⑩				
	③ 墓地、埋葬等に関する法律による死亡人対応				⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	行旅人旅費支給件数	件	目標						行旅人旅費支給件数は1件であった。	
			実績				1				
		<指標の計算方法>		行旅人旅費支給件数							
	活動指標	行旅死亡人等取扱件数	件	目標						行旅死亡人取扱件数はなかった。	
			実績		1						
		<指標の計算方法>		行旅病人・行旅死亡人取扱件数							
	活動指標	墓地、埋葬等に関する法律による死亡人取扱件数	件	目標						墓地、埋葬等に関する法律による死亡人取扱件数は4件であった。	
			実績		7	1	4				
		<指標の計算方法>		墓地、埋葬等に関する法律による死亡人取扱件数							
			目標								
		実績									
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	466							466

事業の実績	①法定外援助 ・行旅人に対して、最低限の旅費を支払う。 旅費支給件数 1件							
	②行旅死亡人対応 ・行旅中、住所不明者が病気で倒れ、又は死亡した時は、救護、葬祭を行う。 行旅病人取扱件数 0件 行旅死亡人葬祭件数 0件							
	③墓地、埋葬等に関する法律による死亡人対応 ・取扱件数 4件							

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・行旅途中において所持金の消費又は紛失などにより救護を求めた者（行旅困窮者）については、法外援護金（行旅人旅費）取扱要綱、市内で行旅中に病気で歩行できなくなり、治療を受けられない者（行旅病人）、身元不明のまま発見された者（行旅死亡人）については、行旅病人及び行旅死亡人取扱法に基づく事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・行旅人、行旅病人、行旅死亡人の対応の必要がある場合は、人道的見地から対象者の福祉を優先的に考え、救護及び火葬を効果的にを行っている。											
	効率性	評価結果	改善の余地がない										
・当該事業は、いつ発生するか予測のつかないものであるため、案件が発生した時に担当者が効果的に事業を進めており、コスト面では、行旅死亡人に遺留品があれば、法に基づいた取扱いにより費用に充当することになっている。													

事務事業の概要	事務事業名		災害被害者援護事業				担当課		社会福祉課		事業区分		ソフト事業			
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	52	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心					
	予算科目	款	3		民 生 費				施策目標	3	福祉					
		項目	4		災害救助費				基本施策	1	地域福祉の推進					
		目	1		災害救助費			取組方針	1	多様なニーズに対応できる支援体制の構築						
事業概要		市民（災害被害者）の経済的負担を軽減するために、災害見舞金の支給を行う事業														
事務事業を構成する細事業	①		災害見舞金支給				⑤		住家被害認定士の派遣			⑨				
	②		災害救助法事務				⑥					⑩				
	③		義援金				⑦					⑪				
	④		住家被害認定士研修				⑧					⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
	活動指標	災害見舞金取扱件数	件	目標											令和6年度は、火災による災害見舞金の支給対象世帯のみである。	
		実績		3		123		5								
		<指標の計算方法>年間取扱件数														
	活動指標	災害見舞金支給率	%	目標											火災による災害見舞金の対象世帯に100%支給できている。	
		実績		100		100		100								
		<指標の計算方法>支給件数／対象件数														
	活動指標	義援金箱設置場所数	箇所	目標											市役所本庁（1箇所）、各支所（4箇所）出張所（1箇所）に義援金箱を設置し受付を行っている。	
		実績		6		6		6								
		<指標の計算方法>義援金箱設置場所数														
成果指標	住家被害認定士研修参加者数	人	目標											令和5年度の大雨を教訓とし、全庁職員に受講者を募ることで、新たに住家被害認定士を24名養成することができた。		
	実績		6		3		31									
	<指標の計算方法>住家被害認定士研修参加者数															
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	1, 136														1, 136	
事業の実績	①災害見舞金支給 ・火災5件 （全焼4件、部分焼1件） ②災害救助法事務 災害に対して国に応急的に必要な救助を行ってもらうために、被害状況を把握し、県に適用申請を行う。 ・実績なし ③義援金 ・前年度から継続受付、送金 ウクライナ人道危機に対する義援金 令和6年能登半島地震災害義援金 ・令和6年度から新規受付、送金 2024年台湾東部沖地震義援金（6/30終了） 令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金 ④住家被害認定士研修 ・和歌山県住家被害認定士養成研修26名（内24名新規） ・和歌山県住家被害認定マネジメント研修3名				・関西広域連合家屋被害認定業務研修プログラム2名 ⑤住家被害認定士の派遣 ・能登半島地震における被災市町へ派遣職員延べ4名											
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない												
		・災害見舞金の支給は、条例により対象世帯に迅速に支給する必要があるため、関係機関と連携をとり実施している。 ・災害救助法適用時に係る事務事業は、法律により実施主体が市であるため、改善の余地がない。 ・義援金に係る事務事業は、被災地において必要な支援のため行われるものであり、改善の余地がない。 ・住家被害認定士の養成は、頻発する自然災害に備えるため必須であり、研修の機会を設け、多くの職員が受講している。														
	有効性	評価結果		改善の余地がややある												
		・災害見舞金の支給は、条例により支給基準が明確にされており、成果が目的ではない。 ・住家被害認定は、内閣府から示された運用基準に基づいて実施している。 ・研修等へ継続的に参加し、知識向上に努めることで、実際に災害が発生した際の認定業務実施に対し、より有効性を高めることができる。														
効率性	評価結果		改善の余地がややある													
	・県や関西広域連合主催の住家被害認定業務研修に参加し、住家被害認定士のスキルアップや新たな人材育成を図ることで、災害時の調査においてより効率性を高めることができる。															

事務事業の概要	事務事業名				医療体制整備構築事業				担当課		健康推進課		事業区分		ソフト事業											
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		776							
	会計				一般会計								政策目標		1		安全・安心									
	予算科目				款				項				目				1		保健衛生費		施策目標		2		健康・医療	
								長期総合計画体系						基本施策		2		地域医療体制・医療保険制度の充実								
														取組方針		1		地域医療体制の充実								
事業概要				市民が安心して医療を受けられるように、医療機関、関係機関と医療体制の整備、構築などを行う事業																						
事務事業を構成する細事業				① 災害時医療支援				⑤ 那賀歯科医師会負担金				⑨ 妊婦通院支援給付金の支給														
				② 献血				⑥ 小児救急医療支援事業負担金				⑩ 熱中症対策														
				③ 県救急医療情報システム負担金				⑦ 骨髄等移植ドナー登録の関係活動				⑪														
				④ 那賀救急医療対策協議会負担金				⑧ 産婦人科医院の誘致				⑫														
指標の実績	成果指標		指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析									
			年間献血受付者数		人		目標		2,500		2,500		2,500		2,500		2,500		広報紙やメール配信サービス等で周知・啓発を行うことで、受付者数は増加している。							
			実績		1,940		2,155		2,217																	
	<指標の計算方法>		年間の献血の受付者数																							
	活動指標		年間献血箇所数		箇所		目標		60		60		60		60		60		献血箇所も徐々に増加している。献血に協力いただける企業や回数を維持することが必要である。							
			実績		47		49		53																	
	<指標の計算方法>		年間の献血実施箇所数																							
	成果指標		妊婦通院支援給付金助成率		%		目標				100		100		100		100		対象者全員に制度の案内を行った。申請が遅れている方に対しては、速やかに申請してもらえよう勧奨を行っている。							
			実績						99.3		99															
	<指標の計算方法>		助成率の計算方法：申請者数/母子健康手帳交付者および転入者のうち妊産婦健康診査受診票交付者																							
活動指標		献血併行型ドナー登録会開催回数		回		目標		10		10		10		10		10		登録会説明員である岩出保健所との調整が円滑に行えており、開催回数が増加している。								
		実績		1		5		12																		
		<指標の計算方法>		献血併行型ドナー登録会の開催回数																						
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)						財源内訳																			
							国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源									
	13,368																13,368									
事業の実績	①災害時医療支援 ・医療救護所用医薬品期限切れ対応 ・那賀地域災害医療対応訓練への参加						公立那賀病院の休日などの小児二次救急にかかる小児科医師の人件費の負担金						広報「紀の川」への掲載（5・10月号）													
	②献血 採血者合計人数 1,961人 200cc 94人、400cc 1,867人 不採血者人数 256人						⑦骨髄等移植ドナー登録の関係活動 ・骨髄等移植ドナー助成 助成人数：0人 ・献血併行型ドナー登録会 実施回数：12回 登録者数：56人 実施場所：10カ所 (紀の川市役所南別館、MEGA ドン・キョーテ紀の川店、近畿大学生物理工学部、ハバジツ日本株式会社和歌山工場、ナカザワ建販株式会社和歌山支店、和歌山県立高等看護学院、JA紀の里打田支所、公立那賀病院、デュプロ精工株式会社、貴志川リハビリテーション病院) ・骨髄等移植ドナー登録の広報活動 事業周知チラシを献血併行型ドナー登録会での説明時に配布						⑧産婦人科医院の誘致 産科医療施設の整備のため、開設に要する費用を一部助成する制度を、令和5年度より実施 助成件数：0件													
	③県救急医療情報システム負担金 救急医療体制を情報面から支援するための救急医療情報システム運営負担金												⑨妊婦通院支援給付金の支給 市内に分娩可能な医療機関がないため、市外で妊婦健診を受診する際の交通費助成として、令和5年度より実施 助成人数：312人(内令和5年度対象者2件) 対象者数：315人(内令和5年度対象者2件)													
	④那賀救急医療対策協議会負担金 紀の川市、岩出市における救急体制の整備及び円滑な運営を目的とした会の運営負担金												⑩熱中症対策 ・防災行政無線による熱中症予防の啓発 7月～9月の週2回正午頃に放送 ・クーリングシェルターの指定 市関係施設22カ所													
	⑤那賀歯科医師会負担金 休日の歯科救急診療に係る人件費の負担金																									
	⑥小児救急医療支援事業負担金																									
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																						
		・広域的な地域医療体制の充実及び救急医療体制の構築を図ることで、市民が安心して暮らせるように努める必要がある。 ・献血事業は、血液センターが事業者であり、市は場所の確保、広報活動、粗品の提供等が主な業務である。生命と直結する血液を集める業務は救急医療体制のひとつであり、公的にも取り組む必要がある。 ・骨髄等移植ドナー助成は、ドナーの負担を軽減し移植に用いる骨髄等の適切な提供を推進するため妥当である。 ・産婦人科医院誘致開業支援補助金制度について、市内に分娩可能な医療機関がない状況を踏まえ、開設に係る費用の一部助成を行うことは妥当である。 ・妊婦通院支援給付金制度について、市外での妊婦健診受診の際の交通費助成として、市が妊婦の経済的負担の軽減に努めることは必要である。																								
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																						
		・新型コロナウイルス感染症の影響で献血協力がなかった事業所も、実施を再開するところが増えており、コロナ禍前の献血箇所数に戻りつつある。今後も献血人数の維持・増加に努める。 ・新規採用職員研修時に岩出保健所職員による献血に係る研修を実施し、献血者数の割合が比較的に少ない若年層の献血への意識を高めることができた。 ・献血併行型ドナー登録会について、岩出保健所との調整により開催回数を増やすことが出来たが、登録者が急激に増えることはないため、継続して開催することが重要である。 ・市内に分娩可能な医療機関がない状態が続いており、市民が安心して産み育てる環境づくりのため、効果的な取組について検討が必要である。																								
効率性	評価結果		改善の余地がややある																							
	・広報やホームページ、LINE、メール配信を通じて市民へ献血の必要性を啓発し、今後も継続的に献血者数を維持・確保する必要がある。 ・今後もドナーの経済的負担を軽減し、またドナー登録者を増加させることで、移植に用いる骨髄等の適切な提供を推進していく必要があり、血液センターや岩出保健所と連携し、継続的に実施する必要がある。 ・妊婦通院支援給付金の申請については、母子健康手帳交付時または転入者への妊産婦健康診査受診票交付時に受け付けることで、できる限り漏れなく申請を促すことができている。 ・産婦人科医院誘致開業支援補助金制度について、近隣の産科医の助産状況や妊婦の通院状況をより詳しく把握し、制度の見直しを検討する必要がある。																									

事務事業の概要	事務事業名		いのち支える自殺対策推進事業				担当課		健康推進課		事業区分		ソフト事業				
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1128		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心						
	予算科目	款	4		衛 生 費				施策目標	2	健康・医療						
		項	1		保健衛生費				基本施策	1	健康づくりと疾病予防						
		目	1		保健衛生総務費		取組方針	3	自殺対策の推進								
事業概要		誰も自殺に追い込まれることのない社会を実現するため、自殺の予防、自死遺族等の支援を行う事業															
事務事業を構成する細事業	①		地域におけるネットワークの強化				⑤					⑨					
	②		人材の養成及び確保				⑥					⑩					
	③		啓発及び教育の充実				⑦					⑪					
	④		相談体制の充実				⑧					⑫					
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
		自殺死亡率（人口10万人あたり）		10万対	目標	16.5		16.5		16.5		13.4		13.4			
					実績	21.5		20		16.8							
		<指標の計算方法>		厚生労働省の地域における自殺の基礎資料による数値(暦年)													
	活動指標	ゲートキーパー養成講座受講者数		人	目標	50		50		50		50		50		令和6年度は、天候悪化により日程変更となり、参加者が減少した。現在の講座受講者の累計は114人であり、第1期いのち支える自殺対策計画の目標値である令和6年度末250人を達成出来なかった。	
		実績	28		64		22										
		<指標の計算方法>		職員・民生児童委員・社会福祉協議会職員等の研修参加者数													
	活動指標	紀の川市いのち支える自殺対策担当委員会会議開催回数		回	目標	1		1		1		1		1		令和6年度は、10月3日に庁内担当委員を対象に庁内連携ツールである「つなぐシート」活用のための勉強会を1回開催した。	
		実績					1										
		<指標の計算方法>		年間開催回数													
活動指標	いのち支える自殺対策協議会開催回数		回	目標	1		1		2		1		1		令和6年度は、第2期紀の川市いのち支える自殺対策計画策定年度のため、1期計画の見直しと2期計画策定のため、計画通り2回開催した。		
	実績	1		1		2											
	<指標の計算方法>		いのち支える自殺対策協議会開催回数														
コストの実績	R 6年度決算額（単位：千円）					財源内訳											
						国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	5,837							3,012								2,825	
事業の実績	①地域におけるネットワークの強化 ・いのち支える自殺対策協議会2回、本部会2回開催した。 ・第2期紀の川市いのち支える自殺対策計画策定（令和7年3月）																
	②人材の養成及び確保 ・人権委員会議員を対象にNP0心のSOSサポートネット副理事長を講師に招き、ゲートキーパー養成講座を1回実施した。 ・市役所内の自殺対策担当委員に対し、研修会を1回開催した。（47名中37名が参加） ・健康推進課担当職員が、メンタルヘルス研修会へ参加した。（県主催研修会2回、外部研修会1回） ③啓発及び教育の充実 ・9月の自殺予防週間には、相談支援先を広報紀の川9月号とホームページに掲載し、メール配信をした。																
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がややある													
		・個人情報保護法の関係で、市民ニーズの把握や迅速な対応に困難な状況もある。市民の潜在的なニーズを把握し対応する為には、自殺が個人の問題ではなく社会の問題であると市民、関係機関と共有する必要がある。そのためには、啓発、人材育成、連携会議等を通じて、より一層の関係機関との連携による体制づくりが必要である。															
	有効性	評価結果		改善の余地がややある													
		・毎年、自殺死亡率には増減がある。市民のニーズを把握し、そのニーズに答えるためには、施策の検討や情報共有等を全庁体制で取り組む必要がある。 ・市民対象のゲートキーパー養成講座を開催し、市民の自殺対策への意識向上を図っていく必要がある。															
効率性	評価結果		改善の余地がややある														
	・和歌山県自殺対策強化補助金を活用し計画を進めている。人材育成事業や啓発物品、相談体制など現状の実施方法が最適かは社会背景含め常に検討の必要がある。また、SNSでの個別相談や消防・警察・医療機関との連携などは、国や県が広域的に実施する方が、効果的と考える。																

事務事業の概要	事務事業名		公立那賀病院経営事務組合事業				担当課		健康推進課		事業区分		一部事務組合		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1073
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心				
	予算科目	款	4		衛 生 費				施策目標	2	健康・医療				
		項	1		保健衛生費				基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実				
		目	1		保健衛生総務費				取組方針	1	地域医療体制の充実				
事業概要		市民が安心して医療を受けられるように、公立那賀病院の運営に参画する事業													
事務事業を構成する細事業	①		公立那賀病院経営事務組合負担金				⑤					⑨			
	②		病院運営の審査事務				⑥					⑩			
	③		一部事務組合定例会（議会）				⑦					⑪			
	④						⑧					⑫			

指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
		入院患者数(全体)		人	目標	95,000	95,000	95,000	95,000	95,000	新型コロナウイルス感染症の収束により、徐々に増加傾向にあったが、医師の働き方改革や、看護師の離職により、入院受入数のキャパシティーが減少している。	
					実績	76,787	77,896	75,131				
	<指標の計算方法>		公立那賀病院へ入院された市民(紀の川市・岩出市、管外)の年間患者数(延)									
	成果指標	外来患者数(全体)		人	目標	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	令和5年4月より循環器内科、令和5年10月より耳鼻咽喉科の外来において、非常勤医師のみとなり、診察日が減少したこと、全国的にも新型コロナウイルス感染症で減少した患者が戻ってきていないため、減少傾向にある。	
					実績	108,525	106,623	103,768				
		<指標の計算方法>		公立那賀病院へ外来通院された市民(紀の川市・岩出市、管外)の年間患者数(延)								
	成果指標	入院患者数(紀の川市)		人	目標	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	医師の働き方改革や看護師の離職により、入院受入数のキャパシティーが減り、入院の受入数は減少しているが、近場の紀の川市民については、利便性もあり、入院者数は微増となった。	
					実績	37,280	37,316	37,940				
		<指標の計算方法>		公立那賀病院へ入院された紀の川市民の年間患者数(延)								
成果指標	外来患者数(紀の川市)		人	目標	66,000	66,000	66,000	66,000	66,000	令和5年4月より循環器内科、令和5年10月より耳鼻咽喉科の外来において、非常勤医師のみとなり、診察日が減少したこと、全国的にも新型コロナウイルス感染症で減少した患者が戻ってきていないため、減少傾向にある。		
				実績	57,119	55,841	53,748					
	<指標の計算方法>		公立那賀病院へ外来通院された紀の川市民の年間患者数(延)									

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	596,701									596,701

事業の実績	①公立那賀病院経営事務組合負担金 紀の川市と岩出市の負担割合等を精査し支出した。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	

事務事業の概要	事務事業名		那賀休日急患診療所経営事務組合事業				担当課		健康推進課		事業区分		一部事務組合					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1074	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心					
	予算科目	款	4 衛 生 費						施策目標		2		健康・医療					
		項	1 保健衛生費						基本施策		2		地域医療体制・医療保険制度の充実					
		目	1 保健衛生総務費						取組方針		2		救急医療体制の充実					
事業概要			市民が安心して医療を受けられるように、休日急患診療所の運営に参画する事業															
事務事業を構成する細事業	①		那賀休日急患診療所経営事務組合負担金				⑤						⑨					
	②		一部事務組合定例会（議会）運営				⑥						⑩					
	③		那賀休日急患診療所経営事務の審査				⑦						⑪					
	④		那賀医師会との連絡調整				⑧						⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	診療所利用者数(紀の川市民・岩出市民・その他)	人	目標	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	2, 000	年末年始において、インフルエンザの流行が拡大し、検査のため利用者数が増えた。	
			実績	1, 859	2, 277	2, 371					
		< 指標の計算方法 >		休日、祝祭日及び季節性インフルエンザ流行期の土曜日を追加した夜間に一次救急として利用される市民(紀の川市・岩出市)の診療所年間利用者数							
	成果指標	診療所利用者数(紀の川市民)	人	目標	1, 200	1, 200	1, 200	1, 200	1, 200	年末年始において、インフルエンザの流行が拡大し、検査のため利用者数が増えた。	
			実績	1, 007	1, 170	1, 226					
		< 指標の計算方法 >		休日、祝祭日及び季節性インフルエンザ流行期の土曜日を追加した夜間に一次救急として利用される紀の川市民の診療所年間利用者数							
	活動指標	診療所開設の広報掲載回数	回	目標	12	12	12	12	12	診療所の診療時間及び電話番号を市広報紙に掲載して案内できている。	
			実績	12	12	12					
		< 指標の計算方法 >		診療所開院期間及び時間の案内を紀の川広報等を利用した啓発回数							
活動指標	夜間診療の開設日数	日	目標	40	40	40	40	40	委託先的那賀医師会の判断により、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ流行期の対応として、令和6年12月21日から令和7年2月24日までの土日祝日と年末年始の期間、夜間診療を実施した。		
		実績	26	26	28						
	< 指標の計算方法 >		季節性インフルエンザ等流行期の土曜日・日曜日・祝祭日（年末年始含む）の夜間診療開設日数								

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	18, 065								18, 065

事業の実績	①那賀休日急患診療所経営事務組合負担金 ・那賀休日急患診療所経営事務組合の運営に対し負担金を支出した。 紀の川市負担率 53. 30%		
	②一部事務組合定例会（議会）運営 ・8月、3月の議会に事務局長として出席。		
	③那賀休日急患診療所経営事務の審査 ・那賀休日急患診療所経営事務組合事務局として、診療所運営に係る予算及び決算を精査し、両市財政部局の予算ヒアリングにおいて説明を行った。		
	④那賀医師会との連絡調整 ・休日急患診療所の運営に関して、那賀医師会長と連絡を密にし、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ流行期に看護師等を増員し対応した。		

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・那賀休日急患診療所は、休日の一次救急において大きな役割を担っており、市民が安心して生活する上で必要不可欠なサービスである。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
・公立那賀病院の二次救急の負担軽減につながっている。				
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・那賀休日急患診療所経営事務組合負担金については、両市（紀の川市・岩出市）で取り決めた「規約」に基づいて負担し、運営の補助を行っている。			

事務事業の概要	事務事業名			那賀広域事務組合事業				担当課		健康推進課		事業区分		一部事務組合								
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1075				
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心								
	予算科目			款		4				衛生費		施策目標		2		健康・医療						
				項		1				保健衛生費		基本施策		2		地域医療体制・医療保険制度の充実						
			目		1		保健衛生総務費		取組方針		2		救急医療体制の充実									
事業概要			市民が安心して医療を受けられるように、那賀広域事務組合の運営に参画する事業																			
事務事業を構成する細事業			① 那賀広域事務組合負担金				⑤								⑨							
			② 病院群輪番制運営の審査事務				⑥								⑩							
			③ 一部事務組合定例会（議会）				⑦								⑪							
			④				⑧								⑫							

指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
		病院群輪番制病院利用者数(全体)		人	目標	1, 100		1, 100		1, 100		1, 100		1, 100			
					実績	861		890		861							
		<指標の計算方法>		病院群輪番制病院の年間利用者数(紀の川市・岩出市・他地区)													
	成果指標	病院群輪番制病院利用者数(紀の川市)		人	目標	500		500		500		500		500		新型コロナウイルス感染症の収束により、検査目的の利用者数が減少した。	
					実績	433		425		375							
		<指標の計算方法>		病院群輪番制病院の年間利用者数(紀の川市)													
	活動指標	病院群輪番制病院数		医院	目標	6		6		6		6		6		公立那賀病院を含む那賀地域（紀の川市・岩出市）の6病院輪番制で二次救急に対応している。	
					実績	6		6		6							
		<指標の計算方法>		病院群輪番制病院の数													
				目標													
				実績													
	<指標の計算方法>																

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																		
	4, 898				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源								
																				4, 898			

事業の実績	①那賀広域事務組合負担金 ・病院群輪番制による休日及び祝祭日の二次救急医療提供のため、負担金の支出を実施した。 紀の川市負担率 56.77%															
	②病院群輪番制運営の審査事務 ・病院群輪番制参加医療機関 6ヶ所 (1) 公立那賀病院 (2) 医療法人 殿田会 殿田胃腸肛門病院 (3) 医療法人 富田会 富田病院 (4) 医療法人 共栄会 名手病院 (5) 社会医療法人 三車会 貴志川リハビリテーション病院 (6) 医療法人 稲穂会 稲穂会病院 ③一部事務組合定例会（議会） 8月、3月定例会（議会）開催															

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・病院群輪番制是那賀保健医療圏域における休日の二次救急医療確保に必要不可欠であり、市費による負担（負担金）は妥当である。																
	有効性	評価結果	改善の余地がない															
		・休日における診療体制の確保は必要不可欠であり、有効性が高い。																
効率性	評価結果	改善の余地がない																
	・病院群輪番制は、那賀保健医療圏域における休日の二次救急医療確保に必要不可欠であり、現状の体制を維持する必要がある。																	

事務事業の概要	事務事業名			母子健康管理事業				担当課		こども課		事業区分		ソフト事業									
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		781					
	会計			一般会計						政策目標		2		子育て・教育									
	予算科目	款	4	衛 生 費						施策目標		1		子育て環境・保育サービス									
		項	1	保健衛生費						基本施策		1		子育て環境・体制の整備、支援									
		目	2	母子保健費						取組方針		1		安心して子供を産み育てることができる支援の充実									
	事業概要			妊産婦、乳幼児の健康管理を支援するために、乳幼児健診や妊産婦健康診査等を行う事業																			
	事務事業を構成する細事業			① 妊産婦健診等助成				⑤								⑨							
				② 乳幼児健診・訪問指導				⑥								⑩							
				③ 母子健康手帳交付				⑦								⑪							
④ 妊娠判定助成事業				⑧								⑫											
指標の実績	指標名			単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析					
	活動指標	乳幼児健診受診率			%	目標		98		99		99		99		99		受診者に対して、別日でも乳幼児健診を受診できるように、丁寧な個別対応を行うことで、受診率は目標に近い高い水準を維持している。					
		実績		98.5		98.2		98															
	<指標の計算方法>			乳幼児健診受診者／乳幼児健診対象者																			
	成果指標	乳幼児健診において子育てに支援を要する子ども家庭の件数			件	目標		310		310		310		310		310		全体のこどもの数が減っている中で、子育て支援を要する家庭の件数は横ばいとなっている。					
		実績		278		217		217															
	<指標の計算方法>			すこやか親子アンケートに基づく子育てに支援を要する子ども家庭の件数																			
						目標																	
	実績																						
	<指標の計算方法>																						
					目標																		
実績																							
<指標の計算方法>																							
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳																			
	46,058			国庫支出金		1,630		県支出金		382		地方債				繰入金		その他		一般財源		44,046	
事業の実績	①妊産婦健診等助成 ・妊婦健診 受診件数 5,843件 受診実人数 424人 ・妊婦歯科健診 受診件数 128件 ・産婦健診 受診件数 356件 受診実人数 252人 ②乳幼児健診・訪問指導 ・乳幼児健診 対象者数 1,260人 受診者数 1,235人 受診率 98.0% ・訪問指導 妊産婦 325件 (延件数) 新生児 36件 乳児 299件 幼児 57件																						
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																			
		・自治体関与が求められる法定対象の事業で妥当性がある。 ・法定以外の市独自の対象者についても社会環境の変化に対応しており、実施可能であるのは市のみである。																					
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																			
		・乳幼児健診受診率は高水準を推移しており、母子の健康状態の把握や疾病の早期発見・治療につなげるための必要な手段である。 ・一方で妊娠期からの伴走型支援がうたわれており、保健師等の知識や技術の向上を図ると共に、専門職の人材確保が必要である。 ・国においては5歳児健診の実施が推奨されており、現在の乳幼児健診の実施方法と共に今後検討が必要である。																					
効率性	評価結果		改善の余地がややある																				
	・乳幼児健診の実施体制や実施内容を検討し、効率性を高めていく必要がある。																						

事務事業の概要	事務事業名		母子保健医療給付事業				担当課		こども課		事業区分		ソフト事業									
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		857					
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育									
	予算科目	款	4		衛 生 費				施策目標		1		子育て環境・保育サービス									
		項目	1		保健衛生費				基本施策		1		子育て環境・体制の整備、支援									
		目	2		母子保健費		取組方針		1		安心して子供を産み育てることができる支援の充実											
事業概要			未熟児、疾病のある子どもが安心して医療を受けられるように、医療費、日常生活用具の給付を行う事業																			
事務事業を構成する細事業			① 未熟児養育医療給付				⑤								⑨							
			② 小児慢性特定疾病児童日常生活用具給付				⑥								⑩							
			③				⑦								⑪							
			④				⑧								⑫							
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析					
	活動指標	未熟児養育医療給付件数	件	目標		25		25		25		25		25		未熟児養育医療での治療が必要な新生児等が対象となるため、給付件数のみでの指標となり、実績値にばらつきがある。						
				実績		15		22		31												
	<指標の計算方法>		未熟児養育医療給付件数																			
	成果指標	小児慢性特定疾病児童日常生活用具給付件数	件	目標		2		1		1		1		1		小児慢性特定疾病医療受給者が日常生活において生活用具の給付が必要な場合のみ給付を行うため、給付件数が極めて少なく、年度によって実績値にばらつきがある。						
				実績		2		0		1												
	<指標の計算方法>		小児慢性特定疾病児童日常生活用具助成件数																			
					目標																	
					実績																	
	<指標の計算方法>																					
				目標																		
				実績																		
<指標の計算方法>																						
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																	
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源							
	3,757				741		440						697		1,879							
事業の実績	①未熟児養育医療給付 給付実人員 12人 医療給付件数 31件																					
	②小児慢性特定疾病児童日常生活用具給付 給付実人員 1人																					
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																		
		・国及び県制度に基づく事業である。																				
	有効性	評価結果		改善の余地がない																		
		・公費負担医療の制度である。																				
	効率性	評価結果		改善の余地がない																		
		・公費負担医療の制度であり、事業内容の改善余地はなく、事務手順についても件数も少ないため、改善は困難である。																				

事務事業の概要	事務事業名		母子健全育成事業				担当課		こども課		事業区分		ソフト事業											
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		782							
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育											
	予算科目	款	4		衛 生 費				施策目標		1		子育て環境・保育サービス											
		項	1		保健衛生費				基本施策		1		子育て環境・体制の整備、支援											
目		2		母子保健費		取組方針			1		安心して子供を産み育てることができる支援の充実													
事業概要		乳幼児が健やかに成長できるように、保護者に親子教室、発達相談等を行う事業																						
事務事業を構成する細事業	①		親子教室				⑤						⑨											
	②		発達相談				⑥						⑩											
	③		小児成育医療支援				⑦						⑪											
	④		母子保健推進員活動				⑧						⑫											
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析							
	活動指標	親子教室参加率		%	目標		37		50		50		50		50		全体の参加率は令和5年度より減少したが、児童発達支援事業と並行利用する児童が増え、親子教室に未参加の場合でも同様の支援を受けることが出来ている。							
					実績		44.7		42.6		36.3													
		<指標の計算方法>				親子教室参加者数／親子教室述べ対象者数																		
	成果指標	発達相談利用者延べ人数		人	目標		300		300		300		300		300		体制の都合上、2歳児、3歳児は発達相談ではなく乳幼児健診での対応としたケースがあり実施件数が令和5年度より減少した。1歳児、4歳児、5歳児の実施件数は横這いである。							
					実績		258		285		274													
		<指標の計算方法>				発達相談利用者の延べ人数																		
					目標																			
					実績																			
		<指標の計算方法>																						
				目標																				
				実績																				
	<指標の計算方法>																							
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																			
					国庫支出金				県支出金				地方債				繰入金				その他			
	8,608																				8,608			
事業の実績	①親子教室 1歳児 参加延べ人数 480人 2歳児 参加延べ人数 464人 (※親と子の参加人数の合計)																							
	②発達相談 新規相談数 116件 継続相談数 158件																							
	③小児成育医療支援 新規相談件数 15件 継続相談件数 191件																							
	④母子保健推進員活動 ・4か月児健診時ブックスタート事業の協力 12回 ・子育て支援センターへの協力 23回 赤ちゃん広場 (0歳児) 子育て教室 (2歳児)																							
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																				
		・法に基づく乳幼児健診後のフォローアップの位置づけであり、市以外が主体と成り得ない事業である。																						
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																				
		・こどもの成長発達に支援が必要であり、育児不安を抱える保護者に対し、必要な相談や支援をおこなうことにより、こどもの成長を促し保護者の育児不安の軽減につながる事業である。 ・母子保健推進員の活動について、近年の社会情勢の変化に応じた活動の内容を見直しているところである。 ・対応可能人数に限りがあり、専門的な知識を持つ発達相談員の維持確保が必要である。また、令和7年度からの発達相談員1名増員に伴い実施方法について検討する必要がある。																						
	効率性	評価結果		改善の余地がない																				
・事業実施については、既に事業者へ委託して実施しておりコスト削減を図っている。																								

事務事業の概要	事務事業名		不妊治療助成事業			担当課		こども課		事業区分		ソフト事業	
	新規・継続		継続		事業期間	単年度繰返し		事業番号		835			
	会計		一般会計			政策目標		2	子育て・教育				
	予算科目	款	4	衛 生 費		施策目標		1	子育て環境・保育サービス				
		項	1	保健衛生費		基本施策		1	子育て環境・体制の整備、支援				
		目	2	母子保健費		取組方針		1	安心して子供を産み育てることができる支援の充実				
	事業概要		市民が安心して不妊治療を受けられるように、不妊治療に要する費用の一部の助成を行う事業										
	事務事業を構成する細事業		①	一般不妊治療費助成金			⑤				⑨		
			②	生殖補助医療先進医療費助成金			⑥				⑩		
			③				⑦				⑪		
④						⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析			
	活動指標	一般不妊治療費助成申請数	件	目標	35	35	35	35	35	早めの治療の有効性が認知されてきており、申請数が増加した。			
				実績	30	29	47						
				<指標の計算方法>					一般不妊治療費の助成申請件数				
	活動指標	生殖補助医療費助成申請数	件	目標	30	30	1	1	1	対象治療に対する自己負担分の大半が県事業の助成範囲内で収まっているため、市への申請件数は少ない。			
				実績	17	1	0						
				<指標の計算方法>					生殖補助医療先進医療費助成申請件数				
				目標									
				実績									
				<指標の計算方法>									
			目標										
			実績										
			<指標の計算方法>										
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
	2, 119				645					1, 474			
事業の実績	①一般不妊治療費助成金 助成件数 47件												
	②生殖補助医療先進医療費助成金 助成件数 無し												
	※県事業の生殖補助医療に上乗せ給付として市事業を行っているが、対象数は少ないと考えられる。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある										
		・国、県、市で財源負担しながら実施している事業であり、市が実施すべき事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・不妊治療にかかる費用は高額であり経済的負担が大きいため、負担軽減のために有効な事業である。											
	効率性	評価結果	改善の余地がない										
		・助成費用については、県費対象分と市単独分とがありコスト効率は考えにくい。											

事務事業の概要	事務事業名		子育て世代包括支援センター運営事業				担当課		こども課			事業区分		ソフト事業				
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1030	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育					
	予算科目	款	4		衛 生 費				施策目標		1		子育て環境・保育サービス					
		項	1		保健衛生費				基本施策		1		子育て環境・体制の整備、支援					
目		2		母子保健費		取組方針			1		安心して子供を産み育てることができる支援の充実							
事業概要			妊産婦、子育て中の親子が妊娠・子育てに関し切れ目のない支援を受けられるように、支援プランに基づく包括的な支援を行う事業															
事務事業を構成する細事業	①		子育て世代包括支援センター運営				⑤						⑨					
	②						⑥						⑩					
	③						⑦						⑪					
	④						⑧						⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	妊娠届出時の妊婦アンケートに基づく妊婦の心身等の状況把握率	%	目標	100	100	100	100	100	妊娠届出時すべての妊婦に対して面談実施できたため、全妊婦の状況把握を行うことができています。	
		実績	100	100	100						
	<指標の計算方法>		妊婦アンケート時の面談数／妊娠届出数								
	成果指標	妊産婦、乳幼児への支援・相談件数	件	目標	570	1,500	1,500	1,500	1,500	目標値は上回ったが、令和5年度よりは減少した。産後ケアの増加やはぐくみサロンの再開により、乳児期の支援体制が拡充したことで来所や電話での支援が減少したことが要因と思われる。	
		実績	1,707	1,818	1,576						
	<指標の計算方法>		子育て世代包括支援センターが実施した妊産婦、乳幼児への支援・相談等の件数								
	成果指標	産後の産婦・乳児に係る訪問率	%	目標	98	99	99	99	99	訪問率は高い水準を維持している。妊娠や出生届出時の際に丁寧な周知をしており、子育て応援給付金の効果もあり、訪問の受け入れは良好である。	
		実績	99.3	99	99						
	<指標の計算方法>		助産師・保健師による訪問数／出生した世帯数								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	22,523			12,649	2,656				7,218

事業の実績	①子育て世代包括支援センター運営 妊娠届出時の面談数 314件 (内) 転入時の面談数 27件 相談件数 電話 (着) 241件 電話 (発) 519件 来所相談 816件 産前産後サポート事業 訪問相談 13件 ブレパパママ教室 (休日集団) 参加者数 (組) 30組 (平日個別) 参加者数 (組) 41組 はぐくみサロン (集団実施) 参加者数 (組) 61組			産後ケア事業 宿泊型 利用回数 28回 デイサービス型 利用回数 76回 訪問型 利用回数 133回			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・法定事業であり、設置運営は市町村の努力義務とされていることから、市以外が実施主体となりえない事業である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
		・専門職（助産師・保健師）が妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を行い、妊娠出産や子育てなどの様々な不安に対応することで、児童虐待のリスクの早期発見、安心して子育てできる相談体制の受け皿としても有効性の高い事業である。 ・社会情勢の変化とともに相談内容も複雑化している。こども家庭センターの設置にあたり、専門職の確保や体制等見直し、充実させていく必要がある。		
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・専門職の人件費が事業の大部分を占めており、人員を減らすと効果も低くなることから、現在の事業実施方法が最適である。			

事務事業の概要	事務事業名				感染症対策事業				担当課		健康推進課		事業区分		ソフト事業							
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		54			
	会計				一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心							
	予算科目				款		4				衛生費		施策目標		2		健康・医療					
					項		1				保健衛生費		基本施策		1		健康づくりと疾病予防					
				目		3		予防費		取組方針		2		がん対策の推進								
事業概要				市民の感染症の予防、拡大防止につなげるために、予防接種の実施、予防接種に対する助成を行う事業																		
事務事業を構成する細事業				① 定期接種（子ども、高齢者）				⑤ 予防接種副反応報告				⑨ 食中毒、感染症の注意報対応										
				② 風しん追加的対策事業				⑥ 予防接種後健康被害救済				⑩ 带状疱疹ワクチン任意接種費用助成事業										
				③ 予防接種勧奨				⑦ 予防接種費助成事務				⑪										
				④ 予防接種検討委員会				⑧ 感染症対策物品の整備				⑫										
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析					
	成果指標	MR2期の接種率		%	目標		95		95		95		95		95		全国的なワクチンの偏在により、希望するが接種できない人が多くあった。県へ再三働きかけを行い、偏在解消に努めたが目標に届かなかった。					
		実績			93.8		94.7		90.4													
		<指標の計算方法> 接種率の計算方法：接種者数／対象者数(年長児)																				
	成果指標	2種混合(DT)の接種率		%	目標		85		85		85		85		85		令和5年度と比較して接種率は改善傾向にあり、目標を達成することができた。接種期間が13歳までのため、令和6年4月以降の接種に先延ばした人もいたと考えられる。					
		実績			91		80.3		85.5													
		<指標の計算方法> 接種率の計算方法：接種者数／対象者数(小学6年生)																				
	活動指標	広報掲載回数		回	目標				24		21		15		15		令和5年度は新型コロナ特例臨時接種の最終年度のため広報回数が特に多かった。令和6年度は新規事業の带状疱疹ワクチン任意接種助成事業等について周知したため、目標を上回る結果となった。					
		実績					24		23													
		<指標の計算方法>		広報「紀の川」への感染症対策事業に関する記事掲載回数																		
		目標																				
		実績																				
<指標の計算方法>																						
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																	
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源							
				314,051		45,156		39		5,800		20,000		31,167		211,889						
事業の実績	①定期接種（子ども、高齢者）				子宮頸がん（キャッチアップ）救済措置																	
	予防接種名 対象者数(人) 接種者数(人)				5,942 1,400 23.6%				1,400 23.6%				④予防接種検討委員会									
	接種率				水痘 636 622 97.8%				B型肝炎 801 809 101%				⑤予防接種副反応報告									
	(MR2期, DT2期, 子宮頸がんの対象者数は接種案内数の延べ人数、その他の予防接種対象者数は年度末の対象年齢者の延べ人数)				ロタウィルス 755 714 94.6%				高齢者インフルエンザ 20,528 11,604 56.5%				⑥予防接種後健康被害救済 給付2件, 申請2件									
	BCG 267 291 109%				高齢者肺炎球菌 836 164 19.6%				高齢者新型コロナウイルス感染症 20,681 3,775 18.3%				⑦予防接種費助成事務 定期68件、任意16件									
	MR1期(麻しん, 風しん) 318 312 98.1%				②風しん追加的対策事業				対象者数(人) 受検・接種者数(人) 接種率				⑧感染症対策物品の整備									
	MR2期(麻しん, 風しん) 385 348 90.4%				対象者数(人) 受検・接種者数(人) 接種率				風しん抗体検査 4,539 103 2.3%				⑨食中毒、感染症の注意報対応									
	4種混合(ジフテリア, 百日せき, 破傷風, 不活化ポリオ) 1,119 414 37%				風しん第5期定期接種 111 34 30.6%				⑩带状疱疹任意接種※令和6年11月から実施				対象者数(人) 接種者数(人) 接種率									
	ヒブ 1,119 362 32.4%				③予防接種勧奨				MR2期勧奨通知 2回				【食中毒】・市広報掲載 2回									
	5種混合(ジフテリア, 百日せき, 破傷風, 不活化ポリオ, ヒブ)※令和6年4月から導入 1,119 749 66.9%				・2種混合(DT) 勧奨通知 3回				・日本脳炎2期勧奨通知 1回				【感染症】・メール配信 2回									
2種混合 (DT：ジフテリア, 破傷風) 483 413 85.5%				・日本脳炎2期勧奨通知 1回				・子宮頸がん勧奨通知 4回				⑪帯状疱疹任意接種※令和6年11月から実施										
日本脳炎 1,496 1,524 101.9%				・高齢者インフルエンザ案内通知 1回				16,796 140 0.8%														
小児用肺炎球菌 1,119 1,114 99.6%																						
子宮頸がん (定期) 2,521 518 20.5%																						
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																		
		・予防接種については、予防接種法に基づき行っており、感染症のまん延防止が必要であるため、市が実施することは妥当である。																				
	有効性	評価結果		改善の余地がない																		
		・対象者に努力義務が課せられているA類疾病を予防する子どもの定期予防接種については、接種開始時の案内通知をはじめ、未接種者への接種勧奨通知や健康診査時の声かけ等、接種率向上に努めている。 ・努力義務の無いB類疾病を予防する高齢者の定期予防接種についても、対象者へ案内通知を行い情報提供を行っている。																				
効率性	評価結果		改善の余地がややある																			
	・機動的なワクチン接種が実施できる体制整備のため、国が勧める電子予診票を用いた予防接種事務のデジタル化に向けて準備する必要がある。																					

事務事業の概要	事務事業名		健康づくり事業				担当課		健康推進課		事業区分		ソフト事業			
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	55		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心					
	予算科目	款	4	衛 生 費		施策目標			2	健康・医療						
		項	1	保健衛生費		基本施策			1	健康づくりと疾病予防						
目		4	保健事業費		取組方針	1			健康づくりの推進							
事業概要		市民が健康的な生活を送れるように、紀の川市健康増進計画に基づき、地域と連携しながら健康づくりを行う事業														
事務事業を構成する細事業	①		身体活動向上事業				⑤		食生活改善推進協議会補助金				⑨			
	②		健康推進員活動支援				⑥		健康増進計画策定・進行管理				⑩			
	③		保健師研修・育成				⑦		がん教育事業				⑪			
	④		市町村保健師協議会負担金				⑧		紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進本部				⑫			
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
		食生活改善推進事業参加者数	人	目標		1,000	1,000	700	700	700	新型コロナウイルス感染症拡大で自粛となっていた食育フェアや、調理を伴うイベントの再開等により、参加者数が増加傾向にあるが、会員の高齢化等により、各保育所における食育教室の実施態勢が整っていない。					
				実績		212	320	362								
		<指標の計算方法>		食生活改善推進事業の一般参加者の合計人数												
	成果指標	健康増進に係る事業参加者数(チャレンジ100万歩事業)	人	目標		500	500				10月のみのイベントとなっていたチャレンジ100万歩は令和5年度の10回目をもって終了した。					
				実績		538	599									
		<指標の計算方法>		チャレンジ100万歩参加者数												
		成果指標	健康増進に係る事業参加者数(紀の川ウォーク)	人	目標				70	500	500	10月～12月にかけて、継続した健康づくりのきっかけとなるウォーキング事業を開始。令和6年度は、市内企業の従業員を対象に実施。令和7年度より対象を紀の川市民とする。				
	実績							71								
	<指標の計算方法>		紀の川ウォーク参加者数													
活動指標	紀の川市民健康づくり11か条(概要版)配布部数		部数	目標		500	500	26,150	500	500	令和6年3月に、第3次紀の川市健康増進計画を策定し、令和6年4月、紀の川市民健康づくり11か条を掲載した概要版を全戸配布した。					
		実績			715	810	25,597									
	<指標の計算方法>		健康づくり11か条(概要版)配布部数													
	コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳										
				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
1,925						112								1,813		
事業の実績	①身体活動向上事業 ・紀の川ウォーク2024事業 実施期間 10月,11月,12月 (3か月間) 申込者 71人・参加者61人 (うち目標達成者34人)				全世帯配布(25,597部) ・健康づくり推進庁内会議の開催 1回 ・健康づくり推進協議会の開催 1回											
	②健康推進員活動支援 ・健康推進員登録者数 66人				⑦がん教育事業 ・紀の川市立中学校3校の2年生にオンラインでがん教育を実施。											
	③保健師研修・育成 ・研修参加回数 14回				⑧紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進本部 ・10月乳がん月間の集団検診や各祭りにて啓発活動を実施。											
	④市町村保健師協議会負担金 ・30,000円+2,000円×18人(保健師数)															
	⑤食生活改善推進協議会補助金 ・会員53人															
	⑥健康増進計画策定・進行管理 ・第3次紀の川市健康増進計画概要版															
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・健康づくり事業は、国の健康日本21及び和歌山県健康増進計画に対応した紀の川市健康増進計画に基づく健康増進事業であり、市民が健康づくりに関心を持ち、市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むきっかけとなるよう、市全体での環境づくりが重要となるため、市が主体となって実施することは妥当である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がややある													
		・紀の川市健康増進計画の基本理念「食べて動いて笑ってのぼそう健康寿命」に基づき、継続的な健康づくり活動のきっかけとして、チャレンジ100万歩に代わる紀の川ウォークを企画し、令和6年度に市内企業の従業員を対象に実施したが、令和7年度以降、より多くの市民に継続的な健康づくりを実践してもらえるよう、事業実施方法について検討する必要がある。														
	効率性	評価結果	改善の余地がややある													
・令和5年度より新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっていた祭りやイベントが再開され、直接市民にがん検診の必要性や健康づくりについて伝えられる機会が増えた。各種団体と協働し、市民のがん検診への参加意欲が高まる健康イベントを計画、実施していきたい。																

事務事業の概要	事務事業名				がん対策事業			担当課		健康推進課		事業区分		ソフト事業						
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		792		
	会計				一般会計					政策目標		1		安全・安心						
	予算科目	款	4			衛生費			長期総合計画体系	施策目標		2		健康・医療						
		項	1			保健衛生費				基本施策		1		健康づくりと疾病予防						
目		4			保健事業費			取組方針		2		がん対策の推進								
事業概要				市民のがんの予防や早期発見につなげるために、がん検診や受診啓発を行う事業																
事務事業を構成する細事業					① がん検診				⑤ 検診部会運営				⑨ 健康管理システム標準化移行対応業務							
					② 胃内視鏡検診二重読影事業				⑥ がん検診受診勧奨				⑩ アピアランスケア助成金							
					③ 肺がん検診二重読影事業				⑦ がん検診結果入力・確認				⑪ 妊孕性温存後生殖補助医療費助成金							
					④ 乳がん検診精度管理委員会運営				⑧ がん検診精密検査受診勧奨				⑫ 和歌山県がん検診推進支援事業補助金							
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	集団検診申込者数	人	目標	25,000		25,000		25,000		25,000		25,000		令和5年度より集団検診を1ヶ所に集約し、受診しやすい個別検診の受診者が増え、集団検診の申込者数は減少した。					
				実績	14,319		12,584		11,179											
				<指標の計算方法> 集団検診(胃・肺・大腸・乳・子宮頸がん検診)の申込者数の合計																
	成果指標	集団検診受診者数	人	目標	17,500		17,500		17,500		17,500		17,500		集団検診の申込みをwebでもできるようにし、また、開催日の中で自由に受診日の日程変更をできるようにしたことで、集団検診の受診率は上昇している。(R5年度70.1%、R6年度75.5%)					
				実績	9,904		8,827		8,439											
				<指標の計算方法> 集団検診(胃・肺・大腸・乳・子宮頸がん検診)の受診者数の合計 (令和5年度から子宮頸がん検診追加)																
	成果指標	個別検診受診者数	件	目標	11,500		11,500		11,500		11,500		11,500		個別検診において全ての検診が受診できる体制を整えており受診者数は増加している。特に子宮頸がんの受診率は、ナッジ理論を活用した受診・未受診者勧奨により、年々上昇している。					
				実績	9,667		11,350		11,798											
				<指標の計算方法> 個別検診(胃・肺・大腸・乳・子宮頸がん検診)の受診者数の合計																
成果指標	乳がん検診受診率	%	目標	30		30		30		30		30		定期的な受診勧奨と未受診者勧奨、また10月のピンクリボン月間での日曜日検診もあり、受診率は上がっている。						
			実績	18.6		21.8		22.3												
			<指標の計算方法> 乳がん検診(集団・個別)の受診者数÷対象年齢の全住民×100																	
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳															
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
	116,168				482		2,658						7,590		105,438					
事業の実績	①がん検診 [集団検診] [受診者数/対象者数] 胃がん検診(40～74歳) 1,199人/28,297人 大腸がん検診(40歳以上) 2,956人/39,711人 肺がん検診(40歳以上) 3,024人/39,711人 喀痰検診(50歳以上・喫煙指数600以上) 21人/791人 乳がん検診(40歳以上偶数年齢) 1,194人/10,897人 子宮頸がん検診(20歳以上偶数年齢) 66人/13,306人 [個別検診] [受診者数/対象者数] 胃がん検診(40歳以上) 1,621人/39,711人 大腸がん検診(40歳以上) 3,215人/39,711人 肺がん検診(40歳以上) 3,251人/39,711人 喀痰検診(50歳以上・喫煙指数600以上) 183人/791人 乳がん検診(40歳以上偶数年齢) 1,231人/10,897人 子宮頸がん検診(20歳以上偶数年齢)				2,480人/13,306人 (※内99人は妊婦健診で受診) [総受診者数、受診率、がん発見者数] (がん発見者数は令和7年5月1日時点) ・胃がん検診 2,820人(7.1%) (3人) ・大腸がん検診 6,171人(15.5%) (11人) ・肺がん検診 6,275人(15.8%) (0人) ・乳がん検診 2,425人(22.3%) (12人) ・子宮頸がん検診 2,546人(19.1%) (3人) ②胃内視鏡検診二重読影事業 ・二次読影は、一次検査データを受け取ってから、おおむね10日以内に完了できている。 ③肺がん検診二重読影事業 ・二次読影は、一次検査データを受け取ってから、おおむね20日以内に完了できている。 ④乳がん検診精度管理委員会運営 1回 ⑤検診部会運営 1回 ⑥がん検診受診勧奨 ・集団検診(胃がん・肺がん・大腸がん)申込者でいずれかの検診未受診者に対し2				回実施した。 1回目521人に実施 34人受診(受診率6.5%) 2回目477人に実施 31人受診(受診率6.5%) ・乳がん検診未受診者(40～69歳)5,089人に実施し、814人が受診。(受診率16.0%) ・子宮頸がん検診未受診者(20～69歳)7,585人に実施し、1,272人が受診。(受診率16.8%) ⑦がん検診結果入力・確認 ・検診受診履歴等をデータベースで経年蓄積管理している。(端末PC8台入替) ⑧がん検診精密検査受診勧奨 3回/年 ⑨健康管理システム標準化移行対応業務 ・システム標準化移行導入に向け、業者と打合せを行った。 ⑩アピアランスケア助成金 ・ウィッグ 14件(内1件帽子) ・乳房補整具 5件 ⑪妊孕性温存後生殖補助医療費助成金 0件 ⑫和歌山県がん検診推進支援事業補助金 ・要綱に則り、補助金の交付申請をした。											
	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・がん対策事業は、健康増進法第19条の2に基づく健康増進事業として市が実施する事業であり、がんによる死亡率を低下させるため科学的根拠のある国の指針にそって、全市民に受診機会を提供するため、市が主体となって実施することは妥当である。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																
		・がんの予防、早期発見・治療は、市民の身体的・経済的負担を軽減するものであり、紀の川市民のがんによる死亡率の低下に繋がる。健康増進法第19条の2に基づく健康増進事業として、国の指針に基づき、検診の種類、対象年齢、実施頻度を設定しているため、対象者が受診機会に確実に受診するよう勧奨していく必要がある。 ・今後はさらにイベント等にてがん検診の受診勧奨、ナッジ理論を活用した個別勧奨の実施を行い、受診率のさらなる向上を図る必要がある。																		
	効率性	評価結果		改善の余地がややある																
		・検査結果のデータ入力・報告等でも人と時間が必要であるが、電子システムをより活用する等し、職員が、受診率向上のための計画や受診勧奨等に業務を割けるよう検討していく。																		

事務事業の概要	事務事業名		成人保健事業				担当課		健康推進課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		791		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心						
	予算科目		款		4				衛生費		施策目標		2		健康・医療				
			項		1				保健衛生費		基本施策		1		健康づくりと疾病予防				
目			4		保健事業費				取組方針		2		がん対策の推進						
事業概要		健康増進法に基づき、市民の健康維持と生活習慣病予防を目的として実施する健康増進事業																	
事務事業を構成する細事業	①		肝炎ウイルス検診				⑤		健康手帳発行				⑨						
	②		歯周疾患検診				⑥		ヘルスアップ健診				⑩						
	③		骨粗しょう症検診				⑦		健康増進事業費補助金				⑪						
	④		健康教室・相談				⑧						⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	成果指標	歯周疾患検診受診率	%	目標	10	10	10	14	14	年度途中に受診勧奨をしたため、令和5年度の受診率に比べて増加した。		
				実績	11.3	10.8	14.1					
	<指標の計算方法>年間歯周疾患検診受診者数／年間歯周疾患検診の対象者数＊100											
	活動指標	肝炎ウイルス検診申込者数	人	目標	1,000	1,000	600	600	600	肝炎ウイルス検診は申込者数が減少している。すでに受診済みの人が増加していることが背景にあると考えられる。今後も未受診者への勧奨が必要だと考えられる。		
				実績	669	477	308					
	<指標の計算方法>年間肝炎ウイルス検診申込者数											
成果指標	肝炎ウイルス検診受診者数	人	目標	500	500	500	500	500	受診者数は年々減少傾向にあり、受診者の多くはかかりつけ医からの受診勧奨と集団検診の受診者であると考えられる。今後も未受診者への勧奨が必要だと考えられる。			
			実績	333	251	213						
<指標の計算方法>年間肝炎ウイルス検診の受診者数												
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳					
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	10,096					2,706				7,390

事業の実績	①肝炎ウイルス検診 実施内容：血液検査によるB型・C型肝炎ウイルス抗体検査 自己負担：無料 対象者：40歳以上で過去に肝炎ウイルス検査を受けたことがないもの 〔個別検診〕 41歳以上受診者：27人 申込者：37人 40歳全員(610人)に個別勧奨実施し、49人受診 〔集団検診〕 受診者：137人 申込者：271人 受診率：50.6％		③骨粗しょう症検診 対象者：40～70歳の女性(令和6年度のみ) 受診者：1,847人 申込者：2,059人 受診率：89.7％	
	②歯周疾患検診 実施期間：R6年4月1日～R7年3月31日 実施場所：県内協力医療機関 自己負担：無料 対象者：40歳、50歳、60歳、70歳 受診者：443人 対象者：3,142人 受診率：14.1％		④健康教室・相談 電話や面談等で個別相談にて対応(随時) 骨粗しょう症講座：2回実施(9月、29名、2月、23名) 出前講座：1回実施(2月、13名) ⑤健康手帳発行 検診の記録等自己管理をしてもらうため、集団検診時、希望者に健康手帳を発行。 ⑥ヘルスアップ健診 対象：40歳以上の生活保護受給者 対象者：319人 (令和7年3月31日時点) 受診者：11人 受診率：3.4％ ⑦健康増進事業費補助金 要項に則り、補助金の交付申請をした。	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない
		・国の健康増進事業に基づく事業であり、市が実施する事業として妥当である。	
	有効性	評価結果	改善の余地がややある
		・歯周疾患検診では対象者への個別通知や広報での周知を実施したが、対象者の受診行動を導くためには、受診勧奨の方法を検討する必要がある。 ・ヘルスアップ健診(生活保護受給者対象)は令和5年度より集団検診から個別検診に変更し、受診者は増加傾向にある。(R4年度1名、R5年度6名、R6年度11名)今後も効果的な健診とするため、社会福祉課と協力し、受診勧奨や結果に応じた保健指導を実施していきたい。 ・骨粗しょう症検診は、令和6年度から開始した検診である。初年度である令和6年度は40歳から70歳の女性すべてを対象にし、集団検診のみで実施したが、令和7年度からは40歳から70歳の5歳ごとの女性を集団検診の対象とするため、受診機会を逃さないよう受診勧奨し、結果に応じて適切な対応を促すことが重要と考える。	
効率性	評価結果	改善の余地がややある	
	・肝炎ウイルス検診や歯周疾患検診、ヘルスアップ健診は健康増進事業であり、県の補助対象事業である。 ・ヘルスアップ健診では、生活保護受給者の健康管理を行うことで、生活習慣の改善や疾病の重症化予防につなげていくことができる。だが、ヘルスアップ健診受診者が少ないため、受診勧奨方法について検討していくことが必要だと考える。		

事務事業の概要	事務事業名		保健福祉センター管理運営事業				担当課		健康推進課		事業区分		ソフト事業	
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	57
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心			
	予算科目	款	4	衛 生 費		施策目標			2	健康・医療				
		項	1	保健衛生費		基本施策			1	健康づくりと疾病予防				
		目	5	保健福祉センター費		取組方針			1	健康づくりの推進				
	事業概要		市民が保健福祉センターを安全で快適に利用できるように、施設の維持管理を適切に行う事業											
	事務事業を構成する細事業		①	桃山保健福祉センター維持管理業務			⑤				⑨			
			②	桃山保健福祉センタービーチホール等施設の貸出業務			⑥				⑩			
			③	桃山保健福祉センター各種委託業務			⑦				⑪			
④						⑧				⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	成果指標	ビーチホールの使用回数	回	目標	215	215	215	215	215	令和6年度はこども課の親子教室と、高齢介護課のピンシヤン元気教室がビーチホールで行われなかったことにより、使用回数が減少している。		
				実績	161	194	160					
				<指標の計算方法> ピーチホールの使用回数（午前・午後・夜間：各1回、全日利用：3回）								
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	13, 265							3, 478	9, 787

事業の実績	①桃山保健福祉センター維持管理業務		・ 貯水槽清掃等委託業務			
	・ 消防用設備保守点検で要是正となった火災通報装置等の取替修繕の実施		・ 電気保安管理委託業務			
	・ 1階事務所天井修繕の実施		・ 冷熱機器設備保守点検委託業務			
	・ 1階トイレ便座ウォシュレット取替修繕の実施		・ エレベーター保守点検委託業務			
	・ 1階事務所エアコン漏水修繕の実施		・ 消防用設備保守点検委託業務			
	・ 高圧気中開閉器修繕の実施		・ 防火設備点検委託業務			
	・ 浴場設備廃止に伴う給湯器フロンガス回収の実施		・ 敷地内管理委託業務			
	・ 自動ドア修繕の実施		・ 調理室害虫駆除委託業務			
	・ 電波掛け時計、消火器購入		・ 特殊建築物設備定期検査委託業務			
	②桃山保健福祉センタービーチホール等施設の貸出業務		・ 浄化槽保守点検委託業務			
	・ ビーチホール貸出回数 3回					
	③桃山保健福祉センター各種委託業務					
	・ 清掃委託業務					
	・ 機械警備委託業務					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない
		・ 災害による避難所の役割も兼ねているため、市民が安全で快適に利用できるように、市が施設管理を行うことは妥当である。	
	有効性	評価結果	改善の余地が大きい
		・ 施設の利活用について、関係各課と協議を継続していく必要がある。	
	効率性	評価結果	改善の余地がややある
		・ 今後も施設の老朽化や設備の経年劣化による工事および修繕が増えてくると予想されるが、定期検査や設備の保守点検を適切に実施し、施設の維持管理を効率的に進めていくことが重要である。	

事務事業の概要	事務事業名			環境保全事業			担当課		環境衛生課		事業区分		ソフト事業																																												
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		804																																								
	会計			一般会計			長期総合計画体系		政策目標		4		都市基盤・生活環境																																												
	予算科目			款		4			衛生費		2		生活環境・環境保全・循環型社会																																												
				項		1			保健衛生費		1		快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進																																												
			目		6		環境衛生費		取組方針		1		環境保全の推進																																												
事業概要			市民に快適な環境の中で生活を営んでもらうために、産業廃棄物処理施設等の設置申請の意見具申やあき地の適正管理の指導、周知、啓発を行う事業																																																						
事務事業を構成する細事業			① 環境保全審議会運営					⑤ 空き地管理					⑨																																												
			② そ族昆虫対策					⑥ 休廃止鉱山鉱害防止等工事補助金					⑩																																												
			③ 公害対策・発生防止					⑦ 騒音・振動・悪臭対策					⑪																																												
			④ 温暖化・省エネルギー対策					⑧					⑫																																												
指標の実績	成果指標			指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析																																					
				空き地管理指導に対する対応件数		件		目標		130		170		170		170		170		近年180件程度の対応件数であり、令和4,5年度に比べ約15%減少したが、今後も引き続き粘り強く適正管理について指導に努めていく。																																					
			実績				182		179		156																																														
	<指標の計算方法>		指導に対する対応件数																																																						
	成果指標			空き地管理指導に対する対応率		%		目標		100		85		85		85		85		近年70%程度の対応率であり、令和6年度は同程度の対応率となった。																																					
						実績		68.9		81		69.96																																													
	<指標の計算方法>		対応件数/管理指導件数																																																						
	活動指標			空き地管理指導件数		件		目標		200		200		200		200		200		近年200件程度の苦情が寄せられており、同程度の件数となった。減少しない要因として、土地所有者の高齢化や相続人の市外流出等による管理不足があり、土地所有者の意識改善に努めていく。																																					
						実績		264		221		223																																													
	<指標の計算方法>		空き地管理指導件数																																																						
活動指標			地球温暖化対策に係る啓発回数		回		目標				2		5		5		5		広報紙に定期的な掲載を行うほか、地球温暖化対策に係る啓発活動を行っている。																																						
					実績				2		5																																														
<指標の計算方法>		地球温暖化対策に係る啓発回数																																																							
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)							財源内訳																																																	
	1,336							国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源																																							
事業の実績	①環境保全審議会運営 ・今年度開催なし																			(熱 量) 101,084GJ (原油換算値) 2,608kl ・温室効果ガス排出量 (二酸化炭素換算) 3,954t-CO2 (定期報告書) 国へ提出 (中長期報告書) 国へ提出 (排出抑制・計画等報告書) 県へ提出																			⑤空き地管理 ・対応数 156件／指導数 223件 ・対応率 69.96%																		
	②そ族昆虫対策 ・蜂の防護服貸出状況 65件 (打) 20、(粉) 6、(那) 6、 (桃) 11、(貴) 20、(軀) 2																			・啓発事業 ・課HPにおける各種脱炭素系補助金等周知(通年) ・啓発物品の作成(マグネット付きカード型温度計を作成、11月に開催された産業まつりにて配布) ・市民向け啓発チラシ(広報12月号に折り込みで全戸配布) ・小学生向け工作教室と環境教育(パナソニック㈱エレクトリックワークス社に依頼し12月に実施) ・市職員向け脱炭素講習会(2月に実施)																			⑥休廃止鉱山鉱害防止等工事補助金 ・抗廃水処理補助対象経費 6,405,021円 ・紀の川市補助金 489,000円 (補助率) 国：9/12、県：2/12、市：1/12																		
	③公害対策・発生防止 ・各種苦情対応41件 (大気汚染) 6、(水質汚濁) 5、 (騒音) 9、(悪臭) 5、(不法投棄) 6、 (動物) 3、(土地管理) 0、(そ族昆虫) 1 (その他) 6																																						⑦騒音・振動・悪臭対策 ・騒音調査委託事例 0件 ・臭気調査委託事例 0件																		
	④温暖化・省エネルギー対策 ・事業所として紀の川市役所の年間エネルギー使用量合計の原油換算値が1,500kl以上のため提出 ・エネルギー使用量																																																								
事業の事後評価	妥当性			評価結果		改善の余地がない																																																			
				・市民からの申し出や相談により、周辺の生活環境を損なっている土地所有者への改善の指導、悪臭や騒音等の生活環境を損なう様々な要因に対し、現状改善に向けて中立の立場で対応することで、市民がより良い環境で生活できるようにするため、市が実施することは妥当である。																																																					
	有効性			評価結果		改善の余地がややある																																																			
				・土地所有者に対する指導や、様々な現場に出向き、現状改善を図ることは有効性がある。 ・土地所有者に現状改善の指導通知を郵送する際、シルバー人材センターのチラシを同封し、改善手段の参考になるように周知している。 ・近年、土地所有者の高齢化、相続人の市外流出等により現状改善が図られない土地が多くなってきており、そのような土地の管理、現状改善のための対応等の指導が課題となっている。 ・「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の構築」に向け、「ゼロカーボンシティ宣言」のもと次世代エネルギーを題材にした体験機会を提供することや各世帯への啓発チラシの配布、広報紙へ定期的に啓発記事を掲載することで市民・事業者の意識の高揚に取り組む必要がある。																																																					
効率性			評価結果		改善の余地がややある																																																				
			・土地所有者の連絡先が土地登録簿に記載されている住所以外不明な事例が多く、「自身が所有する土地は、自身において適正管理しなければならない」という意識を強く持つてもらえるよう郵送による通知により指導を行っている。しかしながら、即効性があるとは言い難く、現在の郵送による通知を継続し、粘り強く指導していく必要がある。																																																						

事務事業の概要	事務事業名			地域美化事業				担当課		環境衛生課		事業区分		ソフト事業				
	新規・継続			継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		809						
	会計			一般会計				政策目標		4		都市基盤・生活環境						
	予算科目	款	4	衛 生 費				施策目標		2		生活環境・環境保全・循環型社会						
		項	1	保健衛生費				基本施策		1		快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進						
目			6				環境衛生費				取組方針		2		地域環境美化の推進			
事業概要			市民が快適な環境の中で生活を営んでもらうために、市民、行政が連携して地域環境の美化活動を行う事業															
事務事業を構成する細事業	①			都市下水路管理				⑤			地域一斉清掃補助金				⑨			
	②			廃棄物処理（汚泥・死骸）				⑥							⑩			
	③			美化啓発				⑦							⑪			
	④			廃棄物処理負担金				⑧							⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	成果指標	水路清掃参加世帯数	世帯	目標	15, 200		15, 600		15, 600		13, 510		13, 510		新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和4年度までは清掃参加自治区が大幅に減少し、自治区1区あたりの参加世帯数も激減した。令和6年度においては参加自治区及び自治区1区あたりでの参加世帯数も増加し、今後とも増加すると見込んでいる。			
		実績	10, 961		12, 172		12, 296											
	<指標の計算方法>		水路清掃参加世帯数															
	活動指標	水路清掃補助件数	件	目標	199		199		199		199		199		自治区の補助件数は令和5年度より1件減少したが、今後も参加自治区は増加し、自治区に対する補助件数も増加すると見込んでいる。			
		実績	100		113		112											
	<指標の計算方法>		水路清掃補助件数															
			目標															
			実績															
	<指標の計算方法>																	
		目標																
		実績																
<指標の計算方法>																		
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳													
	10, 571				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
事業の実績	①都市下水路管理 ・水路清掃 ・粉河駅～紀陽銀行：R6. 10. 7実施 ・紀陽銀行～天福荘：R6. 10. 7実施 ・マンホール会所清掃 ・県道粉河寺線（23箇所）：R6. 10. 7実施 ・市道「小田井線」（33箇所）：未実施（R7実施予定） ・市道「粉河・井田線」（13箇所）：未実施（R7実施予定） ※H30から、マンホール会所部分を隔年で浚渫作業を実施 ②廃棄物処理（汚泥・死骸） ・20kg以上の大型動物死骸処理業務を委託 委託先：和歌山市西浜（㈱岸化学 3頭処理（猪 0頭、鹿 3頭、犬 0頭） ・休日の動物死骸収集運搬業務及び野焼き 苦情現場確認業務を委託 委託先：㈱共立ソリューションズ 中日本事業部和歌山オフィス				65回出動（65回処理） ・動物死骸処理 53件、野焼き対応 12件 ③美化啓発 ・「犬のフン防止看板」や「ごみポイ捨て禁止看板」等を購入し、再発防止と地域環境美化の啓発 ④廃棄物処理負担金 ・自治区水路清掃から出る土砂について、受託業者の最終処分場が三重県伊賀市及び大阪府和泉市となり、両処分場に地方公共団体から搬入される一般廃棄物に対し、環境保全負担金を支出 ・伊賀市（R2年度より） 1, 000円/t（土砂） ・和泉市（R元年度より）1, 000円/t（草木） ※R6～R7は和泉市焼却炉修繕中のため搬入停止につき草木も伊賀市に搬入。 処理実績 ・（土砂） 223. 38t：伊賀市へ搬入処分 ・（草木） 6. 13t：伊賀市へ搬入処分 ※緊急対応時のために、伊賀市へ枠取り				（土砂：350t、草木：30t）の協定を締結 ⑤地域一斉清掃補助金 ・各自治区水路清実施 ・〔打田・粉河・那賀〕自治区 搬入期間：令和6年4月28日～7月15日 ※年間通し受入可 搬入場所：大栄環境㈱ 粉河リサイクルセンター 実績：（土砂）124. 50t（草木）6. 02t ・〔桃山・貴志川〕自治区 搬入期間：令和6年4月28日～5月26日 ※年間通し受入可 搬入場所：（土砂）旧貴桃CC不燃物処理場 （草木）紀の海クリーンセンター 実績：（土砂）99. 12t（草木）18. 41t ・各自治区水路清掃補助 ※参加1世帯につき、100円を補助 ・参加世帯数 12, 296世帯 ・参加自治区数 112自治区									
	妥当性		評価結果		改善の余地がない ・各自治区が実施する水路清掃は、地域住民と行政がともにきれいで衛生的なまちづくりを行うための意識を共有することを目的とし、清掃時に生じる土砂、草等は自治区において処分することが困難であるため、市が処分費等を支出し支援するとともに水路清掃参加世帯数に応じて補助金を交付することは妥当である。													
事業の事後評価	有効性		評価結果		改善の余地がややある ・各自治区において実施される水路清掃に対し、参加世帯数に応じて補助金を交付し、衛生的な生活環境への意識の高揚を促すための事業として位置づけている。 ・今後、高齢化等により清掃が困難となってくる自治区も予想されることから、より官・民の連携を深めるとともに自治区を超えた地域美化・環境保全について検討する必要がある。													
	効率性		評価結果		改善の余地がない ・自主的に行われる地域住民の水路清掃活動に対し、支援する土砂・草等の処理費及び参加補助金は、官・民連携による地域美化の活動費であり、活動実績に応じた補助費用であることから効率的に実施できている。													

事務事業の概要	事務事業名		不法投棄防止事業				担当課		環境衛生課		事業区分		ソフト事業			
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し			
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		4		都市基盤・生活環境			
	予算科目	款	4		衛 生 費				施策目標		2		生活環境・環境保全・循環型社会			
		項目	1		保健衛生費				基本施策		1		快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進			
		6		環境衛生費				取組方針		2		地域環境美化の推進				
事業概要		市民に自然環境や生活環境の保全された中で生活を営んでもらうために、不法投棄の未然の防止や迅速な回収を行う事業														
事務事業を構成する細事業		①		不法投棄防止啓発・パトロール				⑤				⑨				
		②		不法投棄物撤去・処理				⑥				⑩				
		③		監視カメラ貸出				⑦				⑪				
		④						⑧				⑫				
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
		不法投棄発見件数		件	目標	300	150	150	150	150	会計年度任用職員による不法投棄監視パトロールに正職員1名を随伴することで2名体制となったことにより、不法投棄物発見数は大きく増加した。					
		実績			148	143	265									
	<指標の計算方法>		不法投棄発見件数													
	活動指標	不法投棄監視パトロール件数		件	目標	400	250	250	250	250	環境衛生課職員によるパトロール件数が減少したため、総件数は減少した。					
		実績			250	255	247									
		<指標の計算方法>		不法投棄監視パトロール件数												
	活動指標	不法投棄防止広報紙掲載回数		回	目標	3	3	3	3	3	近年は、年に3回広報紙に掲載することで、不法投棄防止の啓発を行っている。					
		実績			3	3	3									
		<指標の計算方法>		広報紙掲載回数												
活動指標	監視カメラ貸出回数		回	目標	8					不法投棄防止のため監視カメラを貸出・設置していたが、令和5年度に保健所から貸与されていたカメラを返還したことにより貸し出し数が減少した。						
	実績			28	2	3										
	<指標の計算方法>		監視カメラ貸出回数													
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	6, 806														6, 806	
事業の実績	①不法投棄防止啓発・パトロール ・広報紙による不法投棄防止啓発 ・不法投棄防止啓発看板・のぼりを配布 ・会計年度任用職員・正職員でパトロール ・年2回（6月・12月）、岩出保健所、各支所 合同でパトロール															
	②不法投棄物撤去・処理 ・不法投棄監視パトロール撤去回数 212回 ・環境衛生課職員撤去回数 53回															
事業の事後評価	妥当性															
	有効性															
効率性	評価結果 改善の余地がややある															
	・ 会計年度任用職員による不法投棄監視パトロールにおいて、2名体制によりできる、さらに安全で効率的な体制を築き、更なる不法投棄防止に努めていく必要がある。															

事務事業の概要	事務事業名		水質保全事業				担当課		環境衛生課			事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	813		
	会計		一般会計						政策目標	4	都市基盤・生活環境					
	予算科目	款	4	衛 生 費						施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		項目	1	保健衛生費						基本施策	1	快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進				
事業概要		市民が公共用水域の水質汚濁の防止がされた衛生的な生活ができるように、市内河川等の水質検査及び浄化槽維持管理の適正化を行う事業														
事務事業を構成する細事業	①		水質検査				⑤				⑨					
	②		貴志川水質保全対策連絡協議会負担金				⑥				⑩					
	③						⑦				⑪					
	④						⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析						
	活動指標	水質検査箇所数（紀の川市内河川33箇所）	箇所	目標	33	33	33	33	33	水質検査箇所数は紀の川市内33箇所予定どおりの箇所で検査できている。						
				実績	33	33	33									
				<指標の計算方法> 水質検査箇所数（紀の川市内河川33箇所）												
	活動指標	水質検査箇所数（貴志川水質保全対策連絡協議会）	箇所	目標	6	6	6	6	6	水質検査箇所数は紀の川市内6箇所予定どおりの箇所で検査できている。						
				実績	6	6	6									
				<指標の計算方法> 水質検査箇所数（貴志川水質保全対策連絡協議会）												
	活動指標	浄化槽の適正な維持管理の啓発回数	回	目標	6	4	4	4	4	浄化槽の適正な維持管理は、管理講習会で啓発を行っており、予定の全てで開催することができ、十分に啓発することができた。						
				実績	6	4	4									
				<指標の計算方法> 浄化槽の適正な維持管理の啓発回数												
成果指標	汚水処理人口普及率	%	目標	80	80	80	90	90	市の汚水処理人口普及率は、合併処理浄化槽設置及び公共下水道の供用開始区域の拡充に伴い年々上昇している。							
			実績	76.7	79.6	81.7										
			<指標の計算方法> 総人口に占める汚水処理施設の処理人口の割合													
コストの実績	R 6年度決算額（単位：千円）				財源内訳											
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源						
	598									598						
事業の実績	①水質検査 ・水質検査の実施（夏季分） ・令和6年9月12日、13日 ・紀の川市内河川 33箇所（水質検査の結果） 全ての検査項目で基準値内 ・水質検査の実施（冬季分） ・令和7年2月18日、19日 ・紀の川市内河川 33箇所（水質検査の結果） 全ての検査項目で基準値内				3箇所 他の検査項目は基準値内 ・水質検査の実施（冬季分）（貴志川水質保全対策連絡協議会として） ・令和6年12月18日 ・貴志川水系（紀の川市内分）6箇所 ※ただし、6箇所で2箇所はふん便性大腸菌群数のみ検査（水質検査の結果） 大腸菌数が基準値を少し上回る箇所が2箇所 他の検査項目は基準値内											
	②貴志川水質保全対策連絡協議会負担金 水質検査の実施（夏季分） （貴志川水質保全対策連絡協議会として） ・令和6年7月25日 ・貴志川水系（紀の川市内分）6箇所（水質検査の結果） 大腸菌数が基準値を少し上回る箇所が															
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・市内河川33箇所（生活環境・健康に関する検査17項目）及び貴志川水系6箇所（生活環境に関する検査5項目。ただし、6箇所で2箇所はふん便性大腸菌群数のみ検査）の水質検査を実施する事業である。公共用水域の水質汚濁の防止を図り、市民が快適で衛生的な生活が送れるように水環境の保全を行うことを目的としているため市が実施することは妥当である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がややある													
		・水質検査は、ほぼ全ての箇所において検査項目が基準値内となっている。なお、33箇所のうち数箇所で河川の水の透視度が若干悪い箇所が見受けられたが、特に問題がない状況である。 ・貴志川水系は検査時において、水浴に不適な箇所が全くなく、河川の環境基準値を十分に満たしており清浄な状態である。今後も引き続き良好な水質保全を保ち続けていくために、市のホームページで検査結果を公表し、良好な河川の水質保全について、更なる通知・啓発をしていく必要がある。 ・より良い水環境の保全に向けて、汚水処理人口普及率の向上及び合併処理浄化槽の適正管理に向けた啓発等に取り組むとともに、常に河川の状況を把握しておくことは重要なことである。														
効率性	評価結果	改善の余地がない														
	・民間業者に水質検査を委託することで精度の高い検査を実施することができ、また検査結果の状況を確認できることで、より良い水環境の保全に努めることができるため効率性は高い。															

事務事業の概要	事務事業名		浄化槽普及促進事業				担当課		環境衛生課		事業区分		ソフト事業	
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	810
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	4	都市基盤・生活環境			
	予算科目	款	4	衛 生 費		施策目標			2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		項	1	保健衛生費		基本施策			3	適切な生活排水対策の推進				
目		6	環境衛生費		取組方針	1			合併処理浄化槽の普及促進と適正な維持管理の推進					
事業概要			市民が公共用水域の水質汚濁の防止がされた衛生的な生活ができるように、市民（合併処理浄化槽設置者）に合併浄化槽設置に関する補助金の交付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①		浄化槽普及促進協議会負担金				⑤				⑨			
	②		浄化槽設置整備事業補助金				⑥				⑩			
	③		浄化槽台帳整備				⑦				⑪			
	④		県水質保全センター負担金				⑧				⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	合併処理浄化槽人口普及率	%	目標	52	60	61	62	64	新築及び単独処理浄化槽またはくみ取り便槽から合併処理浄化槽への転換に伴い普及率が年々上昇している。	
				実績	59.2	61.6	63.3				
		<指標の計算方法>		合併処理浄化槽人口普及率							
	活動指標	浄化槽補助基数	基	目標	230	230	230	230	230	住宅の新築件数が減少してきている。また、物価高騰の景況により減少していると考えられる。	
				実績	214	196	151				
		<指標の計算方法>		浄化槽補助基数							
	活動指標	単独転換補助基数	基	目標	10	10	10	10	10	単独処理浄化槽を合併処理浄化槽に転換してもらえるかが課題となっており、令和5年度と比べて減少した。	
				実績	11	7	5				
		<指標の計算方法>		単独転換補助基数							
活動指標	配管工事補助基数	基	目標	85	85	85	50	50	単独処理浄化槽またはくみ取り便槽から、合併処理浄化槽への転換が促進されているが、令和5年度と比べて減少した。		
			実績	47	51	37					
	<指標の計算方法>		配管工事補助基数								

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	65, 291		28, 205	21, 722				15, 364

事業の実績	①浄化槽普及促進協議会負担金 基本会費 20,000円 ・事業割合費 39,000円		・単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への配管工事補助件数・補助金額 ・5人槽 1件、7人槽 4件 10人槽 1件 計 6件 1,800,000円		④県水質保全センター負担金 ・会 費 10,000円 〈参考〉令和6年度 汚水処理人口普及率 81.7%	
	②浄化槽設置整備事業補助金 ・浄化槽設置整備補助件数・補助金額 ・5人槽 126件 41,832,000円 ・7人槽 21件 8,694,000円 ・10人槽 4件 2,192,000円 計 151件 52,718,000円 ・単独処理浄化槽撤去補助件数・補助金額 ・5人槽 3件、7人槽 1件 10人槽 1件 計 5件 600,000円 ・くみ取り便槽撤去補助件数・補助金額 ・5人槽 8件、7人槽 2件 計 10件 900,000円		・くみ取り便槽から合併処理浄化槽への配管工事補助件数・補助金額 ・5人槽 19件、7人槽 12件 計 31件 9,150,000円 ③浄化槽台帳整備 ・浄化槽管理システム利用料 令和6年1月分よりデジタル推進室で一括払いのため、実績額なし。 (参考) 15,000円/月×12ヵ月×1.10＝198,000円 台帳システムのデータ整備を継続実施している。			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・合併処理浄化槽設置を推進し普及促進することにより、生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止するとともに、市民が快適で衛生的な生活が行えるようにすることを目的としている。 ・新たな住宅へ合併処理浄化槽を設置する者、また既存便槽を合併処理浄化槽へ転換する者に対し補助金を交付することは、設置者の費用負担の軽減が図られるため、市で実施することは妥当である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
		・浄化槽補助件数は減少傾向であったが、平成30年度より単独処理浄化槽又はくみ取り便槽から合併処理浄化槽へ転換する場合の配管工事が補助対象となったことから補助件数は増加傾向にあったが、令和6年度は減少した。 ・補助金申請者には浄化槽講習会を受講を義務付け、浄化槽の保守点検・清掃・法定検査（水質検査）を遵守し適正な管理に努めていただくよう指導・啓発を行い、生活排水による公共用水域の水質汚濁の防止を図るとともに汚水処理人口普及率の向上に努めていく必要がある。		
効率性	評価結果	改善の余地がややある		
	・単独処理浄化槽やくみ取り便槽の方々に対して、従来からの補助金に加え、平成30年度から導入した配管工事の補助金を活用して合併処理浄化槽に転換してもらえるよう普及・啓発に取り組んだことにより、合併処理浄化槽への転換が進んでいる。今後も、汚水処理人口普及率の向上に向け、引き続き合併処理浄化槽への転換、普及啓発が必要である。			

事務事業の概要	事務事業名		畜犬管理事業				担当課		環境衛生課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		814	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		4		都市基盤・生活環境					
	予算科目	款	4		衛 生 費				施策目標		2		生活環境・環境保全・循環型社会					
		項	1		保健衛生費				基本施策		1		快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進					
目		6		環境衛生費		取組方針			3		生活衛生の向上							
事業概要		市民（飼い主）にペットの衛生的に適切な飼育を行ってもらうために、飼い犬の登録、予防接種を行う事業																
事務事業を構成する細事業	①		犬登録・管理				⑤						⑨					
	②		狂犬病予防注射				⑥						⑩					
	③						⑦						⑪					
	④						⑧						⑫					

指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
		予防注射接種件数	件	目標		2, 200	2, 200	2, 200	2, 200	2, 200	令和5年度と同等の件数となった。狂犬病予防注射の必要性を飼い主に理解してもらうための啓発を行っている。	
				実績		2, 129	2, 091	2, 099				
		<指標の計算方法>		畜犬の予防接種件数								
	活動指標	新規犬登録件数	件	目標		240	240	240	240	240	令和5年度と同等の件数となった。新たに犬の登録がされる場合、予防接種の必要性をはじめ、飼育に関するモラルについて啓発を行っている。	
				実績		274	246	242				
		<指標の計算方法>		新規犬登録件数								
	活動指標	予防注射通知件数	件	目標		3, 800	3, 600	3, 600	3, 600	3, 600	老犬調査により総登録件数が減少したことにより、令和5年度と比べ大きく減少となった。狂犬病予防集合注射の案内はがきは実施2週間前を目途に、登録のある畜犬の飼い主に対して送付している。	
				実績		3, 486	3, 459	3, 183				
		<指標の計算方法>		はがき発送件数								
成果指標	予防注射接種率	%	目標		100	100	100	100	100	令和5年度と比べると大きく増加したが、これは老犬調査により総登録件数が減少したことによるものであり、接種件数は令和5年度と同等数であるため、飼い主の意識の高揚を促すための啓発を行なっている。		
			実績		54. 96	55. 64	60. 09					
	<指標の計算方法>		予防注射接種件数／犬総登録件数									

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳					
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	1, 083								1, 083	

事業の実績	①犬登録・管理 ・畜犬登録手数料（3, 000円）を徴収し、鑑札を交付 ・紀の川・岩出市内の動物病院でも登録可能 ・総登録件数 3, 493頭																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			

事務事業の概要	事務事業名		墓地管理運営事業				担当課		環境衛生課		事業区分		ソフト事業				
			新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し			事業番号		59			
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		4		都市基盤・生活環境				
	予算科目	款	4		衛 生 費				施策目標		2		生活環境・環境保全・循環型社会				
		項	1		保健衛生費				基本施策		1		快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進				
目		6		環境衛生費		取組方針			3		生活衛生の向上						
事業概要		市民が墓地等を安心して快適に利用できるように、施設の維持管理や運営を適切に行う事業															
事務事業を構成する細事業	①		市営墓地運営				⑤				⑨						
	②		市営墓地施設管理				⑥				⑩						
	③						⑦				⑪						
	④						⑧				⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析		
	活動指標	市営墓地草刈委託回数		回	目標	5		6		6		6		6		安心して快適な環境で市営墓地を使用してもらうため、草刈・修繕による維持管理を実施している。	
				実績	6		6		6								
		<指標の計算方法>		市営墓地草刈委託回数													
	成果指標	市営墓地公墓区画数		区画	目標	8										市営墓地台帳更新整備中のため、令和4年度から公募を中断している。墓地台帳の整備状況を見ながら公募の再開を検討する。	
				実績													
		<指標の計算方法>		市営墓地公墓区画数													
	成果指標	改葬許可件数		件	目標											現在使用している紀の川市内の墓地から遺骨を移動させる必要が生じた際、申請に基づいて改葬許可証を発行している。	
				実績	41		63		51								
		<指標の計算方法>		改葬許可件数													
			目標														
			実績														
<指標の計算方法>																	
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳												
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
	1,912												29		1,883		
事業の実績	①市営墓地運営 ・墓地、納骨堂又は火葬場経営等の許可及び変更・廃止許可申請 0件 ・市営墓地の承継 8区画 ・矢倉墓地 4区画 ・小坂墓地 3区画 ・王子墓地 1区画 ・改葬許可申請 51件(137名分) 埋葬した死体を他の墳墓に移し、又は埋蔵し、若しくは収蔵した焼骨を、他の墳墓又は納骨堂に移すために市町村長が許可 ・市営墓地台帳更新整備 ・使用者調査票の送付、とりまとめ ・連絡先不明区画への立て札設置、回収 ・墓地台帳の入力、更新				・修繕工事 0件 ・墓地区画整備 0区画 ・市営墓地草刈業務委託 6回 ・矢倉墓地(進入路) 1回 ・矢倉墓地(地内) 1回 ・小坂墓地(夏季) 1回 ・小坂墓地(冬季) 1回 ・那賀第2墓地 1回 ・那賀斎場跡地 1回												
	②市営墓地施設管理																
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない													
		・市営墓地内を適切に清掃管理して良好な状態に保つことは、快適な環境維持及び生活衛生の向上と密接に結びついている。 ・墓地経営には持続性・非営利性が求められることから、市(地方公共団体)が市営墓地の経営を行うことは、安定的な墓地経営に取り組むうえで妥当である。															
	有効性	評価結果		改善の余地がややある													
		・市営墓地の維持管理は、適切な管理運営のために不可欠である。 ・墓地管理台帳の完成後も、墓地使用者が安心して快適な環境で墓所を永続的に使用できる体制づくりの継続的な検討が必要である。 ・公募による市営墓地空き区画の使用を目指すうえで、日々の維持管理・台帳更新を適宜実施していくことは有効である。															
効率性	評価結果		改善の余地がややある														
	・墓地の維持管理に必要な不可欠な草刈・修繕を実施しており、実施費用は可能な限り削減されたものである。 ・市営墓地の運営全般について、今後の業務効率を考慮した検討が必要である。																

事務事業の概要	事務事業名		五色台広域施設組合事業				担当課		環境衛生課		事業区分		一部事務組合		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	819
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	4	都市基盤・生活環境				
	予算科目	款	4	衛 生 費					施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		項	1	保健衛生費					基本施策	1	快適な生活環境の維持と地球温暖化対策の推進				
目		6	環境衛生費			取組方針			3	生活衛生の向上					
事業概要		市民が滞りなく葬祭、火葬を行えるように、五色台広域施設組合の運営に参画する事業													
事務事業を構成する細事業	①	五色台広域施設組合負担金				⑤					⑨				
	②					⑥					⑩				
	③					⑦					⑪				
	④					⑧					⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	火葬件数（紀の川市管内）	件	目標						令和6年度は令和4年及び5年度の実績値を上回る件数で推移した。	
				実績	896	851	913				
				<指標の計算方法> 五色台聖苑にて実施した紀の川市管内の火葬件数							
	成果指標	火葬件数（五色台聖苑全体）	件	目標						令和6年度は令和5年度をわずかに上回る実績値で推移した。これは紀の川市の火葬件数が増加したことによるものである。	
				実績	1,716	1,659	1,712				
				<指標の計算方法> 五色台聖苑にて実施した火葬総件数							
	成果指標	葬祭件数（紀の川市管内）	件	目標						令和6年度は令和5年度と同程度の実績値で推移した。	
				実績	28	28	29				
				<指標の計算方法> 五色台聖苑にて実施した紀の川市管内の葬祭件数							
成果指標	葬祭件数（五色台聖苑全体）	件	目標						令和6年度は令和5年度と比べ20%程度の減少で推移した。これは紀の川市以外の構成市町の葬祭件数が減少したことによるものである。		
			実績	221	230	207					
			<指標の計算方法> 五色台聖苑にて実施した葬祭総件数								

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	67,854							67,854

事業の実績	①五色台広域施設組合負担金 ・紀の川市負担金 67,854,000円 ・紀の川市負担率 54.69%		・均等割（15%） 15×1/3＝5.00% 紀の川市 1/3、海南市 1/3 紀美野町 1/3	
	(内訳) ・管理運営負担金(負担率54.77%) 119,265,000円×(28.44%+26.33%) ＝65,322,000円 ・人口割（50%） 50%×56.98%＝28.44% 令和5年9月末住基人口（104,735人） 紀の川市 59,572人、海南市 37,189人 紀美野町 7,974人 ・使用割（50%） 50%×52.66%＝26.33% 令和4年度使用件数（1,637件） 紀の川市 862件、海南市 611件 紀美野町 164件 ・施設建設負担金（負担率52.64%） 4,810,000円×(5.00%+47.64%) ＝2,532,000円		・人口割（85%） 85%×56.05%＝47.64% 令和2年国調人口（104,935人） 紀の川市 58,816人、海南市 37,863人 紀美野町 8,256人 ・参与会 3回 （R6.6.24、R6.11.5、R7.1.29） ・管理者会 3回 （R6.7.10[臨時]、R6.11.27、R7.2.13）	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・市内に火葬を行う施設がなく、五色台聖苑で執り行っていることから、五色台広域施設組合が適正に運営されるよう、負担金を支出して事業経営に参画することは妥当である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がない													
		・市内に火葬を行う施設がなく、五色台聖苑で執り行っていることから、五色台広域施設組合が適正に運営されるよう、負担金を支出して事業経営に参画することは有効的である。														
	効率性	評価結果	改善の余地がない													
		・市内に火葬を行う施設がなく、五色台聖苑で執り行っていることから、五色台広域施設組合が適正に運営されるよう、負担金を支出して事業経営に参画することは効率的である。														

事務事業の概要	事務事業名		ごみ適正排出推進事業				担当課		廃棄物対策課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	828	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	4	都市基盤・生活環境				
	予算科目	款	4	衛 生 費					施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		項	2	清 掃 費					基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理				
目		1	清掃総務費			取組方針			1	ごみの減量や資源化の推進					
事業概要		市が効率的にごみ処理ができるように、市民にごみの適正な処理・排出方法の啓発や周知を行う事業													
事務事業を構成する細事業	① 指定ごみ袋作成管理				⑤ 資源ごみ持ち去りパトロール				⑨						
	② 啓発物資作成（カレンダー等）				⑥				⑩						
	③ 啓発活動				⑦				⑪						
	④ ごみ集積施設設置補助金				⑧				⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	ごみ集積所箇所数	箇所	目標	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	宅地開発に伴って設置した数が集約した数を上回ったことにより、集積所数が増加した。	
				実績	2,649	2,624	2,628				
		<指標の計算方法> ごみ集積所の箇所数									
	成果指標	ごみ集積所設置補助基数	基	目標	50	50	50	50	50	令和5年度に比べ補助基数も増加し、それに伴い交付した補助金額も上回った。	
				実績	24	20	22				
		<指標の計算方法> 補助金交付を行った集積所ボックス新設・修繕基数（目標：建て替え修繕30基/年、集約新設20基/年）									
	活動指標	資源ごみパトロール回数	回	目標	80	80	80	80	80	令和5年度は災害等もあり例年に比べ回数が減少したが、令和6年度は例年並みの回数となった。	
				実績	67	52	63				
		<指標の計算方法> 資源ごみパトロール回数									
成果指標	ごみ資源化率	%	目標	13	13	13	13	13	民間リサイクル事業の推進が進んでいるため、民間に資源ごみが流れている状況も考えられることから減少傾向にある。		
			実績	10.8	10.8	10.2					
	<指標の計算方法> ごみ資源化量÷ごみ処理量（集団回収量を含む、事業系ごみは除く）										

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
58,554									58,554

事業の実績	①指定ごみ袋作成管理 ごみ袋を作成しました。 ・家庭用もやす(大) 1,950,000枚 ・家庭用もやす(小) 770,000枚 ・家庭用資源(大) 280,000枚 ・家庭用資源(小) 280,000枚				力依頼を行いました。							
	②啓発物資作成（カレンダー等） 家庭用ごみ収集日程表(カレンダー)を作成し、各家庭に配布しました。 ・印刷部数 27,500部				④ごみ集積施設設置補助金 各自治区から申請のあったごみ集積施設設置費用の1/2の補助を行いました。 （新設 18基、建替 1基、改修 3基） 上記のうち、ごみ集積施設集約化設置補助3地区（粉河 3地区 8基）							
	③啓発活動 ・出前講座開催数 2回 ふれあい収集事業や小学生を対象にごみの分別方法・リサイクルの啓発を行いました。 ・集約化協力依頼通知 64地区 ごみ集積所の集約化に向けて、集約化が進んでいない自治区に対し、集約化の協				⑤資源ごみ持ち去りパトロール ・パトロール回数 63回 ・パトロール実施日数 27日 ・パトロール実施者数 125人							

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・廃棄物処理法では、一般廃棄物の処理は市町村の責務であると規定されており、ごみの適正な処理及び排出方法やごみの排出量の抑制、ごみ集積所の集約化は一般廃棄物処理基本計画に基づいて取り組むもので、市で実施すべきものであり、啓発、周知を行うことは妥当である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がややある													
		・ごみの分別について、「ごみの出し方ルールとマナー」やごみ収集カレンダー等で周知を行っており、家庭から出るごみの適正排出及び資源の有効活用につながっている。しかし、未だ分別不十分なごみの排出が発生しているため、引き続き市民への周知を行っていく必要がある。 ・出前講座による啓発活動は市民の分別意識の向上に有効であると考えられるので、引き続き実施し、ごみ資源化率の向上に努めていく必要がある ・ごみ集積所の集約は市民の理解と協力が不可欠であるため、区長会等を通じて集約の依頼を行っている。しかし、依然として地域によって集約状況に格差が生じているため、市民の理解と協力を得られるよう引き続き推進していく必要がある。														
効率性	評価結果	改善の余地がややある														
	・ごみ集積所の集約化はごみ収集の効率化や費用抑制に繋がるものであり、市民の理解と協力が不可欠なため、引き続き推進していく必要がある。															

事務事業の概要	事務事業名				ごみ対策事業				担当課		廃棄物対策課			事業区分		ソフト事業								
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		829					
	会計				一般会計				長期総合計画体系		政策目標		4		都市基盤・生活環境									
	予算科目				款		4				衛生費													
					項		2				清掃費													
					目		1				清掃総務費													
	事業概要				市が循環型社会の構築に寄与するために、一般廃棄物処理計画に基づく施策の推進を行う事業																			
	事務事業を構成する細事業				① 廃棄物処理業許認可業務				⑤								⑨							
					② 一般廃棄物処理計画進行管理				⑥								⑩							
					③ 汚染負荷量賦課金負担金				⑦								⑪							
④					⑧								⑫											

指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
	活動指標	事業系一般廃棄物収集量		トン	目標	1,600		1,600		1,600		1,600		1,600		近年、ほぼ横ばいで推移している。
		実績			1,741.19		1,758.3		1,727.79							
		<指標の計算方法>		事業系一般廃棄物を収集運搬許可業者が収集し、紀の海クリーンセンターへ搬入した量												
					目標											
		実績														
		<指標の計算方法>														
					目標											
		実績														
		<指標の計算方法>														
				目標												
	実績															
	<指標の計算方法>															

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳											
	133				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
133																

事業の実績	①廃棄物処理業許認可業務 ・一般廃棄物処理業許可更新 5件															
	②一般廃棄物処理計画進行管理 紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画を策定し、告示しました。															
③汚染負荷量賦課金負担金 公害健康被害の補償等に関する法律に基づき、公害健康被害者への補償給付等のための負担金を支払いました。 71,000円																

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない														
		・紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の策定や汚染負荷量賦課金負担金の支払いは各法で定められていることから、市で実施することは妥当である。															
	有効性	評価結果	改善の余地がややある														
		・紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の策定や汚染負荷量賦課金負担金の支払いについて、各法で定められているとおり適正に処理できている。 ・一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の見直し検討は、ごみの効率的な収集・処理を行うことで、より適切な家庭ごみの処理・リサイクルが可能になり今後も引き続き行っていく必要がある。															
	効率性	評価結果	改善の余地がややある														
		・一般廃棄物の処理は、廃棄物処理法において市町村の責務とされていることから、ごみ処理事業(収集運搬も含む)は、適正かつ効率的な運営に取組む必要がある。															

事務事業の概要	事務事業名		最終処分事業				担当課		廃棄物対策課		事業区分		ソフト事業		
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1068				
	会計		一般会計				政策目標		4		都市基盤・生活環境				
	予算科目	款	4		衛 生 費		施策目標		2		生活環境・環境保全・循環型社会				
		項	2		清 掃 費		基本施策		2		ごみや資源物の効率的な収集・処理				
		目	1		清掃総務費		取組方針		4		ごみの適正処理				
	事業概要		市が最終処分場の整備や確保を進めるために、関連団体の運営に参画する事業												
	事務事業を構成する細事業		①	大阪湾広域廃棄物埋立処分場建設工事負担金				⑤					⑨		
			②					⑥					⑩		
			③					⑦					⑪		
④							⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
	活動指標	最終処分量		トン	目標	2,565	2,535	2,505	2,475	2,445	市民のごみ分別意識の向上による生活ごみ排出量の減少が要因と考えられる。				
		実績			2,255	2,295	2,063								
		<指標の計算方法>		焼却灰、不燃粗大ごみ、ばいじん量											
					目標										
		実績													
		<指標の計算方法>													
					目標										
		実績													
		<指標の計算方法>													
				目標											
	実績														
	<指標の計算方法>														
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳										
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
				2,588							2,588				
事業の実績	①大阪湾広域廃棄物埋立処分場建設工事負担金														
	・上半期分 1,553,000円 ・下半期分 1,035,000円														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない												
		・一般廃棄物の処理は廃棄物処理法において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正かつ能率的に運営するよう努めなければならない事が定められており、処分場を確保しなければならないため、大阪湾広域臨海環境整備センターで実施することは妥当である。													
	有効性	評価結果	改善の余地がない												
		・複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度で効率的な処理や環境負荷の軽減が可能となるため有効である。													
	効率性	評価結果	改善の余地がない												
・国土交通省、港湾管理者が主体となる事業であり、市町村や府県域を超えた関係者が共同で利用することができる廃棄物の最終処分場を確保し、圏域全体の長期的で安定的な廃棄物の処分を図ることができ、かつ、民間の処分場と比較すると安価で処分することができることから、コスト面において効率的である。															

事務事業の概要	事務事業名		紀の海広域施設組合事業				担当課		廃棄物対策課		事業区分		一部事務組合					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		830	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		4		都市基盤・生活環境					
	予算科目	款	4		衛 生 費				施策目標		2		生活環境・環境保全・循環型社会					
		項	2		清 掃 費				基本施策		2		ごみや資源物の効率的な収集・処理					
目		1		清掃総務費		取組方針			4		ごみの適正処理							
事業概要		市民が滞りなくごみ処理を行えるように、紀の海広域施設組合の運営に参画する事業																
事務事業を構成する細事業	①	紀の海広域施設組合負担金				⑤					⑨							
	②					⑥					⑩							
	③					⑦					⑪							
	④					⑧					⑫							

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	活動指標	もやすごみ処理量	トン	目標						令和5年度実績と比較すると、403t (2.7%) 減少している。分別意識向上の成果や、人口減少に伴う生活ごみ排出量の減少が要因と考えられる。		
				実績	15, 102	14, 827	14, 424					
		<指標の計算方法>		年間処理量								
	活動指標	資源ごみ処理量	トン	目標						令和5年度実績と比較すると、50t (4.2%) 減少している。民間での資源品回収・リサイクルの推進に伴い搬入量が減少しているものと考えられる。		
実績				1, 238	1, 194	1, 144						
<指標の計算方法>		年間処理量										
活動指標	粗大ごみ処理量	トン	目標						令和5年度実績と比較すると、51t (4.3%) 増加している。近年増加傾向にあり、家の片付け等が増えていることが一つの要因と考えられる。			
			実績	1, 177	1, 192	1, 243						
	<指標の計算方法>		年間処理量									
活動指標	埋立ごみ処理量	トン	目標						令和5年度実績と比較すると、10t (9.6%) 減少している。人口減少に伴う生活ごみ排出量の減少も要因と考えられる。			
			実績	103	104	94						
	<指標の計算方法>		年間処理量									

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	390, 174							390, 174

事業の実績	①紀の海広域施設組合負担金		◎ 災害復旧負担金、市負担率 ・ 災害復旧負担金(公債費) 10, 490, 000円(48.35%) ※熱回収施設管理運営負担割合 均等割 10% 人口割 20% 処理量割 70%	
	◎ 施設管理運営負担金、市負担率 ・ 熱回収施設 234, 629, 000円(48.35%) ・ リサイクル施設 135, 734, 000円(82.33%) ・ 洗車施設 2, 437, 000円(50.42%) ※管理運営負担割合 均等割 10% 人口割 20% 処理量割 70%		◎ 施設建設負担金、市負担率 周辺整備 ・ 熱回収施設 6, 884, 000円(45.94%) ※建設負担割合 均等割 15% 人口割 50% 処理量割 35%	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・ 一般廃棄物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に効率的に運営することに努めなければならないことが定められている。複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度かつ効率的な処理、また環境負荷の低減及びごみ処理コストの縮減が可能となることから、紀の海広域施設組合で実施することは妥当である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
・ 一般廃棄物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に効率的に運営することに努めなければならないことが定められている。複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度かつ効率的な処理、また環境負荷の低減及びごみ処理コストの縮減が可能となることから、紀の海広域施設組合で実施することは有効である。				
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・ 一般廃棄物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に効率的に運営することに努めなければならないことが定められているが、複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度かつ効率的な処理、また環境負荷の低減及びごみ処理コストが縮減となり効率的である。			

事務事業の概要	事務事業名		ごみ収集事業				担当課		廃棄物対策課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		821		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		4		都市基盤・生活環境						
	予算科目	款	4		衛 生 費				施策目標		2		生活環境・環境保全・循環型社会						
		項	2		清 掃 費				基本施策		2		ごみや資源物の効率的な収集・処理						
目		2		塵芥処理費		取組方針			1		ごみの減量や資源化の推進								
事業概要			市民が衛生的な生活を送れるように、市民、企業等が排出したごみの収集を行う事業																
事務事業を構成する細事業	①		ごみ収集（もやす・資源）				⑤		ごみ出し困窮家庭支援				⑨						
	②		ごみ収集（粗大）				⑥		ごみ収集車管理				⑩						
	③		ペットボトル拠点回収				⑦		ごみ収集事務所施設管理				⑪						
	④		廃油回収				⑧						⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	成果指標	1人1日当たりのごみ搬出量		g	目標	780		780		780		780		780		令和4年度から連続して減少している。市民のごみ減量に対する意識が高まっているため、家庭から排出されるごみの量が減少したと考えられる。			
		実績			807		797		789										
	＜指標の計算方法＞		ごみの総排出量÷365日÷人口																
	成果指標	もやすごみ収集体量		トン	目標	16,600		16,400		16,200		16,000		15,800		分別についての細分化に伴い、収集体量が適正化されるとともに年々減少傾向にあり、例年目標値は達成されている。			
		実績			15,102		14,827		14,424										
	＜指標の計算方法＞		もやすごみ収集体量																
	成果指標	資源ごみ収集体量		トン	目標	1,490		1,480		1,480		1,480		1,480		分別についての細分化に伴い、収集体量が適正化されているように見えるが、民間でのリサイクルの推進が進んでいるため、民間に資源ごみが流れている状況も考えられる。			
		実績			1,238		1,194		1,144										
	＜指標の計算方法＞		資源ごみ収集体量																
成果指標	粗大ごみ収集体量		個	目標	5,700		5,700		5,700		5,700		5,700		各家庭から直接、紀の海クリーンセンターへの搬入が増加し、個別収集は減少傾向にある。				
	実績			5,077		5,243		4,702											
＜指標の計算方法＞		粗大ごみ戸別回収収集個数																	
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	263,233								4,300				76,223		182,710				
事業の実績	①ごみ収集（もやす・資源） ・年間収集日数 258日 ・ペットボトルの収集回数を、月1回から2週間に1回に変更した。 ・テールゲートリフター特別教育 24人				⑤ごみ出し困窮家庭支援（ふれあい収集） ・令和6年度申請件数 15件（累計70件） ・利用件数 32件（令和6年度末）														
	②ごみ収集（粗大） 粗大ごみ戸別回収実績 ・収集件数 1,561件 ・収集個数 4,702個 ・うち17個をリユース品として産業まつりにて無償提供した。				⑥ごみ収集車管理 ・収集車両購入 購入額 2tパッカー車 1台 7,975,000円 ・収集車両売却 売却額 2tパッカー車 1台 1,200,000円 3tパッカー車 1台 835,000円 軽箱バン 1台 50,000円														
	③ペットボトル拠点回収 ・拠点回収箇所 36箇所				⑦ごみ収集事務所施設管理 令和6年4月1日から、ごみ収集業務を一元化した収集事務所の運用を開始した。 ・重機類等修繕 78,177円														
	④廃油回収 ・廃油回収量 4,536ℓ																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・一般廃棄物の処理等に関しては、法令等により市で行わなければならないため妥当である。 ・市民の生活環境の維持及び限られた資源の有効活用を図るため、「ごみの出し方ルールとマナー」をもとに、分別を徹底し、排出量の抑制や効率化等を図るうえで必要な事業である。 ・高齢化等によるごみ出し困窮家庭に対する支援策について、全国的に高齢化社会に対応した廃棄物処理体制にシフトしていく必要性が生じているため、令和4年度から紀の川市ふれあい収集事業を実施している。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がややある															
		・ごみの排出量は年々減少傾向にあり、ごみの排出抑制の効果は見受けられている。令和2年度には新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛などの影響から家の片付けをする人が多くなったことにより、直接、紀の海クリーンセンターへ持ち込まれる粗大ごみなどの量が一時的に増加したが、令和3年度以降は例年並みに減少している。 ・ごみの排出抑制に向けた取組は、ごみ収集業務に携わる職員に年数回研修を行い、スキルの向上を図っている。また、今後はより一層講習会及び研修会を受講及び実施し、より一層住民サービスの向上を図りたい。 ・令和6年度からペットボトルの収集回数を増加し、ペットボトルの消費量及び収集体量の増加に対応するとともに、市民のごみ排出機会に対する利便性を向上させた。																	
効率性	評価結果		改善の余地がややある																
	・ごみ収集業務を民間委託しても必ずしもコストダウンに繋がらない。さらに、住民サービスの低下に繋がる可能性があり、費用対効果を含めて慎重に検討していく必要がある。 ・効率性及び人件費を含めたコスト削減について、様々な点に考慮しながら、収集計画及び収集体制の見直しを検討していく必要がある。																		

事務事業の概要	事務事業名			廃棄物処理施設跡地管理事業				担当課		廃棄物対策課			事業区分		ソフト事業						
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1147			
	会計			一般会計						政策目標		4		都市基盤・生活環境							
	予算科目	款	4	衛 生 費						施策目標		2		生活環境・環境保全・循環型社会							
		項	2	清 掃 費						基本施策		2		ごみや資源物の効率的な収集・処理							
		目	2	塵芥処理費						取組方針		9		その他							
	事業概要			市で運営していた一般廃棄物処理施設の跡地を適正かつ安全な管理を行う事業																	
	事務事業を構成する細事業			①	旧施設管理				⑤					⑨							
				②					⑥					⑩							
				③					⑦					⑪							
④								⑧					⑫								
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析					
		跡地管理施設箇所数	箇所	目標		2		2		3		1		1		新収集事務所の移転に伴い、令和5年度より跡地管理施設が増加した。					
				実績		2		2		3											
		<指標の計算方法>		跡地管理施設箇所数																	
				目標																	
				実績																	
		<指標の計算方法>																			
				目標																	
				実績																	
		<指標の計算方法>																			
		目標																			
		実績																			
<指標の計算方法>																					
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源						
				474												474					
事業の実績	①旧施設管理 ・雑草等刈取作業委託 麻生津中地内5,231㎡ 委託金額 100,632円 ・河川水測定分析 (2箇所) 旧粉河クリーンセンター、旧貴桃クリーンセンター 各年2回 委託金額 373,340円																				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																		
		・市の廃棄物処理施設の跡地管理は市が責任を持って安全かつ適正に管理する必要があり妥当である。																			
	有効性	評価結果	改善の余地がない																		
		・市の廃棄物処理施設の跡地管理は、周辺地域の環境及び景観の悪化など、安全かつ適正に継続事業として取り組む必要がある。																			
	効率性	評価結果	改善の余地がややある																		
		・市の廃棄物処理施設の跡地を今後も長期間にわたり安全かつ適正に管理していくにあたり、草刈り等の委託可能業務について、外部委託することで効率的に業務を進めている。																			

事務事業の概要	事務事業名		し尿処理事業				担当課		那賀支所		事業区分		ソフト事業	
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		817			
	会計		一般会計				政策目標		4		都市基盤・生活環境			
	予算科目	款	4 衛 生 費				施策目標		2		生活環境・環境保全・循環型社会			
		項目	2 清 掃 費				基本施策		3		適切な生活排水対策の推進			
事業概要		市民が衛生的な生活を送れるように、那賀地区のし尿の収集を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①		し尿収集				⑤				⑨			
	②		し尿処理収集車管理				⑥				⑩			
	③						⑦				⑪			
	④						⑧				⑫			
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析			
		し尿汲取り件数	件	目標		4, 500	3, 900	3, 800	3, 800	3, 700	合併浄化槽の普及や人口の減により減少傾向にある。			
				実績		3, 997	3, 881	3, 836						
	<指標の計算方法>		し尿汲取り件数											
	活動指標	し尿収集車保有台数	台	目標		4	4	4	4	4	老朽化した車両を入れ替え、4台を維持する。			
				実績		4	4	4						
		<指標の計算方法>		し尿収集車保有台数										
	成果指標	収集使用料滞納件数	件	目標		0	0	0	0	0	滞納者なしを維持する。			
				実績		0	0	1						
		<指標の計算方法>		収集使用料滞納件数										
			目標											
			実績											
	<指標の計算方法>													
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳									
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
	35, 156						15, 100		20, 056					
事業の実績	①し尿収集 (し尿汲取り件数) ・一般(普通)便槽：3, 249件 ・合併浄化槽：391件 ・単独浄化槽：196件 (那賀衛生環境整備組合処理量) ・生し尿：1, 378. 75k1 ・浄化槽汚泥：1, 783. 33k1													
	②し尿処理収集車管理 ・4台 (3トン車2台、2トン車2台)													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・地域住民・企業等の浄化槽清掃・維持管理の為、し尿収集業務を行い、公衆衛生の向上に努める。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
		・地域住民・企業等の浄化槽のし尿収集申込に対し、迅速に対応することにより満足度が高く、衛生的な生活環境を満たしている。												
	効率性	評価結果	改善の余地がややある											
・現状の実績等からすれば、人員については適正と考える。申込に対する電話対応は、支所職員全員で行なっている。 ・収集体制は、地域の実情を把握し、適正な料金設定が必要と考えられる。														

事務事業の概要	事務事業名		し尿くみ取り料補助事業				担当課		環境衛生課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1238	
	会計		一般会計								政策目標		4		都市基盤・生活環境			
	予算科目	款	4		衛 生 費						施策目標		2		生活環境・環境保全・循環型社会			
		項	2		清 掃 費						基本施策		3		適切な生活排水対策の推進			
		目	3		し尿処理費						取組方針		2		し尿の適正処理			
	事業概要		市内に居住する者のし尿便槽（浄化槽を除く）が雨水や河川氾濫等の災害により浸水した場合に限り、その被災世帯に対し、補助金の交付を行う事業															
			①		し尿くみ取り料補助金				⑤						⑨			
	事務事業を構成する細事業		②						⑥						⑩			
			③						⑦						⑪			
		④						⑧						⑫				
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
	活動指標	くみ取り料金補助件数	件		目標												令和6年7月、11月の豪雨によるくみ取り世帯の浸水被害により、くみ取りを要する世帯が発生し補助を行った。令和6年度は浸水を伴う災害が少なかったため補助件数は減少している。	
			実績				63		2									
			<指標の計算方法> くみ取り料金補助件数															
					目標													
					実績													
	<指標の計算方法>																	
					目標													
					実績													
	<指標の計算方法>																	
				目標														
				実績														
<指標の計算方法>																		
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳													
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	10														10			
事業の実績	①し尿くみ取り料補助金 ・1世帯につき、5,000円を限度に補助 ・地区別・補助件数・補助金額 ・打田地区 0件 0円 ・粉河地区 2件 10,000円 ・那賀地区 0件 0円 ・桃山地区 0件 0円 ・貴志川地区 0件 0円 計 2件 10,000円																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・し尿をくみ取ることにより、公共用水域の水質汚濁を防止するとともに、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図り、市民が快適で衛生的な生活が行えるようにすることを目的としている。 ・浸水被害により被災した世帯に対し補助金を交付することは、くみ取り料金の費用負担の軽減を図る災害支援となり、市で実施することは妥当である。														
	有効性	評価結果		改善の余地がない ・災害に対する補助であるため、浸水被害を把握し浸水したことによりくみ取りを実施した世帯に対し、補助金を交付する災害支援は有効である。 ・紀の川市職員マニュアルや被災受援計画シートに掲載し、災害が発生した場合、市職員が迅速に対応できるように準備することは有効である。														
	効率性	評価結果		改善の余地がない ・今後も災害支援の補助として、浸水被害が発生した場合、広報紙やホームページなどに掲載することで市民に周知し、啓発を進め、対象となる世帯に対し一日でも早く補助金を交付できるように努めることが効率的である。														

事務事業の概要	事務事業名		那賀衛生環境整備組合事業				担当課		環境衛生課		事業区分		一部事務組合		
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		
	会計		一般会計										事業番号		
	予算科目	款	4	衛 生 費						政策目標		4	都市基盤・生活環境		
		項目	2	清 掃 費						施策目標		2	生活環境・環境保全・循環型社会		
目		3	し尿処理費						基本施策		3	適切な生活排水対策の推進			
事業概要		市民が衛生的な生活を送れるように、那賀衛生環境整備組合の運営に参画する事業													
事務事業を構成する細事業			①	那賀衛生環境整備組合負担金				⑤					⑨		
			②					⑥					⑩		
			③					⑦					⑪		
			④					⑧					⑫		

指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
		し尿搬入量		kl	目標	17, 100	16, 800	16, 200	15, 600	15, 600		
		実績			15, 410. 26	14, 888. 46	14, 171. 17					
		<指標の計算方法>		し尿搬入量								
	活動指標	浄化槽汚泥搬入量		kl	目標	21, 900	21, 900	21, 900	21, 900	21, 900	合併処理浄化槽へ転換する世帯が増加すると考えられることから増加すると予想される。	
		実績			21, 265. 64	21, 749. 38	22, 118. 05					
		<指標の計算方法>		浄化槽汚泥搬入量								
				目標								
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	223, 714							223, 714

事業の実績	①那賀衛生環境整備組合負担金		紀の川市 36, 676kl、岩出市 25, 918kl	
	・紀の川市負担金 223, 714, 000円 ・紀の川市負担率 55. 05% (交付税算入分を除く)			
事業の実績	(内訳)			
	・均等割 (20%) 406, 420, 000円×20%×1/2=40, 642, 000円 紀の川市 1/2、岩出市 1/2			
事業の実績	・人口割 (30%) 406, 420, 000円×30%×52. 50% =64, 011, 000円 令和5年3月末住基人口 (113, 919人) 紀の川市 59, 803人、岩出市 54, 116人			
	・利用割 (50%) 406, 420, 000円×50%×58. 59% =119, 061, 000円 令和4年度処理実績 (62, 594kl)			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・し尿、浄化槽汚泥を適正に処理する処理施設是那賀衛生環境整備組合であり、那賀衛生環境整備組合へ負担金を支出し適正な運営が行われるように経営に参画して実施することは妥当である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がない													
		・し尿、浄化槽汚泥を適正に処理する処理施設是那賀衛生環境整備組合であり、那賀衛生環境整備組合へ負担金を支出し適正な運営が行われるように経営に参画して実施することは有効である。														
効率性	評価結果	改善の余地がない														
	・し尿、浄化槽汚泥を適正に処理する処理施設是那賀衛生環境整備組合であり、那賀衛生環境整備組合へ負担金を支出し適正な運営が行われるように経営に参画して実施することは効率的である。															

事務事業の概要	事務事業名		雇用対策事業				担当課		商工労働課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		64		
	会計		一般会計								政策目標		3		産業・交流				
	予算科目	款	5 労働費								施策目標		2		雇用・就労				
		項目	1 労働諸費								基本施策		1		就労支援の充実と雇用創出の振興				
		1 労働諸費										取組方針		2		労働人材確保と就労の支援			
事業概要			市民の就業を支援するために、職業相談室の開設や運営を行う事業																
事務事業を構成する細事業			① キャリア教育推進事業				⑤ 合同説明会(就職フェア開催事業)				⑨								
			② 地元企業見学事業(バスツアー)				⑥ 紀の川市合同企業説明会				⑩								
			③ ママジョブマルシェ開催事業				⑦ マザーズ就活準備セミナー				⑪								
			④ 地域職業相談室開設事業				⑧				⑫								
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析									
	成果指標	地域職業相談室年間紹介成功率	%	目標	35	35	40	40	40	インターネット活用により窓口での就職相談が減少、よって紹介成功件数も微減となっているが、依然として求職者と雇用者とのマッチングの機会となり就職促進に繋がっている。									
				実績	40.5	38.7	35.6												
	<指標の計算方法>		地域職業相談室で紹介した求人先に就職した割合																
	活動指標	市内実施の企業説明会における参加者数	人	目標	100	100	100	100	100	インターネットによる企業情報の収集が主流となり、全国的に対面による説明会への参加者数が減少している。									
				実績	69	43	49												
	<指標の計算方法>		合同開催した企業説明会参加者に加え、市単独で開催した企業説明会参加者数																
	成果指標	市内実施の企業説明会における市内在住者の内定者数	人	目標	15	15	15	15	15	参加者数の減少に伴い内定者は低水準で推移しており、市内事業者の人材不足が明らかとなっている。									
				実績	2	3	1												
	<指標の計算方法>		合同開催した企業説明会時の内定者に加え、市単独で開催した企業説明会時の内定者数																
			目標																
			実績																
<指標の計算方法>																			
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	601														601				
事業の実績	①キャリア教育推進事業 市内中学校の1、2年生 13クラス363人 打田中学校2年生 8月28日 4クラス121人 粉河中学校2年生 8月29日 3クラス 68人 荒川中学校1年生 12月12日 2クラス 51人 那賀中学校1年生 12月12日 1クラス 38人 貴志川中学校1年生 1月21日 3クラス 85人				④地域職業相談室開設事業 ・ワークサロン貴志川職業相談 職業相談件数 2,147件 紹介件数 663件 就職件数 236件(成功率35.6%)				⑥紀の川市合同企業説明会 開催日 3月14日 13:00～16:00 会 場 打田生涯学習センター 参加企業 10社(全て市内企業) 参加者 6人(市内在住者5人)										
	②地元企業見学事業(バスツアー) 開催日 12月9日 8:15 ～ 12:30 訪問先 ㈱総合車両製作所和歌山事業所 津田工業㈱紀の川工場 参加人数 貴志川高校2年生19人				⑤合同説明会(就職フェア開催事業) ・就職支援セミナー(合同開催) 開催日 10月18日 14:00～15:30 会 場 和歌山県旧県議会議事堂 参加者 11人				⑦マザーズ就活準備セミナー 開催日 3月16日 11:00～12:00 会 場 打田生涯学習センター 参加者 6人(市内在住者5人)										
	③ママジョブマルシェ開催事業 開催日 3月16日 10:00～12:00 参加企業 9企業(全て市内事業者) 参加人数 13人(市内在住13人)				・岩出・紀の川就職フェア 開催日 10月20日 13:00～16:00 会 場 粉河ふるさとセンター 参加企業 31社(市内企業13社) 参加者 30人(市内在住者8人) 募集人員 187人(市内企業募集人員59人) 内定者 3人(市内在住者1人)														
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・雇用施策の充実と拡充について和歌山労働局と雇用対策協定に基づき事業計画を策定しているとともに、市内企業に対する支援策でもあることから市が関与することは妥当である。																	
	有効性	評価結果		改善の余地が大きい															
		・いずれの就職説明会も参加者数が減少しており集客に苦労している。また、企業側も人手不足が引き続き課題となっていることから課題解決には至っていない。 ・参加者数は減少しているが、相談会を経て採用に至っていることから成果は得られている。 ・説明会だけでなくWEB就活など多様化するなか、さらに効果的な手法を検討する必要がある。																	
効率性	評価結果		改善の余地がない																
	・中、高校生を対象とした地元企業への就職の動機喚起事業から高校生へのインキュベーター授業の実施、子育て世帯の女性を対象とした就職説明会など多岐に渡る事業展開であるが、労働局やハローワーク、教育委員会等と連携し効率的なコストパフォーマンスで実施できている。																		

事務事業の概要	事務事業名		働き方改革推進支援事業				担当課		商工労働課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1121	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	3	産業・交流				
	予算科目	款	5	労 働 費					施策目標	2	雇用・就労				
		項	1	労働諸費					基本施策	1	就労支援の充実と雇用創出の振興				
目		1	労働諸費						取組方針	3	多様性のある雇用・職場環境づくりの推進				
事業概要		労働環境の改善と雇用問題に対して、ワークライフバランスの必要性を啓発するとともに、働き方改革への取組を一層強化する事業													
事務事業を構成する細事業	①		一般事業主行動計画策定支援事業				⑤				⑨				
	②		優良取組事例選定事業				⑥				⑩				
	③		副業人材獲得啓発事業				⑦				⑪				
	④						⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
	活動指標	一般事業主行動計画策定事業者数	事業者	目標	5	2	2	2	2	当初計画していた目標件数を達成した。					
				実績	1	1	2								
				<指標の計算方法> 一般事業主行動計画を市の補助により策定した事業者の数											
	成果指標	「くるみん」認定事業者数	事業者	目標	1	1	1	1	1	新たに「くるみん」認定を受けた企業はなかった。					
				実績	0	0	0								
				<指標の計算方法> 実績値による											
				目標											
				実績											
				<指標の計算方法>											
			目標												
			実績												
			<指標の計算方法>												
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳										
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
	762									762					
事業の実績	①一般事業主行動計画策定支援事業														
	申請者 (株)旭洋冷蔵 業 種 倉庫業 社員数 22人(男9人 女13人) 期 間 令和6年4月1日～令和9年3月31日 (3年間)				市内企業に対し副業人材に関する意識調査、及び人材活用に関するセミナーを開催した。 ・アンケート調査 調査対象数 148件 回収数 73件 回収率 49.3% ・副業兼業セミナー 日時 令和7年2月12日 参加者数 20名										
	申請者 (株)アシストプラン 業 種 飲食業 社員数 5人(男1人 女4人) 期 間 令和6年4月1日～令和9年3月31日 (3年間)														
	②優良取組事例選定事業 「くるみん」の認定はなかった。 ③副業人材獲得啓発事業														
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・労働施策において国が推進していることから市の関与は妥当である。											
	有効性	評価結果		改善の余地が大きい ・一般事業主行動計画については、補助制度に関して認知されてきたが、引き続き和歌山労働局と連携し推進していく必要がある。 ・「くるみん」認定は近年取得実績がなく「健康優良企業」認定等、他省庁による企業認定制度が増加していることから、取得を推進する企業認定制度を拡充する必要がある。											
効率性	評価結果		改善の余地がない ・事業経費を最大限抑制しているため効率性は高い。												

事務事業の概要	事務事業名			シルバー人材センター運営支援事業				担当課		商工労働課		事業区分		ソフト事業						
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		726		
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標		3		産業・交流						
	予算科目			款		5				労働費		施策目標		2		雇用・就労				
				項目		1				労働諸費		基本施策		1		就労支援の充実と雇用創出の振興				
			目		1		労働諸費		取組方針		2		労働人材確保と就労の支援							
事業概要			市民（高齢者）の就業機会の創出と生きがいづくりを促進するために、シルバー人材センター、関係機関に運営に対する補助や負担金の支出を行う事業																	
事務事業を構成する細事業			①		シルバー人材センター運営支援事業				⑤						⑨					
			②						⑥						⑩					
			③						⑦						⑪					
			④						⑧						⑫					
指標の実績	成果指標		指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
			加入会員数		人	目標	400		400		400		400		400		岩出市489人 橋本市473人 入会説明会や入会促進チラシの配布により新規入会者は確保出来たが、高齢による退会者も多く横ばいとなった。			
						実績	366		374		372									
	<指標の計算方法>		シルバー人材センターへ入会登録している会員（3月31日時点）																	
	成果指標		加入会員の就業率		%	目標	85		85		85		85		85		岩出市87.5% 橋本市81.1% 会員が希望する業種を受注できたことにより就業率が高まった。			
						実績	72.4		75.4		78.4									
	<指標の計算方法>		会員数に対する就業実人員の割合																	
				目標																
				実績																
	<指標の計算方法>																			
			目標																	
			実績																	
<指標の計算方法>																				
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳															
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
	26,628														26,628					
事業の実績	①シルバー人材センター運営支援事業 ・運営補助金25,900,000円 5月24日 第1回理事会 6月22日 定時総会及び第2回理事会 9月24日 第3回理事会 1月30日 第4回理事会 3月28日 第5回理事会 ・組織概要（R7.3.31現在） 職員10人（事務局長1人/職員2人/嘱託6人/臨時1人） ・会員状況 会員数 372人（男性239人/女性133人） 請負委任会員372人 労働派遣会員136人 ※上記は重複ありの延べ数 会員の平均年齢 74.2才 年会費 4月～9月加入 月2,000円 10月～3月加入 月1,000円 会員の職歴 事務系 96人 技術系 118人 その他 126人				自営業 27人 無職 5人 ・新規会員の入会動機 社会的 64%（男性17人/女性14人） 健康的 16%（男性 5人/女性 4人） 経済的 20%（男性 7人/女性 5人） ・受注状況 請負、委任 2,491件（117,967,083円） 労働派遣 120件（48,966,825円） 計 2,611件（166,933,908円） ・契約状況 公共事業 162件 一般企業 374件 個人 2,075件 計 2,611件 ・就業率 請負、委任 就業人数 224人÷会員数372人=60.2% 労働派遣 就業人数 96人÷会員数136人=70.6%				総合 就業人数294人÷会員数372人=79.0% （請負、委任就業人数224人＋労働派遣就業人数96人－重複就業人数26人=294人） 就業年間延べ人数 27,885人 ・事故発生件数 10件（傷害保険 5件/賠償責任保険 5件） ・デジタル化進捗状況 会員専用サイト「Smile to Smile（スマイルトゥ スマイル）」の登録状況 登録人数194人÷会員数372人 =登録率52.2%											
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・高齢者の自立支援と生きがい対策の一環として行っている福祉的要因を含む就労対策であり、本市の高齢化率を踏まえれば市が関与することが妥当である。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																
		・加入会員数と加入会員の就業率は、掲げている目標値を達成できなかったが、令和5年度実績より女性の会員数及び全体の就業率は微増しており、就業機会の創出に寄与している。 ・定年の延長等により高齢者人口は増加しているが、同時に退会者も増加することから会員数の増加に直接結びつかない現状である。																		
効率性	評価結果		改善の余地がややある																	
	・会員と事務局との事務を効率化する会員専用サイトの更なる登録率の向上が必要である。 ・加入会員数や就業率を高めるため、会員が求める業種を把握する必要がある。																			

事務事業の概要	事務事業名			農業委員会運営事業				担当課		農業委員会事務局		事業区分		内部管理事業	
	新規・継続			継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		811			
	会計			一般会計				政策目標		99		*****			
	予算科目	款	6	農林業費				施策目標		99		*****			
		項	1	農業費				基本施策		99		*****			
	目	1	農業委員会費				取組方針		9		その他				
事業概要			農地の権利移動の許可、転用許可の意見決定業務や「農地等の利用の最適化」に関する業務（農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進）などを行う事業												
事務事業を構成する細事業	① 農業委員会運営				⑤ 許認可事務				⑨						
	② 農地利用最適化推進委員会運営				⑥				⑩						
	③ 農地情報整備管理				⑦				⑪						
	④ 県農業会議負担金				⑧				⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	総会開催	回	目標	12	12	12	12	12	計画どおり月1回の総会を開催することができた。	
		実績		12	12	12					
		<指標の計算方法>		総会開催回数							
	活動指標	農地の権利移動及び転用の審査	件	目標						農地法第3条の権利移動が17件減少、農地法第4条の転用件数が3件減少、農地法第5条の転用許可が7件減少した。	
		実績		217	279	252					
		<指標の計算方法>		農地の権利移動（農地法第3条）及び転用（農地法第4条・第5条）の審査件数							
	活動指標	利用権等貸借設定	件	目標	400	400	400			利用権等貸借設定の設定件数が若干増加した。	
		実績		428	453	475					
		<指標の計算方法>		利用権等貸借設定件数							
活動指標	農地の適正管理指導	件	目標						適正管理の指導件数は、気象条件により変動している。		
	実績		330	323	311						
	<指標の計算方法>		農地の適正管理指導件数								

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
			23, 173		3, 070				20, 103

事業の実績	① 農業委員会運営 総会 12回開催					
	② 農地利用最適化推進委員会運営 ・推進委員会 打田地区 12回開催 粉河地区 12回開催 那賀地区 12回開催 桃山地区 12回開催 貴志川地区 12回開催					
	③ 農地情報整備管理 ・農家台帳等の整備を行った。					
	④ 県農業会議負担金 ・農業委員等に対する講習及び研修、その他農業委員会への支援などを行う和歌山県農業会議に負担金を支出した。					
	⑤ 許認可事務 ・法令等に基づき適正な事務処理を行った。					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない			
		・法定事務であり、市民ニーズや社会環境の変化に影響を受ける事業ではない。 ・耕作者の地位の安定と農業生産の増大を図り、食糧の安定供給の確保を目的に、農地法に基づき農地を農地以外のものにすることを規制し、農地を効率的に利用する耕作者へ権利の取得の促進など農業上の利用を確保するための措置を講じる事業であるため、農業者を代表する公的機関として農業委員会が実施していることは妥当である。				
	有効性	評価結果	改善の余地がない			
		・許認可事務等の処理件数を数値目標として設定することは適していないと考える。 ・農業生産力の向上による農業経営の安定、農地の有効利用など農業経営の健全な発展に寄与するため有効な事業である。				
	効率性	評価結果	改善の余地がない			
・事務処理にかかるコストは、殆どが人件費のため削減の余地はない。 ・許認可事務については、個人情報を含む事務であり、公平性や守秘義務の観点から民間等への委託は適さない。なお、遊休農地の適正管理指導については、民間委託をし、職員の負担を軽減することが可能である。						

事務事業の概要	事務事業名		農業者年金事業										担当課		農業委員会事務局		事業区分		ソフト事業					
													新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1079	
	会計		一般会計										長期総合計画体系		政策目標		99		*****					
	予算科目	款	6	農林業費								施策目標			99		*****							
		項目	1	農 業 費								基本施策			99		*****							
目		1	農業委員会費								取組方針				9		その他							
事業概要			市民（農業者・農業者年金加入者、受給者）が農業者年金に加入し、将来適正に受給し、安定した生活を送ることができるように、加入促進、各種届出の受付を行う事業																					
事務事業を構成する細事業			① 農業者年金加入・相談		⑤								⑨											
			② 資格管理		⑥								⑩											
			③ 農業者年金業務委託手数料		⑦								⑪											
			④		⑧								⑫											
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析								
		新規加入者数	人	目標		8		10		10		10		10		農業委員や推進委員からの情報提供や広報等の制度周知により加入推進を実施した。農業者年金の特徴とメリット等の理解は得られたと思うが、保険料の負担が課題として加入者が目標に至らなかった。								
				実績		5		1		4														
		<指標の計算方法>		県農業会議より割り振りされた数字																				
	活動指標	受給手続説明会開催回数	回	目標		1		1		1		1		1		県農業会議と連携して受給者説明会を計画どおり開催した。								
				実績		1		1		1														
	<指標の計算方法>		受給手続説明会開催回数																					
	活動指標	現況届受付件数	件	目標												対象件数323件全体を受付、受給資格の確認を行った。								
				実績		386		351		323														
	<指標の計算方法>		現況届受付件数																					
活動指標	新年金加入推進PR活動回数（DM発送回数）	回	目標		1		1		1		1		1		加入推進を強化するため、DM発送によるPR活動を実施した。									
			実績		1		1		1															
<指標の計算方法>		新年金加入推進PR活動回数（DM発送回数）																						
コストの実績	R 6年度決算額（単位：千円）				財源内訳																			
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源									
	94														94									
事業の実績	①農業者年金加入・相談 ・農業委員や農地利用最適化推進委員とともに個別訪問を実施し、加入推進を図った。 ②資格管理 ・被保険者の資格及び保険料関係書類の受付や農業者年金受給のための裁定請求の手続きを行った。 ③農業者年金業務委託手数料 ・農業者年金業務委託契約に基づき、独立行政法人農業者年金基金に手数料の請求を行った。																							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																					
		・独立行政法人農業者年金基金法の規定による委託契約に基づく事業で、農業者の老後の安定した生活のために必要な事業であり、妥当性が高いといえる。																						
	有効性	評価結果	改善の余地がない																					
		・加入の相談に適切に対応できるよう農業委員会で制度についての研修を行い、農業委員、農地利用最適化推進委員とともに加入推進を実施している。 ・農業者年金の特徴とメリット等の理解は得られたと思うが、保険料の負担が課題として加入者が目標に至らなかった。																						
効率性	評価結果	改善の余地がない																						
	・独立行政法人農業者年金基金の定めた事務取扱要綱に基づき、適切に事業を実施しており、コスト削減や実施手段の適正化の余地はない。																							

事務事業の概要	事務事業名			農業活動事業				担当課		農業振興課		事業区分		ソフト事業					
	会計			一般会計				新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		805	
	予算科目	款	6	農林業費				長期総合計画体系	政策目標		3	産業・交流							
		項	1	農 業 費					施策目標		1	農業振興・産業振興							
		目	2	農業総務費					基本施策		1	地域の特性を生かした農業振興							
	取組方針								1	魅力ある農業の振興									
事業概要			那賀地方の農業従事者等が活気に満ち、持続可能な安定した農業経営ができるように、協議会への負担金の交付や、様々な普及活動や農業者支援を行う事業																
事務事業を構成する細事業	① 農業振興事務			⑤ クビアカツヤカミキリ防除対策補助金				⑨											
	② 那賀農業改良普及推進協議会負担金			⑥						⑩									
	③ 都市農村交流（民泊）事務			⑦						⑪									
	④ 那賀地方病害虫防除対策協議会負担金			⑧						⑫									

指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
		農業士の新規認定者数	人	目標		3	3	3	3	3	県が認定する農業士は、近年、新規認定を受ける農業士が減少しており、市内農業関係団体へ推薦を依頼するなどの対応が必要である。		
				実績		9	5	2					
		<指標の計算方法>		農業振興と農村社会の活性化を図るため、地域農業の中核者として活動している農業者に対し、県が毎年認定する農業士数									
	農業士の総数	人	目標		120	120	120	120	120	農業士の総数は、新規認定者の減少や年齢要件で解除となった農業士もいるため減少傾向にある。			
			実績		110	105	97						
			<指標の計算方法>		指導農業士、地域農業士、青年農業士の総数								
			目標										
			実績										
			<指標の計算方法>										
		目標											
		実績											
		<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	5,572			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
												5,572		

事業の実績	① 農業振興事務 指導農業士 新規認定 1名 地域農業士 新規認定 1名 青年農業士 新規認定 0名			木の伐採や伐根、ネット被覆等の措置に対して補助金を交付した。														
	② 那賀農業改良普及推進協議会負担金 農業振興や農業改良普及推進のため、那賀地方で構成された協議会に負担金を支出した。			被害状況 39園地231本（桃 21園地143本 スモモ 7園地23本、梅 11園地65本）														
	③ 都市農村交流（民泊）事務 農家民泊施設 4施設			補助件数 28件197本（伐採抜根109本、伐採根覆い87本、ネット被覆1本）														
	④ 那賀地方病害虫防除対策協議会負担金 農業振興や農業改良普及推進のため、那賀地方で構成された協議会に負担金を支出した。																	
	⑤ クビアカツヤカミキリ防除対策補助金 クビアカツヤカミキリの被害を受けた樹																	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																
		・当該事業は、本市を含む那賀地方の農業振興に資するものであるため、市が実施することは妥当であると考え。																	
	有効性	評価結果	改善の余地がややある																
		・農業士数は、年齢要件があるため、認定を受けても一定の年齢に達すると認定解除となり、また新規認定者も減少傾向となっているため、本市の農業振興するうえで農業士数を増加させる必要がある。																	
	効率性	評価結果	改善の余地がない																
・当該事業に要する事業費は、事務費や負担金、補助金であるため、これ以上の削減の余地はないものとする。 ・業務量についても、当該事業の遂行にかかる最低限度であることから、現時点で効率性を改善する余地はないものとする。																			

事務事業の概要	事務事業名		畜産・水産事業				担当課		農業振興課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		808	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		3		産業・交流					
	予算科目	款	6		農林業費				施策目標		1		農業振興・産業振興					
		項	1		農 業 費				基本施策		1		地域の特性を生かした農業振興					
目		2		農業総務費					取組方針		2		農業経営の安定と生産体制の強化					
事業概要			畜産農家に安定した経営をしてもらうために、畜産農家、関係団体に負担金の交付や関連事務を行う事業															
事務事業を構成する細事業	①		畜産振興事務				⑤						⑨					
	②		県畜産協会負担金				⑥						⑩					
	③						⑦						⑪					
	④						⑧						⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	肉用子牛個体登録頭数	頭	目標	50	50	50	50	50	個体登録頭数は、令和6年度が減少に転じた。 一般的に登録数は、飼育コストや市場の需給バランスによって変動する傾向があるものと考えられる。	
				実績	60	117	93				
		<指標の計算方法>		肉用子牛の個体登録を行った頭数							
	活動指標	畜産農家訪問回数	回	目標	12	12	12	12	12	満12月齢に達した飼育牛は、家畜保健衛生所と共に畜産農家を訪問し保留確認している。 保留確認は毎月行うが、該当する飼育牛がない月もあるため年間訪問回数は増減する。令和6年度はほぼ毎月訪問することとなった。	
				実績	10	9	11				
		<指標の計算方法>		牛舎等へ訪問を行った回数							
	成果指標	肉用牛飼養農家数	軒	目標	7	7	6	6	6	令和5年度に畜産農家1戸が高齢化により廃業したが、他の農家では後継者が引継ぎ継続して経営を行っているため現状維持となった。	
				実績	7	6	6				
		<指標の計算方法>		市内で肉用牛を飼養している農家の数							
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	65									65

事業の実績	①畜産振興事務 熊野牛子牛市場出荷頭数 63頭																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										

事務事業の概要	事務事業名		農業振興団体活動支援事業				担当課		農業振興課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		69		
	会計		一般会計																
	予算科目	款	6 農林業費								3 産業・交流								
		項	1 農 業 費								1 農業振興・産業振興								
		目	3 農業振興費								1 地域の特性を生かした農業振興								
							長期総合計画体系				1 魅力ある農業の振興								
	事業概要		農業振興団体の自立を促し、地域農業の振興や活性化を図るために、補助金の交付や団体活動の支援を行う事業																
			① 農業士会補助金				⑤ 生活研究グループ連絡協議会補助金				⑨								
	事務事業を構成する細事業		② 4Hクラブ補助金				⑥ あら川の桃振興協議会補助金				⑩								
		③ 青年農業経営者協議会補助金				⑦ 中国実習生受入協議会補助金				⑪									
		④ 営農研究会補助金				⑧ 軺渚地域活性化実行委員会活動支援				⑫									
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析								
		補助団体の会員数	人	目標		926	926	926	926	926	全体的に会員の高齢化や後継者不足などにより会員数が減少傾向にある。								
				実績		796	782	777											
		<指標の計算方法>		各農業振興団体の会員数総計															
	成果指標	補助団体の活動数	回	目標		164	164	164	164	164	生活研究グループ連絡協議会に加盟する1団体の解散により活動数総計が減少した主な要因である。								
				実績		131	110	94											
		<指標の計算方法>		各農業振興団体の年間活動数総計															
					目標														
	実績																		
	<指標の計算方法>																		
				目標															
		実績																	
	<指標の計算方法>																		
	コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳													
2,983				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		2,983			
事業の実績	①農業士会補助金 補助金額 335,000円 会員数 97人 活動数 21回																		
	②4Hクラブ補助金 補助金額 230,000円 会員数 17人 活動数 8回																		
	③青年農業経営者協議会補助金 補助金額 216,000円 会員数 22人 活動数 4回																		
	④営農研究会補助金 補助金額 283,516円 会員数 8団体 (1,062人) 活動数 11回																		
⑤生活研究グループ連絡協議会補助金 補助金額 545,000円 会員数 7団体 (76人) 活動数 17回																			
⑥あら川の桃振興協議会補助金 補助金額 673,000円 会員数 622人 活動数 19回																			
⑦中国実習生受入協議会補助金 補助金額 700,000円 会員数 4人 活動数 14回																			
⑧軺渚地域活性化実行委員会活動支援 黒豆の収穫体験等のイベント時に運営活動支援を行った。																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・市が団体に対して活動支援補助金を交付することで、それぞれの農業振興団体の主体的活動が活発化することは、団体のみならず地域農業の活性化と農業生産性の向上にもつながるため、市が実施することは妥当であると考えます。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がややある															
		・農業従事者の高齢化や担い手不足などにより会員数は減少傾向にあるが、農業を取り巻く厳しい状況の中では、団体活動を通じて本市の農業振興に一定の効果をもたらしている。 ・会員数を増加させるためにも、定例となっている活動を見直し、新しい事業活動を取り入れるなど、団体活動をより魅力的なものにしていくことが必要である。																	
効率性	評価結果		改善の余地がややある																
	・各団体において、会員数、活動回数、活動内容によって補助金額を見直していく必要がある。 ・団体に自主性を持たせるためにも、事務局を担っている市職員の役割を見直していくことも必要である。																		

事務事業の概要	事務事業名		農業経営安定化事業				担当課		農業振興課		事業区分		ソフト事業	
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	797
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	3	産業・交流			
	予算科目	款	6	農林業費		施策目標			1	農業振興・産業振興				
		項	1	農 業 費		基本施策			1	地域の特性を生かした農業振興				
目		3	農業振興費		取組方針	2			農業経営の安定と生産体制の強化					
事業概要			農業従事者等の融資負担軽減に対する利子補給、ハウス整備に対する補助及び水田活用を推進する経営所得安定対策事業を行い、農業経営の安定化を図る事業											
事務事業を構成する細事業	①		農業経営基盤強化資金利子補給金				⑤		モモせん孔細菌病対策事業補助金		⑨			
	②		生活営農資金利子補給金				⑥		ハウス整備支援事業補助金		⑩			
	③		特別融資制度推進会議運営				⑦		農業再生協議会補助金		⑪			
	④		農業振興資金利子補給金				⑧		経営所得安定対策等事業		⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	生活営農資金利子補給件数	件	目標						平成30年度台風被害による利子補給金の償還期間満了や繰上償還があったため件数が減少した。	
				実績	123	113	71				
		<指標の計算方法>		紀の川市生活営農資金利子補給金交付要綱に基づき利子補給した件数							
	活動指標	ハウス整備支援事業補助件数	件	目標						農業用ハウスの建設については、例年、申請件数に増減がある。	
				実績	10	20	12				
		<指標の計算方法>		補助対象となった事業の件数							
	成果指標	経営所得安定対策等事業交付金の申請者数	人	目標						交付対象外となった農地（撤去できない園芸施設）や農業者数の減少により、令和6年度も申請者数が減少した。	
				実績	637	600	544				
		<指標の計算方法>		経営所得安定対策等事業交付金（水田活用の直接支払交付金）の申請者数							
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	31, 489				5, 643			4, 627	21, 219

事業の実績	①農業経営基盤強化資金利子補給金 1件			整備面積 166. 3a					
	②生活営農資金利子補給金 H30年台風20, 21, 24号対策 59件 R5年台風2号対策 12件			⑦農業再生協議会補助金 農業経営の安定と地域農業の発展に向けた取組をしている紀の川市農業再生協議会に対して補助金を交付した。					
	③特別融資制度推進会議運営 対象となる融資がなかったため会議を開催しなかった。			推進事業補助金 国庫 5, 643千円 市 280千円					
	④農業振興資金利子補給金 H30年台風20, 21号対策 0件			⑧経営所得安定対策等事業 交付申請者数 544名					
	⑤モモせん孔細菌病対策事業補助金 申請件数 0件 受益面積 0ha								
	⑥ハウス整備支援事業補助金 申請件数 12件								

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・農業経営の安定化を図るために農業用施設の整備支援や融資の利子補給を行うことは、長期総合計画の基本計画にも貢献するものであるので妥当といえる。 ・桃の防風ネットの設置や農業用ハウスの整備は、国においても補助制度があるが、採択要件が異なるため重複するものではない。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・モモせん孔細菌病の最も有効的な対策であり生産性の確保につながる桃の防風ネットの設置や台風による甚大な被害を減少し、農業の効率化を高める農業用ハウスの導入は、市が補助金を交付して支援を図ることは有効であるといえる。 ・農業者からの営農計画書の提出を受け、営農状況の把握及び水田台帳の整備や管理ができています。											
	効率性	評価結果	改善の余地がややある										
・要綱に基づき運用しているため、コスト削減等について改善の余地がない。 ・農業用ハウスの整備及び桃の防風ネットは県事業と合わせての補助率であり、負担割合は適正なものとする。 ・経営所得安定対策等事業にあっては、事業対象である水田の筆数が非常に多く業務量も膨大であるため、データ入力や単純作業において会計年度任用職員の任用が必然であり、効率的な活用ができています。また、繁忙期のみ派遣職員を任用するなど検討していく必要がある。													

事務事業の概要	事務事業名		農産物等ブランド推進事業				担当課		農業振興課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	801
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		3	産業・交流			
	予算科目	款	6 農林業費			施策目標			1	農業振興・産業振興					
		項	1 農 業 費			基本施策			1	地域の特性を生かした農業振興					
		目	3 農業振興費					取組方針		4	農を起点としたブランド創出の推進				
事業概要		農業従事者等の新商品の開発、販路開拓の促進及び国内外に向けて効果的に情報発信を行う事業													
事務事業を構成する細事業	① 産業まつり補助金				⑤ 認定ブランド支援事業				⑨						
	② 農産物等販売促進事業				⑥						⑩				
	③ 6次産業化支援事業補助金				⑦						⑪				
	④ 6次産業化スクール				⑧						⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	活動指標	産業まつり来場者数	人	目標	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	令和5年度と同一水準の来場者数であった。目標の来場者数に達していないが、会場、駐車場の規模的に大幅な増加は難しい。		
				実績	0	6,500	6,500					
	<指標の計算方法>		産業まつり会場への来場者数									
	活動指標	農産物等の販売促進イベント実施回数	回	目標	9	10	10	10	10	トップセールスや直売イベント、他部署と連携したイベントの実施回数は令和5年度に及ばなかったが、目標回数は達成できた。		
実績				7	13	11						
<指標の計算方法>		農産物等の販売促進イベント年間実施回数										
成果指標	市認定ブランド商品の販売金額	千円	目標	0	1,925	3,000	4,000	4,500	新たな認定商品が加わり販売金額は増加したが、目標金額を達成できなかった。			
			実績	730	1,136	1,864						
<指標の計算方法>		市認定ブランド商品の販売金額の総額										
成果指標	農産物等の海外輸出金額	千円	目標	0	300,000	320,000	340,000	360,000	管内JAの輸出金額は順調に増加し、目標金額を達成できた。			
			実績	294,054	316,235	354,958						
<指標の計算方法>		管内JA等の海外輸出金額の総額										

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	37,282							37,282

事業の実績	①産業まつり補助金 開催：11/24 場所：貴志川体育館・駐車場 来場者数：6,500人 出店数：54団体 ②農産物等販売促進事業 ■トップセールス ・桃(7/1)、いちじく(8/22)実施 場所：大阪市中央卸売市場 ・柿(9/26)、キウイ・中晩柑(1/27)実施 場所：東京都中央卸売市場大田市場 ■農産物等直売・PRイベント 【紀の川マルシェ】 ・桃(6/19)、苺(3/14)PR販売を実施 場所：大阪駅地下街ディーズスクエア(大阪) 【Peach Aviation(株)】 アジア各国から関西空港に到着した乗客を対象に桃配布PRイベント(6/27)を実施 【森トラスト(株)】 ・ふるさと納税と連携し、いちじく(9/24～26)、柿(10/9～11、10/17～18)PR販売を実施 場所：神谷町・丸の内トラストタワー(東京)				【(株)八芳園交流コンテンツプロデュース】 ・旬の苺を味わうポップアップショールーム「紀の川Strawberry Fair」(3/6～9)を開催 場所：BIRTH LAB(東京)、グランドメゾン品川シーサイドの杜(東京) 【(株)高島屋】 ・高島屋大阪店なんばダイニングメゾン(大阪)の21店舗で桃を使用した期間限定メニューを提供(7/17～30) ・日本橋高島屋S.C.新館・本館レストラン、新館イートイン(東京)の8店舗で八朔を使用した期間限定メニューを提供(2/19～3/4) 【宝酒造(株)】 ・八朔を使用したクラフトチューハイ「寶CR AFT」を発売 【(株)セブンイレブンジャパン】 ・あら川の桃を使用した期間限定スイーツ「もももこ」「しましまドルチェ」を発売 ③6次産業化支援事業補助金 新商品開発や販路開拓に対し補助金を交付				・商品開発 1件 ④6次産業化スクール 2日間集中講座(9/9～10)としてクリエイティブ農家講座を開催。希望者にはオンラインで商品開発等に関する個別相談を実施 ・スクール 参加者数：22名 ・個別相談 参加者数：3名 ⑤認定ブランド支援事業 認定ブランドISSEKIに2商品を新規認定し、展示商談会への出展やPR販売を実施 ・NEW ENERGY TOKYO 2025出展(2/14～16) 場所：国立代々木競技場 第1体育館(東京) ・わかやま紀州館PR販売(7/12～13) 場所：わかやま紀州館(東京) ・エンカルな暮らしPR販売(10/1～3/31) 場所：有楽町マルイ(東京) ・関西交通ネットワーク大商談会出展(2/26) 場所：りそなグループ大阪本社ビル(大阪) ・うめだFRESHマルシェPR販売(3/19～23) 場所：阪急うめだ本店(大阪)			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・市産農産物の認知度を向上させ、ブランド化や産地化の推進を図ることは、農業従事者の生産力および所得向上に繋がるとともに、市の主要産業である農業の振興を図るうえでも市の関与は必要である。 ・農業従事者の多くが出荷するJAわかやまと連携することは、実施主体としても適当である。 ・6次産業化は農産物の価値を高め、農業従事者の所得向上に繋がる取組であるため、市の支援が必要である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がややある													
		・市場や小売店との信頼関係を築くトップセールスや消費者の認知度向上、消費拡大を図る直売イベントの実施は、農業従事者の所得向上に繋がるため、継続して実施することが有効である。 ・国内人口の減少による国内市場の縮小を見据え、引き続き海外販路の拡大に取り組むことが必要である。 ・市認定ブランドへの商品の認定は、6次産業化ビジネスの実践に繋がっているため、引き続き効果的な事業を展開していくことが必要である。 ・商工業者や加工関連会社と連携し、6次産業化ビジネスをより実践しやすい環境にすることが必要である。														
効率性	評価結果	改善の余地がややある														
	・シティプロモーションやふるさと納税、観光施策等と連携し、効率的・効果的な事業を継続して実施することが必要である。 ・市産農産物や市認定ブランドの認知度向上や販路拡大は、業務委託や外部組織の形成により効率化を図っていくことも必要である。															

事務事業の概要	事務事業名		農業経営基盤強化促進事業				担当課		農業振興課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		787		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		3		産業・交流						
	予算科目	款	6 農林業費						施策目標		1		農業振興・産業振興						
		項	1 農 業 費						基本施策		1		地域の特性を生かした農業振興						
目		3 農業振興費						取組方針		3		担い手の確保と育成							
事業概要			意欲ある農業従事者及び新たに就農する青年等の農業経営基礎の確立を図るために、農業経営の改善及び安定化・効率化の促進等の支援を行う事業																
事務事業を構成する細事業	①		農業経営改善計画等認定審査会運営				⑤						⑨						
	②		認定農業者・認定新規就農者支援				⑥						⑩						
	③		農地利用促進				⑦						⑪						
	④		農業経営管理合理化推進事業補助金				⑧						⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	活動指標	農業経営改善計画等認定審査会の開催回数		回	目標	4		4		4		4		4		認定農業者及び認定新規就農者の計画認定申請を受け、認定審査会を年4回開催した。			
		実績			4		4		4										
	<指標の計算方法>			認定農業者及び認定新規就農者の認定機関（法第12条第5項及び第14条の4第3項）である審査会の開催回数															
	成果指標	認定農業者数		人	目標	279		279		279		279		279		高齢化等で認定農業者数が減少傾向にあったが、農業経営管理合理化推進事業補助金の拡充により、農業経営の改善に取り組もうとする意欲のある農業者が認定を申請したことで増加したものと考えられる。			
		実績			253		275		304										
	<指標の計算方法>			市等から農業経営改善計画の認定を受けた農業者数															
	活動指標	農業経営管理合理化推進事業の実施件数		件	目標	40		40		40		60		60		令和5年度から補助内容を拡充したことにより申請件数がさらに増加した。またスマート農機の導入についても増加している。			
		実績			21		53		66										
	<指標の計算方法>			認定農業者等が農業経営改善計画等の目標達成に必要な農業用機械や設備の導入に対して補助金を交付した件数															
			目標																
			実績																
<指標の計算方法>																			
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	17, 863														17, 863				
事業の実績	①農業経営改善計画等認定審査会運営 認定審査会を4回開催																		
	②認定農業者・認定新規就農者支援 農業経営や新規就農への相談対応や支援制度の説明などを随時行った。																		
	③農地利用促進 農用地利用集積計画の公告 12回																		
	④農業経営管理合理化推進事業補助金 農業用機械 57件 農業用設備 5件 スマート農業用機械 4件																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・持続可能な農業を実現させるためには、人と農地の問題を一体的に考える必要がある。さらに地域農業の担い手となる農業者を育成し確保していくためには、市が積極的に関与する必要がある。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がややある															
		・令和5年度より農業経営管理合理化推進事業補助金の拡充を行ったことでさらに申請者数が増加したが、農業経営の強化促進については今後も継続し、実績等による効果検証を行いながら事業展開を図っていく必要がある。																	
効率性	評価結果		改善の余地がややある																
	・新規就農や農業経営支援などで多くの方が相談に来庁され、対応には農業の専門的知識を有した職員が必要である。																		

事務事業の概要	事務事業名		担い手育成支援事業			担当課		農業振興課		事業区分		ソフト事業																						
						新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1129																		
	会計		一般会計							政策目標		3		産業・交流																				
	予算科目	款	6	農林業費							施策目標		1		農業振興・産業振興																			
		項目	1	農 業 費							基本施策		1		地域の特性を生かした農業振興																			
		目	3	農業振興費							取組方針		3		担い手の確保と育成																			
	事業概要																	農業の担い手の確保・育成や、就農後の定着支援など就農者数の増加を目指した取組によって、地域農業の振興を図る事業																
事務事業を構成する細事業			① 親元就農助成金					⑤ 農業次世代人材投資資金の交付				⑨																						
			② 新規就農者受入協議会					⑥				⑩																						
			③ 紀の川アグリカレッジ事業					⑦				⑪																						
			④ 新規就農者育成総合対策事業					⑧				⑫																						
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析																	
	活動指標	担い手育成支援事業審査委員会の開催回数	回	目標		2		2		2		2		2		2		経営開始資金、親元就農助成金の交付を採択するための審査委員会が定期的に開催できている。																
				実績		1		2		2																								
				<指標の計算方法> 経営開始資金、親元就農助成金の採択を審査する審査委員会の年間開催回数																														
	活動指標	研修生受入数	回	目標		3		3		3		3		3		目標値に達していないが、応募状況や選考審査の結果によるものであり、今後も研修生の受入確保に努める必要がある。																		
				実績		5		3		2																								
				<指標の計算方法> 紀の川アグリカレッジ研修生の受入人数																														
	成果指標	経営開始資金の新規採択者数	人	目標		10		10		10		10		10		紀の川アグリカレッジの研修修了生など本市で新規就農した方々から申請が多く、目標値を上回った。																		
				実績		9		7		15																								
				<指標の計算方法> 新規就農者育成総合対策（経営開始資金）の新規採択者数																														
成果指標	親元就農助成金の新規採択者数	人	目標		8		8		8		8		8		年度によって申請者数にばらつきがあるが令和6年度は目標値を下回った。																			
			実績		1		9		1																									
			<指標の計算方法> 親元就農助成金の新規採択者数																															
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																													
					国庫支出金				県支出金				地方債				繰入金				その他				一般財源									
	81, 123								65, 602																15, 521									
事業の実績	①親元就農助成金 ・親元就農助成金の交付 交付対象者数 10名（継続9名、新規1名）																	・事業内容を協議する検討委員会の開催回数 3回																
	②新規就農者受入協議会 ・JAわかやま、紀ノ川農協、市がそれぞれ実施する農業研修機関が連携を図り、一体となって新規就農を希望する研修生の受入れに取り組み、支援を行った。研修生と新規就農者との情報交換会など交流の場を設けた。																	④新規就農者育成総合対策事業 ・経営開始資金等の交付 交付者数 31名（うち新規15名、うち夫婦型1組2名） ・経営発展支援事業補助金の交付 交付者数 4名																
	③紀の川アグリカレッジ事業 ・いちご農家として本市で就農を目指す方を募集し、研修生として受入れを行った。 令和6年度（第3期生） 2名 研修期間 2年間 ・研修を修了し、市内で新規就農した。 令和6年度（第1期生） 4組5名																	⑤農業次世代人材投資資金の交付 ・経営開始型の交付 交付者数 12名（継続者のみ）																
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																														
		・新たな担い手農業者の育成と確保を図る事業であり、長期総合計画の基本施策に適合している。 ・新規就農者の就農初期の不安定な経営を支えるため、国の制度を活用して市が資金の交付等を行う事業であり、市の関与は妥当である。																																
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																														
		・親の農業を継承する者に対して支援を図ることで、農業経営を円滑に継承し地域農業の新たな担い手となることが期待できるため、有効的な事業である。 ・他産業からの就農希望者を積極的に確保するため、引き続き、紀の川アグリカレッジ事業を実施し、令和6年度(第4期生)は3名の受入を決定した。今後も研修生が将来、新規就農者として安定した農業経営ができるよう支援を図る。あわせて、卒業した研修生の経営安定化が図られるように、支援していく必要がある。 ・経営開始資金等の交付については、国の要綱に準じて運用しており、国が事業の有効性を検証して制度の見直しや改善などを行っているため、市の裁量はない。																																
効率性	評価結果		改善の余地がややある																															
	・新規就農希望者や親元就農者からの問合せや相談件数は増加傾向にあり、その対応、助言等の支援、県や関係団体との連携が必要であり、対応できる人員の確保が必要である。																																	

事務事業の概要	事務事業名		地産地消・食育推進事業				担当課		農業振興課		事業区分		ソフト事業															
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		74											
	会計		一般会計								政策目標		3		産業・交流													
	予算科目	款	6 農林業費								施策目標		1		農業振興・産業振興													
		項目	1 農 業 費								基本施策		1		地域の特性を生かした農業振興													
		3 農業振興費										取組方針		1		魅力ある農業の振興												
事業概要			市民に市産農産物を使った健全な食生活を実践してもらうために、地産地消と食育推進の普及啓発を行う事業																									
事務事業を構成する細事業			① 食育推進会議運営				⑤								⑨													
			② 食育フェアの開催				⑥								⑩													
			③ 食育料理教室の開催				⑦								⑪													
			④ 野菜フェスタ参加負担金				⑧								⑫													
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析											
	活動指標	食育料理教室の開催数		回	目標		7		7		7		7		7		令和6年度は私立保育園からの応募がなく西貴志と東貴志保育所の市立2保育所で、開催回数が目標値より少ない結果となったが、開催した教室は大変好評であった。											
		実績			0		5		2																			
		<指標の計算方法>		紀の川市立保育所での親子料理教室の開催回数																								
	成果指標	食育フェア来場者数		人	目標		7,000		7,000		7,000		7,000		7,000		令和5年度と同水準の来場者数であった。目標の来場者数に達していないが、会場、駐車場の規模的に大幅な増加は難しい。											
		実績			0		6,500		6,500																			
		<指標の計算方法>		合同で開催している産業まつりへの集客も含んだ来場者数																								
	成果指標	食育に関心を持っている成年の割合		%	目標		90		90		90		90		90		今回の調査は第4次食育推進計画の中間調査において令和8年度に実施予定。											
		実績					81																					
		<指標の計算方法>		紀の川市食育推進計画におけるアンケート調査結果より算出																								
成果指標	三食規則正しく食べる成年の割合		%	目標		80		80		80		80		80		今回の調査は第4次食育推進計画の中間調査において令和8年度に実施予定。												
	実績					73.8																						
	<指標の計算方法>		紀の川市食育推進計画におけるアンケート調査結果より算出																									
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																							
					国庫支出金				県支出金				地方債				繰入金				その他				一般財源			
	2,735																				10				2,725			
事業の実績	①食育推進会議運営 開催日：令和6年6月26日（水） 内容：前年度実績報告、収支決算報告及び当年度事業計画、収支予算について				②食育フェアの開催 開催日：令和6年11月24日（日） 来場者数：6,500人 取組内容：各種体験ブース ステージイベント等				③食育料理教室の開催 ・親子料理教室 回数：2回（公立2回・私立0回） 参加人数：40人（保護者含む） ・学生生活応援料理教室 開催日：令和6年12月9日（月） 参加人数：16人 ・親子で始めるチャレンジクッキング 1回目開催日：令和7年2月16日（日）				④野菜フェスタ参加負担金 イベント自体が開催されなかった。															
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																								
		・海外からの輸入農産物の増加や食品の産地偽装など、食を取り巻く環境が大きく変化する中、食への関心は依然として高く、本事業継続の必要性は高いと考える。																										
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																								
		・本市の食育推進への取組として、広く市民を対象とした事業が少なく、新規事業の実施を検討する必要がある。また、食育推進の啓発や広報についても様々なツールを活用した取組を行う必要がある。																										
効率性	評価結果		改善の余地がややある																									
	・関係団体との連携強化により、効率的な事業の実施が考えられる。																											

事務事業の概要	事務事業名				環境保全型農業推進事業				担当課		農業振興課		事業区分		ソフト事業												
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		831								
	会計				一般会計						政策目標		3		産業・交流												
	予算科目	款	項	目	6 農林業費				長期総合計画体系		施策目標		1		農業振興・産業振興												
					1 農業費						基本施策		1		地域の特性を生かした農業振興												
				3 農業振興費						取組方針		1		魅力ある農業の振興													
事業概要				化学肥料や農薬の使用低減に向けたエコ農業や環境保全型農業など環境にやさしい農業に取組む農業者に対して支援を図る事業																							
事務事業を構成する細事業				① 環境保全型農業直接支払交付金事業				⑤								⑨											
				② 環境保全型農業直接支払推進事業				⑥								⑩											
				③ 環境保全型農業グループ補助金				⑦								⑪											
				④ オーガニックビレッジ準備会補助金				⑧								⑫											
指標の実績	成果指標		指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析										
			取組団体数	件	目標		4		5		5		5		5		取組団体数については、令和4年度より変動はないが、各団体内での取組面積は増加傾向にある。										
					実績		5		5		5																
	<指標の計算方法>		環境保全型農業直接支払交付金を受け活動を行う団体等の総数																								
	成果指標	取組面積	a	目標		1,000		1,300		1,300		1,400		1,400		取組者の高齢化で取組人数は減少傾向にあるが、各取組団体構成員において農地の新規取得等により取組面積は増加傾向にある。											
				実績		1,275		1,296		1,418																	
	<指標の計算方法>		各団体等の取組総面積																								
	成果指標	推進活動回数	回	目標		9		9		9		9		9		取組回数は横ばいであるが、新しい活動に内容を変更するなど積極的に推進活動が行われている。											
				実績		8		9		8																	
		<指標の計算方法>		各団体等の推進活動の総回数																							
			目標																								
			実績																								
<指標の計算方法>																											
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																						
					国庫支出金				県支出金				地方債				繰入金				その他				一般財源		
	3,168								1,316																1,852		
事業の実績	①環境保全型農業直接支払交付金事業 地球温暖化防止、生物多様性保全等に貢献していくため、より環境保全に効果の高い営農活動を行う農業者団体等に補助を行った。 ・取組団体数：5団体 ・構成員人数：26人 ・取組面積：1,418 a ・推進活動数：8回 ②環境保全型農業直接支払推進事業 環境保全型農業直接支払交付金事業の適正かつ円滑な実施の促進に資するため、推進事業を実施した。 ・実施状況の確認事務 26件 ・有機質肥料施用、低農薬防除の推進 ③環境保全型農業グループ補助金				補助金額 390,000円 会員数 72人 活動数 52回				④オーガニックビレッジ準備会補助金 有機農業の推進や普及活動を行うために関係機関や団体で構成した「紀の川市オーガニックビレッジ準備会」の活動を行った。 補助金額 860,000円 会員数 10人（団体） 活動数 12回																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																							
		・農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律では、農業の有する多面的機能は国民に多くの恵沢をもたらすものであり、国、県、市が集中的かつ効果的に支援を行うこととされている。 ・法令に基づき、農業の持続的発展と多面的機能の発揮を図るために、環境保全に効果の高い営農活動に対して支援を行っている。 ・国施策の「みどりの食料システム戦略」に掲げる目標の達成に向けて、有機農業への新規参入や転換に係る農家負担の低減を図るため本事業の積極的な活用を行う必要がある。																									
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																							
		・本市ではまだまだ慣行栽培が主流で、リスクを伴う環境保全型農業に取り組む農業者が少ないことが現状であるが、農業の有する多面的機能の発揮を促進するためにも、積極的な事業周知を図っていく必要がある。 ・有機農業の推進を通じて農業に由来する環境負荷の低減を図るとともに、有機農業の普及の推進に努めていく必要がある。																									
効率性	評価結果		改善の余地がない																								
	・事業の実施は、国の定める実施要綱、要領に基づき実施している。 ・負担割合についても要綱に基づき実施している。																										

事務事業の概要	事務事業名		農業振興地域整備計画事業				担当課		農業振興課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		77		
	会計		一般会計								政策目標		3		産業・交流				
	予算科目	款	6	農林業費								施策目標		1		農業振興・産業振興			
		項目	1	農 業 費								基本施策		1		地域の特性を生かした農業振興			
	目	3	農業振興費								取組方針		1		魅力ある農業の振興				
	事業概要		農地の無秩序な開発の防止や良好な営農環境の確保を図るために、農業振興地域内の農用地の変更申出の審査及び農用地利用計画の変更を行う事業																
事務事業を構成する細事業		①	農業振興地域整備促進協議会運営				⑤					⑨							
		②	農業振興地域整備計画管理				⑥					⑩							
		③					⑦					⑪							
		④					⑧					⑫							
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
		農用地区域変更件数	件	目標										土地所有者からの申し出が主であるため、年度毎でばらつきがある。					
				実績	25		51		59										
		<指標の計算方法>		農用地区域変更申出を精査し受付した件数の内、県同意を得て変更した件数															
	成果指標	農用地区域除外面積	a	目標										土地所有者からの申し出が主であるため、年度毎でばらつきがある。					
				実績	234		695		485										
	<指標の計算方法>		農用地区域からの変更で除外した農用地面積																
	成果指標	農用地区域編入面積	a	目標										土地所有者からの申し出が主であるため、年度毎でばらつきがある。					
				実績	134				155										
	<指標の計算方法>		農用地区域からの変更で編入した農用地面積																
			目標																
			実績																
<指標の計算方法>																			
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	1,058												4		1,054				
事業の実績	①農業振興地域整備促進協議会運営 農業振興地域整備促進協議会 3回開催																		
	②農業振興地域整備計画管理 計画変更回数 3回 農用地区域への編入 5件 155 a 農用地区域から除外 54件 485 a																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																
		・本事業は、農業振興地域の整備に関する法律及び関連法令に基づく義務的事務であるため、市が実施主体となることは妥当である。 ・良好な農業環境を守りながら市民の農地転用のニーズに適正に応えるため、農地と農地以外の土地の合理的な利活用の調整を図る業務でもあり、継続する必要性が高い業務である。																	
	有効性	評価結果	改善の余地がややある																
		・宅地化が進んでいる地域では、年々、計画と現況との乖離が大きくなるため、農業振興地域整備計画の定期的な見直しが必要である。																	
効率性	評価結果	改善の余地がややある																	
	・専門的な業務以外の事務処理を会計年度任用職員に置き換えるなどコスト削減の余地はある。 ・農地転用および農用地からの除外見込み有無についての問い合わせには農業委員会と連携して判断するため、担当者不在の場合は回答が遅くなる。 ・庁内統合型GISシステムを活用することで作業の効率化が図れるが、地番図データが最新版ではないためレイヤーの加工が必要など、処理に時間がかかることもある。																		

事務事業の概要	事務事業名		有害獣被害防止対策事業				担当課		林務課		事業区分		ソフト事業								
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		798				
	会計		一般会計								政策目標		3		産業・交流						
	予算科目	款	6	農林業費								施策目標		1		農業振興・産業振興					
		項目	1	農 業 費								基本施策		1		地域の特性を生かした農業振興					
		目	3	農業振興費								取組方針		2		農業経営の安定と生産体制の強化					
	事業概要		有害鳥獣による農作物被害を防止し、農家の経営安定と生産振興を図るため、紀の川市内の農地に設置する防護柵等の設置費用の一部に補助を行う事業																		
事務事業を構成する細事業		①	有害獣被害防止対策事業補助金				⑤					⑨									
		②	農作物鳥獣被害対策アドバイザー育成				⑥					⑩									
		③	野生鳥獣による農作物の被害状況調査				⑦					⑪									
		④					⑧					⑫									
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析					
		農作物鳥獣被害対策アドバイザー取得者数	人	目標		1		1		1		1		1		令和6年度も2名のアドバイザーを育成したことにより、農作物の被害軽減のための知識を習得し、職員の有害捕獲対応が可能となった。					
				実績		2		2		2											
		<指標の計算方法>		市職員の農作物鳥獣被害対策アドバイザー取得者数																	
	防護柵等設置面積（市単・県単）	ha	目標		50		50		50		20		20		目標達成に至らなかったが、昨年よりイノシシの生息数が増加傾向にあるため申請件数および面積が増加となった。						
			実績		9.84		10.03		21.15												
	<指標の計算方法>		市補助及び県補助により防護柵等を設置した面積																		
	有害獣による農作物被害額（イノシシ）	千円	目標		28,103		11,209		10,619		10,029		9,527		鳥獣被害防止計画の被害実績値を毎年5%減少を目標と設定して猟友会協力のもと相当数の捕獲を行っているが、依然として高い被害額で推移している。						
			実績		12,663		19,907		11,827												
	<指標の計算方法>		野生鳥獣による農作物の被害状況調査票による																		
コストの実績			目標																		
			実績																		
		<指標の計算方法>																			
事業の実績	R 6年度決算額（単位：千円）				財源内訳																
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源						
	2,886														2,886						
事業の実績	①有害獣被害防止対策事業補助金 53件 21.15ha																				
	②農作物鳥獣被害対策アドバイザー育成 アドバイザー取得者数 2名																				
	③野生鳥獣による農作物の被害状況調査 J A紀の里・和歌山県農業共済組合より被害状況聞き取り結果 イノシシによる農作物被害額 11,827千円																				
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がややある																	
		・有害鳥獣による農作物の被害軽減を図ることは、農業経営の安定化につながり長期総合計画の基本施策に適合している。 ・農作物の被害防止対策は、農業従事者の自主的な取組だけでは限界があり、行政や地域での一体となった取組が必要である。																			
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																	
		・農作物の被害状況は依然として高い数値となっているため、防護柵の有効性や補助事業を広報等で周知し、防止対策を推進していく必要がある。 ・防護柵の設置は被害対策として有効であるため、農業従事者の生産意欲の低下につながらないよう啓発していく必要がある。																			
効率性	評価結果		改善の余地がややある																		
	・市と地域が連携し、地域一体で被害対策に取組むことで、より効率性が向上することが見込まれる。																				

事務事業の概要	事務事業名		農業振興施設管理運営事業				担当課		農業振興課		事業区分		ソフト事業			
			新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し			事業番号		790		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		3		産業・交流			
	予算科目	款	6		農林業費				施策目標		1		農業振興・産業振興			
		項	1		農 業 費				基本施策		1		地域の特性を生かした農業振興			
目		4		農業施設費		取組方針			1		魅力ある農業の振興					
事業概要			農業振興施設が農業振興と住民の公共の福祉に寄与するために、施設管理を適切に行う事業													
事務事業を構成する細事業	①		桃源郷学習体験館施設管理				⑤		西の池かんがい用水施設管理				⑨			
	②		農村改善センター施設管理				⑥						⑩			
	③		農村婦人の家施設管理				⑦						⑪			
	④		共同栽培施設等管理				⑧						⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	桃源郷学習体験館施設利用回数	回	目標	170	170	170	170	170	利用団体構成員の高齢化等により利用回数や利用者数は減少傾向にある。	
				実績	138	109	104				
				<指標の計算方法>							
	成果指標	農村改善センター施設利用回数	回	目標	380	380	380	0	0	通年で決まった曜日に利用する団体と随時利用の団体があるが、随時利用が増加したため利用回数が増加した。	
				実績	436	393	449				
				<指標の計算方法>							
	成果指標	農村婦人の家施設利用回数	回	目標	190	190	190	190	190	利用回数は令和5年度並みであるが、生活研究グループ等のみそ作り以外のほとんどが集会所や公民館の利用となっている。	
				実績	128	211	214				
				<指標の計算方法>							
成果指標	桃源郷学習体験館一般来場者数	人	目標	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900	施設(調理室等)の利用回数の減少により、来場者数も減少傾向にある。		
			実績	1,837	1,580	1,473					
			<指標の計算方法>								桃源郷学習体験館一般来場者数による来場者数

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	14,959							92	14,867

事業の実績	①桃源郷学習体験館施設管理 施設利用回数 104回 一般来場者数 1,473名										
	②農村改善センター施設管理 施設利用回数 449回										
	③農村婦人の家施設管理 施設利用回数 214回										
	④共同作業所管理 西井阪共同集出荷所解体撤去工事を実施した。										
	⑤西の池かんがい用水施設管理 電気設備の保安管理を委託した。										

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地が大きい													
		・農村婦人の家は近隣に粉河公民館川原分館が存在し、利用実態は地域活動が多いが、耐震性が無く老朽化が進んでいることもあり、統廃合の検討が必要である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がややある													
		・農村婦人の家は、農業経営や生活の改善、農村在住者の健康増進と住民相互の親睦を図り、住みよい地域づくりを目的に設置されているが、建設当初と比べ農村における生活環境も大きく変化していることから、農業振興施設と位置づけた効果に疑問がある。														
	効率性	評価結果	改善の余地が大きい													
・農村改善センターは、令和6年度末で廃止となった。農村婦人の家は、耐震性が無く老朽化が進んでいることもあり、今後のあり方について関係部署と検討を行っていく。																

事務事業の概要	事務事業名		青洲の里管理運営事業				担当課		農業振興課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		972	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		3		産業・交流					
	予算科目	款	6		農林業費				施策目標		1		農業振興・産業振興					
		項	1		農 業 費				基本施策		1		地域の特性を生かした農業振興					
目		4		農業施設費		取組方針			1		魅力ある農業の振興							
事業概要			利用者に情報発信・休憩・地域交流をはじめとする各種サービス・機能の提供を行うために、青洲の里の施設管理及び広報活動を行う事業															
事務事業を構成する細事業	①		青洲の里施設管理				⑤						⑨					
	②		青洲の里管理運営委託				⑥						⑩					
	③		全国道の駅連絡会負担金				⑦						⑪					
	④		近畿道の駅連絡会負担金				⑧						⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	フラワーヒルミュージアム年間入場者数	人	目標	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	令和5年度および新型コロナウイルス感染症による影響が出る前の令和元年度の実績を若干下回った。（令和元年度：33,404人）	
			実績	31,779	35,514	32,307					
		<指標の計算方法>		青洲の里フラワーヒルミュージアムへの年間入場者数							
	成果指標	春林軒年間入場者数	人	目標	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	令和5年度の実績を若干上回ったが、令和4年度（8,579人）よりは若干少ない。内訳として団体の入場者数は令和5年度の80%、令和元年度の59%。	
			実績	8,579	8,286	8,401					
		<指標の計算方法>		春林軒・展示室の年間入場者数							
	成果指標	E V充電器利用回数	回	目標	1,380	1,380	1,380	1,380	1,380	利用ユーザー数は横ばい（令和5年度：217、令和6年度：214）だが、利用回数100回を超えるユーザー数が皆減（令和5年度：1名）した。	
		実績	1,309	971	716						
<指標の計算方法>		青洲の里駐車場E Vステーション利用回数									
活動指標	情報発信回数	回	目標	100	100	100	100	100	華岡青洲の顕彰事業、各種イベントなど情報発信が増えている。（Instagram：122回、X：17回）		
		実績	139	162	151						
	<指標の計算方法>		青洲の里フェイスブック等更新回数								

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	30,061							312	29,749

事業の実績	①青洲の里施設管理 ・修繕 オープンテラス床シート張替え 給水管分岐修繕 蓮池改修 ・管理 EV急速充電機、Wi-Fi等 ・ふれあい公園トイレ他改修工事設計業務		負担金 20,000円 ④近畿道の駅連絡会負担金 負担金 27,000円		
	②青洲の里管理運営委託 ・一般財団法人青洲の里と青洲の里の管理及び運営に関する協定を締結し、指定管理者による管理運営業務を実施した。 期間：令和3年4月1日～令和8年3月31日 ・紀の里農業協同組合と農産物直売所の管理及び運営に関する協定を締結し、指定管理者による管理運営業務を実施した。 期間：令和3年12月1日～令和8年3月31日				
	③全国道の駅連絡会負担金				

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある	
		・農業振興と地域住民のコミュニティ活動及び市民と都市住民の交流等の拠点としての位置づけのもと、医聖華岡青洲の顕彰拠点であり、市が管理運営することは妥当である。 ・道の駅に登録された施設であることから、借地を購入することで継続的に公共の用に供することができる。		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
・指定管理者制度の導入により民間のノウハウや経営手腕が発揮されつつある状況である。 ・さらなる集客力を高める取組を実施していく必要がある。 ・春林軒及び展示室の活用について、関係機関と協議し、企画展示等を発案していく必要がある。				
効率性	評価結果	改善の余地がややある		
	・道の駅としての機能を確保し、施設の適正管理を図り、集客のための取組を一体として運営するため、指定管理者制度を導入している。 ・指定管理料は、指定管理者の自主事業収入の増加や経常的経費の低下などができれば縮減の余地がある。			

事務事業の概要	事務事業名		農業施設整備事業		担当課		農地整備課		事業区分		ソフト事業	
					新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し	
	事業番号										756	
	会計		一般会計		長期総合計画体系		政策目標		3		産業・交流	
	予算科目		6 農林業費				施策目標		1		農業振興・産業振興	
款項目		1 農 業 費		基本施策			2		均衡の取れた農村や農地の整備			
		5 農 地 費				取組方針		1		農業生産基盤整備の推進		
事業概要		農業従事者等が利用する農業用施設の長寿命化や農業基盤の整備充実を図るために、関連団体への補助金の交付や農道の維持管理等を行う事業										
事務事業を構成する細事業		① 県土地改良事業団体連合会負担金		⑤ 冬期通水負担金		⑨						
		② 水利施設管理強化事業負担金		⑥ 農業用施設整備補助金		⑩						
		③ 県ため池保全整備連絡協議会負担金		⑦		⑪						
		④ 県棚田等保全連絡協議会負担金		⑧		⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	農業用施設整備補助金の補助件数	件	目標	50	50	50	50	50	年度途中の追加認定および申請取り下げにより変動した。	
			実績	77	59	81					
		<指標の計算方法> 交付要綱に基づき補助金を交付した件数									
	成果指標	整備箇所全体延長【農道・水路】	m	目標	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	年度途中の追加認定および申請取り下げにより変動した。	
			実績	2,056	1,296	1,537					
		<指標の計算方法> 整備した農道、水路の延長									
	成果指標	整備箇所全体箇所【ため池・農業用施設】	箇所	目標	7	7	7	7	7	年度途中の追加認定および申請取り下げにより変動した。	
			実績	19	13	14					
		<指標の計算方法> 整備したため池、農業用施設の箇所数									
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳						
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	45,998							45,998	

事業の実績	①県土地改良事業団体連合会負担金 ②水利施設管理強化事業負担金 (旧:国営造成施設管理体制整備促進事業負担金) ③県ため池保全整備連絡協議会負担金 ④県棚田等保全連絡協議会負担金 ⑤冬期通水負担金 ・小田井土地改良区、荒見井土地改良区、藤崎井土地改良区、安楽川井土地改良区、貴志川土地改良区に冬季通水負担金を支出した。 ⑥農業用施設整備補助金 ・補助金交付件数 81 件 整備実績 農道 18件 433m 水路 49件 1104m ため池 8件 8箇所 施設 6件 6箇所			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない		・ 農業用施設を維持するにあたり、国・県の採択条件に満たない事業であり、施設の老朽化や豪雨により破損した箇所を早急に修繕したい旨の要望が多く、迅速に対応ができる事業である。
		評価結果	改善の余地がない		
	有効性	評価結果	改善の余地がない		・ 緊急性が高い地元要望については、年度途中においても追加事業採択を行い早急に改修し、農産物の生産性・農業経営の安定が図られる。
		評価結果	改善の余地がない		
	効率性	評価結果	改善の余地がない		・ 本事業は農業用施設補修等の工事に対し補助金を交付する事業であり、地元関係者の認知度は高く要望も多い。修繕箇所の早期解消に向けて、手順良く事業活用を進めている。

事務事業の概要	事務事業名		農村公園管理事業				担当課		農地整備課		事業区分		ソフト事業	
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1085			
	会計		一般会計				政策目標		3		産業・交流			
	予算科目	款	6 農林業費				施策目標		1		農業振興・産業振興			
		項	1 農 業 費				基本施策		2		均衡の取れた農村や農地の整備			
		目	5 農 地 費				取組方針		2		農村地域の多面的な保全活動の推進			
	事業概要		市民の憩いの場として有効活用するために、農村公園の施設管理を適切に行う事業											
	事務事業を構成する細事業	① 農村公園等管理業務				⑤				⑨				
		②				⑥				⑩				
		③				⑦				⑪				
④				⑧				⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析				
	活動指標	現地確認回数	回	目標	24	24	24	24	24	各公園の点検を月2回行うことで、故障等不具合箇所の早期発見、早急対処することができた。				
				実績	24	24	24							
				<指標の計算方法> 現地確認回数										
	活動指標	修繕件数	件	目標						公園施設を安全かつ快適に利用できるよう、ベンチや外灯など3件の修繕を行った。				
				実績	3	3	3							
				<指標の計算方法> 公園施設の修繕件数										
				目標										
				実績										
				<指標の計算方法>										
			目標											
			実績											
			<指標の計算方法>											
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳									
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
	4,447									4,447				
事業の実績	①農村公園等管理業務 ○桜づつみ公園・北涌農村公園 場所：名手西野・北涌地内 業務内容：草刈(年2回) 消毒(年2回) トイレ清掃・施設清掃 剪定 修繕箇所： ・トイレ堅樋修繕(桜づつみ公園)				業務内容：清掃・草刈・消毒 ○はりま池公園 場所：貴志川町丸栖地内 修繕箇所： ・外灯修繕(2基)									
	○水と土ふれあい公園 場所：南中地内 業務内容：草刈(年4回) 消毒(年2回) トイレ清掃・施設清掃 修繕箇所： ・ベンチ修繕(6基)													
	○曾池ふれあい公園 場所：桃山町調月地内													
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない										
		・市が設置している公園施設であり、公園利用者に快適に利用してもらえるよう維持管理は必要である。												
	有効性	評価結果		改善の余地がない										
		・月2回の定期点検を目標として行うことにより、故障箇所の早期発見と早急な対処をすることができ、安全かつ快適に利用することができる。												
	効率性	評価結果		改善の余地がない										
		・はりま池公園の管理については、地元で管理しており、定期点検時に消耗品の補給と修繕を行っている。 ・北涌農村公園、桜づつみ公園、水と土ふれあい公園の管理については、シルバー人材センターに委託しているため、公園での問題点が発生した場合には早急に対応している。 ・曾池ふれあい公園の維持管理については、清掃、草刈り、消毒作業を地元へ委託している。												

事務事業の概要	事務事業名		県営ため池等整備事業				担当課		農地整備課		事業区分		ハード事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		763	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心					
	予算科目	款	6		農林業費				施策目標		1		防災・防犯					
		項	1		農 業 費				基本施策		3		災害に強いまちの形成					
目		5		農 地 費		取組方針			3		農地・農業用施設の災害対策の推進							
事業概要			ため池下流の市民に対して地震、豪雨等の災害による被害を未然に防止出来るよう、県営工事により、ため池の改修を行う事業															
事務事業を構成する細事業	①		県土地改良事業団体連合会負担金				⑤						⑨					
	②		県営ため池等整備事業負担金				⑥						⑩					
	③						⑦						⑪					
	④						⑧						⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	年度毎事業実施地区数	地区	目標	13	11	15			全面改修工事12箇所、部分改修工事1箇所また早期着手するため測量設計を2箇所を追加し、令和6年度は15箇所に対し実施・工事着手している。県の動向に合わせて進めているため、令和7年度の目標設定を行わない。	
				実績	16	12	15				
		<指標の計算方法>		測量設計及び改修工事を実施した地区数							
	成果指標	年度毎改修工事完了地区数	地区	目標	4	4	7			令和6年度については、改修工事完了地区は上広野池と知谷池の2箇所となった。県の動向に合わせて進めているため、令和7年度の目標設定を行わない。	
				実績	1	2	2				
		<指標の計算方法>		改修工事が完了した地区数							
				目標							
				実績							
		<指標の計算方法>									
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳											
			国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	80, 580				150		77, 700						2, 730	

事業の実績	①県土地改良事業団体連合会負担金 ・事業費に応じた負担金を支出した。 改修ため池 15箇所				・髭谷池（貴志川町高尾） 堤体工・洪水吐工・取水施設 一式			
					・月差池（馬宿） 堤体工・取水施設 一式			
	②県営ため池等整備事業負担金				・池ノ谷池（東山田） 堤体工 一式			
	◎全面改修工事				・狩場池（貴志川町高尾） 堤体工 一式			
	・熊ノ倉池（貴志川町国主） 堤体工・取水施設 一式				・名手下池（名手下） 堤体工・洪水吐工 一式			
	・上新池（麻生津中） 堤体工 一式				◎部分改修工事			
	・あさお池（東三谷） 堤体工・取水施設 一式				・三ツ池中池（荒見） 洪水吐工・仮設工 一式			
	・竹の池（北長田） 堤体工 一式				◎測量設計業務 (全面改修)			
	・山田池（切畑） 堤体工・取水施設 一式				・新池（北勢田） 測量設計 一式			
	・地獄谷池（貴志川町西山） 堤体工・洪水吐工 一式				・小田ノ池（古和田） 測量設計 一式			
	・滝谷池（貴志川町北山） 堤体工 一式							

事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない	
		・近年多発する集中豪雨や近い将来発生が懸念されている大地震によるため池の決壊を防止する目的として、ため池の各施設の改修や防災対策等のハード事業としては効果的である。 ・令和2年度より防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法に基づき防災工事を受益面積5ha以上、貯水量1, 00 0㎡以上のため池について県営事業で実施している。			
	有効性	評価結果		改善の余地がない	
・本事業は県営事業であり、県の各種事業計画で定められた計画に基づいて実施している。					
効率性	評価結果		改善の余地がない		
	・ため池の改修及び防災対策事業の中で受益者及び市の負担が最も軽減できる事業であり、事業効果も大きいことから現状で妥当と考える。県主体で事業を行っており、地元調整についても県・市が連携しながら効果的に行っている。				

事務事業の概要	事務事業名		県営農業競争力強化基盤整備事業（尼寺地区）				担当課		農地整備課		事業区分		ハード事業						
	会計		一般会計				新規・継続		継続		事業期間		期間限定複数年度（H30～R8）		事業番号		1011		
	予算科目	款	6	農林業費				長期総合計画体系	政策目標		3	産業・交流							
		項目	1	農 業 費					施策目標		1	農業振興・産業振興							
		目	5	農 地 費					基本施策		2	均衡の取れた農村や農地の整備							
事業概要		農業従事者等が農業競争力の強化を図れるように、県営工事で尼寺地区のほ場整備や農道整備を行う事業																	
事務事業を構成する細事業			① 県土地改良事業団体連合会負担金				⑤						⑨						
			② 県営農業競争力強化基盤整備事業負担金				⑥						⑩						
			③				⑦						⑪						
			④				⑧						⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	成果指標	事業進捗率		%	目標	52.2		58.5		68.8						事業の早期完了に向け、国の補正予算の活用や地元委員会と事業量の調整を図った結果、目標値を達成することが出来た。県の動向に合わせて進めているため、令和7年度の目標設定を行わない。			
					実績	52.5		68.8		76.5									
		<指標の計算方法>			実施事業費÷全体事業費×100														
				目標															
			実績																
	<指標の計算方法>																		
				目標															
			実績																
	<指標の計算方法>																		
			目標																
		実績																	
<指標の計算方法>																			
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	50,661								23,700				25,511		1,450				
事業の実績	①県土地改良事業団体連合会負担金 ・事業費に応じた負担金を支出した。																		
	②県営農業競争力強化基盤整備事業負担金 ・ほ場整備工 19.9ha																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・本地区は、まとまりのある未整備農地を区画整理して、農業経営の担い手への農地利用集積を図ることで地域農業の安定を目指すものであり、農業者の営農作業効率を高めることで生産性向上を目指すことを目的とした事業である。															
		評価結果		改善の余地がない ・長期間継続していく事業であり、事業計画による事業効果発現の面からも早急に事業を完了することが有効な効果を生むため、現状を維持し事業を進める必要がある。															
	有効性	評価結果		改善の余地がない ・本事業については県営事業であり、県と市が連携をとりながら調整することにより、事業の進捗率向上が図られている。															
		評価結果		改善の余地がない ・本事業については県営事業であり、県と市が連携をとりながら調整することにより、事業の進捗率向上が図られている。															
効率性	評価結果		改善の余地がない ・本事業については県営事業であり、県と市が連携をとりながら調整することにより、事業の進捗率向上が図られている。																
	評価結果		改善の余地がない ・本事業については県営事業であり、県と市が連携をとりながら調整することにより、事業の進捗率向上が図られている。																

事務事業の概要	事務事業名		国営総合農地防災事業				担当課		農地整備課		事業区分		ハード事業	
	新規・継続		継続		事業期間		期間限定複数年度（H26～R10）		事業番号		905			
	会計		一般会計				政策目標		1		安全・安心			
	予算科目	款	6 農林業費				施策目標		1		防災・防犯			
		項	1 農業費				基本施策		3		災害に強いまちの形成			
		目	5 農地費				取組方針		3		農地・農業用施設の災害対策の推進			
	事業概要		市民が農業地域の湛水被害から安全が確保されるように、国営事業により湛水被害の軽減を図る事業											
	事務事業を構成する細事業	① 水路清掃委託料				⑤				⑨				
		② 県土地改良事業団体連合会負担金				⑥				⑩				
		③ 国営総合農地防災事業負担金				⑦				⑪				
④ 国営総合農地防災関連事業（県営）負担金				⑧				⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	年度事業実施箇所数	箇所	目標	2	1	1	1	1	事業計画を基に改修工事に着手し、県営事業（丸栖北地区）排水機場が進んでいる。	
				実績	2	1	1				
		<指標の計算方法>		測量設計及び改修工事実施数							
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳								
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
	68,984				53,200		188	15,596			

事業の実績	①水路清掃委託料 ・岡田排水路清掃業務委託 排水路内土砂等清掃 10.39t								
	②県土地改良事業団体連合会負担金 事業費に応じた負担金を支出した。								
	③国営総合農地防災事業負担金 事業費に応じた負担金を支出した。								
	④国営総合農地防災関連事業（県営）負担金 ・県営丸栖北地区排水機場内施設 一式								

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・国主体の防災事業及び関連県営事業であり、近年頻発する豪雨による湛水被害の軽減を目的とした事業であるため必要である。また、県営附帯事業として丸栖北地区排水機場事業についても湛水被害の軽減を図るため、国営・県営事業に対して負担金の支出が必要。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・本事業は国営・県営事業であり、国・県の事業計画で定められた計画に基づき実施されている。現在の進捗も計画どおり進んでいる。		
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・国・県の防災対策事業で市の負担が少なくなる事業であり、国・県の同時施工により事業効果が大きく影響する。			

事務事業の概要	事務事業名		多面的機能支払交付金事業				担当課		農地整備課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		770	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		3		産業・交流					
	予算科目	款	6		農林業費				施策目標		1		農業振興・産業振興					
		項目	1		農 業 費				基本施策		2		均衡の取れた農村や農地の整備					
		5		農 地 費				取組方針		9		その他						
事業概要			農業従事者等が農業・農村が有する多面的機能を適切に維持・発揮できるように、対象地域の各活動組織に対して交付金の交付を行い、地域の共同活動の支援を行う事業															
事務事業を構成する細事業			① 多面的機能支払推進事業				⑤						⑨					
			② 多面的機能支払交付金事業				⑥						⑩					
			③				⑦						⑪					
			④				⑧						⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	事業認定面積	a	目標	188, 000	188, 800	188, 800	188, 800	188, 800	耕作放棄地解消の対策により認定面積が増加している。その反面、農地転用による減少もある状況である。	
		実績		188, 794	196, 222	196, 912					
		< 指標の計算方法 >							事業認定面積の実績（農地維持支払）		
	活動指標	活動組織数	組織	目標	56	56	56	56	56	再認定組織17組織が活動を始め、1組織が活動継続を断念した。	
		実績		55	58	57					
		< 指標の計算方法 >							活動組織数		
	活動指標	個別説明会、個別相談の開催回数	回	目標	5	5	5	5	5	再認定を行う予定であった18組織へ制度の説明及び再認定の手続きについて説明を行った。また、新規に取り組みを検討している組織に対し事業説明を行った。今後も事業を周知する必要がある。	
		実績		7	6	5					
		< 指標の計算方法 >							個別説明会、個別相談の開催回数		
			目標								
			実績								
< 指標の計算方法 >											

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
		114, 143		85, 442				28, 701

事業の実績	①多面的機能支払推進事業 ・活動内容の指導 57組織 ・現地確認の実施 57組織 R6年度【再認定17】					
	②多面的機能支払交付金事業 活動内容 組織数 認定面積 ・農地維持支払 57組織 196, 912a ・資源向上支払 (共同活動) 53組織 186, 206a ・資源向上支払 (長寿命化) 54組織 190, 790a					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある	
		・法制化された国の事業であり、地域の農業用施設の草刈りや泥上げ改修等に交付金を交付するもので、地域の環境保全活動に対して市が支援することは必要である。 ・国の予算不足から資源向上支払(長寿命化)が満額交付できていないことから、各活動組織の事業計画に影響を与えることにもなるため、交付金減額分への補填・拡充等を検討する必要がある。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・農業用施設の維持管理や補修更新、花の植栽などの景観活動が地域で行われており、有意義な事業となっている。また、地域住民の参加による一体感や農業者と非農業者とのコミュニケーションの機会が増加するなど、地域の結びつきも強くなっている。 ・中山間地域の農業振興や活性化についても、交付金が有効に使えるような仕組みになっている。		
効率性	評価結果	改善の余地がややある		
	・国からの要綱・要領に基づいて事業を行っているので、事業費の削減の余地はない。 ・活動組織の事務処理能力を向上させることで、提出された書類の審査などの時間は削減される。			

事務事業の概要	事務事業名		中山間地域等直接支払事業				担当課		農地整備課		事業区分		ソフト事業							
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		73			
	会計		一般会計								政策目標		3		産業・交流					
	予算科目	款	6		農林業費						施策目標		1		農業振興・産業振興					
		項目	1		農 業 費						基本施策		2		均衡の取れた農村や農地の整備					
		目	5		農 地 費						取組方針		9		その他					
	事業概要																			
	中山間地域の協定者が農業生産活動の促進を図るために、交付金の交付を行う事業																			
事務事業を構成する細事業		①	中山間地域等直接支払推進事業				⑤					⑨								
		②	中山間地域等直接支払交付金				⑥					⑩								
		③					⑦					⑪								
		④					⑧					⑫								
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
		協定面積	a	目標	41, 832		42, 095		42, 109		42, 030		42, 030		集落協定拡充を推進したものの、参加者の死亡、怪我病気により農地維持が難しくなり減少した。					
				実績	42, 095		42, 109		42, 030											
		<指標の計算方法>		制度の対象農用地の合計面積																
	活動指標	協定件数		件	目標	43		44		44		44		44		令和7年度が第6期対策の初年度であり、協定の見直しができることから協定数の現状維持ができるよう推進が必要である。				
		実績	44		44		44													
		<指標の計算方法>		中山間地域の農用地を維持・管理していくための協定を締結している集落数																
	活動指標	協定参加人数		人	目標	529		532		528		527		527		集落協定拡充を推進したものの、参加者の死亡、怪我病気により農地維持が難しく、担い手がいなことから参加者が減少した。				
		実績	532		528		527													
		<指標の計算方法>		5年間農業生産活動等を継続する農業者の合計数																
			目標																	
				実績																
<指標の計算方法>																				
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳															
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
	56, 272						41, 223								15, 049					
事業の実績	①中山間地域等直接支払推進事業 ・活動内容の指導 44件 ・現地確認の実績 44件																			
	②中山間地域等直接支払交付金 ・地区名 協定数 参加人数 協定面積 打田 3件 21人 1, 563a 粉河 29件 331人 23, 203a 那賀 8件 161人 15, 528a 桃山 2件 9人 1, 277a 貴志川 2件 5人 459a 合計 44件 527人 42, 030a																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・中山間地域等直接支払制度は、中山間地域等の多面的機能を有している農用地を農業生産活動を通じ、継続して維持管理することを条件として、地域の協定組織に交付金の支払いをしている。 ・国の要綱・要領に基づいて事業を行っており、集落協定への指導や拡充について今後も市が実施していく必要がある。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がない																
		・農業就業人口の減少や高齢化の進行と担い手不足等により、耕作放棄地の増加等多面的機能の維持が難しくなるなか、泥上げや草刈り等を共同活動することで協定内の結びつきが強くなり、活動している地域の耕作放棄地の発生防止につながっている。																		
効率性	評価結果		改善の余地がない																	
	・国の要領において、対象農用地の条件により面積あたりの交付額が定められており、事業費の削減の余地がない。																			

事務事業の概要	事務事業名		農業水路等長寿命化・防災減災事業				担当課		農地整備課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1111	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心					
	予算科目	款	6 農林業費			施策目標			1		防災・防犯							
		項	1 農 業 費			基本施策			3		災害に強いまちの形成							
		目	5 農 地 費			取組方針			3		農地・農業用施設の災害対策の推進							
	事業概要		農業活動の基盤となる農業水利施設の長寿命化及び防災減災対策を推進する事業															
	事務事業を構成する細事業	① ため池廃止事業		⑤								⑨						
		② 農業用ため池管理システム事業		⑥								⑩						
		③ 県土地改良事業団体連合会負担金		⑦								⑪						
④		⑧								⑫								

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	ため池廃止数	箇所	目標	2	2	2	2	0	ため池廃止予定数は2箇所であるが、補助金割当額が要望額を満たさなかったため、工事を分割し新年度予算を充てることとなった。	
				実績	2	2	0				
				<指標の計算方法>		不用なため池の廃止件数					
	成果指標	ため池管理システム設置箇所数	箇所	目標	0	1	0	0	0	事業の推進はしているが、管理費やメンテナンス費が負担となり要望がない状態である。	
				実績	0	1	0				
				<指標の計算方法>		農業用ため池で管理システムを設置したため池数					
				目標							
				実績							
				<指標の計算方法>							
			目標								
			実績								
			<指標の計算方法>								

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	14, 091			7, 000				7, 091

事業の実績	①ため池廃止事業 廃止工事 横谷大池（横谷） 荒見下池その1工事（荒見）							
	②農業用ため池管理システム事業 地元要望がないため設置箇所数0箇所							
	③県土地改良事業団体連合会負担金 事業費に応じた負担金を支出した。							

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・利用していないため池について廃止工事を行い少しでも災害リスクを少なくする。																
	有効性	評価結果	改善の余地がない															
		・農家戸数の減少に伴い利用していない農業用ため池については増加傾向にあり、このようなため池の貯水機能を廃止することにより下流部の浸水被害が軽減されることから必要である。																
	効率性	評価結果	改善の余地がない															
		・測量設計時において、現地特性・設計基準に沿った内容で実施し、効率的な事業の実施に努めている。																

事務事業の概要	事務事業名		防災重点農業用ため池緊急整備事業				担当課		農地整備課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1160	
	会計		一般会計															
	予算科目	款	6 農林業費				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心					
		項	1 農 業 費						施策目標		1		防災・防犯					
目		5 農 地 費				基本施策			3		災害に強いまちの形成							
事業概要		防災重点農業用ため池について、堤体や洪水吐、樋管などの劣化状況評価及び豪雨耐性評価をするとともに、防災工事が必要と判断したため池について推進計画を策定し、整備を推進する事業																
事務事業を構成する細事業	① 調査業務		⑤								⑨							
	② 測量設計委託		⑥								⑩							
	③ 工事請負費		⑦								⑪							
	④ 県土地改良事業団体連合会負担金		⑧								⑫							

指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
		優先度評価の実施ため池数	箇所	目標		60	32	199			防災重点農業用ため池の構造・水利機能等の劣化状況を把握し、防災工事の必要性を判断するための評価したものうち199箇所において優先度評価を実施した。令和7年度は目標値を設定しない。	
				実績		84	31	199				
	<指標の計算方法>		劣化を受けて優先度比較評価を行ったため池数									
	成果指標	ため池改修計画策定箇所数	箇所	目標		13	11	1			前年度災害にて被災したため池1箇所について、事業計画書を作成した。また年度後半に補正予算がついたため、ため池1箇所において未契約繰越により計画書策定を行う。県動向に合わせて実施するため、令和7年度からは目標値を設定しない。	
				実績		14	10	1				
	<指標の計算方法>		ため池改修計画書を作成した箇所数									
成果指標	ため池管理システム設置箇所数	箇所	目標		1	0	0	0	0	事業の推進はしているが、管理費やメンテナンス費が負担となり、要望がない状態である。		
			実績		1	0	0					
<指標の計算方法>		防災重点農業用ため池で管理システムを設置したため池数										
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
		62, 853		57, 269	2, 900			2, 684

事業の実績	①調査業務 ため池優先度評価 199箇所										
	②測量設計委託 ため池整備計画策定 1池 下泥池（猪垣他）										
	③工事請負費 当該年度は工事がなかった。										
	④県土地改良事業団体連合会負担金 事業費に応じた負担金を支出した。										

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・ため池改修計画を進めるために、ため池の現状を評価し、効果的・効率的な防災減災対策を計画するための重要な基礎資料をさらに多角的な視点で事業実施の優先度を検討するため必要。 ・ため池の改修事業の基礎となる事業計画策定を推進することで災害リスクを軽減する。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・評価内容を基に、今後の改修事業の優先順位を検討すること。またそれを基に事業実施主体である県との擦り合わせ協議を行うことから有効な事業である。 ・ため池管理システムについては、関係者による従来通りの管理方法が根強いこと、維持管理コスト高も含めて導入難であること等を踏まえ、丁寧な説明で導入を推進している。										
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・市民の安全・安心を確保していく上でため池の現状を知ることが重要であり、調査過程において管理者の方々に施設の聞き取りを行うことで、日常の維持管理の啓発にも繋がっている。 ・測量設計時において、現地特性・設計書籍に沿った内容で実施し、積算時においてもコスト比較を行い安価で効果的な事業の実施に努めている。											

事務事業の概要	事務事業名		小規模土地改良事業				担当課		農地整備課		事業区分		ハード事業					
	新規・継続		継続		長期総合計画体系		事業期間		単年度繰返し				事業番号		80			
	会計		一般会計				政策目標		3		産業・交流							
	予算科目	款	6				農林業費				施策目標		1		農業振興・産業振興			
		項目	1				農 業 費				基本施策		2		均衡の取れた農村や農地の整備			
事業概要		農業従事者等の営農労力の軽減を図り農業経営を改善するために、地域の実情に即した生産基盤の整備を行う事業																
事務事業を構成する細事業	①		改良工事				⑤						⑨					
	②						⑥						⑩					
	③						⑦						⑪					
	④						⑧						⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	改良地区数	箇所	目標	3		3								国の採択要件に満たない改良等の事業について、地元から要望を受け施工した。地元からの要望に基づき実施するため、令和6年度からは目標値を設定しない。			
				実績	3		3		4									
				<指標の計算方法>								実施箇所						
				目標														
				実績														
				<指標の計算方法>														
				目標														
				実績														
				<指標の計算方法>														
			目標															
			実績															
			<指標の計算方法>															
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳													
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	28,613						8,582		12,800				5,723		1,508			
事業の実績	①改良工事 ・神田水路改良工事（桃山町神田） 水路工 L=67m ・上田井農道改良工事（上田井） 農道工 L=142m ・井ノ口農道改良工事（貴志川町井ノ口上） 農道工 L=101m ・下丹生谷地区排水路改良工事（下丹生谷） 水路法面工 L=30m																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない														
		・国の採択要件に満たない事業であり、県からの補助金を受けることで地元負担の軽減を図り、農業施設の改修を行うことが出来る。																
	有効性	評価結果		改善の余地がない														
		・事業を進める上で既存施設の改修については、地元要望に沿った柔軟で適切な計画が検討でき、また早期着手による効果が発揮できることから事業を実施することが必要である。																
効率性	評価結果		改善の余地がない															
	・地元要望事業であり、県費補助を活用することで地元負担の軽減も図り、また、早期事業に取り掛かれることが可能なため、緊急的な事業については効率的に解消することが出来る。																	

事務事業の概要	事務事業名		水利施設等保全高度化事業				担当課		農地整備課		事業区分		ハード事業				
							新規・継続		新規	事業期間	単年度のみ		事業番号	1242			
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	3	産業・交流						
	予算科目	款	6	農林業費					施策目標	1	農業振興・産業振興						
		項目	1	農 業 費					基本施策	2	均衡の取れた農村や農地の整備						
目			5	農 地 費					取組方針	1	農業生産基盤整備の推進						
事業概要		整備から長期間経過し老朽化の見られる農業用施設等に対し、国・県の補助制度を利用して機能診断調査を行い、機能保全・老朽化対策を行う事業															
事務事業を構成する細事業	①		調査測量業務				⑤						⑨				
	②						⑥						⑩				
	③						⑦						⑪				
	④						⑧						⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析		
	成果指標	調査測量業務		基	目標					2				本事業の対象水利施設である前田樋門、北山樋門の調査診断・測量を行った。			
					実績			2									
		<指標の計算方法>		調査測量を実施した数													
				基	目標												
			実績														
	<指標の計算方法>																
				基	目標												
			実績														
	<指標の計算方法>																
			基	目標													
		実績															
<指標の計算方法>																	
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳												
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
10,000						10,000											
事業の実績	<令和6年度> ①樋門調査測量設計 前田樋門・北山樋門 2基																
	調査の結果、緊急性の高い補修箇所が見受けられないため経過観察とする。																
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない														
		・老朽化した既存の農業水利施設においては、防災の観点から市で行う必要があり、多面的機能が発揮できるような視点で調査診断を行った。															
	有効性	評価結果	改善の余地がない														
		・当該地区は国営総合農地防災事業の県営付帯事業地区にあり、その事業遂行や完成時期に合わせて既存既設強化を図るものである。															
効率性	評価結果	改善の余地がない															
	・老朽化対策やストックマネジメントは専門業者による調査診断が重要であり、その結果を受けて改修計画を立案することから効率的である。																

事務事業の概要	事務事業名		県営紀の川フルーツライン整備事業				担当課		農地整備課		事業区分		ハード事業	
	新規・継続		新規		事業期間		期間限定複数年度 (R 6 ～ R 8)		事業番号		1243			
	長期総合計画体系		政策目標		3		産業・交流							
			施策目標		1		農業振興・産業振興							
			基本施策		2		均衡の取れた農村や農地の整備							
			取組方針		1		農業生産基盤整備の推進							
	事業概要		紀の川市の道路ネットワークの一役を担う市道と広域農道を一体的に整備し市内の道路ネットワークを強化することで、農業の労働生産性向上を図るとともに市内への効率的な人の流れをつくり、フルーツを中心とした農業や観光産業の活性化を図る。											
	事務事業を構成する細事業		① 県土地改良事業団体連合会負担金		⑤				⑨					
			② 県営紀の川フルーツライン整備事業負担金		⑥				⑩					
			③		⑦				⑪					
		④		⑧				⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析				
	成果指標	事業進捗率	%	目標			10	60	100	事業初年度であり令和6年度は測量設計業務を実施した。				
		実績			10									
	<指標の計算方法>		実施事業費/総事業費											
		目標												
		実績												
	<指標の計算方法>													
		目標												
		実績												
	<指標の計算方法>													
	目標													
	実績													
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳											
	4, 218		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源						
事業の実績	① 県土地改良事業団体連合会負担金 ・事業費に応じた負担金を支出した。 ② 県営紀の川フルーツライン整備事業負担金 ・測量設計業務 一式													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・ 本事業は県営事業で実施しており、事業主体である県と地元との調整を図り事業を進める必要がある。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
		・ 紀の川市の道路ネットワークの一役を担う市道と広域農道を一体的に整備し市内の道路ネットワークを強化することで、農業の労働生産性向上を図るとともに市内への効率的な人の流れをつくり、フルーツを中心とした農業や観光産業の活性化を図ることができる。												
	効率性	評価結果	改善の余地がない											
		・ 県営事業であることから、最も効率的に事業を進められる。												

事務事業の概要	事務事業名			緑化推進事業				担当課		林務課		事業区分		ソフト事業					
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		741	
	会計			一般会計						政策目標		4		都市基盤・生活環境					
	予算科目	款	6	農林業費						施策目標		3		自然環境					
		項	2	林業費						基本施策		1		豊かな自然環境の保全					
		目	1	林業総務費						取組方針		1		森林環境の保全					
	事業概要			市民が緑ある環境づくりを進めることができるように、緑の募金等を通じて、緑化の推進を行う事業															
	事務事業を構成する細事業	① 緑化推進（緑の募金）			⑤								⑨						
		② 紀の国ふるさとづくり協議会負担金			⑥								⑩						
		③ 企業の森			⑦								⑪						
④ キノピー教室			⑧								⑫								

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	緑の募金額	千円	目標	1,700	1,700	1,700	1,600	1,600	目標は達成できなかったが、少子高齢化や地域のつながりが希薄になっていることに加え、募金に協力していただける家庭が減少してきているなかで、県内でも上位の募金額を協力いただいている。	
				実績	1,655	1,643	1,550				
				<指標の計算方法> 自治会等よりの募金額							
	活動指標	キノピー教室実施回数	回	目標	17	17	17	17	17	目標は達成できなかったが、開催を希望した全ての施設で実施することができた。	
				実績	0	14	15				
				<指標の計算方法> 保育所等でのキノピー教室の実施回数							
	成果指標	企業の森協定件数	件	目標	1	1	1	1	1	森林環境保全に関心を持つ企業が出てきたため、目標達成することができた。	
				実績	0	0	1				
				<指標の計算方法> 協定件数							
成果指標	緑の募金活用事業数	件	目標	1	1	1	1	1	緑化事業に意欲のある団体が減少しているためか、今年度の実施はなかった。		
			実績	1	1	0					
			<指標の計算方法> 事業件数								

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳						
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	10							10	

事業の実績	① 緑化推進（緑の募金） ・緑の募金（家庭募金）を実施した。					
	② 紀の国ふるさとづくり協議会負担金 ・山村の役割・魅力を普及・啓発するため、和歌山県内の市町村及び和歌山県で構成された協議会に負担金を支出し、運営に参画した。					
	③ 企業の森 ・「切畑・津田工業の森」について、津田工業株式会社が森林保全活動を行った。 ・「日本ルナの森」について、日本ルナ株式会社が森林保全活動を行った。					
	⑤ キノピー教室 ・15回開催					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない		
		・豊かな自然環境を保全し次世代につなげていくため市民と行政が一体となって取組む必要があり、長期総合計画の基本施策とも合致している。			
	有効性	評価結果	改善の余地がややある		
		・緑化推進は緑の募金事業を活用して、自治区や団体等の自主活動が主な推進事業となっている。成果を向上させる観点からは、緑の募金事業の活用の啓発を図っていくことが考えられる。			
	効率性	評価結果	改善の余地がない		
・当該事業に要する事業費は、事務費や負担金のみの少額であることから、これ以上の削減の余地はないものとする。 ・職員の業務量（人件費）についても、当該事業の執行にかかる最低限度の業務量であることから、現時点で効率性を改善する余地はないものとする。					

事務事業の概要	事務事業名		林業対策事業				担当課		林務課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		734	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		4		都市基盤・生活環境					
	予算科目	款	6		農林業費				施策目標		3		自然環境					
		項	2		林業費				基本施策		1		豊かな自然環境の保全					
目		2		林業振興費		取組方針			1		森林環境の保全							
事業概要			市民、森林所有者、林業従事者が林業の活性化による森林の健全化や森林の多面的機能の維持を図れるように、森林の適切な整備・管理を行う事業															
事務事業を構成する細事業	①		森林病虫害防除委託				⑤		間伐材流通支援補助金				⑨		和歌山県森林クラウドシステム運用負担金			
	②		林業労働力確保支援センター負担金				⑥		森林保全対策				⑩		ハイランドパーク粉河イベント補助金			
	③		山村振興対策協議会負担金				⑦		森林台帳整備・管理				⑪					
	④		葛城高原まつり補助金				⑧		林業担い手社会保障制度等充実対策事業補助金				⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	防除面積		ha	目標		121		121		121		121		面積は、県知事命令により指示されているので、増減はない。			
		実績			121		121		121									
		<指標の計算方法>		松くい虫の防除面積														
	活動指標	伐倒材積		m ³	目標		50		50		50		50		県の予算増減によるものであり、令和5年度と比較して増加した。			
		実績			15		26		40									
		<指標の計算方法>		松くい虫の伐倒駆除材積														
					目標													
		実績																
		<指標の計算方法>																
				目標														
	実績																	
	<指標の計算方法>																	
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳													
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	18, 148						10, 351				1, 299				6, 498			
事業の実績	①森林病虫害防除委託 ・鎌垣・龍王両財産区有林内の松林の松枯れを防止するため、松くい虫の防除作業を実施した。 特別防除 116 ha 地上散布 5 ha 伐倒駆除 40m ³ ②林業労働力確保支援センター負担金 ・林業労働者の安定した雇用の促進と林業の健全な発展のため、負担金を支出し運営に参画した。 ③山村振興対策協議会負担金 ・山村のあり方と安全で快適な生活基盤を形成するため、協議会に負担金を支出し運営に参画した。 ④葛城高原まつり補助金 ・新型コロナウイルス感染症の影響により令和				和2年度から令和5年度は神事のみ執行となっていたが、令和6年度は開催をすることができたため、実行委員会へ補助金を交付した。 ⑤間伐材流通支援補助金 ・紀の川市産間伐材の販売量を向上させ、間伐を促進することにより山林の荒廃を解消し、地球温暖化防止及び災害防止を図ることを目的に補助金を交付した。 搬出材積 2, 392m ³ (2団体の計) ⑥森林保全対策 ・森林法に定められている次の届出を受け、県に提出した。 伐採関係：35件 所有者届出関係：50件 ⑦森林台帳整備・管理 ・財産区物件管理及び収納管理システムの保				守を行った。 ⑧林業担い手社会保障制度等充実対策事業補助金 ・林業事業者の体質強化を図り、林業労働者の社会保障の充実を促進し、労働力の確保のため、事業主が負担しなければならない社会保険料等に補助金を交付した。 ⑨和歌山県森林クラウドシステム運用負担金 ・県内の森林管理や事務手続きの簡素化等のため構築されたシステムで、その利活用や運用のために負担金を支出した。 ⑩ハイランドパーク粉河イベント補助金 ・森林に親しみを持ち、コミュニケーションの活性化につなげるためイベントを実施し実行委員会に補助金を交付した。									
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない														
		・林業経営体の所得向上を促し、担い手確保を図ることは、自然環境を保全し森林の持つ水源の涵養、土砂災害防止等の多目的機能の発揮に繋がることから、市が関与することの妥当性は大きいといえる。																
	有効性	評価結果		改善の余地がややある														
		・林業労働者の社会保障の充実や木材利用の啓発等、担い手の育成、確保に努めているが依然として厳しい状況にあり、顕著な効果は現れていない。 ・森林病虫害防除による森林環境の維持や間伐の促進対策など、森林の維持管理に繋がる取組みは荒廃を防止する効果が見込まれる。 ・森林環境の維持や間伐の促進対策などによって、林業の産業成長化や森林の適正な維持管理、木材利用の普及が見込まれる。																
効率性	評価結果		改善の余地がない															
	・補助金や負担金を効率よく支出できているため、改善の余地はない。																	

事務事業の概要	事務事業名		森林経営管理事業				担当課		林務課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1126		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		4		都市基盤・生活環境						
	予算科目	款	6		農林業費				施策目標		3		自然環境						
		項	2		林業費				基本施策		1		豊かな自然環境の保全						
目		2		林業振興費		取組方針			1		森林環境の保全								
事業概要			経営管理が行われていない森林について、市が所有者の委託を受け経営管理したり、意欲と能力のある林業経営者に再委託することにより、森林管理の適正化を促進する事業																
事務事業を構成する細事業	①		意向調査業務				⑤						⑨						
	②		経営管理集積計画の作成				⑥						⑩						
	③		経営管理伐採業務				⑦						⑪						
	④						⑧						⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	活動指標	森林経営管理意向調査面積		ha	目標	100		100		100		100		100		令和6年度は、前年度に引き続き個人所有の山林の意向調査として桃山18・36林班の意向調査を行った。令和7年度は引き続き桃山16・17林班の意向調査を行う。			
					実績	65.59		55.7		102.41									
		<指標の計算方法> 意向調査を行った人工林の面積合計																	
	成果指標	森林経営管理権集積計画面積		ha	目標	35		35		35		35		35		令和4年度の意向調査に基づき、財産区所有地の貸与区画の一部を現地調査し集積計画を設定した。残りの区画については、今後数年をかけて調査、集積計画の設定を行う。令和5年度に意向調査を行った個人所有の地域については、現地調査が完了しており、山林所有者の同意を得ての集積計画の設定は令和7年度初旬となる見込み。			
					実績	43.03		6.96		17.66									
		<指標の計算方法> 経営管理権集積計画を公告・縦覧した面積																	
	成果指標	森林経営管理事業伐採面積		ha	目標	50		50		35		35		35		集積計画が設定された山林については順次、間伐を行っており、意向調査⇒現地調査⇒間伐の流れが確立しつつある。伐採後は年1度の見回りを行い、集積期間の5カ年が経過したのちは山林所有者への返還時に報告を行うこととしている。			
					実績	9.75		13.12		22.92									
		<指標の計算方法> 経営管理権集積計画に則り間伐等を実施した面積																	
			目標																
			実績																
<指標の計算方法>																			
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	20,277														20,277				
事業の実績	①意向調査業務 調査実施面積：102.41ha 調査実施者：66名（119筆） 回答率：51.52％（内、市に経営管理を委託することを検討すると回答した割合：85.29％）																		
	②経営管理集積計画の作成 計画作成面積： 17.66ha 計画作成件数： 17件																		
	③経営管理伐採業務 実施面積：22.92ha																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・実施主体は市町村と定められており、森林経営管理法において制度概要が制定されている。県内自治体の状況を見つつ、県の指導を仰ぎながら事業を進めていく必要がある。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がややある															
		・法に定められたとおりに実施しなければならないが、山林所有者が誰か分からないなどの問題があり、進捗については、遅れている。																	
効率性	評価結果		改善の余地がない																
	・令和5年度から会計年度任用職員を活用し、業務を進めている。所有者調査のための登記簿謄本の取得や相続人の追跡など、外部に委託できない事務が多く、現状の進め方が最善と考えている。																		

事務事業の概要	事務事業名		有害鳥獣捕獲対策事業				担当課		林務課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		737		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		4		都市基盤・生活環境						
	予算科目	款	6		農林業費				施策目標		3		自然環境						
		項目	2		林業費				基本施策		1		豊かな自然環境の保全						
		目	2		林業振興費		取組方針		2		有害鳥獣の捕獲対策								
事業概要		農業従事者等の農作物被害の軽減を図るために、猟友会等と有害鳥獣対策を行う事業																	
事務事業を構成する細事業			① 鳥獣被害防止対策協議会運営				⑤						⑨						
			② 鳥獣被害対策実施隊運営				⑥						⑩						
			③ 有害鳥獣捕獲事業等補助金				⑦						⑪						
			④ 猟友会補助金				⑧						⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	実施隊捕獲出動回数	回	目標	15	15	15	35	35	紀の川市鳥獣被害対策実施隊の協力のもと目標を達成することができた。	
			実績	25	37	43					
		<指標の計算方法> 実施隊が捕獲活動に出動した回数									
	活動指標	有害鳥獣捕獲数	頭(羽)	目標	1,650	1,800	1,800	1,800	1,800	猟友会協力のもと捕獲数が増加した。また、近年でシカ・カラスの捕獲対策を強化してきた結果、過去最大の捕獲数となった。	
			実績	1,176	1,396	2,190					
		<指標の計算方法> 年間の有害鳥獣（イノシシ・シカ・カラス・アライグマ）の捕獲頭（羽）数									
	活動指標	狩猟免許取得者の補助人数	人	目標	20	20	20	20	20	目標を達成していないが、農業被害への関心から新規取得者数は一定数維持している傾向にある。	
			実績	12	15	7					
		<指標の計算方法> 補助金申請者数									
成果指標	有害獣による農作物被害額（イノシシ）	千円	目標	28,013	11,209	10,619	10,029	9,527	鳥獣被害防止計画の被害実績値を毎年5%減らすため、目標値を設定して相当数の捕獲を行っているが、依然として高い被害額で推移している。		
		実績	12,663	19,907	11,827						
	<指標の計算方法> 野生鳥獣による農作物の被害状況調査票による										

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	19,471			7,581			2,500	9,390

事業の実績	①鳥獣被害防止対策協議会運営 協議会総会 1回																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									

事務事業の概要	事務事業名		森林公園管理運営事業				担当課		林務課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	729	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	4	都市基盤・生活環境				
	予算科目	款	6	農林業費					施策目標	3	自然環境				
		項	2	林業費					基本施策	1	豊かな自然環境の保全				
目		3	林業施設費			取組方針			4	山村振興施設と林道の適正な維持管理					
事業概要		市民、観光客が自然公園等を安全に利用できるようにするために、自然環境を保護し、管理・清掃を行う事業													
事務事業を構成する細事業		① 葛城山公衆トイレ施設管理				⑤ 和泉葛城山保全活用対策協議会負担金				⑨					
		② 龍門山ハイキングコース施設管理				⑥ 自然公園管理				⑩					
		③ ハイランドパーク粉河管理運営委託				⑦ ハイランドパーク粉河施設管理				⑪					
		④ 葛城高原環境保全委託				⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
	成果指標	ハイランドパーク粉河年間利用者数	人	目標	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	目標達成には至らなかったが、昨年度より増加しており、今後も増加に期待できる。					
				実績	16,436	13,323	14,143								
				<指標の計算方法> ハイランドパーク粉河における年間の利用者数											
	成果指標	葛城高原環境保全活動日数	日	目標	50	50	50	50	50	週に1度程度清掃活動が実施されており、良好な状態に保たれている。					
				実績	52	62	54								
				<指標の計算方法> 中尾町内会に委託している葛城高原環境保全活動が年間に実施された日数											
				目標											
				実績											
				<指標の計算方法>											
			目標												
			実績												
			<指標の計算方法>												
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳										
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
	11,316								606	10,710					
事業の実績	①葛城山公衆トイレ施設管理				台等の清掃管理を実施した。				⑤和泉葛城山保全活用対策協議会負担金 ・国の天然記念物であるブナ林及びその周辺の豊かな自然環境を保護・保全するため、和泉葛城山を管轄する府・県・市で構成された協議会に負担金を支出した。						
	②龍門山ハイキングコース施設管理 ・和海紀森林組合に委託し、龍門山山頂周辺及びハイキングコースの雑草除去を実施した。				⑥自然公園管理 ・自然保護監視員として、所管する地域の県自然環境保全地域（金剛生駒紀泉国定公園、龍門山県立自然公園）を巡視等により状況把握に努めた。										
事業の実績	③ハイランドパーク粉河管理運営委託 ・鎌垣財産区にハイランドパーク粉河の管理運営を委託した。 ・管理運営委託施設 管理棟、展望台、イベント広場、野外ステージ、トイレ、キャンプ場、バーベキュー場、遊歩道、遊具 ・年間利用者数 14,143人				⑦ハイランドパーク粉河施設管理 ・管理棟トイレ建具修繕 ・店舗1階シャッター修繕 ・水道施設薬注ポンプ交換										
	④葛城高原環境保全委託 ・中尾町内会に委託し、葛城山周辺施設の環境保全（清掃）を実施した。 ・葛城山山頂周辺、公衆便所、駐車場、展望														
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない											
		・葛城山、龍門山はそれぞれ国定公園、県立自然公園の指定地となっており、自然環境保全の観点から市が関与することは妥当であるといえる。 ・ハイランドパーク粉河は、森林に関する知識の普及及び自然保護の意識高揚を図ることを主な目的として設置している施設であり、その維持管理については市が実施することが妥当な施設である。施設運営に関しては、指定管理による運営を行ってきたが、令和4年度から施設管理として鎌垣財産区に委託した。													
	有効性	評価結果		改善の余地がややある											
		・葛城山と龍門山は、自治会や森林組合を通じて必要な維持管理を実施しており、自然環境の保全は図られていると考えている。 ・ハイランドパーク粉河は、利用者数が伸び悩んでいることから、新たな視点での集客策や活性化策等を模索していく必要がある。 ・建設から年数が経過し老朽化による修繕等が発生しており、その対応に要する業務量が増加傾向にあり、対応策を検討していく必要がある。													
効率性	評価結果		改善の余地がややある												
	・葛城山と龍門山周辺の維持管理については、地元の自治会や森林組合に委託しており、管理面では効率的な運用が行えている。 ・ハイランドパーク粉河は、令和4年度から施設管理業務に関して鎌垣財産区に委託しており、効率的な運用が行えている。														

事務事業の概要	事務事業名		治山林道管理事業				担当課		林務課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	728	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	4	都市基盤・生活環境				
	予算科目	款	6	農林業費					施策目標	3	自然環境				
		項	2	林業費					基本施策	1	豊かな自然環境の保全				
目		3	林業施設費						取組方針	4	山村振興施設と林道の適正な維持管理				
事業概要			市民、林業従事者等が森林へのアクセス道路を安全に走行できるように、林道のパトロールを強化し、林業施設の異変を早急に発見し、現状復旧を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①		治山林道管理事業				⑤				⑨				
	②		林道施設整備事業補助金				⑥				⑩				
	③						⑦				⑪				
	④						⑧				⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	パトロール活動	回	目標	60	60	60	60	60	目標を達成していないが、パトロール以外の目的時も目を配ることで、林道施設の異変を早期発見、対処することができた。積雪時には業者委託に加えて、寒波が予想された時には職員も迅速に巡視して融解作業を実施した。	
				実績	80	24	48				
		<指標の計算方法>		林道パトロールを行った回数							
	成果指標	事故報告件数	回	目標	0	0	0	0	0	対人事故・対物事故は発生しなかった。	
				実績	1	0	0				
		<指標の計算方法>		林道の管理不足による事故の報告があった件数							
				目標							
				実績							
		<指標の計算方法>									
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳						
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	5,972								5,972

事業の実績	①治山林道管理事業		凍結防止融解作業		・整備実績	
	【雑草除去】 ・林道紀泉高原線 雑草除去7,000㎡ ・林道粉河中央線 雑草除去6,000㎡ 【水路清掃】 ・林道粉河中央線 側溝清掃 41m ・林道紀泉高原線 側溝清掃 64m ・林道真国野田原 側溝清掃 200m 【林道凍結防止融解作業】 林道紀泉高原線・林道粉河中央線・林道重谷線		作業回数：4回 【維持管理委託】 ・林道勝神線 維持管理委託 1,655m 【林道維持管理・補修】 ・林道粉河中央線 崩土除去4箇所 ・林道紀泉高原線 崩土除去2箇所 【工事】 ・林道真国野田原線道路修繕工事		林道鎌垣線 崩土・倒木除去 作業距離 3,000m	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・林道を安全かつ快適に通行できるように維持管理が必要である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
		・林道パトロールを定期的に行うことにより、道路施設、道路周辺の状況を確認することができ、側溝の土砂の堆積、枝打ち箇所など維持修繕箇所を早期発見することで、林道の安全性を高め未然に災害防止に繋がっている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある												
	・林道を維持管理するにあたり、草刈り、崩土除去、道路清掃に費用がかかっているが、林道を通行する人が増え、安全かつ快適に利用されている。 ・環境衛生課の不法投棄パトロール時に道路施設の確認、道路周辺の状況確認を行ってもらうことで、効率よく施設の状態を把握できている。 ・パトロールに時間を要するため人員配置に考慮する必要がある。													

事務事業の概要	事務事業名		消費者安全対策事業			担当課		商工労働課		事業区分		ソフト事業						
						新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		727		
	会計		一般会計							政策目標		1		安全・安心				
	予算科目	款	7	商 工 費							施策目標		1		防災・防犯			
		項目	1	商 工 費							基本施策		4		防犯・交通安全対策の推進			
		目	1	商工総務費							取組方針		5		消費者の安全対策の推進			
	事業概要		市民が消費者被害にあわないように、啓発や相談窓口を開設する事業															
事務事業を構成する細事業		①	消費者問題啓発事業					⑤						⑨				
		②	消費者問題相談事業					⑥						⑩				
		③	県都市消費生活対策連絡協議会負担金					⑦						⑪				
		④						⑧						⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析								
	活動指標	消費者問題相談件数	件	目標	90	90	110	120	120	岩出市226件 橋本市445件 通信機器の普及に伴いインターネット通販に関する相談が増えている。								
			実績	180	104	158												
		<指標の計算方法>							市の消費相談窓口で受付した年間の相談件数									
	成果指標	消費者問題相談解決率	%	目標	80	80	80	80	80	インターネット通販はクーリングオフが適用されないため販売者の裁量に委ねる部分が大きく解決に至らないケースが多い。								
			実績	84	86	85												
		<指標の計算方法>							相談を受付した件数のうち、問題解決に至った件数の割合									
	活動指標	啓発活動回数	回	目標	12	12	12	12	12	岩出市8件 橋本市43件 計画どおり啓発活動を実施した。								
			実績	12	14	14												
		<指標の計算方法>							年間に実施した消費問題に関する啓発活動の回数									
			目標															
			実績															
<指標の計算方法>																		
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳													
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源								
	2,575					390					2,185							
事業の実績	①消費者問題啓発事業 啓発活動を14回実施した。 4月15日 ライン配信による相談窓口周知 5月11日 消費者月間該当啓発 5月22日 立地企業総会 9月30日 ライン配信による啓発 11月19日 ライン配信による啓発 11月24日 産業まつり 12月 9日 高校生市内企業見学ツアー 1月12日 はたちのつどい 1月15日 ライン配信による啓発 2月13日 ライン配信による啓発 3月12日 ライン配信による啓発 3月14日 合同企業説明会 3月16日 ママジョブマルシェ 3月25日 立地企業役員会 ・出前講座を3回実施した。 5月24日 11人 5月29日 34人																	
	6月22日 36人																	
	②消費者問題相談事業 相談窓口を開設した。 年143回 専門相談員(毎週水金曜日) 相談件数 158件 解決率 85% 主な相談内訳 訪問販売 15件(内12件解決) インターネット通販 51件(内39件解決) 架空請求 7件(内 7件解決) クーリングオフ 9件(内 9件解決) ・消費者教育パンフレットを配付した。 1,464部(市内中学生) ・スキルアップ研修に6回参加した。 4月16日 初任者研修 6月20日 実地研修(1回目) 9月24日 実地研修(2回目)																	
	11月18日 消費教育推進研修 ～19日 11月29日 専門講座 2月18日 消費生活サポーター養成講座 ③県都市消費生活対策連絡協議会負担金 6月20日 総会(書面決議)前年度事業・決算報告・本年度予算・事業計画 10月29日 第1回定例会 1月31日 第2回定例会																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・消費者基本法や消費者安全法に定める基本理念に則り、自治体は消費者安全の確保に関する施策を推進する責務があるため、消費者庁をはじめ県消費生活センターと緊密に連携を保ちながら消費者行政全般に対して、市が関与することが妥当である。 ・インターネット通販の普及に伴い相談内容は複雑化しており専門的な相談窓口の必要性は年々高まっている。																
	有効性	評価結果	改善の余地がややある															
		・消費者相談窓口を週3回に増加させたことにより相談体制を整備することができた。 ・市公式LINEを新たに活用することで、啓発を効率的に実施することができた。 ・相談窓口開設を週3回に拡大したことにより、今までより市民が相談しやすい環境となった。 ・引き続き若年層に対する啓発を行う必要がある。																
	効率性	評価結果	改善の余地がない															
・消費者トラブルを防ぐために市のSNS等で情報発信するなど、経費を抑えて啓発活動をする事が出来ている。																		

事務事業の概要	事務事業名		商工振興事業				担当課		商工労働課		事業区分		ソフト事業			
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1016	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	3	産業・交流					
	予算科目	款	7		商工費				施策目標	1	農業振興・産業振興					
		項目	1		商工費				基本施策	3	商工業の振興					
		2		商工振興費				取組方針	1	市内商工業者の振興・活性化						
事業概要			商工業者の経営安定化につなげるために、運営、事業に対する支援や補助を行う事業													
事務事業を構成する細事業			① 中小企業支援対策(セーフティネット)				⑤ 小規模事業者経営資金利子補給金				⑨					
			② 商工会補助金				⑥ DX導入支援事業				⑩					
			③ 商工会商品券補助金				⑦ 買い物環境支援事業				⑪					
			④ プレミアム付デジタル商品券事業				⑧ ATTO！MARCHE開催事業				⑫					
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
		商工会会員数	人	目標		1, 250	1, 243	1, 245	1, 245	1, 245	会員の高齢化が進み廃業する事業者が増加した。					
				実績		1, 245	1, 231	1, 217								
		<指標の計算方法>		毎年度4月1日時点の紀の川市商工会及び那賀町商工会の会員数												
	活動指標	経営改善相談・指導件数	件	目標		5, 500	8, 000	7, 000	7, 000	7, 000	補助金事業が減少し相談件数が減少した。					
				実績		7, 781	6, 489	5, 282								
		<指標の計算方法>		各商工会が実施した年間の経営改善相談及び指導件数の合計												
		活動指標	後継者の育っている事業所数	人	目標		60	40	42	42	42	若年層の新規会員の加入に対し年齢到達による青年部からの異動が多かった。				
	実績					31	30	29								
	<指標の計算方法>		毎年度4月1日時点の各商工会青年部会員数													
成果指標	商工会商品券利用率		%	目標		100	100	100	100	100	高い利用率を維持しており市内の消費喚起に繋がった。					
		実績			99. 4	99. 4	99. 5									
	<指標の計算方法>		各商工会が発行したプレミアム商品券のうち、利用（換金）された割合													
	コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳										
				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
112, 135				45, 250						10, 000		12, 523		44, 362		
事業の実績	①中小企業支援対策(セーフティネット) ・書類審査 23件 4号 9件 5号 14件 ②商工会補助金 ・紀の川市商工会 補助金額 26, 880, 000円 会員数 1, 014人(内青年部会員数24人) 職員 15人(局長1人/職員9人/嘱託5人) 経営改善相談並びに指導相談件数4, 918件 ・那賀町商工会 補助金額 5, 900, 000円 会員数 203人(内青年部会員数5人) 職員 5人(職員3人/嘱託2人) 経営改善相談並びに指導相談件数364件 ③商工会商品券補助金 補助額 12, 974, 545円 プレミアム率 10% 当選者数 2, 877人(当選率80. 5%) 予約申込口数 9, 901口 当選口数 7, 976口(当選率80. 6%) 利用店舗数 390店舗 利用枚数 89, 666枚 利用率 99. 5% ④プレミアム付デジタル商品券事業 プレミアム率 30% 販売額 162, 084, 000円 (24, 936口×6, 500円) 利用額 161, 845, 653円 利用率 99. 9% 申込者 19, 360人(38, 489口) 当選者 16, 900人 1次繰上785人 当選率 87. 3% 加盟店舗数 369店舗 ⑤小規模事業者経営資金利子補給金 ・紀の川市商工会 申請件数 131件/利子補給額 3, 007, 600円 ・那賀町商工会 申請件数 23件/利子補給額 505, 600円 ⑥DX導入支援事業 申請件数 10件 交付決定額 1, 135, 000円 ⑦買い物環境支援事業 広報紙6月号でチラシ折込 HP登録件数 7件 ⑧ATTO！MARCHE開催事業 8月25日 大国主神社夏祭り 10月19日 那賀病院健康フェスタ 12月14日 平池イルミネーション 3月 9日 八朔フェスティバル 3月29日 青洲の里桜まつり															
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・市内商工業者の経営基盤強化を図り、地域経済を活性化させることが目的であるため、市が関与することが妥当である。												
		評価結果		改善の余地がややある ・小規模事業者の高齢化や労働人口の減少、事業承継が進んでいないなど商工業を取り巻く課題は多いため、長期的で多面的な施策が必要である。												
	有効性	評価結果		改善の余地がややある ・国や県の支援策をメール配信するなど市内企業が積極的に活用できるよう情報発信に取り組むなど効率性を追及しているが、事業が多岐に渡るためスクラップアンドビルドにより整理統合していく必要がある。												
効率性		評価結果		改善の余地がややある ・国や県の支援策をメール配信するなど市内企業が積極的に活用できるよう情報発信に取り組むなど効率性を追及しているが、事業が多岐に渡るためスクラップアンドビルドにより整理統合していく必要がある。												

事務事業の概要	事務事業名			創業支援事業			担当課		商工労働課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1088		
	会計			一般会計			長期総合計画体系		政策目標		3		産業・交流						
	予算科目			款		7			商工費		施策目標		1		農業振興・産業振興				
				項		1			商工費		基本施策		3		商工業の振興				
			目		2		商工振興費		取組方針		3		創業・事業承継の支援						
事業概要			創業者の経営の安定化を図り商工業を活性化させるため、創業に必要な知識を得るためのセミナーの開催や、創業に伴う必要経費等に対する支援を行う事業																
事務事業を構成する細事業			① 創業セミナー開催補助金			⑤						⑨							
			② 創業支援補助金			⑥						⑩							
			③ インキュベーター教育導入事業			⑦						⑪							
			④			⑧						⑫							

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	創業セミナー受講者数	人	目標	10	10	40	50	50	オンデマンド動画配信による受講を追加したことにより大幅に増加した。	
			実績	19	36	66					
		<指標の計算方法> 創業セミナーへの年間受講者									
	成果指標	創業支援補助金交付決定数	件	目標	3	6	6	6	6	セミナー受講者の増加に伴い新規創業者も増加した。	
			実績	7	8	11					
		<指標の計算方法> 創業支援補助金交付要綱に基づき補助金を交付した件数									
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	6,668		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
						6,000		668

事業の実績	①創業セミナー開催補助金 運営先 紀の川市商工会・那賀町商工会 補助金額 500,000円 開催内容 講師 グローカルマーケティング㈱ 今井 進太郎 氏 第1回 6月 4日 経営 第2回 6月11日 販路開拓 第3回 6月20日 財務 第4回 7月 3日 人材育成 第5回 7月10日 融資制度、事業計画指導 他、オンデマンドで配信 受講者数66名 会場19人、オンライン19人、 オンデマンド28人			那賀地域 5名 桃山地域 2名 貴志川地域 2名			参加者数 生徒 13人 教員 1人		
	②創業支援補助金 交付決定数 11名 打田地域 1名 粉河地域 1名			③インキュベーター教育導入事業 市内高校生を対象に、思い描く将来設計の中に、「起業」という選択肢も加えてもらうことを目的に特別授業を開催した。 ・粉河高校2年生 日時 2月 6日 14:25～15:15 講師 関西ニュービジネス協議会 副会長 谷岡 樹 氏 参加者数 生徒28人 教員 1人 ・貴志川高校2年生 日時 2月25日 10:45～12:25 講師 関西ニュービジネス協議会 副会長 増尾 朗 氏					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない														
		・創業支援等事業計画に基づき、経済産業省ならびに県と連動した支援策は、持続可能な市内商業の基盤形成につながるため、市が関与することが妥当である。															
	有効性	評価結果	改善の余地がややある														
		・セミナー受講者数の増加に伴い、創業者数も増加しているため、セミナーの開催は有効な手段となっている。 ・創業者数は増加しており、補助金制度は有効な動機付けとなっている。 ・地域課題解決型且つ45歳以下の創業者に対する補助額加算は効果が明らかでないため見直す必要がある。															
効率性	評価結果	改善の余地がややある															
	・新規創業に関する機運が高まっており、創業を目指す市民が必要な知識やスキルを取得するためのセミナー開催、及び創業初期の支援に対するニーズは高まっている。																

事務事業の概要	事務事業名			企業誘致促進事業			担当課		商工労働課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		387	
	会計			一般会計					政策目標		3		産業・交流					
	予算科目	款	7	商工費					施策目標		2		雇用・就労					
		項目	1	商工費					基本施策		1		就労支援の充実と雇用創出の振興					
		目	2	商工振興費					取組方針		1		企業誘致の促進による新たな雇用創出					
	市民の雇用創出や市の税収拡大を図るために、進出を希望する企業に誘致活動を行う事業																	
事務事業を構成する細事業	事業概要			① 企業用地調査・情報提供			⑤ 企業誘致関連法事務			⑨								
				② 県企業立地連絡協議会負担金			⑥ 企業誘致活動			⑩								
				③ 企業立地促進助成金			⑦ 地域好循環型ビジネスモデル構築事業			⑪								
				④ 宿泊施設誘致奨励金			⑧			⑫								

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	フォローアップ訪問社数	社	目標	15	15	15	15	15	年度計画のとおり各企業へ助成金などの支援制度の周知や懸案事項に関する相談、解決等のフォローアップを実施した。	
				実績	22	21	23				
			<指標の計算方法> 誘致後のフォローアップのために誘致企業を訪問した回数								
	活動指標	助成金支出企業数	社	目標	6	5	2	2	2	年度計画のとおり奨励金の支援対象としていた進出企業へ助成金を交付した。	
				実績	6	5	3				
			<指標の計算方法> 企業立地促進条例及び宿泊施設の誘致等に関する条例に基づき助成金を交付した企業件数								
	成果指標	誘致企業地元雇用者数（全体）	人	目標	0	740	745	750	750	新設及び増設企業の操業開始により地元雇用者数が増加した。	
				実績	741	821	856				
			<指標の計算方法> 誘致企業対象に実施するアンケート調査（毎年4月1日時点）※R5より雇用率から雇用人数に変更（第2次後期計画による）								
成果指標	誘致企業地元雇用者数（正社員）	人	目標	0	500	510	520	520	新規企業が操業開始してしばらく経過し、また新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いた事により、正社員の雇用が増加傾向にあるものと思われる。		
			実績	494	496	516					
		<指標の計算方法> 誘致企業対象に実施するアンケート調査（毎年4月1日時点）※R5より雇用率から雇用人数に変更（第2次後期計画による）									

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	26,729							26,729

事業の実績	① 企業用地調査・情報提供 民間所有の企業用空き用地の調査を行い、所有者が希望する用地についてはデータベース化しホームページで情報提供した。			・ ルートインジャパン(株) (ホテルルートイン 紀の川) 宿泊施設立地奨励金 16,650千円 地域資源活用奨励金 300千円 合計 16,950千円			寿高原食品(長野県) マルミツサンヨー(福岡県) 南海果工(和歌山県) 今岡製菓(広島県) ・ 市内企業と取引を行った企業 1社 太洋食品（R5訪問企業） ・ 市内へ進出した企業 0社		
	② 県企業立地連絡協議会負担金 県企業立地連絡協議会において情報交換を行い、協議会負担金を負担した。			⑤ 企業誘致関連法事務 工場立地法による工場の新設及び増設の届出に対し、協議、指導し計画を受理した。 ・ 工場立地法届出の受理 2社（変更2件）					
	③ 企業立地促進助成金 条例に基づく協定企業の生産設備に関する新設及び増設に対し助成金を交付した。 ・ ハバジット日本(株) (増設助成3年目) 3,084千円 ・ オーアイテック(株) (増設助成1年目) 3,645千円			⑥ 企業誘致活動 新規進出協定企業はなし。					
	④ 宿泊施設誘致奨励金 新規誘致宿泊施設の開業により、条例に基づく奨励金を交付した。			⑦ 地域好循環型ビジネスモデル構築事業 農産物加工業者進出動向調査及び誘致対象企業訪問調査を行い、市内への進出に関心が高い企業に対し、誘致活動を行った。 ・ 誘致活動を行った企業 5社 フルーツむらはた(石川県)					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																
		・ 市外からの企業誘致は、自主財源の確保や住民の雇用機会の創出、地域経済の発展、人口流出防止策として最も即効性のある施策であるため、市独自の企業誘致活動を行政が行うことは妥当である。																	
	有効性	評価結果	改善の余地がややある																
		・ 企業立地に伴う直接的な地元雇用の拡大、地域経済への波及効果の面からも有効性は高いと考える。 ・ 現在市が管理する企業団地に用地の空きがなく、進出を検討している企業を誘致できていない状況である。 ・ 条例の改正により市内の既存企業も助成対象となるよう事業要件を拡充したため、増設を計画する企業も現れてきたが、事業周知が十分でないため継続して広報していく必要がある。 ・ 進出意欲があるが少子高齢化による人手不足を懸念し進出を躊躇することが無いよう、人材面でも企業をバックアップする対策が必要である。																	
効率性	評価結果	改善の余地がややある																	
	・ 企業誘致に関して民間資金を活用した手法等、新たな手法による企業誘致について検討の余地がある。																		

事務事業の概要	事務事業名				立地企業連携事業				担当課		商工労働課		事業区分		ソフト事業										
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		483						
	会計				一般会計				長期総合計画体系				政策目標		3		産業・交流								
	予算科目				款								7				商工費								
					項								1				商工費								
				目				2				商工振興費				基本施策				3		商工業の振興			
																取組方針				1		市内商工業者の振興・活性化			
				事業概要				立地企業連絡協議会会員企業の新製品や新技術の開発を促進するために、企業間交流や研修会の開催を行う事業																	
事務事業を構成する細事業				①				立地企業連絡協議会運営				⑤								⑨					
				②				企業間交流促進業務				⑥								⑩					
				③				雇用促進・就業支援体制整備				⑦								⑪					
				④				立地企業連絡協議会補助金				⑧								⑫					
指標の実績	活動指標		指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析						
			先進技術や産業振興に必要な制度等の研修会		回		目標		2		2		2		2		2		総会の年度計画どおりに年度2回の研修会を開催した。						
							実績		3		2		2												
	<指標の計算方法>		立地企業連絡協議会が主催する会員企業対象の研修会回数																						
	活動指標		経営層だけでなく従業員も含めた活発な意見交換交流会		回		目標		1		1		1		1		1		総会と市内事業者向け研修会の終了後、交流会を開催し、県市担当者を交えて意見交換を行った。						
							実績		0		1		2												
	<指標の計算方法>		立地企業連絡協議会が主催する交流会の回数																						
	成果指標		会員企業連携による新製品や新技術開発検討会議		回		目標		1		1		1		1		1		協議会員による産官学連携による新商品、新技術開発協議は無かった。						
							実績		0		0		0												
	<指標の計算方法>		立地企業連絡協議会会員企業が連携し、新たに産出する商品開発検討会議の回数																						
	成果指標		業務提携件数		件		目標		3		3		3		3		3		今年度は新たな提携事例はなかった。						
							実績		2		0		0												
<指標の計算方法>			立地企業連絡協議会会員企業が提携し実施した業務件数（累計）																						
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)								財源内訳																
									国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源						
	65																		65						
事業の実績	①立地企業連絡協議会運営 企業と地域の結びつきの促進、会員企業相互の連携と情報の収集・提供を目的とし、下記のとおり活動した。 ・加入企業等 34企業 1大学 総会 1回 役員会 1回 研修会 2回 (副業人材研修・デマンド交通研修) 【その他実施事業】 以下のイベントに会員企業及び協議会事務局が参加しました。 ・キャリア教育授業 粉河中学校の2年生 那賀・荒川中学校の1年生を対象 ・企業見学バスツアー								就職を希望する市内高校生を対象とした企業見学会 ・ママジョブマルシェ 子育て世代の母親の就職活動を支援するためのカジュアルな企業説明会 ・紀の川市合同企業説明会 わかやま新卒応援ハローワークと合同主催した就職説明会 ・きのくに人材Uターンフェア 和歌山県経営者協会主催の就職説明会で市内企業の情報を提供								会員企業を紹介した「立地企業ガイドブック」を県内高校、専門学校、大学等に送付するなどの就職支援を行った。 ・ガイドブック送付学校数 41校 将来の職業等についての参考、また市内企業の周知のため「立地企業ガイドブック」と「きのかわで働くダイジェスト版」のQRコードを案内した。 ・市内中学生 1,337人 ・H18.4.2～H19.4.1生まれの紀の川市民(高校3年生相当) 508人 ④立地企業連絡協議会補助金 企業と地域の結びつきの促進、会員企業相互の連携と情報の収集・提供を目的とした立地企業連絡協議会に補助金を交付した。								
									②企業間交流促進業務 会員企業相互の交流を目的とした交流会を実施。																
									③雇用促進・就業支援体制整備																
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																					
		・産官学連携、農商工連携、異業種連携等新たな取組への投資、新商品の開発は、企業の投下固定資産の増加と新たな雇用の創出を期待することができる。このような取組が地域社会への貢献につながることから、市が関わることは妥当と考える。																							
	有効性	評価結果		改善の余地が大きい																					
		・新型コロナウイルス感染症の5類移行後、積極的に異業種への進出を検討している企業が見受けられ、このような企業には、市として有益な情報を提供し、協議会としても情報共有しサポートしていく必要がある。 ・全国的な人手不足の影響で新規雇用を課題としている企業も多いため、協議会として雇用対策を検討する必要がある。																							
効率性	評価結果		改善の余地がややある																						
	・協議会の会計収入のほとんどが会員からの会費で占められており、市の補助額は少額であるため費用対効果は高く事業の効率性は高いが、コロナ禍において協議会の研修会・交流会が自粛されたため、協議会の会費が積みあがっており、今後会員企業が実施する各研修等に協議会から一定の補助するなどし効率的に会費を支出するよう協議会として調整する必要がある。																								

事務事業の概要	事務事業名			工業団地維持管理事業				担当課		商工労働課		事業区分		ソフト事業					
	会計			一般会計				新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		484	
	予算科目	款	7	商工費				長期総合計画体系	政策目標		3		産業・交流						
		項	1	商工費					施策目標		2		雇用・就労						
		目	2	商工振興費					基本施策		1		就労支援の充実と雇用創出の振興						
事業概要			立地企業が安全、安心に操業できるようにするために、工業団地の施設の適切な維持管理と用地の有効活用を行う事業																
事務事業を構成する細事業	①			工業団地管理				⑤						⑨					
	②			用地貸付(歳入)				⑥						⑩					
	③			工業団地専用排水管内調査業務				⑦						⑪					
	④			災害復旧事業				⑧						⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	活動指標	維持管理面積		㎡	目標	18, 276		18, 635		18, 597		18, 886		18, 886		維持管理の実施に当たり、管理区域の見直しを行い当初計画に対し管理面積が増加した。			
		実績			18, 635		18, 597		18, 886										
		<指標の計算方法> 草刈り等、維持管理している面積																	
	活動指標	維持管理箇所数		箇所	目標	6		6		6		6		6		当初予定していた工業団地について維持管理を実施することができた。			
		実績			6		6		6										
		<指標の計算方法> 草刈り等、維持管理を実施した工業団地箇所数																	
	活動指標	工業団地専用排水管内調査業務		m	目標			2, 815								今年度の調査計画はなかった。			
		実績					2, 815												
		<指標の計算方法> 調査対象の桃山第1工業団地の専用排水管路の延長																	
			目標																
			実績																
			<指標の計算方法>																

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳																																										
	10, 816		国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源																																
事業の実績	①工業団地管理(草刈・水路管理) 市内6箇所の工業団地の市管理地において雑草除去、雑木伐採等の維持管理について業務委託にて実施した。雑草除去は年2回実施した。 ・雑草除去業務委託 10件 18, 886㎡ ・支障木伐採委託 2件 490m ※管理(委託)面積は2回目の面積を計上 【維持修繕工事】 桃山第2工業団地の調整池管理道が未舗装のため、雑草が繁茂し維持管理に苦慮していたことから、LCCを勘案しコンクリート舗装を施工することで長期的なコスト削減を図った。 ・コンクリート舗装工事 1件 165㎡ 北勢田工業団地の立地企業の案内看板において、表示面の劣化が急速に進行しており景観性及び安全性を保つために修繕を行った。															※予算の流用 ・案内看板修繕工事 1件 11㎡ 【施設器具修繕】 北勢田工業団地南側に位置し、市道那賀打田線との交差点において、既設カーブミラーの鏡面が劣化し、安全施設としての機能が著しく低下していたため取替えを行った。 ・カーブミラー取替え 1箇所 2面 【水路清掃委託】 R6.10豪雨により、桃山第2工業団地(株共栄テクシード東側)の暗渠排水管において、大量の枝葉等が流入し管路を閉塞し、機能回復を行うため清掃撤去を行った。 ・水路清掃委託 1式 ②用地貸付(歳入) 平成19年度から賃貸借契約を締結している桃山第3工業団地の市管理地について、令和6年															度も継続して貸付を行った。 目的：携帯電話基地局用地として 住所：紀の川市桃山町調月713-3・713-27 (桃山第3工業団地敷地内) 面積：200㎡ ③工業団地専用排水管内調査業務 本年度実績なし。 ④災害復旧事業 R6.7梅雨前線豪雨により、北勢田ハイテクパーク(永山電子工業(株)北側)の市管理地法面が崩壊し、隣接する神社参道に土砂等が堆積したことによる法面復旧工事。 堆積物を撤去するとともに、早急に斜面の安定を図るため法面保護等の対策工事を行った。 ・崩土除去委託 1件 ・法面復旧工事 1件														

事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・基本的に市有地に対する事業であるため、市による維持管理を行う必要がある。																	
		評価結果		改善の余地がややある ・草刈・水路管理等の維持管理を行うことで、立地企業の景観が維持できており、有効性がある。 ・既存施設の老朽化が進行しており、今後も計画的な更新、長寿命化対策が必要である。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がややある ・緩傾斜地の草刈業務はシルバー人材センターを活用し高齢者に働く機会を提供することに努め、急傾斜地で重労働を伴う業務は、地元の土木業者や造園業者、森林組合を選定している。 ・老朽化が進行した施設の現状調査結果に基づく対策を講じる必要がある。																	
		評価結果		改善の余地がややある ・緩傾斜地の草刈業務はシルバー人材センターを活用し高齢者に働く機会を提供することに努め、急傾斜地で重労働を伴う業務は、地元の土木業者や造園業者、森林組合を選定している。 ・老朽化が進行した施設の現状調査結果に基づく対策を講じる必要がある。																	

事務事業の概要	事務事業名			新事業用団地造成事業				担当課		商工労働課		事業区分		ハード事業					
	会計			一般会計				新規・継続		継続		事業期間		期間限定複数年度（R3～R10）		事業番号		1161	
	予算科目	款	7	商工費				長期総合計画体系	政策目標		3	産業・交流							
		項	1	商工費					施策目標		2	雇用・就労							
		目	2	商工振興費					基本施策		1	就労支援の充実と雇用創出の振興							
	取組方針								1	企業誘致の促進による新たな雇用創出									
事業概要			新事業用団地計画地区である曾山地区について、誘致企業の新設、及び既存企業の増設用地として整備することで市内に新たな産業を導入し、また、既存企業の増設等の事業拡大を促すことで、市民の雇用機会の創出、市内産業の活性化及び市の自主財源を確保する事業																
事務事業を構成する細事業	① 用地等補償契約			⑤						⑨									
	② 測量設計業務			⑥						⑩									
	③ 用地維持管理業務			⑦						⑪									
	④			⑧						⑫									

指標の実績	成果指標	指標名		単位		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	指標の分析	
		対象となる事業計画面積		ha	目標	9.7	9.7	7.8	7.99	7.99	事業計画区域の見直しにより事業計画面積が減少したことにより、実績である現地測量による事業計画面積も減少した。	
	<指標の計算方法>		事業計画面積									
	成果指標	用地補償等契約面積		ha	目標	3.1	7.5	3.1	0.2		海外居住の相続権者との用地交渉に時間を要しているなど、一部の用地について交渉ができず目標値に達しなかった。 （※R7で完了予定のためR8目標値は記載なし）	
		<指標の計算方法>		用地等補償契約を締結した面積								
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
				目標								
				実績								
<指標の計算方法>												

コストの実績	R6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
102,874								47,229	55,645

事業の実績	①用地等補償契約			業務委託件数 1件 一式		
	事業用地の取得のため計画区域内の用地等補償契約を締結した。			③用地維持管理業務（R5から繰越）		
	・用地等補償契約件数 36件 30,140㎡ （累計 49件 67,785.79㎡）			事業用地の取得に伴い、隣接地が農地や水路の市所有地について、草刈り等の維持管理を行った。		
	②測量設計業務（R5から繰越） 過年度業務を基礎資料とし造成に必要な現地測量、地質調査、及び造成基本設計を実施した。本来であれば、造成実施設計まで完了予定であったが、他部署で行う立地企業の選定において、不測の日数を要したため、基本設計の進捗が遅れ、実施設計の完了に至らなかった。なお、未着手部分の実施設計については、R7にて再度予算計上し実施する予定としている。			雑草等刈取業務 3件 1,498㎡		

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																
		・基本的に事業用団地を新規に造成する事業であるため、その造成に際し民間資金や技術力を活用するいわゆるPFI手法を検討する余地があるが、事業計画の規模、期間を考慮するに小規模、短期間という点や事業目的を考慮すると、市が実施することは妥当と考える。																	
	有効性	評価結果	改善の余地がややある																
		・現在の進捗としては計画に沿っていると考えているが、事業効果の早期発現のため効率的な造成工事や工事施工を検討する必要があると考える。 ・本計画地域は、「紀の川インターチェンジ周辺土地利用構想」に基づく先行開発地との位置づけであるため、構想に則した造成計画を検討する必要がある。																	
効率性	評価結果	改善の余地がややある																	
	・事業計画の規模、期間を考慮するに小規模、短期間という点や事業目的を考慮すると、費用対効果を常に検討しつつ市が事業を実施することが最も効率が高いと考える。																		

事務事業の概要	事務事業名		北勢田工業団地専用排水管移設事業				担当課		商工労働課		事業区分		ハード事業	
	新規・継続		継続		事業期間		期間限定複数年度（R 3 ～ R12）		事業番号		1162			
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		3	産業・交流		
	予算科目	款	7	商 工 費		施策目標			2	雇用・就労				
		項目	1	商 工 費		基本施策			1	就労支援の充実と雇用創出の振興				
		目	2	商工振興費		取組方針		1	企業誘致の促進による新たな雇用創出					
事業概要		県道泉佐野打田線の4車線化拡幅工事に伴い、工事の支障となる北勢田工業団地からの専用排水管を移設することで県道工事後の専用排水管の安定的運用を確保する事業												
事務事業を構成する細事業	①		測量設計業務				⑤				⑨			
	②		排水管路移設替工事				⑥				⑩			
	③						⑦				⑪			
	④						⑧				⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	測量設計実施延長	m	目標	200	0	480	0	0	計画していた区間の測量設計を実施した。	
		実績		212	0	520					
		<指標の計算方法>		測量設計業務を実施した延長							
	成果指標	移設工事実施延長	m	目標	0	228	230	241	0	県工事の遅延により今年度工事着手できなかった。移設工事は発注済みでR7へ繰越措置をしており、県工事完了後速やかに工事着手する。	
		実績		182	0	0					
		<指標の計算方法>		移設工事を実施した延長							
			目標								
			実績								
		<指標の計算方法>									
		目標									
		実績									
	<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	9, 748						9, 748	

事業の実績	①測量設計業務		工事区間は、県道泉佐野打田線と県管理河川の佐川交差部から北に約151m、南に約90mの延長計241m。	
	県道拡幅計画に合せた北勢田工業団地専用排水管の移設計画の検討を行い、業務委託にて現地測量および実施設計を行った。 設計区間は、京奈和自動車道 紀の川I. Cから北に約100m、南に約420mの延長計520m。 ・実施設計業務 L=520m		・排水管移設工事 L=241m （ダクタイル鋳鉄管 φ 250mm L=70m） （硬質塩化ビニル管 φ 250mm L=170m） （ダクタイル鋳鉄管 φ 100mm L=1m）	
	②排水管路移設替工事			
	和歌山県が実施する県道泉佐野打田線橋梁工事の実施に伴い設置される県仮設道に仮設排水官設置工事を発注した。しかしながら、県事業の進捗が大幅に遅れたため、本年度は工事着手に至らなかった。※R7へ繰越			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・移設工事の対象となる排水管は県の施行により造成されたが現在市へ財産移管されており、県道に対する占用物となるため市による事業実施は妥当と考える。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・事業の性質上、県道拡幅工事計画に応じた排水官移設計画を検討する必要があるが、県工事の進捗状況が遅れたことにより市の事業実施も遅れている現状は致し方ないと考え。		
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・対象施設は市の占用物であるが、県道拡幅工事の支障となる一部区間の移設工事については公共補償に伴う受託事業であり、測量設計費及び仮設工事費は全額、移設工事費は既設施設の供用年数に応じた減耗額を差引いた工事額が公共補償対象のため、経費の面からも最も効果的と思われる。			

事務事業の概要	事務事業名		紀の川はっさくプロジェクト推進事業				担当課		商工労働課			事業区分	ソフト事業	
							新規・継続		継続	事業期間	期間限定複数年度（R３～R６）		事業番号	1171
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	3	産業・交流			
	予算科目	款	7	商工費		施策目標			1	農業振興・産業振興				
		項	1	商工費		基本施策			3	商工業の振興				
目		2	商工振興費		取組方針	4			地域内経済循環の促進					
事業概要		「地域産業創出に向けた連携協定」に基づき、はっさく果皮含有成分による商品開発等を推進するとともに、「紀の川はっさく」のブランド化による地域経済の活性化を図る事業												
事務事業を構成する細事業	①		紀の川はっさく普及推進事業				⑤					⑨		
	②		紀の川はっさくプロジェクト推進事業				⑥					⑩		
	③						⑦					⑪		
	④						⑧					⑫		

指標の実績	指標名		単位		R４年度	R５年度	R６年度	R７年度	R８年度	指標の分析	
	活動指標	紀の川はっさくのロゴ使用申請数	申請	目標	10	15	15	0	0	シール作成事業終了に伴い申請数が減少した。	
				実績	11	17	4				
				<指標の計算方法> ロゴの使用に対し許認可した件数							
	活動指標	開発した商品及び試供品の種類	商品	目標	1	2	3	0	0	熱中症対策キャンディー、ゼリー、フルーツ大福、ハッサクエールを試作した。	
				実績	3	3	4				
				<指標の計算方法> 開発した商品及び試供品の種類							
	成果指標	含有成分の効能を表記した商品数	商品	目標	1	1	1	0	0	大手企業による商品化がR6年度からR7年度に延期となった。	
実績				0	0	0					
<指標の計算方法> 含有成分の効能を表記した商品数											
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R６年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	3,035							3,035

事業の実績	①紀の川はっさく普及推進事業 はっさくを原材料にしたクラフトビールを醸造し市内で販売した。 商品名 紀の川はっさくエール 発売日 令和7年3月7日 販売価格 550円/本(税込) 販売本数 2,884本 内容量 330ml/本 取扱店舗 8店舗 【打田】 岩田酒店 酒の紀の川 めっけもん広場 神通温泉 【粉河】 南楠酒販 きしと貴志酒店 【那賀】 財青洲の里 【貴志川】 産直市場よってって貴志川店 ②紀の川はっさくプロジェクト推進事業 ・紀の川はっさくプロジェクト推進補助金		対象者 ㈱和環 補助額 2,700,000円 内 容 (1) 試作品の開発及び検証 (2) 熱中症予防成分効率的抽出技術研究及び知財化 (3) 安全性確認試験 (4) 展示会出展と試作品のアンケート調査 ・熱中症対策商品を市内企業が商品化しシルバー人材センター会員に配布しアンケート調査を実施 協力者 31名 実施方法 5日間試飲 回答内容 商品化に向けて味やパッケージについて自由記載により回答 ※本事業はR6年度で終了	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・紀の川はっさくに対する付加価値を高め、企業誘致への動機付けとなり地域経済の好循環を目指していることから、市が関与することが妥当である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・紀の川はっさくの認知は徐々に認知されてきており、企業とのコラボ企画の目途も立ったが、一般に流通する商品がまだないので引き続きはっさくプロジェクトに参画し企業との交渉に関与していく必要がある。		
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・はっさくプロジェクトに係る㈱和環への補助金事業は今年度で終了した。			

事務事業の概要	事務事業名		観光振興事業				担当課		観光振興課		事業区分		ソフト事業							
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		720			
	会計		一般会計								政策目標		3		産業・交流					
	予算科目	款	7	商工費								施策目標		3		観光・交流				
		項目	1	商工費								基本施策		1		観光資源を発掘・活用した観光振興				
		目	3	観光振興費								取組方針		1		誘客・周遊化の促進				
事業概要			市に訪れる観光客数の増加につなげるために、観光客への情報の発信（PR）や各観光団体への取組支援や運営への参画を行う事業																	
事務事業を構成する細事業	①		観光振興事業				⑤		桃のスタンプラリー事業				⑨							
	②		メイヤーズカップ補助金				⑥		団体旅行誘致促進事業				⑩							
	③		スカイグランプリ補助金				⑦		スポーツ合宿誘致促進事業				⑪							
	④		観光協会補助金				⑧						⑫							
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	観光PR件数	件	目標		15		15		15		15		15		イベントでの誘客促進や、推奨土産品等の販売による観光PR活動を行った。観光PR件数については令和5年度と比較して微減したが、効果的な誘客促進に努めた。				
				実績		11		15		14										
	<指標の計算方法> 観光キャンペーンスタッフの参加イベント数（複数日あるイベントも1件とする）																			
	成果指標	観光協会会員数	名	目標		135		135		135		135		135		新規会員の勧誘による会員数増加に努めた結果、新規会員の確保を行うことができたが、会員の退会もあり、会員数については、微減となった。				
				実績		124		127		126										
	<指標の計算方法> 年度末時点の紀の川市観光協会会員数（特別会員含む）																			
	成果指標	特産品推奨制度新規登録商品数	品	目標		10		10		10		0		0		令和6年度においては、新規での特産品推奨制度への登録申請はなかった。				
				実績		6		4		0										
	<指標の計算方法> 特産品推奨制度への新規登録商品数（変更・更新は除く）																			
			目標																	
			実績																	
<指標の計算方法>																				
コストの実績	R 6年度決算額（単位：千円）					財源内訳														
						国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	25, 521							1, 500								24, 021				
事業の実績	①観光振興事業 ・観光プロモーション活動 聖地リゾート！和歌山 観光PRイベント スポーツ合宿誘致活動 ツーリズムEXPOジャパン2024 わかやまブレ万博 京都市観光プロモーション 紀の川ストロベリーフェア ・観光ガイドブック増刷 15, 000部 ・観光カード増刷 12, 000枚 ・観光サイクリング推進協議会負担金					④観光協会補助金 観光PR事業の実施 ・特産品の販売と観光PRイベントへの参加 ・ホームページの更新、広報紙発刊 ・インスタグラム等を活用した情報発信 特産品推奨事業の実施 ・53商品 22事業者 ・推奨特産品パンフレット増刷（4, 000部）					⑥団体旅行誘致促進事業 紀の川市内にバスで訪れて宿泊し、市内周遊を1か所以上旅程に取り入れた旅行者や団体等に対して補助を行った。 ・バス1台につき10名以上 50, 000円 0件 ・バス1台につき15名以上 75, 000円 5件 ・バス1台につき20名以上 100, 000円 15件 ・バス2台以上かつ40名以上200, 000円 1件									
	②メイヤーズカップ補助金 フライトイン紀の川実行委員会が主催したパラグライダー大会への支援を行った。 ・令和6年10月26日～27日開催 参加者24名					⑤桃のスタンプラリー事業 参加者数 846人 ・直売所のみ 321人 ・加盟店のみ 208人 ・条件達成者 317名（当選者25名）					⑦スポーツ合宿誘致促進事業 市内のスポーツ施設において、合宿等を行い、市内の飲食店で昼食を購入等し、市内の宿泊施設に宿泊した10名以上のスポーツ団体に対して補助を行った。 ・ハンドボール 3件 ・ソフトボール 2件									
	③スカイグランプリ補助金 ハンググライディング大会は開催されなかった。																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・関係人口、交流人口を増やすことで、市の認知度を高める効果が期待できるため、市が観光振興に取り組むことについては、妥当性がある。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																
・積極的に観光PR活動や、販売活動を行うとともに、SNS等を効果的に活用したPRを実施していくことは本市の観光振興に有効である。しかしながら、継続的に事業を実施していくうえで、観光協会並びにDMO等の観光施策に携わる団体と、行政の役割を明確にする必要がある。																				
効率性	評価結果		改善の余地がややある																	
	・ガイドブックやパンフレット等の紙媒体を必要最小限度の作成にとどめ、観光客の利便性を高めるために、デジタル化をすすめ更なる効率的な取り組みを推進する。																			

事務事業の概要	事務事業名		まつり開催支援事業				担当課		観光振興課		事業区分		ソフト事業			
			新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し			事業番号		88		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		3		産業・交流			
	予算科目	款	7		商工費				施策目標		3		観光・交流			
		項	1		商工費				基本施策		1		観光資源を発掘・活用した観光振興			
目		3		観光振興費		取組方針			1		誘客・周遊化の促進					
事業概要		市の交流人口の拡大と活性化につなげるために、実行委員会との協働により、まつりや各種イベントの開催を行う事業														
事務事業を構成する細事業	①		市民まつり補助金				⑤		まつり開催支援				⑨			
	②		粉河祭補助金				⑥						⑩			
	③		青洲まつり補助金				⑦						⑪			
	④		桃山まつり補助金				⑧						⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	まつり関係構成員数（実行委員、協力団体）	名	目標	208	208	208	210	210	役員改選等により、令和5年度と比較して、微減した。	
				実績	193	197	195				
				<指標の計算方法> 市民まつり、粉河祭、青洲まつり、桃山まつり関係構成員数（実行委員、協力団体）							
	成果指標	まつり集客数	人	目標	113,000	113,000	130,000	130,000	130,000	令和5年度と比較して、集客数は減少したが、各まつりは大きな事故もなく盛会のうちに開催でき、目標を上回ることができた。	
				実績	0	141,000	133,000				
				<指標の計算方法> 観光客動態調査報告数値							
	活動指標	まつり関係会議回数	回	目標	55	55	55	50	50	令和5年度と比較して、事業内容の変更等により、会議回数は減少した。	
				実績	25	57	44				
				<指標の計算方法> 市民まつり、粉河祭、青洲まつり、桃山まつり開催準備等会議数							
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額（単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	27,085								27,085

事業の実績	①市民まつり補助金 開 催 日：令和6年8月18日 来場者数：55,000人 実施主体：市民まつり実行委員会 構成員数 33名		③青洲まつり補助金 開 催 日：令和6年10月27日 来場者数：11,000人 実施運営：青洲まつり実行委員会 構成員数 50名 そ の 他：青洲まつりプレイベントとして、ゲートボール大会を令和6年10月12日に愛宕池公園多目的グラウンドで開催（30チーム参加）	
	②粉河祭補助金 開 催 日：令和6年7月27日～28日 来場者数：50,000人 実施運営：粉河祭保存会 構成員数 87名 そ の 他：昔の粉河祭の写真を展示する「粉河祭写真展」を令和6年7月15日～9月10日の間、MIKASAKANで開催		④桃山まつり補助金 開 催 日：令和6年4月6日 来場者数：17,000人 実施主体：桃山まつり実行委員会 構成員数 25名	
	⑤まつり開催支援 まつり開催に伴う、PR活動を行った。			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・まつりの開催にあたっては、実行委員会等が自ら考え、自らの運営により魅力のあるイベントをつくりあげることで、それぞれのまつりの集客や、地域の活性化に繋げることが大切である。一方で実行委員会等が主体となってまつりを運営できるよう組織づくりをし、それぞれのまつりが安全かつ円滑に開催されるためには、市の側面からのサポートが必要であることから、市がまつり運営に関与することは妥当である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がない													
		・それぞれのまつりは、それぞれの地で培われた魅力・歴史・伝統を広く参加者に伝え、地域の活性化に繋がるものである。また、まつりは市外からの誘客のきっかけとなり、交流人口の増加や、市民交流に繋げる事業であることから有効である。														
効率性	評価結果	改善の余地がややある														
	・まつりの会場運営に関する業務は、実行委員会等が外部委託しており、効率化が図られている。 ・今後は、実行委員会等とともに、「持続可能なまつりの開催」について、検討等を進める必要がある。															

事務事業の概要	事務事業名		ほたる保護事業				担当課		観光振興課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		722		
	会計		一般会計								政策目標		3		産業・交流				
	予算科目	款	7	商工費								施策目標		3		観光・交流			
		項目	1	商工費								基本施策		1		観光資源を発掘・活用した観光振興			
		目	3	観光振興費								取組方針		1		誘客・周遊化の促進			
	事業概要		市民に環境保全の大切さについて理解を深めてもらうために、ほたる保護団体への活動支援、全国ほたるのまち交流会や観賞会等の開催を行う事業																
事務事業を構成する細事業		①	ほたるの館施設管理					⑤	源氏ボタルを育てる会補助金					⑨					
		②	ほたる観賞会					⑥						⑩					
		③	全国ほたるのまち交流会参加負担金					⑦						⑪					
		④	ほたる保存会補助金					⑧						⑫					
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
		ほたる観賞地数	箇所	目標		5		4		3		3		3		ほたるの観賞地数については、増減はなかった。			
				実績		4		3		3									
		<指標の計算方法>		紀の川市がほたる観賞地として周知等を行っている箇所数															
	活動指標	全国ほたるのまち交流会構成市町村数	団体	目標		6		6		6		6		6		「全国ほたるのまち交流会」構成市町村については、増減はなかった。			
				実績		6		6		6									
		<指標の計算方法>		全国ほたるのまち交流会規約に基づく構成市町村数															
					目標														
	実績																		
	<指標の計算方法>																		
				目標															
		実績																	
	<指標の計算方法>																		
	コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳													
				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
1,701														1,701					
事業の実績	①ほたるの館施設管理 ほたるの飼育環境を保全するため、飼育関係施設などへの給水施設の修繕を行った。																		
	②ほたる観賞会 ・きしべの里（源氏ボタルを育てる会） 令和6年6月1日から8日 ・江川中地区（ほたる保存会） 令和6年6月3日から14日 ・ほたる祭（細野溪流キャンプ場） 令和6年6月8日																		
	③全国ほたるのまち交流会参加負担金 「全国ほたるのまち交流会」は、豊かな自然環境を生かしたホタルのまちづくりに取り組む、愛知県阿久比町、滋賀県米原市、岡山県真庭市、山口県下関市、福岡県北九州市、紀の川市の6市町が参加している。 令和6年度は、「自然と人間の共生 ～守ろうホタルの光を～」をテーマにオンライン形式で開催した。 (主催：阿久比町) ④ほたる保存会補助金 「江川中ホタルを守る会」に対し、重谷川の自然に育ったほたるを保護するため生育環境保護と自然環境美化のための活動に対する補助を行った。																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・市内のほたる保護団体に、ほたるの保護活動を行っていただくことで、市内外の方に対し、広く自然環境保護のメッセージを発信していくことに繋がるため、市が関与することは妥当である。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がない															
		・ほたるの観賞地は、飛翔時期には、観光資源の一つとなり、交流人口の増加などに寄与しており、効果的な事業である。																	
効率性	評価結果		改善の余地がない																
	・ほたる保護団体については、各保護団体において、人工飼育、自然飼育という活動方針に違いがあるものの、効率的かつ、自主的に活動している。																		

事務事業の概要	事務事業名		地域おこし促進事業				担当課		観光振興課		事業区分		ソフト事業	
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	991
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	3	産業・交流			
	予算科目	款	7	商工費		施策目標			3	観光・交流				
		項	1	商工費		基本施策			1	観光資源を発掘・活用した観光振興				
目		3	観光振興費		取組方針	3			観光振興体制の整備					
事業概要		「フルーツのまち 紀の川市」の魅力を内外に広め、紀の川市への定住・定着を図るために、地域おこしの支援や地域活動を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	地域おこし協力隊募集				⑤					⑨			
	②	活動支援				⑥					⑩			
	③	定住・定着のための情報収集・技術取得				⑦					⑪			
	④					⑧					⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
	成果指標	地域おこし協力隊員数	名	目標	2		2		2		1		1		新たな地域おこし協力隊の任用に向けて募集等を行ったが、新規での任用には至らなかった。	
				実績	2		2		1							
		<指標の計算方法>		各年度に地域おこし協力隊として任用した隊員数												
	成果指標	定住・定着者数	名	目標	1		1		0		0		1		令和6年度末での任用期間終了者がいなかった。	
				実績	1		0		0							
		<指標の計算方法>		任用期間終了後、紀の川市に定住した地域おこし協力隊員数												
	活動指標	地域おこし活動件数	件	目標	60		20		20		20		20		令和6年度は地域の農業団体とイベント企画・実施等の活動支援などを行うことができ、令和5年度と比較して活動件数は増加した。	
				実績	14		7		15							
		<指標の計算方法>		地域おこし協力隊が行った地域おこし活動件数												
			目標													
			実績													
<指標の計算方法>																

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	4,722								4,722

事業の実績	①地域おこし協力隊募集 新たな地域おこし協力隊員の募集を行った結果、2名の応募があったが、任用には至らなかった。 ・地域おこし協力隊員数：1名（令和6年度末時点） ・宮崎県出身 女性 ※令和7年度末で卒隊予定		②活動支援 地域農家団体等で農業体験や伝統食の調理体験等を通じて都市と農村交流を図るための活動を支援した。 ・MOMOYAMA STAND桃収穫体験実施 ・八旗農園桃狩り体験支援 ・ふるさとプロボノセミナー登壇 ・金山寺みそづくり体験受講 ・奈良漬け体験実施 ・藤井の里くらぶ 阪神百貨店催事支援 ・藤井の里くらぶ 収穫体験支援 ・藤井の里くらぶ 鳥取環境大学視察支援		③定住・定着のための情報収集・技術取得 ・地域通訳案内士スキルアップ研修受講 ・紀の川市創業支援セミナー受講 ・紀の川市動画クリエイター塾受講 ・地域の英会話サークル受講 ・高野山ガイド団体研修受講 ・インバウンド向け体験造成講座受講 ・大分県安心院町視察	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない
		・地域おこし協力隊は、「フルーツのまち紀の川市」の情報発信や地域の魅力を活かしたまちの活性化を担う人材であり、地域おこし促進事業を通じて、紀の川市での生きがいや、生業の発見をもって、任期満了後には、紀の川市への定住などを支援することで、紀の川市の関係人口の増加に努めることができることから、市が関与することは妥当である。	
	有効性	評価結果	改善の余地がややある
		・地域おこし協力隊は日常的に行政が携わりにくい地域の活動などに直接参加することで、地域住民と深いつながりを持つことから、若年層が地域に移住し、課題等に取り組むことは高く評価されており、有効な事業である。 ・地域おこし協力隊は、全国的に募集が行われており、紀の川市への応募者が低調な状況であるため、応募者が増加している自治体の事例を調査する必要がある。	
効率性	評価結果	改善の余地がない	
	・地域おこし協力隊は、国の制度であり、市において地域の活性化に取り組む際、地域おこし協力隊制度を活用することで、事業費の大部分について、特別交付税措置の対象となるため効率性の高い事業である。		

事務事業の概要	事務事業名		観光交流創造事業				担当課		観光振興課		事業区分		ソフト事業							
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1014			
	会計		一般会計								政策目標		3		産業・交流					
	予算科目	款	7	商 工 費								施策目標		3		観光・交流				
		項	1	商 工 費								基本施策		1		観光資源を発掘・活用した観光振興				
	目	3	観光振興費								取組方針		3		観光振興体制の整備					
事業概要			観光客、市民がフルーツのまちとしての魅力・イメージアップにつなげるために、地域資源であるフルーツと他の魅力ある地域資源を結びつける取組を行う事業																	
事務事業を構成する細事業	①		フルーツのまち人材育成プログラム				⑤						⑨							
	②		紀の川フルーツ・ツーリズム補助金				⑥						⑩							
	③		DMO運営支援				⑦						⑪							
	④		観光交流拠点の運営				⑧						⑫							
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	成果指標	体験交流人口	人	目標		9,300		9,300		9,300		9,300		9,300		県事業であるほんまもん体験イベントの参加者数が138人増加し、ぶる博への参加者数が425人減少した。 。ほんまもん体験イベント 1,222人 ぶる博9 1,251人				
				実績		2,515		2,760		2,473										
				<指標の計算方法> ほんまもん体験及び、市内体験交流催しの参加者数の合算(観光客動態調査(暦年調査)による)																
	成果指標	年間外国人観光客数	人	目標		150,000		150,000		150,000		150,000		150,000		日本への訪日観光客が増加する中で、紀の川市へ訪れる外国人観光客数は大きく増加した。紀の川市への年間外国人観光客数のうち、観光交流拠点への外国人観光客数は、13,493人となっている。 ぶる博9については、ぶる博8と比較して、体験催しが5種類減少し、それに伴い、参加者数も425人減少した。				
				実績		6,791		25,662		32,656										
				<指標の計算方法> 各観光施設等への調査(観光客動態調査(暦年調査)による)																
	成果指標	ぶる博参加人数	人	目標				1,800		1,800		1,800		1,800						
				実績		1,384		1,676		1,251										
				<指標の計算方法> ぶる博において体験催しに参加した人数																
			目標																	
			実績																	
<指標の計算方法>																				
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳															
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
	25,324														25,324					
事業の実績	①フルーツのまち人材育成プログラム 講座名：実践型まちづくりカレッジ 広報紀の川7月号やフルーツ・ツーリズムのHP等で参加を募ったが申し込みがなかった。				③DMO運営支援 まちづくりに関係する11の構成団体による、(一社)紀の川フルーツ観光局を支援。観光を用いたまちづくりを推進していく取組を支援した。 ・総 会 (1回) ・理事会 (3回) ・イベント出展 (6回) ・販促PR出張 (8回) ・視察研修 (2回) ・視察受入 (2回) ・マーケティング調査の実施・公表								④観光交流拠点の運営 和歌山電鐵貴志駅前で、観光交流拠点「紀楽里(きらり)」を指定管理者制度により「(一社)紀の川フルーツ観光局」において管理運営を行った。観光案内、土産物の紹介、体験交流などを通じて紀の川市の魅力を発信した。 ・来客数 (R6.4～R7.3) 19,495人(内外国人12,793人) ・外国人のエリア別内訳 中 国 3,682人 香 港 2,519人 台 湾 4,406人 その他 2,186人 ・共用施設利用者数(R6.4～R7.3) イベント広場(10回、運営者21人) 体験交流スペース(4回、利用者41人)							
	②紀の川フルーツ・ツーリズム補助金 「フルーツのまち紀の川市」をPRする市民団体である(一社)紀の川フルーツ・ツーリズムが開催する「紀の川フルーツ体験!ぶる博9 令和7年2月23日から開催(体験催し40種類、参加者数1,251人)																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・市民と協同して地域のブランド化や、新たな観光資源を創出する取り組みであるため、市が関与することが妥当である。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																
・DMOについては、市民団体、民間企業及び大学等、観光まちづくりに携わる関係団体が多種多様であるため、それぞれの役割を明確にして、それぞれの事業を円滑に進めて行く必要がある。																				
効率性	評価結果		改善の余地がややある																	
	・DMOに対しては、専門人材の派遣を行うなど事業の効率化を行っているが、今後は、観光客の継続的な誘客のため、収益面において、市の財政支援に頼らない運営を進めて行く必要がある。																			

事務事業の概要	事務事業名		観光施設管理運営事業				担当課		観光振興課		事業区分		ソフト事業				
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	89		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	3	産業・交流						
	予算科目	款	7	商工費		施策目標			3	観光・交流							
		項	1	商工費		基本施策			1	観光資源を発掘・活用した観光振興							
目		4	観光施設費		取組方針	2			観光施設の適切な管理と充実								
事業概要		観光客、市民が観光施設を安全で快適に利用できるように、適切な維持管理や改修を行う事業															
事務事業を構成する細事業		① 観光施設管理（トイレ等諸施設）				⑤ 市営大門橋駐車場施設管理				⑨							
		② 百合山緑化施設管理				⑥ 貴志川観光物産センター施設管理				⑩							
		③ 細野溪流キャンプ場施設管理				⑦ 桃山産業振興館施設管理				⑪							
		④ きしべの里施設管理				⑧				⑫							
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析							
	成果指標	細野溪流キャンプ場入場者数		人	目標	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	週末の天候不良に加え、周辺に新たなキャンプ場等がオープンしたこともあり、令和5年度と比較して減少した。						
					実績	9,937	8,125	7,717									
					<指標の計算方法> 実績報告による（キャンプ場の入場者数）												
	成果指標	市営大門橋前駐車場駐車台数		台	目標	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	MIKASAKANで定期的に開催されるマルシェに訪れる方などの利用が増えたため、駐車場利用台数は増加した。						
					実績	964	922	1,012									
					<指標の計算方法> 実績報告による（普通車・マイクロバス・大型バスの駐車台数合計）												
	成果指標	桃山産業振興館利用者数		人	目標	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	桃の販売時期を含めて、全体的に利用者が減少している。						
					実績	24,212	22,385	20,890									
					<指標の計算方法> 実績報告による（レジ通過人数）												
成果指標	貴志川観光物産センター利用者数		人	目標	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	令和5年度と比較して、利用者数は減少した。							
				実績	53,247	53,814	52,429										
				<指標の計算方法> 実績報告による（レジ通過人数）													
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳												
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
	18,364												933		17,431		
事業の実績	①観光施設管理（トイレ等諸施設） 窪ちびっこ広場 施設清掃委託 山田ダム公衆便所 施設清掃委託 大池遊園公衆便所 施設清掃委託				⑤市営大門橋駐車場施設管理 施設管理委託 利用台数 1,012台												
	②百合山緑化施設管理 施設管理・仮設トイレ清掃管理・樹木等維持管理・散水委託				⑥貴志川観光物産センター施設管理 施設管理運営 利用者数 52,429人												
	③細野溪流キャンプ場施設管理 指定管理 入場者数 7,717人				⑦桃山産業振興館施設管理 施設管理運営 利用者数 20,890人												
	④きしべの里施設管理 施設管理・清掃管理・雑草処理・植木保守委託																
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない														
		・市が管理する観光施設を快適に利用していただくために維持管理を行う事業であるため、市の事業実施は妥当である。															
	有効性	評価結果	改善の余地がややある														
		・施設利用者から施設利用に関する事故や怪我等の報告もなく、安全に利用されていることから事業は有効に実施できている。 ・観光看板の設置個所、有効性について精査する必要がある。															
効率性	評価結果	改善の余地がない															
	・トイレや植栽、駐車場など主として管理に関する業務は委託契約を行い、民間の能力を活用しサービスと満足度向上、コスト削減を目指す業務は指定管理の契約を行っていることから効率的な施設運営ができている。																

事務事業の概要	事務事業名				土木管理事業				担当課		建設総務課		事業区分		ソフト事業				
	新規・継続				継続		事業期間		単年度繰返し				事業番号		717				
	会計				一般会計				政策目標		4		都市基盤・生活環境						
	予算科目	款	8			土木費			施策目標		1		都市基盤整備・公共交通						
		項	1			土木管理費			基本施策		2		道路や橋梁などまちの基盤整備						
		目	1			土木総務費			取組方針		9		その他						
	事業概要				土木一般事務並びに法定外公共物を適正に管理する事業														
	事務事業を構成する細事業	① 土木総務管理				⑤						⑨							
		② 地形図整備・管理・販売				⑥						⑩							
		③ 法定外公共物管理				⑦						⑪							
④				⑧						⑫									
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	活動指標	法定外公共物許認可件数		件	目標											・ 法定外公共物施行承認件数 ・ 同占用許可申請 ・ 同用途廃止件数 ・ 公有財産使用（借用）件数			
					実績	60		70		67									
		<指標の計算方法>		法定外公共物許認可件数															
	活動指標	白地図販売枚数		枚	目標											・ 紀の川市管内図販売数			
					実績	71		64		57									
		<指標の計算方法>		枚数															
					目標														
					実績														
		<指標の計算方法>																	
				目標															
				実績															
	<指標の計算方法>																		
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳														
	670				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
事業の実績	①土木総務管理 ・ 土木管理事業に関する総務 ・ 管理に関する住民相談等																		
	②地形図整備・管理・販売 ・ 白地図販売枚数 57枚																		
	③法定外公共物管理 ・ 施行承認件数 27件 ・ 占用許可件数 16件 ・ 用途廃止件数 12件 ・ 公有財産使用（借用）許可件数 12件																		
	開発や個人住宅建築また電気通信線路維持に伴う法定許認可事務を行った。																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・ 法定外公共物の管理については、機能管理及び財産管理であるため妥当である。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がない															
		・ 許認可申請を適切に処理出来ている。																	
効率性	評価結果		改善の余地がない																
	・ 通年の業務状況を見極めて予算確保する。																		

事務事業の概要	事務事業名				道路管理事業				担当課		建設総務課				事業区分		ソフト事業				
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1047		
	会計				一般会計				長期総合計画体系		政策目標		4		都市基盤・生活環境						
	予算科目				款		8				土木費										
					項		1				土木管理費										
				目				1		土木総務費				基本施策		2		道路や橋梁などまちの基盤整備			
												取組方針		1		道路・橋梁の適正な維持管理					
事業概要				市の道路が適正に機能するように、道路の認定・廃止に基づく道路台帳の整備や道路の占用管理等を行う、また市民による清掃活動を実施し、道路の愛護活動を通じて、道路の役割や重要性を改めて認識してもらう事業																	
事務事業を構成する細事業				① 許認可（占用管理・通行規制）				⑤ 道路管理				⑨									
				② 市道認定・廃止				⑥ 訴訟・事故・苦情対応				⑩									
				③ 道路美化・愛護				⑦				⑪									
				④ 道路台帳整備				⑧				⑫									

指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
	活動指標	許認可件数		件	目標									道路法等、法令に基づき適正に処理する。		
		実績			314		286		258							
		<指標の計算方法>		許認可件数												
	活動指標	市道認定路線数		路線	目標									市道認定基準に基づき議会の議決を得る。		
		実績			17		11		6							
		<指標の計算方法>		市道認定路線数												
	活動指標	道路一斉清掃参加人数		人	目標									国の示す道路愛護月間に管内一斉清掃を市民ボランティアと実施している。		
		実績							532							
		<指標の計算方法>		道路一斉清掃参加人数												
活動指標	事故対応件数		件	目標	0		0		0		0		0		迅速かつ適正な判断のもと対応する。	
	実績			3		4		3								
	<指標の計算方法>		市道における事故対応件数（保険対応分）													

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	15, 503														15, 503	

事業の実績	①許認可（占用管理・通行規制）				・紀の川市道路台帳整備業務 6,930,000円											
	・占用許可件数 80件				新設及び改良等により区域変更された道路について台帳整備並びにシステム更新を行った。											
	・掘削許可件数 106件															
	・施行承認件数 61件															
	・幅員証明・通行協議 11件				⑤道路管理											
許認可件数 合計 258件（通手続き）				・道路パトロール（幹線道路） 月2回実施												
・特殊車両通行協議 311件																
開発や個人住宅建築また電気通信路線維持に伴う法定許認可事務を行った。				主に2車線の主要幹線道路を定期パトロールし、道路を安全に通行できるよう管理・保全に努めた。												
②市道認定・廃止				⑥訴訟・事故・苦情対応												
・市道認定 6路線				・被害対応 14件・加害対応 3件												
・延長 1,038Km 路線数 2,916路線																
③道路美化・愛護				市道敷における事故対応や、市道敷に張り出している樹木の伐採等の依頼を行った。												
・道路清掃参加人数 532人																
④道路台帳整備																

事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																	
		・市道の管理を行うことは妥当である。																			
	有効性	評価結果		改善の余地がない																	
		・許認可申請を適切に処理出来ている。																			
	効率性	評価結果		改善の余地がない																	
・通年の状況を見極めて必要な予算を確保する。																					

事務事業の概要	事務事業名			地籍調査事業				担当課		建設総務課		事業区分		ソフト事業					
								新規・継続		完了		事業期間		単年度繰返し		事業番号		716	
	会計			一般会計								政策目標		4		都市基盤・生活環境			
	予算科目	款	8	土 木 費								施策目標		1		都市基盤整備・公共交通			
		項目	1	土木管理費								基本施策		1		土地の有効利用と住みよい都市環境の整備			
		目	2	地籍調査費								取組方針		9		その他			
事業概要			市民（地権者）が正確な土地情報を把握し、土地の活用ができるように、市内の土地について調査・測量・閲覧を行い、地籍図及び地籍簿の作成を行う事業																
			① 調査				⑤ 近畿ブロック国土調査推進連絡協議会負担金				⑨								
事務事業を構成する細事業			② 推進委員会運営				⑥ 県地籍調査協議会負担金				⑩								
			③ 閲覧・成果データ管理				⑦				⑪								
			④ 全国国土調査協会負担金				⑧				⑫								
指標の実績	指標名			単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	閲覧地区数		地区	目標	4		1		0		0		0		該当なし。			
					実績	5		1		0									
		<指標の計算方法>			閲覧業務開催地区数														
	活動指標	調査面積		km ²	目標	220.97		221.47								該当なし。			
					実績	217.75		221.47											
		<指標の計算方法>			前年度末実施累計面積 + 当該年度実施済面積（地積測定確定後） + 19条5項指定済面積														
	成果指標	調査面積に対する地籍調査の進捗率		%	目標	99.7		100								該当なし。			
					実績	99		100											
		<指標の計算方法>			当該年度末完了済面積 ÷ 調査対象面積221.61km ²														
					目標														
					実績														
<指標の計算方法>																			
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）					財源内訳													
						国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	2,842															2,842			
事業の実績			①調査 完了 ②推進委員会運営 ・紀の川市地籍調査推進協議会解散 ③閲覧・成果データ管理 ・法務局からの土地の分・合筆の異動に伴う地籍情報管理システムへの反映（随時） ・調査完了地区（登記完了）の地籍情報管理システムへ反映（1地区） ④全国国土調査協会負担金 ・0円 ⑤近畿ブロック国土調査推進連絡協議会負担金 ・0円 ⑥県地籍調査協議会負担金 ・0円																
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
	有効性	評価結果		改善の余地がない															
		・紀の川市全域の地籍調査が完了し成果が有効に利活用されている。																	
	効率性	評価結果		改善の余地がない															

事務事業の概要	事務事業名			登記事業			担当課		建設総務課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		415	
	会計			一般会計							政策目標		4		都市基盤・生活環境			
	予算科目	款	8	土 木 費							施策目標		1		都市基盤整備・公共交通			
		項目	1	土木管理費							基本施策		1		土地の有効利用と住みよい都市環境の整備			
	目	3	土地登記費							取組方針		9		その他				
事業概要			市が取得した土地を市有名義として登記するために、所有権移転の手続きを行う事業															
			① 登記			⑤						⑨						
事務事業を構成する細事業			② 相続調査			⑥						⑩						
			③			⑦						⑪						
			④			⑧						⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析								
	活動指標	地籍調査事業に基づく登記筆数	筆	目標						登記が完了したことにより市道等の境界が明確化し、所有権移転が円滑に実施できた。								
				実績	229	258	289											
				<指標の計算方法> 地籍調査完了地区における、道路・水路敷の所有権を市名義に移転登記した筆数														
	活動指標	道路改良事業等に伴う登記筆数	筆	目標						道路等の整備が進み、地域住民の利便性の向上に寄与することができた。								
				実績	320	228	346											
				<指標の計算方法> 道路事業等で所有権を市名義に移転登記した筆数														
				目標														
				実績														
				<指標の計算方法>														
			目標															
			実績															
			<指標の計算方法>															
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳													
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源								
	16,695									16,695								
事業の実績	① 登記 ・地籍調査事業に基づく登記筆数：289筆 ・道路改良事業等に伴う登記筆数：346筆																	
	② 相続調査 ・道路改良事業に伴う所有者死亡による相続調査 ・地籍調査事業における相続調査 ・空き家対策事業における相続調査(随時)																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・登記事業に関して、統一的な事務手続きを行うことができる。																
	有効性	評価結果	改善の余地がない															
		・本事業は他部署からの登記依頼もあり、市の土地に関する事務事業において必要不可欠である。																
	効率性	評価結果	改善の余地がない															
・所有権移転登記業務を外注すれば、件数も相当数あり多額の費用が掛かるため、市が登記業務を行うことにより費用を抑制することができる。																		

事務事業の概要	事務事業名				道路行政推進事業				担当課		建設総務課		事業区分		ソフト事業						
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1048		
	会計				一般会計				長期総合計画体系				政策目標		4		都市基盤・生活環境				
	予算科目				款		8						土木費		施策目標		1		都市基盤整備・公共交通		
					項		2						道路橋りょう費		基本施策		2		道路や橋梁などまちの基盤整備		
				目		1		道路橋りょう総務費		取組方針		3		国道・県道の整備促進							
事業概要				市の計画的な道路行政の推進を図るために、関連団体の活動に参画する事業																	
事務事業を構成する細事業				① 日本道路協会負担金				⑤ 県国道連絡会負担金				⑨									
				② 県高規格幹線道路建設促進委員会負担金				⑥ 県用地対策連絡協議会負担金				⑩									
				③ 県道路協会負担金				⑦ 県建設技術協会負担金				⑪									
				④ 無電柱化を推進する市区町村長の会負担金				⑧				⑫									
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析						
	活動指標	総会参加回数		回	目標	5		5		5		5		5		幹線道路等の整備促進のためには、各団体への活動及び総会への参画は必要である。					
		実績			5		5		5												
		<指標の計算方法>		総会参加回数																	
					目標																
		実績																			
		<指標の計算方法>																			
					目標																
		実績																			
		<指標の計算方法>																			
				目標																	
	実績																				
	<指標の計算方法>																				
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																
	494				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				494		
事業の実績	①日本道路協会負担金 ・30,000円 国内外の道路の果たす多様な役割を通じて、国民生活に不可欠な道路政策のあり方を研究し、道路に関する知識の普及啓発に努め、道路及び交通の発達を推進し、もって公共の福祉の増進に寄与することを目的とする。 ②県高規格幹線道路建設促進委員会負担金 ・20,000円 近畿自動車道紀勢線、京奈和自動車道、東海南海自動車道、紀伊半島縦貫道等の早期整備を図るため、国等への要望活動を実施し、事業促進に必要な啓発等、目的達成に必要な事業を行い、もって本県産業経済の発展に寄与することを目的とする。 ③県道路協会負担金 ・302,100円 (管内県道等整備による事業費割)				和歌山県の道路利用者の総意に基づき、道路整備を促進するとともに、道路交通の発展に寄与することを目的とする。 ④無電柱化を推進する市区町村長の会負担金 ・3,000円 政府や民間等との連携・協力を図り、無電柱化のより一層の推進を進めることを目的とする。 ⑤県国道連絡会負担金 ・23,000円 和歌山県内の地方道路の整備促進及びその適切な維持管理を支援することにより、快適な道路環境を実現し、住民の安全の確保、生活の安定向上を図ることを目的とする。 ⑥県用地対策連絡協議会負担金 ・22,500円 公共用地の取得に関し、会員相互間の連絡調								整及び損失補償に関する調査研究等を行い、もって公共用地取得の適正化とその円滑な推進に寄与することを目的とする。 ⑦県建設技術協会負担金 ・79,200円 建設関係施策の確立を促進するため、建設技術関係者の技術水準の向上とその処遇改善を図り、もって建設技術の向上発展に資することを目的とする。								
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・道路の整備促進についての要望活動及び総会への参画は妥当である。																	
		評価結果		改善の余地がない ・道路の整備促進については実現に向けて継続的な要望活動は有効である。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がない ・周辺自治体と共に要望活動を行うことで効率的に実施出来ている。																	
		評価結果		改善の余地がない ・周辺自治体と共に要望活動を行うことで効率的に実施出来ている。																	

事務事業の概要	事務事業名				国・県道整備促進事業				担当課		建設総務課			事業区分		ソフト事業		
	新規・継続				継続		事業期間		単年度繰返し				事業番号		714			
	会計				一般会計				政策目標		4		都市基盤・生活環境					
	予算科目	款	8			土木費			施策目標		1		都市基盤整備・公共交通					
		項	2			道路橋りょう費			基本施策		2		道路や橋梁などまちの基盤整備					
		目	1			道路橋りょう総務費			取組方針		3		国道・県道の整備促進					
	事業概要				市が国道・県道の整備を促進するために、関連団体への整備要望や活動に参画する事業													
	事務事業を構成する細事業	① 整備促進・要望活動				⑤						⑨						
		② 県京奈和自動車道建設促進協議会負担金				⑥						⑩						
		③ 県道整備期成同盟会補助金				⑦						⑪						
④				⑧						⑫								
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	整備促進・要望活動回数	回	目標	3		3		3		3		3		国道・県道の整備促進のためには、各団体への要望活動及び総会への参画は必要不可欠である。			
				実績	3		3		3									
				<指標の計算方法> 整備促進・要望活動回数														
				目標														
				実績														
				<指標の計算方法>														
				目標														
				実績														
				<指標の計算方法>														
			目標															
			実績															
			<指標の計算方法>															
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳														
	4, 143			国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
														4, 143				
事業の実績	①整備促進・要望活動 京奈和自動車道、県道関係事業に関する要望活動の実施																	
②県京奈和自動車道建設促進協議会負担金 ・49,000円 京奈和自動車道の延伸及び4車線化を目指す団体。																		
③県道整備期成同盟会補助金 地域の福祉を増進するために、生活の根幹である県道の整備要望活動及び改修協力に対する補助金。 ・200,000円 県道かつらぎ桃山線大改修期成同盟会 野田原谷道路委員会																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・国・県道整備については、周辺自治体との連携が必要であり総会等への参画は妥当である。																
	有効性	評価結果	改善の余地がない															
		・国・県道整備については、実現に向けて継続的に要望活動を行うのは有効である。																
	効率性	評価結果	改善の余地がない															
		・周辺自治体と共に要望活動を行うことで効率的に実施出来ている。																

事務事業の概要	事務事業名			京奈和関空連絡道路整備促進事業				担当課		京奈和関空連絡道路推進室		事業区分		ソフト事業																						
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		713																		
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標		4		都市基盤・生活環境																						
	予算科目			款		8				土木費		施策目標		1		都市基盤整備・公共交通																				
				項目		2				道路橋りょう費		基本施策		2		道路や橋梁などまちの基盤整備																				
事業概要			市が京奈和関空連絡道路の早期事業化を目指すために、関係団体への要望活動及び事業認定を受けるための活動を行う事業																																	
事務事業を構成する細事業				① 整備促進・要望活動				⑤				⑨																								
				② 京奈和関空連絡道路建設促進期成同盟会負担金				⑥				⑩																								
				③ 京奈和関空連絡道路調査業務委託				⑦				⑪																								
				④ 京奈和関空連絡道路啓発看板設置工事				⑧				⑫																								
指標の実績	成果指標		指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析																	
			要望活動回数		回		目標		4		4		4		4		4																			
							実績		4		4		4		4																					
	<指標の計算方法>		要望活動回数																																	
	活動指標		総会開催回数		回		目標		1		1		1		1		1		同盟会規則に基づき会員市町村首長並びに議長出席による総会を年1回開催する。																	
			実績		1		2		1		1		1																							
			<指標の計算方法>		総会開催回数																															
	活動指標		検討会開催回数		回		目標		1		1		1		1		1		本道路の整備効果を検証する検討会を年1回開催した。																	
			実績		1		1		1		1		1																							
			<指標の計算方法>		検討会開催回数																															
						目標																														
						実績																														
<指標の計算方法>																																				
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																															
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源																					
	9,894																9,894																			
事業の実績	①整備促進・要望活動 ・国会議員、国土交通省、近畿地方整備局、大阪府への要望活動を行った。																		④京奈和関空連絡道路啓発看板設置工事 ・既設看板張替 4箇所 ・新規看板設置 1箇所 工事金額 4,950,000円																	
	②京奈和関空連絡道路建設促進期成同盟会負担金 ・負担金 149,875円 ・総会（書面評決） ・啓発用物品作製（ポケットティッシュ作製）																																			
	③京奈和関空連絡道路調査業務委託 ・調査業務委託費 本市負担金 1,993,750円 調査業務内容について、国土交通省近畿地方整備局・西日本高速道路（株）・大阪府・和歌山県・泉佐野市・紀の川市にて、調査検討会を開催した。																																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																																
		・地域活性化や災害対策として効果の高い京奈和関空連絡道路の早期実現のため、要望・啓発を市が実施することは妥当性がある。																																		
	有効性	評価結果		改善の余地がない																																
		・本道路構想実現に向けた要望活動は有効である。 ・本道路構想実現に向けて、広報活動を継続する必要がある。 ・本道路の整備効果検証を実施するには、専門知識を有するコンサルタントに委託することが適当である。																																		
	効率性	評価結果		改善の余地がない																																
・関係市町とともに要望活動を行うことで、効率的に実施できている。																																				

事務事業の概要	事務事業名			市道等維持修繕事業				担当課		道路河川課		事業区分		ハード事業			
	新規・継続			継続		事業期間		単年度繰返し				事業番号		92			
	会計			一般会計				政策目標		4		都市基盤・生活環境					
	予算科目	款	8	土 木 費				施策目標		1		都市基盤整備・公共交通					
		項	2	道路橋りょう費				基本施策		2		道路や橋梁などまちの基盤整備					
		目	2	道路橋りょう維持費				取組方針		1		道路・橋梁の適正な維持管理					
	事業概要			市道利用者が安全快適に利用できるように、市道の適切な維持管理や修繕を行う事業													
	事務事業を構成する細事業	① 市道維持修繕				⑤ 舗装メンテナンス				⑨							
		② 崩土除去委託				⑥ 道路付属施設管理				⑩							
		③ 融解作業委託				⑦				⑪							
④ 道路管理清掃委託				⑧				⑫									
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析							
	活動指標	草刈清掃業務路線数	路線	目標						草刈業務については、継続的に実施している。							
			実績	50	52	48											
			<指標の計算方法> 年間草刈業務及び清掃委託路線数														
	活動指標	要望による道路修繕箇所数	箇所	目標						緊急性の高いところから修繕を優先的に実施している。							
			実績	125	50	62											
			<指標の計算方法> 地元要望による道路維持修繕箇所数														
			目標														
			実績														
			<指標の計算方法>														
		目標															
		実績															
		<指標の計算方法>															
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳												
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源							
	205, 781				17, 538		51, 000			137, 243							
事業の実績	①市道維持修繕		62箇所	95, 923, 300円													
	道路修繕		40箇所	9, 024, 669円													
	維持修繕																
	②崩土除去委託		1件	66, 000円													
	③融解作業委託																
	・融解作業		8件32路線	7, 017, 450円													
	④道路管理清掃委託																
・草刈清掃業務		29件48路線	20, 064, 540円														
⑤舗装メンテナンス																	
・工事(1路線)		37, 504, 500円															
⑥道路付属施設管理																	
・道路灯修繕19件		1, 446, 854円															
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない														
		・委託と直営施工により市道の維持管理や修繕を行い、利用者が安全、安心に利用できるよう市が主体となり実施することは妥当といえる。															
	有効性	評価結果	改善の余地がない														
		・市道の維持管理及び修繕をすることは、道路を安全に利用してもらうには有効である。															
	効率性	評価結果	改善の余地がややある														
		・維持管理や簡易修繕は会計年度任用職員で直営施工し、また発注する修繕については、工法選定によりコスト縮減に努めることは効果的である。 ・簡易的な修繕については、各支所に対応可能な範囲でお願いし作業効率の向上を図る必要がある。															

事務事業の概要	事務事業名		橋りょう維持修繕事業				担当課		道路河川課		事業区分		ハード事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		706		
	会計		一般会計								政策目標		4		都市基盤・生活環境				
	予算科目	款	8 土 木 費								施策目標		1		都市基盤整備・公共交通				
		項	2 道路橋りょう費								基本施策		2		道路や橋梁などまちの基盤整備				
	目	2 道路橋りょう維持費								取組方針		1		道路・橋梁の適正な維持管理					
事業概要			橋りょう利用者が橋りょうを安全に利用できるように、5年毎に点検を行い、その結果を基に修繕を行う事業																
事務事業を構成する細事業			① 橋りょう維持修繕				⑤						⑨						
			② 調査業務				⑥						⑩						
			③				⑦						⑪						
			④				⑧						⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	活動指標	橋りょう点検箇所数		橋	目標	239		239		86		122		129		目標通り点検を実施している。他事業で整備され点検の対象外となった橋梁もあり管理橋梁は、806橋となっている。定期点検(回/5年)は、令和6年より三巡目の点検を実施している。			
		実績	235		235		85												
		<指標の計算方法> 計画による橋りょう点検箇所数																	
	活動指標	橋りょう点検進捗率		%	目標	71		100		11		26		42		目標通り点検を実施している。他事業で整備され点検の対象外となった橋梁もあり管理橋梁は、806橋となっている。定期点検(回/5年)は、令和6年より三巡目の点検を実施している。			
		実績	71		100		11												
		<指標の計算方法> 橋りょう点検に対する進捗率																	
	活動指標	橋りょう修繕件数		橋	目標	3		2		2		2		2		橋梁点検により早期の対応が必要な橋梁から補修を実施している。八幡橋については、関係機関との協議に時間を要したため工事を繰越した。			
		実績	5		1		1												
		<指標の計算方法> 橋りょう点検に伴う修繕済み件数																	
			目標																
			実績																
<指標の計算方法>																			
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	147,790				61,794				78,500				72		7,424				
事業の実績	【R5繰】 ①橋りょう維持修繕 ・補修工事(2橋) 55,065,500円 (中津川橋・八幡橋)																		
	【R6】 ①橋りょう維持修繕 ・補修工事(4橋) 82,829,000円 (中津川橋・八幡橋・名手川橋・麻生津橋) ②調査業務 ・橋梁定期点検(85橋) 7,972,800円 ・PCB調査業務(4橋) 1,892,000円																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・橋梁個別施設計画に基づき橋梁の点検と修繕を計画的に進めることで橋梁を安全に利用できるように市が実施することは妥当といえる。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がない															
		・橋梁個別施設計画に基づき橋梁の点検と修繕計画を計画的に進めることは有効である。																	
効率性	評価結果		改善の余地がややある																
	・橋梁の損傷を早期に発見し従来の対症療法的な維持管理から損傷が軽微な段階で予防的に対策を講じる予防保全型の維持管理を行うことで安全、安心を確保しつつライフサイクルコスト及び工法の検討によるコスト削減を図る。																		

事務事業の概要	事務事業名		市道等改良事業			担当課		道路河川課		事業区分		ハード事業			
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し			事業番号		689			
	会計		一般会計			長期総合計画体系		政策目標		4		都市基盤・生活環境			
	予算科目	款	8		土木費			施策目標		1		都市基盤整備・公共交通			
		項	2		道路橋りょう費			基本施策		2		道路や橋梁などまちの基盤整備			
		目	3		道路橋りょう新設改良費			取組方針		2		市道の整備・充実			
	事業概要		市道利用者の利便性、安全性の向上を図るために、市道の改良工事を行う事業												
	事務事業を構成する細事業		① 市道改良			⑤					⑨				
			②			⑥					⑩				
			③			⑦					⑪				
④			⑧					⑫							
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
	活動指標	市道改良箇所数		箇所	目標						継続的に事業を実施している。				
					実績	43	12	14							
		<指標の計算方法>		道路改良箇所数											
					目標										
					実績										
		<指標の計算方法>													
					目標										
					実績										
		<指標の計算方法>													
				目標											
				実績											
	<指標の計算方法>														
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳										
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
	149,985						45,400			104,585					
事業の実績	①市道改良														
	・委託		13箇所	14,870,900円											
	・工事		14箇所	107,196,100円											
	・土地購入		10件	923,500円											
	・補償		15件	10,783,360円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない												
		・生活道路的な市道を地元からの要望を基に事業を行っていることから、真に危険な箇所、不便な箇所は、利便性の向上を図る必要があり、市が事業主体になることは妥当である。													
	有効性	評価結果	改善の余地がない												
		・生活道路的な市道を地元からの要望を基に事業を行っていることから、真に危険な箇所、不便な箇所を改良することにより、利便性の向上を図っており有効である。													
	効率性	評価結果	改善の余地がややある												
		・使用部材、工法選定を検討しコスト削減に努め、より多くの工事に対応し少しでも道路の安全性、通行性を向上させる。													

事務事業の概要	事務事業名		道路整備等補助事業			担当課		道路河川課		事業区分		ソフト事業	
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		694		
	会計		一般会計			長期総合計画体系		政策目標		4		都市基盤・生活環境	
	予算科目	款	8	土木費			施策目標		1		都市基盤整備・公共交通		
		項目	2	道路橋りょう費			基本施策		2		道路や橋梁などまちの基盤整備		
		目	3	道路橋りょう新設改良費			取組方針		2		市道の整備・充実		
	事業概要		市民の住生活の改善を図るために、自治区の集落道や排水路の改修への補助を行う事業										
	事務事業を構成する細事業	① 道路整備等事業補助金			⑤						⑨		
		② 生活環境施設整備事業補助金			⑥						⑩		
		③			⑦						⑪		
④			⑧						⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析			
	活動指標	補助金交付指令件数	件	目標						地元要望により毎年増減がある。			
		実績	20	12	9								
		<指標の計算方法>					地元要望に対する補助金件数						
	活動指標	整備率	%	目標	100	100	100			要望に伴う整備工事については、目標通り実施、完成している。			
		実績	100	100	100								
		<指標の計算方法>					補助金交付に対する整備率						
			目標										
		実績											
		<指標の計算方法>											
		目標											
	実績												
	<指標の計算方法>												
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
	1,087									1,087			
事業の実績	①道路整備等事業補助金 ・補助金(50%) 3件 432,500円												
	②生活環境施設整備事業補助金 ・補助金(50%) 6件 654,000円												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・市道以外の集落道路、集落排水については、地元（受益者）において機能管理している。住生活環境の向上を図るために市が工事費の一部を補助する事は妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・自治区が事業主体で、毎年度申請があることもあり住生活環境の向上には有効である。											
	効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・自治区が事業主体であり、コスト縮減に努め事業を効率的に進めるよう協議を行っている。											

事務事業の概要	事務事業名		主要幹線道路整備事業				担当課		道路河川課		事業区分		ハード事業	
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		696			
	会計		一般会計				政策目標		4		都市基盤・生活環境			
	予算科目	款	8	土木費				施策目標		1		都市基盤整備・公共交通		
		項目	2	道路橋りょう費				基本施策		2		道路や橋梁などまちの基盤整備		
事務事業を構成する細事業	目		3	道路橋りょう新設改良費				取組方針		2		市道の整備・充実		
	事業概要		市道利用者の利便性の向上を図るために、市道（主要幹線道路）の整備、改良を行う事業											
			①	市道東国分赤尾線				⑤						
			②	市道西野山平山線				⑥						
			③	市道丸85号線				⑦						
		④					⑧							
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析				
	活動指標	市道東国分赤尾線道路整備率	%	目標	90	100	100			令和6年度に工事完成した。				
		実績		89	94	100								
		<指標の計算方法>		整備による進捗率										
	活動指標	市道東国分赤尾線（二工区）道路整備率	%	目標				50	100	用地交渉中のため、引き続き交渉を行うため繰越した。				
		実績												
		<指標の計算方法>		整備による進捗率										
	活動指標	市道西野山平山線道路整備率	%	目標		100	100			令和6年度に工事完成した。				
		実績			49	100								
		<指標の計算方法>		整備による進捗率										
活動指標	市道丸85号線道路整備率	%	目標				50	100	用地交渉中のため、引き続き交渉を行うため繰越した。					
	実績													
	<指標の計算方法>		整備による進捗率											
コストの実績	R 6年度決算額（単位：千円）				財源内訳									
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
	150, 462				37, 865		56, 800		35, 105	20, 692				
事業の実績	①市道東国分赤尾線													
	・【R5線】（1工区）													
	工事 2件 44, 269, 700円													
	補償 2件 358, 526円													
・【R6】（2工区）														
土地購入 9件 23, 276, 100円														
補償 1件 1, 223, 900円														
委託 2件 1, 980, 000円														
②市道西野山平山線														
・【R5線】工事 2件 70, 104, 800円														
補償 3件 7, 461, 291円														
③市道丸85号線														
・【R6】委託 3件 1, 787, 500円														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・主要幹線市道を整備することにより利用者の利便性が大きく向上することから妥当といえる。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
		・主要幹線市道を整備するとともに歩道整備も視野に入れ計画することで歩行者の安全性が向上するため有効である。												
	効率性	評価結果	改善の余地がややある											
・コスト縮減に向けた部材、工法選定の検討が必要である。 ・国の補助事業を活用し市の財政負担の軽減を図っている。														

事務事業の概要	事務事業名			交通安全施設整備事業				担当課		道路河川課		事業区分		ハード事業					
	会計			一般会計				新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		94	
	予算科目	款	8	土木費				長期総合計画体系	政策目標		1	安全・安心							
		項目	2	道路橋りょう費					施策目標		1	防災・防犯							
		目	4	交通安全施設費					基本施策		4	防犯・交通安全対策の推進							
事業概要			市道利用者の安全確保を図るために交通安全施設の整備を行う事業																
事務事業を構成する細事業	①			交通安全施設整備				⑤							⑨				
	②							⑥							⑩				
	③							⑦							⑪				
	④							⑧							⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	活動指標	交通安全施設工事・修繕箇所数		箇所	目標											損傷の激しい箇所から随時修繕を実施している。			
		実績	117		134		113												
		<指標の計算方法>		交通安全施設の設置箇所数															
				目標															
				実績															
				<指標の計算方法>															
			目標																
			実績																
			<指標の計算方法>																
			目標																
			実績																
			<指標の計算方法>																
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	35,021				228										34,793				
事業の実績	①交通安全施設整備 ・工事、修繕 34,037,066円 カーブミラー 66箇所 防護柵 15箇所 区画線 29箇所 グリーンベルト 3箇所																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・市道利用者の安全性を図るため交通安全施設の整備を市が実施することは妥当といえる。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がない															
		・日常的な業務内での道路パトロールにより、施設の老朽化、損傷を早期に発見、修繕し安全性の向上を図ることは有効である。 ・施設の損傷度、緊急度、地域性を基に整備することは有効といえる。 ・全ての施設について、状態把握出来ないことから地区からの要望を受け確認施工することは有効である。																	
	効率性	評価結果		改善の余地がない															
・ミラー取替等、簡易な施工については、会計年度任用職員で施工することによりコスト縮減にもなり早急に対応できている。 ・他の現場を確認する際に併せてパトロールを行うことにより、業務量の増大を抑制している。																			

事務事業の概要	事務事業名			国・県河川行政推進事業				担当課		建設総務課		事業区分		ソフト事業						
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		95		
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心						
	予算科目			款		8				土木費		施策目標		1		防災・防犯				
				項		3				河川費		基本施策		3		災害に強いまちの形成				
目		1		河川総務費						取組方針		1		治水・排水対策の推進						
事業概要			計画的な河川行政の推進を図るために、関連団体の活動に参画する事業																	
事務事業を構成する細事業			① 日本河川協会負担金				⑤ 河川管理事務				⑨									
			② 紀の川改修促進期成同盟会負担金				⑥				⑩									
			③ 紀の川水質汚濁防止連絡協議会				⑦				⑪									
			④ 河川愛護・美化保全				⑧				⑫									
指標の実績	指標名			単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	活動指標	総会参加回数（和歌山県河川協会）			回	目標	1		1		1		1		1		河川整備事業の促進のためには、本団体への要望活動及び総会への参画は必要不可欠である。			
					実績	1		1		1		1								
		<指標の計算方法>			総会参加回数（和歌山県河川協会）															
	活動指標	総会参加回数（紀の川改修促進期成同盟会）			回	目標	1		1		1		1		1		紀の川整備事業の促進のためには、本団体への要望活動及び総会への参画は必要不可欠である。			
					実績	1		1		1		1								
		<指標の計算方法>			総会参加回数（紀の川改修促進期成同盟会）															
	活動指標	総会参加回数（紀の川水質汚濁防止連絡協議会）			回	目標	1		1		1		1		1		紀の川水質汚濁防止のためには、本団体総会への参画は必要不可欠である。			
					実績	1		1		1		1								
		<指標の計算方法>			総会参加回数（紀の川水質汚濁防止連絡協議会）															
活動指標	河川一斉清掃参加人数			人	目標											国の示す河川愛護月間に、紀の川河川敷の清掃を実施していたが、国からの通達で熱中症対策により中止（令和4・5年度も中止）になったが、河川美化保全の啓発を行った。				
				実績																
	<指標の計算方法>			河川一斉清掃参加人数																
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）					財源内訳														
	342					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		342		
事業の実績	①日本河川協会負担金 ・294,000円 治水利水防災事業の促進を図ることを目的とする。																			
	②紀の川改修促進期成同盟会負担金 ・48,000円 紀の川改修の促進を期し、流域住民が洪水による災禍を永遠に被らないよう努めることを目的とする。																			
	③紀の川水質汚濁防止連絡協議会 協議会内で水質汚濁による情報を共有することで早期対応を目的とする。																			
	④河川愛護・美化保全 ・河川一斉清掃 （国からの通達で熱中症対策により中止になったが、河川美化保全の啓発を行った）																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・総会等の参画に関しては、会員市としての責務であるため妥当である。 ・市民の水辺環境の美化保全を啓発により考えてもらう。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がない																
		・個別事業に関する要望や協議事案については、専門的知識を有する人材配置が有効である。 ・河川美化保全の啓発を河川愛護月間に合わせることで、より多く市民の意識向上につながっている。																		
	効率性	評価結果		改善の余地がない																
・国・県においては、河川整備計画に基づき事業を実施しているため効率性がある。 ・費用的には河川美化保全の啓発であるため、過大費用でない事業である。																				

事務事業の概要	事務事業名		砂防行政推進事業				担当課		建設総務課		事業区分		ソフト事業	
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1050			
	会計		一般会計				政策目標		1		安全・安心			
	予算科目	款	8	土 木 費				施策目標		1		防災・防犯		
		項目	3	河 川 費				基本施策		3		災害に強いまちの形成		
		1	河川総務費				取組方針		2		土砂災害防止対策の推進			
事業概要		砂防行政の推進を図るために、関連団体の活動に参画する事業												
事務事業を構成する細事業	①		砂防行政事業				⑤				⑨			
	②		全国治水砂防協会負担金				⑥				⑩			
	③						⑦				⑪			
	④						⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析				
	活動指標	総会参加回数	目標		1	1	1	1	1	土砂災害から市民の生命、財産を守るため、国や県と連携して防災機能の強化を図るため、総会等に参画した。				
			実績		1	1	1							
		<指標の計算方法>		総会参加回数										
			目標											
			実績											
		<指標の計算方法>												
			目標											
			実績											
		<指標の計算方法>												
		目標												
		実績												
	<指標の計算方法>													
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	399			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	399				
事業の実績	①砂防行政事業 全国治水砂防協会総会へ参加することで、治水・砂防施設の整備促進に向け関係省庁に対して要望活動を展開。													
	②全国治水砂防協会負担金 ・399,000円 和歌山県が実施する管内砂防整備事業について負担金として負担するもの。 細野地区及び神通地区砂防事業地元調整を実施。													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・治水砂防事業については、市民生活の安全性が向上されると見込まれるため妥当である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
		・治水砂防事業に伴う協議等については、継続して専門的知識を有する職員の配置が有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・治水砂防事業については、市民生活の安全性が向上されるため効率的である。													

事務事業の概要	事務事業名		県営急傾斜地崩壊対策事業				担当課		建設総務課		事業区分		ハード事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1141	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心				
	予算科目	款	8	土 木 費					施策目標	1	防災・防犯				
		項	3	河 川 費					基本施策	3	災害に強いまちの形成				
目		1	河川総務費			取組方針			2	土砂災害防止対策の推進					
事業概要		急傾斜地崩壊対策として和歌山県が実施する事業に対し、市が費用を負担する事業													
事務事業を構成する細事業	①		県営急傾斜地崩壊対策事業負担金				⑤					⑨			
	②		災害緊急がけ崩れ対策事業負担金				⑥					⑩			
	③						⑦					⑪			
	④						⑧					⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	県営急傾斜地崩壊対策事業負担金比率（寺垣内、小松原地区）	%	目標						和歌山県急傾斜地崩壊危険地として指定された地区の事業実施に伴う負担金2.5%を担う。（公共施設避難関連かつ大規模斜面）	
		実績		5	2.5	2.5					
		<指標の計算方法>		全体事業費×負担率							
	活動指標	県営急傾斜地崩壊対策事業負担金比率（寺長、西脇地区）	%	目標						和歌山県急傾斜地崩壊危険地として指定された地区の事業実施に伴う負担金10%を担う。	
		実績		10	10	10					
		<指標の計算方法>		全体事業費×負担率							
	活動指標	災害緊急がけ崩れ対策事業負担金比率	%	目標						和歌山県災害緊急がけ崩れ危険地として指定された箇所の事業実施に伴う負担金10%を担う。令和6年度は被害無し。	
		実績			10						
		<指標の計算方法>		全体事業費×負担率							
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	21,542					20,200			1,342

事業の実績	①県営急傾斜地崩壊対策事業負担金					
	・ 寺長地区（法面工） 事業費 93,573,000円 負担金 9,357,000円(10%) ・ 寺垣内地区（法面工） 事業費 102,200,000円 負担金 2,554,000円(2.5%) ・ 小松原地区（法面工） 事業費 76,950,000円 負担金 1,923,000円(2.5%) ・ 西脇地区（法面工） 事業費 77,088,000円 負担金 7,708,000円(10%)					
	②災害緊急がけ崩れ対策事業負担金 令和6年度は被害無し。					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・ 和歌山県が急傾斜地崩壊危険地区及び災害緊急がけ崩れ危険箇所として指定した地区について、対策事業に対する負担金であり妥当である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・ 和歌山県の計画に基づいた災害対策効果に結びついている。		
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・ 定められた負担割合に基づくものなので改善の余地はない。			

事務事業の概要	事務事業名		県営小規模土砂災害対策事業				担当課		建設総務課		事業区分		ハード事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1142	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心				
	予算科目	款項目	8	土木費		施策目標			1	防災・防犯					
		目	3	河川費		基本施策			3	災害に強いまちの形成					
		1	河川総務費				取組方針	2	土砂災害防止対策の推進						
事業概要		小規模土砂災害対策として和歌山県が実施する事業に対し、市が費用を負担する事業													
事務事業を構成する細事業		①	県営小規模土砂災害対策事業負担金				⑤					⑨			
		②					⑥					⑩			
		③					⑦					⑪			
		④					⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
	活動指標	県営小規模土砂災害対策事業負担金比率	%	目標						和歌山県小規模土砂災害危険地として指定された箇所の事業実施に伴う負担金10%を担う。					
				実績	10	10	10								
				<指標の計算方法> 全体事業費×負担率											
				目標											
				実績											
				<指標の計算方法>											
				目標											
				実績											
				<指標の計算方法>											
			目標												
			実績												
			<指標の計算方法>												
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳										
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
		550									550				
事業の実績	①県営小規模土砂災害対策事業負担金														
	・北山地区（法面工） 事業費 5,500,000円 負担金 550,000円(10%)														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない												
		・和歌山県が小規模土砂災害危険地として指定された箇所について、対策事業に対する負担金であり妥当である。													
	有効性	評価結果	改善の余地がない												
		・和歌山県の計画に基づく災害対策効果に結びついている。													
	効率性	評価結果	改善の余地がない												
		・定められた負担割合に基づくものなので改善の余地はない。													

事務事業の概要	事務事業名		河川管理保全事業				担当課		道路河川課		事業区分		ハード事業	
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		687			
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心	
	予算科目	款	8		土木費				施策目標		1		防災・防犯	
		項目	3		河川費				基本施策		3		災害に強いまちの形成	
事業概要		市が治水機能の維持と水辺環境の美化保全を図るために、河川、河川公園の維持管理を適切に行う事業												
事務事業を構成する細事業	①		河川公園管理				⑤				⑨			
	②		河川管理保全				⑥				⑩			
	③						⑦				⑪			
	④						⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析				
	活動指標	河川維持管理件数		件	目標						2箇所 の浚渫 工事を実施した。 1箇所 の改修 工事を実施した。			
		実績			6	2	3							
		<指標の計算方法>		河川維持管理件数										
					目標									
実績														
<指標の計算方法>														
				目標										
	実績													
	<指標の計算方法>													
				目標										
	実績													
	<指標の計算方法>													
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳									
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
	1,936									1,936				
事業の実績	①河川公園管理 (3河川公園) ・草刈清掃													
	②河川管理保全 ・準用河川 浚渫 (2河川) 1,126,400円 ・普通河川 改修 (1河川) 809,600円													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・準用河川、普通河川を維持管理することは、河川の氾濫、浸水被害を未然に防ぐ目的から妥当である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
		・堆積土の浚渫や河川構造物の修繕をすることは、治水上有効である。												
	効率性	評価結果	改善の余地がない											
・市内の全河川は、国県の管理河川に流れ込んでいることから、国県の河川維持管理が必要である。 ・計画的に河川の浚渫や護岸補修を進める事でコストを最小限に抑えて維持管理ができています。														

事務事業の概要	事務事業名		急傾斜地崩壊対策事業				担当課		道路河川課		事業区分		ハード事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		682		
	会計		一般会計								政策目標		1		安全・安心				
	予算科目	款	8		土木費						施策目標		1		防災・防犯				
		項目	3		河川費						基本施策		3		災害に強いまちの形成				
		目	2		河川管理費						取組方針		2		土砂災害防止対策の推進				
	事業概要		市民の安全性を確保するために、急傾斜対策を行った施設の維持管理を適切に行う事業																
			① 急傾斜地管理（調月北部）				⑤						⑨						
	事務事業を構成する細事業		②				⑥						⑩						
			③				⑦						⑪						
		④				⑧						⑫							
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	活動指標	急傾斜地の維持管理箇所数		箇所	目標	1		1		1						調月北部の急傾斜対策箇所について維持管理を行っている。			
		実績	1		1		1												
		<指標の計算方法>		急傾斜地の維持管理箇所数															
				目標															
				実績															
	<指標の計算方法>																		
				目標															
				実績															
	<指標の計算方法>																		
			目標																
			実績																
<指標の計算方法>																			
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	2, 123														2, 123				
事業の実績	①急傾斜地管理（調月北部） ・草刈業務 2, 123, 000円																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・急傾斜対策済箇所の維持管理を市が実施することは妥当である。															
	有効性	評価結果		改善の余地がない ・急傾斜対策済箇所の除草をすることで法面の状態を把握するには有効である。															
	効率性	評価結果		改善の余地がない ・急傾斜対策済箇所の除草を民間委託することで法面を効率的に管理している。															

事務事業の概要	事務事業名		都市計画推進事業				担当課		都市計画課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		681	
	会計		一般会計								政策目標		4		都市基盤・生活環境			
	予算科目	款	8 土 木 費								施策目標		1		都市基盤整備・公共交通			
		項	4 都市計画費								基本施策		1		土地の有効利用と住みよい都市環境の整備			
		目	1 都市計画総務費								取組方針		1		「都市計画マスタープラン」に基づくまちづくりの推進			
	事業概要		計画的な土地利用と都市基盤の整備を図るため、計画の策定・推進や都市計画審議会の運営を行う事業															
			① 都市計画審議会運営				⑤ 屋外広告物管理				⑨							
	事務事業を構成する細事業		② 全国都市計画協会負担金				⑥ 都市計画マスタープラン更新				⑩							
			③ 全国都市計画街路事業促進協議会負担金				⑦				⑪							
		④ 県都市計画協会負担金				⑧				⑫								
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	都市計画審議会開催件数	件	目標	1		1		1		1		1		都市計画審議会開催件数は、計画案件の有無により変動する。			
			実績	1		1		1										
		<指標の計算方法> 都市計画審議会開催件数																
	成果指標	屋外広告物の更新率	%	目標	80		80		100		100		100		郵送で更新依頼し申請が来なかった者に対して、電話等で再度更新手続きをお願いし更新率の向上につなげた。			
			実績	100		94.4		100										
		<指標の計算方法> 更新した件数÷更新予定件数（除却件数は除く）																
	活動指標	都市計画マスタープラン策定委員会開催回数	回	目標					2		3		令和9年度からの都市計画マスタープラン更新に向けて、策定委員会を開催した。					
			実績					2										
		<指標の計算方法> 当該年度中に策定委員会を開催した回数																
			目標															
		実績																
<指標の計算方法>																		
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳													
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	8,530												514		8,016			
事業の実績	①都市計画審議会運営 ・任期満了に伴う委員改選 委員 17名 開催回数 1回																	
	②全国都市計画協会負担金 ・全国都市計画協会事業費を負担した。																	
	③全国都市計画街路事業促進協議会負担金 ・全国都市計画街路事業促進協議会事業費を負担した。																	
事業の実績	④県都市計画協会負担金 ・和歌山県都市計画協会事業費を負担した。																	
	⑤屋外広告物管理 ・屋外広告物許可申請 新規 3件 更新 46件 変更3件 ・違反広告物の簡易撤去 3件 ・パトロールを実施																	
	⑥都市計画マスタープラン更新 ・都市計画マスタープラン策定委員会 委員 18名 開催回数 2回 ・都市計画マスタープラン検討委員会 委員 16名 開催回数 2回																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない														
		・都市計画法によって市が実施主体になることが定められている。 ・違反広告物の減少により、良好な景観を形成している。（屋外広告物）																
	有効性	評価結果		改善の余地がない														
		・都市計画の案件に対して、適宜都市計画審議会を開催し、審議会委員の意見を聴取することで都市の健全な発展と秩序ある整備を図ることができている。 ・屋外広告物の許可申請書の審査や違反広告物のパトロールを行うことにより、良好な景観を守っている。																
	効率性	評価結果		改善の余地がない														
		・屋外広告物の許可の更新依頼を郵送で行うことにより、問合せや相談に要する時間が短縮できている。																

事務事業の概要	事務事業名		開発指導事業				担当課		都市計画課		事業区分		ソフト事業	
	会計		一般会計				新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	677
	予算科目	款	8	土 木 費				長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	4	都市計画費					施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	1	都市計画総務費					基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備			
	事業概要		市民に住みよいまちを提供するために、開発事業者に適正な開発指導を行う事業											
	事務事業を構成する細事業	① 開発計画審議会運営				⑤				⑨				
		② 開発指導				⑥				⑩				
		③				⑦				⑪				
		④				⑧				⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	無届開発摘発件数	件	目標	0	0	0	0	0	令和6年度も特に摘発するものがなかった。	
				実績	0	0	0				
				<指標の計算方法> 無届開発摘発件数							
	活動指標	開発審議会開催件数	件	目標	2	2	2	2	2	令和6年度は、2回の開催だった。	
				実績	2	2	2				
				<指標の計算方法> 開発審議会開催件数							
				目標							
				実績							
				<指標の計算方法>							
			目標								
			実績								
			<指標の計算方法>								

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	240						240	

事業の実績	①開発計画審議会運営 委員 11名 開催回数 2回				
	②開発指導 ・紀の川市開発指導要綱及び宅地造成等規制法に基づく技術的指針を遵守し、適正な住宅地等の開発指導を行った。 開発許可 2件 開発協議 16件				

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない			
		・無秩序な開発事業を防止し、適正な住宅地等の開発の指導を行うことが法令上定められている。				
	有効性	評価結果	改善の余地がない			
		・開発許可申請に対して、開発審議会を開催し、審議会委員の意見を聴取している。				
	効率性	評価結果	改善の余地がない			
		・法令に基づき、適正に業務を処理しており、コスト削減の余地はない。				

事務事業の概要	事務事業名		都市施設管理運営事業				担当課		都市計画課		事業区分		ソフト事業				
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し				事業番号		680				
	会計		一般会計				政策目標		4		都市基盤・生活環境						
	予算科目	款	8		土木費		施策目標		1		都市基盤整備・公共交通						
		項目	4		都市計画費		基本施策		1		土地の有効利用と住みよい都市環境の整備						
	目	1		都市計画総務費		取組方針		9		その他							
事業概要		市民が都市施設（JR粉河駅南広場及び南北連絡地下道）を安全で快適に利用できるように、維持管理を適切に行う事業															
事務事業を構成する細事業	①		JR粉河駅周辺都市施設管理				⑤						⑨				
	②						⑥						⑩				
	③						⑦						⑪				
	④						⑧						⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析		
	成果指標	管理不十分による問い合わせ件数		件	目標	0		0		0		0		0		適正な管理が行われているので、問い合わせがなかった。	
					実績	0		0		0		0					
		<指標の計算方法>		問い合わせ件数													
					目標												
			実績														
	<指標の計算方法>																
					目標												
			実績														
	<指標の計算方法>																
				目標													
		実績															
<指標の計算方法>																	
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳												
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
	2,159														2,159		
事業の実績	①JR粉河駅周辺都市施設管理 ・植栽の手入れを適切な時期に行った。 ・トイレの日常管理を行った。 ・トイレ・街路灯の修繕を行った。																
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・JR粉河駅南広場及び南北連絡地下道は、駅利用者等に必要な施設であり、市が適正に維持管理を行う必要がある。													
	有効性	評価結果		改善の余地がない ・市が適正に維持管理を行うことで、利用者の安全確保・快適性の向上及び景観の維持につながっている。													
	効率性	評価結果		改善の余地がない ・粉河駅南の植栽管理や、トイレの日常管理を民間委託している。													

事務事業の概要	事務事業名		被災建築物・宅地危険度判定事業					担当課		都市計画課			事業区分		ソフト事業				
								新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号		676		
	会計		一般会計					長期総合計画体系		政策目標	4	都市基盤・生活環境							
	予算科目	款	8	土 木 費						施策目標	1	都市基盤整備・公共交通							
		項	4	都市計画費						基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備							
		目	1	都市計画総務費						取組方針	9	その他							
事業概要			迅速な災害復旧を図るとともに、市民に被災後の安全・安心な暮らしを提供するため、被災建築物や被災宅地の危険度判断を円滑に行なう事業																
事務事業を構成する細事業	①		判定士研修・育成					⑤							⑨				
	②							⑥							⑩				
	③							⑦							⑪				
	④							⑧							⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	活動指標	地震被災建築物応急危険度判定士認定講習会参加者数		人	目標			2		2		2		2		2名予定していたが、都合により1名欠席。			
		実績					1		1										
		<指標の計算方法>				認定講習会の参加者のうち市役所職員の人数													
	成果指標	地震被災建築物応急危険度判定士登録者数		人	目標			90		90		90		90		退職に伴い登録人数は減少した。			
		実績					90		87										
		<指標の計算方法>				判定士登録者のうち市役所職員の人数													
	活動指標	被災宅地危険度判定士認定講習会参加者数		人	目標			2		2		2		2		資格要件を満たした者から順次依頼しているが、令和6年度は、該当者無し。			
		実績					0		0										
		<指標の計算方法>				認定講習会の参加者のうち市役所職員の人数													
成果指標	被災宅地危険度判定士登録者数		人	目標			52		50		50		50		新規登録はなかったものの登録人数は横ばいだった。				
	実績					52		50											
	<指標の計算方法>				判定士登録者のうち市役所職員の人数														
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	97														97				
事業の実績	①判定士研修・育成 ・地震被災建築物応急危険度判定士認定講習会に1名参加。																		
	・被災宅地危険度判定士養成講習会 資格要件を満たしている者がいないため参加者なし。																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・判定士の登録者数を増やすことが大規模災害時に迅速な判定活動を行うことにつながるため、判定士育成の必要性は高い。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がややある															
		・被災宅地危険度判定士の受講資格を満たしている者がなく、近年新規登録者が増えていない。																	
	効率性	評価結果		改善の余地がない															
		・県が実施する判定士育成のための講習会に参加している。																	

事務事業の概要	事務事業名			都市公園管理運営事業				担当課		都市計画課		事業区分		ソフト事業						
	新規・継続			継続		事業期間		単年度繰返し				事業番号		101						
	会計			一般会計				政策目標		4		都市基盤・生活環境								
	予算科目	款	8	土 木 費				施策目標		1		都市基盤整備・公共交通								
		項目	4	都市計画費				基本施策		1		土地の有効利用と住みよい都市環境の整備								
事業概要			市民が都市公園を安全で快適に利用できるように、都市公園の適切な維持管理を行う事業																	
事務事業を構成する細事業	①			西井阪公園（南児童公園）施設管理				⑤			王子公園施設管理				⑨					
	②			東国分公園（中児童公園）施設管理				⑥			名手公園施設管理				⑩					
	③			古和田公園（北児童公園）施設管理				⑦			粉河河南緑地公園施設管理				⑪					
	④			秋葉山公園施設管理				⑧			平池緑地公園施設管理				⑫					
指標の実績	指標名			単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	成果指標	管理不足での事故件数			件	目標	0		0		0		0		0		遊具の安全点検等安全面を重視した管理を行った結果、事故なく管理ができた。			
		実績				0		0		0		0								
		<指標の計算方法>				事故件数														
						目標														
		実績																		
		<指標の計算方法>																		
						目標														
		実績																		
		<指標の計算方法>																		
					目標															
	実績																			
	<指標の計算方法>																			
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳															
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
	28,331												15		28,316					
事業の実績	①～⑧各公園施設管理 ・施設、器具の修繕をした。 ・植栽、トイレ等の日常管理を行った。 【上記以外の実績】 ①南児童公園改修工事 ・公園の管理面積を縮小するため防草シート敷設、植栽等の撤去を行った。 ⑦粉河河南緑地公園設計業務 ・河川敷の占用廃止に向けた現況復旧のための設計業務を行った。																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・レクリエーション、災害時の避難、環境の保全及び景観の向上のための公共空地として市が公園・緑地を整備・維持管理することは適正である。																
		評価結果		改善の余地がない ・自治会や地域の人々に、維持管理を委託することによって、より住民ニーズに合った事業内容にすることができている。																
	有効性	評価結果		改善の余地がない ・自治会や地域の団体、シルバー人材センターに、維持管理を業務委託することによって、コストを削減できている。																
		評価結果		改善の余地がない ・自治会や地域の団体、シルバー人材センターに、維持管理を業務委託することによって、コストを削減できている。																

事務事業の概要	事務事業名		都市公園活性化事業				担当課		都市計画課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		837		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		4		都市基盤・生活環境						
	予算科目	款	8		土木費				施策目標		1		都市基盤整備・公共交通						
		項目	4		都市計画費				基本施策		1		土地の有効利用と住みよい都市環境の整備						
		2		都市公園費				取組方針		1		「都市計画マスタープラン」に基づくまちづくりの推進							
事業概要		市民の都市公園利用の促進を図るために、都市公園でイベント開催等を行う事業																	
事務事業を構成する細事業			① 貴志川イルミネーション				⑤						⑨						
			② 大賀ハス観蓮会				⑥						⑩						
			③				⑦						⑪						
			④				⑧						⑫						
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析		
	活動指標	イベント開催回数	回	目標		2		2		2		2		2		大賀ハス観蓮会は雨天のため中止となった。			
				実績		1		1		1									
				<指標の計算方法> イベント開催回数															
				目標															
				実績															
				<指標の計算方法>															
				目標															
				実績															
				<指標の計算方法>															
			目標																
			実績																
			<指標の計算方法>																
コストの実績			R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
			487												487				
事業の実績	① 貴志川イルミネーション ・ 貴志川イルミネーション実行委員会に補助金を支出した。 開催期間 R6年12月7日～R7年1月10日																		
	② 大賀ハス観蓮会 ・ 大賀ハス観蓮会の開催を予定していたが、雨天により中止となった。																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・ 都市公園は、幅広い年齢層の人たちが自然とふれあい、レクリエーション活動や文化活動など多様な活動の拠点となっており、さらなる利用を促進する必要がある。															
	有効性	評価結果		改善の余地がない ・ イベントの開催により、普段はあまり公園を利用しない多様な市民が公園に足を運ぶきっかけを作り、利用を促進することができている。															
効率性	評価結果		改善の余地がややある ・ イベント主催団体の高齢化に伴い、市の支援の方法やイベントの実施方法について検討をしていく必要がある。																

事務事業の概要	事務事業名				運動公園管理運営事業				担当課		生涯スポーツ課		事業区分		ソフト事業					
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		873	
	会計				一般会計								政策目標		2		子育て・教育			
	予算科目	款	8	土 木 費								施策目標		3		生涯学習・生涯スポーツ				
		項	4	都市計画費								基本施策		3		スポーツの振興と環境の充実				
	目	3	運動公園費								取組方針		3		スポーツ施設の充実と適切な管理					
	事業概要				市民が運動公園施設を安全で快適に利用できるように、維持管理を適切に行う事業															
事務事業を構成する細事業					① 桃源郷運動公園陸上競技場施設管理				⑤ 市民公園(打田若もの広場)施設管理				⑨ 市民公園(トレーニングルーム)施設管理							
					② 愛宕池公園施設管理				⑥ 市民公園(市民プール)施設管理				⑩							
					③ 粉河運動場施設管理				⑦ 市民公園(テニスコート)施設管理				⑪							
					④ 市民公園(市民体育館)施設管理				⑧ 市民公園(ゲートボール場)施設管理				⑫							
指標の実績			指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	成果指標	年間利用者数		人	目標		198,000		198,000		198,000		198,000		198,000		全体的に利用者数が増加しており、市民等がスポーツに触れる機会や活動の場が増加している。			
					実績		159,176		223,664		260,007									
		<指標の計算方法>			運動公園施設全体の年間利用者数															
	成果指標	施設使用料		円	目標		3,452,000		3,500,000		3,500,000		3,500,000		3,500,000		全体的に施設利用者が増加していることに伴い、施設使用料収入が増加している。			
					実績		2,717,020		3,054,335		3,215,320									
		<指標の計算方法>			運動公園施設の使用料															
						目標														
						実績														
	<指標の計算方法>																			
					目標															
					実績															
<指標の計算方法>																				
コストの実績					R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳													
							国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
					184,659						41,900				3,216		139,543			
事業の実績	施設利用状況														指定管理分使用料収入：10,029,620円					
	①桃源郷運動公園陸上競技場施設管理 ・サッカー 109件 13,985人 ・陸上 96件 7,443人 ・その他 26件 434人 ②愛宕池公園施設管理 ・多目的グラウンド 111件 4,530人 ・テニスコート 0件 0人 ・ゲートボール場 0件 0人 ③粉河運動場施設管理 ・野球場 103件 3,501人 ・ソフトボール場 105件 3,716人 ・多目的広場 136件 4,599人 ・テニスコート 186件 1,548人 ④市民公園(市民体育館)施設管理 2,964件 82,755人				⑤市民公園(多目的(打田若もの)広場)施設管理 573件 69,847人 ⑥市民公園(市民プール)施設管理 9,456人 ⑦市民公園(テニスコート)施設管理 2,924件 35,012人 ⑧市民公園(ゲートボール場)施設管理 34件 280人 ⑨市民公園(トレーニングルーム)施設管理 22,901人 ※④～⑨はR4.4.1から指定管理者による施設の管理・運営を実施 指定管理分利用者数：220,251人															
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がややある																
		・市民が利用する施設であるため、備品や設備等の充実を図るなど環境を整えた上で適正な管理が必要である。 ・市民公園施設を指定管理者による管理運営を実施している。他の施設についても、利用者数の増加と運営効率の観点から、民間活力の導入を検討していく必要がある。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																
		・安全で快適に利用できる施設を目指し、市民ニーズを適確に把握していく必要がある。																		
効率性	評価結果		改善の余地がややある																	
	・市民公園施設を指定管理者による管理運営を実施している。他の施設についても、利用者数の増加と運営効率の観点から、民間活力の導入を検討していく必要がある。 ・施設使用料の減免にかかる市の統一基準を精査し、運用にむけた庁内での調整が必要である。																			

事務事業の概要	事務事業名		市営住宅施設管理事業				担当課		住宅政策課		事業区分		ソフト事業	
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	655
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	4	都市基盤・生活環境			
	予算科目	款	8	土 木 費		施策目標			1	都市基盤整備・公共交通				
		項	5	住 宅 費		基本施策			1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
目		1	住 宅 費		取組方針	9			その他					
事業概要		市営住宅入居者が快適に市営住宅を利用できるように、施設管理や入居者管理を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①		市営住宅施設管理				⑤				⑨			
	②		入居者管理				⑥				⑩			
	③						⑦				⑪			
	④						⑧				⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	修繕戸数	戸	目標						修繕については、入居者からの連絡により受動的に対応することが多いので、目標設定するにはそぐわない。	
				実績	104	116	108				
				<指標の計算方法>					修繕戸数		
	活動指標	公募による入居戸数	戸	目標	9	7	6	11		6戸を公募し、1戸に入居者が入った。昨年度実績と比較し少ない結果となった。令和8年度は、令和7年度の入居状況によるため未定。	
				実績	9	4	1				
				<指標の計算方法>					公募戸数		
				目標							
				実績							
				<指標の計算方法>							
			目標								
			実績								
			<指標の計算方法>								

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳					
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	61, 396								22, 698	38, 698

事業の実績	①市営住宅施設管理 ・適切な施設の維持管理を行い、不具合等については修繕対応を行った。修繕箇所数は昨年度と比較し減少しているが、施設の老朽化により、規模の大きな修繕が増えている。										
	修繕箇所 108件実施 公募用住宅の修繕 6件実施										
	②入居者管理 ・6戸の公募を行った。										

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市営住宅に対するニーズは少なからずある。住宅に困窮している低額所得者のためのものであり、修繕していくことは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
		・一定数の公募をする必要はあると思われるが、住宅に困窮している低額所得者のための住宅確保が目的であるため、必ずしも入居数が増えることが有効性を示すものではない。									
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・施設管理の一部に関して、業務分担や委託するなど検討の余地はある。										

事務事業の概要	事務事業名				市営住宅改修事業				担当課		住宅政策課		事業区分		ハード事業	
	新規・継続				継続		事業期間		単年度繰返し				事業番号		654	
	会計				一般会計				政策目標		4		都市基盤・生活環境			
	予算科目	款	8		土 木 費		施策目標		1		都市基盤整備・公共交通					
		項	5		住 宅 費		基本施策		1		土地の有効利用と住みよい都市環境の整備					
		目	1		住 宅 費		取組方針		9		その他					
	事業概要				市営住宅入居者が市営住宅で安全、安心に生活できるように、耐震診断や改修を行う事業 社会資本金整備総合交付金対象事業（国庫補助事業）である。											
	事務事業を構成する細事業	① 改修				⑤						⑨				
		②				⑥						⑩				
		③				⑦						⑪				
④				⑧						⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析				
	長寿命化改修	棟	目標		0	10	6	2	0	長寿命化計画を基に、中野井公営住宅2棟10戸について、屋根、ベランダ等の防水改修及び外壁改修。また、下野井北改良住宅4棟8戸について、屋根、ベランダ等の防水改修。				
			実績		0	10	6							
	<指標の計算方法>		改修棟数											
			目標											
			実績											
	<指標の計算方法>													
			目標											
			実績											
	<指標の計算方法>													
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳						
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	70,544		21,491						49,053

事業の実績	①改修 ・中野井公営住宅2棟10戸分の屋根、ベランダ等の防水改修及び外壁改修を行いました。 ・下野井北改良住宅4棟8戸分の屋根、ベランダ等の防水改修を行いました。									

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市営住宅の長寿命化を図る事業であり、市が実施主体となり継続的に進めることが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・市営住宅の改修や修繕について、専門部署からの助言・応援体制がなされているが、担当部署に建築の知識などを有する職員を配置することで正確且つ迅速に対応できる。										
	効率性	評価結果	改善の余地がない									
		・市営住宅の整備は一定水準以上の品質を有する必要がある、設計監理及び工事請負ともに入札によるものでコスト削減の余地はない。										

事務事業の概要	事務事業名				市営住宅解体整備事業				担当課		住宅政策課		事業区分		ハード事業			
	新規・継続				継続		事業期間		単年度繰返し				事業番号		1046			
	会計				一般会計				長期総合計画体系									
	予算科目				8 土 木 費													
	項				5 住 宅 費													
	目				1 住 宅 費													
	事業概要				市民が市営住宅を今後も利用できるように、解体整備を計画的に行う事業													
	事務事業を構成する細事業				① 城山南公営住宅解体				⑤				⑨					
					②				⑥				⑩					
					③				⑦				⑪					
④					⑧				⑫									

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	市営住宅解体	棟	目標		3	2	2	0	0	城山南公営住宅2棟の解体を実施。	
			実績		3	2	2				
		<指標の計算方法>		解体棟数							
			目標								
			実績								
		<指標の計算方法>									
			目標								
			実績								
		<指標の計算方法>									
		目標									
		実績									
	<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	17,761				16,800			961

事業の実績	①城山南公営住宅解体 ・2棟10戸分解体工事を行い、跡地を整備した。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				</

事務事業の概要	事務事業名		住宅用地管理運営事業				担当課		住宅政策課			事業区分		ソフト事業			
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し			事業番号		419					
	会計		一般会計				政策目標		4		都市基盤・生活環境						
	予算科目		款		8		土木費		1		都市基盤整備・公共交通						
	項目		5		住宅費		1		土地の有効利用と住みよい都市環境の整備								
事業概要		旧町において販売した住宅用地にかかる債権の管理・徴収を行う事業															
事務事業を構成する細事業		①		住宅用地管理				⑤		⑨							
		②		徴収				⑥		⑩							
		③						⑦		⑪							
		④						⑧		⑫							
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析		
	成果指標	売買金の徴収金額		円	目標	1,730,000		1,030,000		630,000		360,000		36,000		目標を達成するために、返済に滞りがないよう随時交渉を進めている。	
		実績			1,680,000		980,000		630,000								
		<指標の計算方法>												個別の徴収金額の積上げ			
	成果指標	売買金の残額		円	目標	13,801,000		12,821,000		12,241,000		11,881,000		11,521,000		契約者を訪問し、生活状況を把握しながら、納付指導をしている。	
		実績			13,851,000		12,871,000		12,241,000								
		<指標の計算方法>												個別の残額の積上げ			
				目標													
				実績													
	<指標の計算方法>																
			目標														
			実績														
<指標の計算方法>																	
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳												
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
	41														41		
事業の実績	①住宅用地管理 ・契約金額完済 1件。																
	②徴収 ・契約金未納7件の内、4名から集金しました 1. 60,000円 2. 240,000円 3. 300,000円 4. 30,000円 計 630,000円																
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・同和対策事業に関連して立ち退き等を余儀なくされた地権者への土地販売であることから妥当である。													
		評価結果		改善の余地がややある ・契約者の死亡など解決困難な懸案が残っているが、適正な解決、事業終了を図るべき方策を立てることが有効である。													
	有効性	評価結果		改善の余地がない ・費用の大半が人件費となっているので、早期に事業を終了させることが一番の費用削減になるが内部事情に精通している人員を配置することは適正である。													
		評価結果		改善の余地がない ・費用の大半が人件費となっているので、早期に事業を終了させることが一番の費用削減になるが内部事情に精通している人員を配置することは適正である。													
	効率性	評価結果		改善の余地がない ・費用の大半が人件費となっているので、早期に事業を終了させることが一番の費用削減になるが内部事情に精通している人員を配置することは適正である。													

事務事業の概要	事務事業名		市営住宅使用料等徴収事業				担当課		住宅政策課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		657	
	会計		一般会計								政策目標		4		都市基盤・生活環境			
	予算科目	款	8	土 木 費							施策目標		1		都市基盤整備・公共交通			
		項目	5	住 宅 費							基本施策		1		土地の有効利用と住みよい都市環境の整備			
		目	1	住 宅 費							取組方針		2		市営住宅の長寿命化の推進			
事業概要		市営住宅入居者の公平性を確保し、市営住宅の適正管理を行うために、住宅使用料の適正な徴収を行う事業																
事務事業を構成する細事業		①	住宅管理指導員設置				⑤					⑨						
		②	徴収				⑥					⑩						
		③					⑦					⑪						
		④					⑧					⑫						
指標の実績	活動指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析							
		市営住宅（現年） 収納金額	千円	目標		3,644	3,644	3,453	3,453	3,453	新たな滞納をつくらないように指導する。							
				実績		3,489	3,498	3,397										
		<指標の計算方法>		実績を元に計算														
	活動指標	市営住宅（過年） 収納金額	千円	目標		157	156	174	174	174	新たな滞納をつくらないように指導し、滞納額は分納計画などにより納付してもらう。							
				実績		162	173	242										
		<指標の計算方法>		実績を元に計算														
		活動指標	改良住宅（現年） 収納金額	千円	目標		23,532	23,532	24,195	24,195	24,195	新たな滞納をつくらないように指導する。						
	実績					23,497	23,428	24,132										
	<指標の計算方法>		実績を元に計算															
活動指標	改良住宅（過年） 収納金額		千円	目標		1,946	1,930	1,248	1,248	1,248	新たな滞納をつくらないよう指導し、滞納分は分納計画などにより納付してもらっているが、実績が目標を下回っている。							
		実績			516	1,239	470											
	<指標の計算方法>		実績を元に計算															
	コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳												
				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
4,727														4,727				
事業の実績	①住宅管理指導員設置 ・住宅管理指導員1名を配置して、助言をもらった。																	
	②徴収 ・駐車場使用料 1,729,500円 ・市営住宅使用料 3,639,200円 ・改良住宅使用料 24,602,100円 を徴収しました。																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・公営住宅法第1条の通り、住宅に困窮している低額所得者に住宅を提供しているため妥当である。														
	有効性	評価結果		改善の余地がややある ・他の料金を徴収している部課があるので、連携することも可能である。														
効率性	評価結果		改善の余地がない ・入居者の大半が低額所得者で、収納状況の変化による家賃納付の相談が多いことから、コストを最小限に抑えて運営しており、市が実施することが適正である。															

事務事業の概要	事務事業名		建築指導事業				担当課		住宅政策課		事業区分		ソフト事業					
	会計		一般会計				新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1070	
	予算科目	款	8	土 木 費				長期総合計画体系	政策目標		4	都市基盤・生活環境						
		項	5	住 宅 費					施策目標		1	都市基盤整備・公共交通						
		目	1	住 宅 費					基本施策		1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備						
事業概要		市民に無秩序な建築等が防止された住みよいまちに居住してもらうために、市民（施工事業者）からの建築確認申請等の審査や受付を行なう事業																
事務事業を構成する細事業	①		建築確認審査				⑤						⑨					
	②						⑥						⑩					
	③						⑦						⑪					
	④						⑧						⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	建築確認申請経由進達		件	目標									建築確認申請の審査を的確に行うことで、速やかに経由進達が出来た。民間検査機関へ申請が普及してきたため当市への経由進達数が減少しているとともに、受動的な業務であるため、目標設定することはそぐわない。				
		実績	42		23		15											
		<指標の計算方法>		経由進達件数														
					目標													
		実績																
		<指標の計算方法>																
				目標														
	実績																	
	<指標の計算方法>																	
				目標														
	実績																	
	<指標の計算方法>																	
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳													
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	3,516														3,516			
事業の実績	①建築確認審査 ・建築確認申請等が紀の川市の各種規制に適合しているか審査して、建築主事に経由進達した。																	
	経由進達数15件																	
	また、進達と同等事務内容の民間検査機関からの照会書についても当市の各種規制に適合しているか審査して回答した。																	
	照会書回答215件																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない														
		・建築確認申請内容が、紀の川市各種規制に適合しているか審査し、建築主事に進達する事業である。																
	有効性	評価結果		改善の余地がない														
		・建築主事を補うため、紀の川市各種規制の情報を提供している。																
	効率性	評価結果		改善の余地がない														
・建築主事を補うため、紀の川市各種規制等の情報を提供している。																		

事務事業の概要	事務事業名		住宅耐震化促進事業				担当課		住宅政策課		事業区分	ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	673
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心			
	予算科目	款	8	土 木 費		施策目標			1	防災・防犯				
		項	5	住 宅 費		基本施策			3	災害に強いまちの形成				
目		1	住 宅 費		取組方針	4			住宅耐震化の促進					
事業概要			市民が耐震基準の満たされた住宅に居住できるように、耐震基準を満たさない民間住宅の耐震化の促進と診断、改修に対する補助を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①		木造住宅耐震診断事業				⑤				⑨			
	②		住宅耐震改修事業補助金交付事業				⑥				⑩			
	③		耐震化促進啓発				⑦				⑪			
	④						⑧				⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	木造住宅耐震診断件数	件	目標	60	60	60	60	60	令和6年能登半島地震(最大震度7) 発生の影響もあり、木造耐震診断の申込件数が昨年と比べて約2倍以上となっていることから市民の住宅耐震化への関心が急激に高まったといえる。	
				実績	46	39	82				
				<指標の計算方法>							
	成果指標	住宅耐震改修事業費補助	件	目標	20	20	20	20	20	令和6年能登半島地震(最大震度7) 発生の影響もあり、住宅耐震改修事業補助金(耐震補強設計と耐震改修工事の総合的な実施)に関する問い合わせは増加した。申請件数については、国・県の補助金を活用していることから、目標件数に達することができるよう普及啓発強化に努める。	
				実績	12	10	10				
				<指標の計算方法>							
	活動指標	戸別訪問	件	目標	350	350	350	350	350	県、建築士会との連携を図りながら耐震化についての戸別訪問することで補助制度を利用した耐震化促進に繋げている。今年度については、関係者と日程調整ができず訪問戸数の減少となったため、事前準備(日程調整等)を早める、建築士会との連携強化をすることで住宅耐震化の必要性についての啓発強化に努める。	
				実績	80	110	61				
				<指標の計算方法>							
		件	目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳					
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	15, 513				6, 825	4, 314				4, 374

事業の実績	①木造住宅耐震診断事業 ・県建築士会への委託により、診断士を派遣して、申請者に診断結果を報告した。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														

事務事業の概要	事務事業名				空家等対策事業				担当課		住宅政策課		事業区分		ソフト事業			
	新規・継続				継続		事業期間		単年度繰返し				事業番号		678			
	会計				一般会計				政策目標		4		都市基盤・生活環境					
	予算科目	款	8			土 木 費			施策目標		1		都市基盤整備・公共交通					
		項	5			住 宅 費			基本施策		1		土地の有効利用と住みよい都市環境の整備					
		目	1			住 宅 費			取組方針		3		空き家対策の推進					
	事業概要				空家の倒壊による事故を防ぎ、景観、環境面の保全を図るために、空家所有者に空家の適正管理等を促す事業													
	事務事業を構成する細事業	① 空家等対策協議会運営				⑤						⑨						
		② 空家等指導				⑥						⑩						
		③ 特別措置法に基づく措置				⑦						⑪						
④ 不良空家等除去補助金交付事業				⑧						⑫								
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	空家除却件数	戸	目標	1		1		1		1		1		除却にかかわらず、適切な管理に努める助言・指導を行う。建材の飛散防止などの対応がされている場合もある。			
				実績	0		2		0									
				<指標の計算方法> 危険性の高い空家等の除却件数														
	活動指標	特別措置法に基づく指導件数	件	目標	5		5		3		3		3		特定空家の所有者に対して、特別措置法に基づく段階的な指導を行う。助言・指導3件			
				実績	5		5		3									
				<指標の計算方法> 指導等の件数														
	成果指標	不良空家等除却件数	戸	目標	0		0		10		10		10		当年度より不良空家等除却補助金交付事業を実施。8件の空き家が認定調査を経て、不良空家等に認定され、所有者(権利者含む)からの申請により除却された。			
				実績	0		0		8									
				<指標の計算方法> 不良空家に認定された危険性の高い空き家の除却件数														
			目標															
			実績															
			<指標の計算方法>															
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳													
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	11,669				3,604										8,065			
事業の実績	①空家等対策協議会運営 ・協議会において、特定空家所有者に対する指導状況及び不良空家等除却補助金交付事業に伴う実績件数について報告を行った。 ・空家法改正に伴う改正内容についての説明を行った。																	
	②空家等指導 ・空家等の所有者に対し、対策や除却などの対応をとるように助言・指導を行った。																	
	③特別措置法に基づく措置 ・特定空家の所有者に対して、法に基づく「助言・指導」を行った。																	
事業の事後評価	④不良空家等除却補助金交付事業 ・不良空家に認定された空き家に対して、補助金を交付した。																	
	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・特別措置法に基づく措置等、市が実施主体になることが妥当である。															
		有効性	評価結果	改善の余地がない ・市からの助言で対応に至ることもあるので、行政からの助言・指導は有効的な手段である。														
効率性	評価結果	改善の余地がない ・コスト削減の余地がない。																

事務事業の概要	事務事業名		住宅新築資金等貸付事業				担当課		住宅政策課		事業区分		ソフト事業			
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1217		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	4	都市基盤・生活環境					
	予算科目	款	8		土 木 費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通					
		項	5		住 宅 費				基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備					
目		1		住 宅 費		取組方針			9	その他						
事業概要			歴史的・社会的理由によって、生活環境等の安定向上が阻害されている地域の住環境改善対策の一環として、住宅の改修や住宅新築促進のため、国の施策に基づき市が貸し付けた資金の収納事務を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①		住宅新築資金等貸付				⑤				⑨					
	②						⑥				⑩					
	③						⑦				⑪					
	④						⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析						
	成果指標	住宅新築資金等貸付収納率		%	目標	3	3	3	3	3	残債については債務者の事情により納付が困難な事案への対応が大半を占めている状態である。					
				実績	2.53	2.45	3.22									
	<指標の計算方法>			収納額÷調定額×100												
				目標												
			実績													
	<指標の計算方法>															
				目標												
			実績													
	<指標の計算方法>															
			目標													
		実績														
<指標の計算方法>																
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	4,687						393								4,294	
事業の実績	①住宅新築資金等貸付 ※令和3年度まで住宅新築資金等貸付事業特別会計で実施してきた事業であるが、令和4年度より一般会計で事業を実施している。															
	【内訳】															
	住宅新築資金（国費）収納率 3.19%															
	住宅新築資金（県費）収納率 0.32%															
	宅地取得資金（国費）収納率 4.61%															
住宅改修資金（国費）収納率 0.13%																
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・当該事業は、市町村の負担を軽減し貸付事業の円滑な実施を目的として国と県が財政的な助成を行う制度として昭和42年度から住宅改修資金貸付事業、昭和48年度に宅地取得事業、昭和49年度に住宅新築資金貸付事業が創設され、旧町（那賀町・桃山町・打田町）での貸付事業が運営されて個人への貸付償還事務がされていた。平成17年度の市町村合併後、引続き償還残額が残されている個人に対して回収が続いており、事業を引続き実施することは妥当性がある。														
	有効性	評価結果	改善の余地がややある													
		・適正に債権を管理・回収していく必要があるため、本事業の有効性は高いが、債権回収にかかる事務には非常に高い知識などが必要であるため、会計年度任用職員を含めた職員のスキルアップなどにより有効性を高める必要がある。														
効率性	評価結果	改善の余地がややある														
	・事務経験が豊富な会計年度任用職員の派遣を行うことで、円滑な納付交渉が実現している。 ・今後は、回収困難な債権を整理するため、業務委託も視野に入れながら、債権管理に努めていく必要がある。															

事務事業の概要	事務事業名		市営住宅整備事業				担当課		住宅政策課		事業区分		ハード事業		
							新規・継続		継続	事業期間	期間限定複数年度（R 3 ～ R 8）		事業番号	1165	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	4	都市基盤・生活環境				
	予算科目	款	8	土 木 費					施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		項	5	住 宅 費					基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
目		2	住宅建設費			取組方針			2	市営住宅の長寿命化の推進					
事業概要		耐用年数が過ぎ、耐震基準に適合していない市営住宅については、入居者の安全性が確保できないため市営住宅の建替えを行う事業													
事務事業を構成する細事業	①		市営住宅整備				⑤					⑨			
	②						⑥					⑩			
	③						⑦					⑪			
	④						⑧					⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	市営住宅建設設計業務契約件数	件	目標		1				市営住宅建設 令和5年度 設計 令和6年度 工事着工から、補正後工事 着工へ変更 令和7年度 工事完了から、工事中へ変更 令和8年度 工事完了	
				実績		1					
				<指標の計算方法> 市営住宅建設設計業務契約件数							
	活動指標	市営住宅建設工事の進捗率	%	目標	0	0	10	38	100	当年度工事費について、物価高騰等により補正予算編成した為、それにより工事着工のズレによって当初目標値10%から0%となる。令和6年末から着工中であり令和7年度の減、令和8年度増加予定である。	
				実績	0	0	0				
				<指標の計算方法> 市営住宅建設工事の出来高率							
				目標							
				実績							
				<指標の計算方法>							
			目標								
			実績								
			<指標の計算方法>								

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	21, 881									21, 881

事業の実績	①市営住宅整備 ・市営住宅建設工事工事請負 契約金額：1, 537, 800, 000円 令和6年度 出来高 0% 令和7年度 出来高 38% 令和8年度 出来高 100% ・市営住宅建設工事に伴う附帯工事 契約金額：805万2千円									

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市営住宅建設は、耐震性のない住宅の建替えであり、入居者の安全性を確保することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・耐震性のない市営住宅を整備することにより、入居者が住み替えることで安全性が上がることから有効である。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・市営住宅を集約することにより維持管理業務の効率化及び建築の知識などがある専門職員を配置することで、経費削減を図ることができる。											

事務事業の概要	事務事業名				危機管理対策事業				担当課		危機管理消防課			事業区分		ソフト事業												
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		946									
	会計				一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心													
	予算科目				款		9				消 防 費		施策目標		1		防災・防犯											
					項		1				消 防 費		基本施策		1		地域防災力の向上											
				目		1		消防総務費		取組方針		3		行政の防災対応力の強化														
事業概要				市の危機発生時における防災力の強化につなげるために、市民、職員、協力機関が災害に備えて防災体制の整備を行う事業																								
事務事業を構成する細事業				① 防災会議運営				⑤ 災害時応援協定				⑨																
				② 国民保護協議会運営				⑥ 職員防災力強化				⑩																
				③ 災害対策本部運営				⑦ 県総合防災情報システム運営負担金				⑪																
				④ 地域防災計画・ハザードマップ管理				⑧ 県防災ヘリコプター運航連絡協議会負担金				⑫																
指標の実績	指標名			単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析												
	活動指標	職員避難所開設等訓練			回	目標	3		3		3		3		3		R6. 5. 17 新規採用職員防災研修 R6. 11. 10 紀の川市防災総合訓練 R7. 3. 17 総合防災支援システム操作研修											
		実績				2		3		3																		
		<指標の計算方法> 避難所の開設運営に係る職員の訓練等の回数																										
	成果指標	災害協定締結件数			件	目標	45		50		61		63		65		各種団体や事業者等と災害協定を順次締結しており、年々協定数は増加している。											
		実績				48		59		61																		
		<指標の計算方法> 協定件数（累計）																										
	成果指標	職員防災訓練回数			回	目標	25		25		25		25		25		国県市他が各自訓練を開催している。年度によって開催回数は増減するが、システム操作等を熟練するために、職員の参加が必要である。											
		実績				26		22		22																		
		<指標の計算方法> 職員が参加した訓練等の回数																										
				目標																								
				実績																								
<指標の計算方法>																												
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																							
					国庫支出金				県支出金				地方債				繰入金				その他				一般財源			
	72, 031												50, 900												21, 131			
事業の実績	① 防災会議運営 ・ 3月7日実施(委員29人出席)				・ 伴い、市地域防災計画にも反映 ・ ハザードマップ（30,000部）作成								・ 県防災システム(震度情報ネットワークシステム含む) 823,770円 ・ きのくにe-ねっと 307,824円															
	② 国民保護協議会運営 ・ 市国民保護計画の修正なしのため開催なし				⑤ 災害時応援協定 ・ 災害発生時の各種協定の締結により2団体増加								⑧ 県防災ヘリコプター運航連絡協議会負担金 6,522,895円															
	③ 災害対策本部運営 ・ 8月8日災害対策本部設置 配備体制1号 1回 ・ 総合防災支援システム開発委託料 41,734,000円 迅速な災害対応を可能とする新たな防災支援システムを導入 ・ 冠水監視ライブカメラ設置工事 9,087,100円 迅速な災害対応を行うため、重要水防箇所（桃山町調月・貴志川町丸栖・貴志川町前田）に各1台（計3台）設置				⑥ 職員防災力強化 ・ 国：Jアラートテスト実行7回、Jアラート情報伝達訓練3回、Jアラート緊急地震速報訓練2回、大滝ダム管理演習1回 ・ 県：物資調達・輸送調整等支援システム訓練2回、孤立集落通信訓練1回、非常通信訓練(那賀振興局)1回、 ・ 市：防災総合訓練1回、新規採用職員研修訓練1回、情報伝達訓練1回、総合防災支援システム操作研修1回 ・ その他：無線訓練(岩出警察署)1回																							
	④ 地域防災計画・ハザードマップ管理 ・ 水防法、災害対策基本法施行令等の改正に				⑦ 県総合防災情報システム運営負担金																							
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・ 防災の観点から必要不可欠な事業である。																								
	有効性	評価結果		改善の余地がややある ・ 災害が発生した場合に効果は検証できるが、他の事業と比べて非常に検証しづらい。他自治体等における検証方法を参考にするなどして、今後、検証の精緻化に努めたい。																								
効率性	評価結果		改善の余地がややある ・ 災害対策本部運営について、導入した総合防災支援システムの利用による効率化の検証を行う必要がある。																									

事務事業の概要	事務事業名		地域防災力強化事業				担当課		危機管理消防課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	644				
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心							
	予算科目	款	9	消 防 費		施策目標			1	防災・防犯								
		項	1	消 防 費		基本施策			1	地域防災力の向上								
目		1	消防総務費		取組方針	1			防災意識の啓発、普及									
事業概要		市民、自治区の防災意識の向上と地域防災力の向上につなげるために、防災に関する啓発や訓練の支援、または、資機材整備の補助を行う事業																
事務事業を構成する細事業		① 防災総合訓練				⑤ 防災ボランティア活動負担金				⑨								
		② 小学生防災教室				⑥ 防災ボランティア活動補助金				⑩								
		③ 防災啓発研修会				⑦ 自主防災組織育成事業補助金				⑪								
		④ 防災リーダー会				⑧ 自主防災組織の研修及び訓練				⑫								
指標の実績	成果指標		指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
			自主防災組織率（世帯割）		%	目標	100		100		100		100		100			
						実績	88.2		88.3		87.3							
	<指標の計算方法>		自主防災組織設立自治区世帯数÷全自治区世帯数×100															
	成果指標		市や地域での防災訓練への参加者数		人	目標	5,000		5,000		5,000		5,000		5,000		令和5年度は各避難所での分散型の訓練であったが、令和6年度は一会場集約型で実施した為、警察や消防組合等関係機関や団体等からの参加により増加した。	
						実績	1,148		1,372		1,624							
			<指標の計算方法>		防災総合訓練への参加者数													
	成果指標		自主防災組織の活動に参加している市民の割合		%	目標	50		50		50		50		50		令和6年度は一会場集約型の防災訓練の実施に加え地域の研修についても多く開催された。また、災害発生件数が数多くあるため地域の防災意識が向上されていることがわかる。	
						実績	9.6		11.1		20							
			<指標の計算方法>		市民意識調査でお住まいの地域における防災研修や防災訓練に「参加している」と回答した市民の割合													
成果指標		水や食料などを備蓄している市民の割合		%	目標	70		70		70		70		70		市民が参加する訓練や研修の都度、備蓄啓発に取り組むほか、能登半島地震や南海トラフ地震臨時情報の発表などにより、市民の防災意識が向上し、増加したものと考える。		
					実績	52.4		45		57.4								
		<指標の計算方法>		市民意識調査で「一週間分以上の備蓄をしている」「3日分程度の備蓄をしている」と回答した市民の割合														
コストの実績	R 6年度決算額（単位：千円）					財源内訳												
						国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
	6,439															6,439		
事業の実績	①防災総合訓練 令和6年度(第14回)紀の川市防災総合訓練の実施…1,624名参加 内訳:自主防災組織・自治区(751名)、消防団(312名)、行政機関等(310名)、防災リーダー会(11名)、市職員関係(162名)、民間団体(33名)、実行委員会(45名)																	
	②小学生防災教室 市内5校(4～6年生児童)…414名参加 各小学校単位で家庭や地域の防災につなげることを目的として、対象校の体育館等において、3つのコーナーを設け防災啓発を行った。実施後は、参加者及び関係教職員に対しアンケートを実施した。																	
	③防災啓発研修会 研修回数… 23回、参加者 700名 訓練回数… 17回、参加者 826名 合計 … 40回、参加者1,526名																	
事業の事後評価	妥当性	④防災リーダー会 総会1回・役員会…3回 研修…2回 県外研修…0回 補助金…23,000円																
		⑤防災ボランティア活動負担金 3団体(93名)の防災ボランティア活動保険加入																
	有効性	⑥防災ボランティア活動補助金 打田福祉防災ボランティア会…77,000円 粉河福祉防災ボランティア会…77,000円 那賀福祉防災ボランティア会…106,000円 桃山福祉防災ボランティア会…130,000円 貴志川福祉防災ボランティア会…81,000円																
効率性		⑦自主防災組織育成事業補助金 30組織…2,614,100円																
	評価結果	改善の余地がない																
・自主防災組織を中心に市民が主体となり訓練研修を行えるよう市が防災の啓発推進を行うことは妥当である。																		
評価結果	改善の余地がややある																	
	・市職員よりも専門的な知識を持つ那賀消防組合との連携が取れている。今後は、地域の主体的な取り組みについても推進していく必要がある。																	
評価結果	改善の余地がややある																	
	・自主防災組織の訓練時に消防団や那賀消防組合等の専門的知識を有する団体や機関等と連携し、効率的に地域の防災力向上を図る。																	

事務事業の概要	事務事業名		家具転倒防止対策促進事業				担当課		危機管理消防課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1005	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心					
	予算科目		款		9				消防費		施策目標		1		防災・防犯			
			項		1				消防費		基本施策		1		地域防災力の向上			
		目		1		消防総務費		取組方針		1		防災意識の啓発、普及						
事業概要		市民の災害発生時の被害を軽減するために、家具転倒防止対策に支援を行う事業																
事務事業を構成する細事業		① 金具取付委託				⑤				⑨								
		②				⑥				⑩								
		③				⑦				⑪								
		④				⑧				⑫								

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	活動指標	家具転倒防止金具取付支援事業	件	目標	30	45	45	50	55	南海トラフ地震臨時情報の発表後、すぐに市公式LINEやメール配信サービスにより周知するなど適時的確な広報に努めた結果、予定の家具固定数（135台）に達した。		
				実績	31	47	46					
	<指標の計算方法>		申請件数									
	成果指標	家具固定を行っている市民の割合	%	目標	50	50	50	50	55	市の広報や能登半島地震や南海トラフ地震臨時情報の発表などにより市民の防災意識の高まりにより、家具固定の有効性について、少しずつではあるが、市民に浸透してきているものとする。		
				実績	29.6	28.4	38.7					
	<指標の計算方法>		市民意識調査で「固定している」「固定が必要な家具類がない」と回答した市民の割合									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
		2,930		1,460				1,470

事業の実績	①金具取付委託 ・1申請あたり家具等3台を上限に金具取付 ・46世帯実施															

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・家具転倒防止については、個人や各家庭で出来る有効な防災対策ではあるが、高齢者世帯や要配慮者のいる世帯では、個人による対策が難しい状況にあると思われるため、市が支援を行う必要がある。														
	有効性	評価結果	改善の余地がややある													
		・能登半島地震の影響等により自主防災組織やその他団体からの防災訓練や研修への職員派遣依頼が増加しており、同時に啓発を行う機会も増えたことで、家具固定の有効性を理解する世帯は増加しつつある。 ・今後も継続して家具固定の有効性の周知を図ることで、補助対象以外の市民の防災意識の向上につながることは有効であるとする。														
	効率性	評価結果	改善の余地がややある													
・取付業者と申請者間での取付日程の調整等で、取付完了までの時間を要する場合がある。迅速な工事対応ができるよう働きかける。																

事務事業の概要	事務事業名			消防防火対策事業			担当課		危機管理消防課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		647	
	会計			一般会計					政策目標		1		安全・安心					
	予算科目	款	9	消 防 費					施策目標		1		防災・防犯					
		項	1	消 防 費					基本施策		2		効率的で効果的な消防体制の整備					
		目	1	消防総務費					取組方針		2		火災予防対策の推進					
	事業概要			市民の防火意識の向上と防火体制の強化を図るために、協力機関・団体へ補助等の支援や運営を行う事業														
	事務事業を構成する細事業	① 消防防火対策業務			⑤						⑨							
		② 阪和林野消防協議会負担金			⑥						⑩							
		③ 消防協会負担金			⑦						⑪							
④ 女性防火クラブ補助金			⑧						⑫									
指標の実績	指標名			単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析							
	活動指標	地区研修等活動数	回	目標		30	30	30	30	30	数値としては昨年度より活動数は減少している。しかし実情としては昨年度複数回活動を行っていた団体が活動数を縮小させた一方で、活動実施団体数は増加している。							
				実績		8	23	18										
		<指標の計算方法>			年間活動数													
	活動指標	市主催行事開催数	回	目標		4	4	4	4	4	昨年度と行事開催数は同じ回数であるが、計画していた救命講習会が日程の都合上、開催出来なかったため、目標の回数を達成できなかった。							
				実績		1	3	3										
		<指標の計算方法>			年間開催数													
	活動指標	女性防火クラブ活動補助金申請地区数	地区	目標		35	35	34	34	34	新型コロナウイルス感染症の5類移行後、各地区での防火・防災訓練及び研修、救命講習等は定期的に実施できる体制に戻りつつあるため、増加傾向にある。							
				実績		12	16	22										
		<指標の計算方法>			申請地区数													
成果指標	活動への参加者数	人	目標		800	800	800	800	800	新型コロナウイルス感染症の5類移行後、各地区での防火・防災訓練及び研修、救命講習等は定期的に実施できる体制に戻りつつあるため、参加者数も増加傾向にある。								
			実績		219	327	407											
	<指標の計算方法>			参加者数														
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳													
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	2,009						126						600		1,283			
事業の実績	①消防防火対策業務 ・消防大学校 消防団活性化推進コース 受講1名 ・無人航空機操縦者技能証明二等 受講1名 ・防火防災訓練用資機材整備 734,140円 ②阪和林野消防協議会負担金 15,000円 ③消防協会負担金 650,256円 ④女性防火クラブ補助金 22地区 196,050円 <女性防火クラブ地区研修訓練> ・地区研修訓練回数 (18回) <女性防火クラブ活動実績> 【市主催行事】 ・6/27 令和6年度紀の川市女性防火クラブ 連絡協議会総会開催 ・8/18 紀の川市民まつり (啓発活動) ・11/10 紀の川市防災総合訓練 ・1/12 那賀消防組合出初式 (啓発活動) 計4回 <活動への参加者数> ◆地区活動参加数 347人 ◆協議会活動参加数 60人 計407人																	
	妥当性	評価結果 改善の余地がない ・女性防火クラブには、公的な法令はないが、家庭の防火をはじめ、防火・防災のため幅広い実践活動や、災害時の後方支援活動等を行うことができ、地域住民の生命・身体及び財産を守るための事業であることから、市が実施することは妥当である。																
	有効性	評価結果 改善の余地がややある ・防火・防災訓練及び研修、救命講習等は定期的に実施できる体制に戻りつつある。専門知識や技能を持った那賀消防組合と連携を図り充実した研修等になるよう計画していくことが必要と考える。また、自主防災組織等との連携や働きかけにより、活動を市内全域に広げられるような仕組みの検討を行う必要がある。																
	効率性	評価結果 改善の余地がややある ・高齢化、人口減少に伴い、会員確保や地域単位のクラブの結成やクラブを統合するなど、紀の川市全体としての女性防火クラブ運営ができるように検討する必要がある。																

事務事業の概要	事務事業名		ハザードマップ更新事業				担当課		危機管理消防課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度のみ		事業番号	1091	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心				
	予算科目	款	9	消 防 費					施策目標	1	防災・防犯				
		項	1	消 防 費					基本施策	1	地域防災力の向上				
目		1	消防総務費						取組方針	1	防災意識の啓発、普及				
事業概要		ハザードマップを見直された浸水想定区域や土砂災害警戒区域の情報に更新し、市民に対して危険箇所を注意喚起する事業													
事務事業を構成する細事業	①		ハザードマップ更新業務				⑤				⑨				
	②		防災啓発業務				⑥				⑩				
	③						⑦				⑪				
	④						⑧				⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析				
	活動指標	ハザードマップ更新業務	部	目標			30,000			ハザードマップを30,000部作成することで、全世帯及び今後約3年間の転入世帯に配布することが可能となる。				
				実績			30,000							
		<指標の計算方法>		ハザードマップの作成部数										
	活動指標	防災啓発業務	世帯	目標						ハザードマップの市内全戸配布について、都市下水路の内水ハザードマップを急遽、冊子に盛り込んだため、納期が遅れ、翌年度へ繰り越した。				
				実績										
		<指標の計算方法>		市内各戸配布数										
				目標										
				実績										
		<指標の計算方法>												
		目標												
		実績												
	<指標の計算方法>													

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	5,236			1,745	1,745					1,746

事業の実績	①ハザードマップ更新業務 ・浸水想定区域、土砂災害警戒区域等や避難場所等の最新情報を反映。 ・1/15,000に縮尺統一。 ・見やすく、わかりやすく、色合いを工夫。									
	②防災啓発業務 ・令和7年5月上旬、全世帯に配布。									

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・ハザードマップは、より新しく精度が高い内容のデータに更新したものを配布することで、市民の危機意識の向上に繋がるため、ハザードマップを更新して周知する必要がある。														
	有効性	評価結果	改善の余地がない													
		・ハザードマップを最新情報に更新、冊子を作成し、全世帯及び今後転入する世帯に配布することで、高齢者等アナログ世代へも周知徹底することができ、防災意識の向上に繋がる。														
	効率性	評価結果	改善の余地がない													
		・ハザードマップの更新・作成について、ノウハウのある業者へ委託することで市民にとって分かりやすいものを作成することが出来た。														

事務事業の概要	事務事業名		那賀消防組合事業				担当課		危機管理消防課		事業区分		一部事務組合			
			新規・継続				継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		106	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心			
	予算科目	款	9		消 防 費				施策目標		1		防災・防犯			
		項	1		消 防 費				基本施策		2		効率的で効果的な消防体制の整備			
目		2		常備消防費				取組方針		3		消防・救急・救助体制の充実				
事業概要		市民に安全、安心な消防、救急体制を提供するために、那賀消防組合の運営に参画する事業														
事務事業を構成する細事業	①		消防指令車等更新				⑤						⑨			
	②		消防組合職員確保				⑥						⑩			
	③						⑦						⑪			
	④						⑧						⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	消防指令車等更新		台	目標	1	2	4	4	4	緊急自動車購入計画に従い、令和6年度は3台の更新を行った。 ※1台繰越（令和7年度7月納車）
		実績			1	4	3				
		<指標の計算方法>		更新台数							
	活動指標	消防組合職員確保		人	目標	128	128	130	132	132	令和6年度は、新規5名を採用、退職者2名により、目標を達成できた。
		実績			128	127	130				
		<指標の計算方法>		職員人数							
	成果指標	消防、救急体制に対して満足と感じている市民の割合		%	目標	70	70	70	70	70	地域の消防訓練指導や、火災想定訓練等を実施・啓発したことにより、令和5年度より実績が上がった。
		実績			45	37.2	44.7				
		<指標の計算方法>		市民意識調査で「満足」「まあ満足」と回答した市民の割合							
				目標							
				実績							
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
718, 441						8, 400			710, 041

事業の実績	①消防指令車等更新 ・緊急車両等 3台 (参考) 保有車両台数 43台								
	②消防組合職員確保 職員数 130名（うち新規採用5名） (参考) 出動回数 (うち紀の川市) 火災 43回 (29回) 救助 123回 (70回) 警戒等 403回 (183回) 救急 6, 142回 (3, 391回)								

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・市民の生命財産を災害等から守るために、一部事務組合への負担金を負担し、事業経営に参画することは妥当である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がない													
・一部事務組合への負担金を負担し、一部事務組合において車両の更新や職員数を計画的に確保することは、多様化する災害に迅速・的確に対応ができ、市民の生命財産を守ることに直結する。																
効率性	評価結果	改善の余地がない														
	・広域的に紀の川市と岩出市が連携し、一部事務組合を運営することは効率的である。															

事務事業の概要	事務事業名		消防団運営事業				担当課		危機管理消防課			事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	107	
	会計		一般会計						政策目標	1	安全・安心					
	予算科目	款	9	消 防 費						施策目標	1	防災・防犯				
		項目	1	消 防 費						基本施策	2	効率的で効果的な消防体制の整備				
			3	非常備消防費						取組方針	1	持続可能な消防団体制の構築				
事業概要			消防団員の消防力を強化するために、消防団員に研修や訓練の実施、装備品の充実、福利厚生を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①		消防委員会運営				⑤		消防団員報酬・福利厚生			⑨				
	②		消防団活動				⑥		消防団活動補助金			⑩				
	③		消防団出初式・訓練				⑦					⑪				
	④		ポンプ操法大会参加				⑧					⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	消防団員数	人	目標	220	220	220	220	220	市の人口が減少、消防団員数も減少傾向にあるが、全国の減少率と比較して現状維持できている。	
				実績	221	222	219				
		<指標の計算方法>		紀の川市の人口1万人あたりの消防団員数（全国と比較）							
	活動指標	消防団活動回数	回	目標	50	50	50	50	80	新型コロナウイルス感染症拡大によって、活動回数が大幅に減少していたが、令和6年度は以前の水準にまで回復している。また、和歌山県消防操法大会の開催年だったことから活動回数が増加した。	
				実績	82	57	110				
		<指標の計算方法>		訓練、会議等の回数							
	活動指標	女性分団活動回数	回	目標	30	30	30	30	30	例年と同じ水準で活動が実施されている。全国女性消防団員活性化大会にて啓発劇を発表するなど、活動の幅を広げている。	
				実績	32	69	42				
		<指標の計算方法>		訓練及び指導、会議等の回数							
成果指標	消防団活動が地域の防災力向上に貢献していると感じている市民の割合	%	目標	100	100	100	100	100	市民意識調査で地域防災力に貢献していると感じている市民の割合は65%前後を維持しており、消防団活動への理解が深まっている。		
			実績	66.6	69.1	67.7					
	<指標の計算方法>		市民意識調査で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合								

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	159,599						37,085	122,514

事業の実績	①消防委員会運営 消防委員会開催 4/26, 12/17 消防委員会委員報酬（154,000円）		※出勤報酬の拡充 ・消防団員出勤報酬（2,340,000円） ・消防団員退職報償金（37,085,000円） 【福利厚生】 ・消防団応援の店事業委託料（1,171,813円） ・消防団員公務災害補償掛金負担金（2,673,300円） ・消防団員退職報償金掛金負担金（27,014,400円） ・消防団員福祉共済掛金負担金（4,221,000円） ・消防作業従事者掛金（117,632円）			
	②消防団活動 訓練、会議等の回数 110回					
	③消防団出初式・訓練 年末特別警戒12/28～30 消防団出初式1/5 火災・風雪水害・捜索活動 その他会議・方面隊会議					
	④ポンプ操法大会参加 第30回和歌山県消防操法大会 7/28					
	⑤消防団員報酬・福利厚生 【報酬】 ・消防団員年額報酬（49,174,020円）		⑥消防団活動補助金（12,050,178円） 本部、方面隊（5）、分団（23） 捜索活動・消防学校入校補助・操法大会等			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・消防組織法に基づき消防団を設置し、住民の身体及び財産を守るための事業であり、市が実施することは妥当である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
		・災害対策の一翼を担う消防団組織を維持・拡充していくことは有効性がある。常備消防と連携し消防力向上を図る。		
	効率性	評価結果	改善の余地がややある	
・専門的な知識を持つ常備消防職員の関与を増やしていくことで、消防防災力強化の取組みを導入できる体制を整える。				

事務事業の概要	事務事業名			消防施設管理事業				担当課		危機管理消防課			事業区分		ソフト事業																			
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		637																
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心																				
	予算科目			款		9				消防費		施策目標		1		防災・防犯																		
				項		1				消防費		基本施策		2		効率的で効果的な消防体制の整備																		
			目		4		消防施設費		取組方針		4		消防施設の計画的な整備																					
事業概要			消防団、那賀消防組合が円滑に消火活動を行えるように、消防施設の維持管理を適切に行う事業																															
事務事業を構成する細事業			① 消防器具庫管理				⑤								⑨																			
			② 防火水槽管理				⑥								⑩																			
			③ 小型動力ポンプ付積載車管理				⑦								⑪																			
			④ 消火栓管理				⑧								⑫																			
指標の実績	指標名			単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析																		
	活動指標	消防器具庫修繕箇所	箇所	目標		1		1		10		10		10		過年度に要望があった修繕等も完了し、今年度緊急にであった修繕等も持ち越さなく対応できている。 ※令和6年度より規模の大きい修繕以外も目標・実績に含める。																		
				実績		1		1		16																								
				<指標の計算方法> 修繕箇所数																														
	活動指標	防火水槽修繕箇所	箇所	目標		3		3		3		3		3		過年度に要望があった修繕等も完了し、今年度緊急にであった修繕等も即対応できるもの、予算要求必要なものと分けることができる。																		
				実績		2		7		9																								
				<指標の計算方法> 修繕箇所数																														
	活動指標	小型動力ポンプ積載車点検修繕台数	台	目標		124		124		123		123		123		消防団本部の指令車、消防団各部の積載車の車検や点検、修繕を漏れなく実施している。																		
				実績		124		124		123																								
				<指標の計算方法> 必要台数																														
活動指標	消火栓修繕箇所	箇所	目標		1		4		4		4		4		消火栓の漏水や、消火栓ボックスのがたつき等、発見、連絡があり次第対応している。																			
			実績		8		4		5																									
			<指標の計算方法> 修繕箇所数																															
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																													
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源																			
	32,520														32,520																			
事業の実績	①消防器具庫管理 ・整備（修繕） 1箇所（名手市場） ・器具庫シャッター 4箇所（調月東部・粉河栄町・北中・豊田） ・器具庫舗装 2箇所（窪・五百谷） ・設備 9箇所（貴志川町尼寺（2箇所）・貴志川町長原北鳥居・貴志川町神戸（3箇所）・貴志川町北・赤尾・中山） ・撤去 2箇所（切畑・貴志川北山） ②防火水槽管理 ・修繕 9箇所（荒見・上鞆淵（2箇所）・野上・馬宿（2箇所）・下鞆淵（2箇所）・貴志川町岸宮） ・撤去 1箇所（竹房）																	③小型動力ポンプ付積載車管理 123台 ④消火栓管理 ・取替修繕 4箇所（貴志川町前田・貴志川町尼寺・貴志川町長山・粉河） ・漏水修繕 1箇所（名手下）																
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																														
		・火災や災害等有事の際に使えるければ意味のない施設を多く管理しているので、要望があれば緊急性が高いか低いかを判断し、対応にあたっている。																																
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																														
		・修繕は予定しているものより、突発的なものが多いため、当初予定していた計画よりは毎年多くの修繕を行うことが多い。 ・職員の能力開発という部分では、事務的な処理能力は修繕の数が多ければ身につくが、技術職に必要な知識はなかなか身につけることは難しい。																																
効率性	評価結果		改善の余地がややある																															
	・技術職ならばもっとコスト面を削減することは可能かもしれないが、技術職ではない事務職ではコスト面の削減は難しい部分があるので、公共施設マネジメント課営繕班に積極的に支援を受け実施している。																																	

事務事業の概要	事務事業名		消防施設整備事業				担当課		危機管理消防課		事業区分		ハード事業			
							新規・継続		継続	事業期間		単年度繰返し		事業番号	108	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1	安全・安心				
	予算科目	款	9		消 防 費				施策目標		1	防災・防犯				
		項目	1		消 防 費				基本施策		2	効率的で効果的な消防体制の整備				
		目	4		消防施設費		取組方針		4	消防施設の計画的な整備						
事業概要			消防団、那賀消防組合が円滑に消火活動を行えるように、消防施設の整備を計画的に行う事業													
事務事業を構成する細事業			① 消防器具庫整備		⑤				⑨							
			② 防火水槽整備		⑥				⑩							
			③ 小型動力ポンプ付積載車整備		⑦				⑪							
			④ 消火栓整備		⑧				⑫							
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
	活動指標	消防器具庫新築件数	棟	目標	2		1		1		2		1		消防器具庫建築は、計画どおり実施できている。	
				実績	2		1		1							
		<指標の計算方法>		新築件数												
	活動指標	防火水槽新設基数	基	目標	3		2		2		5		1		防火水槽の新規建設は、計画どおり実施できている。	
				実績	2		1		2							
		<指標の計算方法>		新設基数												
	活動指標	積載車購入台数	台	目標	5		5		5		5		5		小型動力ポンプ付積載車は、計画どおり更新できている。	
				実績	5		5		5							
		<指標の計算方法>		購入台数												
				目標												
				実績												
<指標の計算方法>																
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	74,220								71,900				532		1,788	
事業の実績	①消防器具庫整備 貴志川町北消防器具庫 ※消防団本部器具庫駐車場整備															
	②防火水槽整備 西脇防火水槽 貴志川町尼寺防火水槽															
	③小型動力ポンプ付積載車整備 小型動力ポンプ付積載車 5台															
	④消火栓整備 自治区要望取り下げにより、整備箇所なし															
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・火災、災害時等による被害を最小限にとどめ、活動の拠点となる施設を設置することで地域防災力の強化につながるため妥当である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がない													
		・地域の消防活動、災害時における活動拠点となる施設整備であるため計画的な整備が必要である。														
効率性	評価結果	改善の余地がややある														
	・建築工事については、技術職員の採用など建築工事の専門知識を持った人材を用いることで効率性が高まる。															

事務事業の概要	事務事業名			防災施設管理運営事業				担当課		危機管理消防課		事業区分		ソフト事業								
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		639				
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心								
	予算科目			款		9				消 防 費		施策目標		1		防災・防犯						
				項		1				消 防 費		基本施策		1		地域防災力の向上						
目				4		消防施設費				取組方針		2		防災施設などの計画的な整備								
事業概要			市民の災害発生時の被害を軽減するために、防災施設の計画的な整備や適切な維持管理を行う事業																			
事務事業を構成する細事業			① 備蓄物資管理				⑤								⑨							
			② 資機材整備管理				⑥								⑩							
			③ 防災行政無線管理運営				⑦								⑪							
			④ 戸別受信機設置				⑧								⑫							

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	備蓄食糧（アルファ米・パン）	%	目標	84	100	100	100	100	三連動地震の被災者想定4,500人。1人1日3食として3日分を計画。目標が達成しているため今後はそれぞれの期限等を確認しつつ維持する必要がある。	
				実績	81	100	100				
		<指標の計算方法>		保有数合計÷（4,500人×3食×3日分）							
	活動指標	備蓄水	%	目標	81	100	100	100	100	三連動地震の被災者想定4,500人。1人1日30として3日分を計画。500mlペットボトルで保管。目標が達成しているため今後はそれぞれの期限等を確認しつつ維持する必要がある。	
				実績	76	100	100				
		<指標の計算方法>		保有本数合計÷（4,500人×6本×3日分）							
	活動指標	備蓄携帯トイレ	%	目標	100	100	100	100	100	三連動地震の被災者想定4,500人。1人1日5回の排泄として3日分。5個入りパックで保管。目標が達成しているため今後はそれぞれの期限等を確認しつつ維持する必要がある。	
				実績	100	100	100				
		<指標の計算方法>		保有数合計÷（4,500人×3日分）							
			目標								
		実績									
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	38,726			4,765				33,961

事業の実績	①備蓄物資管理						
	保存水	480本					
	アルファ米	4,750食					
	備蓄パン	3,800本					
事業の実績	②資機材整備管理						
	AED付属消耗品取替	25箇所					
	市管理のAEDに目隠し用三角巾を配備	95箇所					
事業の実績	③防災行政無線管理運営						
	保守管理	親局1局、操作卓6台、中継局2局、簡易中継局3局、再送信局14局、子局268局					
事業の実績	④戸別受信機設置						
	5台						
	全て、障害（聴覚・肢体不自由）のある方への貸出						

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・防災の観点から必要不可欠な事業である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
		・指標項目については目標を達成したが、計画的に備蓄量を維持しつつ、新たな必要物資について検討し配備を進める。ただし、災害時に緊急の使用や破損等によって目標達成が困難となる場合がある。		
効率性	評価結果	改善の余地がややある		
	・備蓄物資の保管場所が多く、品数も増えつつある中、消費期限等による物資の更新などを適正に実施する為に外部委託を含め、効率化を図る必要がある。			

事務事業の概要	事務事業名			水防事業				担当課		危機管理消防課			事業区分		ソフト事業				
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		109	
	会計			一般会計						政策目標		1		安全・安心					
	予算科目	款	9	消 防 費				長期総合計画体系		施策目標		1		防災・防犯					
		項	1	消 防 費						基本施策		3		災害に強いまちの形成					
		目	5	水 防 費						取組方針		1		治水・排水対策の推進					
	事業概要			市民の水害による被害を抑制するために、排水機場等の維持管理や運営を行う事業															
	事務事業を構成する細事業			① 水防計画管理				⑤ 水防活動				⑨							
				② 樋門・排水機場操作委託				⑥				⑩							
				③ 排水機場施設管理				⑦				⑪							
④ 水防資機材管理				⑧				⑫											
指標の実績	指標名			単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析								
	活動指標	水防訓練・講習会	回	目標		4	4	4	4	4	水防訓練、講習会は継続的に実施できている。								
				実績		4	4	4											
				<指標の計算方法>					水防訓練・講習会実績										
	活動指標	排水機場保守点検実施	回	目標		7	7	8	10	10	保守点検については出水期前に7箇所すべて実施できている。 ※東貴志排水機場については、引渡し後に実施。								
				実績		7	7	8											
				<指標の計算方法>					実績箇所数										
	活動指標	樋門・排水機場修繕実施	回	目標		20	20	20	20	20	樋門、排水機場の修繕については、老朽化や被災により増減はあるが、緊急性の高いものから随時実施できている。								
				実績		14	17	14											
				<指標の計算方法>					修繕実施回数										
成果指標	水防訓練・講習会参加者数	人	目標		112	112	112	112	112	参加者数は、昨年度より増加した。 講習会（樋門操作要領・避難要領等）・一斉操作訓練（開閉操作・情報伝達訓練）を行い、有事に備える事ができた。									
			実績		112	103	108												
			<指標の計算方法>					水防訓練・講習会参加実績											
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	93, 876				15, 890		3, 855								74, 131				
事業の実績	①水防計画管理 地域防災計画の基本方針の確定及び校正を行った。																		
	②樋門・排水機場操作委託 委託契約を行い講習会・訓練・毎月の施設点検・河川水位上昇による出動																		
	③排水機場施設管理 委託契約を行い講習会・訓練・毎月の施設点検・河川水位上昇による出動																		
	④水防資機材管理 出水期に点検・管理を行う。																		
	⑤水防活動 樋門操作員出動（自宅待機要請含む）回数 4回																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がややある															
		・水害を警戒し、被害を軽減させることで、公共の安全性を保持することを目的とし、市が水防施設を管理し、樋門操作員に施設点検、水防活動を行ってもらうことは妥当であり、併せて市の管理体制の強化が必要である。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がややある															
		・大雨や増水による出水期は、被害が発生することがあるが、水防施設の維持管理及び水防出動により被害を防止または軽減できている。 ・雨水量が想定以上の場合に備え、浸水被害の軽減・抑制につながる対策が必要である。																	
	効率性	評価結果		改善の余地がややある															
		・随時修繕を行い、また保守点検による不具合箇所の改善を行っている。機械が老朽化しているので、設備の改修や入替等の対策が必要である。																	

事務事業の概要	事務事業名		教育委員会運営事業				担当課		教育総務課			事業区分		内部管理事業	
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	110
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	99	*****				
	予算科目	款	10 教 育 費						施策目標	99	*****				
		項	1 教育総務費						基本施策	99	*****				
目		1 教育委員会費				取組方針			9	その他					
事業概要			教育委員会が効率的、効果的な教育行政を進めるために、教育委員、市長、関係者が教育行政における重要課題や方針について、検討や協議を行う事業												
事務事業を構成する細事業	① 教育委員会運営		⑤							⑨					
	② 総合教育会議運営		⑥							⑩					
	③ 外部評価		⑦							⑪					
	④ 市町村教育委員会連絡協議会負担金		⑧							⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	教育委員会定例会・臨時会への上程議案・報告事項・その他件数	件	目標						教育委員会定例会・臨時会において審議及び協議された件数 議案39件、報告事項38件、その他21件	
				実績	83	80	98				
				<指標の計算方法> 教育委員会定例会・臨時会への上程議案・報告事項・その他件数							
	活動指標	学校訪問・かけはし訪問の日数	日	目標						教育委員の学校訪問・かけはし訪問日数 学校訪問21日、かけはし訪問21日	
				実績	44	42	42				
				<指標の計算方法> 学校訪問・かけはし訪問の日数							
	活動指標	教育委員会定例会・臨時会議決案件数	件	目標						定例会38件、臨時会1件	
				実績	41	30	39				
				<指標の計算方法> 教育委員会定例会・臨時会での議決案件数							
活動指標	総合教育会議の議題件数	件	目標						市長と教育委員会が連携を図りつつ、より一層教育行政を推進していくため開催するが、令和6年度に至っては、直ちに施策や措置等について、特に協議・調整等を要する案件が無かった。		
			実績	2	1						
			<指標の計算方法> 総合教育会議の議題件数								

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
			2,673							2,673

事業の実績	①教育委員会運営 ・定例会12回、臨時会1回					
	②総合教育会議運営 ・未開催					
	③外部評価 ・令和5年度予算編成事業ごとに事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うため外部評価委員会に評価を依頼(年3回開催)					
	④市町村教育委員会連絡協議会負担金 89,000円(当初) (人口割) 57,271人×0.5円 29,000円 (教育委員会数割) 1市町村の教育委員会ごとに15,000円(市町村割) 1市町村ごとに 45,000円					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない				
		・教育委員会は地域における学校教育・社会教育・文化・スポーツ等に関する事務を担当する行政機関である。 ・教育長を含む5名で構成された教育委員会が、教育行政や学校運営における具体的な施策を客観的に審議し総括して推進を図る事業である。					
	有効性	評価結果	改善の余地がない				
		・教育委員会定例会において、教育の基本方針や教育・文化・スポーツの振興など教育全般についての諸問題や検討課題及び計画等の審議を行い、目標どおり事業を進めている。					
効率性	評価結果	改善の余地がない					
	・教育委員会定例会等の各種会議の議事録作成について、業者委託をしたことにより、大幅に事務作業時間を短縮できている。						

事務事業の概要	事務事業名		教育委員会事務局運営事業				担当課		教育総務課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		630	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		99		*****					
	予算科目	款	10 教育費						施策目標		99		*****					
		項目	1 教育総務費						基本施策		99		*****					
		目	2 事務局費						取組方針		9		その他					
	事業概要		教育委員会が円滑な運営を行えるように、教育長、教育委員の活動に支援を行う事業															
	事務事業を構成する細事業		① 教育委員会事務局運営事業				⑤ 近畿都市教育長協議会負担金				⑨							
			② 栄典・表彰業務（教育功労）				⑥ 県都市教育長協議会会負担金				⑩							
			③ 教育長秘書				⑦ 県公立学校施設整備期成会負担金				⑪							
④ 全国都市教育長会負担金				⑧				⑫										

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	活動指標	後援名義許可件数		件	目標						教育総務課28件、生涯学習課15件、生涯スポーツ課14件	
					実績	30	49	57				
		<指標の計算方法>		後援名義許可件数								
	活動指標	叙位・叙勲・栄典等受章件数		件	目標						秋の生存者叙勲1件、死亡叙位1件	
					実績	3		2				
		<指標の計算方法>		叙位・叙勲・栄典等受章件数								
				目標								
				実績								
			<指標の計算方法>									
			目標									
			実績									
		<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳						
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	1,175								1,175

事業の実績	①教育委員会事務局運営事業 ・教育や文化の向上振興に寄与する事業への「紀の川市教育委員会」の後援名義の許可		補助金割 学校数割 へき地校割	21,567,000円×0.03% 300円×24校 該当なし	6,470円 7,200円	
	②栄典・表彰業務（教育功労） ・永年に亘って教育の振興に貢献された教育関係者の栄典授与に関する事務を行う。					
	③教育長秘書 ・教育長の公務の日程調整や教育部内の行事予定のとりまとめ					
	④全国都市教育長会負担金 21,000円					
	⑤近畿都市教育長協議会負担金 18,000円					
	⑥県都市教育長協議会負担金 20,000円					
	⑦県公立学校施設整備期成会負担金 13,700円					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・教育委員会の権限に属する事務であり、市が主体となり実施すべき事業である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
		・「紀の川市教育委員会」の後援名義の許可審査や教育の振興に貢献された方の功績の確認など、適切に事務処理を行い、事業目的を達成している。 ・教育委員会における課題解決に向け、あらゆる方向から迅速かつ的確に協議・検討・調整を行っていく必要があり、市長部局をはじめ関係機関・部署と効果的に連携を行える人材が必要である。 ・市長部局をはじめ関係機関・部署と効果的に連携を行える人材を確保することで、教育行政が抱える懸案事項等について、迅速かつ適切な課題解決に向け方向性を決定していくことが可能となる。		
	効率性	評価結果	改善の余地がない	
・許可審査など判断が必要な事務に職員が従事することで円滑に実施できている。外部委託できる業務はない。				

事務事業の概要	事務事業名			学校教育総務管理事業				担当課		教育総務課		事業区分		ソフト事業						
	新規・継続			継続		事業期間		単年度繰返し				事業番号		1084						
	会計			一般会計				政策目標		2		子育て・教育								
	予算科目	款	10	教 育 費				施策目標		2		学校教育								
		項	1	教育総務費				基本施策		2		子供の力をのばす教育								
事業概要			児童、生徒が安全で円滑な学校生活が行えるように、安全面及び学校運営に係る必要な支援を行う事業																	
事務事業を構成する細事業	①			学校安全対策協議会負担金				⑤						⑨						
	②			那賀地方教育研究会補助金				⑥						⑩						
	③			学校安全対策・通学路安全対策				⑦						⑪						
	④			学校運営協議会				⑧						⑫						
指標の実績	指標名			単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	成果指標	スクールサポーター登録者数			人	目標	450		450		450		450		450		一部の学校でスクールサポーター（見守りスタッフ）の募集をした結果、新規登録者が増加し全体として人数が増加した。			
		実績				466		414		485										
		<指標の計算方法> スクールサポーター登録者数																		
	活動指標	通学路安全対策実施箇所			箇所	目標	15		4		5		10		10		国・県・警察等の関係機関と連携し、年次的に対策を講じている。			
		実績				15		4		5										
		<指標の計算方法> 学校から危険箇所の報告があったもののうち、対策を講じた件数																		
						目標														
		実績																		
		<指標の計算方法>																		
					目標															
	実績																			
	<指標の計算方法>																			
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳															
	13, 271				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
事業の実績	①学校安全対策協議会負担金 310, 000円 学校安全対策協議会の設置 ・市内在住の児童及び生徒の安全確保を図るため、学校長やPTA、青少年健全育成推進員、民生委員児童委員連絡協議会委員等の代表で組織し、協議した。 ・スクールサポーターの保険加入や活動費の補助、反射ベストの購入などを行った。																			
	②那賀地方教育研究会補助金 紀の川市、岩出市管内小中学校の教科別研究会に対し、岩出市とともに補助を行い、研究活動を支援した。																			
	③学校安全対策・通学路安全対策 通学路交通安全点検プログラム等により、危険箇所の改修を行った。																			
	④学校運営協議会 ・全小学校に学校運営協議会を設置し、年間																			
	3回程度開催した。 ・全中学校に学校運営協議会を設置し、年間3回程度開催した。																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・通学路における児童生徒の安全確保を図るとともに円滑な学校生活が行えるよう、学校運営に関する支援を行っており継続することが妥当な事業である。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																
		・学校から通学路等の危険箇所改修の要望を県や警察等の関係機関と連携して点検や改修を行っており、児童生徒の安全確保に大変有効である。 ・スクールサポーターの高齢化に伴い、今後十分に協力を得ることが難しい可能性がある。																		
効率性	評価結果		改善の余地がない																	
	・県や警察と連携していることで危険箇所の情報共有を図ることができ、改修までの対応がスムーズであり、効率的な事業である。																			

事務事業の概要	事務事業名		学校教育推進事業				担当課		教育総務課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		615	
	会計		一般会計															
	予算科目	款	10 教 育 費				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育					
		項	1 教育総務費						施策目標		2		学校教育					
目		3 教育諸費				基本施策			2		子供の力をのばす教育							
事業概要		児童、生徒の力をのばすために、学力・体力の向上につながる取組を行う事業																
事務事業を構成する細事業			① 教職員研修						⑤ 職員等研修参加負担金						⑨			
			② 英語教育						⑥ 研究指定校補助金						⑩			
			③ 学力調査						⑦						⑪			
			④ 学力向上						⑧						⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	活動指標	市主催の研修を実施した回数	回	目標	4	4	4	4	4	目標通りに実施できている。		
				実績	4	4	4					
		<指標の計算方法>		研修開催回数（講師等謝礼支出分のみ対象）								
	成果指標	外国語指導員と担任によるT T授業時数	時間	目標	70	70	70	70	70	目標通りに実施できている。		
				実績	70	70	70					
		<指標の計算方法>		T T（ティームティーチング：複数教員で行う授業）授業を実施した5,6年生の1学級あたり時間数の平均								
				目標								
				実績								
		<指標の計算方法>										
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳						
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	22, 538								22, 538

事業の実績	①教職員研修		紀の川市立学校の教職員の授業改善を図るため、教職員全員を対象として、悉皆研修を2回実施した。		教員を対象に、授業力向上を図るため、年間3回研修を実施した。		⑤職員等研修参加負担金		職員の初任者研修として行う人権研修について、西光万吉邸の見学に際し負担する費用の補助を行った。		・粉河小学校 ・調月小学校 ・粉河中学校 ・荒川中学校 ・貴志川中学校	
	②英語教育		・ALT(外国語指導助手)を2名配置し、児童生徒のコミュニケーション活動を充実させた。 ・小学校教諭の外国語（活動）に係る授業力の向上を図るため、外国語指導員5名と県配置の英語専科教員2名の合計7名を配置した。		⑥研究指定校補助金		・瞳きらめく学校推進事業 教育の質の向上を図り、創意と活力に満ちた学校づくりに資する実践研究を行う2校に対し補助を行った。 ・粉河中学校 ・貴志川中学校 ・ふるさと教育推進事業					
	③学力調査		4月18日に全国学力・学習状況調査を実施し、市として結果分析を行った。		ふるさとに誇りと愛着を持ち、将来紀の川市の発展に貢献できる人材の育成を目指す特色ある教育実践を行う5校に対し補助を行った。							
	④学力向上		・小学校5年生、中学校2年生の国語科担当									

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・教職員の資質向上を目指した各種研修会や外国語指導員の配置・ALT（外国語指導助手）の派遣等、児童生徒の学力向上につながる事業であるため。																
	有効性	評価結果	改善の余地がない															
		・教職員の資質向上を目指した各種研修会や外国語指導員の配置・ALT（外国語指導助手）の派遣等によって、児童生徒の学力が向上している。 ・中学校英語科のOBを外国語指導員として小学校に配置したことにより、小学校教員の英語の授業力のスキルアップにつなげることができている。																
効率性	評価結果	改善の余地がない																
	・ALT（外国語指導助手）派遣については、プロポーザル方式により業者を選定しており、実施内容や費用等を総合的に判断し、効率的に実施できている。																	

事務事業の概要	事務事業名		学校図書館教育推進事業					担当課		教育総務課		事業区分		ソフト事業		
								新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1132	
	会計		一般会計					長期総合計画体系		政策目標	2	子育て・教育				
	予算科目	款	10	教 育 費						施策目標	2	学校教育				
		項	1	教育総務費						基本施策	2	子供の力をのばす教育				
目		3	教育諸費				取組方針			1	「確かな学力」の向上と「豊かな心」・「たくましい体」の育成					
事業概要		子供や教員が活用しやすい環境づくりと教員の授業支援を進めるため、学校図書館の環境整備と学校司書を配置する事業														
事務事業を構成する細事業	①		学校司書配置					⑤						⑨		
	②		学校図書館のICT化					⑥						⑩		
	③							⑦						⑪		
	④							⑧						⑫		

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	授業での年間図書館活用回数	回	目標	45	45	45	45	45	令和5年度と比較して、図書館の活用が減少している。	
				実績	27	31	29				
		<指標の計算方法>		各学校での活用回数の平均							
	成果指標	1ヶ月あたりの児童生徒の図書貸出冊数	冊	目標	3	3.2	3.4	3.6	3.6	貸出冊数は増加している。	
				実績	3.1	3.3	3.5				
		<指標の計算方法>		1ヶ月の貸出冊数の平均							
		回	目標								
			実績								
		<指標の計算方法>									
成果指標		冊	目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳					
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	38,082						17,200			20,882

事業の実績	①学校司書配置 全ての小中学校に学校司書を配置できたことで、古い本や傷んだ本の整理を行なっていることで蔵書数は増えにくい状況である。 教員や児童生徒の意見を参考に新しく図書を購入しているため貸出冊数を増やすことができている。			
	②学校図書館のICT化 ICT化したことにより蔵書検索もできるようになった他、児童生徒の貸出履歴も把握できることから、児童生徒のニーズに合った図書の購入もできるようになった。			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」により、学校図書館が果たす役割が重要視され、継続する必要がある事業である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がややある													
		・学校図書館の整備とICT化により、児童生徒及び教員の学校図書館の活用が広がり、学びの質を高めることができている。 ・学校図書館を活用した授業を推進するためにも、公立図書館とのシステム連携が今後必要と思われる。														
	効率性	評価結果	改善の余地がない													
		・学校司書の配置により、月1回の学校司書定例会で選書情報を共有し、できるだけ重複しないよう、図書を購入することができた。														

事務事業の概要	事務事業名				教育相談事業			担当課		教育総務課		事業区分		ソフト事業									
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		619					
	会計				一般会計																		
	予算科目	款	項	目	10 教 育 費			長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育									
					1 教育総務費		2 学校教育																
3 教育諸費					1 学校教育環境の充実																		
事業概要				児童、生徒、保護者が不登校、いじめ等の問題解決を図り、教育に対する不安を解消できるように、相談の実施や教育支援センターの運営を行う事業																			
事務事業を構成する細事業	① 教育相談				⑤								⑨										
	② 教育支援センター運営				⑥								⑩										
	③				⑦								⑪										
	④				⑧								⑫										
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析						
	活動指標	教育支援センター指導員数		人		目標		9		9		9		9		9		目標どおり配置することができた。					
		実績		8		9		9															
	<指標の計算方法>		配置人数																				
	成果指標	教育相談員配置事業相談指導者数		人		目標		5		5		8		8		9		目標どおり配置することができた。					
		実績		5		6		8															
	<指標の計算方法>		市費の教育相談員と県費のスクールソーシャルワーカーの合計配置人数																				
	成果指標	教育支援センター在籍児童生徒数		人		目標												毎年一定数の児童生徒が在籍している。					
		実績		17		16		23															
	<指標の計算方法>		年度内での実在籍者数																				
成果指標	教育相談員相談指導件数		件		目標												不登校児童生徒数、また、悩みをかかえる児童生徒数は増加傾向にあり、相談件数も増加傾向にある。 <不登校児童生徒数> R4 109名（小学生37名 中学生72名） R5 123名（小学生39名 中学生84名） R6 115名（小学生37名 中学生78名）						
	実績		1,757		2,299		4,001																
<指標の計算方法>		相談員の延べ相談指導件数の合計																					
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)						財源内訳																
							国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源						
	25,563																25,563						
事業の実績	①教育相談 ・市費の教育相談員5人と県費のSSW（スクールソーシャルワーカー）3人及び県費のSC（スクールカウンセラー）11人を配置し、児童生徒の不登校や就学指導等の問題解決にあたりました。 ・教育相談員の対応数 相談、指導件数：4,001件（延べ件数） 保護者・児童生徒：2,538件 学校関係等：1,463件 ・スクールソーシャルワーカーの対応数 相談件数：1,809件（延べ件数） ・スクールカウンセラーの対応数 相談件数：3,722件（延べ件数）																						
	②教育支援センター運営 ・主に不登校児童生徒を対象に貴志川生涯学習センター（火～金）、貴志川支所（月）及び旧粉河中学校校舎内に設置し、午前9時から午後3時まで開室しました。																						
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																			
		・児童生徒や保護者、教職員が持つ様々な悩みや問題の解決を図るため教育相談を実施している。 ・不登校児童生徒の集団生活への適応や基礎学力の補充等の指導を行い、学校への復帰や進学に関する支援を行う教育支援センターを開設している。																					
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																			
		・児童生徒の悩みや問題の解決を図る。 ・不登校児童生徒に支援を行うことで、学校への復帰や進学につながる有効な事業である。 ・教育支援センター指導員の人員確保について、指導できる人材を1名見つけることができ、設定した目標を達成することができた。 ・不登校児童生徒の増加により、子どもたちを支援する教育相談員が不足しており、増員する必要がある。																					
効率性	評価結果		改善の余地がない																				
	・県費のスクールソーシャルワーカー及びスクールカウンセラーを含め、児童生徒やその保護者、教職員が抱える悩みや問題の解決に向け、相談体制が構築されて機能している。 ・教育支援センターについては、粉河、貴志川どちらの教室も毎日運営することができている。																						

事務事業の概要	事務事業名		特別支援教育推進事業				担当課		教育総務課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		937	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育					
	予算科目	款	10 教 育 費						施策目標		2		学校教育					
		項	1 教育総務費						基本施策		2		子供の力をのばす教育					
目		3 教育諸費				取組方針			3		特別支援教育の充実							
事業概要			教育上配慮が必要な児童、生徒が安心して学校に通えるように相談の実施、特別支援教育支援員等の配置を行う事業															
事務事業を構成する細事業	①		学齢期発達相談				⑤						⑨					
	②		早期支援コーディネーター設置				⑥						⑩					
	③		就学相談				⑦						⑪					
	④		特別支援教育支援員設置				⑧						⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	保護者に特別支援教育の理解啓発を行った小学校数		校	目標		15		15		15		15		就学前健診で実施しているので、新入生がいない上手小学校及び麻生津小学校では実施しなかった。			
		実績			15		15		13									
		<指標の計算方法>		就学時健診で保護者に特別支援教育の理解啓発を行った小学校数														
	活動指標	就学指導対象園児の延べ観察回数		回	目標		100		100		100		100		1回の訪問で複数名の観察を行うなど、効率的な訪問を行うこととしたため、目標値以下となっている。			
		実績			50		69		53									
		<指標の計算方法>		保育所・幼稚園等を訪問し、対象児童の状況を把握するために要する回数（延べ回数）														
	成果指標	就学園児で学校教育法施行令第22条の3判断で支援学校を選択した割合		%	目標										本年度は重度の障害をもつ児童が多く、特別支援学校を選択した保護者が多かった。			
		実績			43.8		61.5		88.8									
		<指標の計算方法>		就学園児で教育支援委員会での判断が2 2条の3に該当する園児のうち支援学校を選択した割合														
活動指標	早期支援コーディネーター活動回数		回	目標										相談件数の増加や、学校見学・体験を希望する保護者が増加傾向にあるため、活動回数も増加傾向にある。				
	実績			193		234		243										
	<指標の計算方法>		学校等の訪問回数や教育相談回数															
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳													
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	104, 796														104, 796			
事業の実績	①学齢期発達相談 ・教員や保護者に対し、特別支援学級に在籍する児童生徒、通常学級に在籍する支援を必要とする児童生徒への日常の関わり方や発達上の課題、適切な教育環境の選択等について相談活動を実施した。				③就学相談 ・次年度就学予定の園児の保護者に対して、こども課が実施する発達相談に同席し就学に関する相談を受けたり、学校見学やつなぎ愛シート作成の場に同席して保護者や学校に対してアドバイスを行った。													
	②早期支援コーディネーター設置 ・支援を必要とする園児とその保護者に対し、就学前から就学後まで切れ目ない支援を行うため早期支援コーディネーター2人を配置した。 【令和6年度対象者：94人】 ・学校訪問 延べ85回（実態調査、学校見学、体験学習の同行） ・教育相談 延べ93回（未就学児の保護者） ・保育所等訪問 延べ65回（実態調査、保護者説明会）				④特別支援教育支援員設置 ・介助が必要な児童生徒のいる対象校13校に34人の特別支援教育支援員を配置した。													
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない														
		・文部科学省の「切れ目ない支援体制整備充実事業」の実施において、一貫した支援を行うためには、地域で支援体制を構築する必要がある、市が取り組むことは妥当である。																
	有効性	評価結果		改善の余地がない														
		・早期支援コーディネーターを配置し、こども課、保育課や保育所・幼稚園等の各関係機関と連携し、未就学児童の就学に関する相談や支援を行うことで、児童や保護者が安心して就学できるようにしている。 ・小学校入学後の本人の困り感やそれに対しての支援について、早期支援コーディネーターから保育所や幼稚園等の先生や保護者の方に対し、具体的なアドバイスを行う事が出来ている。 ・丁寧な支援を必要とする児童生徒に特別支援教育支援員を配置し、安全安心な学習環境の提供を行っている。																
効率性	評価結果		改善の余地がない															
	・指導主事を中心に早期支援コーディネーターや各関係機関との情報共有が図れており、効率的な支援を行うことができています。 ・曜日を分けての定期的な勤務体制からスケジュールに合わせた勤務体制に変更したことにより、支援体制の質を下げることなく人件費等の費用負担の削減が図られた。																	

事務事業の概要	事務事業名		遠距離通学対策事業				担当課		学校再編推進室		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	112	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	2	子育て・教育				
	予算科目	款	10	教 育 費					施策目標	2	学校教育				
		項	1	教育総務費					基本施策	1	学校教育環境の充実				
目		3	教育諸費						取組方針	3	安全な通学環境の整備				
事業概要		遠距離通学児童、生徒が安全に通学できるように、登下校時にスクールバスの運行を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①		スクールバス運行				⑤				⑨				
	②		スクールバス車両管理				⑥				⑩				
	③						⑦				⑪				
	④						⑧				⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	巡回路線数	コース	目標	5	5	5	5	5	安楽川小学校3コース（黒川・善田）（野田原・銚子ノ口）（鞆渕）、荒川中学校2コース（黒川・善田）（野田原・銚子ノ口）の全5コースを運行している。	
				実績	5	5	5				
		<指標の計算方法>		巡回路線数							
	活動指標	運行回数	回	目標						乗車児童の減少に伴い、運行回数が減少した。	
				実績	2, 485	2, 358	2, 144				
		<指標の計算方法>		各コースの合計運行回数							
成果指標	乗車児童・生徒数	名	目標						乗車すべき児童生徒を漏れることなく乗車させることができています。		
			実績	24	22	20					
	<指標の計算方法>		各コースの合計乗車実人数								
活動指標	スクールバス購入台数	台	目標	0	0	0	0	0	令和6年度については購入なし。		
			実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		更新（買い替え）・新規購入								

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳					
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	18, 450						16, 000			2, 450

事業の実績	①スクールバス運行					
	・学校、委託業者とともに、授業時間・クラブ活動を考慮した効率的な運行を計画し、乗車人数を調整した。 (桃山管内小中学校20名) 安小(黒川・善田)コース 406回 安小(野田原・銚子ノ口)コース 214回 安小(鞆渕)コース 391回 荒中(黒川・善田)コース 596回 荒中(野田原・銚子ノ口)コース 537回 ・安全に運行業務を委託できる業者を選定するとともに、低価格で契約できている。 桃山・鞆渕管内委託料：16, 060, 000円					
	②スクールバス車両管理					
	燃料費 1, 730, 594円 使用料及び賃借料 528, 000円 自動車損害保険料 57, 650円 公課費 73, 800円					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・スクールバス運行対象地区内でのニーズを的確に把握し、事業内容に適切に反映している。 ・教育環境を整えるという観点から、継続する必要性が高い事業である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・乗車人数については、対象地区内で希望する児童生徒全員が乗車できている。		
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・委託業者を1社とすることにより、運行管理が一元化でき、コスト削減を意識した効率的な運行ができている。 ・スクールバス運行は社会的責務のため無償運行が望ましく、受益者負担を求めない。			

事務事業の概要	事務事業名				教職員人事管理事業				担当課		教育総務課			事業区分		ソフト事業								
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1083					
	会計				一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育									
	予算科目				款		10				教育費		施策目標		2		学校教育							
					項		1				教育総務費		基本施策		2		子供の力をのばす教育							
					目		3				教育諸費		取組方針		9		その他							
	事業概要				教職員が円滑に授業を進められるように、教職員の健康管理、人事管理を行う事業																			
	事務事業を構成する細事業				① 教職員検診				⑤								⑨							
					②				⑥								⑩							
					③				⑦								⑪							
④					⑧								⑫											

指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
		教職員健診受診率		%	目標	80		80		80		80		80		公立学校共済組合に加入していない部活動指導員等の週20時間未満の職員も胸部X線を受診出来る対象者としている。部活動指導員の人数が増加したが、受診をあまりしなかったため、数値が下がった。				
					実績	73		75.1		73.3										
		<指標の計算方法>		教職員健診の受診者数÷対象者数																
	成果指標	教職員のストレスチェック受診率		%	目標	100		100		100		100		100		昨年度と比較して数値は下がっているが、令和4年度よりは上昇している。				
					実績	94.1		96.44		95.77										
		<指標の計算方法>		ストレスチェック受診者数÷対象者数																
			目標																	
			実績																	
		<指標の計算方法>																		
			目標																	
	実績																			
	<指標の計算方法>																			

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	5,527														5,527	

事業の実績	①教職員健診 教職員健診とストレスチェックを実施した。															
	・教職員健診 対象者数 599名 受診者数 439名 ・ストレスチェック 対象者数 520名 受診者数 498名 ※公立学校共済組合に加入していない非常勤職員も教職員健診の胸部X線のみ受診しているため、教職員健診とストレスチェックで対象者数が異なっている。															

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・学校保健安全法、労働安全衛生法で定められている健康診断およびストレスチェックを実施しており、今後も継続しなければならない事業である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がややある													
		・学校保健安全法、労働安全衛生法で定められている健康診断およびストレスチェックを実施しており、教職員が心身の健康を保持するために有効である。 ・ストレスチェックについては、今後もその必要性を周知に努め、受診率の向上を図る。														
	効率性	評価結果	改善の余地がややある													
		・学校保健安全法、労働安全衛生法で定められている健康診断およびストレスチェックを実施している。 ・効率的に受診できるよう、日程を数日確保した上、日割りを行う等、受診しやすい環境づくりを行った。														

事務事業の概要	事務事業名		学校施設長寿命化計画策定事業				担当課		教育総務課		事業区分		ソフト事業			
							新規・継続		新規	事業期間	期間限定複数年度（R 6 ～ R 7）		事業番号	1135		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	2	子育て・教育					
	予算科目	款	10 教 育 費			施策目標			2	学校教育						
		項	1 教育総務費			基本施策			1	学校教育環境の充実						
		目	3 教育諸費			取組方針			1	安全・安心で快適な学校施設の充実						
	事業概要		学校施設等の中長期的な維持管理・更新にかかるトータルコストの縮減や予算の平準化を図るため、長寿命化計画を改訂する													
			① 老朽化状況調査		⑤				⑨							
	事務事業を構成する細事業		② 紀の川市学校施設等長寿命化計画改訂		⑥				⑩							
			③		⑦				⑪							
		④		⑧				⑫								
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
	活動指標	老朽化状況調査に係る打ち合わせ		回	目標					4				全施設の現地調査実施の打合せ、整備レベル項目及び評価の設定、各評価・調査結果の報告と取りまとめるための打合せを実施した。		
		実績							4							
		<指標の計算方法>		老朽化状況調査に係る打ち合わせ回数												
					目標											
			実績													
	<指標の計算方法>															
					目標											
			実績													
	<指標の計算方法>															
				目標												
		実績														
<指標の計算方法>																
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	7,590														7,590	
事業の実績	①老朽化状況調査 ・建物基本情報の整理 ・構造躯体の健全性の整理 ・劣化状況の評価 ・整備レベル項目及び評価の設定、評価 ・以上を現地調査を通じ、建物情報一覧として整理する。															
	②紀の川市学校施設等長寿命化計画改訂 ・令和7年度計画改訂に係る事前準備															
事業の事後評価	妥当性	評価結果 改善の余地がない ・令和2年度に策定した紀の川市学校施設等長寿命化計画は、5年間を目途に見直すこととなっており令和7年度に改訂を行うことは妥当である。														
		評価結果 改善の余地がない ・令和7年度に紀の川市学校施設等長寿命化計画を行うにあたり、改めて学校施設等の老朽度調査を行い、建築単価の見直し、他計画との整合性を図ることは有効である。														
	有効性	評価結果 改善の余地がない ・令和7年度に紀の川市学校施設等長寿命化計画を行うにあたり、改めて学校施設等の老朽度調査を行い、建築単価の見直し、他計画との整合性を図ることは有効である。														
効率性		評価結果 改善の余地がない ・老朽化状況調査を専門業者に委託することで、迅速かつ正確な調査を行うことができた。また、次年度の計画改訂に際し円滑に事務を進めていくことができ効率的である。														

事務事業の概要	事務事業名		学校適正規模適正配置推進事業				担当課		学校再編推進室		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1146	
	会計		一般会計															
	予算科目	款	10 教育費								政策目標		2		子育て・教育			
		項	1 教育総務費										2		学校教育			
目		3 教育諸費										1		学校教育環境の充実				
事業概要		次代を担う子供たちのためにより良い教育環境の確保及びその向上を図ることを目的に、保護者・市民等の意見聴取を通じて、小中学校の適正規模適正配置を推進するための事業																
事務事業を構成する細事業			① 住民説明会等開催				⑤						⑨					
			②				⑥						⑩					
			③				⑦						⑪					
			④				⑧						⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	検討委員会開催回数	回	目標	5	0	0	0	0	令和4年度の基本計画策定時に開催され、令和5～6年度は実施無し。今後、基本計画を改訂する必要がある場合に再び実施する可能性がある。	
		実績		5	0	0					
		<指標の計算方法> 紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会の開催回数									
	活動指標	作業部会開催回数	回	目標	8	5	5	5	5	紀の川市立学校適正規模適正配置第1次実施計画の推進及び第2次実施計画の策定に向け、必要に応じて課題等の解決に向けて協議を行った。	
		実績		8	4	5					
		<指標の計算方法> 紀の川市立学校適正規模適正配置検討作業部会の開催回数									
活動指標	住民説明会等開催回数	回	目標	0	10	10	5	5	紀の川市立学校適正規模適正配置第1次実施計画の推進に向け、統合が予定されている各小学校区で1回ずつ説明会を開催し、保護者及び地域住民に対して理解を求めることができた。		
	実績		0	5	3						
	<指標の計算方法> 児童及び就学前児童の保護者の方や地域住民の方等を対象に行った住民説明会及び意見交換会等の開催回数										
活動指標	学校運営協議会説明会等開催回数	回	目標	0	5	5	3	3	紀の川市立学校適正規模適正配置を適切に進めていくにあたり、学校のあり方など運営について一番熟知している学校運営協議会委員の方から意見をいただいた。		
	実績		0	10	5						
	<指標の計算方法> 学校再編対象校の学校運営協議会へ説明会を開催した回数										

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳						
	63		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
									63

事業の実績	①住民説明会等開催 第1次実施計画対象の小学校で、保護者及び地域住民を対象とした説明会を統合の対象となる各小学校区で1回ずつ開催し、計3回開催した。 ・上名手小学校：令和6年9月9日 ・麻生津小学校：令和6年9月5日 ・川原小学校：令和6年9月18日		・第9回教育委員会定例会後の懇談会 ・第11回教育委員会定例会後の懇談会	
	学校運営協議会への説明 計5回 ・上名手小学校：令和6年6月18日 ・麻生津小学校：令和6年6月14日 ・川原小学校：令和6年6月21日 ・名手小学校：令和6年6月6日 ・粉河小学校：令和6年6月18日			
	教育委員会における協議検討 計5回 ・第6回教育委員会定例会後の懇談会 ・第7回教育委員会定例会後の懇談会 ・第8回教育委員会定例会後の懇談会			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・紀の川市立学校の今後のあり方について検討する事業であり、市（教育委員会）が所管し、事業を継続することは妥当である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・全国的に少子化が進み、紀の川市においても児童生徒数が減少し、紀の川市立学校、特に小学校において学校規模に差が生じてきている現状を踏まえ、また、今後においてもさらに減少することが予測される中、学校規模による教育環境・条件に不均衡を生じさせないための対策をおこなっていくことは有効であると考え。		
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・紀の川市立学校に通う児童生徒には、単に教科等の知識や技術を習得させるだけでなく、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決力などを育み、社会性や規範性を身に付け、急激な社会の変化にも対応できる力を身に付けてもらうことに重点をおいているため、学校規模による不均衡の是正や教育上の課題の改善をおこない、子供達にとってより良い教育環境を構築していくことは効率性があると考え。			

事務事業の概要	事務事業名		小学校運営事業				担当課		教育総務課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		606	
	会計		一般会計								政策目標		2		子育て・教育			
	予算科目	款	10 教 育 費								施策目標		2		学校教育			
		項目	2 小学校費								基本施策		2		子供の力をのばす教育			
		目	1 小学校管理費								取組方針		9		その他			
	事業概要		児童が円滑に学校生活が行えるように、小学校に校務員の配置や備品の整備等を行う事業															
事務事業を構成する細事業		①	校務員配置				⑤						⑨					
		②	ICT支援員配置				⑥						⑩					
		③	学校備品整備				⑦						⑪					
		④					⑧						⑫					
指標の実績	活動指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析							
		校務員配置校数	校	目標		15	15	15	15	15	全小学校に校務員を配置している。							
				実績		15	15	15										
		<指標の計算方法>		校務員を配置している小学校数														
	備品購入費決算額	千円	目標							令和6年度は電子黒板用PCの購入があったため、前年度決算額の107%となった。								
			実績		55,286	37,339	39,904											
	<指標の計算方法>		全小学校における備品購入費（庁用器具購入費と機械器具購入費）に係る決算額															
	ICT支援員配置数	人	目標		7	8	11	11	11		文部科学省が策定した「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」の水準（ICT支援員は4校に1人配置）以上の人数を配置することができた。							
			実績		8	11	11											
	<指標の計算方法>		市内全小中学校へのICT支援員配置人数															
		目標																
		実績																
	<指標の計算方法>																	
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳													
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	335,868				2,991								1,061		331,816			
事業の実績	①校務員配置 全小学校15校に1人ずつ配置した。																	
	② I C T 支援員配置 市内の小中学校全体で11名のICT支援員を配置した。																	
	③学校備品整備 電子黒板用PCなどの備品を購入した。																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・小学校の運営に必要な経費であり、継続して行うことが妥当な事業である。																
	有効性	評価結果	改善の余地がない															
		・小学校の運営に必要な経常経費であるが、限られた予算を有効に執行できるように学校へ指導している。																
	効率性	評価結果	改善の余地がややある															
		・支払事務の効率化を図るため、学校への継続的な指導が必要である。 ・人材確保や労務管理の観点から校務員や特別支援教育支援員の外部委託の検討を行う必要がある。																

事務事業の概要	事務事業名		小学校施設管理事業				担当課		教育総務課		事業区分		ソフト事業		
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		599				
	会計		一般会計				長期総合計画体系	政策目標		2	子育て・教育				
	予算科目	款	10	教 育 費				施策目標		2	学校教育				
		項目	2	小学校校費				基本施策		1	学校教育環境の充実				
		目	1	小学校校管理費				取組方針		1	安全・安心で快適な学校施設の充実				
	事業概要		児童、教職員が学校施設を安全で快適に利用できるように、小学校施設の適切な維持管理や改修を行う事業												
			①	小学校施設管理				⑤					⑨		
			②	小学校施設改修				⑥					⑩		
			③					⑦					⑪		
		④					⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
	活動指標	施設改修工事実施個所数	箇所	目標	4	3	3	1	1	令和5年度に実施した学校でのヒアリングをもとに、必要に応じた改修工事を実施した。					
			実績	2	3	2									
			<指標の計算方法>					防水工事や機能改善に係る工事の実施個所数							
	活動指標	施設管理業務委託件数	件	目標						施設を維持するうえで、専門知識や資格が必要な業務を委託し、適切な管理を行った。また、教職員の働き方改革として、敷地管理上必要な業務を外部に委託し、教職員の業務負担軽減を図った。					
			実績		128	154									
			<指標の計算方法>					施設管理上必要な業務の委託件数							
				目標											
				実績											
				<指標の計算方法>											
			目標												
			実績												
			<指標の計算方法>												
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳												
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源							
	68,308				1,500		400	66,408							
事業の実績	①小学校施設管理 ・施設管理に伴う各種業務委託 ・使用料及び賃借料（土地借上げ、電柱共架料）の契約事務及び支払い ・施設設備修繕														
	②小学校施設改修 (改修工事に伴う設計監理業務委託を含む) ・中貴志小学校防火設備改修工事 ・中貴志小学校視聴覚室照明器具改修工事														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない												
		・児童及び教職員が安全かつ快適に使用できるように、老朽化していく施設の維持管理に必要な事業である。													
	有効性	評価結果	改善の余地がない												
		・老朽化していく施設の状況等を鑑みると修繕費を減らすことは難しいが、各校とも限られた予算の中で大きな改修に至らないよう修繕で対応できるうちに対応し、施設の維持管理に努めている。 ・施設の改修を要する場合は、緊急性、安全性を優先し、改修工事等を行う。 ・施設長寿命化の推進及び学校適正規模適正配置の観点からも適切な維持管理に努めている。													
	効率性	評価結果	改善の余地がない												
・保守点検結果や令和5年度に実施した学校でのヒアリングをもとに、緊急性や優先度を精査したうえで必要に応じた改修工事を実施し、児童や教職員に安全及び快適な学習環境を提供できている。															

事務事業の概要	事務事業名		小学校施設長寿命化事業				担当課		教育総務課		事業区分		ハード事業			
			新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し			事業番号		1218		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育			
	予算科目	款	10		教 育 費				施策目標		2		学校教育			
		項	2		小学校費				基本施策		1		学校教育環境の充実			
目		1		小学校管理費		取組方針			1		安全・安心で快適な学校施設の充実					
事業概要			学校施設の劣化状況や状態の変化を把握し、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び平準化を図りつつ、改修等の優先順位、改修内容、実施時期等を定め、学校施設に求められる機能・性能を確保する事業													
事務事業を構成する細事業	①		設計監理業務委託				⑤				⑨					
	②		設計業務委託				⑥				⑩					
	③		工事請負費				⑦				⑪					
	④						⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
	活動指標	設計及び設計監理業務実施件数	件	目標	6		1		5		1		2		学校施設等長寿命化計画に基づき実施した。国庫補助金を有利に獲得するため、名手小学校屋内運動場照明器具改修工事設計監理業務を令和6年度へ前倒しし、令和7年度へ全額繰越した。	
				実績	6		1		5							
		<指標の計算方法>		工事を実施するための設計業務及び設計監理業務の実施件数												
	活動指標	工事実施件数	件	目標	3		5		1		5		1		学校施設等長寿命化計画に基づき実施した。国庫補助金を有利に獲得するため、粉河小学校など4校の照明器具改修工事を令和6年度へ前倒しし、令和7年度へ全額繰越した。	
				実績	2		5		1							
		<指標の計算方法>		長寿命化工事を実施した件数												
	成果指標	小学校施設の長寿命化計画に基づく工事進捗率	%	目標	6.5		9		9.7		16.4		17.8		個別施設ごとの実施計画は、公共施設マネジメント検討委員会において毎年度ローリングにて事業を精査しているため、事業総量に変動があり、目標値未達となっているが令和6年度における事業は、計画どおり完了した。	
				実績	5		9		9.5							
		<指標の計算方法>		学校施設等長寿命化計画の対象となる施設において整備が完了した割合												
			目標													
			実績													
<指標の計算方法>																
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	31,626								28,600						3,026	
事業の実績	①設計監理業務委託 ・中貴志小学校10棟屋上防水等改修工事設計監理業務 ・名手小学校屋内運動場照明器具改修工事設計監理業務（令和7年度へ繰越）				・安楽川小学校照明器具改修工事（令和7年度へ繰越） ・名手小学校屋内運動場照明器具改修工事（令和7年度へ繰越）											
	②設計業務委託 ・粉河小学校照明器具改修工事設計業務 ・名手小学校照明器具改修工事設計業務 ・安楽川小学校照明器具改修工事設計業務 ・西貴志小学校11棟屋上防水改修工事設計業務															
	③工事請負費（改修工事に伴う監理業務を含む） ・中貴志小学校10棟屋上防水等改修工事 ・粉河小学校照明器具改修工事（令和7年度へ繰越） ・名手小学校照明器具改修工事（令和7年度へ繰越）															
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない												
		・児童にとって必要な学校施設の環境整備は、学校設置者として市が実施すべき事業である。														
	有効性	評価結果		改善の余地がない												
		・学校施設については、施設数が多く規模や経過年数などにより既存施設の劣化状況は様々であり、抜本的な対策がない限り、年数を重ねることに保全改修箇所は増加していく。 ・老朽化した施設が多く存在することから、学校施設等長寿命化計画の実効性を確保するにあたり、財政部局との調整が課題となるが、公共施設マネジメント検討委員会において審議の上、予算要求の可否を判断している。														
効率性	評価結果		改善の余地がない													
	・学校施設等長寿命化計画に基づき、計画的な保全を行い既存施設を効果的に活用する。 ・国庫補助金を活用し、市の財政負担の軽減及び平準化を図っている。															

事務事業の概要	事務事業名		小学校空調設備整備事業				担当課		教育総務課		事業区分		ハード事業		
			新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		951		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育		
	予算科目	款	10 教 育 費		施策目標				2		学校教育				
		項	2 小学校費		基本施策				1		学校教育環境の充実				
目		1 小学校管理費		取組方針		1			安全・安心で快適な学校施設の充実						
事業概要		児童及び教職員等の学習環境の改善を図るため、空調設備を特別教室等に年次的・計画的に設置する事業													
事務事業を構成する細事業	①		空調設備設置工事				⑤				⑨				
	②		監理業務委託				⑥				⑩				
	③		設計業務委託				⑦				⑪				
	④						⑧				⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	活動指標	空調設備設置工事実施件数	件	目標	6	3	2			計画どおり、特別教室（理科室・家庭科室）に空調設備を設置した。		
				実績	6	5	2					
		<指標の計算方法>		教室へ新たに空調設備を設置する件数								
	活動指標	空調設備設置工事設計業務実施件数	件	目標	3	2			令和6年度は計画なし。			
				実績	3	4						
		<指標の計算方法>		教室へ新たに空調設備を設置するための設計を実施する件数								
	成果指標	普通教室及び特別支援教室への空調設備設置を完了した学校の割合	%	目標	100	100	100			令和4年度より設置率が100%となっている。		
				実績	100	100	100					
		<指標の計算方法>		普通教室及び特別支援教室の室数に占める空調設備設置室数の割合								
成果指標	特別教室（理科室・家庭科室）への空調設備設置を完了した学校の割合	%	目標	67	87	100			計画どおり、特別教室（理科室・家庭科室）に空調設備を設置し、設置率100%となった。			
			実績	67	87	100						
	<指標の計算方法>		特別教室（理科室・家庭科室）の室数に占める空調設備設置室数の割合									

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳							
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
	15, 047									15, 047		

事業の実績	①空調設備設置工事 ・上名手小学校特別教室空調設備設置工事 ・麻生津小学校特別教室空調設備設置工事											
	②監理業務委託 ・上名手小学校特別教室空調設備設置工事 監理業務 ・麻生津小学校特別教室空調設備設置工事 監理業務											
	③設計業務委託 ・計画なし											

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・児童及び教職員が安全かつ快適に学校生活を過ごせるように、熱中症対策や寒冷対策として重要な事業である。													
		評価結果	改善の余地がない ・限られた予算の中で、特別教室（理科室・家庭科室）への空調設備未設置校に対して順次計画的に設置を進めており、設定した目標を達成できている。													
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・空調設備設置工事の前年度に設計業務を実施することにより、空調設備の需要が高まる時期に合わせてスムーズに施工できるよう、施工管理を工夫するように努めている。													
評価結果		改善の余地がない ・空調設備設置工事の前年度に設計業務を実施することにより、空調設備の需要が高まる時期に合わせてスムーズに施工できるよう、施工管理を工夫するように努めている。														
効率性	評価結果	改善の余地がない ・空調設備設置工事の前年度に設計業務を実施することにより、空調設備の需要が高まる時期に合わせてスムーズに施工できるよう、施工管理を工夫するように努めている。														
	評価結果	改善の余地がない ・空調設備設置工事の前年度に設計業務を実施することにより、空調設備の需要が高まる時期に合わせてスムーズに施工できるよう、施工管理を工夫するように努めている。														

事務事業の概要	事務事業名				小学校教育活動事業				担当課		教育総務課		事業区分		ソフト事業									
	会計				一般会計				新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		595					
	予算科目	款	10	教 育 費				長期総合計画体系		政策目標		2	子育て・教育											
		項	2	小学校費						施策目標		2	学校教育											
		目	2	小学校教育振興費						基本施策		2	子供の力をのばす教育											
事業概要				児童の学力向上と豊かな心や感性をはぐくむために、教材の購入や各種補助金の交付を行う事業																				
事務事業を構成する細事業	①				教材器具・教科書整備				⑤				教員研修費等補助金				⑨							
	②				現場学習等引率費補助金				⑥				学校農園補助金				⑩							
	③				緑育推進事業補助金				⑦				学級費補助金				⑪							
	④				宿泊体験活動推進事業補助金				⑧								⑫							
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析							
	成果指標	図書充足率		%		目標				82		83		85		87		年次計画的に図書の購入を行っているが、古い本の入れ替え等、蔵書整理をしているため、充足率は上がりにくい。						
						実績				82		84												
		<指標の計算方法>		文科省が定める学校図書館図書標準に対する充足率																				
						目標																		
						実績																		
		<指標の計算方法>																						
						目標																		
						実績																		
		<指標の計算方法>																						
					目標																			
					実績																			
	<指標の計算方法>																							
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																			
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源									
86, 170				13, 135		1, 173								71, 862										
事業の実績	①教材器具・教科書整備 14, 092, 848円				共同生活を通して豊かな心や感性を育むために行う集団宿泊体験に対し補助を行った。																			
	②現場学習等引率費補助金 修学旅行や現場学習に係る教員の交通費や宿泊費などを補助した。				⑤教員研修費等補助金 研修に参加する教員の参加費や、校内研修の費用を補助した。																			
	③緑育推進事業補助金 森林学習や間伐体験を通し、森林の持つ様々な機能や大切さを学び、間伐材を利用した木工クラフトや本立て等を製作した。				⑥学校農園補助金 学校農園の運営に係る種苗や土、機材の費用を補助した。																			
	実施校及び参加人数 田中小 : 75人 293, 250円 長田小 : 16人 214, 072円 上名手小 : 35人 207, 630円 安楽川小 : 43人 458, 171円 合計 4校 : 169人				⑦学級費補助金 物価高騰による保護者の経済的負担を軽減するため、学級費の補助を行った。																			
④宿泊体験活動推進事業補助金																								
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																				
		・教育活動に必要な不可欠な教材等の購入や活動に対する補助を行う事業であり、今後も継続することが妥当な事業である。																						
	有効性	評価結果		改善の余地がない																				
		・教育活動に必要な不可欠な教材や備品、図書などの購入にあたり、数社から見積を徴して少しでも安価に購入できるようにしている。 ・図書充足率を満たしている学校数については、年次計画に基づき図書を購入しているため、計画どおりに購入を継続していく。 ・研究授業や各種体験などに係る費用の一部を補助し、円滑に教育活動が行えるように支援できている。																						
効率性	評価結果		改善の余地がない																					
	・次年度の予算策定にあたり、学校から要望を聴取した上で査定したり、日常的に購入事務などについて指導していることで効率的な事業及び予算の執行が行えている。																							

事務事業の概要	事務事業名		児童就学援助事業				担当課		教育総務課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		589	
	会計		一般会計								政策目標		2		子育て・教育			
	予算科目	款	10 教 育 費								施策目標		2		学校教育			
		項目	2 小学校費								基本施策		1		学校教育環境の充実			
	目	2 小学校教育振興費								取組方針		4		一人一人に応じた学びの機会の保障				
事業概要		経済的理由により就学が困難となる児童が就学できるように、保護者に学用品費用等の一部を支援する事業																
		① 要保護及び準要保護児童生徒就学援助費				⑤								⑨				
事務事業を構成する細事業		② 特別支援教育就学奨励費				⑥								⑩				
		③				⑦								⑪				
		④				⑧								⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	就学援助費認定者数	人	目標											児童数は減少傾向にあるが、就学援助を必要とする児童・保護者が増加した。			
		実績		344		327		333										
		<指標の計算方法>		年度内認定者数														
	活動指標	特別支援教育就学奨励費認定者数	人	目標											児童数は減少傾向にあるが、特別支援を要する、また、医療的ケアを要する児童は増加傾向にあり、認定者数も増加傾向にある。			
		実績		148		153		155										
		<指標の計算方法>		年度内の認定者数														
	成果指標	市立小学校における就学援助認定者の割合	%	目標											児童数は減少したが、認定者数が増加したため。			
		実績		12.1		11.9		12.5										
		<指標の計算方法>		年度内市内認定者数÷3月1日現在児童数														
			目標															
		実績																
<指標の計算方法>																		
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳													
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	11,240				779										10,461			
事業の実績	①要保護及び準要保護児童生徒就学援助費 ・経済的に就学が困難な児童に対し、学用品費、修学旅行費等必要な援助を行い、円滑な義務教育の推進を図った。 ・要保護及び準要保護児童生徒就学援助費認定者数：市内15小学校 331人、市外2小学校2人 支給者数 333人（うち市外2人） 市内小学校の認定率 12.5% ※認定者のうち要保護者（生活保護受給者）2名 修学旅行費の支給を含む。 ・令和7年度に新小学1年生になる児童に対し新入学学用品費等の入学前支給を行った。（生活保護法第6条第2項に規定する要保護者で現に保護を受けている保護者に準ずる程度に困窮している保護者）支給者数：35人 ②特別支援教育就学奨励費 ・特別支援学級に就学する児童の保護者の経済的負担を軽減し、特別支援教育の普及奨励を図った。																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない														
		・就学援助費は、経済的に就学が困難な家庭の児童を就学させるために必要な事業である。 ・特別支援教育就学奨励費は、特別支援学級に入級している児童の保護者のうち、世帯所得が一定の額より低い保護者に支給しており、保護者負担の軽減に必要な事業である。																
	有効性	評価結果		改善の余地がない														
		・就学援助・特別支援教育就学奨励費ともに就学にかかる保護者の経済的負担が軽減されており、児童の適正な就学に有効な事業である。																
	効率性	評価結果		改善の余地がややある														
・就学援助システム導入により効率化が図られているが、一部システムで対応出来ない項目がありエクセル管理と二重管理になっている。 ・学校からの周知に加え、市広報紙やホームページにおいても制度周知を行なっている。																		

事務事業の概要	事務事業名		田中小学校改築事業			担当課		教育総務課		事業区分		ハード事業			
	新規・継続		継続		事業期間		期間限定複数年度（R 5 ～ R 9）		事業番号		1229				
	会計		一般会計			長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育			
	予算科目	款	10 教 育 費					施策目標		2		学校教育			
		項	2 小学校費					基本施策		1		学校教育環境の充実			
		目	3 学校建設費					取組方針		1		安全・安心で快適な学校施設の充実			
	事業概要		児童、教職員が校舎を安全で快適に利用できるように、田中小学校の校舎等の改築を行う事業												
	事務事業を構成する細事業		①	田中小学校改築工事				⑤					⑨		
			②					⑥					⑩		
			③					⑦					⑪		
④							⑧					⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	設計業務進捗率		目標		100				令和5年度において目標どおり完成した。	
				実績		100					
		<指標の計算方法>		設計業務進捗率							
	成果指標	1期工事進捗率		目標			100			目標どおり完成した。	
				実績			100				
		<指標の計算方法>		1期工事進捗率							
	成果指標	2期工事進捗率		目標			30	90	100	地盤改良工事中に地中障害物が見つかり、撤去等に時間を要したため、目標値に達していない。	
				実績			17.51				
		<指標の計算方法>		2期工事進捗率							
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	516, 129			31, 801		374, 800	100, 000		9, 528

事業の実績	① 田中小学校改築工事 ・田中小学校改築1期工事 内容：プール解体、進入路他整備工事 ・田中小学校改築2期工事 内容：新校舎建設、現校舎解体、グラウンド部分整備 （令和7年度へ繰越） 【別途工事】 ・地中障害撤去工事								

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・学校施設は、児童や教職員が一日の大半を過ごす活動の場であり、安全で安心して学校生活を送ることは重要である。						
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・学校施設の充実や児童、教職員、地域住民の安全確保を図る上で有効な事業である。 ・工事請負契約に基づき、適正に施工されている。						
効率性	評価結果	改善の余地がない ・一時的なコストはかかるものの、建物の損傷が軽微な段階で予防保全的な改修を約25年周期で実施し、建物の機能回復を行うことで目標使用年数の約80年の使用を見込むため効率的な利用につながる事業である。 ・設計時に、コストや工事期間に無駄が発生しないように配慮している。							

事務事業の概要	事務事業名				中学校運営事業				担当課		教育総務課			事業区分		ソフト事業		
	会計				一般会計				新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	583	
	予算科目	款	10	教 育 費				長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育							
		項	3	中学校費					施策目標	2	学校教育							
		目	1	中学校管理費					基本施策	2	子供の力をのばす教育							
	事業概要				生徒が円滑に学校生活が行えるように、中学校に校務員の配置や備品の整備等を行う事業													
	事務事業を構成する細事業	① 校務員配置				⑤						⑨						
		② I C T 支援員配置				⑥						⑩						
		③ 学校備品整備				⑦						⑪						
		④				⑧						⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	校務員配置校数	校	目標	6		5		5		5		5		全中学校に校務員を配置している。			
				実績	6		5		5									
				<指標の計算方法> 校務員を配置している中学校数														
	活動指標	備品購入費決算額	千円	目標											令和6年度は大規模な機器入れ替えなど特殊事情が無かったため令和5年度決算額の60%となった。			
				実績	25,461		10,886		6,520									
				<指標の計算方法> 全中学校における備品購入費（庁用器具購入費と機械器具購入費）に係る決算額														
	成果指標	ICT支援員配置数	人	目標	7		8		11						文部科学省が策定した「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」の水準（ICT支援員は4校に1人配置）以上の人数を配置することができた。			
				実績	8		11		11									
				<指標の計算方法> 市内全小中学校へのICT支援員配置人数														
			目標															
			実績															
			<指標の計算方法>															
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳													
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	137,916				1,196		3,046						523		133,151			
事業の実績	①校務員配置 中学校5校（打田中学校仙溪分校除く）に校務員を配置した。																	
	②ICT支援員配置 市内の小中学校全体で11名のICT支援員を配置した。																	
	③学校備品整備 留守番電話装置などの備品を購入した。																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・中学校の運営に必要な経常経費であり、継続して行うことが妥当な事業である。																
	有効性	評価結果	改善の余地がない															
		・中学校の運営に必要な経常経費であるが、限られた予算を有効に執行できるように学校へ指導をしている。																
	効率性	評価結果	改善の余地がややある															
		・支払い事務の効率化を図るため、学校への継続的な指導が必要である。 ・校務員の外部委託の検討を行う必要がある。																

事務事業の概要	事務事業名		中学校施設管理事業				担当課		教育総務課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	580	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	2	子育て・教育				
	予算科目	款	10	教 育 費					施策目標	2	学校教育				
		項	3	中学校費					基本施策	1	学校教育環境の充実				
目		1	中学校管理費						取組方針	1	安全・安心で快適な学校施設の充実				
事業概要		生徒、教職員が学校施設を安全で快適に利用できるように、中学校施設の適切な維持管理や改修を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①		中学校施設管理				⑤				⑨				
	②		中学校施設改修				⑥				⑩				
	③						⑦				⑪				
	④						⑧				⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	施設改修工事実施箇所数	箇所	目標	3	1	2	1	1	令和5年度に実施した学校でのヒアリングをもとに、必要に応じた改修工事を実施した。	
				実績	2	2	5				
				<指標の計算方法> 防水工事や機能改善等に係る工事の実施箇所数							
	活動指標	施設管理業務委託件数	件	目標						施設を維持するうえで、専門知識や資格が必要な業務を委託し、適切な管理を行った。また、教職員の働き方改革として、敷地管理上必要な業務を外部に委託し、教職員の業務負担軽減を図った。	
				実績		55	63				
				<指標の計算方法> 施設管理上必要な業務の委託件数							
				目標							
				実績							
				<指標の計算方法>							
			目標								
			実績								
			<指標の計算方法>								

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳					
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	52,620						12,900		10,102	29,618

事業の実績	①中学校施設管理 ・施設管理に伴う各種業務委託 ・使用料及び賃借料（土地借上げ、電柱共架料）の契約事務及び支払 ・施設設備修繕										
	②中学校施設改修 (改修工事に伴う設計監理業務委託を含む) ・打田中学校管理系統空調設備更新工事（R5年度繰越） ・打田中学校グラウンド防球ネット改修工事 ・那賀中学校屋内運動場女子更衣室改修工事 ・荒川中学校校舎換気設備改修工事 ・粉河中学校屋内運動場屋根改修工事										

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・生徒及び教職員が安全かつ快適に使用できるように、老朽化していく施設の維持管理に必要な事業である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がない													
		・老朽化していく施設の状況等を鑑みると修繕費を減らすことは難しいが、各校とも限られた予算の中で大きな改修に至らないよう修繕で対応できるうちに対応し、施設の維持管理に努めている。 ・施設の改修を要する場合は、緊急性、安全性を優先し、改修工事等を行う。 ・施設長寿命化の推進及び学校適正規模適正配置の観点からも適切な維持管理に努めている。														
	効率性	評価結果	改善の余地がない													
		・保守点検結果や令和5年度に実施した学校でのヒアリングをもとに、緊急性や優先度を精査したうえで必要に応じた改修工事を実施し、生徒・教職員に安全および快適な学習環境を提供できている。														

事務事業の概要	事務事業名		中学校施設長寿命化事業				担当課		教育総務課		事業区分		ハード事業	
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1219
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	2	子育て・教育			
	予算科目	款	10	教 育 費					施策目標	2	学校教育			
		項	3	中学校費					基本施策	1	学校教育環境の充実			
		目	1	中学校管理費			取組方針	1	安全・安心で快適な学校施設の充実					
事業概要			学校施設の劣化状況や状態の変化を把握し、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び平準化を図りつつ、改修等の優先順位、改修内容、実施時期等を定め、学校施設に求められる機能・性能を確保する事業											
事務事業を構成する細事業	① 設計監理業務委託		⑤						⑨					
	② 設計業務委託		⑥						⑩					
	③ 工事請負費		⑦						⑪					
	④		⑧						⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	活動指標	設計及び設計監理業務実施件数	件	目標	3	1	0	4	1	学校施設等長寿命化計画に基づき実施した。国庫補助金を有利に獲得するため、貴志川中学校屋内運動場照明器具改修工事設計監理業務を令和6年度へ前倒しし、令和7年度へ全額繰越した。		
				実績	3	1	0					
		<指標の計算方法>		工事を実施するための設計業務及び設計監理業務の実施件数								
	活動指標	工事実施件数	件	目標	0	4	1	1	3	学校施設等長寿命化計画に基づき実施できている。国庫補助金を有利に獲得するため、貴志川中学校屋内運動場照明器具改修工事を令和6年度へ前倒しし、令和7年度へ全額繰越した。		
				実績	0	4	1					
		<指標の計算方法>		工事を実施した件数								
	成果指標	学校施設の長寿命化計画に基づく工事進捗率	%	目標	0	13.4	15.3	16.9	28.3	個別施設ごとの実施計画は、公共施設マネジメント検討委員会において毎年度ローリングにて事業を精査しているため、事業総量に変動があり、目標値未達となっているが令和6年度における事業は、計画どおり完了した。		
				実績	0	13.4	15					
		<指標の計算方法>		学校施設等長寿命化計画の対象となる施設において整備が完了した割合								
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	132, 640		37, 096		63, 100			32, 444

事業の実績	①設計監理業務委託 ・貴志川中学校屋内運動場照明器具改修工事設計監理業務（令和7年度へ繰越）							
	②設計業務委託 ・令和6年度なし							
	③工事請負費（改修工事に伴う監理業務を含む） ・打田中学校屋内運動場大規模改造工事 ・貴志川中学校屋内運動場照明器具改修工事（令和7年度へ繰越）							

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・生徒にとって必要な学校施設の環境整備は、学校設置者として市が実施すべき事業である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・学校施設については、施設数が多く規模や経過年数などにより既存施設の劣化状況は様々であり、抜本的な対策がない限り、年数を重ねることに保全改修箇所は増加していく。 ・老朽化した施設が多く存在することから、学校施設等長寿命化計画の実効性を確保するにあたり、財政部局との調整が課題となるが、公共施設マネジメント検討委員会において審議の上、予算要求の可否を判断している。		
	効率性	評価結果	改善の余地がない	
・学校施設等長寿命化計画に基づき、計画的な保全を行い既存施設を効果的に活用する。 ・国庫補助金を活用し、市の財政負担の軽減及び平準化を図っている。				

事務事業の概要	事務事業名				中学校教育活動事業				担当課		教育総務課		事業区分		ソフト事業							
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		576			
	会計				一般会計																	
	予算科目				款				10				教 育 費									
					項				3				中学校費									
									目				2				中学校教育振興費					
	事業概要				生徒の学力向上と豊かな心や感性をはぐくむために、教材の購入や各種補助金の交付を行う事業																	
	事務事業を構成する細事業				① 教材器具・教科書整備				⑤ 学級費補助金				⑨									
					② 生徒派遣費補助金				⑥				⑩									
					③ 教職員研修費等補助金				⑦				⑪									
④ 現場学習等引率費補助金					⑧				⑫													
指標の実績	成果指標		指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析					
			図書充足率		%	目標			77		78		80		82		年次計画的に図書の購入を行っているが、古い本の入れ替え等、蔵書整理をしているため、充足率は上がりにくい。					
						実績			77		78											
			<指標の計算方法>		文科省が定める学校図書館図書標準に対する充足率																	
						目標																
						実績																
			<指標の計算方法>																			
						目標																
						実績																
			<指標の計算方法>																			
			目標																			
			実績																			
<指標の計算方法>																						
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																	
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源							
	35, 305				6, 655										28, 650							
事業の実績	①教材器具・教科書整備 4, 849, 130円				するため、学級費の補助を行った。																	
	②生徒派遣費補助金 体育の振興及び文化の向上を図るため、市立中学校がクラブ活動において全国大会を始めとする各種大会に選手を派遣する際の交通費、宿泊費等の経費について補助した。																					
	③教職員研修費等補助金 研修に参加する教員の参加費や、校内研修の費用を補助した。																					
	④現場学習等引率費補助金 修学旅行や現場学習に係る教員の交通費や宿泊費などを補助した。																					
	⑤学級費補助金 物価高騰による保護者の経済的負担を軽減																					
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																		
		・教育活動に必要な不可欠な教材等の購入や活動に対する補助を行う事業であり、今後も継続することが妥当な事業である。																				
	有効性	評価結果		改善の余地がない																		
		・教育活動に必要な不可欠な教材や備品、図書などの購入にあたり、数社から見積を徴して少しでも安価に購入できるようにしている。 ・研究授業や各種体験などに係る費用の一部を補助し、円滑に教育活動が行えるように支援できている。																				
	効率性	評価結果		改善の余地がない																		
・次年度の予算策定にあたり、学校から要望を聴取したうえで査定し、日常的に購入事務などについて指導していることで効率的な事業の執行が行えており、また、適正な予算の執行に結びついている。																						

事務事業の概要	事務事業名		生徒就学援助事業				担当課		教育総務課		事業区分		ソフト事業							
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		571			
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育							
	予算科目		款		10				教育費		施策目標		2		学校教育					
			項目		3				中学校費		基本施策		1		学校教育環境の充実					
		目		2		中学校教育振興費		取組方針		4		一人一人に応じた学びの機会の保障								
事業概要		経済的理由により就学が困難となる生徒が就学できるように、保護者に学用品費用等の一部を支援する事業																		
事務事業を構成する細事業				①		要保護及び準要保護児童生徒就学援助費				⑤				⑨						
				②		特別支援教育就学奨励費				⑥				⑩						
				③						⑦				⑪						
				④						⑧				⑫						
指標の実績	活動指標		指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
			就学援助費認定者数		人	目標											生徒数は減少傾向にあり、就学援助の支援を必要とする保護者も減少傾向にある。			
					実績	214		195		194										
	<指標の計算方法>		年度内認定者数																	
	活動指標		特別支援教育就学奨励費認定者数		人	目標											生徒数は減少傾向にあるが、特別支援を要する、また、医療的ケアを要する生徒は増加傾向にあり、認定者数も増加傾向にある。			
					実績	53		56		60										
			<指標の計算方法>		年度内認定者数															
	成果指標		市立中学校における就学援助認定者の割合		%	目標											生徒数の減少率よりも認定者数の減少率の方が多かったため。			
					実績	15.2		14.3		13.8										
			<指標の計算方法>		年度内市内認定者数÷3月1日現在生徒数															
					目標															
					実績															
		<指標の計算方法>																		
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳																	
			国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源							
			15,127		941										14,186					
事業の実績	①要保護及び準要保護児童生徒就学援助費 ・経済的に就学が困難な生徒に対し、学用品費、修学旅行費等必要な援助を行い、円滑な義務教育の推進を図った。 ・要保護及び準要保護児童生徒就学援助費認定者数：市内5中学校 186人、市外5中学校8人 支給者数 194人（うち市外8人） 市内中学校の認定率 13.8% ※支給者のうち要保護者（生活保護受給者）1人 修学旅行費支給含む。 ・令和7年度に新中学1年生になる生徒に対し新入学学用品費等の入学前支給を行った。（生活保護法第6条第2項に規定する要保護者で現に保護を受けている保護者に準ずる程度に困窮している保護者） 支給者数：65人																			
	②特別支援教育就学奨励費 ・特別支援学級に就学する生徒の保護者の経済的負担を軽減し、特別支援教育の普及奨励を図った。																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・就学援助費は経済的に就学が困難な家庭の生徒を就学させるために必要な事業である。 ・特別支援教育就学奨励費は、特別支援学級に入級している児童の保護者のうち、世帯所得が一定の額より低い保護者に支給しており、保護者負担の軽減に必要な事業である。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がない																
		・就学援助・特別支援教育就学奨励費ともに就学にかかる保護者の経済的負担が軽減されており、生徒の適正な就学に有効な事業である。																		
	効率性	評価結果		改善の余地がややある																
・就学援助システム導入により効率化が図られているが、一部システムで対応出来ない項目があり、別で管理する必要がある。 ・学校からの周知に加え、市広報紙やホームページにおいても制度周知を行なっている。																				

事務事業の概要	事務事業名				社会教育推進事業				担当課		生涯学習課		事業区分		ソフト事業					
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		567	
	会計				一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育					
	予算科目				款		10				教育費									
					項		4				社会教育費									
					目		1				社会教育総務費									
	事業概要				市が適切に社会教育施策を推進するために、関係機関との連携、協力や支援を行う事業															
	事務事業を構成する細事業				① 社会教育委員会運営				⑤ 社会教育主事育成・研修				⑨							
					② 社会教育指導員設置				⑥ 社会教育推進事務				⑩							
					③ 県社会教育委員連絡協議会負担金				⑦				⑪							
④ 県社会教育主事等連絡協議会負担金					⑧				⑫											

指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
	活動指標	社会教育委員会及び研修会の開催回数	回	目標	6		6		6		6		6		社会教育委員会は1回、社会教育委員研修会を5回実施し、目標値である計6回を実施した。	
		実績	5		6		6									
	<指標の計算方法>		社会教育委員会及び研修会の開催回数													
	活動指標	社会教育指導員連絡会の開催回数	回	目標	6		6		6		6		6		社会教育指導員連絡会は、書面による1回を含む目標値である計6回を実施した。	
		実績	6		6		6									
	<指標の計算方法>		社会教育指導員連絡会の開催回数													
				目標												
				実績												
	<指標の計算方法>															
			目標													
			実績													
<指標の計算方法>																

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳					
	14, 201			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
			14, 201						

事業の実績	① 社会教育委員会運営 ●社会教育委員会議 1回 ●社会教育委員研修会 5回 ●那賀地方社会教育委員連絡協議会研修会 (岩出市と合同開催) 7月30日 「すてきな見方は、すてきな味方がいっぱい」 いに」(講師:和歌山県教育カウンセリングルーム カウンセラー 岩崎哲氏) ●伊都・那賀・田辺西牟婁地方社会教育委員合同研修会 11月26日 「学校を中心とした地域連携について」 トークセッション (白浜中学校校長 西田拓大氏 OS株式会社不動産事業部課長 淀 友樹氏) ●和歌山県社会教育研究大会 「人づくり・つながりづくり・地域づくりを支える社会教育委員～多様な人々と			の連携・協働を支える仕組みづくり～」 (社会教育委員による講演) ②社会教育指導員設置 指導員数 5人 ③県社会教育委員連絡協議会負担金 29, 000円 ④県社会教育主事等連絡協議会負担金 0円 ⑤社会教育主事育成・研修 社会教育主事講習受講0名 (実施機関 奈良教育大学：通勤困難な為受講者無し) ⑥社会教育推進事務		

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																
		・社会教育法に基づき委員を委嘱しており、社会教育に関する調査研究、諸計画の立案や提言など社会教育を推進する上で重要な役割を担っている。 ・社会教育指導員は、各地区公民館において各地域における社会教育についての直接指導、学習相談、社会教育団体の育成、また社会教育を推進するための具体策を企画提案しており、各指導員の連携により市全体の社会教育の推進を図っている。																	
	有効性	評価結果	改善の余地がない																
		・社会教育委員の立案や提言を求めながら市の社会教育のあるべき姿をモデル化し、各種計画を策定する実施方法は有効である。																	
	効率性	評価結果	改善の余地がない																
		・社会教育法に基づき社会教育委員を委嘱している。 ・社会教育指導員については、学識経験者を各地区公民館に会計年度任用職員として配置しているため、現状の実施方法は効率的である。																	

事務事業の概要	事務事業名			文化振興事業				担当課		生涯学習課			事業区分		ソフト事業					
	会計			一般会計				新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		565		
	予算科目	款項目	10	教 育 費				長期総合計画体系	政策目標		2		子育て・教育							
			4	社会教育費					施策目標		3		生涯学習・生涯スポーツ							
			1	社会教育総務費					基本施策		1		生涯学習の推進							
									取組方針		1		生涯学習機会の提供							
	事業概要			市民の芸術文化への関心を高めるために、関連団体への支援やイベント、啓発を行う事業																
	事務事業を構成する細事業	①			文化協会運営補助金				⑤						⑨					
		②			自主文化事業（粉河ふるさとセンター）				⑥						⑩					
		③			自主文化事業（貴志川生涯学習センター）				⑦						⑪					
④			劇団運営補助金				⑧						⑫							
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	自主文化事業開催回数	回	目標		8		8		8		8		8		自主文化事業開催回数は、目標値を下回った。				
				実績		2		6		6										
				<指標の計算方法> 自主文化事業開催回数																
	成果指標	自主文化事業入場者数	人	目標		3, 000		3, 000		3, 000		3, 000		3, 000		自主文化事業入場者数は、R5年度よりも増加した。				
				実績		665		3, 092		3, 320										
				<指標の計算方法> 自主文化事業入場者数																
				目標																
				実績																
				<指標の計算方法>																
			目標																	
			実績																	
			<指標の計算方法>																	
			目標																	
			実績																	
			<指標の計算方法>																	
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳															
	19, 538				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
事業の実績	①文化協会運営補助金 加盟団体 102団体 (打田支部 26団体、粉河支部 26団体、 那賀支部 11団体、桃山支部 11団体、 貴志川支部 28団体) 文化祭の開催 ・10月26日(土)～27日(日) 粉河支部・桃山支部・貴志川支部 ・11月2日(土)～3日(日) 打田支部・那賀支部 ②自主文化事業（粉河ふるさとセンター） ・9月29日(日) 「丘みどりコンサート2024 ～演魅vol.1.5～」 入場者数764人 ・1月26日(日)																			
	「粉河ふるさとセンター30周年記念自主文化事業 ミュージカル～ALICE～」 入場者数622人 ・3月9日(日) 「スーパー J A Z Z コンサート～Sofia Rei & Jorge Roeder～」 入場者数610人 ③自主文化事業（貴志川生涯学習センター） ・8月25日(日) 「かがやきホール30周年記念講演 清原和博 ～かがやきの未来～」 入場者数428人 ・1月19日(日) 「かがやきホール30周年記念公演・海上自衛隊呉地方隊70周年記念公演 海上自衛隊呉音楽隊コンサート」 入場者数452人 ・2月16日(日) 「かがやきホール30周年記念公演 ANAチーム羽田オーケストラ コンサート」 入場者数444人 ④劇団運営補助金 ・令和6年度は申請なし																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・文化協会各支部のさまざまな文化芸術活動や文化祭の開催、また地域の子供への文化芸術に関する指導を通じた交流活動に対して、市が支援するのは妥当である。 ・あらゆる世代の市民が、心豊かな生活を送れるように、市が音楽や演劇ほか幅広く優れた文化芸術に触れる機会を提供することは妥当である。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																
		・自主文化事業については、一般職の職員が催事企画を行っており、市民の芸術文化に関する関心を高めるためにも、市民のニーズや時代のニーズを捉えた魅力的な事業を行っていく必要がある。 ・現在、旧町単位の各支部5会場で開催されている文化祭の実施方法について、分散と集約のそれぞれのメリットデメリットを確認し、主催団体と今後の方向性を協議する必要がある。																		
効率性	評価結果		改善の余地がややある																	
	・文化協会会員の高齢化、会員数の減少が顕著である。市の補助だけではなく、今後も文化協会の活性化に向けての取組を進めていく必要がある。																			

事務事業の概要	事務事業名				家庭教育推進事業				担当課		生涯学習課		事業区分		ソフト事業				
	新規・継続				継続		事業期間		単年度繰返し				事業番号		562				
	会計				一般会計				政策目標		2		子育て・教育						
	予算科目	款	10	教 育 費				施策目標		1		子育て環境・保育サービス							
		項	4	社会教育費				基本施策		3		家庭と地域による子供の健全育成の推進							
		目	1	社会教育総務費				取組方針		4		家庭教育支援の推進							
	事業概要				市民（保護者）に家庭教育の大切さを理解してもらうために、家庭教育の重要性の啓発を行う事業														
	事務事業を構成する細事業	① 子供読書活動推進				⑤				⑨									
		② PTA連絡協議会補助金				⑥				⑩									
		③ 家庭教育講座				⑦				⑪									
④				⑧				⑫											
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	活動指標	読み聞かせ回数		回	目標	50		50		50		50		50		読み聞かせボランティア等との都合が合わない等の理由により実施回数は減少した。			
		実績			25		46		41										
		<指標の計算方法> 河北・河南図書館での開催回数 定例（月2回程度）＋夏休み期間中分																	
	成果指標	読み聞かせ参加者数		人	目標	900		900		900		500		500		広報紙、ホームページ、チラシ等の広報の効果が有り参加者は増加した。			
		実績			203		408		473										
		<指標の計算方法> 河北・河南図書館での参加人数 定例（月2回程度）＋夏休み期間中分																	
	活動指標	家庭教育講座回数		回	目標					24		24		24		2歳6ヶ月健康相談が予定より2回少なかったため、付随する家庭教育講座の回数も目標より2回少なかった。			
		実績							22										
		<指標の計算方法> 2歳6カ月健康相談時に開催した講座回数																	
成果指標	家庭教育講座参加者数		人	目標					100		100		100		対象となる親子に直接参加を呼び掛けた結果、目標を達成した。				
	実績							109											
	<指標の計算方法> 2歳6カ月健康相談時に開催した講座参加人数																		
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	548														548				
事業の実績	①子供読書活動推進 ・学校司書との連携、学校図書館訪問 ・読み聞かせ 〔河北図書館〕 〔河南図書館〕 4月 2回 19人 2回 13人 5月 2回 9人 1回 10人 6月 1回 19人 2回 19人 7月 3回 62人 1回 23人 8月 1回 17人 2回 15人 9月 2回 20人 1回 19人 10月 2回 19人 2回 12人 11月 3回 40人 1回 5人 12月 1回 10人 2回 18人 1月 3回 42人 1回 9人 2月 1回 21人 2回 29人 3月 2回 15人 1回 8人 計 23回 293人 18回 180人 ②PTA連絡協議会補助金 150,000円																		
	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・子供読書活動推進は、未来を担う子供たちが読書をして自ら学び、自ら考え、自らの力で成長するための礎を作ることができ、市が実施することは妥当である。 ・PTA連絡協議会については、単位PTAとの緊密な連絡と相互の協力によって、児童生徒の福祉の増進を図り、教育の振興に寄与する活動に対して市が支援することは妥当である。															
		有効性	評価結果		改善の余地がややある ・子供読書活動の推進や家庭教育講座は乳幼児期から学齢期の重要な時期に、親子の基本的信頼関係と愛着形成を育み、保護者同士の交流につながる事業であるため、より多くの方に参加していただけるよう事業の内容を工夫していく必要がある。 ・乳幼児期から学齢期まで、切れ目のない家庭教育支援の推進を図るため関係各課の連携による推進体制の構築を図り、成果を向上させる必要がある。														
			効率性	評価結果		改善の余地がない ・読み聞かせについては図書館ボランティアの協力で事業を実施していることから、効率的でコスト削減の余地はない。													

事務事業の概要	事務事業名		生涯学習推進事業				担当課		生涯学習課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	848	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	2	子育て・教育				
	予算科目	款	10	教 育 費					施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ				
		項	4	社会教育費					基本施策	1	生涯学習の推進				
目		1	社会教育総務費						取組方針	1	生涯学習機会の提供				
事業概要		市民に生涯学習の推進をするために、生涯学習活動に支援を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①		はたちのつどい実行委員会運営				⑤					⑨			
	②		はたちのつどい開催				⑥					⑩			
	③		ユネスコ連絡協議会補助金				⑦					⑪			
	④		婦人会補助金				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析					
	活動指標	はたちのつどい実行委員会委員数	人	目標	12	12	12	12	12	令和6年度はたちのつどい実行委員会について、地域の協力を得ながら募集を行ったが、令和5年度より減少した。					
				実績	8	7	5								
		<指標の計算方法>		はたちのつどい実行委員会委員数											
	成果指標	はたちのつどい出席率	%	目標	80	80	80	80	80	令和6年度はたちのつどい出席率については、季節性インフルエンザの大流行で、例年の実績値を下回り、目標も達成できなかった。					
				実績	73.78	78.41	70.38								
		<指標の計算方法>		当日の出席者を対象者（住登外で出席申込希望者含）で除した割合											
				目標											
				実績											
		<指標の計算方法>													
				目標											
				実績											
	<指標の計算方法>														
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳										
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
	1,940									1,940					
事業の実績	①はたちのつどい実行委員会運営 第1回 7月12日 第2回 8月 6日 第3回 9月10日 第4回 10月 9日 第5回 11月15日 第6回 12月19日 第7回 1月29日					④婦人会補助金 99,996円									
	②はたちのつどい開催 1月12日 ・開会式典 ・イベント 1. スライドショー上映 （自主イベント） 2. ティモンディによるお笑いライブ （芸能イベント）														
	③ユネスコ連絡協議会補助金 90,000円														
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない											
		・個人の学習活動が人との交流を生み、地域の連帯感や自治意識の向上を図り、地域意識の活性化につなげることができる生涯学習を市が推進することは妥当である。													
	有効性	評価結果		改善の余地がややある											
		・例年募集している「はたちのつどい実行委員会」は、はたちのつどい式典の進行及びイベントの企画・運営を行うことにより、社会の一員として活動する意識や責任感、達成感を得ることができ有効性が高い。 ・「はたちのつどい実行委員会」の人数については、毎年増減があるが、あらゆる知り合いを通じて人伝が有効であるとの調査結果に基づいた広報活動及び募集活動が必要である。 ・ユネスコ連絡協議会及び婦人会の活動については、自主運営ができており事業の有効性が高い。													
効率性	評価結果		改善の余地がない												
	・事業内容を精査し、適正な補助額で事業を展開しており、効率性は高い。														

事務事業の概要	事務事業名		公民館活動推進事業				担当課		生涯学習課		事業区分		ソフト事業			
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	564		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	2	子育て・教育					
	予算科目	款	10	教 育 費					施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ					
		項	4	社会教育費					基本施策	1	生涯学習の推進					
目		2	公民館費			取組方針	1	生涯学習機会の提供								
事業概要		市民の交流機会の創出や教養を高めてもらうために、公民館でのイベントや講座の開催を行う事業														
事務事業を構成する細事業	①		公民館講座・各種教室開催				⑤		公民館へ行こうフェア				⑨			
	②		公民館主事設置				⑥		県公民館連絡協議会負担金				⑩			
	③		公民館活動・運営委託				⑦						⑪			
	④		公民館運営審議会				⑧						⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析						
	活動指標	公民館講座教室数	教室	目標	45	45	45	50	50	公民館講座教室数は、目標値を超えることができた。						
				実績	54	60	58									
	<指標の計算方法>		各地区公民館及びコミセンで開催の講座教室数													
	成果指標	公民館講座出席率	%	目標	80	80	80	80	80	受講者のニーズ把握や、講座内容に変化を与えることで、各地区公民館及びコミセンで開催の講座教室申込者の平均出席率は、目標値を超えることができた。						
				実績	76.7	75.2	85.8									
	<指標の計算方法>		各地区公民館及びコミセンで開催の講座教室申込者の平均出席率													
	活動指標	公民館へ行こうフェア開催日数	日	目標	15	15	15	15	15	公民館へ行こうフェアの開催日数は、目標値を超えることができた。						
				実績	17	23	25									
	<指標の計算方法>		公民館へ行こうフェア開催日数													
成果指標	公民館へ行こうフェア参加人数	人	目標	500	500	500	800	800	公民館へ行こうフェアの参加人数は、講座の見直しと回数増により目標値を超えることができた。							
			実績	466	744	1,068										
<指標の計算方法>		公民館へ行こうフェア参加人数														
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	35,250												1,070		34,180	
事業の実績	①公民館講座・各種教室開催 公民館講座（人数は延べ数） 打田地区公民館 17講座 2,554人 粉河地区公民館 7講座 1,009人 那賀地区公民館 5講座 1,100人 桃山地区公民館 5講座 704人 桃山1コミセン 3講座 212人 貴志川地区公民館 9講座 1,250人 貴志川4コミセン 12講座 2,151人 各種教室（女性学級）（人数は延べ数） →いきいき交流教室へ統合（R6年度～） 各種教室（高齢者教室）（人数は延べ数） 打田地区公民館（いきいき交流教室） 12講座 410人 桃山地区公民館 7講座 110人 貴志川地区公民館 7講座 265人				③公民館活動・運営委託 粉河地区4分館 864,383円 那賀地区5分館 2,200,000円 貴志川地区4コミセン 704,000円 ④公民館運営審議会 1回開催 ⑤公民館へ行こうフェア 打田地区公民館 “ジオ”って何？（44人） THE落語（25人） 「南極の水」を体感！（64人） Let's enjoy dancing!（20人） 「親子でヨガ」体験教室（13人） 「地震・津波の基礎知識とL型金具での家具固定術」を学ぶ（30人） 「超絶！チョークアート」体験教室（39人） ほっこり“おりがみ”体験教室（41人） クリスマスコンサート（99人） ハウスキーピング講座1回目（73人） ハウスキーピング講座2回目（65人） 粉河地区公民館				ミニ涼み台を作ろう（24人） キャンプ飯料理教室（18人） 那賀地区公民館 押し花体験教室（24人） 太極拳&練功十八法（8人） 書道アート教室（13人） お菓子作り体験教室（16人） 桃山地区公民館 ドライフラワーアレンジメント（18人） ベリーダンスエクササイズ（22人） 手話deほっとタイム（18人） クリスマスコンサート（108人） 貴志川地区公民館 美容と健康のインド式ヨガ体験（15人） チョークアートに挑戦！（12人） 食品サンプルを作ろう（21人） 新春箏曲コンサート（238人） ⑥県公民館連絡協議会負担金 30,000円							
	②公民館（コミセン）主事設置 貴志川地区公民館 1名 桃山1コミセン 1名 貴志川4コミセン 4名															
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない												
		・社会情勢や市民ニーズに合わせて公民館活動の推進を図る必要があり、地域の要望・課題に対する講座や公民館へ来館するきっかけとなるイベント開催は、社会教育が担う部分が多く、市が公民館活動を推進することは妥当である。 ・公民館の利用は、各種団体に加盟している高齢者の割合が多く、高齢者以外の子育て世代など若年層の利用が少ない傾向があり、誰もが気軽に立ち寄ることができる公民館づくりを進めることは妥当である。														
	有効性	評価結果		改善の余地がややある												
		・公民館の利用は、各種団体に加盟している高齢者の割合が多く、高齢者以外の子育て世代など若年層の利用が少ない傾向があり、誰もが気軽に立ち寄ることができる公民館づくりを進める必要がある。 ・社会的課題や地域課題解決のための講座やイベントを積極的に開設することで、一部の地区公民館で老若男女（障害の有無に関係なく）を問わず参加者が増加傾向にある。すべての地区公民館で相乗効果による成果向上の余地がある。														
効率性	評価結果		改善の余地がない													
	・公民館講座及び公民館へ行こうフェア等の参加者には受講料及び材料費等を受講者より徴収していることから効率性は高い。															

事務事業の概要	事務事業名			公民館管理運営事業				担当課		生涯学習課		事業区分		ソフト事業									
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		121					
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育									
	予算科目			款		10				教育費		施策目標		3		生涯学習・生涯スポーツ							
				項		4				社会教育費		基本施策		1		生涯学習の推進							
目				2		公民館費				取組方針		3		生涯学習施設の適切な管理									
事業概要			市民が公民館を安全で快適に利用できるように、公民館の適切な維持管理や改修を行う事業																				
事務事業を構成する細事業			①		中貴志コミュニティセンター施設管理				⑤		ふれあいコミュニティセンター施設管理				⑨								
			②		東貴志コミュニティセンター施設管理				⑥		粉河4分館(川原、竜門、長田、鞆瀬)施設管理				⑩								
			③		西貴志コミュニティセンター施設管理				⑦		那賀5分館(麻生津、名手、那賀、上名手、王子)				⑪								
			④		丸栖コミュニティセンター施設管理				⑧						⑫								
指標の実績	成果指標			指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
				コミュニティ施設等利用団体数		団体		目標		1, 200		1, 200		1, 200		2, 000		2, 000		コミュニティ施設及び公民館分館施設の利用団体数である。一部の公民館分館の活動拠点を近隣の地区公民館分館の活動拠点を近隣の地区公民館施設に集約したことなどに伴い利用団体が減少した。			
						実績		1, 549		1, 920		1, 668											
	<指標の計算方法>			コミュニティ施設等利用団体数																			
	成果指標			コミュニティ施設等利用人数		人		目標		50, 000		50, 000		50, 000		60, 000		60, 000		コミュニティ施設及び公民館分館施設の利用人数であり、行事内容により大幅な増減がある。一部の公民館分館の活動拠点を近隣の地区公民館施設に集約したことなどに伴い利用者が減少した。			
				実績		58, 198		67, 651		64, 738													
				<指標の計算方法>			コミュニティ施設等利用人数																
								目標															
						実績																	
				<指標の計算方法>																			
							目標																
					実績																		
			<指標の計算方法>																				
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳																			
				国庫支出金			県支出金			地方債			繰入金			その他			一般財源				
				111, 633									66, 900						561			44, 172	
事業の実績	①中貴志コミュニティセンター施設管理 〔修繕〕調理室空調取替修繕 浄化槽放流ポンプ取替修繕 ②東貴志コミュニティセンター施設管理 〔修繕〕遊具修繕 電気設備コンデンサー取替修繕 調理室空調取替修繕 駐車場ライン塗装 バスケットゴール取替修繕 ③西貴志コミュニティセンター施設管理 〔修繕〕調理室コンロ、オープン取替修繕 受水槽ポンプ取替修繕 発電機修繕 ④丸栖コミュニティセンター施設管理 〔修繕〕駐車場ライン塗装 電気設備コンデンサー取替修繕			⑤ふれあいコミュニティセンター施設管理 〔修繕〕機械警備機器取替修繕 研修室照明器具取替修繕 3階窓ガラス取替修繕 非常用照明取替修繕 低圧漏電警報器取替修繕 エレベーター改修工事 外壁改修工事 トイレ改修工事 ⑥粉河4分館(川原、竜門、長田、鞆瀬)施設管理 ⑦那賀5分館(麻生津、名手、那賀、上名手、王子)			〔工事〕 <																

事務事業の概要	事務事業名			人権教育推進事業				担当課		生涯学習課		事業区分		ソフト事業					
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		561	
	会計			一般会計								政策目標		5		地域づくり・行政経営			
	予算科目	款	10	教 育 費				長期総合計画体系				施策目標		1		人権尊重			
		項	4	社会教育費								基本施策		1		人権が尊重された差別のない社会の実現			
		目	3	人権教育費								取組方針		2		人権啓発・教育の推進			
	事業概要			市民の人権意識の高揚を図るために、講座の開催や啓発、関係機関の補助を行う事業															
	事務事業を構成する細事業			① 人権学習講座開催				⑤						⑨					
				② 保護者学級補助金				⑥						⑩					
				③ 識字学級を支援				⑦						⑪					
④ 人権ポスター・カレンダー・標語作成				⑧						⑫									
指標の実績	指標名			単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
	活動指標	じんけん学習講座開催回数	回	目標		5		5		5		5		5		年間5地区公民館で開催する講座回数。全5回予定どおり開講することができた。			
				実績		5		5		5									
				<指標の計算方法> じんけん学習講座開催回数															
	成果指標	じんけん学習講座参加者数	人	目標		200		200		200		200		200		講座の周知を積極的に実施したことにより、じんけん学習講座参加者数は増加傾向である。			
				実績		124		168		184									
				<指標の計算方法> じんけん学習講座参加者数															
				目標															
				実績															
				<指標の計算方法>															
			目標																
			実績																
			<指標の計算方法>																
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳														
	4, 258				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
事業の実績	①人権学習講座開催 5地区公民館で開催 参加者184名																		
	②保護者学級補助金 小学校に在籍する児童の保護者の人権意識を高めるため、さまざまな人権について学ぶ保護者学級の運営補助を行った。																		
事業の実績	③識字学級を支援 定例学級開催、交流会や研修会への参加を支援した。																		
	④人権ポスター・カレンダー・標語作成 啓発物資・啓発資料作成 クリアファイル 5,000枚 人権啓発ポスター・人権標語作品集 500冊																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・本事業の人権教育推進に関するさまざまな取組は、児童生徒をはじめ広く市民の人権意識の高揚を図る効果があることから市が実施することは妥当である。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がややある															
		・公民館にて入賞作品以外の人権啓発ポスター応募作品の展示会を行い多くの来場者が見られたため、人権意識の向上に有効であった。 ・じんけん学習講座の講師料が年々上がってきているが、コスト面を考えると近隣で高額でない講師を探す必要があり講座のバリエーションを広げるのが難しい状況になってきている。																	
	効率性	評価結果		改善の余地がない															
・県からの補助金もあり、費用面での効率性は高いと考えられる。																			

事務事業の概要	事務事業名			文化財保護事業			担当課		生涯学習課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		558	
	会計			一般会計					政策目標		2		子育て・教育					
	予算科目	款	10	教 育 費					施策目標		3		生涯学習・生涯スポーツ					
		項	4	社会教育費					基本施策		2		歴史資産の保護・活用					
	目	4	文化財保護費					取組方針		1		歴史文化の保存・継承						
事業概要				市内の文化財を後世に残すために、文化財の保護や活用を行う事業														
事務事業を構成する細事業				① 文化財保護審議会運営			⑤ 全国史跡整備市町村協議会負担金			⑨ 文化財保存活用地域計画協議会運営								
				② 発掘調査・研究			⑥ 文化財等保存整備事業補助金			⑩ 文化財の指定								
				③ 文化財保護管理委託			⑦ 指定文化財管理費補助金			⑪								
				④ 活用事業（講演・企画展等）・啓発			⑧ 無形民俗文化財等保存団体補助金			⑫								
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析								
	成果指標	歴史体験教室・企画展等の参加者数		人	目標	600	600	600	600	600	企画展の開催が1回となったこと等により参加者数が減少し、目標を達成することができなかった。							
				実績	473	958	521											
		<指標の計算方法>		参加者名簿から算出														
	活動指標	歴史体験教室・企画展等の開催数		回	目標	5	5	5	5	5	企画展は1回となったが、新たに鬼瓦グランプリを開催し目標を達成することができた。							
				実績	3	6	5											
		<指標の計算方法>		歴史体験教室・企画展等の開催数														
				目標														
			実績															
	<指標の計算方法>																	
			目標															
		実績																
<指標の計算方法>																		
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳														
				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	23, 853			3, 121		118						56		20, 558				
事業の実績	①文化財保護審議会運営 ・第1回（審議会）6月14日 ・第2回（審議会）1月16日 ・調査（民俗文化財）8月11日 ②発掘調査・研究 ・開発事業に伴う発掘調査29件を実施 ・昨年度の調査内容をまとめた市内遺跡発掘調査概要報告書を300部作成。 ③文化財保護管理委託 ・指定文化財の内、8件について所有者に保護管理委託を行った。 ④活用事業（講演・企画展等）・啓発 ・歴史民俗資料館 『第1回紀伊国分寺「鬼瓦」グランプリ』（製作7月20日～8月18日 参加者40人） （展示8月20日～9月29日打田生涯学習センター 投票数527票） 歴史体験教室 ワクワレきし体験『幻の「粉河うちわ」づくりに挑戦しよう！』（8月17日 参加者 小学生20人）			企画展「那賀郡と古代天皇が歩いた足跡」1月22日～2月24日 期間中來館者275人（講演会2月9日 参加者66人） ・旧南丘家住宅 特別開館5月3日～5日、9月14日～16日、3月1日～3日 來館者は28人 「旧南丘家住宅寄席」9月21日参加者28人 ・粉河ふるさとセンター小ホール 「日本遺産構成自治体3市1町合同葛城修験公開講座」11月30日参加者130人 ・華岡青洲研究事業 研究論文作成 華岡青洲の研究者に論文の執筆を依頼し、冊子として300部作成。 ⑤全国史跡整備市町村協議会負担金 ・補助事業について国への要望に関する事務を行った。 ⑥文化財等保存整備事業補助金 ・百合山の自然と遺跡を生かす会の活動、西田中神社羊宮神社本殿・八幡神社本殿保存修理、賀茂神社のスギ保護管理、粉河寺防			災設備改修、粉河祭礼整備事業、華岡青洲顕彰事業に補助を行った。 ⑦指定文化財管理費補助金 ・対象 粉河寺、鞆洲八幡神社、三船神社 ⑧無形民俗文化財等保存団体補助金 ・対象 2保存団体 ⑨文化財保存活用地域計画協議会運営 ・第1回（協議会）7月30日 ・第2回（協議会）11月20日 ・第3回（協議会）2月19日 アンケート調査 8月～10月 ワークショップ 1月25日 ⑩文化財の指定 3月13日付けで石造地藏菩薩坐像（神通）と五輪塔（中三谷）の2件を市指定文化財として指定した。											
	妥当性			評価結果 改善の余地がない ・文化財は市の財産であり、後世に文化財を残すためには継続的に保護・活用を行い、市民にその価値を伝えていくことが重要である。														
事業の事後評価	有効性			評価結果 改善の余地がややある ・企画展や講演会等、文化財を活用した事業を目標どおり行うことができた。少子高齢化等のため文化財の保護が困難となってきた。地域の文化財を地域住民を含めた市全体で守っていく必要があり、文化財を活用した事業を通じて、市民の文化財への関心を高めることは重要である。														
	効率性			評価結果 改善の余地がない ・企画展や講演会は、専門の有識者の協力を得て開催を行った。資料を職員で作成しコストを削減している。また歴史体験教室や文化財の説明を紀の川市文化財サポーターの会との協働で行っており、効率よく実施できている。														

事務事業の概要	事務事業名				文化財施設管理運営事業				担当課		生涯学習課			事業区分		ソフト事業				
									新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	553			
	会計				一般会計				長期総合計画体系		政策目標	2	子育て・教育							
	予算科目				款	10	教 育 費	施策目標			3	生涯学習・生涯スポーツ								
					項	4	社会教育費	基本施策			2	歴史資産の保護・活用								
				目	4	文化財保護費	取組方針	1	歴史文化の保存・継承											
事業概要				市民が文化財施設を快適に利用できるように、適切な維持管理や改修を行う事業																
事務事業を構成する細事業				① 歴史民俗資料館・体験館施設管理				⑤ 旧南丘家住宅管理				⑨								
				② 紀伊国分寺公園管理				⑥ 藤崎弁天管理				⑩								
				③ 西行法師像モニュメント管理				⑦ 文化財看板修繕				⑪								
				④ 旧名手本陣管理				⑧				⑫								
指標の実績	成果指標		指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析 令和6年度より第2期整備が開始され、整備が進むことで、本史跡の本来の姿や価値に近づいている。また、雛人形の展示などのイベントや学校教育に利用されることで目標値を上回ることができている。			
			旧名手宿本陣利用者数		人	目標	3, 000		3, 000		3, 000		5, 500		5, 500					
						実績	1, 747		3, 538		5, 226									
	<指標の計算方法>		芳名録へ記載されている人数																	
	成果指標		歴史民俗資料館利用者数		人	目標	3, 000		3, 000		3, 000		3, 000		3, 000		企画展や講演会を多く実施したことで利用者は増加してきているが、企画展が1回となったことで昨年度より減少している。			
			実績	1, 083		2, 022		1, 421												
			<指標の計算方法>		芳名録へ記載されている人数															
						目標														
						実績														
			<指標の計算方法>																	
					目標															
					実績															
		<指標の計算方法>																		
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳															
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
	18, 141						1, 090		4, 300						12, 751					
事業の実績	① 歴史民俗資料館・体験館施設管理 漏電火災報知器取替修繕 自動火災報知設備修繕 誘導灯修繕 施設の管理を委託				名勝範囲内の雑木伐採 ⑦ 文化財看板修繕 絹本著色不動明王像（丸栖）・賀茂神社のスギ（西川原）															
	② 紀伊国分寺公園管理 金堂西面基壇修繕 舗装・路盤修繕 ③ 西行法師像モニュメント管理 西行法師像モニュメント用地の借用に関する事務を行った。 ④ 旧名手本陣管理 名手本陣戸袋修繕 施設の管理を委託 ⑤ 旧南丘家住宅管理 年間を通じ施設の管理を行った。 ⑥ 藤崎弁天管理 トイレ・ベンチ解体撤去工事 看板設置工事 手水舎修理工事																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・重要文化財や市指定文化財など歴史的な建造物を含む文化財施設は、市民の文化財に対する保護意識や愛着を醸成するために不可欠な施設である。適切に管理し、後世に受け継ぐべきものである。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がない																
		・歴史民俗資料館で企画展や講演会を開催し、他の施設でも活用事業を開催することで、来館者の増加につなげている。																		
効率性	評価結果		改善の余地がない																	
	・一部の施設管理や国分寺公園の草刈りを個人に委託し経費を抑えている。国分寺公園や歴史民俗資料館等、施設の状況を把握し、計画的に改修等を進めている。																			

事務事業の概要	事務事業名		旧名手宿本陣整備事業				担当課		生涯学習課		事業区分		ハード事業	
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	552
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	2	子育て・教育			
	予算科目	款	10	教 育 費					施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		項目	4	社会教育費					基本施策	2	歴史資産の保護・活用			
		目	4	文化財保護費				取組方針	1	歴史文化の保存・継承				
	事業概要		旧名手宿本陣を後世に残すために、整備や活用を行う事業											
事務事業を構成する細事業		①	紀の川市名手本陣保存整備委員会運営				⑤				⑨			
		②	保存整備計画進捗管理				⑥				⑩			
		③	保存整備・保存修理				⑦				⑪			
		④					⑧				⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	旧名手宿本陣利用者数	人	目標	3, 000	3, 000	3, 000	5, 500	5, 500	令和6年度より第2期整備が開始され、整備が進むことで、本史跡の本来の姿や価値に近づいている。また、雛人形の展示などのイベントや学校教育に利用されることで目標値を上回ることができている。	
				実績	1, 747	3, 538	5, 226				
	<指標の計算方法>		芳名録へ記載されている人数								
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	11, 298		5, 010	501	4, 800			987

事業の実績	①紀の川市名手本陣保存整備委員会運営 第1回 5月31日、第2回 3月13日 個別協議 7月16日				
	②保存整備計画進捗管理 保存整備委員会や県に指導助言をもらい計画の進捗管理を実施。				
	③保存整備・保存修理 第2期整備として名手役所主屋前土塀の復旧及び消防設備の設置を実施。 重要文化財妹背家住宅主屋の戸袋修理を実施。				

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない			
		・旧名手宿本陣は市所有の文化財であり、敷地は国史跡、建物3棟は重要文化財に指定されている。地域の歴史を伝える重要な文化財であり、後世に受け継がなければならない。国や県、有識者で構成される保存整備委員の指導や助言を得て、計画的に事業を実施している。				
	有効性	評価結果	改善の余地がない			
		・関係機関や有識者の指導や助言をもらいながら整備を実施しており、本史跡の本来の姿や本質的な価値へ近づいている。適切な整備事業により様々な利用者があり、また、学校教育に活用されるなど、利用者数が増加している。				
効率性	評価結果	改善の余地がない				
	・整備事業は国や県の補助を受け、計画的に実施している。施設管理は地元の個人に委託するなどコストを抑えている。					

事務事業の概要	事務事業名		青少年健全育成事業				担当課		生涯学習課			事業区分		ソフト事業				
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		551	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育					
	予算科目	款	10		教 育 費				施策目標		1		子育て環境・保育サービス					
		項	4		社会教育費				基本施策		3		家庭と地域による子供の健全育成の推進					
		目	5		青少年育成費				取組方針		3		地域との交流・活動の推進					
事業概要		青少年の健全育成を図るために、関係団体への活動支援や啓発活動を行う事業																
事務事業を構成する細事業	①		青少年育成市民会議活動				⑤						⑨					
	②		青少年健全育成事業				⑥						⑩					
	③		ガールスカウト補助金				⑦						⑪					
	④		少年少女発明クラブ補助金				⑧						⑫					

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
	活動指標	紀の川市少年メッセージ参加者数	人	目標	340	340	340	250	250	紀の川市少年メッセージを5年ぶりに開催することができたが、目標人数を達成できなかった。		
				実績	0	0	203					
		<指標の計算方法>		紀の川市少年メッセージ参加者数（主催者、来賓、発表者、スタッフ含む）								
	活動指標	紀の川市青少年健全育成推進員人数	人	目標	100	100	100	100	100	紀の川市青少年健全育成推進員数は、ほぼ現状維持している。		
				実績	101	98	99					
		<指標の計算方法>		紀の川市青少年健全育成推進員総数								
	活動指標	紀の川市少年少女発明クラブ開催日数	日	目標	12	12	12	12	12	紀の川市少年少女発明クラブの開催目標は、予定通り12日開催でき、目標を達成できた。		
				実績	11	12	12					
		<指標の計算方法>		紀の川市少年少女発明クラブ開催日数								
成果指標	紀の川市少年少女発明クラブ参加人数	人	目標	330	330	330	330	330	紀の川市少年少女発明クラブの参加人数は、定員を増やしたことに伴い参加者が増加したものの、目標達成はできなかった。			
			実績	228	241	314						
	<指標の計算方法>		紀の川市少年少女発明クラブ参加人数									

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	3,723							3,723

事業の実績	①青少年育成市民会議活動 「紀の川市少年メッセージ2024」 内容：市内の5中学校より提出のあった作文1,243作品から8作品を選定し、作文審査及び発表審査を行った。最優秀賞（1点）、優秀賞（2点）、佳作（5点）及び入選（35点）として表彰を行った。 記念冊子配布部数：218冊		創造性豊かな少年少女を育成するために、科学的な興味・関心を追究する場を提供し、自由な環境の下で創造活動を行った。紀の川市内の小学4年生から6年生の児童が対象で、令和6年度は定員以上の応募があり、抽選により選ばれた30人がクラブ員として活動を行った。 開催回数：12回 100,000円	
	②青少年健全育成事業 紀の川市青少年健全育成推進協議会を中心に、地域・学校・家庭と連携し、各地区での地区事業を実施した。			
	③ガールスカウト補助金 ガールスカウト 粉河・貴志川 2団体 35,000円×2団体			
	④少年少女発明クラブ補助金			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・市内の各種団体から構成されている青少年育成市民会議と、市内各地域の推進員で構成されている青少年健全育成推進協議会は、それぞれの役割を果たしているが、次代を担う青少年の健全な育成を目的とした活動であるため、市が事業を委託して実施することは妥当である。 ・青少年健全育成団体であるガールスカウト及び紀の川市少年少女発明クラブに対し、補助金を交付して支援することは妥当である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
		・青少年が地域においてさまざまな学習体験を行うことができ、有効性が高い。 ・地域に根ざした青少年健全育成事業を市内各地で開催することは、市内全ての子供たちに学習の機会を与えるため有効性は高いが、地域独自の活動が多いため市内全ての子供たちが市内のどこに住んでいても各地域の事業を平等に体験し、学ぶ機会を得るためには地域相互の情報共有や意見交換等の連携強化、あるいは協力体制の構築を図ることが必要である。 ・青少年健全育成団体の支援と育成のために補助金を交付することは、さまざまな学習体験の企画につながり有効性が高い。 ・市民に青少年健全育成の理解を深め、次世代の育成を図る機運を高めてもらうために、青少年育成市民会議活動の啓発を推進し、加盟団体や会員の増加を図ることで、さらなる効果を期待できる。		
	効率性	評価結果	改善の余地がない	
・青少年育成市民会議と青少年健全育成推進協議会の活動形態は全域的な活動と地域に密着した活動に分かれていて、それぞれの団体に事業委託しているため、効率性が高い。 ・上記2団体（青少年育成市民会議、青少年健全育成推進協議会）の節減努力により事業費については必要最小限で実施しており、効率性は非常に高い。				

事務事業の概要	事務事業名		地域子ども会活動支援事業				担当課		生涯学習課		事業区分		ソフト事業				
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	124			
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	2	子育て・教育						
	予算科目	款	10		教 育 費				施策目標	1	子育て環境・保育サービス						
		項	4		社会教育費				基本施策	3	家庭と地域による子供の健全育成の推進						
		目	5		青少年育成費				取組方針	3	地域との交流・活動の推進						
	事業概要		生徒・児童・幼児の健全育成を図るために、子ども会への活動支援を行う事業														
	事務事業を構成する細事業		①		子ども会活動支援		⑤				⑨						
			②		地域子ども会活動支援事業補助金		⑥				⑩						
			③				⑦				⑪						
④					⑧				⑫								
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析		
	活動指標	紀の川市地域活動連絡協議会加盟子ども会数		団体	目標	30		30		30		25		25		少子化により、子ども会数は減少している。	
					実績	30		28		24							
		<指標の計算方法>		紀の川市地域活動連絡協議会加盟子ども会数													
	成果指標	公益社団法人全国子ども会連合会全国子ども会安全共済会加入者数		人	目標	1,600		1,600		1,600		1,000		1,000		少子化により、安全共済会の入会者数は減少している。	
					実績	1,055		925		907							
	<指標の計算方法>		公益社団法人全国子ども会連合会全国子ども会安全共済会加入者数（当初加入者人数）														
	成果指標	子ども会活動支援参加者数		人	目標					120		120		120		少子化により、子どもの人数は減少しているが、参加者数は現状維持。	
					実績			121		122							
	<指標の計算方法>		子ども会活動支援参加者数														
			目標														
			実績														
<指標の計算方法>																	
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳												
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
	1,127						477								650		
事業の実績	①子ども会活動支援 紀の川市ソフトドッジボール大会開催 開催日：令和6年7月6日（土） 参加チーム：6チーム 参加者：104人 指導者研修会 開催日：令和6年6月22日（土） 参加者：18人				会員数15人以上、活動日数6日以上 補助金額 53,000円 補助子ども会数： 1団体 地域活動事業補助金（B）：市単独補助金 会員数10人以上、活動日数3日以上 補助金額 26,000円 補助子ども会数： 1団体												
	②地域子ども会活動支援事業補助金 （地域総合活動）：市および県補助金 会員数40人以上、活動日数50日以上 補助金額 212,000円 補助子ども会数： 0団体 地域子ども会活動支援事業補助金 （地域集団活動）：市および県補助金 会員数20人以上、活動日数12日以上 補助金額 106,000円 補助子ども会数： 9団体 地域活動事業補助金（A）：市単独補助金																
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない													
		・子ども会活動は各地域で子供が健やかに成長できるよう地域ぐるみで見守り育てる活動であるため、市が支援することは妥当である。 ・子ども会が実施する集団活動や地域活動などを通して、子供たちの生きる力を育て、地域の教育力を高める活動であるため、事務事業の目的は妥当である。															
	有効性	評価結果		改善の余地がややある													
		・子ども会活動は、生徒、児童及び幼児だけでなく、保護者及び指導者を含めた地域活動の場を提供している。 ・保護者及び指導者が生徒、児童及び幼児にさまざまな体験をさせ、子供たちが成長していくうえで、地域ともつながることができる本事業は有効である。 ・少子化による子供の減少や地域社会のつながりの希薄化が要因となり、単位子ども会及び加入人数、市地域活動連絡協議会への加入子ども会数は減少傾向にある。 ・地域活動連絡協議会に加盟する単位子ども会が少ないのは、主に少子化が原因であるが、これ以上に子ども会指導者の単年での役員交代や、共働き家庭の増加、また本協議会事業への参加を厭う指導者が多いことも理由となっている。															
	効率性	評価結果		改善の余地がない													
・県からの補助金があるため、費用面での効率性は高い。																	

事務事業の概要	事務事業名				共育コミュニティ推進事業				担当課		生涯学習課		事業区分		ソフト事業							
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		549			
	会計				一般会計								政策目標		2		子育て・教育					
	予算科目				款				項				長期総合計画体系		施策目標		1		子育て環境・保育サービス			
															基本施策		3		家庭と地域による子供の健全育成の推進			
															取組方針		1		共育コミュニティの推進			
事業概要				地域社会の活性化と学校を核とした地域づくりを図るために、地域と協働し、子供たちの成長を支える活動を行う事業																		
事務事業を構成する細事業				①		地域と学校の連携・協働体制推進事業				⑤						⑨						
				②		共育コミュニティ推進				⑥						⑩						
				③						⑦						⑪						
				④						⑧						⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	地域と学校の連携・協働体制推進事業開催日数	日	目標	119	119	119	119	119	年間を通じて開催日を計画しているため、開催日数はここ数年横這いである。	
			実績		131	130	123				
		<指標の計算方法>		地域と学校の連携・協働体制推進事業年間の開催日数							
	成果指標	地域と学校の連携・協働体制推進事業参加人数	人	目標	2,380	2,000	2,000	1,500	1,500	平日を減らし、夏休みの長期休暇等の開催日を増やしたからか、参加者数が少し減少した。	
			実績		1,461	1,499	1,401				
		<指標の計算方法>		年間の参加人数							
	活動指標	共育コミュニティ事業実施回数	回	目標	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	登下校時の安全指導個所の見直しや、事業内容の見直しにより、学校との連携による事業実施回数は減少傾向である。	
			実績		2,311	2,307	1,828				
		<指標の計算方法>		年間の実施日数							
成果指標	共育コミュニティボランティア活動人数	人	目標	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	学校との連携による実施日数及び事業数に比例し活動ボランティアの延べ人数は減少傾向である。		
		実績		9,587	10,549	9,899					
	<指標の計算方法>		年間の延べ活動人数								

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳						
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	1,573					800				773	

事業の実績	①地域と学校の連携・協働体制推進事業 放課後等、公民館施設などで、安全・安心な子供達の居場所を設け、地域の人々の協力を得て、一緒に過ごすことでコミュニケーション力の向上や学習習慣を身につけられるよう支援している。 ・みんなの家（NPO法人 ロッツ） 活動日数 平日69日 土曜日等休日30日 計99日 参加人数 延べ1,266人 ・こ・はうすきしがわ 活動日数 平日11日 土曜日等休日13日 計24日 参加人数 延べ135人				ボランティア延べ人数 1,559人 那賀地区 実施回数 150回 ボランティア延べ人数 532人 桃山地区 実施回数 325回 ボランティア延べ人数 2,462人 貴志川地区 実施回数 345回 ボランティア延べ人数 1,737人			
	②共育コミュニティ推進 打田地区 実施回数 567回 ボランティア延べ人数 3,609人 粉河地区 実施回数 441回							

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																	
		・子供を取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、学校と地域の連携・協働が重要である。学校や家庭、地域が抱えるさまざまな課題の解決に向けた活動を市が支援することは妥当である。																		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある																	
		・地域創生の観点からも必要な事業であり、短期的な結果を求めるのではなく、関係課と連携し長期的に事業を展開していく必要がある。 ・地域とともにある学校づくりを目的とする「コミュニティ・スクール」と学校を核とした地域づくりを目的とする「共育コミュニティ」が連携を図り、学校や地域の課題を協働で取り組み解決に導くための事業を推進する必要がある。 ・放課後一人で過ごさなければならない子供のために、地域の大人が地域の子供を守り育てる活動の周知について、有効的な広報に努める必要がある。																		
	効率性	評価結果	改善の余地がややある																	
		・共育コミュニティボランティアについては無償であるため、コスト面においては改善の余地がない。 ・ボランティア、指導員及びコーディネーターの負担軽減や、次の担い手と人材発掘及び育成が当面の課題である。																		

事務事業の概要	事務事業名			青少年センター運営事業				担当課		生涯学習課		事業区分		ソフト事業					
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		550	
	会計			一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育					
	予算科目			款		10				教育費		施策目標		1		子育て環境・保育サービス			
				項		4				社会教育費		基本施策		3		家庭と地域による子供の健全育成の推進			
			目		5		青少年育成費		取組方針		2		子供の安全確保と環境の整備						
事業概要			青少年の非行防止及び健全育成を図るために、青少年センターの円滑な運営を行う事業																
事務事業を構成する細事業			① 青少年センター運営				⑤ 関係機関との連携業務				⑨								
			② 青少年センター施設管理				⑥				⑩								
			③ 啓発・広報・補導活動				⑦				⑪								
			④ 青少年防犯業務				⑧				⑫								

指標の実績	指標名		単位	R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
	活動指標	街頭補導事業実施回数	回	目標	320		320		320		320		320		街頭補導事業実施回数は、目標値を達成することができた。
		実績		337		346		346							
		<指標の計算方法> 街頭補導事業年間実施回数													
	活動指標	広報啓発事業実施回数	回	目標	90		90		90		90		90		広報啓発事業実施回数は、目標を達成することができた。
		実績		91		106		109							
		<指標の計算方法> 街頭啓発、各種教室開催回数及びチラシ配布回数の合計													
活動指標	環境浄化事業実施回数	回	目標	140		140		140		120		120		環境浄化事業実施回数は、環境浄化事業の定義に含まれない駅前及び盗撮の事件があった場所を重点的に立ち入るようになり、目標値を下回った。	
	実績		136		117		106								
	<指標の計算方法> 書店等立入回数及び自販機調査数の合計														
			目標												
			実績												
<指標の計算方法>															

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳												
			国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
		19, 401				55								19, 346	

事業の実績	① 青少年センター運営 ・青少年補導委員会 総会 1回 役員会 4回		チラシ等配布 14回 計 109回 ・環境浄化事業 販売・レンタル 1回 コンビニ・スーパー 72回 その他書店等 33回 計 106回			
	② 青少年センター施設管理 ・夏に事務室のエアコンが故障したため、酷暑による体調を鑑みて、緊急の取替修繕をした。 ・古くなり電気がつきにくくなった照明設備を、電気使用量節約も兼ね、LEDに取替修繕をした。		④ 青少年防犯業務 年間を通じ地域・学校・警察・関係施設などと連携協力し、不審者情報等の共有に努めた。			
	③ 啓発・広報・補導活動 青少年の健全育成を目的とし、非行防止・事故防止のため、広報活動や補導活動を実施した。 ・広報啓発事業 街頭啓発 80回 各種教室（講座） 15回		⑤ 関係機関との連携業務 年間を通じ地域・学校・警察・関係施設などと連携協力し、青少年の健全育成に努めた。			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・青少年防犯業務及び啓発・補導活動について一部民間団体とも連携を図っているが、触法少年の個人情報や不審者の判断をも扱う業務であるため、行政において実施するのが妥当である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	
		・青少年に関する問題は常に社会情勢の変化に伴い多様化・複雑化してきており、事業実施の有効性が高い。 ・社会情勢の変化に対応しながら、より関係機関と連携を密にし、啓発・広報・補導活動などに取り組む必要がある。		
	効率性	評価結果	改善の余地がない	
・青少年センター運営事業は委託事業に適さないが、現在4名の会計年度任用職員を専任で配置しているためコスト面での効率性は高い。				

事務事業の概要	事務事業名				図書館運営事業				担当課		生涯学習課		事業区分		ソフト事業					
	会計				一般会計				新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		546	
	予算科目	款 項 目	10	教 育 費				長期総合 計画体系		政策目標		2	子育て・教育							
			4	社会教育費						施策目標		3	生涯学習・生涯スポーツ							
			6	図書館費						基本施策		1	生涯学習の推進							
事業概要				市民に文化や教養を高めてもらうために、図書館の蔵書購入やイベントの開催等を行う事業																
事務事業を構成する細事業	① 図書館運営				⑤ 読書活動推進						⑨									
	② 利用促進（講演会・イベント開催）				⑥ 移動図書館事業						⑩									
	③ 図書・雑誌購入				⑦						⑪									
	④ システム・図書データ管理				⑧						⑫									

指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
		図書館利用者登録率（人口比）	%	目標		44	48	49	52	53	利用登録の推進を図ることにより利用登録者数は増加している。	
				実績		47	48	50				
		<指標の計算方法>		図書館利用者登録率（人口比）								
	図書館貸出冊数（年間）	冊	目標		330,000	300,000	300,000	300,000	300,000	図書館サービスの充実を図り利用者数が増加したことにより、1日当たりの貸出冊数で比較すると、前年度より増加している。		
			実績		244,000	255,853	269,458					
	<指標の計算方法>		図書館貸出冊数（年間）									
	イベント実施回数	回	目標		50	50	50	0	0	イベント実施回数52回のうち、河北図書館29回、河南図書館23回である。バランスよく実施されている。		
			実績		18	41	52					
	<指標の計算方法>		イベント実施回数（年間）									
		目標										
		実績										
	<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳					
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	73,888								73,888

事業の実績	① 図書館運営				河南図書館 92,212冊				・読書推進に係るイベントの実施						
	・開館日数		河北図書館 292日			・購入雑誌種数		河北図書館 72種			河北図書館 6回				
			河南図書館 291日					河南図書館 72種			河南図書館 3回				
	・来館者数		河北図書館 107,215人			・購入新聞種数		河北図書館 9種			⑥ 移動図書館事業				
			河南図書館 100,495人			河南図書館 9種									
	・貸出者数		72,436人			④ システム・図書データ管理				・来館者数 3,250人					
	・貸出冊数		269,458冊			・図書館システム管理に係る契約件数		6件			・貸出者数 1,494人				
	・1日当たり貸出者数		河北図書館 121人			・資料購入契約件数		7件			・貸出冊数 5,583冊				
			河南図書館 112人			・移動図書館運営管理に係る契約件数		1件							
	・1日当たり貸出冊数		河北図書館 464冊			⑤ 読書活動推進									
		河南図書館 428冊			・サードブック事業の実施										
② 利用促進（講演会・イベント開催）						・紀の川市中高生ビブリオバトル大会開催									
・イベント実施回数		河北図書館 29回			・市内小中学校司書との連携・協働										
		河南図書館 23回			・市内小中学校図書館支援										
・イベント参加人数		河北図書館 2,545人			・おはなし会の実施		河北図書館23回								
		河南図書館 1,721人					参加人数 293人								
③ 図書・雑誌購入						河南図書館18回									
・蔵書冊数		河北図書館 107,791冊					参加人数 180人								

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																		
		・多様化する市民ニーズを把握し、利便性やサービスの向上をめざした図書館運営を市が実施することは妥当である。																			
	有効性	評価結果	改善の余地がややある																		
		・読書環境の整備と充実、読書活動を深める図書館づくりに取り組む必要がある。目標を達成するため、さらなる職員の資質の向上に努め、利用者の満足度の向上を図る必要がある。																			
	効率性	評価結果	改善の余地がない																		
・運営スタッフ12名のうち、正職員2名で残りの10名が会計年度任用職員であり、効率性は高い。																					

事務事業の概要	事務事業名			図書館施設管理事業				担当課		生涯学習課			事業区分		ソフト事業	
	新規・継続			継続		事業期間		単年度繰返し			事業番号			987		
	会計			一般会計				政策目標		2	子育て・教育					
	予算科目	款	10	教 育 費				施策目標		3	生涯学習・生涯スポーツ					
		項	4	社会教育費				基本施策		1	生涯学習の推進					
事業概要			市民が図書館を安全で快適に利用できるように、維持管理を適正に行う事業													
事務事業を構成する細事業	① 河北図書館施設管理			⑤					⑨							
	② 河南図書館施設管理			⑥					⑩							
	③ 蔵書拠点管理			⑦					⑪							
	④ 移動図書館管理			⑧					⑫							

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	図書館施設管理業務	件	目標	14	14	14	14	14	施設の適正な維持管理に伴う業務委託および修繕案件に適切に対応できた。	
				実績	20	16	10				
				<指標の計算方法>施設維持管理に必要な業務委託・修繕等の件数							
	成果指標	図書館利用者数	人	目標	75,000	80,000	85,000	78,000	78,000	図書館サービスの充実を図ることで、前年度に比べ、両館ともに総利用人数も1日当たりの利用人数も増加した。	
				実績	57,156	66,242	72,436				
				<指標の計算方法>図書館利用者数							
				目標							
				実績							
				<指標の計算方法>							
			目標								
			実績								
			<指標の計算方法>								

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	12,092		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
										12,092	

事業の実績	①河北図書館施設管理 業務委託実績なし。			④移動図書館管理 業務委託 ・移動図書館運営管理業務 修繕 ・ベアリンググリスアップ		
	修繕 ・北側窓部修繕（ブラインド設置）			事故による車両修理発生。 ただし、修理費用については、委託業者による任意保険での対応。修理期間3ヶ月。その間、代車による運行を実施。		
	②河南図書館施設管理 業務委託 ・清掃業務（日常清掃） ・貯水槽清掃業務 ・機械警備業務 ・電気保安管理業務 ・空調設備保守点検業務 ・エレベーター保守点検業務 ・消防設備保守点検業務 ・浄化槽保守点検業務 ・植木管理業務					
	③蔵書拠点管理 委託、修繕等実績なし。					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・図書館運営事業と連動させながら施設の維持管理を適正に行うことが望ましく、現在の事業実施方法が妥当である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・各施設とも利用者が安全安心に、また快適に利用できるよう適正に管理されている。		
	効率性	評価結果	改善の余地がない	
・移動図書館業務を業務委託するとともに、他部署とも協力しながら適切な施設管理が行われている。				

事務事業の概要	事務事業名			生涯学習施設管理運営事業				担当課		生涯学習課		事業区分		ソフト事業					
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		543	
	会計			一般会計						政策目標		2		子育て・教育					
	予算科目	款	10	教 育 費						施策目標		3		生涯学習・生涯スポーツ					
		項	4	社会教育費						基本施策		1		生涯学習の推進					
		目	7	生涯学習施設費						取組方針		3		生涯学習施設の適切な管理					
	事業概要			市民が生涯学習施設を安全で快適に利用できるように、適切な維持管理や改修を行う事業															
				① 打田生涯学習センター施設管理				⑤ 粉河ふるさとセンター施設管理				⑨ 貴志川生涯学習センター施設管理							
	事務事業を構成する細事業			② 東大井教育集会所施設管理				⑥ 那賀総合センター施設管理				⑩							
				③ 東国分教育集会所施設管理				⑦ 西元町教育集会所施設管理				⑪							
④ 古和田教育集会所施設管理				⑧ 桃山会館施設管理				⑫											
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析									
	成果指標	生涯学習施設使用団体数	団体	目標	1, 800	1, 800	1, 800	2, 500	2, 500	生涯学習施設及び教育集会所施設の利用団体数である。一部の公民館分館の活動拠点を生涯学習施設に集約したことなどに伴い利用団体が増加した。									
			実績	3, 108	2, 494	2, 726													
		<指標の計算方法>		生涯学習施設使用団体数															
	成果指標	生涯学習施設利用人数	人	目標	150, 000	150, 000	150, 000	150, 000	150, 000	生涯学習施設及び教育集会所施設の利用人数である。行事内容により大幅な増減がある。一部の公民館分館の活動拠点を生涯学習施設に集約したことなどに伴い利用者が増加した。									
			実績	103, 811	121, 354	123, 036													
		<指標の計算方法>		生涯学習施設利用人数															
				目標															
				実績															
	<指標の計算方法>																		
			目標																
			実績																
<指標の計算方法>																			
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)			財源内訳															
				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
	303, 004							159, 800				5, 964		137, 240					
事業の実績	①打田生涯学習センター施設管理 〔修繕〕空調空気熱源スリュートボンプ修繕 スタジオ及び学習室放送設備改修 貸部屋用机キャスター取替修繕 〔工事〕空調空気熱源センサー・リレーユニット工事 空調水蓄熱槽改修工事				⑤粉河ふるさとセンター施設管理 〔工事〕トイレ改修工事(地下男子、楽屋等) 照明器具LED化改修工事(リハ室等)				陶芸窯倉庫屋根防水および外壁塗装修繕 大会議室換気扇等修繕 倉庫軒樋及び堅樋修繕 非常用照明及び換気扇改修 〔工事〕大会議室空調設備改修工事										
	②東大井教育集会所施設管理 〔修繕〕ガス給湯器修繕 天井及び壁クロス張替修繕 和室空調設備修繕 研修室カーテン取替修繕 洗浄便座取付修繕 〔工事〕屋根改修工事				⑥那賀総合センター施設管理 〔修繕〕大会議室事務所間ケーブル入替修繕 浄化槽ブローア移設修繕 〔工事〕大会議室改修工事 大会議室空調設備改修工事 大会議室照明設備改修工事 漏電修理工事				〔工事〕大会議室空調設備改修工事										
	③東国分教育集会所施設管理 〔修繕〕非常誘導灯取替修繕				⑦西元町教育集会所施設管理 ※修繕・改修なし				⑨貴志川生涯学習センター施設管理 〔工事〕舞台緞帳撤去工事										
	④古和田教育集会所施設管理 ※修繕・改修なし				⑧桃山会館施設管理 〔修繕〕機械警備機器取替修繕 火災報知器取替修繕 倉庫ドレン防水および軒天張り修繕				※集約化を図った施設 (打)東国分教育集会所 → 打田生涯学習センターへ集約 (打)古和田教育集会所 → 打田生涯学習センターへ集約 (那)西元町教育集会所 → 那賀総合センターへ集約 ※用途変更を図った施設 (打)東大井教育集会所 → 東大井コミュニティセンターに用途変更										
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・地域と密接に関わる生涯学習施設は、地域の生涯学習の拠点であり、市計画（公共施設マネジメント計画、公共施設個別施設計画）に基づき、維持管理や集約化等を進める必要があり、市が実施することは妥当である。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がややある															
		・市計画（公共施設マネジメント計画、公共施設個別施設計画）に基づき稼働率が低く老朽化の著しい施設は、周辺の耐震化された公共施設や集会機能を有する施設などへの集約化や複合化を進め、一定の成果が上がっている。 ・各施設とも老朽化に伴う修繕工事等が多い状況だが、計画的な維持管理に努め、利用者が安全安心に、また快適に利用できるよう努める必要がある。																	
効率性	評価結果		改善の余地がややある																
	・受益者負担の公平性の観点から、施設使用料のあり方について関係課と引き続き検討していく必要がある。																		

事務事業の概要	事務事業名		スポーツ推進委員協議会運営事業				担当課		生涯スポーツ課		事業区分		ソフト事業							
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		542			
	会計		一般会計																	
	予算科目	款	10	教 育 費						政策目標		2	子育て・教育							
		項	5	保健体育費						施策目標		3	生涯学習・生涯スポーツ							
目		1	保健体育総務費						基本施策		3	スポーツの振興と環境の充実								
事業概要		市民にスポーツを通じて心身ともに健康的な生活を送ってもらうために、スポーツ推進委員に行政と地域住民のパイプ役となってもらうための支援を行う事業																		
事務事業を構成する細事業	①		スポーツ推進委員協議会運営				⑤						⑨							
	②		全国スポーツ推進委員連合会負担金				⑥						⑩							
	③		県スポーツ推進委員協議会負担金				⑦						⑪							
	④						⑧						⑫							
指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
		研修等参加回数	回	目標		3		3		3		3		3		全国スポーツ推進委員研究協議会に参加できなかったが、近畿のスポーツ推進委員研究協議会および県スポーツ推進委員研究協議会に参加した。				
				実績		4		4		2										
		<指標の計算方法>		スポーツ推進委員関係の研修等への参加回数																
	成果指標	研修等参加人数		人	目標		50		30		30		30		30		意識は高いものの、家庭の事情などで参加率が伸びにくい。			
		実績			16		8		6											
		<指標の計算方法>		スポーツ推進委員関係の研修等への参加人数																
	成果指標	スポーツ推進委員数		人	目標		43		43		43		43		43		定員数が43名。近畿大学生物理工学部と連携し、9名の近畿大学生が新規加入となっている。			
		実績			39		36		43											
		<指標の計算方法>		スポーツ推進委員の人数（基準日：年度末）																
			目標																	
			実績																	
	<指標の計算方法>																			
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳															
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
				1,525												1,525				
事業の実績	①スポーツ推進委員協議会運営 ・スポーツ推進委員 43人 ・スポーツ推進委員研修等参加人数 国 0人 近畿 4人 県 2人 県新任 0人																			
	②全国スポーツ推進委員連合会負担金 34人 17,000円																			
③県スポーツ推進委員協議会負担金 35人 35,000円																				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																	
		・スポーツ基本法により市教育委員会が委嘱することとなっているため、市が実施することは妥当である。																		
	有効性	評価結果	改善の余地がややある																	
		・近畿大学生物理工学部と連携することで、女性委員や若年層の委員が増加したが、割合としては低いままなので、これらの層の加入を今後とも促して行きたい。 ・地域に密着した教室等を開催し、スポーツの振興に努めている。																		
	効率性	評価結果	改善の余地がない																	
・年間28,000円の報酬。委員についてはボランティア性が高いが会議・イベント等参加してもらう事が多い。																				

事務事業の概要	事務事業名				生涯スポーツ振興事業				担当課		生涯スポーツ課		事業区分		ソフト事業						
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		130		
	会計				一般会計																
	予算科目	款	10	教 育 費								政策目標		2	子育て・教育						
		項	5	保健体育費								施策目標		3	生涯学習・生涯スポーツ						
目		2	生涯スポーツ振興費								基本施策		3	スポーツの振興と環境の充実							
								長期総合計画体系				取組方針		2	生涯を通じたスポーツ活動の推進						
事業概要				市民にスポーツを通じて心身ともに健康的な生活を送ってもらうために、関係機関等への運営の参画や補助金の交付等の支援を行う事業																	
事務事業を構成する細事業				① スポーツ振興・啓発				⑤ 県スポーツ施設協会負担金				⑨ 総合型地域スポーツクラブ事業補助金									
				② スポーツ賞表彰				⑥ 県レクリエーション協会負担金				⑩ スポーツ大会派遣費補助金									
				③ スポーツインストラクター派遣委託料				⑦ 県B&G地域海洋センター連絡協議会負担金				⑪ スポーツキャンプサポート実行委員会負担金									
				④ 近畿ブロック地域海洋センター連絡協議会負担金				⑧ 体育協会補助金				⑫									
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析						
	成果指標	事業実施数	事業	目標	88		88		88		88		88		事業数は増加してきているものの、スポーツ人口の高齢化もあり目標値にはまだまだ下回っている。						
				実績	38		47		48												
				<指標の計算方法> 体育協会加盟団体が実施した事業数（年間）																	
	活動指標	加盟団体数	団体	目標	34		34		34		34		34		加盟団体数が多少増加するも現状を維持している。						
				実績	32		32		33												
				<指標の計算方法> 体育協会に加盟している団体数（競技種目別連盟等）																	
	活動指標	登録人数	人	目標	3, 800		3, 800		3, 800		3, 800		3, 800		加盟団体数は維持しているものの登録チーム数の減少により、登録人数が減少している。						
				実績	2, 948		2, 842		2, 707												
				<指標の計算方法> 体育協会の加盟団体（競技種目別連盟等）に加入している人数																	
			目標																		
			実績																		
<指標の計算方法>																					
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳																
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源						
	9, 187														9, 187						
事業の実績	① スポーツ振興・啓発 ・市広報、市HPを活用し、イベントや各教室等の周知を行った。				④ 近畿ブロック地域海洋センター連絡協議会 ・負担金：10, 000円				⑨ 総合型地域スポーツクラブ事業補助金 ・補助金：60, 000円 桃山体育王国スポーツクラブ												
	② スポーツ賞表彰 ・表彰式開催日：11月9日（土） ・推薦依頼件数：411件 ・推薦件数：個人 12件、団体 2件 ・選考委員会開催数：1回（10月1日） ・スポーツ賞受賞者 個人：スポーツ顕彰 5人 スポーツ賞 4人 スポーツ功労賞 3人 団体：スポーツ賞 1団体 特別賞 1団体				⑤ 県スポーツ施設協会負担金 ・負担金：15, 000円 ⑥ 県レクリエーション協会負担金 ・負担金：3, 000円 ⑦ 県B&G地域海洋センター連絡協議会負担金 ・負担金：40, 000円 ⑧ 体育協会補助金 ・補助金：3, 138, 041円 加盟団体数：33団体、加盟チーム：157チーム 加盟人数：2, 707人 事業件数：48事業				⑩ スポーツ大会派遣費補助金 ・補助金：535, 980円 スポーツ少年団加盟団体：14団体 体育協会加盟団体：4団体 その他：1団体 ⑪ スポーツキャンプサポート実行委員会負担金 ・負担金：0円 ハンドボールナショナルチームを誘致できなかったため												
	③ スポーツインストラクター派遣委託料 ・委託料：777, 600円 貴志川トレーニングプラザ（24回） 那賀体育館トレーニングルーム（24回）																				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																		
		・市のスポーツ振興を担う団体や個人等の育成及び発掘を行っていくには、市が実施することが妥当といえる。																			
	有効性	評価結果	改善の余地がややある																		
		・市民ニーズに合わせたスポーツを対象に、初心者でも気軽に参加できる教室等を開催していくには、各種団体の専門性に頼る必要がある。																			
効率性	評価結果	改善の余地がややある																			
	・各種団体の専門知識やノウハウを活用することで、効率よく事業の充実を図ることができ、補助金の見直しや、精査することでコスト削減につながる。																				

事務事業の概要	事務事業名		スポーツイベント開催事業				担当課		生涯スポーツ課		事業区分		ソフト事業	
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	539
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	2	子育て・教育			
	予算科目	款	10	教 育 費					施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		項	5	保健体育費					基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実			
目		2	生涯スポーツ振興費					取組方針	2	生涯を通じたスポーツ活動の推進				
事業概要		市民（大会参加者）にスポーツを通じて心身ともに健康的な生活を送ってもらうために、スポーツ教室やイベント等の開催を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①		スポーツフェスティバル開催				⑤		桃源郷マラソン大会補助金		⑨			
	②		市町村対抗ジュニア駅伝参加支援				⑥		教室開催（B&G事業）		⑩			
	③		スポーツ教室開催				⑦				⑪			
	④		市町村対抗ジュニア駅伝参加補助金				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析				
	活動指標	スポーツ教室・大会等事業数	事業	目標	10	10	10	10	10	令和4年度からは増加傾向ではあるものの、教室を開催する講師獲得の難しさから事業増加には至っていない。				
				実績	5	7	10							
				<指標の計算方法>					実施したスポーツ教室・大会等の事業数の合計					
	成果指標	スポーツ教室・大会等事業参加人数	人	目標	4, 450	4, 450	4, 450	4, 450	4, 450	増加傾向ではあるものの、市民ニーズにフィットしきれっていないためか参加者の増加は緩やか。				
				実績	866	1, 971	2, 288							
				<指標の計算方法>					実施したスポーツ教室・大会等の参加人数の合計					
				目標										
				実績										
				<指標の計算方法>										
			目標											
			実績											
			<指標の計算方法>											
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳									
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
	5, 272					5			44	5, 223				
事業の実績	①スポーツフェスティバル開催 ・実施日：10月13日 ・実施内容：リレーマラソン、フルーツかいた、運動遊び、健康体操&体力測定（参加者623人）													
	②市町村対抗ジュニア駅伝参加支援 ・選考会：11月24日、11月30日、12月11日 ・練習：12月18日～2月8日 ・大会当日：2月9日 28チーム中 4位													
	③スポーツ教室開催 ・スポーツ教室：4月～3月実施 ・実施内容：健康体操、親子体操、キッズ体操、ジュニア体操、卓球、フラダンス、スポーツウエルネス吹矢（参加者：883人）													
	④市町村対抗ジュニア駅伝参加補助金 ・補助金：630, 965円 ・選手：18人 指導者：5人													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・市民ニーズの把握等、民間や各種団体を活かすためにも、市の関与が必要であり、市が実施することが妥当である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
		・「心身ともに健康な生活を送る」という目的にあった事業を遂行できており、有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある												
	・専門知識やノウハウを持った講師や団体を活用し、事業の幅を広げていく必要がある。													

事務事業の概要	事務事業名		スポーツ少年団運営事業				担当課		生涯スポーツ課		事業区分		ソフト事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		540		
	会計		一般会計								政策目標		2		子育て・教育				
	予算科目	款	10	教 育 費								施策目標		3		生涯学習・生涯スポーツ			
		項目	5	保健体育費								基本施策		3		スポーツの振興と環境の充実			
		目	2	生涯スポーツ振興費								取組方針		1		スポーツ推進体制の充実			
	事業概要		青少年がスポーツを通じて健康な身体をつくり、よりよい社会人となってもらうために、スポーツ少年団の運営に支援を行う事業																
事務事業を構成する細事業		①	スポーツ少年団運営				⑤					⑨							
		②	スポーツ少年団指導者協議会負担金				⑥					⑩							
		③	スポーツ少年団運営費補助金				⑦					⑪							
		④	スポーツ少年団資格取得費補助金				⑧					⑫							
指標の実績	活動指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析								
		スポーツ少年団募集チラシ発行回数	回	目標		1	1	1	1	1	各団が用意した要項等を市で取りまとめて作成したチラシを令和6年度末に配布。								
				実績		1	1	1											
		<指標の計算方法>		市内の保育所（園）年長、小学校1～6年生、中学校1・2年生に団員募集チラシを配布する回数															
	成果指標	スポーツ少年団加入率	%	目標		17.35	17.35	17.35	17.35	17.35	スポーツ少年団の加入率は年によって増減があるものの、スポーツに対する意識は高く、横ばいで推移している。								
				実績		18.5	18.78	18.5											
		<指標の計算方法>		市スポーツ少年団の市内小中学生の加入率															
	成果指標	スポーツ少年団団数	団	目標		55	55	55	55	55	少子化による児童の減少により団活動を継続していくため、団の統合が続いている。								
				実績		51	50	49											
		<指標の計算方法>		市スポーツ少年団の団数															
成果指標	スポーツ少年団団員数	人	目標		750	750	750	750	750	少子化により、今後は団員数が減少傾向となることが予想される。									
			実績		775	764	737												
	<指標の計算方法>		市スポーツ少年団に所属する小中学生の人数																
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	2,665														2,665				
事業の実績	①スポーツ少年団運営 ・本部総会：5月24日 ・指導者協議会：5月17日、3月7日 ・入団テスト、体力テスト：4月20日																		
	②スポーツ少年団指導者協議会負担金 ・負担金：44,570円																		
	③スポーツ少年団運営費補助金 ・補助金：2,560,060円 49団体 指導者数：125人 役員・スタッフ数：138人 団員数：737人																		
	④スポーツ少年団資格取得費補助金 ・補助金：59,900円（5人分）																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																
		・スポーツを通じて青少年の健全育成を図り、その活動を実施するため、市が実施することは妥当である。																	
	有効性	評価結果	改善の余地がややある																
		・少子化により団体数が減少している中、スポーツ少年団への加入率は目標値に達しているため、事業については有効であるが、今後、団活動を継続していくために団の統合が進むと予想される。																	
	効率性	評価結果	改善の余地がない																
・指導者がボランティアで指導や団運営に携わっているためコスト削減の余地がない。																			

事務事業の概要	事務事業名			スポーツ交流事業			担当課		生涯スポーツ課			事業区分		ソフト事業	
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	983	
	会計			一般会計			長期総合計画体系		政策目標	2	子育て・教育				
	予算科目	款	10	教 育 費					施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ				
		項	5	保健体育費					基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実				
		目	2	生涯スポーツ振興費					取組方針	2	生涯を通じたスポーツ活動の推進				
	事業概要			市民のスポーツ振興と健康づくりを図るために、関係機関と相互協定に基づく交流を行う事業											
	事務事業を構成する細事業			① 児童派遣			⑤				⑨				
				② 体育・スポーツ推進協議会運営			⑥				⑩				
				③ 指導講師招へい			⑦				⑪				
④				⑧				⑫							

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	紀の川市体育・スポーツ推進協議会開催数	回	目標	2	2	2	2	2	2回の協議会を開催し、審議を行った。	
				実績	2	2	2				
	<指標の計算方法>		年間協議会開催数								
	成果指標	児童派遣人数	人	目標	30	30	30	30	30	市内小学生6年生30人を派遣することができた。	
				実績	0	30	30				
	<指標の計算方法>		日体大への児童派遣人数								
	成果指標	講師招へい・講座開催数	回	目標	1	1	1	1	1	年中児・年長児とその保護者を対象とし、身体を動かすチカラを楽しみながら高める運動プログラムを学ぶための講習会を開催した。	
				実績	0	1	1				
	<指標の計算方法>		日体大からの講師招へいによる講座開催回数								
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	2, 363					1, 000	150	1, 213

事業の実績	①児童派遣 ・日体大への児童派遣(市内小学6年生30人) ・8月8日～9日											
	②体育・スポーツ推進協議会運営 ・2回開催 (R6. 5月、R7. 2月) ・日体大主催事業 (N I T T A I D A I ×自治体フォーラム 2 0 2 4) 事務局2名参加 (11月22～23日)											
	③指導講師招へい ・9月29日、日体大から講師を招へいし、「アクティブチャイルドプログラム」に基づく運動プログラムを実施 ・保育園児とその保護者を対象として、101人が参加											

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・日本体育大学と市の協定に基づく事業のため、市が実施することは妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・日本体育大学の専門性を活用し、事業を効果的に継続できており、今後も日本体育大学との調整を行い充実した内容にしていく。											
	効率性	評価結果	改善の余地がない										
		・コストは削減の余地がないもの（旅費）が大半を占めるので、現状が適切である。											

事務事業の概要	事務事業名				体育施設管理運営事業				担当課		生涯スポーツ課		事業区分		ソフト事業												
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		131								
	会計				一般会計								政策目標		2		子育て・教育										
	予算科目	款	10	教 育 費								施策目標		3		生涯学習・生涯スポーツ											
		項	5	保健体育費								基本施策		3		スポーツの振興と環境の充実											
	目	3	体育施設費								取組方針		3		スポーツ施設の充実と適切な管理												
事業概要				市民が体育施設を安全で快適に利用できるように、維持管理を適切に行う事業																							
事務事業を構成する細事業	①				体育館施設管理				⑤				夜間照明施設管理				⑨				貴志川スポーツ公園施設管理						
	②				粉河武道館施設管理				⑥				粉河西部・中部運動場施設管理				⑩				那賀B＆G海洋センター施設管理						
	③				パークゴルフ場施設管理				⑦				奥安楽川広場施設管理				⑪										
	④				トレーニング施設管理				⑧				長山ふれあい公園(多目的広場)施設管理				⑫										
指標の実績			指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析								
	成果指標	年間利用者数		人		目標		232, 000		232, 000		232, 000		232, 000		232, 000		一部施設の休止はあるものの、全体的に利用者数が増加しており、市民等がスポーツに触れる機会や活動の場が増加している。									
						実績		167, 091		193, 683		213, 368															
		<指標の計算方法>		社会体育施設全体の年間利用者数																							
	成果指標	施設使用料		円		目標		14, 006, 000		14, 006, 000		14, 006, 000		14, 006, 000		14, 006, 000		那賀B&G海洋センターを休止したこと等により、施設使用料収入が減となっている。									
						実績		11, 600, 655		12, 078, 745		11, 279, 465															
		<指標の計算方法>		社会体育施設全体の使用料																							
					目標																						
					実績																						
	<指標の計算方法>																										
				目標																							
				実績																							
<指標の計算方法>																											
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																						
	214, 524				国庫支出金				県支出金				地方債				繰入金				その他				一般財源		
事業の実績	施設利用状況								西部運動場				12件				216人				⑨ 貴志川スポーツ公園施設管理 ・野球場 180件 6, 183人 ・ソフトボール場 271件 12, 205人 ・テニスコート 1, 956件 42, 414人						
									中部運動場				137件				4, 666人										
	① 体育館施設管理								・ 那賀中学校・調月小学校夜間照明施設管理				37件				435人				⑩ 那賀B＆G海洋センター施設管理 ※休止						
	・ 粉河体育館 776件 16, 477人								・ 那賀中学校				55件				1, 090人										
	・ 那賀体育館 825件 20, 334人								・ 貴志川スポーツ公園夜間照明施設管理				ソフトボール場 105件 3, 550人														
	・ 桃山勤労者体育館 741件 16, 945人								テニスコート 371件 2, 966人																		
	・ 貴志川体育館 1, 047件 27, 462人																										
	② 粉河武道館施設管理																										
	297件 3, 202人																										
	③ パークゴルフ場施設管理								⑥ 粉河西部・中部運動場施設管理																		
2, 454組 13, 938人								・ 西部運動場 116件 2, 345人																			
								・ 中部運動場 192件 3, 384人																			
④ トレーニング施設管理								⑦ 奥安楽川広場施設管理																			
・ 那賀体育館トレーニングルーム 5, 465人								5件 208人																			
・ 貴志川トレーニングプラザ 15, 327人																											
⑤ 夜間照明施設管理								⑧ 長山ふれあい公園(多目的広場)施設管理																			
・ 粉河西部・中部運動場夜間照明施設管理								405件 14, 556人																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がややある																							
				・ 市民が利用する施設であるため、備品や設備等の充実を図るなど環境を整えた上で適正な管理が必要である。 ・ 運動公園施設も含め老朽化した施設が多いため、施設の再配置や集約化などについて検討する必要がある。																							
	有効性	評価結果		改善の余地がややある																							
				・ 安全で快適に利用できる施設を目指し、備品や設備等の充実を図るなど市民のニーズ合致した環境整備をおこなう。																							
	効率性	評価結果		改善の余地がややある																							
			・ 利用者数の増加と運営効率の観点から、指定管理者制度等の民間活力の導入も検討していく必要がある。 ・ 施設使用料の減免にかかる市の統一基準を精査し、運用に向けた庁内での調整が必要である。																								

事務事業の概要	事務事業名				学校給食運営事業				担当課		教育総務課			事業区分		ソフト事業																
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		533													
	会計				一般会計				長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育																	
	予算科目				款						10		教育費																			
					項						5		保健体育費																			
				目				4				学校給食費				基本施策		1		学校教育環境の充実												
																取組方針				5		学校給食の充実										
				事業概要				児童、生徒に安全、安心な給食を提供するために、調理配送委託先への指導監督や給食の管理運営を行う事業																								
事務事業を構成する細事業				①				学校給食運営・安全対策				⑤				県学校栄養士研究会負担金				⑨												
				②				学校給食委託				⑥				栄養教諭設置期成会負担金				⑩												
				③				給食配送車管理				⑦								⑪												
				④				全国学校栄養士協議会負担金				⑧								⑫												
指標の実績					指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析											
	活動指標				年間給食実施日数		日		目標		197		202		202		202		202		粉河学校給食センターが粉河、那賀管内7小学校及び2中学校。河南学校給食センターが打田、桃山、貴志川管内8小学校及び3中学校に給食を調理、配送。											
									実績		201		201		201																	
									<指標の計算方法>										粉河学校給食センターと河南学校給食センターの給食実施日数の平均													
	成果指標				年間給食実食数		食		目標		900,000		900,000		900,000		900,000		900,000		安全・安心な学校給食を粉河学校給食センターが1日約1,200食。河南学校給食センターが1日約3,300食を調理し提供した。											
									実績		880,201		869,323		849,233																	
									<指標の計算方法>										粉河学校給食センターと河南学校給食センターの給食食数の合計													
	活動指標				フルーツ給食の実施回数		回		目標		34		34		34		34		34		学校給食に紀の川市産フルーツを食材として使用し、食育の一環として活用する。令和6年度のフルーツ給食実施回数は年間を通じて粉河学校給食センターで20回、河南学校給食センターで20回の合計40回実施した。											
									実績		32		40		40																	
									<指標の計算方法>										粉河学校給食センターと河南学校給食センターでフルーツ給食を提供した回数													
成果指標				年間フルーツ給食の実食数		食		目標		67,000		67,000		67,000		67,000		67,000		地産地消を推奨し、児童・生徒に郷土の産業について理解を深めてもらう。												
								実績		69,340		85,476		81,856																		
								<指標の計算方法>										粉河学校給食センターと河南学校給食センターでフルーツ給食を提供した実食数														
コストの実績					R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳																							
									国庫支出金				県支出金				地方債				繰入金				その他				一般財源			
					592,578								43,488				78,900								25,822				444,368			
事業の実績					①学校給食運営・安全対策								配送車：2t車 3台、軽貨物車1台 ・河南学校給食センター 配送車：2t車 5台								1,500食以下 1名（粉河） 1,501食～6,000食 2名（河南）											
					・学校給食食材費 粉河学校給食センター 64,068,630円 河南学校給食センター 185,802,259円								④全国学校栄養士協議会負担金 ・7,000円×3名分（粉河1名、河南2名） 21,000円																			
					学校給食に紀の川市産のフルーツを食材として使用し、食育の一環として活用した。 ・フルーツ給食食材費 粉河学校給食センター 686,105円 河南学校給食センター 2,275,700円								⑤県学校栄養士研究会負担金 ・一律5,000円 ・2,000円×3名分（粉河1名、河南2名） 6,000円																			
					②学校給食委託 ・粉河、河南学校給食センター（給食調理・配送・施設管理） 167,679,600円								⑥栄養教諭設置期成会負担金 ・5,000円×3名分（粉河1名、河南2名） 15,000円																			
				③給食配送車管理 ・粉河学校給食センター								※参考（④～⑥について） 共同調理場における栄養士の配置人数（文部科学省教職員定数より）																				
事業の事後評価	妥当性				評価結果		改善の余地がない																									
					・安全安心な学校給食を提供するために今後も市が実施していくことが妥当である。																											
	有効性				評価結果		改善の余地がない																									
					・地産地消を積極的に推進するとともに、地元産果物を使用したフルーツ給食の提供など、安全安心な給食の提供及び食育の観点からも大変有意義な事業である。																											
	効率性				評価結果		改善の余地がない																									
・学校給食の調理、配送、施設の保守及び衛生管理業務を委託しており、効率化が図られている。																																

事務事業の概要	事務事業名		学校給食センター管理事業				担当課		教育総務課		事業区分		ソフト事業	
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		1087			
	会計		一般会計		長期総合計画体系		政策目標		2		子育て・教育			
	予算科目	款	10 教 育 費		施策目標		2		学校教育					
		項目	5 保健体育費		基本施策		1		学校教育環境の充実					
事業概要		児童、生徒に安全な給食を滞りなく提供するために、学校給食センター維持管理を適切に行う事業												
事務事業を構成する細事業	①		粉河学校給食センター施設管理				⑤				⑨			
	②		河南学校給食センター施設管理				⑥				⑩			
	③						⑦				⑪			
	④						⑧				⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	施設設備の点検、メンテナンス、改良工事件数	件	目標	15	15	15	15	15	定期的なメンテナンス修繕や法定検査を実施することにより、施設の不備による原因で学校給食を提供できなくなる事態を防ぐ。	
				実績	17	12	16				
				<指標の計算方法> 粉河学校給食センターと河南学校給食センターの施設設備（厨房設備除く）のメンテナンス修繕件数、法定検査、委託点検、改良工事の合計件数（予算計上分）							
	活動指標	施設設備の緊急を要する修繕・工事件数	件	目標	5	25	25	25	25	施設の経年劣化により年々増加する突発的な修繕等について、随時適正に対応することにより、学校給食が提供できなくなる事態を防ぐ。	
				実績	25	32	34				
				<指標の計算方法> 粉河学校給食センターと河南学校給食センターの施設設備（厨房設備除く）の予定していない修繕と工事の合計件数（予算計上していないもの）							
	成果指標	施設設備の不具合で給食が提供できなかった日数	日	目標	0	0	0	0	0	令和6年度において、突発的な事故や故障等による給食の停止はなかった。	
				実績	0	0	0				
				<指標の計算方法> 施設設備の不具合で給食が提供できなかった日数							
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
		31, 822			12, 000			19, 822

事業の実績	①粉河学校給食センター施設管理												
	・法定及び定期検査		4件	572, 900円									
	・メンテナンス修繕		3件	2, 585, 660円									
	・緊急修繕		13件	2, 153, 360円									
事業の実績	②河南学校給食センター施設管理												
	・法定及び定期検査		3件	2, 603, 700円									
	・メンテナンス修繕		6件	4, 335, 760円									
	・緊急修繕		21件	3, 179, 363円									

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・学校給食センターの施設、設備等の保守及び管理を行う業務であり、市が継続していくことが妥当な事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・施設や設備等の老朽化及び経年劣化による修繕等が発生する中、定期的なメンテナンスや修繕を行うことで、設備の不備に起因する学校給食の提供中止の事態を避けることができる。											
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・施設管理に特化した事業であり、メンテナンスについては学校の長期休業中に計画的に実施している。												

事務事業の概要	事務事業名		農地災害復旧事業			担当課		農地整備課		事業区分		ハード事業							
						新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		134			
	会計		一般会計			長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心							
	予算科目		11 災害復旧費					施策目標		1		防災・防犯							
	款項目		1 農林施設災害復旧費					基本施策		3		災害に強いまちの形成							
		1 農地災害復旧費					取組方針		3		農地・農業用施設の災害対策の推進								
事業概要		農業従事者等が地域の農業の維持を図り、併せてその経営の安定に寄与できるように、災害により被災した農地を農業経営が維持できるように復旧する事業																	
事務事業を構成する細事業		① 農地災害復旧			⑤						⑨								
		② 県土地改良事業団体連合会負担金			⑥						⑩								
		③			⑦						⑪								
		④			⑧						⑫								
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
	成果指標	災害復旧		箇所		目標										令和5年度繰越工事5件が完成した。 なお、令和6年度工事2件は令和7年度へ繰越となった。			
				実績				6		5									
		<指標の計算方法>		復旧箇所															
				箇所		目標													
				実績															
		<指標の計算方法>																	
				箇所		目標													
				実績															
		<指標の計算方法>																	
			箇所		目標														
			実績																
	<指標の計算方法>																		
コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳														
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
	26, 115						19, 710						4, 957		1, 448				
事業の実績	①農地災害復旧 令和5年度繰越工事5件が完成 令和6年7月豪雨に伴う災害が発生 災害復旧測量設計2件 災害復旧工事2件 令和6年度工事2件が令和7年度へ繰越																		
	②県土地改良事業団体連合会負担金 令和5年度繰越事業費に応じた負担金を支出した。																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない															
		・市が実施主体となる国庫補助事業を活用し、緊急性に対応しつつ、厳格なルールの中で最適な災害復旧を行うことは妥当である。																	
	有効性	評価結果		改善の余地がない															
		・激甚指定を受けたことによる国庫補助率の増高申請を行うことで地元負担金の軽減を図る等、専門性を用いた対策で災害復旧に取り組むことが出来ている。																	
	効率性	評価結果		改善の余地がない															
・専門性を持った職員により災害査定や地元調整等を行うことが出来た。																			

事務事業の概要	事務事業名		農業用施設災害復旧事業				担当課		農地整備課		事業区分		ハード事業						
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		135		
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心						
	予算科目	款項目	11		災害復旧費				施策目標		1		防災・防犯						
			1		農林施設災害復旧費				基本施策		3		災害に強いまちの形成						
		2		農業用施設災害復旧費				取組方針		3		農地・農業用施設の災害対策の推進							
事業概要		農業従事者等が地域の農業の維持を図り、併せてその経営の安定に寄与できるように、災害により被災した農業用施設を農業経営が維持できるように復旧する事業																	
事務事業を構成する細事業			① 農業施設災害復旧				⑤						⑨						
			② 県土地改良事業団体連合会負担金				⑥						⑩						
			③ 農業用施設災害復旧補助金				⑦						⑪						
			④				⑧						⑫						
指標の実績	成果指標	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
		災害復旧	箇所	目標											令和6年7月豪雨に伴う災害が発生したことに伴う農業用施設災害復旧工事が2件、また令和5年度繰越工事7件が完成。				
				実績			5		9										
		<指標の計算方法>		復旧箇所															
	成果指標	災害現場復旧補助金交付	箇所	目標											令和5年6月豪雨に伴う農業用施設災害復旧補助金(繰越分)において、自治区申請で44件、個人農地申請で47件を交付した。				
				実績			393		91										
		<指標の計算方法>		交付箇所															
					目標														
	実績																		
	<指標の計算方法>																		
				目標															
		実績																	
	<指標の計算方法>																		
	コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳													
				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
61,652						22,217						35,435		4,000					
事業の実績	①農業施設災害復旧 ・令和6年7月豪雨に伴う災害が発生 農業施設災害復旧工事2件 測量設計委託2件 令和5年度繰越工事7件																		
	②県土地改良事業団体連合会負担金 ・事業費に応じた負担金を支出した。																		
事業の実績	③農業用施設災害復旧補助金 令和5年度繰越分交付実績 ・自治区44件 農道 17件 891m 水路 21件 569m ため池 5件 施設 1件 ・個人農地47件																		
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・市が実施主体となる国庫補助事業を活用し、緊急性に対応しつつ、厳格なルールの中で最適な災害復旧を行うことは妥当であるといえる。															
	有効性	評価結果		改善の余地がない ・激甚指定を受けたことによる国庫補助率の増高申請を行うことで地元負担金の軽減を図る等、専門性を用いた対策で災害復旧に取り組むことが出来たといえる。															
	効率性	評価結果		改善の余地がない ・膨大な数の問合せや現地確認について、業務分担に関わらず非常勤職員も動員し課全体で対応することで、事業対象の振り分けや災害査定、地元調整等を行うことが出来た。															

事務事業の概要	事務事業名		林業施設災害復旧事業					担当課		林務課		事業区分		ハード事業								
								新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		136				
	会計		一般会計					長期総合計画体系		政策目標		4		都市基盤・生活環境								
	予算科目	款	11		災害復旧費					施策目標		3		自然環境								
		項	1		農林施設災害復旧費					基本施策		1		豊かな自然環境の保全								
目		3		林業施設災害復旧費			取組方針			4		山村振興施設と林道の適正な維持管理										
事業概要			林業従事者等が森林の保全や管理ができるように、災害により被災した林業用施設を森林の保全や管理を行えるように復旧する事業																			
事務事業を構成する細事業	①		林業施設災害復旧					⑤							⑨							
	②							⑥							⑩							
	③							⑦							⑪							
	④							⑧							⑫							
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析					
	活動指標	災害復旧		件	目標												令和5年度からの繰越事業が完了した。					
		実績					4		2													
		<指標の計算方法>		被災箇所の復旧件数（工事完了件数）																		
					目標																	
		実績																				
		<指標の計算方法>																				
					目標																	
		実績																				
		<指標の計算方法>																				
				目標																		
	実績																					
	<指標の計算方法>																					
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）					財源内訳																
						国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源						
					17, 471							10, 222		4, 200				3, 049				
事業の実績	①林業施設災害復旧 ・林道真国野田原線災害復旧 路面崩壊 L＝28.0m ・粉河地区治山災害復旧 （県土防災対策治山事業 粉河高校東側）																					
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・災害発生時に実施する事業であり、市が実施する責務のあるもの。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がない ・災害発生時に実施する事業であり、市が実施する責務のあるもの。																		
	効率性	評価結果		改善の余地がない ・災害発生時に実施する事業であり、市が実施する責務のあるもの。																		

事務事業の概要	事務事業名		土木施設災害復旧事業				担当課		道路河川課		事業区分		ハード事業			
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	137	
	会計		一般会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心					
	予算科目	款	11	災害復旧費					施策目標	1	防災・防犯					
		項	2	公共土木施設災害復旧費					基本施策	3	災害に強いまちの形成					
目		1	道路橋りょう災害復旧費			取組方針			9	その他						
事業概要		市民の安全性を確保するために、被災箇所の復旧工事を行う事業														
事務事業を構成する細事業	①		土木施設災害復旧				⑤					⑨				
	②						⑥					⑩				
	③						⑦					⑪				
	④						⑧					⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析		
	活動指標	災害復旧箇所数		箇所	目標											令和5年6月に発生した梅雨前線豪雨による甚大な施設災害については、令和6年度に概ね完成した。	
		実績			42		141										
		<指標の計算方法>		被災箇所の復旧箇所数													
					目標												
					実績												
	<指標の計算方法>																
					目標												
					実績												
	<指標の計算方法>																
				目標													
				実績													
<指標の計算方法>																	

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳											
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	693, 522				166, 076				225, 100				259, 981		42, 365	

事業の実績	【R5繰】 ①土木施設災害復旧 ・委託 調査業務 2件 54, 421, 200円 ・工事 135箇所完成 578, 112, 080円 ・補償 物件補償 2件 1, 319, 100円											
	【R6】 ①土木施設災害復旧 ・委託 測量設計 3件 27, 083, 100円 崩土除去 13件 3, 870, 900円 ・工事 6箇所完成 19, 620, 700円											

事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・被災した公共土木施設（市道・河川）の復旧を市が行うことは妥当である。													
	有効性	評価結果		改善の余地がない ・公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法に基づき申請し、国の負担金、補助事業を活用し早期に復旧する事で二次被害防止につながり効果的である。													
効率性	評価結果		改善の余地がない ・公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法に基づき申請し、国の負担金、補助事業を活用し被災箇所の復旧を行うため、効率的である。														

事務事業の概要	事務事業名		体育施設災害復旧事業				担当課		生涯スポーツ課		事業区分		ハード事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度のみ		事業番号		1101	
	会計		一般会計						政策目標		2		子育て・教育					
	予算科目	款	11 災害復旧費						施策目標		3		生涯学習・生涯スポーツ					
		項	3 文教施設災害復旧費						基本施策		3		スポーツの振興と環境の充実					
		目	1 保健体育施設災害復旧費						取組方針		3		スポーツ施設の充実と適切な管理					
	事業概要		災害により被災した社会体育施設の復旧を行う事業															
			① 奥安楽川広場施設管理				⑤						⑨					
	事務事業を構成する細事業		②				⑥						⑩					
			③				⑦						⑪					
		④				⑧						⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	復旧工事件数		件	目標						復旧工事中、大雨の影響で2度の法面崩落により事故繰越となった
					実績		1	1			
		<指標の計算方法>		復旧工事件数							
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 (単位：千円)				財源内訳					
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	5,611						3,300		2,311	

事業の実績	①奥安楽川広場施設管理 令和5年度からの繰越事業として工法を変更し復旧工事を実施した。 ・工事請負費 5,610,700円															

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・市が直営で管理する施設であり、妥当性がある。														
	有効性	評価結果	改善の余地がない													
		・被害を受けた施設を原状回復するための復旧工事であり、有効性がある。														
	効率性	評価結果	改善の余地がない													
		・専門的な知識を持つ職員の対応により、アクシデントなども最小限の被害で済んだ。														

10. 特別会計主要施策の成果

国民健康保険事業勘定特別会計

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																										
1 - 1 - 1 一般被保険者保険税	国保年金課	1,285,100,000	1,322,993,826	◎一般被保険者分保険税 現年課税分																										
				<table><tr><th rowspan="2">令和6年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>医療給付分</td><td>941,201,450</td><td>911,508,685</td><td>96.8%</td><td rowspan="4">—</td><td rowspan="4">—</td></tr><tr><td>後期支援分</td><td>317,058,050</td><td>307,135,513</td><td>96.9%</td></tr><tr><td>介護納付分</td><td>109,224,000</td><td>104,349,628</td><td>95.5%</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1,367,483,500</td><td>1,322,993,826</td><td>96.7%</td></tr></table>	令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	941,201,450	911,508,685	96.8%	—	—	後期支援分	317,058,050	307,135,513	96.9%	介護納付分	109,224,000	104,349,628	95.5%	合 計	1,367,483,500	1,322,993,826	96.7%
				令和6年度					調定額	収入済額	収納率	不納欠損																		
					額	件数																								
				医療給付分	941,201,450	911,508,685	96.8%	—	—																					
				後期支援分	317,058,050	307,135,513	96.9%																							
				介護納付分	109,224,000	104,349,628	95.5%																							
				合 計	1,367,483,500	1,322,993,826	96.7%																							
				◎一般被保険者分保険税 滞納繰越分																										
				<table><tr><th rowspan="2">令和6年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>医療給付分</td><td>106,213,377</td><td>25,874,112</td><td>24.4%</td><td rowspan="4">14,437,937</td><td rowspan="4">1,265件</td></tr><tr><td>後期支援分</td><td>28,303,253</td><td>7,754,244</td><td>27.4%</td></tr><tr><td>介護納付分</td><td>17,355,711</td><td>3,722,275</td><td>21.4%</td></tr><tr><td>合 計</td><td>151,872,341</td><td>37,350,631</td><td>24.6%</td></tr></table>	令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	106,213,377	25,874,112	24.4%	14,437,937	1,265件	後期支援分	28,303,253	7,754,244	27.4%	介護納付分	17,355,711	3,722,275	21.4%	合 計	151,872,341	37,350,631	24.6%
令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																										
				額	件数																									
医療給付分	106,213,377	25,874,112	24.4%	14,437,937	1,265件																									
後期支援分	28,303,253	7,754,244	27.4%																											
介護納付分	17,355,711	3,722,275	21.4%																											
合 計	151,872,341	37,350,631	24.6%																											
◎一般被保険者分保険税 滞納繰越分																														
<table><tr><th rowspan="2">令和5年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>医療給付分</td><td>112,284,349</td><td>28,304,862</td><td>25.2%</td><td rowspan="4">8,034,565</td><td rowspan="4">674件</td></tr><tr><td>後期支援分</td><td>29,011,436</td><td>8,268,169</td><td>28.5%</td></tr><tr><td>介護納付分</td><td>18,624,756</td><td>4,885,528</td><td>26.2%</td></tr><tr><td>合 計</td><td>159,920,541</td><td>41,458,559</td><td>25.9%</td></tr></table>	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	112,284,349	28,304,862	25.2%	8,034,565	674件	後期支援分	29,011,436	8,268,169	28.5%	介護納付分	18,624,756	4,885,528	26.2%	合 計	159,920,541	41,458,559	25.9%				
令和5年度					調定額	収入済額	収納率	不納欠損																						
	額	件数																												
医療給付分	112,284,349	28,304,862	25.2%	8,034,565	674件																									
後期支援分	29,011,436	8,268,169	28.5%																											
介護納付分	18,624,756	4,885,528	26.2%																											
合 計	159,920,541	41,458,559	25.9%																											
1 - 1 - 2 退職被保険者等保険税	国保年金課	3,000	0	◎退職被保険者分保険税 現年課税分																										
				<table><tr><th rowspan="2">令和6年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>医療給付分</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td><td rowspan="4">—</td><td rowspan="4">—</td></tr><tr><td>後期支援分</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td></tr><tr><td>介護納付分</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td></tr></table>	令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	0	0	—	—	—	後期支援分	0	0	—	介護納付分	0	0	—	合 計	0	0	—
				令和6年度					調定額	収入済額	収納率	不納欠損																		
					額	件数																								
				医療給付分	0	0	—	—	—																					
				後期支援分	0	0	—																							
				介護納付分	0	0	—																							
				合 計	0	0	—																							
				◎退職被保険者分保険税 滞納繰越分																										
				<table><tr><th rowspan="2">令和5年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>医療給付分</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td><td rowspan="4">—</td><td rowspan="4">—</td></tr><tr><td>後期支援分</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td></tr><tr><td>介護納付分</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td></tr></table>	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	0	0	—	—	—	後期支援分	0	0	—	介護納付分	0	0	—	合 計	0	0	—
令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																										
				額	件数																									
医療給付分	0	0	—	—	—																									
後期支援分	0	0	—																											
介護納付分	0	0	—																											
合 計	0	0	—																											
◎退職被保険者分保険税 滞納繰越分																														
<table><tr><th rowspan="2">令和6年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>医療給付分</td><td>1,822,395</td><td>126,881</td><td>7.0%</td><td rowspan="4">—</td><td rowspan="4">—</td></tr><tr><td>後期支援分</td><td>357,571</td><td>34,306</td><td>9.6%</td></tr><tr><td>介護納付分</td><td>360,718</td><td>39,227</td><td>10.9%</td></tr><tr><td>合 計</td><td>2,540,684</td><td>200,414</td><td>7.9%</td></tr></table>	令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	1,822,395	126,881	7.0%	—	—	後期支援分	357,571	34,306	9.6%	介護納付分	360,718	39,227	10.9%	合 計	2,540,684	200,414	7.9%				
令和6年度					調定額	収入済額	収納率	不納欠損																						
	額	件数																												
医療給付分	1,822,395	126,881	7.0%	—	—																									
後期支援分	357,571	34,306	9.6%																											
介護納付分	360,718	39,227	10.9%																											
合 計	2,540,684	200,414	7.9%																											
◎退職被保険者分保険税 滞納繰越分																														
<table><tr><th rowspan="2">令和5年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>医療給付分</td><td>1,867,042</td><td>44,647</td><td>2.4%</td><td rowspan="4">—</td><td rowspan="4">—</td></tr><tr><td>後期支援分</td><td>365,648</td><td>8,077</td><td>2.2%</td></tr><tr><td>介護納付分</td><td>372,454</td><td>11,736</td><td>3.2%</td></tr><tr><td>合 計</td><td>2,605,144</td><td>64,460</td><td>2.5%</td></tr></table>	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	1,867,042	44,647	2.4%	—	—	後期支援分	365,648	8,077	2.2%	介護納付分	372,454	11,736	3.2%	合 計	2,605,144	64,460	2.5%				
令和5年度					調定額	収入済額	収納率	不納欠損																						
	額	件数																												
医療給付分	1,867,042	44,647	2.4%	—	—																									
後期支援分	365,648	8,077	2.2%																											
介護納付分	372,454	11,736	3.2%																											
合 計	2,605,144	64,460	2.5%																											

(単位：円)

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																																																																																															
				◎軽減世帯数および軽減被保険者数 <table><tr><th rowspan="2">被保険者別</th><th colspan="4">世帯数</th><th colspan="4">被保険者数</th></tr><tr><th>7割</th><th>5割</th><th>2割</th><th>計</th><th>7割</th><th>5割</th><th>2割</th><th>計</th></tr><tr><td>一般被保険者</td><td>2,691</td><td>1,429</td><td>1,076</td><td>5,196</td><td>3,665</td><td>2,587</td><td>1,977</td><td>8,229</td></tr><tr><td>退職被保険者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>合 計</td><td>2,691</td><td>1,429</td><td>1,076</td><td>5,196</td><td>3,665</td><td>2,587</td><td>1,977</td><td>8,229</td></tr></table> 注) 同一世帯内に一般被保険者と退職被保険者が混在する場合は、一般被保険者の世帯数として計上 ◎未就学児均等割保険料軽減 <table><tr><th rowspan="2">被保険者別</th><th colspan="2">医療給付分</th><th colspan="2">後期支援分</th></tr><tr><th>被保険者数</th><th>軽減税額</th><th>被保険者数</th><th>軽減税額</th></tr><tr><td>一般被保険者</td><td>319</td><td>2,598,985</td><td>319</td><td>851,371</td></tr><tr><td>退職被保険者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>合 計</td><td>319</td><td>2,598,985</td><td>319</td><td>851,371</td></tr></table> ◎産前産後保険料軽減 <table><tr><th rowspan="2">被保険者別</th><th colspan="2">医療給付分</th><th colspan="2">後期支援分</th><th colspan="2">介護納付分</th></tr><tr><th>被保険者数</th><th>軽減税額</th><th>被保険者数</th><th>軽減税額</th><th>被保険者数</th><th>軽減税額</th></tr><tr><td>一般被保険者</td><td>24</td><td>634,740</td><td>24</td><td>211,638</td><td>3</td><td>37,175</td></tr><tr><td>退職被保険者</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>合 計</td><td>24</td><td>634,740</td><td>24</td><td>211,638</td><td>3</td><td>37,175</td></tr></table> ◎賦課割合 (被保険者全体) <table><tr><th rowspan="2">賦 課 区 分</th><th colspan="3">応 能 割</th><th colspan="3">応 益 割</th></tr><tr><th></th><th>所得割</th><th>資産割</th><th></th><th>均等割</th><th>平等割</th></tr><tr><td>医療給付分</td><td>51.22%</td><td>51.22%</td><td>0.00%</td><td>48.78%</td><td>34.52%</td><td>14.26%</td></tr><tr><td>後期支援分</td><td>51.66%</td><td>51.66%</td><td>0.00%</td><td>48.34%</td><td>33.79%</td><td>14.55%</td></tr><tr><td>介護納付分</td><td>50.06%</td><td>50.06%</td><td>0.00%</td><td>49.94%</td><td>34.91%</td><td>15.03%</td></tr><tr><td>区 分 全 体</td><td>50.98%</td><td>50.98%</td><td>0.00%</td><td>49.02%</td><td>34.41%</td><td>14.61%</td></tr></table>	被保険者別	世帯数				被保険者数				7割	5割	2割	計	7割	5割	2割	計	一般被保険者	2,691	1,429	1,076	5,196	3,665	2,587	1,977	8,229	退職被保険者	0	0	0	0	0	0	0	0	合 計	2,691	1,429	1,076	5,196	3,665	2,587	1,977	8,229	被保険者別	医療給付分		後期支援分		被保険者数	軽減税額	被保険者数	軽減税額	一般被保険者	319	2,598,985	319	851,371	退職被保険者	0	0	0	0	合 計	319	2,598,985	319	851,371	被保険者別	医療給付分		後期支援分		介護納付分		被保険者数	軽減税額	被保険者数	軽減税額	被保険者数	軽減税額	一般被保険者	24	634,740	24	211,638	3	37,175	退職被保険者	0	0	0	0	0	0	合 計	24	634,740	24	211,638	3	37,175	賦 課 区 分	応 能 割			応 益 割				所得割	資産割		均等割	平等割	医療給付分	51.22%	51.22%	0.00%	48.78%	34.52%	14.26%	後期支援分	51.66%	51.66%	0.00%	48.34%	33.79%	14.55%	介護納付分	50.06%	50.06%	0.00%	49.94%	34.91%	15.03%	区 分 全 体	50.98%	50.98%	0.00%	49.02%	34.41%	14.61%
被保険者別	世帯数					被保険者数																																																																																																																																													
	7割	5割	2割	計	7割	5割	2割	計																																																																																																																																											
一般被保険者	2,691	1,429	1,076	5,196	3,665	2,587	1,977	8,229																																																																																																																																											
退職被保険者	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																											
合 計	2,691	1,429	1,076	5,196	3,665	2,587	1,977	8,229																																																																																																																																											
被保険者別	医療給付分		後期支援分																																																																																																																																																
	被保険者数	軽減税額	被保険者数	軽減税額																																																																																																																																															
一般被保険者	319	2,598,985	319	851,371																																																																																																																																															
退職被保険者	0	0	0	0																																																																																																																																															
合 計	319	2,598,985	319	851,371																																																																																																																																															
被保険者別	医療給付分		後期支援分		介護納付分																																																																																																																																														
	被保険者数	軽減税額	被保険者数	軽減税額	被保険者数	軽減税額																																																																																																																																													
一般被保険者	24	634,740	24	211,638	3	37,175																																																																																																																																													
退職被保険者	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																													
合 計	24	634,740	24	211,638	3	37,175																																																																																																																																													
賦 課 区 分	応 能 割			応 益 割																																																																																																																																															
		所得割	資産割		均等割	平等割																																																																																																																																													
医療給付分	51.22%	51.22%	0.00%	48.78%	34.52%	14.26%																																																																																																																																													
後期支援分	51.66%	51.66%	0.00%	48.34%	33.79%	14.55%																																																																																																																																													
介護納付分	50.06%	50.06%	0.00%	49.94%	34.91%	15.03%																																																																																																																																													
区 分 全 体	50.98%	50.98%	0.00%	49.02%	34.41%	14.61%																																																																																																																																													

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名		総務費（国保）				担当課		国保年金課		事業区分		ソフト事業							
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		7001			
	会計		国民健康保険事業勘定特別会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心							
	款		1 総 務 費						施策目標		2		健康・医療							
	予算科目								基本施策		2		地域医療体制・医療保険制度の充実							
目						取組方針		5		国民健康保険制度の安定的運営										
事業概要		国民健康保険制度に基づき被保険者が医療保険を利用できるよう管理を行う事業																		
事務事業を構成する細事業		① 総務管理費				⑤						⑨								
		② 徴税費				⑥						⑩								
		③ 運営協議会費				⑦						⑪								
		④				⑧						⑫								
指標の実績	成果指標		指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析			
			国民健康保険税（現年課税分）の収納率		%	目標	96		97		97		97		97.3		収納率は高水準を維持している。			
			実績		97		96.8		96.7											
	<指標の計算方法>		現年分収納済み額÷現年度調定額																	
	活動指標		被保険者証の交付（年度更新）		枚	目標											後期高齢者医療制度への移行、被用者保険の適用拡大により被保険者数は減少傾向にある。			
			実績		14,935		14,210		13,399											
			<指標の計算方法>		被保険者証の一斉更新対象の被保険者数															
	活動指標		国民健康保険事業の運営に関する協議会の開催		回	目標	4		4		4		4		4		税率改正などの協議を定年通りスムーズに行い、令和5年度と同様に開催した。			
			実績		3		3		3											
			<指標の計算方法>		実施回数															
					目標															
		実績																		
		<指標の計算方法>																		
コストの実績	R 6年度決算額（単位：千円）					財源内訳														
						国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源				
41,880					2,852		13,679								80		25,269			
事業の実績	①総務管理費 【被保険者の状況（年度平均）】 世帯数 8,615世帯 被保険者数（全体） 13,794人 （内訳）一般被保険者 13,794人 退職被保険者 0人 （再掲）介護保険第2号被保険者 4,574人 ◎紀の川市国民健康保険運営 ・被保険者証の更新 ・保険者事務電算共同処理委託 ・事務システムの保守・開発 ・各種受給者証等の作成 ・県国民健康保険団体連合会負担金 会員負担金 保険者均等割 380,000円 被保険者割 3,538,416円 ・保健事業等保険者支援負担金 保険者均等割 39,966円 被保険者割 233,047円 ※当該年度の4月末現在の					被保険者数に応じて算出 （R6.4月末 14,167人） ②徴税費 ◎国民健康保険税賦課徴収 ・納税通知書等作成・送付 ・口座振替手数料費用 236,020円（単価：10円【税別】） ・コンビニ収納手数料費用 1,509,816円（単価：60円【税別】） ・収納率向上のための徴収員（収納対策課配属）の雇用 ③運営協議会費 ◎紀の川市の国民健康保険事業の運営に関する協議会（委員数17名） ・開催回数 3回 第1回 令和6年8月29日（書面） 第2回 令和7年1月23日 第3回 令和7年2月20日														
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・保険者として法令に基づき実施する事業である。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がない																
		・保険者として法令に基づき実施する事業である。																		
効率性	評価結果		改善の余地がない																	
	・大量印刷物（資格確認書、納税通知書等）の印刷、封入などを外部委託しており、事務効率の改善については余地がない状況である。																			

事務事業の概要	事務事業名		保険給付費（国保）				担当課		国保年金課		事業区分		ソフト事業				
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	7002		
	会計		国民健康保険事業勘定特別会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心						
	予算科目	款項目	2		保険給付費				施策目標	2	健康・医療						
									基本施策	2	地域医療体制・医療保険制度の充実						
								取組方針	5	国民健康保険制度の安定的運営							
事業概要		国民健康保険制度に基づき被保険者が医療保険を利用できるよう運営を行う事業															
事務事業を構成する細事業		① 療養諸費				⑤ 移送費				⑨							
		② 高額療養費				⑥ 傷病諸費				⑩							
		③ 出産育児諸費				⑦				⑪							
		④ 葬祭諸費				⑧				⑫							
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析		
	活動指標	出産育児一時金支給件数		件	目標	36		35		35		35		35		被保険者数は減少傾向にあるが、支給件数は令和5年度と比較して2件の増加となった。ここ数年の動向により、少子化が進んでいることが窺える。	
				実績	41		30		32								
		<指標の計算方法> 支給実績件数															
	活動指標	葬祭費支給件数		件	目標	95		95		95		95		95		被保険者数は減少傾向にあり、支給件数は令和5年度と比較して12件の減少となった。	
				実績	102		102		90								
		<指標の計算方法> 支給実績件数															
	活動指標	1人あたり費用額		円	目標											1人当たり費用額は、増加傾向にある。要因としては、医療技術の高度化及び医療施設の充実による診療機会の増加などが考えられる。	
				実績	419, 396		437, 088		443, 993								
		<指標の計算方法> 療養給付費・療養費の費用額（一般・退職）÷平均被保険者数															
活動指標	1人あたり保険者負担額		円	目標											1人当たり保険者負担額は、増加傾向にある。要因としては、医療技術の高度化及び医療施設の充実による診療機会の増加などが考えられる。		
			実績	307, 932		320, 752		325, 413									
	<指標の計算方法> 療養給付費・療養費の保険者負担額（一般・退職）÷平均被保険者数																
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳												
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
	5, 212, 136						5, 195, 007								17, 129		
事業の実績	①療養諸費				◎支給件数												
	◎給付件数（療養給付費）				・ 500, 000円				32件								
	・ 一般被保険者 262, 274件				・ 退職被保険者 0件				488, 000円				0件				
	◎給付件数（療養費）				④葬祭諸費				◎支給件数				90件				
	・ 一般被保険者 10, 955件				◎支給件数				0件								
	・ 退職被保険者 0件				⑤移送費				◎支給件数				0件				
	◎審査支払件数				⑥傷病諸費				◎相談件数				0件				
	・ 一般被保険者 273, 221件				◎申請件数				0件				0件				
	・ 退職被保険者 0件				◎支給件数				0件								
	②高額療養費				◎給付件数（高額療養費）				◎給付件数（高額介護合算療養費）								
・ 一般被保険者 11, 134件				・ 一般被保険者 21件													
・ 退職被保険者 0件				・ 退職被保険者 0件													
③出産育児諸費																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない													
		・ 保険者として健康保険法等に基づき法定給付（療養の給付、療養費、高額療養費、出産育児一時金及び葬祭費の支給等）を実施する事業である。															
	有効性	評価結果		改善の余地がない													
・ 保険者として健康保険法等に基づき法定給付（療養の給付、療養費、高額療養費、出産育児一時金及び葬祭費の支給等）を実施する事業である。																	
効率性	評価結果		改善の余地がない														
	・ 保険者として健康保険法等に基づき法定給付（療養の給付、療養費、高額療養費、出産育児一時金及び葬祭費の支給等）を実施する事業である。																

事務事業の概要	事務事業名		保健事業（国保）				担当課		国保年金課		事業区分		ソフト事業	
							新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	7006
	会計		国民健康保険事業勘定特別会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心			
	予算科目	款	5		保健事業費				施策目標	2	健康・医療			
									基本施策	1	健康づくりと疾病予防			
									取組方針	5	特定健診・特定保健指導の充実			
事業概要		特定健康診査等事業や保健事業を通して、被保険者の健康寿命を延伸できるようにする事業												
事務事業を構成する細事業			① 特定健康診査等事業								⑨			
			② 保健事業								⑩			
			③								⑪			
			④								⑫			

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	特定健診受診率		%	目標	35.9	42	43.2	43.2	45.7	特定健診未受診者に対し、電話やハガキ等による受診勧奨を実施したことにより、目標値には達しなかったが受診率をほぼ維持することが出来た。引き続き受診率向上に向けた取組を実施していく必要がある。
					実績	38.2	40.7	40.4			
		＜指標の計算方法＞		特定健診受診者数÷特定健診対象者数							
	成果指標	特定保健指導利用率		%	目標	32.9	36.1	38	50	52	
					実績	36.1	36	47.9			
＜指標の計算方法＞		特定保健指導利用者数÷特定保健指導対象者数									
成果指標	未受診者受診勧奨による受診率		%	目標	63.3	70	71.5	74	74.5	受診勧奨対象者に対し、勧奨通知に加え、電話や訪問による勧奨を行った結果、受診率は目標値を達成することが出来た。引き続き医療機関と連携し、受診率を向上させる必要がある。	
				実績	69.7	71	73.5				
	＜指標の計算方法＞		受診者数÷対象者数（糖尿病性腎症重症化予防事業）								
活動指標	医療費通知の通知回数		回	目標	6	6	6	6	6		予定通り実施することが出来た。
				実績	6	6	6				
	＜指標の計算方法＞		医療費通知の通知回数								

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳					
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	105,938					78,377				27,561

事業の実績	①特定健康診査等事業 ◎特定健康診査 ・対象者:11,229人 受診者: 4,535人 受診率:40.4% （特定健診受診者内訳） 集団健診受診者:1,098人 個別健診受診者:3,148人 脳ドック検診の特定健診受診者:289人 ◎特定保健指導 ・対象者:359人 利用者:172人 利用率:47.9% （保健指導内訳） 動機付け支援:対象者286人 利用者135人(47.2%) 積極的支援 :対象者 73人 利用者 37人(50.7%)				◎糖尿病性腎症重症化予防事業 ・受診勧奨 対象者:102人 受診者:75人(73.5%) ・保健指導 対象者:267人 利用者:21人(7.9%) ②保健事業 ◎重複・多剤対策事業 対象者:529人 多剤解消者:96人 重複解消者:37人 ◎スマホドック事業 対象者:862人 申込者:125人 受診者:108人(12.5%) ◎脳ドック事業 申込者:399人 承認者:346人 受診者:346人(100%)				◎生活習慣病重症化予防(高血圧、高血糖、高脂質)の健康相談 対象者:580人 利用者:33人(5.7%)			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・特定健康診査及び特定保健指導は、高齢者の医療の確保に関する法律に基づいて実施している。また、その他の保健事業についても、被保険者の健康を保持増進することが目的のため、妥当な事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・特定健康診査及び特定保健指導は、高齢者の医療の確保に関する法律に基づいて実施している。また、その他の保健事業についても、被保険者の健康を保持増進することが目的のため、有効な事業である。											
	効率性	評価結果	改善の余地がない										
		・個別特定健康診査受診券印刷業務や、関係課と連携し令和7年度各種検診案内通知（集団検診申込票含む）作成業務を委託することにより、引き続き事務の効率化を図っている。											

国民健康保険直営診療施設勘定特別会計

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名		一般管理事業（直診）				担当課		国保年金課		事業区分		ソフト事業							
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		186			
	会計		国民健康保険直営診療施設勘定特別会計																	
	予算科目	款	1	施設費																
		項	1	施設管理費																
		目	1	一般管理費																
事業概要		国民健康保険直営診療施設において適切な医療が提供できるよう、管理運営を行う事業																		
事務事業を構成する細事業	①		一般管理事業						⑤								⑨			
	②								⑥								⑩			
	③								⑦								⑪			
	④								⑧								⑫			
指標の実績	活動指標	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析				
		診療日数	日	目標									令和6年4月から令和6年9月末まで月曜日の診療を休診したため、診療日数は減少した。							
				実績	241	185	169													
	<指標の計算方法>		診療日数																	
	成果指標	受診者数		人	目標									地域住民の人口減少に伴い、年間延べ受診者数は減少傾向にある。						
		実績	1,336		1,123	1,015														
		<指標の計算方法>		延べ受診者数																
	成果指標	レセプト請求件数		件	目標									受診者数の減少のため、レセプト請求件数も減少傾向にある。						
		実績	1,206		1,062	941														
		<指標の計算方法>		レセプト請求件数																
			目標																	
			実績																	
	<指標の計算方法>																			
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳															
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源					
	24,176														24,176					
事業の実績	①一般管理事業 ・直営診療施設受診者数 934人（鞆渚診療所） 81人（細野診療所） ・レセプト請求件数 860件（鞆渚診療所） 81件（細野診療所） ・管理運営委託料 鞆渚診療所指定管理事業者への管理運営委託料 21,393千円 ・鞆渚診療所送迎サービス（直営診療施設管理運営委託料を含む） 高齢者などの交通弱者が鞆渚診療所へ来院できるよう送迎サービスの運行を行う。 【利用状況】 運行回数 108回 利用人数 170人 運行本数は患者を迎えて送り届ける。																			
	行為を1回として記載する。																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない																
		・周辺に医療機関がない山間地（へき地）であり、民間の医療機関の参入・進出が見込めない地域であるため、直営診療施設での医療行為の提供は、妥当な事業である。																		
	有効性	評価結果		改善の余地がない																
		・周辺に医療機関がない山間地（へき地）であり、民間の医療機関の参入・進出が見込めない地域であるため、直営診療施設での医療行為の提供は、有効な事業である。																		
効率性	評価結果		改善の余地がない																	
	・令和元年度から指定管理者制度を実施しており、運営の効率化及びコスト削減に取り組んでいる。																			

事務事業の概要	事務事業名			診療施設再編事業（直診）				担当課		国保年金課		事業区分		ハード事業					
								新規・継続		継続		事業期間		期間限定複数年度（R 1 ～ R 7）		事業番号		1138	
	会計			国民健康保険直営診療施設勘定特別会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心					
	予算科目			款		1				施設費		施策目標		2		健康・医療			
				項		1				施設管理費		基本施策		2		地域医療体制・医療保険制度の充実			
	目			1		一般管理費				取組方針		4		へき地医療体制の充実					
	事業概要			機能性及び利便性が向上した診療所（施設）において、適切な医療が受診できるよう、鞆渕地区の公共施設（鞆渕出張所・鞆渕診療所・消防詰所）を複合施設などに再編する事業															
	事務事業を構成する細事業			① 診療施設再編事業				⑤								⑨			
				②				⑥								⑩			
				③				⑦								⑪			
④				⑧								⑫							

指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
	成果指標	再編する診療施設数	施設	目標	1		1		1		1		0		出張所、診療所、消防器具庫の機能集約を目指す。令和7年度に事業を完了させるため、令和6年度から7年度にかけ建築工事を実施している。	
				実績	0		0		0							
	<指標の計算方法>		再編を行った診療施設数													
				目標												
				実績												
	<指標の計算方法>															
				目標												
				実績												
	<指標の計算方法>															
			目標													
			実績													
<指標の計算方法>																

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）			財源内訳											
				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
			50, 220							47, 900					

事業の実績	①診療施設再編事業 ・鞆渕地区複合施設建設建築工事 工事金額 50, 220, 000円 出来高率50% （面積比 出張所5、消防施設2、診療施設3）														

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・鞆渕地区の公共施設で老朽化している出張所、消防施設及び診療施設を集約し再編することは、市民の利便性等を含めて妥当な事業である。														
		有効性	評価結果	改善の余地がない ・鞆渕地区の公共施設で老朽化している出張所、消防施設及び診療施設を集約し再編することは、市民の利便性向上に有効である。													
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・鞆渕地区の公共施設で老朽化している出張所、消防施設及び診療施設を集約し再編することは、施設管理のコスト削減に繋がる。														

後期高齢者医療特別会計

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																										
1 - 1 - 1 後期高齢者医療保険料	国保年金課	873, 409, 000	867, 364, 909	◎後期高齢者医療保険料 現年度分																										
				<table><tr><th rowspan="2">令和6年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>特別徴収分</td><td>497, 504, 800</td><td>497, 504, 800</td><td>100. 0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>普通徴収分</td><td>373, 317, 900</td><td>369, 860, 109</td><td>99. 1%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>870, 822, 700</td><td>867, 364, 909</td><td>99. 6%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	特別徴収分	497, 504, 800	497, 504, 800	100. 0%	—	—	普通徴収分	373, 317, 900	369, 860, 109	99. 1%	—	—	合 計	870, 822, 700	867, 364, 909	99. 6%	—	—
令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																										
				額	件数																									
特別徴収分	497, 504, 800	497, 504, 800	100. 0%	—	—																									
普通徴収分	373, 317, 900	369, 860, 109	99. 1%	—	—																									
合 計	870, 822, 700	867, 364, 909	99. 6%	—	—																									
				<table><tr><th rowspan="2">令和5年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>特別徴収分</td><td>444, 931, 100</td><td>444, 931, 100</td><td>100. 0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>普通徴収分</td><td>286, 778, 600</td><td>284, 419, 265</td><td>99. 2%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>731, 709, 700</td><td>729, 350, 365</td><td>99. 7%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	特別徴収分	444, 931, 100	444, 931, 100	100. 0%	—	—	普通徴収分	286, 778, 600	284, 419, 265	99. 2%	—	—	合 計	731, 709, 700	729, 350, 365	99. 7%	—	—
令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																										
				額	件数																									
特別徴収分	444, 931, 100	444, 931, 100	100. 0%	—	—																									
普通徴収分	286, 778, 600	284, 419, 265	99. 2%	—	—																									
合 計	731, 709, 700	729, 350, 365	99. 7%	—	—																									
				◎軽減被保険者数																										
				<table><tr><th rowspan="2">被保険者別</th><th colspan="4">被保険者数</th></tr><tr><th>7割</th><th>5割</th><th>2割</th><th>計</th></tr><tr><td>一般</td><td>5, 555</td><td>1, 680</td><td>1, 357</td><td>8, 592</td></tr><tr><td>元被扶養者</td><td></td><td>48</td><td></td><td>48</td></tr><tr><td>合 計</td><td>5, 555</td><td>1, 728</td><td>1, 357</td><td>8, 640</td></tr></table>	被保険者別	被保険者数				7割	5割	2割	計	一般	5, 555	1, 680	1, 357	8, 592	元被扶養者		48		48	合 計	5, 555	1, 728	1, 357	8, 640		
被保険者別	被保険者数																													
	7割	5割	2割	計																										
一般	5, 555	1, 680	1, 357	8, 592																										
元被扶養者		48		48																										
合 計	5, 555	1, 728	1, 357	8, 640																										
		2, 018, 000	1, 993, 913	◎後期高齢者医療保険料 滞納繰越分																										
				<table><tr><th rowspan="2">年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>3, 374, 116</td><td>1, 993, 913</td><td>59. 1%</td><td>288, 200</td><td>10件</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>3, 260, 813</td><td>2, 504, 032</td><td>76. 8%</td><td>91, 700</td><td>8件</td></tr></table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和6年度	3, 374, 116	1, 993, 913	59. 1%	288, 200	10件	令和5年度	3, 260, 813	2, 504, 032	76. 8%	91, 700	8件						
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																										
				額	件数																									
令和6年度	3, 374, 116	1, 993, 913	59. 1%	288, 200	10件																									
令和5年度	3, 260, 813	2, 504, 032	76. 8%	91, 700	8件																									

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名				一般管理事業（後期）				担当課		国保年金課		事業区分		ソフト事業									
									新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		391					
	会計				後期高齢者医療特別会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心									
	予算科目				1 総務費						施策目標		2		健康・医療									
					1 総務管理費						基本施策		2		地域医療体制・医療保険制度の充実									
					1 一般管理費						取組方針		9		その他									
	事業概要				後期高齢者医療制度に基づき、被保険者が医療保険を利用できるよう、受付等の業務を行う事業																			
	事務事業を構成する細事業				① 一般管理事業				⑤								⑨							
					②				⑥								⑩							
					③				⑦								⑪							
④					⑧								⑫											
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析							
	活動指標	被保険者数		人	目標												団塊の世代が75歳に到達し、被保険者数は増加している。							
		実績			10,847		11,239		11,486															
		<指標の計算方法> 紀の川市の被保険者数（年度末）																						
	活動指標	被保険者証（新規）送付件数		件	目標												団塊の世代が75歳に到達しているが、ピークが過ぎ、新規で被保険者証（資格確認書）を送付する件数が前年度より減少した。							
		実績			1,115		1,146		1,007															
		<指標の計算方法> 新規取得の被保険者証送付件数																						
					目標																			
		実績																						
		<指標の計算方法>																						
				目標																				
	実績																							
	<指標の計算方法>																							
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）						財源内訳																	
	5,414						国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源							
事業の実績	①一般管理事業 ・後期高齢者医療の保険者は和歌山県後期高齢者医療広域連合であるが、市は被保険者証や減額証・限度証の年次更新、受付業務に係る各種通知等の発送を行っている。 ◎郵送件数 ・被保険者証(年次更新)郵送 11,304通 ・被保険者証(新規)郵送 1,007通 ・減額証・限度証(年次更新)郵送 2,091通 ・高額介護合算通知書郵送 944通																							
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない ・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事務であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、高齢者の医療を確保するために実施する事業であるため、妥当性がある。																				
		評価結果		改善の余地がない ・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事務であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、受付業務に係る各種通知等の発送を行っていることから、被保険者が医療保険を利用するにあたり必要な事業であるため、有効性がある。																				
	有効性	評価結果		改善の余地がない ・被保険者証や減額証・限度証は和歌山県後期高齢者医療広域連合から封入封緘された状態で納品されており、事業効率の改善については余地がない状況である。																				
		評価結果		改善の余地がない																				

事務事業の概要	事務事業名		徴収事業（後期）				担当課		国保年金課		事業区分		ソフト事業					
	会計		後期高齢者医療特別会計				新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		392	
	予算科目	款	1 総 務 費				長期総合計画体系	政策目標		1		安全・安心						
		項	2 徴 収 費					施策目標		2		健康・医療						
		目	1 徴 収 費					基本施策		2		地域医療体制・医療保険制度の充実						
	事業概要		後期高齢者医療制度に基づき、保険料徴収等の業務を行う事業															
	事務事業を構成する細事業	① 徴収事業		⑤								⑨						
		②		⑥								⑩						
		③		⑦								⑪						
		④		⑧								⑫						

指標の実績	成果指標	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析		
		現年度分保険料収納率		%	目標	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	収納率は高水準を維持している。		
		実績			99.7	99.7	99.6						
		<指標の計算方法>		現年度保険料収納率									
					目標								
		実績											
		<指標の計算方法>											
					目標								
		実績											
		<指標の計算方法>											
			目標										
実績													
<指標の計算方法>													
			目標										
実績													
<指標の計算方法>													

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳						
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	4,329								4,329

事業の実績	①徴収事業 ・後期高齢者医療の保険者は和歌山県後期高齢者医療広域連合であるが、市が保険料の徴収を行っている。		
	◎保険料の納付書、督促状等の発送 ・当初額決定通知書 11,438通 ・督促状郵送 1,380通 ・納付済証明書郵送 4,093通 ・更正通知郵送 1,631通 ◎保険料徴収関係件数 ・口座振替依頼件数 9,478件 ・コンビニ収納件数 3,850件		

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事務であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
		・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事務であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。		
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・当初額決定通知書や納入通知書等の大量印刷物の印刷や封入封緘を外部委託しており、事務効率の改善については余地がない状況である。			

事務事業の概要	事務事業名		保健事業（後期）				担当課		国保年金課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		428	
	会計		後期高齢者医療特別会計				長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心					
	予算科目	款	3		保健事業費				施策目標		2		健康・医療					
		項	1		保健事業費				基本施策		2		地域医療体制・医療保険制度の充実					
		目	1		保健事業費				取組方針		9		その他					
	事業概要		脳ドックなどの保健事業を通じて、高齢者の健康維持、疾病を早期発見し、高齢者の健康寿命を延伸するための事業															
	事務事業を構成する細事業		①		保健事業				⑤						⑨			
			②						⑥						⑩			
			③						⑦						⑪			
④							⑧						⑫					
指標の実績	指標名		単位				R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析	
	成果指標	脳ドック検診の受診者数		人	目標		50		80		90		100		100		被保険者の増加や国保加入者の申込者数などを考慮し受診者数を増加させている。	
		実績			49		84		95									
		<指標の計算方法>		脳ドック検診の受診者数														
					目標													
		実績																
		<指標の計算方法>																
					目標													
		実績																
		<指標の計算方法>																
				目標														
	実績																	
	<指標の計算方法>																	
コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳													
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源			
	3,965												1,460		2,505			
事業の実績	①保健事業 ②被保険者の脳ドック検診に要した費用の一部を助成 申込者：163人 承認者：95人 受診者：95人（100%）																	
事業の事後評価	妥当性	評価結果		改善の余地がない														
		・脳ドック助成は、脳血管疾患等の発症又は進行を防止することによる高齢者の健康保持のために、妥当な事業である。																
	有効性	評価結果		改善の余地がややある														
		・脳ドック助成は、脳血管疾患等の発症又は進行を防止することによる高齢者の健康保持のために、有効な事業である。 ・毎年、多数の脳ドック検診申込者があり、また今後の被保険者数の増加や国保加入者の申し込み状況を考慮をして、関係医療機関との調整を図りながら助成対象者数の増加を検討する必要がある。																
	効率性	評価結果		改善の余地がない														
		・脳ドック助成対象者の募集、抽選をいずれも国保被保険者分と同時に行うことで、事業を効率的に行っている。事業効率の改善については余地がない状況である。																

介護保険事業勘定特別会計

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																																																												
1 - 1 - 1 第 1 号被保険者保険料	高齢介護課	1,483,195,000	1,525,647,114	◎介護保険料段階別人数（令和7年3月末現在） ・65歳以上の方の保険料は、所得段階によって分かります。 <table><tr><th>所得段階</th><th>被保険者数</th><th>所得段階</th><th>被保険者数</th></tr><tr><td>第1段階</td><td>3,587</td><td>第9段階</td><td>498</td></tr><tr><td>第2段階</td><td>1,847</td><td>第10段階</td><td>211</td></tr><tr><td>第3段階</td><td>1,567</td><td>第11段階</td><td>93</td></tr><tr><td>第4段階</td><td>2,351</td><td>第12段階</td><td>70</td></tr><tr><td>第5段階</td><td>2,286</td><td>第13段階</td><td>39</td></tr><tr><td>第6段階</td><td>3,157</td><td>第14段階</td><td>35</td></tr><tr><td>第7段階</td><td>3,069</td><td>第15段階</td><td>135</td></tr><tr><td>第8段階</td><td>1,239</td><td>合計</td><td>20,184</td></tr></table> ◎介護保険料 現年度分 <table><tr><th rowspan="2">令和6年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>特別徴収分</td><td>1,387,955,900</td><td>1,387,955,900</td><td>100.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>普通徴収分</td><td>142,313,000</td><td>137,691,214</td><td>96.8%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1,530,268,900</td><td>1,525,647,114</td><td>99.7%</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> ◎介護保険料 令和5年度 <table><tr><th rowspan="2">令和5年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>特別徴収分</td><td>1,338,177,500</td><td>1,338,177,500</td><td>100.0%</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>普通徴収分</td><td>131,481,300</td><td>126,782,882</td><td>96.4%</td><td>900</td><td>1件</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1,469,658,800</td><td>1,464,960,382</td><td>99.7%</td><td>900</td><td>1件</td></tr></table> ◎介護保険料 滞納繰越分 <table><tr><th rowspan="2">年度</th><th rowspan="2">調定額</th><th rowspan="2">収入済額</th><th rowspan="2">収納率</th><th colspan="2">不納欠損</th></tr><tr><th>額</th><th>件数</th></tr><tr><td>令和6年度</td><td>7,304,813</td><td>3,408,419</td><td>46.7%</td><td>1,696,009</td><td>35件</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>9,459,862</td><td>5,138,231</td><td>54.3%</td><td>1,686,436</td><td>42件</td></tr></table>	所得段階	被保険者数	所得段階	被保険者数	第1段階	3,587	第9段階	498	第2段階	1,847	第10段階	211	第3段階	1,567	第11段階	93	第4段階	2,351	第12段階	70	第5段階	2,286	第13段階	39	第6段階	3,157	第14段階	35	第7段階	3,069	第15段階	135	第8段階	1,239	合計	20,184	令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	特別徴収分	1,387,955,900	1,387,955,900	100.0%	—	—	普通徴収分	142,313,000	137,691,214	96.8%	—	—	合 計	1,530,268,900	1,525,647,114	99.7%	—	—	令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	特別徴収分	1,338,177,500	1,338,177,500	100.0%	—	—	普通徴収分	131,481,300	126,782,882	96.4%	900	1件	合 計	1,469,658,800	1,464,960,382	99.7%	900	1件	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和6年度	7,304,813	3,408,419	46.7%	1,696,009	35件	令和5年度	9,459,862	5,138,231	54.3%	1,686,436	42件
所得段階	被保険者数	所得段階	被保険者数																																																																																																													
第1段階	3,587	第9段階	498																																																																																																													
第2段階	1,847	第10段階	211																																																																																																													
第3段階	1,567	第11段階	93																																																																																																													
第4段階	2,351	第12段階	70																																																																																																													
第5段階	2,286	第13段階	39																																																																																																													
第6段階	3,157	第14段階	35																																																																																																													
第7段階	3,069	第15段階	135																																																																																																													
第8段階	1,239	合計	20,184																																																																																																													
令和6年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																																												
				額	件数																																																																																																											
特別徴収分	1,387,955,900	1,387,955,900	100.0%	—	—																																																																																																											
普通徴収分	142,313,000	137,691,214	96.8%	—	—																																																																																																											
合 計	1,530,268,900	1,525,647,114	99.7%	—	—																																																																																																											
令和5年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																																												
				額	件数																																																																																																											
特別徴収分	1,338,177,500	1,338,177,500	100.0%	—	—																																																																																																											
普通徴収分	131,481,300	126,782,882	96.4%	900	1件																																																																																																											
合 計	1,469,658,800	1,464,960,382	99.7%	900	1件																																																																																																											
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																																												
				額	件数																																																																																																											
令和6年度	7,304,813	3,408,419	46.7%	1,696,009	35件																																																																																																											
令和5年度	9,459,862	5,138,231	54.3%	1,686,436	42件																																																																																																											
		4,500,000	3,408,419																																																																																																													

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名			総務費（介護）			担当課		高齢介護課		事業区分		ソフト事業					
							新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		8001	
	会計			介護保険事業勘定特別会計			長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心					
	予算科目			款 項 目					施策目標		3		福祉					
									基本施策		2		高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進					
								取組方針		4		介護保険制度の持続可能性の確保						
事業概要			介護保険制度に基づき、被保険者が介護保険サービスを利用できるよう管理運営を行う事業															
事務事業を構成する細事業			① 一般管理事業			⑤						⑨						
			② 賦課徴収事業			⑥						⑩						
			③ 介護認定審査会運営事業			⑦						⑪						
			④ 認定調査事業			⑧						⑫						

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	成果指標	介護保険料収納率	%	目標	96.8	96.8	98.8	98.8	98.8	保険料収納率は目標値を上回り、高水準を維持している。	
		実績		99.1	99.4	99.4					
		<指標の計算方法>		特別徴収・普通徴収・滞納繰越分の合計収納率							
	活動指標	要介護（支援）認定者数	人	目標	4,660	4,703	4,488	4,510	4,538	要介護（支援）認定者数は、目標値と比べ95.1%とほぼ目標どおりであった。 被保険者数・認定者数ともにここ数年は減少傾向にあり、認定率も低下傾向にある。 審査会開催件数については令和5年度と比較して減少している。令和5年度の審査会から認定期間の延長を最大48箇月にした効果が表われているものと考えられる。	
		実績		4,436	4,354	4,269					
		<指標の計算方法>		各年度末認定者数							
	活動指標	介護認定審査会開催回数	件	目標	190	190	190	190	190		
		実績		108	149	115					
		<指標の計算方法>		認定審査会の開催回数							
		日	目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳											
			国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源	
	108,664												108,664	

事業の実績	① 一般管理事業			審査回数 115回					
	被保険者の状況（令和7年3月末現在）			審査件数 3,557件					
	65歳以上75歳未満 8,699人			・要介護（要支援）認定者数					
	75歳以上85歳未満 7,755人			第1号被保険者 第2号被保険者					
	85歳以上 3,730人			要支援1 522人 4人					
うち外国人被保険者 39人			要支援2 689人 9人						
うち住所地特例被保険者 138人			要介護1 725人 8人						
合計 20,184人			要介護2 708人 6人						
			要介護3 599人 7人						
			要介護4 631人 7人						
			要介護5 343人 11人						
			小計 4,217人 52人						
			合計 4,269人						
② 賦課徴収事業			④ 認定調査事業						
・介護保険料の過誤納による還付金			認定調査件数 3,460件						
還付件数 257件									
・介護保険料の過誤納による還付加算金									
加算件数 0件									
・減免件数 6件									
③ 介護認定審査会運営事業									
・介護認定審査会の開催									

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない														
		・介護保険法等により市に義務付けられた事業であり、妥当である。															
	有効性	評価結果	改善の余地がない														
		・指標の性質上、目標値は介護保険事業計画における計画値である。 ・介護保険財源を適切に確保し、公正な要介護認定を行い、介護保険制度の円滑かつ適正な運営を図ることで、適正な介護サービスを提供する事業である。															
	効率性	評価結果	改善の余地がややある														
・認定審査会事業の一部委託、認定審査会のオンライン開催、認定調査システムの導入による平準化等を進め、業務の効率化を図っている。 ・DX等の活用や事務見直しを行いながら、事務効率化を図っていく必要がある。																	

事務事業の概要	事務事業名		保険給付費（介護）		担当課		高齢介護課		事業区分		ソフト事業						
					新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		8002		
	会計		介護保険事業勘定特別会計						政策目標		1		安全・安心				
	予算科目	款	2		保険給付費				長期総合計画体系		施策目標		3		福祉		
		項目									基本施策		2		高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進		
										取組方針		4		介護保険制度の持続可能性の確保			
事業概要			介護保険制度に基づき、被保険者が介護保険サービスを利用できるよう管理運営を行う事業														
事務事業を構成する細事業			① 居宅介護（予防） サービス等給付事業				⑤ 特定入所者介護（予防） サービス等事業				⑨						
			② 地域密着型介護（予防） サービス給付事業				⑥								⑩		
			③ 施設介護サービス給付事業				⑦								⑪		
			④ 高額介護（予防） サービス等事業				⑧								⑫		

指標の実績	指標名		単位		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	指標の分析	
	活動指標	第1号被保険者数	人	目標	19, 998	20, 023	20, 229	20, 192	20, 148	第1号被保険者は令和2年度以降、20, 200人前後で推移している。今後減少に転じ、令和17（2035）年には20, 000人を下回ると推計している。	
		実績		20, 135	20, 229	20, 184					
		<指標の計算方法> 65歳以上・住所地特例者含む（目標値は計画値）									
	活動指標	居宅介護（介護予防）サービス受給者数	人	目標	28, 260	27, 852	28, 188	28, 152	28, 284	令和5年度と比較して、短期入所サービスや福祉用具、住宅改修サービスが減少した。介護度が重度化し、施設サービスへの移行が進み全体の利用者数が減少したと分析している。	
		実績		28, 798	28, 663	28, 358					
		<指標の計算方法> 第1号・第2号被保険者合計（目標値は計画数値）									
	活動指標	施設介護サービス受給者数	件	目標	8, 164	8, 364	8, 400	8, 400	8, 400	介護度が重度化し、在宅での生活が困難となったことにより施設利用者が増加したと分析している。	
		実績		8, 160	8, 460	8, 531					
		<指標の計算方法> 第1号・第2号被保険者合計（目標値は計画数値）									
活動指標	地域密着型介護（介護予防）サービス受給者数	件	目標	4, 543	4, 428	4, 740	5, 028	5, 172	令和6年度中に地域密着型通所介護事業所が2箇所廃止した影響により、サービス受給者数が減少したと分析している。		
	実績		4, 536	4, 380	4, 256						
	<指標の計算方法> 第1号・第2号被保険者合計（目標値は計画数値）										

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）		財源内訳						
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
	6, 854, 147		1, 653, 317	1, 000, 782			1, 845, 637	2, 354, 411	

事業の実績	①居宅介護（予防） サービス等給付事業 訪問介護サービスや通所介護サービスなど居宅において利用するサービスへの給付を行う 要支援者 5, 110人 要介護者 23, 248人 合計 28, 358人				③施設介護サービス給付事業 介護保険施設において利用するサービスへの給付を行う 介護老人福祉施設 5, 838人 介護老人保健施設 2, 106人 介護療養型医療施設 0人 介護医療院 587人				⑤特定入所者介護（予防） サービス等事業 低所得者が施設利用したときに食費・居住費等の利用負担が限度額を超えた分への給付を行う 【食費】 介護老人福祉施設 3, 403件 介護老人保健施設 956件 介護療養型医療施設 0件 介護医療院 302件 地域密着型介護老人福祉施設 167件 短期入所生活・療養介護 1, 010件 【居住費】 介護老人福祉施設 3, 476件 介護老人保健施設 954件 介護療養型医療施設 0件 介護医療院 327件 地域密着型介護老人福祉施設 168件 短期入所生活・療養介護 1, 038件			
	②地域密着型介護（予防） サービス給付事業 地域密着型事業所等を利用するサービスへの給付を行う 要支援者 12人 要介護者 4, 244人 合計 4, 256人				④高額介護（予防） サービス等事業 利用した介護サービス費用が基準を超えた分について利用者に給付を行う 高額介護（予防） サービス 13, 609件 高額医療合算介護（予防） サービス 1, 042件							

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・介護保険法第3条の規定により、市が行う事業であり妥当である。 ・介護保険法の各規定に基づき、介護（予防）給付の対象者及びサービス給付費等は全国で同じである。														
	有効性	評価結果	改善の余地がない													
		・介護保険法等により市に義務付けられた各事業であり、適正に実施している。 ・高齢者人口は微減であり、介護サービス受給者や給付費は増加傾向である。今後も制度の持続性を図るため、介護サービスの質の向上に加え、介護給付費の適正化が求められている。 ・介護サービスを利用することで、利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができる。														
	効率性	評価結果	改善の余地がない													
・介護保険法等関係法令に基づき市に実施を義務付けられた事業であり、給付に関する事務等について効率化を図り実施している。 ・制度の趣旨の普及やケアプラン点検等の介護給付費適正化事業を継続的に実施していく。																

事務事業の概要	事務事業名		地域支援事業費（介護）		担当課		高齢介護課		事業区分		ソフト事業									
					新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		8004					
	会計		介護保険事業勘定特別会計		長期総合計画体系		政策目標		1		安全・安心									
	予算科目		4 地域支援事業費				施策目標		3		福祉									
	款						基本施策		2		高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進									
目						取組方針		4		介護保険制度の持続可能性の確保										
事業概要			被保険者が、要介護状態等になることを予防し、社会に参加しつつ、地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援する事業																	
事務事業を構成する細事業			① 介護予防・生活支援サービス事業			⑤ 地域リハビリテーション活動支援事業			⑨											
			② 介護予防ケアマネジメント事業			⑥ 介護予防把握事業			⑩											
			③ 介護予防普及啓発事業			⑦ 包括的支援事業			⑪											
			④ 地域介護予防活動支援事業			⑧ 任意事業			⑫											
指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析					
	活動指標 要介護（要支援）認定率		%	目標	23		23		23		23		23		要介護（要支援）の認定率は、ここ数年低下傾向にある。					
				実績	21.7		21.2		20.9											
	<指標の計算方法>		要介護（要支援）認定者÷第1号被保険者数（65歳以上）																	
	活動指標 紀の川歩（てくてく）体操活動拠点数		拠点	目標	115		120		120		120		120		継続できず廃止する拠点もあったが、新規立ち上げの相談が増えるとともに、新たに5箇所が新規に立ち上がった。					
実績				91		86		87												
<指標の計算方法>		紀の川歩（てくてく）体操活動拠点数																		
活動指標 フレイルチェック実施回数		回	目標	135		145		60		60		60		令和6年度より活動目標回数を見直し、週1回程度を目標とした。また、市内のまつりやイベントにも参加し体操拠点参加者以外への周知も図った。						
			実績	23		53		47												
<指標の計算方法>		紀の川歩（てくてく）体操活動拠点等においてフレイルチェックを実施した回数																		
活動指標 認知症サポーター数		人	目標	5,200		5,700		6,200		6,700		7,200		市民や市内中学校・団体など幅広い年代に講座を実施し、サポーター数を増やすことができた。また、ステップアップ講座も実施できた。						
			実績	5,497		6,193		6,638												
<指標の計算方法>		認知症サポーター養成講座参加者累計人数																		
コストの実績	R 6年度決算額（単位：千円）			財源内訳																
				国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源						
			307,900			125,101		54,231						67,252		61,316				
事業の実績	①介護予防・生活支援サービス事業 ・訪問型サービス給付…1,688件 ・通所型サービス給付…3,545件 ・高額介護予防サービス費給付…128件 ・事業対象者数（年度末）…79人 ・自立支援型介護予防通所介護事業所認定…5件 ②介護予防ケアマネジメント事業…2,060件 ③介護予防普及啓発事業 ・予防教室等開催数…232回 ・予防教室等延べ参加人数…3,227人 ・通所型予防教室開催数、延べ参加人数…4箇所で年40回開催、665人 ④地域介護予防活動支援事業 ・介護予防自主活動支援…32箇所/87回/延べ810人 ・フォローアップ教室開催数、実参加人数…5箇所で年5回開催、148人			⑤地域リハビリテーション活動支援事業 ・てくてく体操延べ参加人数…2,858人 ・専門職（PT等）派遣回数…338回 ・フレイルサポーター登録者数…85人 ⑥介護予防把握事業 ・基本チェックリスト回答者数…6,847人 ・回答率…52.9% ・予防事業対象者…12,941人 ⑦包括的支援事業 地域包括支援センターの運営 ・総合相談支援事業…5,516件 ・権利擁護事業…1,256件 ・包括・継続的ケアマネジメント支援事業…148件 ・介護予防ケアマネジメント事業…5,940件 認知症施策推進事業の実施 医療と介護の連携推進事業の実施 自立支援、重度化防止推進事業の実施 ・就労的活動支援事業			介護事業所等に高齢者等の雇用ニーズや介護助手・ボランティアの受入調査委託マッチング実績…2件 ⑧任意事業 家族介護交流事業の実施 ・実施回数…36回/参加人数…39人 徘徊高齢者対策事業の実施 ・高齢者徘徊早期発見ネットワーク登録者数…92人（年度末時点） ・GPS利用者数…11人（年度末時点） 高齢者見守り事業の実施 ・利用者…月平均96人（延回数8,670回） 家族介護慰労事業の実施 ・慰労金支給人数…0人 介護給付費適正化事業の実施 成年後見人制度利用支援事業の実施 ・市長申立…5件 ・後見人報酬助成…0人													
事業の事後評価	妥当性	評価結果 改善の余地がない																		
		・介護保険法等により市に義務付けられた事業であるため妥当である。 ・令和6年1月認知症基本法施行により、基本的施策である認知症に関する正しい知識及び認知症の人に関する正しい理解を深める活動に認知症サポーターの育成は妥当である。																		
	有効性	評価結果 改善の余地がない																		
		・介護保険法等により市に義務付けられた事業であるため適正に実施している。 ・「紀の川歩（てくてく）体操」を市内各拠点で実施し、自主的活動への拠点創設、継続に対する支援を行っている。また活動により要介護状態への移行を遅らせることで、自立支援・重度化防止に有効であり、自立状態を継続できるよう地域資源として周知し、活用を促進している。 ・フレイルサポーターによるフレイルチェックを実施することでフレイル予防の周知を行い、参加者だけでなくサポーターのフレイル予防に有効である。また広くフレイル予防を周知することは要介護認定率の低下と介護保険給付費の抑制につながる。 ・認知症基本法施行において、基本的施策である認知症の人に関する正しい理解を深める取り組みとして認知症サポーター養成講座は有効である。																		
効率性	評価結果 改善の余地がない																			
	・介護保険法等により市に義務付けられた事業であるため適正に実施している。 ・要介護（要支援）認定率の低下と介護保険給付費の抑制を目指し、地域ボランティア（フレイルサポーター等）を育成することで、ボランティアを中心に市民自ら主体となり、積極的に介護予防・健康づくり活動を実践しているため効率性は高い。 ・認知症サポーター等に対するステップアップ講座の実施により、地域において見守りや啓発活動を行うチームオレンジの育成につながる。																			

事務事業の概要	事務事業名		保健福祉事業（介護）				担当課		高齢介護課		事業区分		ソフト事業		
							新規・継続		新規	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1239
	会計		介護保険事業勘定特別会計				長期総合計画体系		政策目標	1	安全・安心				
	予算科目	款	5	保健福祉事業費					施策目標	3	福祉				
		項	1	保健福祉事業費					基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進				
		目	1	保健福祉事業費					取組方針	4	介護保険制度の持続可能性の確保				
事業概要		寝たきりや認知症等により日常生活において常時紙おむつ等を必要とする要介護認定を受けた高齢者等に対し、紙おむつ又は尿取りパッドの購入の助成を行い、高齢者及びその家族の介護に係る肉体的、精神的及び経済的負担の軽減を図る事業													
事務事業を構成する細事業	①	保健福祉事業				⑤					⑨				
	②					⑥					⑩				
	③					⑦					⑪				
	④					⑧					⑫				

指標の実績	指標名		単位		R 4年度		R 5年度		R 6年度		R 7年度		R 8年度		指標の分析		
	成果指標	紙おむつ助成券交付数		人	目標											助成している件数はR5年度と比べほぼ横ばいである。	
					実績	631		604		600							
		<指標の計算方法>		助成券交付人数													
					目標												
					実績												
		<指標の計算方法>															
					目標												
					実績												
		<指標の計算方法>															
				目標													
				実績													
	<指標の計算方法>																

コストの実績	R 6年度決算額 （単位：千円）				財源内訳												
					国庫支出金		県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源		
				21,608												21,608	

事業の実績	①保健福祉事業 地域支援事業の任意事業で実施してきた紙おむつ購入助成事業は、令和6年度より保健福祉事業を新設し、任意事業から移行し事業を継続															
	紙おむつ購入助成事業の実施 ・交付数（要介護1・2）…236人 ・交付数（要介護3～5）…364人 助成額 ・要介護1-2 上限年30,000円(月額2,500円) ・要介護3-5 上限年55,200円(月額4,600円)															

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない														
		・常時紙おむつ等を必要とする要介護認定を受けた高齢者等に対して、紙おむつ等の購入費の一部を助成することは、高齢者福祉の増進につながり、経済的負担の軽減を図ることが出来ている。 ・第9期紀の川市介護保険事業計画及び高齢者福祉計画に基づき実施する事業であるため妥当である。															
	有効性	評価結果	改善の余地がない														
・在宅で常時紙おむつ等を使用する高齢者及びその家族の介護に係る肉体的、精神的及び経済的負担の軽減を図るものであり、第9期紀の川市介護保険事業計画及び高齢者福祉計画の取組の方向性に合致している。																	
効率性	評価結果	改善の余地がややある															
	・今後も高齢化が進むと推測されるため、この事業を続けていく必要があるが、保健福祉事業の財源は、第1号被保険者の保険料100%で賄うため、助成対象者が増加すると保険料の増額につながる事も踏まえ、次期の計画に向け対象者の支給要件等の見直しが必要である。																

財産区特別会計

[歳入・歳出]

(単位：円)

財 産 区 名	担当課	歳 入 総 額	歳 出 総 額	事 業 等 実 施 内 容																
池田財産区	林務課	7,993,235	6,645,898	◎ 歳入の主なものは土地賃貸料及び採掘権収入。歳出では財産区台帳整理のための一般会計への繰出金、地域活動事業補助金です。主な事業内容等は次のとおりです。 <table><tr><th>事 業 等</th><th>内 容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>7人（ほか取締人1人、看守人1人）</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>3回管理会開催（巡視2回）</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>372件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>867.9</td></tr><tr><td>地域活動事業補助金</td><td>池田新会館照明器具取り替え工事、新池水路流入土砂撤去工事、新池内土砂搬出工事</td></tr><tr><td>有害鳥獣防除補助金</td><td>瓢友会紀の川市総合分会打田分会への補助金</td></tr></table>	事 業 等	内 容	管理会委員数	7人（ほか取締人1人、看守人1人）	管理会開催数（その他活動数）	3回管理会開催（巡視2回）	財産貸付件数	372件	保有面積（ha）	867.9	地域活動事業補助金	池田新会館照明器具取り替え工事、新池水路流入土砂撤去工事、新池内土砂搬出工事	有害鳥獣防除補助金	瓢友会紀の川市総合分会打田分会への補助金		
事 業 等	内 容																			
管理会委員数	7人（ほか取締人1人、看守人1人）																			
管理会開催数（その他活動数）	3回管理会開催（巡視2回）																			
財産貸付件数	372件																			
保有面積（ha）	867.9																			
地域活動事業補助金	池田新会館照明器具取り替え工事、新池水路流入土砂撤去工事、新池内土砂搬出工事																			
有害鳥獣防除補助金	瓢友会紀の川市総合分会打田分会への補助金																			
田中財産区	林務課	4,750,770	2,794,203	◎ 歳入の主なものは土地賃貸料。歳出では財産区台帳整理のための一般会計への繰出金、森林保育委託費及び地域活動事業補助金です。主な事業内容等は次のとおりです。 <table><tr><th>事 業 等</th><th>内 容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>7人（ほか取締人1人、看守人1人）</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>4回管理会開催（巡視1回）</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>80件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>250.0</td></tr><tr><td>森林保育委託事業</td><td>伐採・下刈り業務</td></tr><tr><td>地域活動事業補助金</td><td>五百谷集会所エアコン取付（交換）</td></tr><tr><td>有害鳥獣防除補助金</td><td>瓢友会紀の川市総合分会打田分会への補助金</td></tr></table>	事 業 等	内 容	管理会委員数	7人（ほか取締人1人、看守人1人）	管理会開催数（その他活動数）	4回管理会開催（巡視1回）	財産貸付件数	80件	保有面積（ha）	250.0	森林保育委託事業	伐採・下刈り業務	地域活動事業補助金	五百谷集会所エアコン取付（交換）	有害鳥獣防除補助金	瓢友会紀の川市総合分会打田分会への補助金
事 業 等	内 容																			
管理会委員数	7人（ほか取締人1人、看守人1人）																			
管理会開催数（その他活動数）	4回管理会開催（巡視1回）																			
財産貸付件数	80件																			
保有面積（ha）	250.0																			
森林保育委託事業	伐採・下刈り業務																			
地域活動事業補助金	五百谷集会所エアコン取付（交換）																			
有害鳥獣防除補助金	瓢友会紀の川市総合分会打田分会への補助金																			
長田竜門財産区	林務課	630,296	710,294	◎ 歳入の主なものは土地賃貸料。歳出では地域活動事業補助金です。主な事業内容等は次のとおりです。 <table><tr><th>事 業 等</th><th>内 容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>6人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>3回管理会開催</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>35件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>114.7</td></tr><tr><td>地域活動事業補助金</td><td>長田竜門6ヶ字区有山管理事業への補助金</td></tr></table>	事 業 等	内 容	管理会委員数	6人	管理会開催数（その他活動数）	3回管理会開催	財産貸付件数	35件	保有面積（ha）	114.7	地域活動事業補助金	長田竜門6ヶ字区有山管理事業への補助金				
事 業 等	内 容																			
管理会委員数	6人																			
管理会開催数（その他活動数）	3回管理会開催																			
財産貸付件数	35件																			
保有面積（ha）	114.7																			
地域活動事業補助金	長田竜門6ヶ字区有山管理事業への補助金																			
竜門財産区	林務課	104,963	37,862	◎ 主な事業内容等は次のとおりです。 <table><tr><th>事 業 等</th><th>内 容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>7人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>2回管理会開催</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>6件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>192.2</td></tr></table>	事 業 等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催	財産貸付件数	6件	保有面積（ha）	192.2						
事 業 等	内 容																			
管理会委員数	7人																			
管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催																			
財産貸付件数	6件																			
保有面積（ha）	192.2																			
南北志野財産区	林務課	410,510	36,152	◎ 主な事業内容等は次のとおりです。 <table><tr><th>事 業 等</th><th>内 容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>5人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>2回管理会開催</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>24件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>61.8</td></tr></table>	事 業 等	内 容	管理会委員数	5人	管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催	財産貸付件数	24件	保有面積（ha）	61.8						
事 業 等	内 容																			
管理会委員数	5人																			
管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催																			
財産貸付件数	24件																			
保有面積（ha）	61.8																			
飯盛財産区	林務課	1,864,999	1,646,418	◎ 歳入の主なものは林産物売却収入。歳出では雑草等刈取委託料です。主な事業内容等は次のとおりです。 <table><tr><th>事 業 等</th><th>内 容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>6人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>2回管理会開催</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>2件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>163.5</td></tr><tr><td>雑草等刈取業務</td><td>麻生津中草刈業務</td></tr></table>	事 業 等	内 容	管理会委員数	6人	管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催	財産貸付件数	2件	保有面積（ha）	163.5	雑草等刈取業務	麻生津中草刈業務				
事 業 等	内 容																			
管理会委員数	6人																			
管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催																			
財産貸付件数	2件																			
保有面積（ha）	163.5																			
雑草等刈取業務	麻生津中草刈業務																			
静川財産区	林務課	360,008	84,016	◎ 主な事業内容等は次のとおりです。 <table><tr><th>事 業 等</th><th>内 容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>7人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>2回管理会開催</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>9件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>45.0</td></tr></table>	事 業 等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催	財産貸付件数	9件	保有面積（ha）	45.0						
事 業 等	内 容																			
管理会委員数	7人																			
管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催																			
財産貸付件数	9件																			
保有面積（ha）	45.0																			

(単位：円)

財 産 区 名	担当課	歳 入 総 額	歳 出 総 額	事 業 等 実 施 内 容														
最上、神田、市場、元財産区	林務課	2,624,031	1,543,358	◎ 主な事業内容等は次のとおりです。 <table><tr><th>事 業 等</th><th>内 容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>7人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>2回管理会開催</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>187.5</td></tr></table>	事 業 等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催	保有面積（ha）	187.5						
事 業 等	内 容																	
管理会委員数	7人																	
管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催																	
保有面積（ha）	187.5																	
調月財産区	林務課	547,322	335,538	◎ 主な事業内容等は次のとおりです。 <table><tr><th>事 業 等</th><th>内 容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>7人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>2回管理会開催</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>38.3</td></tr><tr><td>地域活動事業補助金</td><td>調月地域活性化事業への補助金</td></tr></table>	事 業 等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催	保有面積（ha）	38.3	地域活動事業補助金	調月地域活性化事業への補助金				
事 業 等	内 容																	
管理会委員数	7人																	
管理会開催数（その他活動数）	2回管理会開催																	
保有面積（ha）	38.3																	
地域活動事業補助金	調月地域活性化事業への補助金																	
丸栖財産区	林務課	835,299	486,353	◎ 主な事業内容等は次のとおりです。 <table><tr><th>事 業 等</th><th>内 容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>7人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>3回管理会開催</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>1件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>23.9</td></tr></table>	事 業 等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数（その他活動数）	3回管理会開催	財産貸付件数	1件	保有面積（ha）	23.9				
事 業 等	内 容																	
管理会委員数	7人																	
管理会開催数（その他活動数）	3回管理会開催																	
財産貸付件数	1件																	
保有面積（ha）	23.9																	
平池財産区	林務課	1,305,511	890,399	◎ 主な事業内容等は次のとおりです。 <table><tr><th>事 業 等</th><th>内 容</th></tr><tr><td>管理会委員数</td><td>7人</td></tr><tr><td>管理会開催数（その他活動数）</td><td>3回管理会開催</td></tr><tr><td>財産貸付件数</td><td>1件</td></tr><tr><td>保有面積（ha）</td><td>11.2</td></tr><tr><td>雑草等刈取委託事業</td><td>平池堤防草刈り</td></tr><tr><td>神戸平池水利管理事業補助金</td><td>平池水路付近の廃棄物等撤去作業への補助金</td></tr></table>	事 業 等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数（その他活動数）	3回管理会開催	財産貸付件数	1件	保有面積（ha）	11.2	雑草等刈取委託事業	平池堤防草刈り	神戸平池水利管理事業補助金	平池水路付近の廃棄物等撤去作業への補助金
事 業 等	内 容																	
管理会委員数	7人																	
管理会開催数（その他活動数）	3回管理会開催																	
財産貸付件数	1件																	
保有面積（ha）	11.2																	
雑草等刈取委託事業	平池堤防草刈り																	
神戸平池水利管理事業補助金	平池水路付近の廃棄物等撤去作業への補助金																	